

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2019 法 学 部 授業  
計 画  
法 律 学 科

法 学 部

(学部略号：J)

Faculty of Law

法律学科

(学科略号：J)

Department of Law

## ◎教育研究上の目的

幅広い教養と法学・政治学・法政策学に関わる専門的知識に裏打ちされ、論理的に問題解決ができる能力を有し、主体的に社会貢献をなしうる人間力を持った人材を養成する。

## ◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(法学)の学位を授与します。

### ■知識・理解

- [DP 1] 国際的教養人として多様な価値観の存在を認めることができるために、人文・社会・自然科学などからなる教養科目および基礎科目を配当し、幅広い教養に関する知識を身につけている。(専門科目学習の前提となる教養に関する知見)
- [DP 2] 憲法、民法、刑法などを学ぶ「法学」、行政学、国際政治などを学ぶ「政治学」、地域政策、スポーツ法政策などを学ぶ「法政策学」に関する専門的な知識および理解力を有している。(専門科目の基礎知識)

### ■思考・判断

- [DP 3] 法学・政治学・法政策学の専門的知識を活用することができる。(応用問題対応力)
- [DP 4] 法学・政治学・法政策学の専門的知識を運用し、応用的問題に対する解決策を立案することができる。(応用問題対応・解決力)
- [DP 5] 社会における諸問題を認知し、利害の衝突を予測したうえで、バランスの取れた解決方法を思考することができる。(リーガルマインド)

### ■関心・意欲・態度

- [DP 6] ゼミ活動やグループワークを行う際に、メンバーの意見に耳を傾け、相手の立場に立ちつつ、協調して活動することができる。(チームワーク)
- [DP 7] 将来のキャリア形成のため、自主的、計画的に学習する姿勢を身につけている。(能動性・主体性)

### ■技能・表現

- [DP 8] 現代社会における法的、政治的問題に対する情報に興味を持って接し、ゼミ内でそれらの諸問題について、他者に配慮しながら双方向の議論を行うことができる。(コミュニケーション能力)
- [DP 9] 修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、自分の考えを口頭ないし文字で的確に表現することができる。(自らの考えを口頭、文章等で正しく表現する力)
- [DP 10] 修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、論拠をもって他者を説得することができる。(論拠をもって他者を説得する力)

## ◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

### ■知識・理解

- ①人々の生き方や社会のあり方を多面的に理解できる国際的教養人としての素養を身につけるため、外国語、情報処理などの分野からなる「基礎科目」および人文社会系、自然系、地域志向系などの分野からなる「教養科目」を配当する。
- ②法学・政治学・法政策学の学問内容および方法論に関する体系的な知識を修得するため、1年次前期には導入として法学と政治学に関する概論科目、1年次後期から2年次にかけて専門基礎科目を段階的に配当する。さらに、基礎から応用までの法学・政治学の知識を段階的かつ体系的に深めるため、2年次から分属する「法律学特修」、「企業法務」、「地域政策」、「スポーツ法政策」の各コースに対応した、「国際取引法」、「地方自治法」、「租税法」、「経済刑法」など法学の専門性を広げる科目を配当する。

### ■思考・判断

- ③法学・政治学・法政策学の専門的知識を活用し、社会における応用的問題を認知し、利害の衝突を予測したうえで、バランスの取れた解決方法を思考する力を身につけるため、2年次からは、専門基礎科目の修得を前提に、公法・刑事法・民事法に関する「応用講義」などの発展的専門科目を配当する。

### ■関心・意欲・態度

- ④ゼミ活動やグループワークを行う際に、メンバーの意見に耳を傾け、相手の立場に立ちつつ、協調して活動することができる力を身につけるため、2年次後期からは、学生各自の関心に応じて研究テーマを設定し、協同作業を通じた研究成果の発表を行いつつ、問題点を発見し、それに対する解決力を修得する少人数制の「専門演習」を配当する。
- ⑤将来のキャリア形成や、自主的、計画的に学習する習慣を身につけるため、初年次からキャリア形成科目を配当する。さらに、3年次からは、法学の分野を中心として、将来のキャリア目標に向けた心構えと準備学習の機会として、少人数からなる「法政キャリア特別講義」を配当する。

### ■技能・表現

- ⑥現代社会における法的、政治的問題に対する情報に興味を持って接し、ゼミ内でそれらの諸問題について、他者に配慮しながら議論する力を身につけるため、法学と政治学に関する少人数制の演習科目（1年次「法学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次「プレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、3年次「専門演習Ⅱ」）を配当する。
- ⑦修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、自分の考えを口頭ないし文章での確に表現する力を身につけるため、学生各自が2年次後期から3年次までのゼミ活動を通じて設定した研究テーマに関する卒業論文の執筆と成果の発表を目標とする「卒業研究」を4年次に配当する。

## ◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

### ■知識・理解

- ①法学・政治学・法政策学の文献の読解および社会科学的文章の表現力の基礎となる「読む・書く」という能力を身につけるための「国語」を修得している。
- ②法学部で学ぶ諸科目の修得のために必要な基礎的教養・知識である「世界史」、「日本史」などの人文科学、「現代社会」、「政治・経済」などの社会科学、数理科学および語学（英語）などに関する高等学校の教育課程を幅広く修得している。

### ■思考・判断

- ③資料を数理的に捉えて理解し、分析するための基礎的な思考能力を身につけている。

### ■関心・意欲・態度

- ④法律や政治について興味を持ち、大学で学ぶ法律学や政治学や法政策学についての知識や経験を社会で活かしたいという意欲があり、自らの将来のキャリア形成について真剣に考え、その実現のために主体的・計画的に学修する意欲・態度を有している。
- ⑤課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。

### ■技能・表現

- ⑥自身の考えを他者に伝えることのできるコミュニケーション能力（国語表現力と英語力）を有している。
- ⑦取得した資格やスポーツの経験などを特定の分野において活用できる能力や技能を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。



# 授 業 計 画



科目名	担当者	ページ
<b>イ</b>		
インターンシップⅠ	石井三恵	639
インターンシップⅡ	石井三恵	641
<b>エ</b>		
英会話Ⅰ	クリスファー ジョンソン	347
英会話Ⅰ	ジョセフ シウンシ	349
英会話Ⅰ	ダンカン ホワイト	351
英会話Ⅰ	クリスファー ジョンソン	449
英会話Ⅰ	ジョセフ シウンシ	451
英会話Ⅰ	ダンカン ホワイト	453
英会話Ⅱ	クリスファー ジョンソン	352
英会話Ⅱ	ジョセフ シウンシ	354
英会話Ⅱ	ダンカン ホワイト	356
英会話Ⅱ	クリスファー ジョンソン	454
英会話Ⅱ	ジョセフ シウンシ	456
英会話Ⅱ	ダンカン ホワイト	458
英語Ⅰ	西谷継治	459
英語Ⅰa	ブルース ライリー	357
英語Ⅰa	藪井恵美子	358
英語Ⅰa	俣野裕美	359
英語Ⅰa	小倉永慈	361
英語Ⅰa	岩永道子	362
英語Ⅰa	有本好一郎	363
英語Ⅰa	松浦茂寿	364
英語Ⅰa	田村康子	365
英語Ⅰa	西谷継治	366
英語Ⅰb	ブルース ライリー	368
英語Ⅰb	藪井恵美子	369
英語Ⅰb	俣野裕美	370
英語Ⅰb	小倉永慈	372
英語Ⅰb	岩永道子	373
英語Ⅰb	有本好一郎	374
英語Ⅰb	松浦茂寿	375
英語Ⅰb	田村康子	376
英語Ⅰb	西谷継治	377
英語Ⅰc	高橋章夫	379
英語Ⅰc	梶山寿子	381
英語Ⅰc	有本好一郎	383
英語Ⅰc	金原真由美	384
英語Ⅰc	永富真梨	385
英語Ⅰc	田村康子	387
英語Ⅰc	中本明子	388
英語Ⅰc	松浦茂寿	389
英語Ⅰc	藤岡真樹	390
英語Ⅰd	高橋章夫	392
英語Ⅰd	梶山寿子	393
英語Ⅰd	有本好一郎	395
英語Ⅰd	金原真由美	396
英語Ⅰd	永富真梨	397
英語Ⅰd	田村康子	399
英語Ⅰd	中本明子	400

科目名	担当者	ページ
英語Ⅰd	松浦茂寿	401
英語Ⅰd	藤岡真樹	402
英語Ⅱ	西谷継治	461
英語Ⅱa	ブライアン スレーター	404
英語Ⅱa	ジェフリー ベル	405
英語Ⅱa	ディチコ ニック	406
英語Ⅱb	ブライアン スレーター	407
英語Ⅱb	ディチコ ニック	408
英語Ⅱb	ジェフリー ベル	409
英語Ⅲ	藤岡真樹	463
英語Ⅳ	藤岡真樹	465
英米法	家本真実	11
エンプロイメントデザインⅠ	石井三恵	643
エンプロイメントデザインⅡ	水野武	645
エンプロイメントデザインⅡ	水野武	647
<b>オ</b>		
応用情報処理	寺内陸博	467
<b>カ</b>		
海外語学研修	鳥居祐介	468
海外ビジネスインターンシップ	西之坊穂	470
会計学	佐井英子	471
会社法	牛丸與志夫	13
会社法Ⅰ	牛丸與志夫	15
家族と地域の法社会史	牧田勲	17
家族と地域の法社会史	牧田勲	18
株式投資と企業家育成	林正浩	473
環境法	浮田徹	19
<b>キ</b>		
企業法務特別講義Ⅰ（金融法実務）	牛丸與志夫	21
北河内を知る	荻田喜代一	475
キャリアデザインⅠ（BASIC）	石井三恵	477
キャリアデザインⅠ（BASIC）	山岡亮太	479
キャリアデザインⅠ（BASIC）	中川浩一	481
キャリアデザインⅠ（BASIC）	上野山裕士	483
キャリアデザインⅠ	水野武	649
キャリアデザインⅠ	石井三恵	651
キャリアデザインⅡ（ADVANCE）	上野山裕士	485
キャリアデザインⅡ（ADVANCE）	橋本朗子	486
キャリアデザインⅡ	水野武	653
キャリアデザインⅡ	石井三恵	654
キャリアデザインⅢ	水野武	656
教育課程論	大野順子	683
教育経営論	朝日素明	685
教育原理	谷口雄一	687
教育実習Ⅰ	朝日素明	688
教育実習Ⅱ	朝日素明	689
教育実習Ⅲ	朝日素明	690
教育社会学	大野順子	691
教育心理学	吉田佐治子	693
教育相談	吉田佐治子	694

科目名	担当者	ページ
教育方法論	林 茂 樹	695
教職実践演習 (中・高)	吉 田 佐治子	697
教師論	朝 日 素 明	699
行政学	中 沼 丈 晃	22
行政救済法 I	金 谷 重 樹	23
行政と政策	中 沼 丈 晃	24
行政法各論	金 谷 重 樹	25
行政法総論	金 谷 重 樹	26
行政法の基礎理論 I	金 谷 重 樹	27
教養化学	竹 内 健 治	487
教養経済学	朝 田 康 禎	488
教養数学	西 脇 純 一	489
教養数学	早 味 俊 夫	490
教養数学	高 尾 尚 武	491
教養数学	黒 木 和 雄	492
教養数学	佐 野 薫	493
教養生物	大 塚 正 人	494
教養中国語 I	曹 櫻	497
教養中国語 II	曹 櫻	499
教養物理	島 津 浩 哲	501
近世日本の法文化	牧 田 勲	28
近代日本政治史	和 田 泰 一	29
金融商品取引法	高 田 尚 彦	31
金融論	堀 篤 史	32
金融論	堀 篤 史	33

## ク

グローバル社会とスポーツ	石 井 信 輝	34
グローバル社会論	河 原 匡 見	35

## ケ

経営学入門	畠 山 俊 宏	503
経済学 I	堀 篤 史	505
経済学 II	朝 田 康 禎	506
経済学入門	堀 篤 史	507
経済刑法	小 野 晃 正	37
経済刑法	小 野 晃 正	39
刑事政策	島 田 良 一	41
刑事訴訟法	島 田 良 一	42
刑事訴訟法 I	島 田 良 一	43
刑事訴訟法応用講義	島 田 良 一	44
刑事法概論	小 野 晃 正	45
刑事法概論	小 野 晃 正	47
刑法応用講義 I	小 野 晃 正	49
刑法応用講義 II	小 野 晃 正	51
刑法各論	小 野 晃 正	53
刑法各論 I	小 野 晃 正	55
刑法総論	小 野 晃 正	57
刑法総論 I	小 野 晃 正	59
健康論	藤 林 真 美	508
現代韓国事情	田 中 悟	510
現代社会と刑事法	島 田 良 一	61
現代ビジネス論	牧 美喜男	512

科目名	担当者	ページ
憲法 I (基本的人権)	浮 田 徹	62
憲法 II (統治機構)	浮 田 徹	63
憲法 II (統治機構)	浮 田 徹	64
憲法応用講義	浮 田 徹	65
憲法概論	浮 田 徹	66
憲法概論	浮 田 徹	67

## コ

公共政策の基礎	中 沼 丈 晃	514
国語学	橋 本 正 俊	515
国語学 I	橋 本 正 俊	516
国際関係史	河 原 匡 見	68
国際関係史	河 原 匡 見	69
国際関係論	河 原 匡 見	70
国際私法 I	小 山 昇	71
国際私法 II	小 山 昇	72
国際私法各論	小 山 昇	73
国際私法総論	小 山 昇	74
国際社会と法	鳥谷部 壤	75
国際人権法	鳥谷部 壤	76
国際組織法	鳥谷部 壤	77
国際取引法	小 山 昇	78
国際取引法 I	小 山 昇	79
国際法の基礎理論	鳥谷部 壤	80
国際法の基礎理論	鳥谷部 壤	81
国際ボランティア論	浅 野 英 一	82
コミュニケーション能力開発	亀 田 峻 宣	657

## サ

債権各論	大 川 謙 蔵	83
債権総論	大 川 謙 蔵	84
債権法 I	大 川 謙 蔵	85
債権法 II	大 川 謙 蔵	86
財政学	名 方 佳寿子	87
裁判制度特別講義	家 本 真 実	88

## シ

時事英語 I	里 井 真理子	517
時事英語 II	里 井 真理子	519
自然地理学	笠 原 俊 則	520
実定法上級講義	前 田 剛 志	521
実定法特別講義 I	前 田 剛 志	523
実定法特別講義 II	前 田 剛 志	90
市民社会論	森 康 一	91
社会科・公民科教育法 I	大 野 順 子	700
社会科・公民科教育法 II	大 野 順 子	702
社会科・地歴科教育法 I	脇 田 孝 豪	704
社会科・地歴科教育法 II	脇 田 孝 豪	705
社会学 I	野々村 元 希	525
社会学 II	野々村 元 希	526
社会調査の方法	野々村 元 希	527
社会保障法	川 谷 道 郎	92
就職実践基礎	山 岡 亮 太	528

科目名	担当者	ページ
就職実践基礎	亀田 峻 宣	529
住民協働論	増田 知 也	93
少年法	島田 良 一	94
消費者と法	城内 明	95
消費者と法	城内 明	96
商法応用講義	牛丸 與志夫	97
情報処理 I	橋本 はる美	410
情報処理 I	寺内 睦 博	411
情報処理 I	橋本 はる美	530
情報処理 I	寺内 睦 博	531
情報処理 II	橋本 はる美	412
情報処理 II	寺内 睦 博	413
情報処理 II	橋本 はる美	532
情報処理 II	寺内 睦 博	533
商法総論	牛丸 與志夫	99
商法総論 I	牛丸 與志夫	101
親族法	古川 行 男	103
人文地理学	笠原 俊 則	534
心理学 I	樋口 隆 弘	535
心理学 II	樋口 隆 弘	537

## ス

数的能力開発	亀田 峻 宣	658
数的能力開発	山岡 亮 太	659
数的能力開発	橋本 朗 子	660
数的能力開発	津村 忠	661
数的能力開発 I	亀田 峻 宣	662
数的能力開発 I	山岡 亮 太	663
数的能力開発 I	橋本 朗 子	664
数的能力開発 I	寺内 睦 博	665
数的能力開発 II	亀田 峻 宣	666
数的能力開発 II	山岡 亮 太	667
数的能力開発 II	橋本 朗 子	668
数的能力開発 II	津村 忠	669
スポーツ医学の基礎	岡崎 和 伸	539
スポーツ医学の理論と実際	今井 大 喜	104
スポーツ栄養学	古野 幸 子	105
スポーツ栄養学	古野 幸 子	540
スポーツ科学概論	藤林 真 美	414
スポーツ科学実習 I	横山 喬 之	541
スポーツ科学実習 I a	横山 喬 之	416
スポーツ科学実習 I b	横山 喬 之	417
スポーツ科学実習 II	横山 喬 之	542
スポーツ科学実習 II a	河瀬 泰 治	418
スポーツ科学実習 II b	横山 喬 之	419
スポーツ教育学	近藤 潤	106
スポーツ教育学	近藤 潤	543
スポーツ指導者入門	横山 喬 之	544
スポーツ社会学	石井 信 輝	107
スポーツ心理学	石井 信 輝	108
スポーツ心理学	石井 信 輝	545
スポーツ政策論	石井 信 輝	109
スポーツと法律	石井 信 輝	110

科目名	担当者	ページ
スポーツトレーニングの基礎	堀 美 幸	546
スポーツの歴史	近藤 潤	111
スポーツの歴史	近藤 潤	547
スポーツビジネス	大川 謙 蔵	112
スポーツビジネスと法	大川 謙 蔵	113
スポーツプログラミング	岩瀬 雅 紀	114
スポーツプログラミング	岩瀬 雅 紀	548
スポーツ文化論	河瀬 泰 治	115
スポーツマネジメント	石井 信 輝	116

## セ

政治学概論	中 沼 丈 晃	117
政治過程論	和 田 泰 一	119
政治史	和 田 泰 一	121
政治と政策	増田 知 也	123
政治と政策	増田 知 也	125
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英 一	549
生徒指導論	朝日 素 明	706
西洋女性史	小宮山 直 子	127
西洋女性史	小宮山 直 子	128
西洋政治思想史	和 田 泰 一	129
西洋の裁判の歴史	小宮山 直 子	131
西洋の人権の歴史	小宮山 直 子	132
世界遺産論	北 條 ゆかり	550
世界史概論	林 田 敏 子	552
世界の政治	森 康 一	133
世界の政治と社会	森 康 一	134
摂南大学 PBL プロジェクト I	居 場 嘉 教	553
摂南大学 PBL プロジェクト I	橋本 正 治	554
摂南大学 PBL プロジェクト I	石田 秀 士	555
摂南大学 PBL プロジェクト I	石田 裕 子	556
摂南大学 PBL プロジェクト I	浅野 英 一	557
摂南大学 PBL プロジェクト I	久保 貞 也	558
摂南大学 PBL プロジェクト I	牧野 幸 志	559
摂南大学 PBL プロジェクト I	大塚 正 人	560
摂南大学 PBL プロジェクト I	石井 信 輝	561
摂南大学 PBL プロジェクト I	田井 義 人	562
摂南大学 PBL プロジェクト I	吉田 佐治子	564
摂南大学 PBL プロジェクト I	上野山 裕 士	565
摂南大学 PBL プロジェクト I	藤原 京 佳	566
摂南大学 PBL プロジェクト II	居 場 嘉 教	567
摂南大学 PBL プロジェクト II	橋本 正 治	568
摂南大学 PBL プロジェクト II	石田 秀 士	569
摂南大学 PBL プロジェクト II	石田 裕 子	570
摂南大学 PBL プロジェクト II	浅野 英 一	571
摂南大学 PBL プロジェクト II	久保 貞 也	572
摂南大学 PBL プロジェクト II	牧野 幸 志	573
摂南大学 PBL プロジェクト II	大塚 正 人	574
摂南大学 PBL プロジェクト II	石井 信 輝	575
摂南大学 PBL プロジェクト II	田井 義 人	576
摂南大学 PBL プロジェクト II	吉田 佐治子	578
摂南大学 PBL プロジェクト II	上野山 裕 士	579
摂南大学 PBL プロジェクト II	藤原 京 佳	580

科目名	担当者	ページ
専門演習 I	小山 昇	135
専門演習 I	牛丸 與志夫	136
専門演習 I	牧田 勲	137
専門演習 I	小島 俊朗	138
専門演習 I	河原 匡見	139
専門演習 I	中沼 丈晃	140
専門演習 I	浮田 徹	141
専門演習 I	石井 信輝	142
専門演習 I	島田 良一	143
専門演習 I	家本 真実	144
専門演習 I	城内 明	145
専門演習 I	小野 晃正	146
専門演習 I	萩原 佐織	147
専門演習 I	大川 謙蔵	148
専門演習 I	松島 裕一	149
専門演習 I	増田 知也	150
専門演習 I	和田 泰一	151
専門演習 I	川谷 道郎	152
専門演習 I	鳥谷部 壤	153
専門演習 II	小山 昇	154
専門演習 II	牛丸 與志夫	155
専門演習 II	牧田 勲	156
専門演習 II	小島 俊朗	157
専門演習 II	河原 匡見	158
専門演習 II	古川 行男	159
専門演習 II	中沼 丈晃	160
専門演習 II	浮田 徹	161
専門演習 II	石井 信輝	162
専門演習 II	島田 良一	163
専門演習 II	家本 真実	164
専門演習 II	城内 明	165
専門演習 II	小野 晃正	166
専門演習 II	萩原 佐織	167
専門演習 II	大川 謙蔵	168
専門演習 II	松島 裕一	169
専門演習 II	増田 知也	170
専門演習 II	和田 泰一	171
専門演習 II	川谷 道郎	172
専門日本語 F I	塩谷 尚子	420
専門日本語 F II	塩谷 尚子	421
専門日本語 R	塩谷 尚子	422

## ソ

相続法	古川 行男	173
相続法	古川 行男	174
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井 三恵	581
租税法 I	小島 俊朗	175
租税法 I	小島 俊朗	176
租税法 II	小島 俊朗	177
租税法 II	小島 俊朗	179
卒業研究	小山 昇	181
卒業研究	牛丸 與志夫	182
卒業研究	牧田 勲	183

科目名	担当者	ページ
卒業研究	小島 俊朗	184
卒業研究	河原 匡見	185
卒業研究	古川 行男	186
卒業研究	石井 信輝	187
卒業研究	金谷 重樹	188
卒業研究	中沼 丈晃	189
卒業研究	浮田 徹	190
卒業研究	島田 良一	191
卒業研究	家本 真実	192
卒業研究	城内 明	193
卒業研究	小野 晃正	194
卒業研究	萩原 佐織	195
卒業研究	大川 謙蔵	196
卒業研究	松島 裕一	197
卒業研究	増田 知也	198
卒業研究	和田 泰一	199

## タ

大学教養応用	大塚 正人	583
大学教養実践	伊藤 譲	585
大学教養入門	萩田 喜代一	587
ダイバーシティとコミュニケーション	石井 三恵	589
体力測定とスポーツ相談	堀 美幸	200
担保物権法	古川 行男	201

## チ

地域貢献実践演習	鶴坂 貴恵	591
地域政策応用講義 II (地方政策論)	増田 知也	202
地域とスポーツ	石井 信輝	204
地域と私	鶴坂 貴恵	592
地域防犯政策	中沼 丈晃	205
地域連携教育活動 I	吉田 佐治子	594
地域連携教育活動 II	吉田 佐治子	595
チームビルディング	水野 武	596
地誌学	渡邊 英明	598
知的財産法	関 堂 幸輔	206
地方財政論	中沼 丈晃	208
地方自治と政策	増田 知也	210
地方自治と法	高橋 剛	211
地方自治法	高橋 剛	213
地方自治論	増田 知也	215
中国語 I	曹 櫻	599
中国語 II	曹 櫻	601
地理学 I	笠原 俊則	603
地理学 II	笠原 俊則	604

## テ

哲学 I	池田 清	605
哲学 II	池田 清	606

## ト

倒産法	萩原 佐織	216
道徳教育の研究	谷口 雄一	707

科目名	担当者	ページ
独占禁止法	牛丸 與志夫	218
独占禁止法 I	牛丸 與志夫	219
特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	林 茂 樹	709
特別活動の理論と方法	林 茂 樹	711
特別支援教育論	林 茂 樹	713

## 一

日本外交史	森 康 一	220
日本語会話 F I	古川 由理子	423
日本語会話 F II	古川 由理子	424
日本語会話 R	古川 由理子	425
日本語総合 F I	藤原 京 佳	426
日本語総合 F II	藤原 京 佳	427
日本語総合 R	藤原 京 佳	428
日本語読解 F I	佐々木 成 美	429
日本語読解 F II	佐々木 成 美	430
日本語読解 R	佐々木 成 美	431
日本語能力開発 I	澤野 加 奈	670
日本語能力開発 I	南谷 静 香	671
日本語能力開発 I	高嶋 藍	673
日本語能力開発 II	澤野 加 奈	674
日本語能力開発 II	南谷 静 香	675
日本語能力開発 II	高嶋 藍	676
日本語表現作文 F I	佐々木 成 美	432
日本語表現作文 F II	佐々木 成 美	433
日本語表現作文 R	佐々木 成 美	434
日本語文法 F I	佐々木 成 美	435
日本語文法 F II	佐々木 成 美	436
日本語文法 R	佐々木 成 美	437
日本史概論	高木 純 一	607
日本事情 F I	門脇 薫	438
日本事情 F II	門脇 薫	440
日本事情 R I	門脇 薫	442
日本事情 R II	門脇 薫	444
日本女性史	牧田 勲	221
日本女性史	牧田 勲	222
日本政治論	森 康 一	223
日本の外交の歴史	森 康 一	224
日本の人権の歴史	牧田 勲	225
日本の政治	森 康 一	226

## ハ

発育発達論	岩瀬 雅 紀	609
犯罪被害者の支援と法的救済	小野 晃 正	610

## ヒ

ビジネスマナー	奥田 和 子	612
ビジネスマナー I	奥田 和 子	677
ビジネスマナー II	奥田 和 子	679

## フ

フィットネストレーニングの理論と実際	堀 美 幸	227
福祉政策論	増田 知 也	228

科目名	担当者	ページ
物権法	家本 真 実	229
物権法	家本 真 実	231
不動産取引法	古川 行 男	233
不法行為法	城内 明	234
不法行為法	城内 明	236
プレ専門演習	小山 昇	238
プレ専門演習	牛丸 與志夫	239
プレ専門演習	牧田 勲	240
プレ専門演習	小島 俊 朗	241
プレ専門演習	河原 匡 見	242
プレ専門演習	中沼 丈 晃	243
プレ専門演習	浮田 徹	244
プレ専門演習	石井 信 輝	245
プレ専門演習	島田 良 一	246
プレ専門演習	家本 真 実	247
プレ専門演習	城内 明	248
プレ専門演習	小野 晃 正	249
プレ専門演習	萩原 佐 織	250
プレ専門演習	大川 謙 蔵	251
プレ専門演習	松島 裕 一	252
プレ専門演習	増田 知 也	253
プレ専門演習	和田 泰 一	254
プレ専門演習	川谷 道 郎	255
プレ専門演習	鳥谷部 壤	256
プロポーザル・デザイン	北村 浩	614
文学	松尾 佳津子	616
文学 I	松尾 佳津子	618

## ヘ

ヘルスエクササイズの理論と実際	堀 美 幸	257
-----------------	-------	-----

## ホ

法学概論	島田 良 一	258
法学基礎演習 I	小山 昇	259
法学基礎演習 I	牛丸 與志夫	260
法学基礎演習 I	牧田 勲	261
法学基礎演習 I	小島 俊 朗	262
法学基礎演習 I	河原 匡 見	263
法学基礎演習 I	中沼 丈 晃	264
法学基礎演習 I	浮田 徹	265
法学基礎演習 I	石井 信 輝	266
法学基礎演習 I	島田 良 一	267
法学基礎演習 I	家本 真 実	268
法学基礎演習 I	城内 明	269
法学基礎演習 I	小野 晃 正	270
法学基礎演習 I	萩原 佐 織	271
法学基礎演習 I	大川 謙 蔵	272
法学基礎演習 I	松島 裕 一	273
法学基礎演習 I	増田 知 也	274
法学基礎演習 I	和田 泰 一	275
法学基礎演習 I	川谷 道 郎	276
法学基礎演習 I	鳥谷部 壤	277
法学基礎演習 II	小山 昇	278

科目名	担当者	ページ
法学基礎演習Ⅱ	牛丸 與志夫	279
法学基礎演習Ⅱ	牧田 勲	280
法学基礎演習Ⅱ	小島 俊朗	281
法学基礎演習Ⅱ	河原 匡見	282
法学基礎演習Ⅱ	中沼 丈晃	283
法学基礎演習Ⅱ	浮田 徹	284
法学基礎演習Ⅱ	石井 信輝	285
法学基礎演習Ⅱ	島田 良一	286
法学基礎演習Ⅱ	家本 真実	287
法学基礎演習Ⅱ	城内 明	288
法学基礎演習Ⅱ	小野 晃正	289
法学基礎演習Ⅱ	萩原 佐織	290
法学基礎演習Ⅱ	大川 謙蔵	291
法学基礎演習Ⅱ	松島 裕一	292
法学基礎演習Ⅱ	増田 知也	293
法学基礎演習Ⅱ	和田 泰一	294
法学基礎演習Ⅱ	川谷 道郎	295
法学基礎演習Ⅱ	鳥谷部 壤	296
法思想史	松島 裕一	297
法思想史	松島 裕一	299
法社会学	前田 剛志	301
法情報学	谷 次郎	303
法人法概説	古川 行男	304
法政キャリア特別講義Ⅰ	河原 匡見	305
法政キャリア特別講義Ⅱ	高田 尚彦	306
法政キャリア特別講義Ⅲ	仲 秀樹	307
法政キャリア特別講義Ⅳ	松島 裕一	308
法政キャリア特別講義Ⅴ	牛丸 與志夫	310
法政キャリア特別講義Ⅵ	大仲 淳介	311
法政キャリア特別講義Ⅶ	大仲 淳介	312
法哲学Ⅰ	松島 裕一	313
法哲学Ⅱ	松島 裕一	315
法哲学各論	松島 裕一	317
法哲学総論	松島 裕一	319
法律英語	鳥谷部 壤	321
保険法	牛丸 與志夫	322
ボランティアと法律	中沼 丈晃	324

## マ

マーケティングと歴史	武居 奈緒子	620
祭りと地域の法社会史	牧田 勲	325
祭りと地域の法社会史	牧田 勲	326

## ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼 丈晃	621
民事訴訟法	萩原 佐織	327
民事訴訟法Ⅰ	萩原 佐織	329
民事訴訟法応用講義	萩原 佐織	331
民事法概論	大川 謙蔵	333
民事法概論	大川 謙蔵	334
民事保全・執行法	萩原 佐織	335
民法応用講義Ⅰ	城内 明	623
民法応用講義Ⅱ	大川 謙蔵	625

科目名	担当者	ページ
民法総則	城内 明	337
<b>モ</b>		
ものづくりインターンシップ基礎	坂本 淳二	626
ものづくりインターンシップ基礎	檜橋 祥一	628
ものづくりインターンシップ実践	坂本 淳二	629
ものづくり海外インターンシップ	檜橋 祥一	631
<b>ヤ</b>		
役立つ金融知力	陸川 富盛	632
<b>ユ</b>		
有価証券法	高田 尚彦	339
有価証券法Ⅰ	高田 尚彦	340
<b>ラ</b>		
ライフサイエンスの基礎	西矢 芳昭	634
<b>レ</b>		
歴史学概論	高木 純一	635
<b>ロ</b>		
労働組合法	川谷 道郎	341
労働保護法	川谷 道郎	343

專 門 科 目



科目名	英米法	科目名(英文)	Anglo-American Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3014a0		

授業概要・目的	日本で生活していくうえで、他国の法制度の知識が役に立つことはあまり多くないかもしれませんが、しかし、他国の法制度を学ぶことは、日本の法制度に対する理解を深め、さまざまな法的問題の解決法を探ることにもつながります。そこでこの講義では、日本の法制度にも大きな影響を与えている英米法の基礎概念とアメリカの法制度を学んでいただきたいと思います。講義では、英文の文献や映画などの映像資料も多用します。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、アメリカ法の特徴を理解し、憲法および民事法、陪審制度といったアメリカの法制度の全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを中心に授業をおこないます。「英語なんて見たくもない」という方にはお勧めできない授業ですが、アメリカという国や英語に興味がある方には、法という視点からアプローチする楽しさを感じていただけるかと思います。教科書を使用せず、配布するレジュメを基に講義をおこないますので、単位取得のためには講義に出席のうえ講義内容を理解することが必須だと考えてください。講義内容は、受講生の皆さんの理解度によっては変更することがあります。
科目学習の効果(資格)	英米法の基本的な考え方、アメリカの歴史や社会、法制度についての知識を得ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	英米法とは	英米法の歴史と、アメリカ合衆国の生い立ち、その法体系	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	判例法とは	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	アメリカの憲法(1)	アメリカにおける連邦と州の関係とそれぞれの権限	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	アメリカの憲法(2)	アメリカの立法と行政のしくみ	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	アメリカの憲法(3)	アメリカの憲法(権利章典)に関する判例を読む	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
7	銃社会アメリカの抱える問題(1)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	銃問題アメリカの抱える問題(2)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	アメリカの民事訴訟(1)	アメリカの民事裁判手続きに採用されているディスカバリー(証拠開示手続き)について	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	アメリカの民事訴訟(2)	クラスアクション(集団代表訴訟)について	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	アメリカの民事訴訟(3)	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	アメリカの民事訴訟(4)	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	アメリカにおける市民の司法への参加(1)	映画 "Hot Coffee" からわかるアメリカの陪審制度	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	アメリカにおける市民の司法への参加(2)	アメリカの民事・刑事陪審制度、アメリカの陪審制度と日本の裁判員制度の比較	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	これまでの講義のまとめ	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。

関連科目 国際関係の科目、英語系の科目  
教科書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代アメリカ法入門	丸田隆	日本評論社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で意見を求めたり、課題を提出していただきます。そうした意見や課題、講義での受講姿勢を 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。授業中の不要な私語については減点の対象とします。			
学生への メッセージ	アメリカや英語に興味があり、積極的に学ぼうという姿勢を持つ学生（他学部の学生を含む）を歓迎します。授業中は私語を慎んでください。講義内容は、進行具合や受講生の様子によっては変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考	課題については、次の回の授業で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間			

科目名	会社法	科目名(英文)	Corporate Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2047a0		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、4種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、会社法の 全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、毎回、復習の確認テストを行う。
科目学習の効果(資格)	会社に就職する者にとっては、必須の知識を身に着けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。	事前に教科書2ページ～40ページを読む。 事後に教科書2ページ～40ページを読む。
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。	事前に42ページ～65ページを読む。 事後に42ページ～65ページを読む。
3	株式と株主(1)	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。	事前に66ページ～86ページを読む。 事後に66ページ～86ページを読む。
4	株式と株主(2)	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。	事前に86ページ～107ページを読む。 事後に86ページ～107ページを読む。
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。	事前に105ページ～132ページを読む。 事後に105ページ～132ページを読む。
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。	事前に133ページ～150ページを読む。 事後に133ページ～150ページを読む。
7	取締役・取締役会(1)	総説・取締役について学ぶ。	事前に150ページ～155ページを読む。 事後に150ページ～155ページを読む。
8	取締役・取締役会(2)	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。	事前に155ページ～164ページを読む。 事後に155ページ～164ページを読む。
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。	事前に164ページ～180ページを読む。 事後に164ページ～180ページを読む。
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。	事前に180ページ～192ページを読む。 事後に180ページ～192ページを読む。
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。	事前に193ページ～216ページを読む。 事後に193ページ～216ページを読む。
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。	事前に217ページ～223ページを読む。 事後に217ページ～223ページを読む。
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。	事前に225ページ～236ページを読む。 事後に225ページ～236ページを読む。
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	事前に237ページ～290ページを読む。 事後に237ページ～290ページを読む。
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社について学ぶ。	事前に291ページ～314ページを読む。 事後に291ページ～314ページを読む。

関連科目 金融商品取引法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		プライマリー会社法(最新版)	藤田勝利・北村雅史
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%
学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室
備考	予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。

科目名	会社法 I	科目名 (英文)	Corporate Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、4種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、会社法の 全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、毎回、復習の確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	会社に就職する者にとっては、必須の知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。	事前に教科書 2 ページ～ 40 ページを読む。 事後に教科書 2 ページ～ 40 ページを読む。
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。	事前に 4 2 ページ～ 6 5 ページを読む。 事後に 4 2 ページ～ 6 5 ページを読む。
3	株式と株主 (1)	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。	事前に 6 6 ページ～ 8 6 ページを読む。 事後に 6 6 ページ～ 8 6 ページを読む。
4	株式と株主 (2)	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。	事前に 8 6 ページ～ 1 0 7 ページを読む。 事後に 8 6 ページ～ 1 0 7 ページを読む。
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。	事前に 1 0 5 ページ～ 1 3 2 ページを読む。 事後に 1 0 5 ページ～ 1 3 2 ページを読む。
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。	事前に 1 3 3 ページ～ 1 5 0 ページを読む。 事後に 1 3 3 ページ～ 1 5 0 ページを読む。
7	取締役・取締役会 (1)	総説・取締役について学ぶ。	事前に 1 5 0 ページ～ 1 5 5 ページを読む。 事後に 1 5 0 ページ～ 1 5 5 ページを読む。
8	取締役・取締役会 (2)	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。	事前に 1 5 5 ページ～ 1 6 4 ページを読む。 事後に 1 5 5 ページ～ 1 6 4 ページを読む。
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。	事前に 1 6 4 ページ～ 1 8 0 ページを読む。 事後に 1 6 4 ページ～ 1 8 0 ページを読む。
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。	事前に 1 8 0 ページ～ 1 9 2 ページを読む。 事後に 1 8 0 ページ～ 1 9 2 ページを読む。
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。	事前に 1 9 3 ページ～ 2 1 6 ページを読む。 事後に 1 9 3 ページ～ 2 1 6 ページを読む。
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。	事前に 2 1 7 ページ～ 2 2 3 ページを読む。 事後に 2 1 7 ページ～ 2 2 3 ページを読む。
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。	事前に 2 2 5 ページ～ 2 3 6 ページを読む。 事後に 2 2 5 ページ～ 2 3 6 ページを読む。
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	事前に 2 3 7 ページ～ 2 9 0 ページを読む。 事後に 2 3 7 ページ～ 2 9 0 ページを読む。
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社について学ぶ。	事前に 2 9 1 ページ～ 3 1 4 ページを読む。 事後に 2 9 1 ページ～ 3 1 4 ページを読む。

関連科目 金融商品取引法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プライマリー会社法 (最新版)	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%
学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室
備考	予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。

科目名	家族と地域の法社会史	科目名(英文)	History of Family and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、女性のM字型就労、アンペイド・ワーク、ストーカー問題、少年犯罪の凶悪化、引きこもり、パラサイト・シングル問題、高齢者ホームレスの増加、年金問題など、家族をとりまく問題が次々にもちあがっている。いずれも解決に時間がかかる難題ばかりであるが、この授業では、こうした現在の家族問題を念頭におきながら、日本史の中における過去の家族問題を考察しようとするものである。、歴史の中の家族像を手がかりに、その時代の社会構造や法、あるいは地域の事情について理解を深めてほしい。
到達目標	現在、家族はいろいろな意味で揺れ動いている。この授業を通じて学生には、家族をめぐるさまざまな問題の歴史的背景、現状が理解できるようになることが期待される。その上で、今後自らそういう問題に直面した時の対応や解決を考える「導きの糸」にしてみたい。
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や関連文献を配付したり、紹介する。民法の親族法・相続法を選択していることが望ましいが、日本史の知識があれば、とくに家族法をとっていただくもよい。
科目学習の効果(資格)	間接的ながら、公務員試験、各種試験に繋がっている。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	戦国期の法と社会	政略結婚の時代	家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。
	2	近世の都市と家族(1)	不倫の結末	講義ノートを整理し、見直すこと
	3	近世の都市と家族(2)	「かぶき者」の時代	講義ノートを整理し、見直すこと
	4	近世の都市と家族(3)	道楽息子のなれのはて	講義ノートを整理し、見直すこと
	5	近世の都市と家族(4)	捨てられた子供たち	講義ノートを整理し、見直すこと
	6	近世の都市と家族(5)	駆け込む女たち	講義ノートを整理し、見直すこと
	7	近世のキャリア・ウーマン	大奥女中の生活	講義ノートを整理し、見直すこと
	8	近世の家族と道徳	儒教の中の女性	講義ノートを整理し、見直すこと
	9	東と西の農村	地域差と家族	講義ノートを整理し、見直すこと
	10	近世農村と同族	本家と分家	講義ノートを整理し、見直すこと
	11	東の結婚・西の結婚	若者仲間とかけおち	講義ノートを整理し、見直すこと
	12	近世農村の相続	姉家督と末子相続	講義ノートを整理し、見直すこと
	13	地域と家族	「家」の地域差	講義ノートを整理し、見直すこと
	14	現代の家族	漂流する家族の今を考える	講義ノートを整理し、見直すこと
	15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートを整理し、見直すこと

関連科目 「近世日本の法文化」、「日本女性史」、民法、憲法など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験の成績(80%)とレポート(20%)の合計で評価する。

学生へのメッセージ 日本史に関心のある諸君の選択を希望する。

担当者の研究室等 11号館10階 牧田教授室

備考 レポートは評価した上で、キャリアルームで返却する。講義後の見直しは、少なくとも1時間はかけてノート、配布プリントを熟読することが望まれる。全体で講義後15時間～20時間の自宅学習が望ましい。

科目名	家族と地域の法社会史	科目名(英文)	History of Family and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2008a0		

授業概要・目的	近年、女性のM字型就労、アンペイド・ワーク、ストーカー問題、少年犯罪の凶悪化、引きこもり、パラサイト・シングル問題、高齢者ホームレスの増加、年金問題など、家族をとりまく問題が次々にもちあがっている。いずれも解決に時間がかかる難題ばかりであるが、この授業では、こうした現在の家族問題を念頭におきながら、日本史の中における過去の家族問題を考察しようとするものである。、歴史の中の家族像を手がかりに、その時代の社会構造や法、あるいは地域の事情について理解を深めてほしい。
到達目標	現在、家族はいろいろな意味で揺れ動いている。この授業を通じて学生には、家族をめぐるさまざまな問題の歴史的背景、現状が理解できるようになることが期待される。その上で、今後自らそういう問題に直面した時の対応や解決を考える「導きの糸」にしてみたい。
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や関連文献を配付したり、紹介する。民法の親族法・相続法を選択していることが望ましいが、日本史の知識があれば、とくに家族法をとっていただくもよい。
科目学習の効果(資格)	間接的ながら、公務員試験、各種試験に繋がっている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。
1	戦国期の法と社会	政略結婚の時代	講義ノートを整理し、見直すこと
2	近世の都市と家族(1)	不倫の結末	講義ノートを整理し、見直すこと
3	近世の都市と家族(2)	「かぶき者」の時代	講義ノートを整理し、見直すこと
4	近世の都市と家族(3)	道楽息子のなれのはて	講義ノートを整理し、見直すこと
5	近世の都市と家族(4)	捨てられた子供たち	講義ノートを整理し、見直すこと
6	近世の都市と家族(5)	駆け込む女たち	講義ノートを整理し、見直すこと
7	近世のキャリア・ウーマン	大奥女中の生活	講義ノートを整理し、見直すこと
8	近世の家族と道徳	儒教の中の女性	講義ノートを整理し、見直すこと
9	東と西の農村	地域差と家族	講義ノートを整理し、見直すこと
10	近世農村と同族	本家と分家	講義ノートを整理し、見直すこと
11	東の結婚・西の結婚	若者仲間とかけおち	講義ノートを整理し、見直すこと
12	近世農村の相続	姉家督と末子相続	講義ノートを整理し、見直すこと
13	地域と家族	「家」の地域差	講義ノートを整理し、見直すこと
14	現代の家族	漂流する家族の今を考える	講義ノートを整理し、見直すこと
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートを整理し、見直すこと

関連科目	「近世日本の法文化」、「日本女性史」、民法、憲法など。
------	-----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)とレポート(20%)の合計で評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	日本史に関心のある諸君の選択を希望する。
-----------	----------------------

担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室
----------	---------------

備考	レポートは評価した上で、キャリアルームで返却する。講義後の見直しは、少なくとも1時間はかけてノート、配布プリントを熟読することが望まれる。全体で講義後15時間～20時間の自宅学習が望ましい。
----	---

科目名	環境法	科目名(英文)	Environmental Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3057a0		

授業概要・目的	環境にまつわる法と制度を周辺の事情なども含めて学習してもらいます。国家と環境の関係について、法律学的な検討だけでなくその他環境法の総合的理解に必要な観点から考察を加えます。
到達目標	この授業を通じて学生には、環境という広い領域の中の、法律・行政に関わる部分を学び整え、憲法、民法、行政法などを踏まえた上での環境に対する法の思考を形成できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式です。発言を求める場合もあります。法学部3年生後期の科目なので、そこまでの憲法、民法、行政法の理解を前提として講義を行います。
科目学習の効果(資格)	新司法試験の選択科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：教科書の目次を読んでくる(5分) 復習・学習：講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んでみて内容をチェックする(20分)
2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
3	環境法と権利	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
13	環境に対する事前の措置③	・環境影響評価法の導入とその仕組み③	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
14	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)
15	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20分)

関連科目	憲法 I、憲法 II、行政法などの公法科目と関連します。法哲学、行政学や、民法(不法行為など)、民事訴訟法なども関連します。								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	考えながら学ぶ環境法	島山武道	三省堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の小課題(20%)、期末試験(80%)で評価します。詳細は講義初回に配布するプリントを参照すること。			
学生への メッセージ	資料等は適宜配布します。その他詳細については初回に配布するプリントを参照すること。			
担当者の 研究室等	11号館9階 浮田准教授室			
備考	小課題については次の回の授業で解説する			

科目名	企業法務特別講義 I (金融法実務)	科目名 (英文)	Special Lecture on Business Law I (Financial Law Practice)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3106a0		

授業概要・目的	金融法のうち、特に銀行取引に関して、実務的側面を重視して、講義を行う。 本講義では、銀行の固有業務である受信取引と与信取引を取り上げる 本講義の目的は、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することである。
到達目標	この授業を通じて、学生は、銀行に就職を希望する学生が自信を持って就職活動を行うことができ、また銀行に就職後、自信を持って業務を行うことができるために、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	必要な資料は、授業中に配布する。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。 授業開始直後、毎回、復習の確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	銀行等の金融機関に就職する時と就職後に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	金融法概観	金融法の範囲と基礎概念、金融取引の類型、金融取引に関する特別法、金融規制の目的と近年の動向等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
2	受信取引法 (1)	預金契約についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
3	受信取引法 (2)	預金の成立についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
4	受信取引法 (3)	預金の帰属についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
5	受信取引法 (4)	預金の払戻しについてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
6	受信取引法 (5)	預金の相続についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
7	受信取引法 (6)	預金と時効、複数店預金に対する差押え等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
8	与信取引法 1 (1)	銀行の与信業務と根拠法、与信業務にかかる法規制等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
9	与信取引法 1 (2)	与信判断における善管注意義務についてを学ぶ。	授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
10	与信取引法 1 (3)	与信の相手方、銀行取引約定書等についてを学ぶ。	授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
11	与信取引法 1 (4)	与信の具体的態様についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
12	与信取引法 1 (5)	保証・損失補償についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
13	与信取引法 1 (6)	担保についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
14	与信取引法 2 (1)	債権管理についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。
15	与信取引法 2 (2)	債権回収についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1 時間) をすること。

関連科目	民法、商法、金融商品取引法
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%
-----------	--------------------

学生へのメッセージ	辛抱強く、勉強してください。
-----------	----------------

担当者の研究室等	11 号館 9 階 牛丸教授室
----------	-----------------

備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。
----	---

科目名	行政学	科目名(英文)	Public Administration
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2074a0		

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという3段階が必要になる。
科目学習の効果(資格)	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第1回の続き。	レジュメ p.2 を見直す 『13 デイズ』の視聴 (約 1.5 時間)
3	1930年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 を見直す (約 1 時間)
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 を見直す (約 1 時間)
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 を見直す (約 1 時間)
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 を見直す (約 1 時間)
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 の見直す (約 1 時間)
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 を見直す 行政組織法の整理 (約 1.5 時間)
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 を見直す 行政組織法の整理 (約 1.5 時間)
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 を見直す (約 1 時間)
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 を見直す 新聞記事資料の確認 (約 1.5 時間)
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 (約 1.5 時間)
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 を見直す 読物資料の確認 (約 1.5 時間)
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するか知る。	レジュメ p.16 を見直す (約 1 時間)
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 を見直す 新聞記事資料の確認 期末試験の対策 (約 3 時間)

関連科目	「公共政策の基礎」の発展科目である。
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	平常点(毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%)と期末試験の点数(70%)の合計によって評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
-----------	---------------------

担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室
----------	--------------

備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。
----	--

科目名	行政救済法 I	科目名 (英文)	Administrative Remedy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷 重樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>法治主義ないし法の支配の下においては、すべての行政活動は適法に、しかも国民・住民の権利利益を最大限に尊重して行われなければならないが、この行政、神ならぬ人が行うことから、時として違法な行政が行われることがあり、それを放置することは法治主義ないし法の支配に反する。また、財産権については、正当な補償の下、公共の福祉のために剥奪・制限することが認められている。そこで、この授業では、このような行政活動に起因する被害の補填制度について説明する。</p>
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験及び行政書士をはじめとする各種試験に合格する力が培われることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。27頁から52頁まで各自でプリントアウトし、毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験を受験する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	「行政法総論」で学んだことの復習	行政法総論のプリントを通読しておくこと。
	2	行政救済制度	国家補償と行政争訟の説明	事前にプリントを読んでおくこと。
	3	行政上の損害賠償制度	不法行為責任と債務不履行責任	事前にプリントを読んでおくこと。
	4	国家賠償法 (1)	国家賠償法第1条の説明その1	事前にプリントを読んでおくこと。
	5	国家賠償法 (2)	国家賠償法第1条の説明その2	事前にプリントを読んでおくこと。
	6	国家賠償法 (3)	国家賠償法第2条の説明その1	事前にプリントを読んでおくこと。
	7	国家賠償法 (4)	国家賠償法第2条の説明その2	事前にプリントを読んでおくこと。
	8	行政上の損失補償 (1)	特別の犠牲の意味と判断基準	事前にプリントを読んでおくこと。
	9	行政不服審査法 (1)	行政不服審査法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
	10	行政不服審査法 (2)	不服申立の対象	事前にプリントを読んでおくこと。
	11	行政不服審査法 (3)	審査手続	事前にプリントを読んでおくこと。
	12	行政上の損失補償 (2)	特別の犠牲	事前にプリントを読んでおくこと。
	13	行政事件訴訟法 (1)	行政事件訴訟法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
	14	行政事件訴訟法 (2)	取消訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
	15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	これまでのプリントを通読しておくこと。

関連科目 できるだけ民事訴訟法の基本を理解しておいて下さい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 学年末試験の結果と、計3回行うレポートによって評価します。評価の各割合は学期末試験70%、レポート30%です。

学生へのメッセージ とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。

担当者の研究室等 11号館9階 金谷教授室

備考 事前学習と事後学習は、授業の各回それぞれにつき、事前学習1時間、事後学習2時間行って下さい。したがって、事前学習及び事後学習の総時間は、各15時間、30時間です。レポートは評価した上でキャリアルームで返却します。

科目名	行政と政策	科目名(英文)	Public Administration and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという3段階が必要になる。
科目学習の効果(資格)	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 を見直す 『13 デイズ』の視聴 (約 1.5 時間)
2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第1回の続き。	レジュメ p.2 を見直す 『13 デイズ』の視聴 (約 1.5 時間)
3	1930年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 を見直す (約 1 時間)
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 を見直す (約 1 時間)
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 を見直す (約 1 時間)
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 を見直す (約 1 時間)
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 の見直す (約 1 時間)
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 を見直す 行政組織法の整理 (約 1.5 時間)
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 を見直す 行政組織法の整理 (約 1.5 時間)
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 を見直す (約 1 時間)
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 を見直す 新聞記事資料の確認 (約 1.5 時間)
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 (約 1.5 時間)
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 を見直す 読物資料の確認 (約 1.5 時間)
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するか知る。	レジュメ p.16 を見直す (約 1 時間)
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 を見直す 新聞記事資料の確認 期末試験の対策 (約 3 時間)

関連科目	「公共政策の基礎」の発展科目である。
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	平常点(毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%)と期末試験の点数(70%)の合計によって評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
-----------	---------------------

担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室
----------	--------------

備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。
----	--

科目名	行政法各論	科目名(英文)	Administrative Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷 重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2019a0		

授業概要・目的	法治主義ないし法の支配の下においては、すべての行政活動は適法に、しかも国民・住民の権利利益を最大限に尊重して行われなければならないが、この行政、神ならぬ人が行うことから、時として違法な行政が行われることがあり、それを放置することは法治主義ないし法の支配に反する。また、財産権については、正当な補償の下、公共の福祉のために剥奪・制限することが認められている。そこで、この授業では、このような行政活動に起因する被害の補填制度について説明する。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験及び行政書士をはじめとする各種試験に合格する力が培われることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。27頁から52頁まで各自でプリントアウトし、毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	公務員試験を受験する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	「行政法総論」で学んだことの復習	行政法総論のプリントを通読しておくこと。
	2	行政救済制度	国家補償と行政争訟の説明	事前にプリントを読んでおくこと。
	3	行政上の損害賠償制度	不法行為責任と債務不履行責任	事前にプリントを読んでおくこと。
	4	国家賠償法(1)	国家賠償法第1条の説明その1	事前にプリントを読んでおくこと。
	5	国家賠償法(2)	国家賠償法第1条の説明その2	事前にプリントを読んでおくこと。
	6	国家賠償法(3)	国家賠償法第2条の説明その1	事前にプリントを読んでおくこと。
	7	国家賠償法(4)	国家賠償法第2条の説明その2	事前にプリントを読んでおくこと。
	8	行政上の損失補償(1)	特別の犠牲の意味と判断基準	事前にプリントを読んでおくこと。
	9	行政不服審査法(1)	行政不服審査法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
	10	行政不服審査法(2)	不服申立の対象	事前にプリントを読んでおくこと。
	11	行政不服審査法(3)	審査手続	事前にプリントを読んでおくこと。
	12	行政上の損失補償(2)	特別の犠牲	事前にプリントを読んでおくこと。
	13	行政事件訴訟法(1)	行政事件訴訟法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
	14	行政事件訴訟法(2)	取消訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
	15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	これまでのプリントを通読しておくこと。

関連科目 できるだけ民事訴訟法の基本を理解しておいて下さい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 学年末試験の結果と、計3回行うレポートによって評価します。評価の各割合は学期末試験70%、レポート30%です。

学生へのメッセージ とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。

担当者の研究室等 11号館9階 金谷教授室

備考 事前学習と事後学習は、授業の各回それぞれにつき、事前学習1時間、事後学習2時間行って下さい。したがって、事前学習及び事後学習の総時間は、各15時間、30時間です。レポートは評価した上でキャリアルームで返却します。

科目名	行政法総論	科目名(英文)	Administrative Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷 重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2018a0		

授業概要・目的	私人の活動がいわゆる「私的自治の原則」を基盤としており、一定の法の柵の中であればその活動は個人個人の自由な判断と責任に委ねられているのに対し、国や自治体による行政活動は必ず法に基づき、従って行われなければならないという「法治主義」ないし「法の支配」の下に置かれている。そこで、この授業では私人の活動と行政活動とが法的にどのように異なる扱いを受けているのかについて、身近で具体的な事例を挙げながら、平易に解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験及び行政書士をはじめとする各種資格試験に合格できる力が培われることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。1頁から2頁まで各自プリントアウトして、毎回、必ず、持参して下さい。行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果(資格)	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	行政の意味と様々な身近な行政活動	身近な行政について具体的に思い浮かべておくこと。
	2	私人の活動と行政主体の活動	法治主義・法の支配	事前にプリントを読んでおくこと。
	3	法律の留保 营造物管理権	法治主義の例外	事前にプリントを読んでおくこと。
	4	行政法の姿と形	成文法源と不文法源	事前にプリントを読んでおくこと。
	5	行政目的を実現する手法 (1)	行政指導	事前にプリントを読んでおくこと。
	6	行政目的を実現する手法 (2)	処分とその意味・種類	事前にプリントを読んでおくこと。
	7	行政目的を実現する手法 (3)	処分の効力その1	事前にプリントを読んでおくこと。
	8	行政目的を実現する手法 (4)	処分の効力その2	事前にプリントを読んでおくこと。
	9	行政目的を実現する手法 (5)	瑕疵の承継など	事前にプリントを読んでおくこと。
	10	行政目的を実現する手法 (6)	拘束的計画	事前にプリントを読んでおくこと。
	11	行政目的を実現する手法 (7)	即時強制と強制調査	事前にプリントを読んでおくこと。
	12	行政裁量	行政裁量の種類と司法審査	事前にプリントを読んでおくこと。
	13	行政上の義務の違反・不履行 に対する措置	制裁と強制執行	事前にプリントを読んでおくこと。
	14	行政法関係	行政活動に対する私法の適用	事前にプリントを読んでおくこと。
	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまでの講義内容を復習しておくこと。

関連科目	憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくこと。
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	学期末試験の結果と、計3回行うレポートによって評価します。評価の各合は学期末試験70%、レポート30%です。
----------	--

学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館9階 金谷教授室
----------	--------------

備考	事前学習と事後学習は、授業の各回それぞれにつき、事前学習1時間、事後学習2時間行って下さい。したがって、事前学習及び事後学習の総時間数は、各1.5時間、3.0時間です。レポートは評価をした上でキャリアルームで返却します。
----	--

科目名	行政法の基礎理論 I	科目名 (英文)	Administrative Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷 重樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	私人の活動がいわゆる「私的自治の原則」を基盤としており、一定の法の柵の中であればその活動は個人個人の自由な判断と責任に委ねられているのに対し、国や自治体による行政活動は必ず法に基づき、従って行われなければならないという「法治主義」ないし「法の支配」の下に置かれている。そこで、この授業では私人の活動と行政活動とが法的にどのように異なる扱いを受けているのかについて、身近で具体的な事例を挙げながら、平易に解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験及び行政書士をはじめとする各種資格試験に合格できる力が培われることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。1頁から2頁まで各自プリントアウトして、毎回、必ず、持参して下さい。行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果 (資格)	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	行政の意味と様々な身近な行政活動	身近な行政について具体的に思い浮かべておくこと。
	2	私人の活動と行政主体の活動	法治主義・法の支配	事前にプリントを読んでおくこと。
	3	法律の留保 营造物管理権	法治主義の例外	事前にプリントを読んでおくこと。
	4	行政法の姿と形	成文法源と不文法源	事前にプリントを読んでおくこと。
	5	行政目的を実現する手法 (1)	行政指導	事前にプリントを読んでおくこと。
	6	行政目的を実現する手法 (2)	処分とその意味・種類	事前にプリントを読んでおくこと。
	7	行政目的を実現する手法 (3)	処分の効力その1	事前にプリントを読んでおくこと。
	8	行政目的を実現する手法 (4)	処分の効力その2	事前にプリントを読んでおくこと。
	9	行政目的を実現する手法 (5)	瑕疵の承継など	事前にプリントを読んでおくこと。
	10	行政目的を実現する手法 (6)	拘束的計画	事前にプリントを読んでおくこと。
	11	行政目的を実現する手法 (7)	即時強制と強制調査	事前にプリントを読んでおくこと。
	12	行政裁量	行政裁量の種類と司法審査	事前にプリントを読んでおくこと。
	13	行政上の義務の違反・不履行 に対する措置	制裁と強制執行	事前にプリントを読んでおくこと。
	14	行政法関係	行政活動に対する私法の適用	事前にプリントを読んでおくこと。
	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまでの講義内容を復習しておくこと。

関連科目 憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくこと。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 学期末試験の結果と、計3回行うレポートによって評価します。評価の各合は学期末試験70%、レポート30%です。

学生へのメッセージ とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。

担当者の研究室等 11号館9階 金谷教授室

備考 事前学習と事後学習は、授業の各回それぞれにつき、事前学習1時間、事後学習2時間行って下さい。したがって、事前学習及び事後学習の総時間数は、各1.5時間、3.0時間です。レポートは評価をした上でキャリアルームで返却します。

科目名	近世日本の法文化	科目名(英文)	Law and Culture in Tokugawa Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1006a0		

授業概要・目的	わが国の近代化は、西欧諸国の大きな影響のもとに進められた。これは法文化においても例外ではなく、わが国は多くの西欧法を継受することで、法の近代化をおしすすめてきたのである。その中で、伝統的な法文化は、一部の例外を除いて捨て去られた。しかし、近代社会が目指したものをよりよく理解するためには、それに先立つ前近代社会の事情を是非とも知っておく必要があるだろう。本講義では、日本の近世社会の種々相を明らかにしながら、そこに現れる諸個人・諸集団の軌轢や調整といった近世の法現象や法文化を紹介する。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本の前近代法のさまざまな特徴を知り、もって近代法や現代法との違いを認識し、現代の法が過去の反省や止場の上に成立していることを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義および板書による説明が中心である。適宜関連する史料を配付し、参考文献等も紹介する。講義に合うよい既存の教材がないので、毎回出席し集中してレジュメを読み、講義を聞くことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	幕藩体制の概観	近世社会の構造	高校教科書の江戸時代の部分をあらかじめ読んでおくこと
2	近世の法文化	身分制社会の諸相 法の多元性	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
3	徳川の平和	幕府の支配と民衆	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
4	将軍と大名	近世の主従関係	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
5	江戸の役人世界	近世行政の特質	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
6	藩支配の多様性	お家騒動あれこれ	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
7	近世社会における犯罪の種々相	八百屋お七の悲劇	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
8	近世の犯罪と法①	主殺し・親殺し・子殺し	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
9	近世の犯罪と法②	日本左衛門と鼠小僧	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
10	近世の紛争①	犯罪者の末路	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
11	近世の紛争②	土地と金をめぐる争い(1)	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
12	近世の紛争③	土地と金をめぐる争い(2)	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
13	幕藩体制と公議輿論①	坂本龍馬と舟中八策	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
14	幕藩体制と公議輿論②	大政奉還と五箇条の御誓文	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
15	近世日本の法と社会	講義のまとめ	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと

関連科目	憲法・刑法・民法などの法学科目などすべての歴史系諸科目。
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)とレポート(20%)の合計で評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	法文化史は、日本史の知識を基礎として、その上に法学的視角から歴史にアプローチしようというものであるから、最低限高校の日本史教科書程度の知識をもっていること。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室
----------	---------------

備考	レポートは評価したうえで、キャリアルームで返却する。講義後の見直し学習としては、少なくとも1時間程度をかけてノート、プリント類を熟読すること。全体として15時間～20時間程度の学習が望まれる。
----	--

科目名	近代日本政治史	科目名(英文)	Modern History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1064a0		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治の歴史についての基本的な知識を獲得できるとともに、それに基づいて、自分自身でいかなる政策・政党・候補者が望ましいのか考え、論理的に意思決定できるようになります。また日本政治史の分野に関わる地方上級や市役所・警察官・消防官などの公務員試験の問題も解説し、試験に対応できるだけの知識を獲得することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や歴史の内容が一般常識として問われる場合があります。そうした試験に対応するために、また身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、日本の基本的な歴史的・政治的知識を知ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
2	戦前日本の政治史①～明治・大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所(第三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所(第四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第五回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第六回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第七回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第八回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第九回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禪譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった80年代の自民党政治について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十一回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	戦後日本の政治史⑧～政治改革と55年体制の崩壊	55年体制が崩壊し、細川連立内閣が成立した90年代の政治史を授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。

				得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30 分)。																
	13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十三回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30 分)。																
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十四回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30 分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。																
関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の歴史学、政治学概論など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>近代日本政治史</td> <td>坂野潤治</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現代日本政治史</td> <td>廣澤孝之</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店	2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店																	
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房																	
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (80%) とリアクションペーパー (20%) で評価します。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 和田講師室																			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。																			

科目名	金融商品取引法	科目名(英文)	Financial Instrument and Exchange Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3050a0		

授業概要・目的	株式会社が証券市場を通じて資金調達をするため株式を公開すれば金融商品取引法による規制を受ける。また、金融商品取引法は、投資者が株式や社債など資産を運用する手段となっている投資信託等の勧誘・販売等について規制している。本講義では、このような金融商品取引法の基本を理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、金融商品取引法の基本を理解することとあわせて、具体的な問題点も意識しつつ知識を習得し、裁判例や時事問題にも関心を持ち、講義で習得した知識に基づきどのように解決することができるのかを考えられるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	上場会社や金融商品取引業者に就職する者にとってはもちろん、一般企業に就職する社会人にとっても重要な講義である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 金融商品取引法の全体像	金融商品市場の基本的な仕組み	レジュメを見直すこと。(約45分)
2	金融商品取引法総論	金融商品取引法の目的と規制内容・適用範囲	教科書 p. 1~24 を読んでおくこと。(約60分)
3	「有価証券」の意義と機能	有価証券の上場 有価証券取引の仕組み 金融商品取引所	教科書 p. 25~39 を読んでおくこと。(約60分)
4	企業の情報開示(ディスクロージャー)(1)	有価証券の発行開示制度	教科書 p. 40~62 を読んでおくこと。(約60分)
5	企業の情報開示(ディスクロージャー)(2)	有価証券の継続開示制度	教科書 p. 62~68 を読んでおくこと。(約60分)
6	企業の情報開示(ディスクロージャー)(3)	情報開示の正確性確保と内部統制	教科書 p. 68~73 を読んでおくこと。(約60分)
7	企業の情報開示(ディスクロージャー)(4)	情報開示義務違反と民事および刑事責任	教科書 p. 73~87 を読んでおくこと。(約60分)
8	金融商品取引業者の規制	金融商品取引業者の開業規制と登録制度、誠実公正義務	教科書 p. 88~115 を読んでおくこと。(約60分)
9	企業支配に関する開示制度(1)	株式公開買付(TOB)の規制	教科書 p. 116~133 を読んでおくこと。(約60分)
10	企業支配に関する開示制度(2)	大量保有報告制度(5%ルール)	教科書 p. 133~148 を読んでおくこと。(約60分)
11	不公正な取引の規制(1)	内部者取引(インサイダー取引)規制(1)	教科書 p. 165~185 を読んでおくこと。(約60分)
12	不公正な取引の規制(2)	内部者取引(インサイダー取引)規制(2)	教科書 p. 165~185 を読んでおくこと。(約60分)
13	不公正な取引の規制(3)	相場操縦の規制	教科書 p. 185~209 を読んでおくこと。(約60分)
14	デリバティブ取引	デリバティブ取引とは	教科書 p. 210~217 を読んでおくこと。(約60分)
15	まとめ	金融商品取引法の総括	これまで学習した箇所を見直すこと。(約5時間)

関連科目	会社法
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる金融商品取引法(第4版)	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(70%)。その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する(30%)。
----------	---

学生へのメッセージ	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。また、金融商品取引法に関連する新聞記事を読んでおくことよ。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	小テストは、当該授業または次の授業で解説する。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。
----	--

科目名	金融論	科目名(英文)	Money and Banking
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀 篤史
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	グローバル化の中で、金融システムは刻々と変化しています。この授業では金融システムの現状だけでなく、そのあり方についても説明していきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には金融における仕組みについて、経済学のアプローチから理解できるようにする。またこれから変化していく金融について、経済学の立場から自ら考察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。金融論に必要なマクロ・ミクロ経済学の知識は講義の中で適宜説明する。
科目学習の効果(資格)	経済学検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	金融取引の基礎(1)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読む。(2時間)
3	金融取引の基礎(2)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
4	金融取引 金融機関	信用リスクや銀行や証券会社の種類、業務などについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
5	日本型金融システム	日本の金融システムの特徴について説明する。	練習問題を解いておくこと。(1時間)
6	金融システムの設計(1)	情報の非対称性の問題について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
7	金融システムの設計(2)	スクリーニング機能やモニタリング機能について説明する。	練習問題を解いておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(2時間)
8	確認テスト 金融政策の理論(1)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読んでおく。(2時間)
9	金融政策の理論(2)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	練習問題を解いておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
10	金融政策の理論(3)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
11	金融政策運営(1)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
12	金融政策運営(2)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
13	グローバル経済における金融政策	外国為替市場について概観し、変動相場制における金融政策について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。(1時間)
14	ファイナンスの基礎	デリバティブやオプションの基本的な仕組みについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。(1時間)
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1時間)

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融論をつかむ	前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清	有斐閣
2	現代金融論	塩澤修平	創文社	
3				

評価方法(基準)	確認テストと期末テストで評価する。(確認テスト20% 期末テスト80%)
学生へのメッセージ	経済学の他の科目と同様に、金融論も積み重ねが大事です。毎回出席することが不可欠です。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	確認テストの正解は次の回の授業で解説する。

科目名	金融論	科目名(英文)	Money and Banking
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3081a0		

授業概要・目的	グローバル化の中で、金融システムは刻々と変化しています。この授業では金融システムの現状だけでなく、そのあり方についても説明していきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には金融における仕組みについて、経済学のアプローチから理解できるようにする。またこれから変化していく金融について、経済学の立場から自ら考察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。金融論に必要なマクロ・ミクロ経済学の知識は講義の中で適宜説明する。
科目学習の効果(資格)	経済学検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	金融論で何を学ぶのかを説明する。	
2	金融取引の基礎(1)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読む。(2時間)
3	金融取引の基礎(2)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
4	金融取引 金融機関	信用リスクや銀行や証券会社の種類、業務などについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
5	日本型金融システム	日本の金融システムの特徴について説明する。	練習問題を解いておくこと。(1時間)
6	金融システムの設計(1)	情報の非対称性の問題について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
7	金融システムの設計(2)	スクリーニング機能やモニタリング機能について説明する。	練習問題を解いておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(2時間)
8	確認テスト 金融政策の理論(1)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読んでおく。(2時間)
9	金融政策の理論(2)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	練習問題を解いておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
10	金融政策の理論(3)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
11	金融政策運営(1)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
12	金融政策運営(2)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
13	グローバル経済における金融政策	外国為替市場について概観し、変動相場制における金融政策について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。(1時間)
14	ファイナンスの基礎	デリバティブやオプションの基本的な仕組みについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。(1時間)
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1時間)

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融論をつかむ	前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清	有斐閣
2	現代金融論	塩澤修平	創文社
3			

評価方法(基準)	確認テストと期末テストで評価する。(確認テスト20% 期末テスト80%)
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	経済学の他の科目と同様に、金融論も積み重ねが大事です。毎回出席することが不可欠です。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	確認テストの正解は次の回の授業で解説する。
----	-----------------------

科目名	グローバル社会とスポーツ	科目名(英文)	Global Society and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3093a0		

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点からの確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	スポーツに関する社会的な知識を身につけることが可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
	2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
	3	スポーツ人口の構造(1)	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
	4	スポーツ人口の構造(2)	年齢別、性別スポーツ参加状況	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
	5	少子・高齢化とスポーツ(1)	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
	6	少子・高齢化とスポーツ(2)	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
	7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
	8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加、および習熟度を確認するための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
	9	スポーツの社会的基盤(1) - 諸外国とわが国との比較検討 -	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
	10	スポーツの社会的基盤(2) - 諸外国とわが国との比較検討 -	企業および民間クラブ	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
	11	スポーツと社会化(1)	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
	12	スポーツと社会化(2)	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
	13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
	14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
	15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目	地域とスポーツ等
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
-----------	---------------

担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
----------	---------------

備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。
----	--

科目名	グローバル社会論	科目名(英文)	Global Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3069a0		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバル化”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバル化”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、グローバル化を迎えた現代世界の構造の政治経済的な要因を、欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶとともに、近年特に問題視されている人の移動の激化や、そのほかのグローバル化の具体的な現状を統計資料などによって学び、現代世界をより一層深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う。また必要に応じて、ワークブック形式のレジュメや参考資料を配布するが、しっかり聴講して必要であればノートをとる（あるいはレジュメなどに書き加える）ように心がけてほしい。
科目学習の効果(資格)	国際社会の現況およびその背景的要因を知ることで、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明(進め方、評価方法など)、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。(事後学習1時間)
2	“グローバル化”とは	基礎的な概念の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
3	グローバル化の経緯(1)	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明(1)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
4	グローバル化の経緯(2)	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明(2)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
5	グローバル化の経緯(3)	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進(1)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。(事後学習1時間)
6	グローバル化の経緯(4)	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進(2)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
7	戦後のグローバル化の展開(1)	国際分業の拡大・相互依存の浸透	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
8	戦後のグローバル化の展開(2)	南北問題の顕在化と深刻化	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
9	戦後のグローバル化の展開(3)	新自由主義の浸透とそれへの反発	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
10	人のグローバル化(1)	第二次世界大戦までの人の移動の歴史を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習2時間)
11	人のグローバル化(2)	第2次世界大戦後の人の移動の歴史を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。(事後学習2時間)
12	人のグローバル化(3)	深刻化する現代の移民・難民問題を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習2時間)
13	データでみるグローバル化の現状(1)	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
14	データでみるグローバル化の現状(2)	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、全15回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。(事後学習8時間)

関連科目 政治・国際関係に関連する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験の点数（90%）と講義内作成レポートの提出（2回計10%）の合計の成績によって評価する。
学生への メッセージ	私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。
担当者の 研究室等	11号館10階 河原教授室
備考	第1回目のレポートについては、次の回の講義で結果の解説を行う。第2回目のレポートについては、ポータルサイトで結果の解説を行うとともに、質問者に対しては、SHの時間に対応する。

科目名	経済刑法	科目名(英文)	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・経済犯罪とは何かを説明できる ・論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法(有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい)を必ず参照すること。
科目学習の効果(資格)	・ビジネス科目ともいうべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業実務、行政実務及び警察実務においてすぐにでも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法の基礎理論(復習) 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	・教科書の入手 事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第1章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
2	経済刑法と刑罰	・法人の刑事責任 ・両罰規定 ・自由刑と罰金刑の併科 ・行政処分と刑罰の併科	事前:教科書第3章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第3章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
3	経済犯罪の国際化	・経済のグローバル化 ・国際経済犯罪 ・国際法上の経済犯罪 ・国内犯と国外犯 ・代理処罰	事前:教科書第6章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第6章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
4	マネー・ロンダリング	・マネーロンダリングの意義 ・やみ金融と組織犯罪処罰法 ・犯罪収益移転防止法	事前:教科書第9章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第9章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
5	経済犯罪の監視と捜査	・公正取引委員会 ・証券取引等監視委員会 ・捜索と差押え、逮捕と勾留 ・個別法の犯則調査	事前:教科書第11章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:11章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
6	会社法上の罰則	・会社法の目的 ・特別背任罪 ・預金の罪 ・取締役等の贈賄罪 ・利益供与の罪	事前:教科書第13章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第13章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
7	証券取引をめぐる犯罪	・金融商品取引法の目的 ・不正取引の禁止 ・風説の流布 ・相場操縦 ・インサイダー取引 ・損失補填	事前:教科書第14章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第14章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
8	独禁法違反の犯罪 破産犯罪	・独禁法の目的 ・不当な取引制限 ・入札談合 ・破産法の目的 ・倒産処理と犯罪 ・詐欺破産罪	事前:教科書第15章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第15章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
9	民事執行制度をめぐる犯罪	・民事執行制度の趣旨 ・執行妨害の罪	事前:教科書第17章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第17章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
10	悪質商法と消費者保護	・消費者保護法制 ・ネズミ講とマルチ商法 ・預託商法 ・靈感商法 ・内職商法 ・催眠商法 ・点検商法と次々商法	事前:教科書第18章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第18章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
11	欠陥商品・不当表示をめぐる犯罪	・不法行為法と製造物責任法 ・過失犯と製造物責任 ・食品と不当表示 ・不正競争防止法	事前:教科書第20章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第20章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
12	補助金と公的資金の不正受給 政官財の癒着と賄賂罪	・補助金適正化法上の犯罪 ・賄賂 ・公職選挙法違反	事前:教科書第21章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第21章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
13	脱税	・租税犯罪の意義 ・租税は脱税の既遂時期 ・重加算税と二重処罰の問題	事前:教科書第23章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第23章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)

	14	カード犯罪 コンピュータ犯罪	・カードの不正使用 ・スキミング ・不正アクセス	事前:教科書第25章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第25章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
	15	情報の刑法的保護	・企業秘密の漏示 ・偽ブランド商品と知的財産の保護	事前:教科書第27章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第27章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新経済刑法入門(第2版)	神山 敏雄ほか	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法からみた企業法務	佐久間 修	中央経済社
	2	経済刑法	山口厚/編著	商事法務
	3	経済刑法	芝原邦爾	岩波書店(岩波新書)
評価方法 (基準)	・定期試験(95%)および講義の理解を試すミニッツペーパー(5%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	・企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。 ・公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭に行う。			

科目名	経済刑法	科目名(英文)	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3026a0		

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・経済犯罪とは何かを説明できる ・論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法(有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい)を必ず参照すること。
科目学習の効果(資格)	・ビジネス科目ともいべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業実務、行政実務及び警察実務においてすぐにでも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法の基礎理論(復習) 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	・教科書の入手 事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第1章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
2	経済刑法と刑罰	・法人の刑事責任 ・両罰規定 ・自由刑と罰金刑の併科 ・行政処分と刑罰の併科	事前:教科書第3章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第3章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
3	経済犯罪の国際化	・経済のグローバル化 ・国際経済犯罪 ・国際法上の経済犯罪 ・国内犯と国外犯 ・代理処罰	事前:教科書第6章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第6章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
4	マネー・ロンダリング	・マネーロンダリングの意義 ・やみ金融と組織犯罪処罰法 ・犯罪収益移転防止法	事前:教科書第9章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第9章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
5	経済犯罪の監視と捜査	・公正取引委員会 ・証券取引等監視委員会 ・捜索と差押え、逮捕と勾留 ・個別法の犯則調査	事前:教科書第11章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:11章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
6	会社法上の罰則	・会社法の目的 ・特別背任罪 ・預金の罪 ・取締役等の贈賄罪 ・利益供与の罪	事前:教科書第13章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第13章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
7	証券取引をめぐる犯罪	・金融商品取引法の目的 ・不正取引の禁止 ・風説の流布 ・相場操縦 ・インサイダー取引 ・損失補填	事前:教科書第14章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第14章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
8	独禁法違反の犯罪 破産犯罪	・独禁法の目的 ・不当な取引制限 ・入札談合 ・破産法の目的 ・倒産処理と犯罪 ・詐欺破産罪	事前:教科書第15章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第15章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
9	民事執行制度をめぐる犯罪	・民事執行制度の趣旨 ・執行妨害の罪	事前:教科書第17章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第17章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
10	悪質商法と消費者保護	・消費者保護法制 ・ネズミ講とマルチ商法 ・預託商法 ・靈感商法 ・内職商法 ・催眠商法 ・点検商法と次々商法	事前:教科書第18章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第18章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
11	欠陥商品・不当表示をめぐる犯罪	・不法行為法と製造物責任法 ・過失犯と製造物責任 ・食品と不当表示 ・不正競争防止法	事前:教科書第20章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第20章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
12	補助金と公的資金の不正受給 政官財の癒着と賄賂罪	・補助金適正化法上の犯罪 ・賄賂 ・公職選挙法違反	事前:教科書第21章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第21章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
13	脱税	・租税犯罪の意義 ・租税は脱税の既遂時期 ・重加算税と二重処罰の問題	事前:教科書第23章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第23章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)

	14	カード犯罪 コンピュータ犯罪	・カードの不正使用 ・スキミング ・不正アクセス	事前:教科書第25章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第25章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
	15	情報の刑法的保護	・企業秘密の漏示 ・偽ブランド商品と知的財産の保護	事前:教科書第27章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:第27章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新経済刑法入門(第2版)	神山 敏雄ほか	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法からみた企業法務	佐久間 修	中央経済社
	2	経済刑法	山口厚/編著	商事法務
	3	経済刑法	芝原邦爾	岩波書店(岩波新書)
評価方法 (基準)	・定期試験(95%)および講義の理解を試すミニッツペーパー(5%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	・企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。 ・公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭に行う。			

科目名	刑事政策	科目名(英文)	Criminal Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3027a0		

授業概要・目的	刑事政策とは、社会現象としての犯罪をあらゆる角度から実証的に検証し、犯罪防止のための対策、刑罰の内容などについて学ぶ学問である。
到達目標	この授業を通じて学生には、刑事政策に関する基本的な知識を修得するとともに、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	●授業方法 下記で指定した参考書をもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。 ●留意点 授業の進行の都合上、授業内容やその順番を若干入れ替えることがある(重要判例が出たり、重大事件が発生したりしたような場合など)。
科目学習の効果(資格)	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役には立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人には必ずどこかで役に立つはずである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
2	伝統的犯罪学について①	犯罪原因論(生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因)について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
3	伝統的犯罪学について②	犯罪原因論(生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因)について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
4	近年の犯罪学について①	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
5	近年の犯罪学について②	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
6	犯罪者処遇について①	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
7	犯罪者処遇について②	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
8	少年事件について①	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
9	少年事件について②	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
10	刑罰について①	刑罰の種類、内容について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
11	刑罰について②	死刑制度について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
12	刑罰について③	死刑制度について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
13	施設内処遇について	刑務所、少年院などにおける処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
14	社会内処遇について	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
15	全体のまとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)

関連科目 刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義、刑事法概論、現代社会と刑事法、経済刑法、地域防犯政策など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事政策(第2版)	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ピギナーズ刑事政策(第3版)	守山正・安部哲夫	成文堂	
3	犯罪白書(各年度版)	法務総合研究所編	法務省	

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	犯罪はなぜ起こるのか、犯罪を防ぐためにはどうしたらよいか、犯罪を行った者の処遇はどうすべきか、などといった問題について、自分なりに検討してみることを勧める。
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
備考	小テストの解説については次回の授業において行う。

科目名	刑事訴訟法	科目名(英文)	Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3029a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的な人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現すること」をその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に講義を行う。
科目学習の効果(資格)	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	捜査とは	捜査の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	2	捜査の方法・実行	任意捜査と強制捜査の区別など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	3	被疑者の逮捕・勾留	逮捕・勾留の要件と手続など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	4	捜索・差押え・検証など	令状主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	5	被疑者側の防御	弁護人選任権、黙秘権、接見交通権など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	6	公訴提起の手続	公訴提起、不起訴処分など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	7	公訴提起の方式	起訴状の記載事項、起訴状一本主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	8	公判のための準備活動	公判準備など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	9	公判期日における手続	公判手続の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	10	証拠法とは	証拠法の概要、証拠能力・証明力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	11	伝聞法則	伝聞法則の意義、例外など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	12	自白法則	自白の証拠能力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	13	違法収集証拠排除法則	証拠排除法則など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	14	裁判	裁判の種類、成立過程など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
	15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)

関連科目 刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事手続法(第7版)	三井誠・酒巻匡	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事訴訟法(第2版)	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
	2	判例教材刑事訴訟法(第5版)	三井誠編	東京大学出版会
	3	刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編	有斐閣

評価方法(基準) 定期試験の成績(80%)と講義中のいずれかの回で行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。

学生へのメッセージ 刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてほしい。

担当者の研究室等 11号館9階 島田准教授室

備考 六法は必携。小テストの解説については次回の授業において行う。

科目名	刑事訴訟法 I	科目名 (英文)	Criminal Procedure I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的な人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に講義を行う。
科目学習の効果 (資格)	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	捜査とは	捜査の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	2	捜査の方法・実行	任意捜査と強制捜査の区別など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	3	被疑者の逮捕・勾留	逮捕・勾留の要件と手続など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	4	捜索・差押え・検証など	令状主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	5	被疑者側の防御	弁護人選任権、黙秘権、接見交通権など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	6	公訴提起の手続	公訴提起、不起訴処分など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	7	公訴提起の方式	起訴状の記載事項、起訴状一本主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	8	公判のための準備活動	公判準備など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	9	公判期日における手続	公判手続の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	10	証拠法とは	証拠法の概要、証拠能力・証明力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	11	伝聞法則	伝聞法則の意義、例外など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	12	自白法則	自白の証拠能力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	13	違法収集証拠排除法則	証拠排除法則など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	14	裁判	裁判の種類、成立過程など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)
	15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと (約1時間)

関連科目 刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義 I・II、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事手続法 (第7版)	三井誠・酒巻匡	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事訴訟法 (第2版)	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
	2	判例教材刑事訴訟法 (第5版)	三井誠編	東京大学出版会
	3	刑事訴訟法判例百選 (第10版)	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編	有斐閣

評価方法 (基準) 定期試験の成績 (80%) と講義中のいずれかの回で行う予定である小テストの成績 (20%) で評価する。

学生へのメッセージ 刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてほしい。

担当者の研究室等 11号館9階 島田准教授室

備考 六法は必携。  
小テストの解説については次回の授業において行う。

科目名	刑事訴訟法応用講義	科目名(英文)	Advanced Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3105a0		

授業概要・目的	我が国の刑事手続に関する応用的問題について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。		
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を有するとともに、そうした知識を活用し、応用的問題に対する解決案を立案できる能力を修得することが期待される。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業方法 教科書及び配布資料を用いて授業を進めていく。</li> <li>●留意点 本授業は「応用講義」であることから、受講生が刑事訴訟法のみならず刑事法全般について基本的知識を修得していることを前提として授業を進めていく。したがって、本授業を受講しようとする学生に対しては、刑事訴訟法や刑法における基本概念を理解していることはもちろんのこと、学説や判例についてもある程度通じていることが要求される。それゆえ、こうしたレベルに達していない学生については、本授業の単位を取得するにあたって相応の努力が必要となることに強く留意されたい。</li> </ul>		
科目学習の効果(資格)	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験など。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明や刑事訴訟法の勉強の仕方など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	2	捜査に関する一般規範	捜査比例の原則、強制処分法定主義、任意捜査の原則、令状主義など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	3	職務質問	所持品検査、自動車検問など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	4	逮捕・勾留①	事件単位の原則、一罪一逮捕一勾留の原則、再逮捕・再勾留の禁止、別件逮捕・勾留など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	5	逮捕・勾留②	前回の続き 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	6	被疑者取調べ	身柄不拘束及び身柄拘束中の被疑者の取調べ 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	7	捜索・押収	捜索・押収に関する諸問題 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	8	その他の捜査方法	写真・ビデオ撮影、GPS装置の使用、おとり捜査、コントロールド・デリヴァリーなど 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	9	公訴提起	訴因、起訴状一本主義、予断排除の原則など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	10	訴因・罰条の変更①	訴因変更の可否・許否・要否など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	11	訴因・罰条の変更②	前回の続き 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	12	証拠の関連性	類似行為の事実の立証、科学的証拠など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	13	伝聞法則	伝聞法則およびその例外など 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	14	違法収集証拠排除法則	排除法則に関する諸問題 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
	15	自白法則	自白法則に関する諸問題 教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること(約1時間)
関連科目	刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	刑事訴訟法(第2版)	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司 有斐閣
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	判例教材刑事訴訟法(第5版)	三井誠編 東京大学出版会
	2	刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編 有斐閣
	3	刑事訴訟法	酒巻匡 有斐閣
評価方法(基準)	定期試験[論述式](90%)、受講態度(10%)		
学生へのメッセージ	上記「関連科目」で示した講義の履修・単位取得の有無は、必ずしも本授業を受講するにあたっての履修条件ではないが、上記「授業方法と留意点」のところでも述べたような理由から、少なくとも刑事訴訟法、刑法総論については履修・単位取得しておくことを強く勧める。		
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室		
備考	講義の際、六法は必携。 授業内容の疑問点について学生から質問があった場合、次回以降の授業の中で適宜解説する。		

科目名	刑事法概論	科目名(英文)	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法学部の専門科目には、「刑法総論」、「刑法各論」、「経済刑法」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」、「現代社会と刑事法」のほか、これらの応用講義が用意されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。</li> <li>・本講義の内容は、この「刑事法」を広い視点から俯瞰ないし概観しようというものである。すなわち、どのような行為をすれば犯罪と刑罰に問われるのかを学ぶ刑事実体法(刑法)、および、刑法の内容を実現させるのに必要な刑事手続法(刑事訴訟法)の解釈論から、刑罰の正当化根拠や効果を学ぶ刑罰論、犯罪者や犯罪被害者をどのように社会で処遇するかという刑事政策、犯罪原因の解明とその対策を講じる犯罪学など、その取り扱う内容は多岐にわたる。</li> <li>・本講義では、刑事法上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることで、刑事法学会の見取り図を得ることを目的とする。</li> </ul>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解できる</li> <li>刑事手続、刑罰制度、犯罪動向の現状、犯罪者処遇、および、被害者救済などの問題点について、基本的な知識を身につけることができる</li> <li>刑法、刑事手続法、刑事学の基本的な考え方に触れ、各分野のしくみ、はたらき、機能などを理解することができる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</li> <li>必要に応じて紙媒体の資料を交付する。</li> <li>・刑事法は近年相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、平成27年版ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)や判例六法(有斐閣)など。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目と、2回生以降で配当される「刑法総論」、「刑法各論」、「刑法応用講義Ⅰ」および「刑法応用講義Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験(大卒)、警視庁警察官採用試験(大卒)、裁判所事務官採用試験で出題される刑法の問題を解けるようになり、得点源とすることができます。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	刑事法とは何か? 刑法、刑事手続法、刑事学の違い	本講義概要の説明 文献紹介	・教科書の入手 事前:刑事法学のあらましをあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑事法学のあらましを見直し、章末問題を解くこと(2時間)
2	刑法①	刑法のあらまし 犯罪についての基本的な考え方 学派の争い	事前:学派の争いをあらかじめ読むこと(2時間) 事後:学派の争いを見直し、章末問題を解くこと(2時間)
3	刑法②	刑法総論 ・犯罪成立要件 刑法各論 ・保護法益による犯罪の分類	事前:刑法総論と刑法各論の箇所をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑法総論と刑法各論の箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
4	刑法③	交通刑法 ・交通刑法の大改正と近年における重罰化傾向の是非	事前:交通刑法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:交通刑法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
5	刑法④	経済刑法 ・自由主義経済体制と経済犯罪の整備	事前:経済刑法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:経済刑法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
6	刑法⑤	刑罰の正当化根拠 ・死刑存廃論	事前:刑罰論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑罰論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
7	刑法⑥	・性犯罪の大改正と残された課題	事前:性犯罪法の改正をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:性犯罪法の改正を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
8	刑法のまとめ	第1回目から第7回目までの重要論点総復習	事前:刑法の項目をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑法の項目を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
9	刑事手続法①	刑事手続法のあらまし 捜査法	事前:捜査法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:捜査法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
10	刑事手続法②	公訴法と公判法	事前:公訴と公判をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:公訴と公判を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
11	刑事手続法③	証拠法	事前:証拠法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:証拠法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
12	刑事学①	犯罪学 ・犯罪原因論 ・女性犯罪 ・老人犯罪 ・少年犯罪	事前:犯罪学をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:犯罪学を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
13	刑事学②	刑事政策 ・犯罪者処遇論	事前:犯罪者処遇論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:犯罪者処遇論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
14	刑事学③	被害者学 ・犯罪被害者支援と修復的司法	事前:被害者学をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:被害者学を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
15	刑事手続法と刑事学のまとめ	第9回目から第14回目までの重要論点総復習	事前:刑事訴訟法と刑事学をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑事訴訟法と刑事学を見直し、章末問題を解くこと(2時間)

				くこと (2時間)
関連科目	刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、現代社会と刑事法、刑事政策、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法 (第6版)	三井誠ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・定期試験 (95%) および講義の理解度を試すミニツペーパー (5%) の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞 (朝刊や夕刊) の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている犯罪記事を読みましょう。</li> <li>・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。</li> <li>・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは講義内容の中身は身につけません。とにかく手を動かしましょう。</li> <li>・公務員を目指している学生がいたら、勉強の仕方など、ご相談に乗りますので、気軽に声をかけてください。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	・講義の理解度を試すミニツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。			

科目名	刑事法概論	科目名(英文)	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1023a0		

授業概要・目的	<p>・法学部の専門科目には、「刑法総論」、「刑法各論」、「経済刑法」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」、「現代社会と刑事法」のほか、これらの応用講義が用意されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。</p> <p>・本講義の内容は、この「刑事法」を広い視点から俯瞰ないし概観しようというものである。すなわち、どのような行為をすれば犯罪と刑罰に問われるのかを学ぶ刑事実体法(刑法)、および、刑法の内容を実現させるのに必要な刑事手続法(刑事訴訟法)の解釈論から、刑罰の正当化根拠や効果を学ぶ刑罰論、犯罪者や犯罪被害者をどのように社会で処遇するかという刑事政策、犯罪原因の解明とその対策を講じる犯罪学など、その取り扱う内容は多岐にわたる。</p> <p>・本講義では、刑事法上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることで、刑事法学会の見取り図を得ることを目的とする。</p>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <p>「・刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解できる</p> <p>・刑事手続、刑罰制度、犯罪動向の現状、犯罪者処遇、および、被害者救済などの問題点について、基本的な知識を身につけることができる</p> <p>・刑法、刑事手続法、刑事学の基本的な考え方に触れ、各分野のしくみ、はたらき、機能などを理解することができる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p> <p>必要に応じて紙媒体の資料を交付する。</p> <p>・刑事法は近年相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、平成27年版ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)や判例六法(有斐閣)など。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>・この科目と、2回生以降で配当される「刑法総論」、「刑法各論」、「刑法応用講義Ⅰ」および「刑法応用講義Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験(大卒)、警視庁警察官採用試験(大卒)、裁判所事務官採用試験で出題される刑法の問題を解けるようになり、得点源とすることができます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	刑事法とは何か? 刑法、刑事手続法、刑事学の違い	本講義概要の説明 文献紹介	・教科書の入手 事前:刑事法学のあらましをあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑事法学のあらましを見直し、章末問題を解くこと(2時間)
2	刑法①	刑法のあらまし 犯罪についての基本的な考え方 学派の争い	事前:学派の争いをあらかじめ読むこと(2時間) 事後:学派の争いを見直し、章末問題を解くこと(2時間)
3	刑法②	刑法総論 ・犯罪成立要件 刑法各論 ・保護法益による犯罪の分類	事前:刑法総論と刑法各論の箇所をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑法総論と刑法各論の箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
4	刑法③	交通刑法 ・交通刑法の大改正と近年における重罰化傾向の是非	事前:交通刑法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:交通刑法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
5	刑法④	経済刑法 ・自由主義経済体制と経済犯罪の整備	事前:経済刑法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:経済刑法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
6	刑法⑤	刑罰の正当化根拠 ・死刑存廃論	事前:刑罰論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑罰論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
7	刑法⑥	・性犯罪の大改正と残された課題	事前:性犯罪法の改正をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:性犯罪法の改正を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
8	刑法のまとめ	第1回目から第7回目までの重要論点総復習	事前:刑法の項目をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑法の項目を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
9	刑事手続法①	刑事手続法のあらまし 捜査法	事前:捜査法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:捜査法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
10	刑事手続法②	公訴法と公判法	事前:公訴と公判をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:公訴と公判を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
11	刑事手続法③	証拠法	事前:証拠法をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:証拠法を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
12	刑事学①	犯罪学 ・犯罪原因論 ・女性犯罪 ・老人犯罪 ・少年犯罪	事前:犯罪学をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:犯罪学を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
13	刑事学②	刑事政策 ・犯罪者処遇論	事前:犯罪者処遇論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:犯罪者処遇論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
14	刑事学③	被害者学 ・犯罪被害者支援と修復的司法	事前:被害者学をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:被害者学を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
15	刑事手続法と刑事学のまとめ	第9回目から第14回目までの重要論点総復習	事前:刑事訴訟法と刑事学をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑事訴訟法と刑事学を見直し、章末問題を解くこと(2時間)

				くこと (2時間)
関連科目	刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、現代社会と刑事法、刑事政策、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法 (第6版)	三井誠ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・定期試験 (95%) および講義の理解度を試すミニツペーパー (5%) の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞 (朝刊や夕刊) の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている犯罪記事を読みましょう。</li> <li>・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。</li> <li>・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは講義内容の中身は身につけません。とにかく手を動かしましょう。</li> <li>・公務員を目指している学生がいれば、勉強の仕方など、ご相談に乗りますので、気軽に声をかけてください。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	・講義の理解度を試すミニツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。			

科目名	刑法応用講義 I	科目名 (英文)	Advanced Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3103a0		

授業概要・目的	2 回生配当の刑法総論において、十分な時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（修正された構成要件論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・未遂犯および共犯の処罰根拠を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法 教科書と配布資料を用いた講義形式を基本とするが、質疑応答や問題演習を随時取り入れる。 留意点 毎回出席することで、問題を解く際の頭の働かせ方を身につけることができる。
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明	教科書の入手 事前：教科書の単独正犯に関する構成要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教科書の単独正犯に関する章末問題を解くこと（2時間）
	2	未遂犯	予備犯と未遂犯 未遂犯の処罰根拠 実行の着手	事前：障害未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：障害未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	3	不能犯	不能犯をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不能犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：不能犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	4	中止未遂	中止未遂をめぐる近時の判例・学説動向	事前：中止未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：中止未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	5	共犯の基礎	狭義の共犯と広義の共犯 共犯の処罰根拠 共犯の従属性	事前：共犯の処罰根拠論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の処罰根拠論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	6	共同正犯 1	実行共同正犯	事前：実行共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：実行共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	7	共同正犯 2	共謀共同正犯	事前：共謀共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共謀共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	8	共同正犯 3	過失の共同正犯	事前：過失の共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：過失の共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	9	教唆犯と幫助犯	狭義の共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：教唆犯と幫助犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教唆犯と幫助犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	10	共犯をめぐる諸問題 1	片面的共犯と承継的共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：片面的共犯と承継的共犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：片面的共犯と承継的共犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	11	共犯をめぐる諸問題 2	共犯関係からの離脱・共犯の中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯からの離脱と共犯の中止をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯からの離脱と共犯の中止を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	12	共犯をめぐる諸問題 3	共犯の錯誤、共犯と緊急行為をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯の錯誤をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の錯誤を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	13	共犯と身分	共犯と身分をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯と身分をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯と身分を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	14	罪数	一罪と数罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪 併合罪	事前：罪数論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：罪数論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	15	講義のまとめ	重要事項の総復習	事前：未遂犯論と共犯論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：未遂犯論と共犯論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法総論（第2版）	佐久間 修	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法総論（第5版）	大谷 實	成文堂
	2	判例集および補助教材について開講時に指示する		
	3			
評価方法 (基準)	・定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	・講義の理解度を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。			

科目名	刑法応用講義Ⅱ	科目名(英文)	Advanced Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3104a0		

授業概要・目的	2 回生後期配当の刑法各論において十分に時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点(財産犯論)について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験(裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員)、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・各種の財産犯について、その共通点と相違点を説明できる ・財産犯をテーマとした事例における論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる財産犯に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法 教科書と配布資料を用いた講義形式を基本とするが、質疑応答や問題演習を随時取り入れる。 留意点 毎回出席することで、問題を解く際の頭の働かせ方を身につけることができる。
科目学習の効果(資格)	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を手入しておくこと。 事前: 刑法各論の概要と保護法益論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 刑法各論の概要と保護法益論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
2	財産犯総論	財産犯の分類 財物の意義 財産上の利益	事前: 財産犯総論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 財産犯総論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
3	窃盗罪1	窃取の意義	事前: 窃取の意義をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 窃取の意義を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
4	窃盗罪2	不法領得の意思 窃盗罪をめぐる近時の判例・学説動向	事前: 不法領得の意思をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 不法領得の意思を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
5	強盗罪1	強盗の要件	事前: 強盗の要件論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 強盗の要件論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
6	強盗罪2	事後強盗をめぐる近時の学説・判例動向	事前: 事後強盗をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 事後強盗を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
7	強盗罪3	強盗殺人・強盗致死罪ほか	事前: 強盗殺人をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 強盗殺人を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
8	詐欺罪1	詐欺罪の要件	事前: 詐欺罪の要件論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 詐欺罪の要件論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
9	詐欺罪2	詐欺罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前: 詐欺罪の学説動向をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 詐欺罪の学説動向を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
10	恐喝罪	恐喝罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前: 恐喝罪の要件をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 恐喝罪の要件を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
11	横領罪	横領罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前: 横領罪の要件をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 横領罪の要件を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
12	背任罪	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前: 背任罪の要件をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 背任罪の要件を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
13	横領と背任の区別	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向 横領と背任の区別	事前: 横領と背任の区別をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 横領と背任区別を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
14	盗品等関与罪 器物損壊罪ほか	盗品等関与罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前: 盗品等関与罪をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 盗品等関与罪を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
15	まとめ	重要事項の総復習	事前: 財産犯論全体をあらかじめ読むこと(2時間) 事後: 財産犯論全体を見直し、章末問題を解くこと(2時間)

関連科目	・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など ・財産犯の理解には、民法の知識が必要である。 とくに、典型担保、非典型担保、債権総論、契約法、不当利得については本学で開講されている民法諸科目を履修していることが望ましい。								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	刑法各論（第2版）	佐久間 修	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法各論（第5版）	大谷 實	成文堂
	2	判例集および補助教材について開講時に指示する		
	3			
評価方法 （基準）	・定期試験（95%）および講義の理解度を試すミニツツペーパー（5%）の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法各論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	・講義の理解度を試すミニツツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。			

科目名	刑法各論	科目名(英文)	Criminal Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2025a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。</li> <li>刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。</li> <li>刑法各論は、個別の犯罪を考察対象とするため、具体的な議論が多い。</li> </ul> <p>そのため、初学者にはやや学問としての体系的性がつかみづらく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて体系的に解説する。</p>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「個別犯罪における保護法益を説明できる</li> <li>個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解できる</li> <li>刑法各論をテーマとした事例における論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説の見解の内容を説明できる</li> <li>各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</li> <li>講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けたい。</li> <li>近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法(有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい)を必ず持参すること。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験(大卒)、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法各論と刑法学	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と文献紹介</li> <li>刑法各論の意義</li> <li>犯罪の処罰根拠と保護法益</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前：序章をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：犯罪の処罰根拠と保護法益の関係性を見直し、ノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
2	生命・身体に対する罪1	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の始期と終期</li> <li>殺人の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「殺人の罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第1章「殺人の罪」を見直し、章末の「殺人の罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
3	生命・身体に対する罪2	<ul style="list-style-type: none"> <li>傷害の罪</li> <li>過失傷害の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「傷害の罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第1章「傷害の罪」を見直し、章末の「傷害の罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
4	生命・身体に対する罪3	<ul style="list-style-type: none"> <li>堕胎の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「堕胎の罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第1章「堕胎の罪」を見直し、章末の「堕胎の罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
5	生命・身体に対する罪4	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺棄の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「遺棄の罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第1章「遺棄の罪」を見直し、章末の「遺棄の罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
6	自由・私生活の平穏に対する罪1	<ul style="list-style-type: none"> <li>逮捕、監禁の罪</li> <li>脅迫の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「逮捕・監禁・脅迫の罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第2章「逮捕・監禁・脅迫の罪」を見直し、章末の「逮捕・監禁・脅迫の罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
7	自由・私生活の平穏に対する罪2	<ul style="list-style-type: none"> <li>略取、誘拐および人身売買の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「略取、誘拐および人身売買の罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第2章「略取、誘拐および人身売買の罪」を見直し、章末の「略取、誘拐および人身売買の罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
8	自由・私生活の平穏に対する罪3	<ul style="list-style-type: none"> <li>性的自由に対する罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「性的自由に対する罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第2章「性的自由に対する罪」を見直し、章末の「性的自由に対する罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
9	自由・私生活の平穏に対する罪4 名誉と信用に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>住居を侵す罪</li> <li>業務に対する罪</li> <li>秘密を侵す罪</li> <li>名誉と信用に対する罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「住居を侵す罪」および第3章「名誉に対する罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1部第2章「住居を侵す罪」および第3章「名誉に対する罪」を見直し、章末の「住居を侵す罪」および「名誉に対する罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
10	個人的法益に対する罪(財産犯を除く)のまとめ	第1回から第9回までの重要論点を総復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：序章から第1部第3章までの内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：序章から第1部第3章までの内容を見直し、序章から第3章までの末尾の問題を見直すこと(2時間)</li> </ul>
11	公共の安全に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>放火、失火の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第2部第1章「放火の罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第2部第1章「放火の罪」を見直し、章末の「放火の罪」に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
12	風俗に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>死体損壊等の罪</li> <li>賭博に関する罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第2部第4章「風俗に対する罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第2部第4章「風俗に対する罪」を見直し、</li> </ul>

				章末の「風俗に対する罪」に関する問題を解くこと (2時間)																
	13	国家作用に対する罪 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務の執行を妨害する罪</li> <li>犯人蔵匿の罪</li> <li>証拠隠滅の罪</li> <li>虚偽告訴の罪</li> </ul>	事前：第3部第2章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」をあらかじめ読むこと (2時間) 事後：第3部第2章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」を見直し、章末の「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」に関する問題を解くこと (2時間)																
	14	国家作用に対する罪 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚職の罪</li> </ul>	事前：第3部第2章「汚職の罪」をあらかじめ読むこと (2時間) 事後：第3部第2章「汚職の罪」を見直し、章末の「汚職の罪」に関する問題を解くこと (2時間)																
	15	社会的法益および国家的法益に対する罪 (財産犯を除く) のまとめ	第10回から第14回までの重要論点を総復習	事前：第7章までの内容をあらかじめ読むこと (2時間) 事後：第7章までの内容を見直し、章末問題を見直すこと (2時間)																
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法各論 (第5版)</td> <td>大谷 實</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法各論 (第5版)	大谷 實	成文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	刑法各論 (第5版)	大谷 實	成文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に各種判例・補助教材を紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 (95%) および講義の理解度を試すミニツッペーパー (5%) の合計によって評価する。</li> </ul>																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。</li> <li>問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。</li> <li>問題集は開講時に紹介します。</li> <li>公務員 (地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官) 試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。</li> <li>総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。</li> <li>新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</li> </ul>																			
担当者の研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	個人的法益に対する罪のうち、財産犯 (財産犯総論、窃盗、強盗、詐欺、恐喝、横領、背任、盗品等関与、器物損壊などの罪) については刑法応用講義Ⅱで取り扱う。 講義の理解度を試すミニツッペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。																			

科目名	刑法各論 I	科目名 (英文)	Applied Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。</li> <li>・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。</li> <li>・刑法各論は、個別の犯罪を考察対象とするため、具体的な議論が多い。</li> </ul> <p>そのため、初学者にはやや学問としての体系的性がつかみづらく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて体系的に解説する。</p>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「個別犯罪における保護法益を説明できる</li> <li>・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解できる</li> <li>・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる</li> <li>・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として講義形式で行うが、教員から的一方通的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニツペーパーを通じて行う。</li> <li>・講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けたい。</li> <li>・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法各論と刑法学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・刑法各論の意義</li> <li>・犯罪の処罰根拠と保護法益</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の入手</li> <li>事前：序章をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：犯罪の処罰根拠と保護法益の関係性を見直し、ノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
2	生命・身体に対する罪 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の始期と終期</li> <li>・殺人の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「殺人の罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第1章「殺人の罪」を見直し、章末の「殺人の罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
3	生命・身体に対する罪 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷害の罪</li> <li>・過失傷害の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「傷害の罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第1章「傷害の罪」を見直し、章末の「傷害の罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
4	生命・身体に対する罪 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堕胎の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「堕胎の罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第1章「堕胎の罪」を見直し、章末の「堕胎の罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
5	生命・身体に対する罪 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺棄の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第1章「遺棄の罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第1章「遺棄の罪」を見直し、章末の「遺棄の罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
6	自由・私生活の平穏に対する罪 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逮捕、監禁の罪</li> <li>・脅迫の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「逮捕・監禁・脅迫の罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第2章「逮捕・監禁・脅迫の罪」を見直し、章末の「逮捕・監禁・脅迫の罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
7	自由・私生活の平穏に対する罪 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・略取、誘拐および人身売買の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「略取、誘拐および人身売買の罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第2章「略取、誘拐および人身売買の罪」を見直し、章末の「略取、誘拐および人身売買の罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
8	自由・私生活の平穏に対する罪 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性的自由に対する罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「性的自由に対する罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第2章「性的自由に対する罪」を見直し、章末の「性的自由に対する罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
9	自由・私生活の平穏に対する罪 4 名誉と信用に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居を侵す罪</li> <li>・業務に対する罪</li> <li>・秘密を侵す罪</li> <li>・名誉と信用に対する罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1部第2章「住居を侵す罪」および第3章「名誉に対する罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1部第2章「住居を侵す罪」および第3章「名誉に対する罪」を見直し、章末の「住居を侵す罪」および「名誉に対する罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
10	個人的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第1回から第9回までの重要論点を総復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：序章から第1部第3章までの内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：序章から第1部第3章までの内容を見直し、序章から第3章までの末尾の問題を見直すこと（2時間）</li> </ul>
11	公共の安全に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放火、失火の罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第2部第1章「放火の罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第2部第1章「放火の罪」を見直し、章末の「放火の罪」に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
12	風俗に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死体損壊等の罪</li> <li>・賭博に関する罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第2部第4章「風俗に対する罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第2部第4章「風俗に対する罪」を見直し、</li> </ul>

				章末の「風俗に対する罪」に関する問題を解くこと (2時間)
	13	国家作用に対する罪 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務の執行を妨害する罪</li> <li>犯人蔵匿の罪</li> <li>証拠隠滅の罪</li> <li>虚偽告訴の罪</li> </ul>	事前：第3部第2章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」をあらかじめ読むこと (2時間) 事後：第3部第2章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」を見直し、章末の「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」に関する問題を解くこと (2時間)
	14	国家作用に対する罪 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚職の罪</li> </ul>	事前：第3部第2章「汚職の罪」をあらかじめ読むこと (2時間) 事後：第3部第2章「汚職の罪」を見直し、章末の「汚職の罪」に関する問題を解くこと (2時間)
	15	社会的法益および国家的法益に対する罪 (財産犯を除く) のまとめ	第10回から第14回までの重要論点を総復習	事前：第7章までの内容をあらかじめ読むこと (2時間) 事後：第7章までの内容を見直し、章末問題を見直すこと (2時間)
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法各論 (第5版)	大谷 實	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 (95%) および講義の理解度を試すミニツッペーパー (5%) の合計によって評価する。</li> </ul>			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。</li> <li>問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。</li> <li>問題集は開講時に紹介します。</li> <li>公務員 (地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官) 試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。</li> <li>総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。</li> <li>新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</li> </ul>			
担当者の研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	個人的法益に対する罪のうち、財産犯 (財産犯総論、窃盗、強盗、詐欺、恐喝、横領、背任、盗品等関与、器物損壊などの罪) については刑法応用講義Ⅱで取り扱う。 講義の理解度を試すミニツッペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。			

科目名	刑法総論	科目名(英文)	Criminal Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2024a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探究する学問である。</li> <li>刑法総論では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。</li> <li>刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。</li> <li>そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。</li> </ul>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる</li> <li>刑法総論をテーマとした事例における論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる</li> <li>各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</li> <li>講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けたい。</li> <li>近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法(有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい)を必ず持参すること。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験(大卒)、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と文献紹介</li> <li>刑法の意義</li> <li>刑法の機能</li> <li>刑法学とは何か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前:第1章「刑法と刑法学」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第1章を読み直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典学派と近代学派</li> <li>わが国の刑法思想と刑法学</li> <li>刑法の基礎理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第2章「刑法の基礎」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第2章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
3	刑法の法源と解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>罪刑法定主義</li> <li>刑法の法源</li> <li>刑法の解釈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第3章「刑法の法源と解釈」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第3章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪の概念</li> <li>犯罪論の体系</li> <li>刑法上の行為</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第4章「刑法の基本概念」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第4章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
5	構成要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成要件の概念</li> <li>構成要件要素</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第5章「構成要件」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第5章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
6	構成要件該当性1	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行行為とは何か</li> <li>実行行為の客観面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第6章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第6章のうち、「実行行為の客観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の客観面に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
7	構成要件該当性2	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行行為の主観面 (構成要件の故意と構成要件の錯誤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第6章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第6章のうち、「実行行為の主観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の主観面に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
8	構成要件該当性3	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑法上の因果関係論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第6章「構成要件該当性」のうち、因果関係に関する内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第6章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
9	構成要件該当性のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成要件該当性に関する重要論点の総復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第1章から第6章までの内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第1章から第6章までの末尾の問題を見直すこと(2時間)</li> </ul>
10	違法性阻却事由1	<ul style="list-style-type: none"> <li>違法性とは何か</li> <li>正当行為と正当業務行為</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第7章「違法性阻却事由」のうち、正当行為の内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第7章「違法性阻却事由」のうち、正当行為部分を見直し、章末問題のうち、正当行為に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
11	違法性阻却事由2	<ul style="list-style-type: none"> <li>正当防衛</li> <li>過剰防衛</li> <li>誤想(過剰)防衛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第7章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為の内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第7章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為部分を見なおし、章末問題のうち、防衛行為に関する問題を解くこと(2時間)</li> </ul>
12	違法性阻却事由3	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急避難</li> <li>過剰避難</li> <li>誤想(過剰)避難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:第7章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難の内容をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:第7章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難</li> </ul>

			・超法規的違法性阻却事由	部分を見直し、章末問題のうち、緊急避難に関する問題を解くこと（2時間）
	13	責任阻却事由1	・責任とは何か ・責任能力	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容を見直し、章末問題のうち、責任能力に関する問題を解くこと（2時間）
	14	責任阻却事由2	・違法性の意識とその可能性 ・期待可能性	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性の内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章末尾の問題のうち、違法性の意識と期待可能性に関する問題を解くこと（2時間）
	15	違法性および責任阻却事由のまとめ	違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性部分を見直すこと（2時間） 事後：章末問題を見直すこと（2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法総論（第5版）	大谷 實	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・定期試験（95%）および講義の理解度を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。</li> <li>・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。</li> <li>・問題集は開講時に紹介します。</li> <li>・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。</li> <li>・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。</li> <li>・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	修正された構成要件論（未遂犯と共犯）、罪数論、刑罰の正当化根拠、および刑法の適用範囲については刑法応用講義Ⅰで取り扱う。 講義の理解度を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。			

科目名	刑法総論 I	科目名 (英文)	Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探究する学問である。</li> <li>刑法総論では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。</li> <li>刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。</li> <li>そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。</li> </ul>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる</li> <li>刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる</li> <li>各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</li> <li>講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けたい。</li> <li>近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と文献紹介</li> <li>刑法の意義</li> <li>刑法の機能</li> <li>刑法学とは何か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前：第1章「刑法と刑法学」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1章を読み直し、章末問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典学派と近代学派</li> <li>わが国の刑法思想と刑法学</li> <li>刑法の基礎理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第2章「刑法の基礎」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第2章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
3	刑法の法源と解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>罪刑法定主義</li> <li>刑法の法源</li> <li>刑法の解釈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第3章「刑法の法源と解釈」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第3章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪の概念</li> <li>犯罪論の体系</li> <li>刑法上の行為</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第4章「刑法の基本概念」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第4章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
5	構成要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成要件の概念</li> <li>構成要件要素</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第5章「構成要件」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第5章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
6	構成要件該当性 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行行為とは何か</li> <li>実行行為の客観面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第6章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第6章のうち、「実行行為の客観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の客観面に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
7	構成要件該当性 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行行為の主観面 (構成要件の故意と構成要件の錯誤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第6章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第6章のうち、「実行行為の主観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の主観面に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
8	構成要件該当性 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑法上の因果関係論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第6章「構成要件該当性」のうち、因果関係に関する内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第6章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
9	構成要件該当性のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成要件該当性に関する重要論点の総復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第1章から第6章までの内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第1章から第6章までの末尾の問題を見直すこと（2時間）</li> </ul>
10	違法性阻却事由 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>違法性とは何か</li> <li>正当行為と正当業務行為</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第7章「違法性阻却事由」のうち、正当行為の内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第7章「違法性阻却事由」のうち、正当行為部分を見直し、章末問題のうち、正当行為に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
11	違法性阻却事由 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>正当防衛</li> <li>過剰防衛</li> <li>誤想（過剰）防衛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第7章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為の内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第7章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為部分を見なおし、章末問題のうち、防衛行為に関する問題を解くこと（2時間）</li> </ul>
12	違法性阻却事由 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急避難</li> <li>過剰避難</li> <li>誤想（過剰）避難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：第7章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難の内容をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：第7章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難</li> </ul>

			・超法規的違法性阻却事由	部分を見直し、章末問題のうち、緊急避難に関する問題を解くこと（2時間）
	13	責任阻却事由1	・責任とは何か ・責任能力	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容を見直し、章末問題のうち、責任能力に関する問題を解くこと（2時間）
	14	責任阻却事由2	・違法性の意識とその可能性 ・期待可能性	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性の内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章末尾の問題のうち、違法性の意識と期待可能性に関する問題を解くこと（2時間）
	15	違法性および責任阻却事由のまとめ	違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性部分を見直すこと（2時間） 事後：章末問題を見直すこと（2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法総論（第5版）	大谷 實	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・定期試験（95%）および講義の理解度を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。</li> <li>・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。</li> <li>・問題集は開講時に紹介します。</li> <li>・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。</li> <li>・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。</li> <li>・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	修正された構成要件論（未遂犯と共犯）、罪数論、刑罰の正当化根拠、および刑法の適用範囲については刑法応用講義Ⅰで取り扱う。 講義の理解度を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。			

科目名	現代社会と刑事法	科目名(英文)	Modern Society and the Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3028a0		

授業概要・目的	本授業では、現代社会におけるさまざまな社会問題に対して刑事法がどのように関わっているのかについて、事例や判例、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、現代社会における刑事法の役割、関わり方などについて、基本的な知識を修得するとともに、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	●授業方法 下記で示した参考書をもとに作成したレジュメを中心に講義を行うが、テーマによってはPowerPointや視聴覚教材を使用する。 講義の進め方は、各回につき一つのテーマについて解説してイオムニバス形式で行う予定。 ●留意点 授業の進行の都合上、授業内容やその順番を若干入れ替えることがある(重要判例が出たり、重大事件が発生したりしたような場合など)。
科目学習の効果(資格)	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人には必ずどこかで役に立つはずである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
2	少年事件報道について①	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
3	少年事件報道について②	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
4	少年非行について①	少年非行の原因について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
5	少年非行について②	非行少年の更生について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
6	犯罪被害者について	犯罪被害者の保護などに関する法制度などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
7	障害者による犯罪について	障害者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
8	性犯罪について	性犯罪の概況とその対策及び性犯罪に関する近時の法改正について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
9	ストーカー犯罪について	ストーカー犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
10	高齢者犯罪について	高齢者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
11	交通犯罪について	交通犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
12	冤罪事件について	冤罪事件の紹介、冤罪の発生原因などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
13	時事問題について①	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
14	時事問題について②	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)

関連科目 刑事政策、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法応用講義、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、経済刑法、地域防犯政策など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策(第2版)	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策(第3版)	守山正・安部哲夫	成文堂
3	犯罪白書(各年度版)	法務総合研究所編	法務省

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	現代においては、さまざまな社会問題が発生しているが、その解決方法は必ずしもひとつでなく、そうした社会問題に対して、刑事法の視点から、そのメリット・デメリット、その限界などを踏まえた上で、自分なりにいろいろ考えて「説得力のある」解決方法を探し出してみたい。
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
備考	小テストの解説については次回の授業において行う。

科目名	憲法 I (基本的人権)	科目名 (英文)	Constitutional Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2016a0		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学んでもらいます。個別の人権規定についての理解が深まる。 「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておくことが望ましいです。
到達目標	この授業を通じて学生には、「憲法概論」で学んだ人権の総論的な考え方を、個別の人権条項についての各論に反映させて理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。詳細は初回配布のプリントに記載してありますので初回は必ず出席するようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・内心の自由	講義概要の説明と精神的自由の基礎となる思想・良心の自由について学ぶ	予習：教科書の目次を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
2	信教の自由	宗教に関する個人の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
3	政教分離	日本国憲法における国家と宗教の関係について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
4	表現の自由 (1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
5	表現の自由 (2)	報道の自由・インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
6	表現の自由 (3)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
7	学問の自由	先端科学技術と学問の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
8	経済的自由 (1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
9	経済的自由 (2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
10	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
11	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。
15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的な権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく (20 分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる (60 分)。

関連科目	憲法概論、憲法 II その他あらゆる法律科目。憲法概論とは内容的な連続性もあります。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	複数回の課題 (30%)、定期試験 (70%) により評価します。
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	憲法概論も履修しておいてください。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室
----------	------------------

備考	「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておいてください。確認ペーパーの解答については次回講義にて解説を行います。 (参考) 2018 年度は A 評価 9 名、B 評価 22 名、C 評価 32 名、D 評価 63 名、E 評価以下 29 名でした (定期試験受験者のみ)。
----	---

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ（基本的人権）で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけでなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書、配布資料、板書を用いた講義形式で授業を行っていきます。講義中に受講者に質問することもあります。
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
9	平和主義(1)	・憲法9条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)

関連科目 行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新・エッセンス憲法	安藤高行編	法律文化社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法（基準） 試験・課題・平常点などにより評価します。課題点30%、期末試験70%となります。

学生へのメッセージ 基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。

担当者の研究室等 11号館9階 浮田准教授室

備考 確認ペーパーの解答については次回講義冒頭にて解説します。  
(参考)2018年度はA評価7人、B評価19人、C評価51人、D評価41人、E評価以下30人でした。

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2017a0		

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ（基本的人権）で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけでなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書、配布資料、板書を用いた講義形式で授業を行っていきます。講義中に受講者に質問することもあります。
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
9	平和主義(1)	・憲法9条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）
15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う（60分）

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新・エッセンス憲法</td> <td>安藤高行編</td> <td>法律文化社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新・エッセンス憲法	安藤高行編	法律文化社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	新・エッセンス憲法	安藤高行編	法律文化社						
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									
評価方法（基準）	試験・課題・平常点などにより評価します。課題点30%、期末試験70%となります。								
学生へのメッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。								
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室								
備考	確認ペーパーの解答については次回講義冒頭にて解説します。 (参考)2018年度はA評価7人、B評価19人、C評価51人、D評価41人、E評価以下30人でした。								

科目名	憲法応用講義	科目名(英文)	Advanced Lecture of Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3097a0		

授業概要・目的	憲法概論、憲法 I(基本的人権)、憲法 II(統治機構)の履修を前提として、憲法のさらなる発展的な理解を得ることを目的とします。取り扱う領域は基本的人権が中心となります。
到達目標	日本及び外国の判例を素材として、講義形式での解説、学生による報告を中心に行います。
授業方法と留意点	この授業を通じて学生には、外国の憲法の考え方と比較しつつ日本の憲法理論の理解を深められるようになることが期待される。
科目学習の効果(資格)	講義、報告、議論を中心に行います。少人数を想定しています。履修ガイダンスで確認してください。
	科目に憲法が設定されている資格試験に対応する力をつけます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	概要の説明、報告担当の決定など	なし	課題ペーパー(90分)
2	人権総論	人権理論の復習と解説	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
3	裁判所による違憲審査について	アメリカ型の違憲審査基準とドイツにおける三段階審査の比較など	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
4	個人の尊厳(1)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
5	個人の尊厳(2)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
6	法の下平等(1)	法の下平等に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
7	法の下平等(2)	差別的取扱いに関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
8	婚姻・家族に関する保護と権利	婚姻の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
9	表現の自由(1)	意見表明の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
10	表現の自由(2)	報道機関の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
11	信教の自由	信教の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
12	職業の自由(1)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
13	職業の自由(2)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
14	財産権(1)	所有権に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)
15	財産権(2)	公用収容に関する判例について報告・解説・議論を行う	配布プリントを読む(20分)	課題ペーパー(90分)

関連科目 憲法概論、憲法 I(基本的人権)、憲法 II(統治機構)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 課題ペーパー(30%)、レポート(70%)により評価します。

学生へのメッセージ 内容は難しくなりますが頑張らしましょう。

担当者の研究室等 11号館9階 浮田准教授室

備考 課題のペーパーについては次の講義の最初に解説を行います。

科目名	憲法概論	科目名(英文)	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法 I(基本的人権)ではとりあげない領域もここに含まれますので、憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多ある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成することが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式です。詳細な進め方は初回の講義で配布されるプリントを参照のこと。
科目学習の効果(資格)	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく(10分)。 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(20分)
2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の1, 2を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の1, 2を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の6を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の4, 5を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の3を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
7	憲法13条の内容	13条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の8, 9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
8	包括的基本権としての13条	幸福追求権としての13条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の8, 9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
11	法の下平等(1)	法の下平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の10を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
12	法の下平等(2)	法の下平等について、特に日本国憲法14条の内容について学ぶ	予習：教科書の11を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
13	法の下平等(3)	法の下平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：教科書の11を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
14	法の下平等(4)	法の下平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：教科書の12を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の1を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)

関連科目 憲法 I、憲法 II と深く関連します。また後期配当の憲法 I(基本的人権)を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 試験70%、課題として出すペーパー(毎回ではありませんが少なくともはあります)30%の合計で評価します。詳細については初回の講義で配布されるプリントを必ず参照してください。

学生へのメッセージ 講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。

担当者の研究室等 11号館9階 浮田准教授室

備考 講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)  
教科書は後期開講の憲法 I(基本的人権)と共通です。  
課題ペーパーの解答については、次回講義最初にて解説を行います。  
(参考) 2018年度はA評価27人、B評価12人、C評価87人、D評価67人、E評価以下29人でした。

科目名	憲法概論	科目名(英文)	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1015a0		

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法 I(基本的人権)ではとりあげない領域もここに含まれますので、憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多くある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成することが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式です。詳細な進め方は初回の講義で配布されるプリントを参照のこと。
科目学習の効果(資格)	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく(10分)。 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(20分)
2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の1, 2を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の1, 2を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の6を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の4, 5を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の3を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
7	憲法13条の内容	13条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の8, 9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
8	包括的基本権としての1, 3条	幸福追求権としての13条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の8, 9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
11	法の下での平等(1)	法の下での平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の10を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
12	法の下での平等(2)	法の下での平等について、特に日本国憲法14条の内容について学ぶ	予習：教科書の11を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
13	法の下での平等(3)	法の下での平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：教科書の11を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
14	法の下での平等(4)	法の下での平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：教科書の12を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の1を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれを行う(60分)

関連科目 憲法 I、憲法 II と深く関連します。また後期配当の憲法 I(基本的人権)を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 試験70%、課題として出すペーパー(毎回ではありませんが少なくともはあります)30%の合計で評価します。詳細については初回の講義で配布されるプリントを必ず参照してください。

学生へのメッセージ 講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。

担当者の研究室等 11号館9階 浮田准教授室

備考 講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)  
教科書は後期開講の憲法 I(基本的人権)と共通です。  
課題ペーパーの解答については、次回講義最初にて解説を行います。  
(参考) 2018年度はA評価27人、B評価12人、C評価87人、D評価67人、E評価以下29人でした。

科目名	国際関係史	科目名(英文)	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第2次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そして、激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代世界の構造の歴史的な要因を、第2次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学び、現代世界の動きをより深く理解できるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートすること。
科目学習の効果(資格)	歴史(特に現代史)を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。また、最近の国際情勢の歴史的背景を知ること、今後どのような展開が予想されるか、主体的に考える力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明(進め方、評価方法など)、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	高校時代に世界史・政治経済・現代社会の科目を履修した人は、教科書の中で戦後の世界の動きを扱った箇所を読み直してきましょう。(事後学習2時間)
2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
3	戦後世界の起点	第2次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
5	米ソ対立の深化と拡大(1) / 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
6	米ソ対立の深化と拡大(2) / 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
7	米ソ対立の深化と拡大(3) / 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
8	米ソ対立の深化と拡大(4) / アジアの“熱戦”(前編)	朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
9	米ソ対立の深化と拡大(5) / アジアの“熱戦”(後編)	前回到引き続き、朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第2次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
12	(第1次)冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第1次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
13	新(第2次)冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全15回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。(事後学習8時間)

関連科目	政治学および国際関係に関連する科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の点数(90%)と講義内作成レポートの提出(2回計10%)の合計の成績によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室
----------	---------------

備考	第1回目のレポートについては、次の回の講義で結果の解説を行う。第2回目のレポートについては、ポータルサイトで結果の解説を行うとともに、質問者に対しては、SHの時間に対応する。
----	---

科目名	国際関係史	科目名(英文)	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2067a0		

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第2次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そして、激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代世界の構造の歴史的な要因を、第2次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学び、現代世界の動きをより深く理解できるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートすること。
科目学習の効果(資格)	歴史(特に現代史)を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。また、最近の国際情勢の歴史的背景を知ること、今後どのような展開が予想されるか、主体的に考える力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明(進め方、評価方法など)、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	高校時代に世界史・政治経済・現代社会の科目を履修した人は、教科書の中で戦後の世界の動きを扱った箇所を読み直してみましょう。(事後学習2時間)
2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
3	戦後世界の起点	第2次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
5	米ソ対立の深化と拡大(1) / 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
6	米ソ対立の深化と拡大(2) / 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
7	米ソ対立の深化と拡大(3) / 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
8	米ソ対立の深化と拡大(4) / アジアの“熱戦”(前編)	朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
9	米ソ対立の深化と拡大(5) / アジアの“熱戦”(後編)	前回到引き続き、朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第2次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
12	(第1次)冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第1次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
13	新(第2次)冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全15回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。(事後学習8時間)

関連科目 政治学および国際関係に関連する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験の点数(90%)と講義内作成レポートの提出(2回計10%)の合計の成績によって評価する。

学生へのメッセージ 現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。

担当者の研究室等 11号館10階 河原教授室

備考 第1回目のレポートについては、次の回の講義で結果の解説を行う。第2回目のレポートについては、ポータルサイトで結果の解説を行うとともに、質問者に対しては、SHの時間に対応する。

科目名	国際関係論	科目名(英文)	International Relations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2068a0		

授業概要・目的	『国際関係論』という学問について、その基本的な考え方を習得し、激動する現代の国際関係(世界の動き)に対する理解力の向上を、本講の目的とする。講義内容は、国際関係の基礎概念の説明から始め、アクターがどのように行動するのか、現実主義的アプローチに基づいてその行動様式を中心に解説していく。そして、現実の国際関係がどのような構造で、何がどのような目的で活動しているのか、把握し理解できるよう『国際関係を見る眼』を養うような講義にしたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際関係がどのように展開していくのか、その基本的なポイントについて理解できるようになるとともに、それらを踏まえて国際社会で生起しているさまざまな動きを観察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートをとることが求められる。
科目学習の効果(資格)	国際関係を規定する要因などを学ぶことで、国際社会の動きを表面的だけでなくその本質を見抜く‘眼’を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法などについての解説	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習2時間)
3	国際関係における主要な行動主体(アクター)(1)	行動主体(アクター)とは? 国際関係の行動主体としての“国家”についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
4	国際関係における主要な行動主体(アクター)(2)	国家以外の主要な行動主体(アクター)についての説明(1)	配布したレジュメと資料で復習してください。(事後学習1時間)
5	国際関係における主要な行動主体(アクター)(3)	国家以外の主要な行動主体(アクター)についての説明(2)	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
6	行動主体の行動原理	“国益”と行動目標についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
7	行動主体の力の行使に関する概説(1)	国力とは何か? その内容についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
8	行動主体の力の行使に関する概説(2)	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
9	行動主体の力の行使に関する概説(3)	経済的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
10	行動主体の力の行使に関する概説(4)	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
11	行動主体の力の行使に関する詳説(1) 経済制裁(前編)	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
12	行動主体の力の行使に関する詳説(2) 経済制裁(後編)	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習2時間)
13	行動主体の力の行使に関する詳説(3) 外交・外交交渉(前編)	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
14	行動主体の力の行使に関する詳説(4) 外交・外交交渉(後編)	外交交渉についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全15回の講義で配布したレジュメと資料を読み直してください。(事後学習8時間)

関連科目	政治・国際関係に関連する科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の点数(90%)と講義内作成レポートの提出(2回計10%)の合計の成績によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	現代において、国際関係の動向が私たちの日常生活と密接に関連しています。それゆえ、複雑な国際情勢を的確に把握し読み解く能力が求められ、この科目の履修の必要性が高まっています。とりわけ、2016年に起きた、イギリスのEUからの離脱の決定やアメリカのトランプ大統領の登場は、世界が歴史的な転換点を迎えていることを示しているかのようにも思われ、目の離せない状況となっています。こういう時代だからこそ、ぜひ国際関係を見る眼をしっかり養っていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室
----------	---------------

備考	第1回目のレポートについては、次の回の講義で結果の解説を行う。第2回目のレポートについては、ポータルサイトで結果の解説を行うとともに、質問者に対しては、SHの時間に対応する。
----	---

科目名	国際私法 I	科目名 (英文)	Private International Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所や地域の法律（準拠法）を適用することによって解決しようとする法律です。「抵触法」とも呼ばれ、民法のような「実質法」とは次元を異にする法であるために、講義では、特に、その構造と理論の理解に力を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、「国際私法の構造」及びその「基本的考え方」を説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義しますが、重要事項をまとめた資料も配付してそれを使って進めます。国際私法の基本的知識の確認と復習のため、授業時間の最後（20分程度）に、重要事項の「確認問題」を5回程度実施します。
科目学習の効果（資格）	外国との関連のある生活関係においてどのような法律問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	「渉外的法律関係」とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第1章をあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること（約2時間）
2	国際私法の法源①	国際私法に係る法律	重要事項を確認すること（約2時間）
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	重要事項を確認すること（約2時間）
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学派	教科書第3章をあらかじめ読むこと、重要事項及び確認問題を再確認すること（約2時間）
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	重要事項を確認すること（約2時間）
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第2章Ⅰ・Ⅱをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること（約2時間）
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、「先決問題」と「適応問題」とは	重要事項及び確認問題を再確認すること（約2時間）
8	連結点の確定①	「連結点」とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第2章Ⅲをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること（約2時間）
9	連結点の確定②	「属人法」の観念を理解する	教科書第4章Ⅰをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること（約2時間）
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題を再確認すること（約2時間）
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	重要事項を確認すること（約2時間）
12	準拠法の特定制①	「反致」とは、その種類と位置づけ	教科書第2章Ⅳをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること（約2時間）
13	準拠法の特定制②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題を再確認すること（約2時間）
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第2章Ⅴをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること（約2時間）
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習、すべての重要事項・配付資料・確認問題を確認すること（約2時間）

関連科目	国際私法各論、国際取引法、民法
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際私法入門(第8版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		
2				
3				

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)の合計で評価します。定期試験は、「確認問題」を基礎として応用の問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えますが、授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
----------	---

学生へのメッセージ	民法などの「実質法」とは次元の異なる「抵触法」の考え方を学んで下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室
----------	--------------

備考	授業時間中に実施する「確認問題」は、次の回の授業時間に記号を付した評価を記入して返却します。その際、解説をして質問に答えます。2014年度以前入学生科目名 『国際私法Ⅰ』
----	---

科目名	国際私法Ⅱ	科目名(英文)	Private International Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	国際私法総論(前期開講)で理解した「国際私法の構造」について、単位法律関係ごとに具体的な検討をします。「実質法」上の概念と「抵触法」上の概念の違いを特に意識し、婚姻や親子関係、債権契約といったすでに実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違いそして区別して考えるべきかを理解することが目的となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、単位法律関係ごとにその準拠法及びその「連結政策」を検討することを通して、「国際私法の構造」及びその具体的な問題点が説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	民法を始めとして関係する外国の私法にも言及して講義を行います。授業時間の最後(20分程度)に、理解度の確認と復習のため、5回程度、重要事項の「確認問題」を実施します。六法は必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	国際的な人及び物の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民事法の知識を確認できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	教科書第4章Ⅱをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	重要事項及び確認問題を再確認する(約2時間)
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏の準拠法、身分関係と戸籍	教科書第4章Ⅲ・Ⅳをあらかじめ読む、重要事項及び確認問題を再確認する(約2時間)
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第5章Ⅰをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	確認問題を復習し、重要事項を確認する(約2時間)
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第5章Ⅱをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第5章Ⅲをあらかじめ読む、確認問題を復習し、重要事項を確認する(約2時間)
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第5章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第6章をあらかじめ読む、すべての重要事項・配付資料・確認問題を再確認する(約2時間)

関連科目 国際私法総論、国際取引法、民法総則、物権法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際私法入門(第8版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)の合計で評価します。定期試験は、「確認問題」を基礎として応用問題を出题します。なお、「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えます。授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません(やむを得ない場合を除く)。

学生へのメッセージ 民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、その基本的な知識を再確認しておいてください。

担当者の研究室等 11号館9階 小山教授室

備考 授業時間中に実施する「確認問題」は、次の回の授業時間に記号を付した評価を記入して返却します。その際、解説をして質問に答えます。? 2014年度以前入学生科目名 『国際私法Ⅱ』

科目名	国際私法各論	科目名(英文)	Private International Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3042a0		

授業概要・目的	国際私法総論(前期開講)で理解した「国際私法の構造」について、単位法律関係ごとに具体的な検討をします。「実質法」上の概念と「抵触法」上の概念の違いを特に意識し、婚姻や親子関係、債権契約といったすでに実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違いそして区別して考えるべきかを理解することが目的となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、単位法律関係ごとにその準拠法及びその「連結政策」を検討することを通して、「国際私法の構造」及びその具体的な問題点が説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	民法を始めとして関係する外国の私法にも言及して講義を行います。授業時間の最後(20分程度)に、理解度の確認と復習のため、5回程度、重要事項の「確認問題」を実施します。六法は必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	国際的な人及び物の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民事法の知識を確認できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	教科書第4章Ⅱをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	重要事項及び確認問題を再確認する(約2時間)
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏、準拠法、身分関係と戸籍	教科書第4章Ⅲ・Ⅳをあらかじめ読む、重要事項及び確認問題を再確認する(約2時間)
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第5章Ⅰをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	確認問題を復習し、重要事項を確認する(約2時間)
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第5章Ⅱをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	重要事項を確認する(約2時間)
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第5章Ⅲをあらかじめ読む、確認問題を復習し、重要事項を確認する(約2時間)
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第5章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵをあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第6章をあらかじめ読む、すべての重要事項・配付資料・確認問題を再確認する(約2時間)

関連科目	国際私法総論、国際取引法、民法総則、物権法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際私法入門(第8版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)の合計で評価します。定期試験は、「確認問題」を基礎として応用問題を出題します。なお、「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えます。授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません(やむを得ない場合を除く)。
----------	--

学生へのメッセージ	民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、その基本的な知識を再確認しておいてください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室
----------	--------------

備考	授業時間中に実施する「確認問題」は、次の回の授業時間に記号を付した評価を記入して返却します。その際、解説をして質問に答えます。? 2014年度以前入学生科目名 『国際私法Ⅱ』
----	---

科目名	国際私法総論	科目名(英文)	Private International Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3041a0		

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所や地域の法律(準拠法)を適用することによって解決しようとする法律です。「抵触法」とも呼ばれ、民法のような「実質法」とは次元を異にする法であるために、講義では、特に、その構造と理論の理解に力点を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、「国際私法の構造」及びその「基本的考え方」を説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義しますが、重要事項をまとめた資料も配付してそれを使って進めます。国際私法の基本的知識の確認と復習のため、授業時間の最後(20分程度)に、重要事項の「確認問題」を5回程度実施します。
科目学習の効果(資格)	外国との関連のある生活関係においてどのような法律問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	「渉外的法律関係」とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第1章をあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること(約2時間)
2	国際私法の法源①	国際私法に係る法律	重要事項を確認すること(約2時間)
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	重要事項を確認すること(約2時間)
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学派	教科書第3章をあらかじめ読むこと、重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	重要事項を確認すること(約2時間)
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第2章Ⅰ・Ⅱをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること(約2時間)
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、「先決問題」と「適応問題」とは	重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
8	連結点の確定①	「連結点」とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第2章Ⅲをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること(約2時間)
9	連結点の確定②	「属人法」の観念を理解する	教科書第4章Ⅰをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること(約2時間)
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	重要事項を確認すること(約2時間)
12	準拠法の特定制①	「反致」とは、その種類と位置づけ	教科書第2章Ⅳをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること(約2時間)
13	準拠法の特定制②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第2章Ⅴをあらかじめ読むこと、重要事項を確認すること(約2時間)
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習、すべての重要事項・配付資料・確認問題を確認すること(約2時間)

関連科目	国際私法各論、国際取引法、民法
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際私法入門(第8版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)の合計で評価します。定期試験は、「確認問題」を基礎として応用の問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えますが、授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません(やむを得ない場合を除く)。
----------	---

学生へのメッセージ	民法などの「実質法」とは次元の異なる「抵触法」の考え方を学んで下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室
----------	--------------

備考	授業時間中に実施する「確認問題」は、次の回の授業時間に記号を付した評価を記入して返却します。その際、解説をして質問に答えます。2014年度以前入学生科目名 『国際私法Ⅰ』
----	---

科目名	国際社会と法	科目名(英文)	International Community and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1058a0		

授業概要・目的	国内法とは相当に異なる基本構造をもつ国際法について、基礎的な知識を体系的に整理して理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際法の基礎知識を体系的に習得し、国際問題を国際法的視点から考える素養を身に付けることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、基本的に教科書及び毎回配布するレジュメに沿って行われる。本講義は、前期に開講される「国際法の基礎理論」の後編である。「国際法の基礎理論」では、教科書の第1章～第13章までを扱った。本講義は、第14章以降を扱う。「国際法の基礎理論」と本講義を連続して通年で受講することにより、国際法の全体像を把握することができる。したがって、本講義の受講にあたっては、「国際法の基礎理論」を受講していることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 外国人法	・講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。 ・国籍、領事保護、外交的保護、難民について学ぶ。	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際人権法	さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施、国連機関による人権の実現について学ぶ。	第1回講義の復習を行うこと。第2回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
3	国際人道法	交戦者資格、敵対行為の方法・手段、武力紛争犠牲者の保護などについて学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
4	国際刑事法	国際犯罪、国際司法共助と犯罪人引渡し、テロの規制、国際刑事裁判所について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
5	国際環境法	環境問題と無過失責任、手続的義務、地球環境保護条約について学ぶ。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
6	国際連合法	国連の組織・構造、法人格と権限、国際公務員制度「について学ぶ。	第5回講義の復習を行うこと。第6回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
7	第6回講義までの復習と中間テスト	第6回目までの復習を行ったうえで、中間テストを実施する。	第6回講義の復習を含め、中間テストの準備を行うこと。2時間
8	国際法主体	法主体としての国家、国家平等、国際機構、個人、人民について学ぶ。	第8回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。1時間
9	条約の締結と効力	条約の締結、留保、適用について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
10	条約の無効と終了	条約の承継、無効、改正・終了・運用停止について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
11	国際法の法源	慣習国際法の成立、慣習国際法と条約との関係、慣習国際法の効力などについて学ぶ。	第10回講義の復習をおこなうこと。第11回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
12	国際法と国内法	国際法と国内法の関係について学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
13	国家責任	国家責任の成立要件、国家責任の結果について学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
14	紛争解決	裁判手続、非裁判手続について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について説明する。	これまでに完成した全レジュメの復習と質問を準備しておくこと。2時間

関連科目	国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際法入門【第2版】	山形英郎編	法律文化社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社
評価方法(基準)	中間テスト(20点)及び学期末テスト(80点)などをもとに総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異なるので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。			
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室			
備考	中間テストの解説は、テストを実施した次の回で行う。			

科目名	国際人権法	科目名(英文)	International Human Rights Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2060a0		

授業概要・目的	国際人権法とは、人権に関する条約や宣言、それを実施するための国際的・国内的な制度や手続の総体をいう。人権は、第一義的には、各国の憲法によって保障されている。しかし、憲法をはじめとする国内法制度だけでは人権の保障が十分に確保されないことがある。こうしたときに、人権に関わる不十分な国内法制を、外から客観的基準に照らして検証し再考するための機会を提供する役割を果たすのが、国際人権法という学問である。本講義では、人権問題に国際社会がどのように対処しようとしているのかについて、国際法の観点から基本的な知識を体系的に整理・分析する能力を養うことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、人権問題に対処するための国際的な制度や手続について国際法の視点から整理・分析できるようになるとともに、現代社会に生起する人権に関する諸問題について国際法の観点から議論できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、基本的に教科書及び毎回配布するレジュメに沿って行われる。本講義は、「国際法の基礎理論」及び「国際社会と法」で習得する基礎知識を前提として行われるので、事前にこれらの国際法科目を受講しているか、あるいは同時に受講することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 国際人権法とは?	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際人権法の歴史的発展	国際人権保障制度の発展過程について学ぶ。	第1回講義の復習を行うこと。第2回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
3	国際人権の中心理念	人間の尊厳と生命の尊重、平等・無差別原則について学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
4	国家報告制度	報告制度の意義と展開、報告審査手続、報告制度の課題について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
5	個人通報制度	主要な人権条約の個人通報制度の仕組み、個人通報制度の役割と課題について学ぶ。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
6	国連の人権活動	国連人権委員会の活動、国連人権理事会の組織・任務・審査手続について学ぶ。	第5回講義の復習を行うこと。第6回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
7	第6回講義までの復習と中間テスト	第6回目までの内容の復習を行ったうえで、中間テストを実施する。	第6回目の講義の復習を含め、中間テストの準備を行うこと。2時間
8	人権の地域的保障(1)	ヨーロッパの人権保障について学ぶ。	第8回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。1時間
9	人権の地域的保障(2)	南北アメリカ及びアフリカの人権保障について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
10	国際的な刑事裁判	国際刑事裁判所の役割について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
11	国際NGOの活動	国際人権法の国際実施との関係で、国際NGOの役割について学ぶ。	第10回講義の復習を行うこと。第11回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
12	様々な人たちの人権	人種差別の禁止、女性差別の禁止、子どもの権利、拷問と虐待及び強制失踪の禁止について学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
13	見過ごされてきた人たちの人権	難民、国内避難民、移住労働者、障がい者の権利保障について学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
14	国際人権法の国内実施	日本における人権条約の実施について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について説明する。	これまでに完成した全レジュメの復習と質問を準備しておくこと。2時間

関連科目	憲法、国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際私法、その他国際関係に関する科目
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブリッジブック国際人権法【第2版】	芹田健太郎・粟師寺公夫・坂元茂樹	信山社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社

評価方法(基準)	中間テスト(20点)及び学期末テスト(80点)などをもとに総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	人権は、各国の国内法で保障され救済制度が整備されれば問題ないのではないかと疑問に思う人もいられるでしょう。その「なぜ?」を、本講義を通じて皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室
----------	------------------

備考	中間テストの解説は、テストを実施した次の回の授業で行う。
----	------------------------------

科目名	国際組織法	科目名(英文)	Law of International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3061a0		

授業概要・目的	現代国際社会において、国際連合をはじめとする国際組織（政府間国際機構）は、国家と並ぶ重要な地位を占めるようになってきている。国際組織の設立及び活動内容は、一般に条約によって設立される。そのため、国際組織はすぐれて法的な存在である。本講義では、国際社会において国際連合を中心とする国際組織がいかなる役割を果たし、いかなる意義を有する存在であるかを、国際法の観点から明らかにすることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際組織の活動において国家がどのような役割を果たしているか、また、国際組織の活動が国家にどのような影響を及ぼしているかについて、具体的な例を示しつつ説明することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、基本的に毎回配布するレジュメに沿って授業を行う。本講義は、「国際法の基礎理論」及び「国際社会と法」と密接に関係しているため、これらの科目を併せて受講することが望ましい。
科目学習の効果（資格）	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 国際組織の定義と分類	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。教科書（pp. 255-278）を事前に読んでおくこと。
2	国際組織の歴史的発展	国際組織の歴史的発展について、国際連盟・国際連合を中心に学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義レジュメを完成させること。各1時間
3	国際組織の法人格	国際組織の法人格について、「損害賠償事件」を中心に学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義レジュメを完成させること。各1時間
4	国際組織の国際法上の地位	国際組織と国家の違いについて学ぶ。国際組織の内部法秩序、条約締結能力、設立文書上の権能、国際責任など。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義レジュメを完成させること。各1時間
5	国際組織の国内法上の地位	国際組織の特権・免除、本部所在地国との関係、国内法との関係について学ぶ。	第5回講義での復習を行うこと。第6回講義レジュメを完成させること。各1時間
6	国際組織の表決制度	国際組織はどのような手続によってルールを作っているのかについて学ぶ。全会一致制、多数決制、拒否権制度、コンセンサス方式。	第6回目の講義の復習を含め、中間テストの準備を行うこと。2時間
7	第6回講義までの復習と中間テスト	第6回目までの復習を行ったうえで、中間テストを実施する。	中間テストの準備を行うこと。2時間
8	国際組織の決議の法的効果	国際組織の決議の法的効果について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回レジュメを完成させること。各1時間
9	国際公務員制度・国連の財政	国際組織ではどのような人が働いているのか、国際組織はどのようにして必要な資金を得ているのか、について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回レジュメを完成させること。各1時間
10	国際紛争の平和的解決	国際連合による紛争の平和的解決の仕組みを国際連盟のそれと比較しながら学ぶ。	第10回講義の復習を行うこと。第11回レジュメを完成させること。各1時間
11	集団的安全保障制度（1）	冷戦下の国際連合による集団的安全保障の仕組みを国際連盟のそれと比較しながら学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回レジュメを完成させること。各1時間
12	集団的安全保障制度（2）	冷戦解消後の国際連合による集団的安全保障制度の展開を学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回レジュメを完成させること。各1時間
13	自衛権	個別的自衛権と集団的自衛権について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回レジュメを完成させること。各1時間
14	国連平和維持活動（PKO）	平和維持活動の変遷について学ぶ。	第14回講義の復習を行うとともに、第13回目までのレジュメの内容を確認しておくこと。2時間
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジュメの復習と質問を準備しておくこと。2時間

関連科目 国際法の基礎理論、国際社会と法、国際人権法、国際協力論、国際平和論、国際ボランティア論など国際関係と関係する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際機構論【総合編】	渡部茂巳・望月康恵編	国際書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社
2				
3				

評価方法（基準） 中間テスト（20点）及び学期末テスト（80点）などをもとに総合的に評価する。

学生へのメッセージ 国際組織というと、私たちの生活とは縁遠い話と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、実は、国際組織は私たちの日常生活に密接に関係しています。国際組織が私たちの生活とどのように関わっているのか、この授業を通して皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

担当者の研究室等 11号館10階 鳥谷部特任講師室

備考 中間テストの解説は、テストを実施した次の回の授業で行う。

科目名	国際取引法	科目名(英文)	International Trade Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3053a0		

授業概要・目的	国際取引に適用される法に関する一般的な問題を検討することから始め、「国際物品売買契約」及びそれに関係する分野を中心に講義します。国際取引法として適用される範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「民法」、「商法」、「国際経済法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」及びそれに関する「国際海上物品運送」、「貨物海上保険」そして「国際代金決済」についての国際的ルールを説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則を重視した講義をします。理解度の確認と復習のため、5回程度、授業時間の最後(20分程度)に重要事項の「確認問題」を提示します。
科目学習の効果(資格)	貿易関係など外国取引に関する基本的知識が得られます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第1章をあらかじめ読む(約2時間)
2	国際取引に適用される法	国際取引法の定義・内容、「抵触法」と「涉外実質法」、統一私法	重要事項を確認する(約2時間)
3	国際取引の当事者	個人、法人・企業 国家機関、国際法人	教科書第2章をあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
4	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第3章第1・2節をあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
5	国際物品売買②	当事者自治の原則、契約準拠法の構造、「ハーグ統一売買法」	重要事項を確認する(約2時間)
6	国際物品売買③	「ウイーン統一売買法」、「インコタームズ」の概要	重要事項を確認する(約2時間)
7	国際物品売買④	国際物品売買契約の成立、契約交渉と契約の基本的条件	重要事項を再確認する(約2時間)
8	国際物品運送①	国際物品運送の種類、ハーグルール	教科書第3章第3節をあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
9	国際物品運送②	国際海上物品運送法、船荷証券、国際航空運送	重要事項を確認する(約2時間)
10	国際貨物保険①	海上保険証券	教科書第3章第4節をあらかじめ読む、重要事項を再確認する(約2時間)
11	国際貨物保険②	貨物保険契約の内容	重要事項を確認する(約2時間)
12	国際代金決済	代金決済の方式、荷為替信用状	教科書第3章第5節をあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
13	その他の国際取引①	プラント輸出	教科書第4章をあらかじめ読む、重要事項を再確認する(約2時間)
14	その他の国際取引②	国際技術移転、国際投資	教科書第5章をあらかじめ読む、重要事項を確認する(約2時間)
15	国際取引紛争の解決	国際裁判管轄、外国判決の承認・執行、国際商事仲裁	教科書第6章をあらかじめ読む、すべての確認問題・重要事項を確認する(約2時間)

関連科目 国際私法総論・各論、民法総則、債権法、商法、民事訴訟法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際取引法(第4版)	佐野寛	有斐閣

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		

評価方法(基準) 定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)の合計で評価します。定期試験では、「確認問題」を基礎とした応用問題を出题します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加え、実施時の授業時間内に提出されなかったものはその評価の対象とはしません(やむを得ない場合を除く)。

学生へのメッセージ 国際取引における主要な「グローバル・スタンダード」を知ってください。

担当者の研究室等 11号館9階 小山教授室

備考 授業時間中に実施する「確認問題」は、次の回の授業時間に記号を付した評価を記入して返却します。その際、解説をして質問に答えます。2014年度以前入学生科目名 『国際取引法Ⅰ』

科目名	国際取引法 I	科目名 (英文)	International Trade Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	国際取引に適用される法に関する一般的な問題を検討することから始め、「国際物品売買契約」及びそれに関する分野を中心に講義します。国際取引法として適用される範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「民法」、「商法」、「国際経済法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」及びそれに関する「国際海上物品運送」、「貨物海上保険」そして「国際代金決済」についての国際的ルールを説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則を重視した講義をします。理解度の確認と復習のため、5回程度、授業時間の最後 (20分程度) に重要事項の「確認問題」を提示します。
科目学習の効果 (資格)	貿易関係など外国取引に関する基本的知識が得られます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第1章をあらかじめ読む (約2時間)
2	国際取引に適用される法	国際取引法の定義・内容、「抵触法」と「涉外実質法」、統一私法	重要事項を確認する (約2時間)
3	国際取引の当事者	個人、法人・企業 国家機関、国際法人	教科書第2章をあらかじめ読む、重要事項を確認する (約2時間)
4	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第3章第1・2節をあらかじめ読む、重要事項を確認する (約2時間)
5	国際物品売買②	当事者自治の原則、契約準拠法の構造、「ハーグ統一売買法」	重要事項を確認する (約2時間)
6	国際物品売買③	「ウイーン統一売買法」、「インコタームズ」の概要	重要事項を確認する (約2時間)
7	国際物品売買④	国際物品売買契約の成立、契約交渉と契約の基本的条件	重要事項を再確認する (約2時間)
8	国際物品運送①	国際物品運送の種類、ハーグルール	教科書第3章第3節をあらかじめ読む、重要事項を確認する (約2時間)
9	国際物品運送②	国際海上物品運送法、船荷証券、国際航空運送	重要事項を確認する (約2時間)
10	国際貨物保険①	海上保険証券	教科書第3章第4節をあらかじめ読む、重要事項を再確認する (約2時間)
11	国際貨物保険②	貨物保険契約の内容	重要事項を確認する (約2時間)
12	国際代金決済	代金決済の方式、荷為替信用状	教科書第3章第5節をあらかじめ読む、重要事項を確認する (約2時間)
13	その他の国際取引①	プラント輸出	教科書第4章をあらかじめ読む、重要事項を再確認する (約2時間)
14	その他の国際取引②	国際技術移転、国際投資	教科書第5章をあらかじめ読む、重要事項を確認する (約2時間)
15	国際取引紛争の解決	国際裁判管轄、外国判決の承認・執行、国際商事仲裁	教科書第6章をあらかじめ読む、すべての確認問題・重要事項を確認する (約2時間)

関連科目 国際私法総論・各論、民法総論、債権法、商法、民事訴訟法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際取引法 (第4版)	佐野寛	有斐閣

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		

評価方法 (基準) 定期試験 (60%) 及び「確認問題」 (40%) の合計で評価します。定期試験では、「確認問題」を基礎とした応用問題を出题します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加え、実施時の授業時間内に提出されなかったものはその評価の対象とはしません (やむを得ない場合を除く)。

学生へのメッセージ 国際取引における主要な「グローバル・スタンダード」を知ってください。

担当者の研究室等 11号館9階 小山教授室

備考 授業時間中に実施する「確認問題」は、次の回の授業時間に記号を付した評価を記入して返却します。その際、解説をして質問に答えます。2014年度以前入学生科目名 『国際取引法 I』

科目名	国際法の基礎理論	科目名(英文)	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	国内法とは相当に異なる基本構造をもつ国際法について、基礎的な知識を体系的に整理して理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際法の基礎知識を体系的に習得し、国際問題を国際法的視点から考える素養を身に付けることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、基本的に教科書及び毎回配布するレジュメに沿って行われる。本講義は、後期に開講される「国際社会と法」と連動している。本講義は教科書の第1章～第13章までを扱う。教科書の第14章以降は「国際社会と法」で扱うので、本講義を受講する学生は、後期の「国際社会と法」も併せて受講されたい。
科目学習の効果(資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種への就職を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 国際法の基礎	・講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。 ・国際法とは何かについて学ぶ。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	武力行使禁止と自衛権	武力行使禁止原則、個別的自衛権、集団的自衛権などについて学ぶ。	第1回講義の復習を行うこと。第2回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
3	集団安全保障	集団安全保障制度について国際連盟と国際連合を対比しつつ学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
4	主権と自決権	国家主権、人民の自決権、不干渉原則について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
5	国家・政府の誕生と内戦	国家の誕生、政府の変更、破綻国家の扱いなどについて学ぶ。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
6	国家管轄権	管轄権の種類、立法管轄権と司法管轄権、管轄権の拡大、執行管轄権の調整について学ぶ。	第5回講義の復習を行うこと。第6回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
7	第6回講義までの復習と中間テスト	第6回目までの復習を行ったうえで、中間テストを実施する。	第6回講義の復習を含め、中間テストの準備を行うこと。2時間
8	管轄権の制限	外交・領事特権免除、主権免除、国際機構の特権免除について学ぶ。	第8回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。1時間
9	国家領域	領域の区別、領域権原、領土紛争について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
10	領域使用	領域主権の意義、天然資源と国有化、領域使用の管理責任、国際化地域について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
11	海洋法の構造	領海、国際海峡、群島水域について学ぶ。	第10回講義の復習を行うこと。第11回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
12	海洋開発	排他的経済水域、大陸棚、公海、深海底について学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
13	海上管轄権	内水及び領海における刑事管轄権、接続水域と継続追跡、公海上の刑事管轄権などについて学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
14	空・宇宙及び南極	空、宇宙、南極について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について説明する。	これまでに完成した全レジュメの復習と質問を準備しておくこと。2時間

関連科目	国際社会と法、国際組織法、国際人権法								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際法入門【第2版】</td> <td>山形英郎編</td> <td>法律文化社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際法入門【第2版】	山形英郎編	法律文化社
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1	国際法入門【第2版】	山形英郎編	法律文化社						
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コンパクト学習条約集【第2版】</td> <td>芹田健太郎編</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社						
評価方法(基準)	中間テスト(20点)及び学期末テスト(80点)などをもとに総合的に評価する。								
学生へのメッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異なるので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずですよ。								
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室								
備考	中間テストの解説は、テストを実施した次の回の授業で行う。								

科目名	国際法の基礎理論	科目名(英文)	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2059a0		

授業概要・目的	国内法とは相当に異なる基本構造をもつ国際法について、基礎的な知識を体系的に整理して理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際法の基礎知識を体系的に習得し、国際問題を国際法的視点から考える素養を身に付けることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、基本的に教科書及び毎回配布するレジュメに沿って行われる。本講義は、後期に開講される「国際社会と法」と連動している。本講義は教科書の第1章～第13章までを扱う。教科書の第14章以降は「国際社会と法」で扱うので、本講義を受講する学生は、後期の「国際社会と法」も併せて受講されたい。
科目学習の効果(資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種への就職を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 国際法の基礎	・講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。 ・国際法とは何かについて学ぶ。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	武力行使禁止と自衛権	武力行使禁止原則、個別的自衛権、集団的自衛権などについて学ぶ。	第1回講義の復習を行うこと。第2回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
3	集団安全保障	集団安全保障制度について国際連盟と国際連合を対比しつつ学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
4	主権と自決権	国家主権、人民の自決権、不干渉原則について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
5	国家・政府の誕生と内戦	国家の誕生、政府の変更、破綻国家の扱いなどについて学ぶ。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
6	国家管轄権	管轄権の種類、立法管轄権と司法管轄権、管轄権の拡大、執行管轄権の調整について学ぶ。	第5回講義の復習を行うこと。第6回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
7	第6回講義までの復習と中間テスト	第6回目までの復習を行ったうえで、中間テストを実施する。	第6回講義の復習を含め、中間テストの準備を行うこと。2時間
8	管轄権の制限	外交・領事特権免除、主権免除、国際機構の特権免除について学ぶ。	第8回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。1時間
9	国家領域	領域の区別、領域権原、領土紛争について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
10	領域使用	領域主権の意義、天然資源と国有化、領域使用の管理責任、国際化地域について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
11	海洋法の構造	領海、国際海峡、群島水域について学ぶ。	第10回講義の復習を行うこと。第11回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
12	海洋開発	排他的経済水域、大陸棚、公海、深海底について学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
13	海上管轄権	内水及び領海における刑事管轄権、接続水域と継続追跡、公海上の刑事管轄権などについて学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
14	空・宇宙及び南極	空、宇宙、南極について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について説明する。	これまでに完成した全レジュメの復習と質問を準備しておくこと。2時間

関連科目	国際社会と法、国際組織法、国際人権法								
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>国際法入門【第2版】</td> <td>山形英郎編</td> <td>法律文化社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際法入門【第2版】	山形英郎編	法律文化社
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1	国際法入門【第2版】	山形英郎編	法律文化社						
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>コンパクト学習条約集【第2版】</td> <td>芹田健太郎編</td> <td>信山社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社						
評価方法(基準)	中間テスト(20点)及び学期末テスト(80点)などをもとに総合的に評価する。								
学生へのメッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異なるので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずですよ。								
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室								
備考	中間テストの解説は、テストを実施した次の回の授業で行う。								

科目名	国際ボランティア論	科目名(英文)	Studies in International Volunteers
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3080a0		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。
到達目標	この授業を通じて学生には、ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。また、ボランティアの行動を考える上で、一般的社会の倫理観・善悪観の認識・偽善者などについて説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後 15～20 分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果(資格)	日本社会と国際社会の倫理観・善悪観の認識について基礎的知識を習得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る	15回の授業を通じて、全体的に何をどう学ぶのかを理解する(90分)
2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開(60分)
3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	前回の復習と、次回への展開(60分)
4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開(60分)
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開(60分)
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開(60分)
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開(60分)
15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	前回の復習と、次回への展開(60分)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法(基準)	平常点(記述式小テスト:25%×3回)と記述式小論文(25%)を合わせて(100%)評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)																
備考	記述小テストの模範的な解答例については、授業中に説明し、その流れによって、次のトピックへの展開とする。																

科目名	債権各論	科目名(英文)	Law of Obligation: Special Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2036a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。六法は必ず持参してください。また、テキストで適宜、復習を行ってください。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	債権法、特に契約法の全体を確認していく。	民法法概論、民法総則を見直すこと。
	2	契約の種類	いかなる種類の契約があるのかを確認する。	契約の種類を全体的に整理すること。
	3	契約の成立	契約がいかにして成立するのか、成立についていかなる問題があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	4	契約の効力①	契約が成立するといかなる効力を持つのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	5	契約の効力②	第4回の復習および、契約の解除について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	6	贈与	贈与契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	7	売買①	売買契約全体について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	8	売買②	売買の担保責任について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	9	売買③・交換	売買契約の担保責任および交換契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	10	消費貸借・使用貸借・賃貸借①	貸借型の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	11	賃貸借②	賃貸借契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	12	賃貸借③	借地借家法について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	13	雇用・請負	雇用・請負契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	14	委任・寄託・その他の契約	委任・寄託その他の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	15	全体のまとめ	契約法全体を確認し、内容の復習を行う。	全体の内容を見直すこと。

関連科目 債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法④債権各論	小川・城内	一学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 講義での確認テスト(20%)、学年末試験(80%)で評価を行います。講義中の不要な私語については減点の対象とします。

学生へのメッセージ 法学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。

担当者の研究室等 11号館9階 大川准教授室

備考 大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	債権総論	科目名(英文)	Law of Obligation: General Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2035a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意(契約)により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されることができののだろうかという点を見ていく予定です。これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。六法は必ず持参してください。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出题される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	債権法概論	講義のガイダンス	総則および債権各論部分を見直すこと。
	2	債権の目的	債権の内容と種類	契約の性質を整理しておくこと。
	3	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。
	4	債権の効力②	債務不履行の種類とその成立要件	債務不履行については教科書等で見直すこと。
	5	債権の効力③	受領遅滞	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
	6	責任財産の保全①	債権者代位権	3者関係と制度の意義を整理すること。
	7	責任財産の保全②	債権者取消権	債権者代位権との違いを整理すること。
	8	多数当事者の債権債務関係①	分割債権債務 不可分債権債務	債権者・債務者が複数となる意義を確認すること。
	9	多数当事者の債権債務関係②	連帯債務	連帯債務の意義を確認しながら、各制度の違いを整理すること。
	10	多数当事者の債権債務関係③	保証債務	担保の意義を見直すこと。
	11	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権が譲渡される意味を押えること。
	12	債権関係の移転②	債権譲渡②、債務引受	債権の移転と債務の移転の違いを整理すること。
	13	債権の消滅①	弁済①	債権の消滅する形を確認すること。
	14	債権の消滅②	弁済②、相殺①	弁済と相殺の意義を整理すること。
	15	債権の消滅③	相殺②	相殺の意義を見直すこと。

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法③債権各論	小川・福田	一学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での確認テスト(20%)、学年末試験(80%)で評価を行います。講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	債権法 I	科目名 (英文)	Law of Obligations I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。六法は必ず持参してください。また、テキストで適宜、復習を行ってください。
科目学習の効果 (資格)	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	債権法、特に契約法の全体を確認していく。	民法法概論、民法総則を見直すこと。
	2	契約の種類	いかなる種類の契約があるのかを確認する。	契約の種類を全体的に整理すること。
	3	契約の成立	契約がいかにして成立するのか、成立についていかなる問題があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	4	契約の効力①	契約が成立するといかなる効力を持つのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	5	契約の効力②	第4回の復習および、契約の解除について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	6	贈与	贈与契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	7	売買①	売買契約全体について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	8	売買②	売買の担保責任について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	9	売買③・交換	売買契約の担保責任および交換契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	10	消費貸借・使用貸借・賃貸借①	貸借型の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	11	賃貸借②	賃貸借契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	12	賃貸借③	借地借家法について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	13	雇用・請負	雇用・請負契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	14	委任・寄託・その他の契約	委任・寄託その他の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
	15	全体のまとめ	契約法全体を確認し、内容の復習を行う。	全体の内容を見直すこと。

関連科目 債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法④債権各論	小川・城内	一学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 講義での確認テスト (20%)、学年末試験 (80%) で評価を行います。講義中の不要な私語については減点の対象とします。

学生へのメッセージ 法学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。

担当者の研究室等 11号館9階 大川准教授室

備考 大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	債権法Ⅱ	科目名(英文)	Law of Obligations II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意(契約)により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されることができののだろうかという点を見ていく予定です。これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。 レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。 六法は必ず持参してください。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	債権法概論	講義のガイダンス	総則および債権各論部分を見直すこと。
	2	債権の目的	債権の内容と種類	契約の性質を整理しておくこと。
	3	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。
	4	債権の効力②	債務不履行の種類とその成立要件	債務不履行については教科書等で見直すこと。
	5	債権の効力③	受領遅滞	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
	6	責任財産の保全①	債権者代位権	3者関係と制度の意義を整理すること。
	7	責任財産の保全②	債権者取消権	債権者代位権との違いを整理すること。
	8	多数当事者の債権債務関係①	分割債権債務 不可分債権債務	債権者・債務者が複数となる意義を確認すること。
	9	多数当事者の債権債務関係②	連帯債務	連帯債務の意義を確認しながら、各制度の違いを整理すること。
	10	多数当事者の債権債務関係③	保証債務	担保の意義を見直すこと。
	11	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権が譲渡される意味を押えること。
	12	債権関係の移転②	債権譲渡②、債務引受	債権の移転と債務の移転の違いを整理すること。
	13	債権の消滅①	弁済①	債権の消滅する形を確認すること。
	14	債権の消滅②	弁済②、相殺①	弁済と相殺の意義を整理すること。
	15	債権の消滅③	相殺②	相殺の意義を見直すこと。

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法③債権各論	小川・福田	一学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での確認テスト(20%)、学年末試験(80%)で評価を行います。 講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	財政学	科目名(英文)	Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3082a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学ぶのに対し、公共政策論では政府の役割を理論的に学びます。
科目学習の効果(資格)	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	財政論とは?	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習
	2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習
	3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
	4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
	5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
	6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
	7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習
	8	租税原則と財政投融资制度	租税制度のあるべき姿と財政投融资改革について説明する。	講義ノートの復習
	9	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習
	10	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習
	11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習
	12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習
	13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習
	14	地方財政 II	地方税と補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
	15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目 公共政策論、公共経済学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験(100%)で総合的に評価します。座席指定を行います。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。

学生へのメッセージ 疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。

担当者の研究室等 1号館7階 名方准教授室(経済学部)

備考

科目名	裁判制度特別講義	科目名(英文)	Special Lecture on Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3085a0		

授業概要・目的	2009年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。20歳以上の日本国籍を持つ人であれば誰でも、裁判員として刑事裁判に参加する可能性があることとなります。しかし、ようやく裁判員となる可能性がある年齢に達した学生の皆さんにとっては、裁判員が刑事裁判でどのような任務を果たさなくてはならないのか、よく分からないのではないのでしょうか。そこで、この授業では、裁判員制度を深く理解していただくために、裁判員制度そのものについてはもちろん、関連する刑事裁判の手続きや、外国でおこなわれている市民の司法への参加制度をあわせて学んでいただき、広く司法制度のあり方についても考えていただきたいと思います。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、裁判員制度について基本的な理解していただくとともに、市民の司法参加制度のあり方について考えることができる知識を得ていただくことが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、日本の裁判員制度について理解していただくにあたって、様々な視点からアプローチします。そのなかでは、単に教員から講義をおこなうだけでなく、受講生の皆さんが作業をしたり、意見を出したり、グループで議論したりと、自ら考えて発信する時間を設けます。したがって、ただ出席していれば良いという授業ではないことにご注意ください。講義内容は、講義の進行具合に応じて多少変更する場合があります。
科目学習の効果(資格)	裁判員制度、日本や外国の市民の司法参加制度、また広く司法制度について知識を深めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	この講義の概要、講義予定、および受講確認	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	裁判員制度とは(1)	裁判員制度および刑事司法制度の概要	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	裁判員制度とは(2)	裁判員制度導入の経緯と制度の内容	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	裁判員制度とは(3)	裁判員制度の内容と実施状況	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	刑事裁判手続(1)	刑事裁判における原則、公判手続の流れ	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	刑事裁判手続(2)	刑事事件の捜査	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	刑事裁判手続(3)	刑事事件の手続きにおける問題点	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	外国の市民の司法参加制度(1)	おもに英米でおこなわれている陪審制度について	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	外国の市民の司法参加制度(2)	おもに英米でおこなわれている陪審制度について	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	外国の市民の司法参加制度(3)	映画にみる陪審制度	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	外国の市民の司法参加制度(4)	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	戦前の日本の陪審制度	日本で戦前におこなわれていた陪審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	裁判員制度が抱える問題点	現在の裁判員制度において指摘されている問題について考える	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	今後の裁判員制度のあり方	市民の司法参加を最大限に活かすために、裁判員制度はどうあるべきかを考える	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	講義のまとめ	これまでの講義の疑問や不明点を整理したうえで今回の講義に臨むこと。

関連科目 刑法総論・各論、犯罪学などの刑事法、刑事訴訟法、英米法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>学期末試験（70%）、講義中に課す課題（30%）を評価の基準とします。履修者数が少数（20名程度まで）の場合は、学期末試験（60%）、講義中におこなう議論（40%）の割合で評価することとします。 遅刻および欠席は、1度でも、単位の取得から遠のくこととなりますのでご注意ください。</p>			
学生への メッセージ	<p>日本の裁判員制度やアメリカの陪審制度に興味のある方はぜひ履修していただければと思います。履修者が少数の場合は、授業において学生の皆さんが主体的に考えるような時間をより多くとる（たとえば議論していただくなど）ようにします。</p>			
担当者の 研究室等	11号館9階 家本准教授室			
備考	<p>講義中に課す課題については、次の回の授業で講評・解説をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20時間</p>			

科目名	実定法特別講義Ⅱ	科目名(英文)	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志, 松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2095a0		

授業概要・目的	この実定法特別講義Ⅱの講義では、同Ⅰに引き続いて、公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学検定試験や行政書士試験、宅地建物取引士などの問題演習を通じて、憲法・民法の基礎知識を習得すること、具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目標とするようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思えます。範囲としては、憲法全般、民法全般に及ぶので、まだ受講していない範囲にも学習が及ぶこととなります。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることとなります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的な心構えなどの概説を行います。	各自の目標を具体的にイメージしておくこと(30分)。
2	憲法①	精神的自由の内容の理解を深めます。違憲審査基準などにも触れます。	表現の自由の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
3	憲法②	精神的自由以外の人権の議論も多々ありますので、理解を深めたいと思います。	経済的自由、社会権、平等権、参政権などの内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
4	憲法③	統治機構は、資格試験では頻出の分野です。暗記すべき部分や自分で考える部分にメリハリを付けながら学習したいと考えています。	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
5	民法①	民法総則の中で論点となる部分を重点的に学習します。	民法総則の中でも、代理に関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
6	民法②	物権も重要な論点が多いので、基本的な部分をしっかり押さえておきたいと思っています。	物権の中でも、抵当権に関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
7	民法③	問題演習などをつうじて、債権総論についての理解を深めたいと思います。	債権者代位権、詐害行為取消権の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
8	民法④	債権各論を更に勉強します。	売買、賃貸借、請負の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
9	民法⑤	債権各論の理解を深めます。	事務管理、不当利得、不法行為の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
10	民法⑥	親族・相続分野は、択一では頻出ですので、具体的な問題演習をつうじて理解を深めたいと思っています。	婚姻、養子、相続の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
11	民法⑦	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
12	民法⑧	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
13	民法⑨	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
14	民法⑩	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を確認し、見直しておくこと(約30分)。

関連科目 直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2019年法学検定試験問題集ベーシック	法学検定試験委員会	商事法務

評価方法(基準) 期末試験の点数(85%)及び日々の課題(15%)によって、評価します(詳細は初回の講義で説明します)。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。

学生へのメッセージ この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。

担当者の研究室等 11号館9階 松島講師室

備考 この講義は「法学学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習・復習が必要となります。「法学学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。確認ペーパーの正解や解説については、授業内で行う。

科目名	市民社会論	科目名(英文)	Civil Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2071a0		

授業概要・目的	「市民社会」は、「国家」とも「市場」とも異なる新しい公共性の担い手として、特に1989年の東欧の民主化以降注目を集めている。この講義では、「民主主義」との関わりで、欧米あるいは日本の「市民社会」・「市民社会論」の歴史的系譜について整理した上で、事例として東欧の民主化の過程をとりあげたい。今後の社会を担う一市民として、「市民社会」のありかたについて考えることを目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、西欧の政治思想についての基礎的な知識を習得すること、また東欧の社会主義国においてどのように民主化が果たされたのか理解することが期待される。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職において、西洋の思想が一般教養として問われる。この授業によって、上記に際して必要な知識を得ることができる。また、日本の社会を考える上で必要となる歴史的視点や思想・理論を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞等で、市民社会・民主主義について書かれている記事を積極的に読んでおく また、西洋政治思想の流れを世界史の教科書などで見直しておく
2	市民社会とは何か	「市民」と「市民社会」について	レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	市民社会論の歴史的系譜	市民社会論の歴史的系譜について	レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	西欧における市民社会論の展開(1)	古代ギリシャの市民社会論について	プラトン・アリストテレスについて調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	西欧における市民社会論の展開(2)	近代ブルジョア的市民社会論について	ホップズ・ロックについて調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	西欧における市民社会論の展開(3)	近代ブルジョア的市民社会論に対する批判論について	ルソー・ヘーゲルについて調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	西欧における市民社会論の展開(4)	近代止揚の市民社会論について	マルクス・グラムシについて調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	西欧における市民社会論の展開(5)	現代の市民社会論について	アーレント・ハーバーマースについて調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	日本の「市民社会」論	日本の思想家による「市民社会」のとらえ方について	丸山真男について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	事例研究:ポーランドの民主化運動(1)	ポーランドの社会主義と自主管理労組「連帯」の活動について	第二次世界大戦後のポーランドについて調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	ポーランドの民主化運動(2)	東欧の民主化の先導役としてのポーランドが辿った過程について	レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	チェコスロヴァキアの民主化運動(1)	チェコスロヴァキアの社会主義と1968年の「プラハの春」について	チェコスロヴァキアの独立(1918)から解体(1939)について調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	チェコスロヴァキアの民主化運動(2)	チェコスロヴァキアの社会主義と市民社会の関わりについて	レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	チェコスロヴァキアの民主化運動(3)	1989年のビロード革命について	ハヴェルについて調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする(約4時間)

関連科目 世界の政治と社会、国際関係史、国際関係論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	市民社会論	吉田傑俊	大月書店
2	近代市民社会の成立	成瀬治	東京大学出版会
3	社会主義の20世紀(第3巻)	伊東孝之・南塚信吾	日本放送出版協会

評価方法(基準)	原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。平常点20%(小テスト(第5回・第10回の授業の前半で実施予定))、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	小テストの解答はポータルサイトに掲載します。

科目名	社会保障法	科目名(英文)	Social Security Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3056a0		

授業概要・目的	社会保障法は、現代の国民の生活に欠かすことができない法分野であるとともに、企業や国家にとっても重要な意味をもつ法分野でもあります。現在の日本のおかれている状況を理解し、社会のあり方を考えるための一つ的手段として、社会保障法を概観したいと考えています。授業担当者は、弁護士として17年、裁判官として22年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、社会保障の概要を理解するとともにこれが国の政策において極めて大きな部分を占めていること、社会保障の現代的な課題が自らの将来にも深く関係することを実感して、国の政策などに積極的な興味を持つようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義では後記教科書を使用するほか、論点を整理したレジュメを適宜配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。授業においては教科書を必ず携帯してください。
科目学習の効果(資格)	社会保険労務士の資格取得のための必須科目であり、公務員試験の一般教養などでの出題も考えられます。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会保障の歴史と枠組み	・社会保障の歴史 ・社会保障の定義、体系	教科書プロローグとChapter1(3頁から21頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
2	年金制度(1)	・公的年金制度の全体像 ・国民年金と厚生年金、共済年金	教科書Chapter2(22頁から50頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
3	年金制度(2)	・年金給付の概要	教科書Chapter2(22頁から50頁)を再度確認し、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
4	医療保障制度(1)	・医療保障の概要、体系	教科書Chapter3(51頁から75頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
5	医療保障制度(2)	・医療保障の給付 ・混合診療 ・医療保障の財政	教科書Chapter3(51頁から75頁)を再度読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
6	介護保障	・介護保険の仕組み	教科書Chapter4(76頁から97頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
7	労災補償	・労災補償制度と労災保険 ・労災の認定	教科書Chapter5(98頁から125頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
8	雇用保険	・雇用保険制度の成り立ち ・失業給付	教科書Chapter6(126頁から152頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
9	社会福祉制度	・社会福祉制度の全体像 ・社会福祉法人	教科書Chapter7(153頁から178頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
10	障害者福祉	・障害者総合支援法による支援 ・福祉サービスにおける給付の具体例	教科書Chapter8(179頁から207頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
11	児童福祉と社会手当	・児童福祉制度の概要 ・ひとり親家庭の支援 ・育児に関する金銭給付	教科書Chapter9(208頁から235頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
12	公的扶助(生活保護)	・生活保護法の概要	教科書Chapter10(236頁から263頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
13	グローバル化と社会保障	・外国人と社会保障 ・在外邦人と社会保障	教科書Chapter12(290頁から318頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
14	紛争の解決と救済 社会保障の根拠法	・不服申立ての手続 ・審査請求と行政訴訟 ・社会保障法の構造	教科書Chapter11(264頁から289頁)、Chapter13(319頁から338頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足します。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと(1時間)。

関連科目	憲法、民法、労働保護法、労働組合法
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブリッジブック社会保障法(第2版)	菊池馨実(編)・稲森公嘉ほか	信山社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	目で見る社会保障法教材【第5版】	岩村正彦ほか	有斐閣
2				
3				

評価方法(基準)	期末テストの成績(70%)、受講態度(20%)、授業中の小テスト(10%)で評価します。受講者が極端に少ない場合、期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
----------	--

学生へのメッセージ	社会保障は、どこか遠くのものではなく、自分たち自身に密接に関連するものであることを認識し、意動的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館9階 川谷教授室
----------	--------------

備考	学生の皆さんが興味を持ったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業の中でとりあげます。小テストの解説は次回講義で行います。
----	--

科目名	住民協働論	科目名(英文)	Residents Cooperative Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3078a0		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPOなどが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、協働概念を理解するのに必要な概念について説明することができ、文献の要点をまとめ、分かりやすく発表することができ、地域の問題を自分の問題として考え、意見を持つことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	各回の授業は次のような手順で行う 1. 予習として、あらかじめ課題文献を読んでおく（Moodle 配布） 2. 授業冒頭 5 分間に、予習した内容についての確認テストを行う 3. 課題文献の内容を共有する（Active Book Dialogue） 4. グループに分かれ、内容について議論をする 5. ふりかえりシートに記入する
科目学習の効果（資格）	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	事前：『地域公共人材をつくる』序章を読む（1時間）
2	協働型社会の理論	協働型社会についての理論を学ぶ。	事前：『地域公共人材をつくる』第1章を読む（1時間）
3	地域公共人材の意味	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	事前：『地域公共人材をつくる』第2章を読む（1時間）
4	協働と地域公共人材	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	事前：『地域公共人材をつくる』第3章を読む（1時間）
5	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	事前：『地域公共人材をつくる』第4章と第7章を読む（1時間）
6	協働の担い手としての子どもたち	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。熊本県水川町富原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	事前：『地域公共人材をつくる』第5章と第6章を読む（1時間）
7	NPOと協働	兵庫県芦屋市と愛知県田原市を事例に、NPOが人材育成に果たす役割について考察する。	事前：『地域公共人材をつくる』第8章と第9章を読む（1時間）
8	市民と企業、市民と議会の協働	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	事前：『地域公共人材をつくる』第10章と第13章を読む（1時間）
9	住民運動と市民活動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	事前：『地域公共人材をつくる』第11章と第12章を読む（1時間）
10	協働と地域公共人材の展望	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	事前：『地域公共人材をつくる』第14章と終章を読む（1時間）
11	住民の権利と責任	憲法や地方自治法における住民の位置づけについて学ぶ。	事前：『地方自治と民主主義』第6章を読む（1時間）
12	住民意識の変化と自治行政	住民の受益者化について学ぶ。	事前：『地方自治と民主主義』第7章を読む（1時間）
13	住民運動の衝撃	住民運動の特色について学ぶ。	事前：『地方自治と民主主義』第8章を読む（1時間）
14	住民参加への取り組み	住民参加の意義と課題について学ぶ。	事前：『地方自治と民主主義』第9章を読む（1時間）
15	対立から協働へ	行政と住民の対立関係を協働関係に変えるための方法について考察する。	事前：論文「行政広報は『お知らせ』以上のものになれるか？」を読む（1時間）

関連科目 「地方自治論」では地方自治に関する知識を講義形式で学ぶことができます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域公共人材をつくる：まちづくりを担う人たち	今川晃・梅原豊	法律文化社
	2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局

評価方法（基準） 定期試験 50%、小テスト 30%、ふりかえりシート 20%

学生へのメッセージ 協働の前提として、住民が自治の主体としての自覚を持つことが必要です。自治意識をもった住民をどのようにして育てるのかを考えていきましょう。

担当者の研究室等 11号館10階 増田講師室

備考 小テストの解答については、当日の授業の最後に解説する。  
ふりかえりシートについては、次の回の授業でフィードバックを行う。

科目名	少年法	科目名(英文)	Juvenile Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本授業では、現代社会におけるさまざまな社会問題に対して刑事法がどのように関わっているのかについて、事例や判例、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、現代社会における刑事法の役割、関わり方などについて、基本的な知識を修得するとともに、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業方法 下記で示した参考書をもとに作成したレジュメを中心に講義を行うが、テーマによってはPowerPointや視聴覚教材を使用する。講義の進め方は、各回につき一つのテーマについて解説してイオムニバス形式で行う予定。</li> <li>●留意点 授業の進行の都合上、授業内容やその順番を若干入れ替えることがある(重要判例が出たり、重大事件が発生したりしたような場合など)。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人には必ずどこかで役に立つはずである。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	2	少年事件報道について①	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	3	少年事件報道について②	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	4	少年非行について①	少年非行の原因について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	5	少年非行について②	非行少年の更生について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	6	犯罪被害者について	犯罪被害者の保護などに関する法制度などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	7	障害者による犯罪について	障害者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	8	性犯罪について	性犯罪の概況とその対策及び性犯罪に関する近時の法改正について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	9	ストーカー犯罪について	ストーカー犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	10	高齢者犯罪について	高齢者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	11	交通犯罪について	交通犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	12	冤罪事件について	冤罪事件の紹介、冤罪の発生原因などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	13	時事問題について①	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	14	時事問題について②	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
	15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)

関連科目 刑事政策、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法応用講義、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、経済刑法、地域防犯政策など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事政策(第2版)	川出敏裕・金光旭	成文堂
	2	ビギナーズ刑事政策(第3版)	守山正・安部哲夫	成文堂
	3	犯罪白書(各年度版)	法務総合研究所編	法務省

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	現代においては、さまざまな社会問題が発生しているが、その解決方法は必ずしもひとつでなく、そうした社会問題に対して、刑事法の視点から、そのメリット・デメリット、その限界などを踏まえた上で、自分なりにいろいろ考えて「説得力のある」解決方法を探し出してみたい。
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
備考	小テストの解説については次回の授業において行う。

科目名	消費者と法	科目名(英文)	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防止、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防止、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行います。具体的な事例をどう解決するか、という点を中心に授業を進める予定です。
科目学習の効果(資格)	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
4	消費者契約法(3)	不当約款規制(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
5	消費者契約法(4)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
6	特定商取引に関する法律(1)	特商法の全体像、クーリング・オフ制度	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
7	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売・電話勧誘販売・通信販売	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
8	特定商取引に関する法律(3)	特定継続的役務提供・連鎖販売取引・業務提供誘引販売取引	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
9	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引・多重債務者問題	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
10	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
11	商品安全と法(2)	製造物責任法(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
12	商品安全と法(3)	製造物責任法(2)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
13	商品安全と法(4)	食の安全と法(1) －食品添加物は有害か? リスク評価の意義と限界－	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
14	商品安全と法(5)	食の安全と法(2) －食のグローバル化と食の安全－	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
15	商品安全と法(6)	食の安全と法(3) －食の安全・安心と表示規制－	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。

関連科目 民法法関連科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 消費者法 第3版	中田邦博他編	日本評論社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者法判例インデックス	松本恒雄他編	商事法務

評価方法 (基準) 定期試験(70%) および課題レポート(30%)の合計点で評価します。ただし、授業妨害行為(私語・携帯電話の使用・騒々しい途中入退室等)に対しては、減点措置を講じ、度重なる場合は単位不授与とする。ヒソヒソ話も禁止。厳格に対処するので注意すること。

学生へのメッセージ 悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。

担当者の研究室等 11号館10階 城内准教授室

備考 課題レポートは、最終授業日を提出期限とします。期限に遅れた場合、正当な理由がない限り、受け取りませんのでご注意ください。レポートは採点の上、試験時に返却します。

科目名	消費者と法	科目名(英文)	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3040a0		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防止、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防止、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行います。具体的な事例をどう解決するか、という点を中心に授業を進める予定です。
科目学習の効果(資格)	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
4	消費者契約法(3)	不当約款規制(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
5	消費者契約法(4)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
6	特定商取引に関する法律(1)	特商法の全体像、クーリング・オフ制度	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
7	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売・電話勧誘販売・通信販売	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
8	特定商取引に関する法律(3)	特定継続的役務提供・連鎖販売取引・業務提供誘引販売取引	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
9	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引・多重債務者問題	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
10	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
11	商品安全と法(2)	製造物責任法(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
12	商品安全と法(3)	製造物責任法(2)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
13	商品安全と法(4)	食の安全と法(1) -食品添加物は有害か? リスク評価の意義と限界-	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
14	商品安全と法(5)	食の安全と法(2) -食のグローバル化と食の安全-	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
15	商品安全と法(6)	食の安全と法(3) -食の安全・安心と表示規制-	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。

関連科目 民法法関連科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 消費者法 第3版	中田邦博他編	日本評論社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者法判例インデックス	松本恒雄他編	商事法務

評価方法 (基準) 定期試験(70%) および課題レポート(30%)の合計点で評価します。ただし、授業妨害行為(私語・携帯電話の使用・騒々しい途中入退室等)に対しては、減点措置を講じ、度重なる場合は単位不授与とする。ヒソヒソ話も禁止。厳格に対処するので注意すること。

学生へのメッセージ 悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。

担当者の研究室等 11号館10階 城内准教授室

備考 課題レポートは、最終授業日を提出期限とします。期限に遅れた場合、正当な理由がない限り、受け取りませんのでご注意ください。レポートは採点の上、試験時に返却します。

科目名	商法応用講義	科目名(英文)	Advanced Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3101a0		

授業概要・目的	ロースクールや研究者になるために大学院への進学を希望する学生や国家公務員の試験に合格することを旨とする学生に対して、商法、特に会社法について、高度の知識と応用性を付けるために、重要な法律上の問題を順次、講義する。 本講義の目的は、ロースクールや法科大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用性を修得することである。
到達目標	この授業を通じて、学生は、ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用性を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、練習問題を解き、解答について分析する。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。 授業開始直後、毎回、復習テストを行う。
科目学習の効果(資格)	ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用性を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	会社の設立	株式会社の設立手続の特徴、会社の定款、発起人組合と設立中の会社、開業準備行為、財産引受の無効と会社の追認の可否などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
3	株式(1)	株式の本質、単元株制度、株券発行前の株式譲渡の効力、譲渡制限株式の譲渡、契約による株式の譲渡制限、種類株式、自己株式取得の要件などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
4	株式(2)	株券所持制度、株券の発行・不発行、株券発行の時期、株券喪失登録制度、株式の名義書換え、名義書換え未了株式譲受人の地位などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
5	株主総会	株主総会・取締役会・代表取締役・執行役、株主総会の招集権、株主提案権、書面投票制度・電磁的方法による議決権行使などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
6	取締役(1)	株主総会と取締役会との権限の関係、取締役会決議の瑕疵、代表取締役と取締役会との権限の関係、代表取締役の職務執行の適正確保などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
7	取締役(2)	取締役の善管注意義務、取締役の競業禁止義務、取締役の利益相反、取締役の報酬、取締役の権利義務者・一時取締役・取締役の職務代行者・補欠取締役などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
8	監査役	監査役による監査と取締役会による監査、内部統制システムと監査役、会計参与・監査役・会計監査人の異同などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
9	計算	資本金・株式・会社財産の関係、剰余金の分配に関する規制、現物配当、法定準備金、剰余金の配当等と会社債権者の保護、違法配当の効果などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
10	資金調達(1)	資金調達における株主の保護、資本金の額の増加の方法、株式会社設立時の株式発行と設立後の新株発行の差異、新株の第三者割当などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
11	資金調達(2)	公示義務違反、差止違反の株式発行の効力、新株発行の不存在と不存在確認の訴え、新株予約権、株式と社債の異同、社債権者の保護などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
12	企業再編(1)	持株会社(完全親子会社)、企業買収防衛策、合併比率の不正、会社分割と会社債権者の保護などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
13	企業再編(2)	特別支配株主の株式等売渡請求、組織再編における価格決定申立てによる公正な価格、株式の相互保有、親子会社、一人会社などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
14	資本金の額の減少・解散	資本金の額の減少、資本金額減少無効の訴え、会社の解散・清算、解散命令と解散判決を学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。
15	持分会社	持分会社の社員の責任と地位、合名会社の投資資本の回収方法、持分会社および株式会社における出資の確保などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認(1時間)すること。授業で配布した資料を読むこと。

関連科目	会社法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プライマリー会社法 (最新版)	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%			
学生への メッセージ	予習を十分にすること。授業中、ポケット六法を携帯すること。			
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室			
備考	教科書の該当箇所の予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。			

科目名	商法総論	科目名(英文)	Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2046a0		

授業概要・目的	<p>商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、本講義で教授する商法総則・商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。</p> <p>商法総則では、商法の基本概念である商人・商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また、商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について、講義を行う。</p>
到達目標	この授業を通じて、学生は、商法総則・商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。講義中心で行うが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、毎回、復習の確認テストを行う。
科目学習の効果(資格)	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	商法の意義、商法の基本 概念、商法の歴史、商法の特色 と傾向、商法の法源	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人について学ぶ。	事前に教科書2ページ～23ページを読むこと(1時間) 事後に教科書2ページ～23ページを読むこと(1時間)
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力について学ぶ。	事前に教科書26ページ～32ページを読むこと(1時間) 事後に教科書26ページ～32ページを読むこと(1時間)
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果について学ぶ。	事前に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
4	商業登記(1)	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力について学ぶ。	事前に教科書35ページ～42ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
5	商業登記(2)	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力について学ぶ。	事前に教科書43ページ～45ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	事前に教科書46ページ～62ページを読むこと(1時間)を読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の貸借・経営委任、商業帳簿の総説について学ぶ。	事前に教科書63ページ～85ページを読むこと(1時間) 教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了について学ぶ。	事前に教科書86ページ～105ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
9	商行為(1)	絶対的商行為、営業的商行為(1)について学ぶ。	事前に教科書108ページ～115ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
10	商行為(2)	営業的商行為(2)、付属的商行為について学ぶ。	事前に教科書115ページ～117ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	事前に教科書117ページ～141ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了について学ぶ。	事前に教科書142ページ～146ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋について学ぶ。	事前に教科書160ページ～168ページを読むこと(1時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読むこと(1時間)
14	運送営業(1)	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送について学ぶ。	事前に教科書169ページ～181ページを読むこと(1時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読むこと(1時間)
15	運送営業(2)	貨物引換証、乗車券の性質について学	事前に教科書181ページから189ページを

		ぶ。	むこと (1時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読むこと (1時間)
関連科目	民法、会社法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プライマリー商法総則商行為法 (最新版)	藤田勝利・北村雅史編
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験 70 パーセント 授業中の復習テスト 30 パーセント		
学生へのメッセージ	商法総則・商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室		
備考	予習・復習にはそれぞれ、1時間とってください。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。		

科目名	商法総論 I	科目名 (英文)	Commercial Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、本講義で教授する商法総則・商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。</p> <p>商法総則では、商法の基本概念である商人・商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また、商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について、講義を行う。</p>
到達目標	この授業を通じて、学生は、商法総則・商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。講義中心で行うが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、毎回、復習の確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	商法の意義、商法的基本概念、商法の歴史、商法の特徴と傾向、商法の法源	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人について学ぶ。	事前に教科書 2 ページ～2 3 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 2 ページ～2 3 ページを読むこと (1 時間)
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力について学ぶ。	事前に教科書 2 6 ページ～3 2 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 2 6 ページ～3 2 ページを読むこと (1 時間)
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果について学ぶ。	事前に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
4	商業登記 (1)	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力について学ぶ。	事前に教科書 3 5 ページ～4 2 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
5	商業登記 (2)	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力について学ぶ。	事前に教科書 4 3 ページ～4 5 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	事前に教科書 4 6 ページ～6 2 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の貸借・経営委任、商業帳簿の総説について学ぶ。	事前に教科書 6 3 ページ～8 5 ページを読むこと (1 時間)	教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了について学ぶ。	事前に教科書 8 6 ページ～1 0 5 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
9	商行為 (1)	絶対的商行為、営業的商行為 (1) について学ぶ。	事前に教科書 1 0 8 ページ～1 1 5 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
10	商行為 (2)	営業的商行為 (2)、付属的商行為について学ぶ。	事前に教科書 1 1 5 ページ～1 1 7 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	事前に教科書 1 1 7 ページ～1 4 1 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了について学ぶ。	事前に教科書 1 4 2 ページ～1 4 6 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 3 2 ページ～3 4 ページを読むこと (1 時間)
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋について学ぶ。	事前に教科書 1 6 0 ページ～1 6 8 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 1 6 0 ページ～1 6 8 ページを読むこと (1 時間)
14	運送営業 (1)	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送について学ぶ。	事前に教科書 1 6 9 ページ～1 8 1 ページを読むこと (1 時間)	事後に教科書 1 6 0 ページ～1 6 8 ページを読むこと (1 時間)
15	運送営業 (2)	貨物引換証、乗車券の性質について学	事前に教科書 1 8 1 ページから 1 8 9 ページを	

		ぶ。	むこと (1時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読むこと (1時間)
関連科目	民法、会社法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プライマリー商法総則商行為法 (最新版)	藤田勝利・北村雅史編
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験 70 パーセント 授業中の復習テスト 30 パーセント		
学生へのメッセージ	商法総則・商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室		
備考	予習・復習にはそれぞれ、1時間とってください。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。		

科目名	親族法	科目名(英文)	Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2038a0		

授業概要・目的	<p>民法の第4編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から検討を行う。親族関係は、戸籍制度とも密接に関係し、現在の日本において避けては通ることのできないものであり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるのかの把握も行う。</p> <p>授業担当者は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。</p>
到達目標	この授業を通じて学生には、身近な分野である家族法について民法に規定されている基礎的な法的知識を自分のものするとともに、家族について考える契機とすることが期待される
授業方法と留意点	レジュメに沿いつつ講義形式で行う。具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	家族法概論	家族法の概略、意義、身分行為など	これまで学習した民法を全体的に確認し見直すこと(約1時間)
	2	家族紛争の解決方法	家事事件の処理手続、氏名、戸籍	実体法と手続法の違いを確認し見直すこと(約1時間)
	3	婚姻の成立と不成立	婚姻の成立と成立が否定される場合	どのような場合は婚姻できないのかについて確認し見直すこと(約1時間)
	4	婚姻の効力	婚姻の効力について学ぶ	婚姻すると同様な法的効果が発生するのかについて確認し見直すこと(約1時間)
	5	夫婦財産制 日常家事債務	夫婦間の財産関係	夫婦と他人の違いについて確認し見直すこと(約1時間)
	6	離婚	離婚制度	離婚とはどのようなものかについて確認し見直すこと(約1時間)
	7	協議離婚、裁判離婚、調停離婚	離婚するには	離婚によって生ずる問題ひはどのようなことがあるのかについて確認し見直すこと(約1時間)
	8	離婚に伴う財産関係	財産分与	財産分与の目的と内容するのかについて確認し見直すこと(約1時間)
	9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	子の福祉の重要性について確認し見直すこと(約1時間)
	10	実親子関係	実親子、嫡出制度	法的に親子関係を形成する意義を検討・確認し見直すこと(約1時間)
	11	親子関係	認知、準正	法的な親子関係の成立とは何か、生物学的なものどう違うのかを整理・確認し見直すこと(約1時間)
	12	養子関係	養子制度	養子縁組の意義と手続について確認し見直すこと(約1時間)
	13	成年後見	成年後見制度の意義と問題点	高齢者社会の到来と成年後見制度について確認し見直すこと(約1時間)
	14	扶養	扶養の内容、扶養義務者	扶養について確認し見直すこと考える(約1時間)
	15	全体の復習	全体を復習する	親族法全般についてわからない点を確認する(約1時間)

関連科目	民法に関連する講義全般。 特に相続法とは大きな関連を有する。
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法7 親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)と授業中の小テスト(30%)で評価する
学生へのメッセージ	身近な法律であるだけに、正確な知識を持つことが重要である。
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室
備考	授業の進行に応じて順序、内容を変更することがある。小テストの解答はその回の授業で行う。

科目名	スポーツ医学の理論と実際	科目名(英文)	Theory and Practice of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	今井 大喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3117a0		

授業概要・目的	運動やスポーツの実施による身体の変化と適応について、医学・運動生理学的アプローチからその基礎を学び、健康管理に必要な理論と実際について理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、運動やスポーツの実践によって健康の維持・増進をはかり、心身共に充実した体力を養いながら、自らの理想とする健康を獲得するための指導・支援・助言ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義および演習形式で授業を進める。また、必要に応じて配付資料を提供したり視聴覚教材を使用したりする。
科目学習の効果(資格)	スポーツプログラマーに必要な医学・運動生理学の理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	健康と体力について	テキスト p3-4 を事前に読んでおくこと (30分)。 配付資料の内容を復習すること (30分)。
2	体力と身体運動	体力の分類と各要素の発育・発達	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
3	運動のメカニズム 1	運動の中枢、筋の分類	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
4	運動のメカニズム 2	筋収縮の様式、筋の代謝特性 小テスト実施	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
5	体力における精神的要素	メンタルストレス	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
6	精神的ストレスへの対抗手段	メンタルストレスに対する運動・スポーツの効果とその作用機序	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
7	フィットネスエクササイズ の概念	体調管理の意義と方法	テキスト p83-88 を事前に読んでおくこと(1時間)。 配布資料の内容を復習すること (30分)。授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)。
8	フィットネスエクササイズ 実施の事前準備とアフター ケア	ウォーミングアップとクーリングダウン	テキスト p93-99 を事前に読んでおくこと (30分)。 配布資料の内容を復習しておくこと (30分)。
9	持久力トレーニング	全身持久力、筋持久力	テキスト p9-69、p107-110 を事前に読んでおくこと (1時間)。 配布資料の内容を復習すること (30分)。
10	筋力トレーニング	マシントレーニング、筋パワー	テキスト p9-69、p107-110 を事前に読んでおくこと (1時間)。 配布資料の内容を復習すること (30分)。
11	フィットネスプログラム	子ども、中年、高齢者、女性、障がい者 別アプローチ	テキスト p127-166 を事前に読んでおくこと (1時間)。 配布資料の内容を復習すること (30分)。 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)。
12	安全管理	RICE 処置、熱中症の種類と発生機序、 その予防と対処法、AEDを用いた心肺蘇 生法の実際	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
13	コンディショニング 1	スポーツ実施者の食事摂取の基本、コン ディショニング維持とビタミン摂取	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
14	コンディショニング 2	骨づくりとカルシウム、血予防と鉄・タ ンパク質摂取 小テスト実施	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	テキストのこれまで学習した関連項目について整理しておくこと (1時間)。

関連科目	スポーツ医学の基礎
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト 2回 (20%)、レポート 2回 (20%)、まとめテスト (60%) の複数項目の合計で評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、体の仕組みと身体運動の科学的理解を深めて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館 1階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	小テストの正解は、次の回の授業で解説する。 レポートは、評価をしたうえで次の回の授業で直接返却する。
----	---

科目名	スポーツ栄養学	科目名(英文)	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	古野 幸子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	健康の保持・増進の観点からスポーツにおけるコンディショニングの土台となる栄養の知識について学び、スポーツに関連した食についての理解を深めていく。
到達目標	栄養学の基礎を学びながら、運動実践者のための栄養知識を習得していく。 競技種目や競技レベルに関わらず、スポーツを行うすべての人に対して栄養指導を行えるよう基礎的理解の習得を目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行う。 適宜、課題や小テストを実施する。
科目学習の効果(資格)	日常生活で実践可能な基礎栄養学からスポーツ栄養学へと応用できる知識を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	スポーツ栄養学とは 食事バランスガイド	事前：栄養学の基礎について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
2	エネルギー代謝(1)	スポーツにおける栄養の役割 エネルギー供給機構	事前：エネルギー供給機構について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
3	エネルギー代謝(2)	エネルギー消費量と貯蔵エネルギー	事前：エネルギー消費量、貯蔵エネルギーについて予習(1時間)	事後：復習(1時間)
4	5大栄養素(1)：糖質	糖質の役割と摂取方法	事前：糖質の役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
5	5大栄養素(2)：脂質	脂質の役割と摂取方法	事前：脂質の役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
6	5大栄養素(3)：たんぱく質	たんぱく質の役割と摂取方法	事前：たんぱく質の役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
7	5大栄養素(4)：ミネラル	ミネラルの役割と摂取方法	事前：ミネラルの役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
8	5大栄養素(5)：ビタミン	ビタミンの役割と摂取方法	事前：ビタミンの役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
9	水分補給	スポーツ時における水分補給の重要性と補給方法 熱中症：症状と対応	事前：水分補給、熱中症について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
10	サプリメント	サプリメント(栄養補助食品)の利用方法 ドーピングの基礎知識	事前：サプリメントについて予習(1時間)	事後：復習(1時間)
11	スポーツ栄養の実際(1)	スポーツ栄養学に基づいた体重管理の方法	事前：減量、増量について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
12	スポーツ栄養の実際(2)	スポーツ栄養学に基づいた試合前後の食事	事前：試合前後の食事方法について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
13	スポーツ栄養の実際(3)	スポーツ栄養学に基づいたトレーニング期の食事	事前：トレーニング期分けに基づいた摂取方法について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
14	スポーツ栄養の実際(4)	スポーツ栄養学に基づいたケガ期の食事	事前：傷害別摂取方法について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
15	まとめ	講義内容の総括を行う	事前：課題提出	

関連科目	スポーツ医学の理論と実際
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口 満	市村出版
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト、課題提出などで評価をするが平常態度なども総合して判断する。 小テスト 60%、提出物 30%、レポート 10%
学生へのメッセージ	知識を実践に生かしてこそ栄養学は生きてきます。 健康増進やパフォーマンスの向上に役立てられるよう学んで行きましょう。
担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	小テストの解答は授業時に行う。 提出物・レポートは、評価をしたうえで次の回の授業で返却する。

科目名	スポーツ教育学	科目名(英文)	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動や行動がインターネットやメディアに大きく取り上げられることも多い。本講義では、スポーツがもたらす様々な教育効果や情報が社会に与える功罪について考え、社会人として必要な基礎知識を学習することを目的とする。 担当者は大阪府立高等学校学校協議会の委員や交野市との地域連携講座の講師などを務め、教育にかかわる諸問題に取り組むことによってこの授業での内容をより深めることができる。
到達目標	この授業を通じて学生には、①スポーツに関わる道徳問題を理解し、②スポーツがもたらす教育効果を理解できるようになることを期待する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。またテーマに応じてグループ発表も行う。 教科書は使用しないが、適宜授業資料を配布する。
科目学習の効果(資格)	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	基礎教育(1)	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。(1時間)
	2	基礎教育(2)	自己アピール プロフィール	自己紹介文を作成する。(1時間)
	3	スポーツと人格(1)	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し(1時間)
	4	スポーツと人格(2)	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し(1時間)
	5	スポーツと教育(3)	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し(1時間)
	6	スポーツと教育(4)	プロスポーツとアマチュアリズム	配布プリントの読み返し(1時間)
	7	スポーツと教育(5)	薬物問題とドーピング	配布プリントの読み返し(1時間)
	8	スポーツと学校教育(1)	体罰問題①	配布プリントの読み返し(1時間)
	9	スポーツと学校教育(2)	体罰問題②	配布プリントの読み返し(1時間)
	10	スポーツと学校教育(3)	スポーツ特待生について	配布プリントの読み返し(1時間)
	11	スポーツの功罪(1)	ジュニア期のスポーツ	配布プリントの読み返し(1時間)
	12	スポーツの功罪(2)	燃え尽き症候群について考える。	配布プリントの読み返し(1時間)
	13	障がい者とスポーツ(1)	パラリンピック	配布プリントの読み返し(1時間)
	14	障がい者とスポーツ(2)	レクリエーションからチャンピオンスポーツへ	配布プリントの読み返し(1時間)
	15	障がい者とスポーツ(3)	障がい者スポーツの問題点	配布プリントの読み返し(1時間)

関連科目	スポーツ科学実習 I a、I b、II a、II b、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実践
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト50%、平常点(レポート、プレゼンテーションおよび授業態度など)50%を総合して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館 近藤研究室
備考	小テストの解答は授業時に行う。

科目名	スポーツ社会学	科目名(英文)	Sports Sociology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会学的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点からの確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	スポーツに関する社会学的な知識を身につけることが可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
	2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
	3	スポーツ人口の構造(1)	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
	4	スポーツ人口の構造(2)	年齢別、性別スポーツ参加状況	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
	5	少子・高齢化とスポーツ(1)	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
	6	少子・高齢化とスポーツ(2)	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
	7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
	8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加、および習熟度を確認するための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
	9	スポーツの社会的基盤(1) - 諸外国とわが国との比較検討 -	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
	10	スポーツの社会的基盤(2) - 諸外国とわが国との比較検討 -	企業および民間クラブ	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
	11	スポーツと社会化(1)	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
	12	スポーツと社会化(2)	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
	13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
	14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
	15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目	地域とスポーツ等
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。

科目名	スポーツ心理学	科目名(英文)	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動の基礎となる運動や人について、心理学的な側面から理解を深めることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。
3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。
4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機づけの方法を抜粋し整理する。
5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ	スランプとプラトウの違いを整理する。
6	リーダーシップとスポーツ(1)	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。
7	リーダーシップとスポーツ(2)	リーダーシップの形式	配布資料の理解。
8	リーダーシップとスポーツ(3)、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割とPM理論、および到達度確認のための試験	これまでの講義の整理とその理解。
9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。
10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法	関連資料に目を通す。
11	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係	パーソナリティという言葉の検索。
12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。
13	心理的スキルとパフォーマンス(1)	心理的スキルがパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。
14	心理的スキルとパフォーマンス(2)	心理的スキルとパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系づけて整理する。

関連科目	スポーツに関係する科目全般
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
-----------	----------------

担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
----------	---------------

備考	各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度確認試験の解説は、次の回の授業で行う。
----	---

科目名	スポーツ政策論	科目名(英文)	Sports Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3113a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツ(振興)政策の立案過程を踏まえたうえで、スポーツと政策との関係について理解を深める。同時に、法・政策に対する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ(振興)政策が担う社会的役割に関する知見を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等を行うこともあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。
	2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。
	3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。
	4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織、団体	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。
	5	スポーツ活動の促進とスポーツ政策(1)	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義、歴史の変遷	スポーツの社会的意義を整理する。
	6	スポーツ活動の促進とスポーツ政策(2)	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。
	7	スポーツ活動の促進とスポーツ政策(3)	わが国におけるスポーツ振興施策、健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。
	8	スポーツ活動の促進とスポーツ政策(4)	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。
	9	スポーツ活動の促進とスポーツ政策(5)	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める
	10	スポーツ活動の促進とスポーツ政策(6)、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認試験の実施	前5回の講義と今回とを関連づけて整理する。
	11	競技力の向上とスポーツ政策(1)	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。
	12	競技力の向上とスポーツ政策(2)	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。
	13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。
	14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。
	15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認のための臨時試験を行う	これまでの講義を体系立てて復習する

関連科目	スポーツと法律等
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ		日本スポーツ協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい
-----------	--------------

担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
----------	---------------

備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。
----	--

科目名	スポーツと法律	科目名(英文)	Sports and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2089a0		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連する判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、法とスポーツ活動との様々な接点を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等を行うこともあるので留意されたい。教科書を用いるとともに、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと法(1)	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。
	2	スポーツと法(2)	スポーツ法の概念、特性およびその対象	前回の講義と関連づけてまとめる。
	3	スポーツと法(3)	スポーツ基本法の制定	関連資料に目を通すこと。
	4	スポーツと法(4)	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。
	5	スポーツに親しむ権利(1)	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。
	6	スポーツに親しむ権利(2)	スポーツ権論	前回の講義と関連づけてまとめる。
	7	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ(生涯スポーツ)の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。
	8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認試験の実施	これまでの講義を体系的にまとめること。
	9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。
	10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー	関連資料に目を通すこと。
	11	スポーツ事故と法的責任(1)	スポーツ事故と法(民事責任、刑事責任)	民法、刑法の関連条項の整理。
	12	スポーツ事故と法的責任(2)	危険の引き受けと引き受けた危険	危険の引き受けと引き受けた危険との相違点をまとめる。
	13	スポーツ事故と法的責任(3)	スポーツと学校事故	配布資料に目を通すこと。
	14	スポーツ事故と法的責任(4)	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる
	15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認のための臨時試験の実施	講義全体を体系的に整理する。

関連科目	スポーツ政策論等
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社
	2	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ		日本スポーツ協会
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。
-----------	------------------

担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
----------	---------------

備考	各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度試験については次の回の授業で解説する。
----	---

科目名	スポーツの歴史	科目名(英文)	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	スポーツは実践することと観戦することの両方が楽しめる。スポーツの文化としての奥深さはその起源、ルールの変遷、そして名プレイヤーなどについて学ぶことでさらに深まる。特にオリンピックは2020年東京で開催されることが決まり、オリンピックの歴史を学ぶことがスポーツ文化を学ぶことになる。また、スポーツのルールの変遷は、テレビなどのマスコミに左右される時代である。ルールの変遷に伴い技術・戦術なども大きく変わってきた。本講義では、それらの歴史を学ぶことによって教養を高め、よりスポーツを楽しめるような基礎知識を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①オリンピックの歴史を飾ってきたメダリストや出来事について学習し、オリンピックの変遷を理解する。②各スポーツの歴史と発展に貢献した人物について学習する。③スポーツ用具やスポーツ技術の進化とルールの変遷とのかかわりを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。第1回目のガイダンスは、授業方針、目的、評価方法など詳細を説明するので欠席しないように。
科目学習の効果(資格)	スポーツの歴史を理解し、オリンピックを中心としたスポーツ文化を学ぶことによって、社会人として必要な幅広い教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	オリンピックの歴史(1)	古代オリンピック I	インターネットで古代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
3	オリンピックの歴史(2)	古代オリンピック II 近代オリンピックへの変遷	インターネットで古代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
4	オリンピックの歴史(3)	近代オリンピック I (創成期) 近代オリンピックの発案者 日本のオリンピックへの参加	インターネットで近代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
5	オリンピックの歴史(4)	オリンピックにおいて日本に貢献した人物①	インターネットで近代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
6	オリンピックの歴史(5)	近代オリンピック II (第2次世界大戦まで)	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
7	オリンピックの歴史(6)	オリンピックにおいて日本に貢献した人物②	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
8	オリンピックの歴史(7)	近代オリンピック III (第2次世界大戦から現代まで)	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
9	サッカーの歴史(1)	サッカーの起源からラグビーの分化まで	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
10	サッカーの歴史(2)	日本サッカーの歴史	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
11	テニスの歴史	テニスの起源と現代テニス	インターネットでテニスについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
12	その他のスポーツの歴史	柔道、バスケットボール、バレーボール、野球など	インターネットで各スポーツの歴史について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
13	スポーツ用具の変遷	スポーツ用具の材料や形状の変遷について	インターネットでスポーツ用具について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
14	スポーツルールの変遷	様々なスポーツでのルールの変遷について	インターネットでスポーツルールについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
15	スポーツ新技術	スポーツ新技術がもたらした革命	インターネットでスポーツ新技術について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)

関連科目 スポーツ科学実習 I a、I b、II a、II b、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	平常点(レポートや授業態度など)50%、小テスト50%を合計して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館 近藤研究室
備考	小テストの解答は授業時に行う。

科目名	スポーツビジネス	科目名(英文)	Sports Business
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、そこでは法律問題も当然に生じる。この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、各種契約、スポーツにおいて生じた事故など、スポーツと法律に関する問題を取り上げ、さらに、スポーツに関するビジネスについての概要についても確認する予定である。なお、講義の流れは、民法の流れに沿い、民法総則・契約法・不法行為法などの視点から行う予定である。
到達目標	この授業を通じて、学生にはスポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメ・資料等を用いて行う。また、教科書も使用する。民事法との関係を中心に検討を行う予定であるので、民法内容についても講義の中で適宜確認を行う。
科目学習の効果(資格)	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。
2	自然人とスポーツ①	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法における人の概念を見直すこと。
3	自然人とスポーツ②	自然人とスポーツの関係を確認する。	生涯を持つ者と民法との関係を見直すこと。
4	法人とスポーツ①	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人一般を見直すこと。
5	法人とスポーツ②	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	スポーツとスポーツ団体の関係を見直すこと。
6	代理とスポーツ①	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理制度一般を見直すこと。
7	代理とスポーツ②	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理人がスポーツにおいて果たす役割を見直すこと。
8	契約とスポーツ①	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約制度一般を見直すこと。
9	契約とスポーツ②	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツと契約との関係を見直すこと。
10	契約とスポーツ③	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツ選手・団体が契約を結ぶ意味を見直すこと。
11	ビジネスとスポーツ①	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
12	ビジネスとスポーツ②	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	スポーツに関するビジネスの形態を見直すこと。
13	不法行為とスポーツ①	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為一般を見直すこと。
14	不法行為とスポーツ②	スポーツにおける事故の問題を確認する。	スポーツにおける事故の問題を見直すこと。
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	全体を見直すこと。

関連科目 経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂・建石編	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	小テストを行う予定(20%)。期末テスト(80%)を合わせ、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	スポーツビジネスと法	科目名(英文)	Sports Business and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3114a0		

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、そこでは法律問題も当然に生じる。この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、各種契約、スポーツにおいて生じた事故など、スポーツと法律に関する問題を取り上げ、さらに、スポーツに関するビジネスについての概要についても確認する予定である。なお、講義の流れは、民法の流れに沿い、民法総則・契約法・不法行為法などの視点から行う予定である。
到達目標	この授業を通じて、学生にはスポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメ・資料等を用いて行う。また、教科書も使用する。民事法との関係を中心に検討を行う予定であるので、民法内容についても講義の中で適宜確認を行う。
科目学習の効果(資格)	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。
2	自然人とスポーツ①	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法における人の概念を見直すこと。
3	自然人とスポーツ②	自然人とスポーツの関係を確認する。	生涯を持つ者と民法との関係を見直すこと。
4	法人とスポーツ①	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人一般を見直すこと。
5	法人とスポーツ②	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	スポーツとスポーツ団体の関係を見直すこと。
6	代理とスポーツ①	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理制度一般を見直すこと。
7	代理とスポーツ②	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理人がスポーツにおいて果たす役割を見直すこと。
8	契約とスポーツ①	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約制度一般を見直すこと。
9	契約とスポーツ②	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツと契約との関係を見直すこと。
10	契約とスポーツ③	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツ選手・団体が契約を結ぶ意味を見直すこと。
11	ビジネスとスポーツ①	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
12	ビジネスとスポーツ②	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	スポーツに関するビジネスの形態を見直すこと。
13	不法行為とスポーツ①	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為一般を見直すこと。
14	不法行為とスポーツ②	スポーツにおける事故の問題を確認する。	スポーツにおける事故の問題を見直すこと。
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	全体を見直すこと。

関連科目 経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂・建石編	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テストを行う予定(20%)。期末テスト(80%)を合わせ、総合的に評価する。

学生へのメッセージ スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。

担当者の研究室等 11号館9階 大川准教授室

備考 大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	スポーツプログラミング	科目名(英文)	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬 雅紀
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	スポーツを実践するにあたり年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが必要とされる。本講義では、運動やスポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方理論と実際について学習する。
到達目標	対象者に合わせたスポーツ実践のためのプログラムの作成及び実践指導を習得する。
授業方法と留意点	PPTや作成プリントを用いた講義及び対象者に合わせたプログラムを作成する。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	健康を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方(種類)	講義ノートの確認
3	健康を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方(強度)	講義ノートの確認
4	健康を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方(時間・頻度)	講義ノートの確認
5	運動を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方(種類)	講義ノートの確認
6	運動を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方(強度)	講義ノートの確認
7	運動を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方(時間・頻度)	講義ノートの確認
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を2題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
9	中高齢者のフィットネスプログラム①	レポートの返却及び解説 運動処方(種類)	講義ノートの確認
10	中高齢者のフィットネスプログラム②	運動処方(強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
11	障がい者のフィットネスプログラム	運動処方(種類・強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
12	競技者のフィットネスプログラム①	運動処方(種類強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
13	競技者のフィットネスプログラム②	トレーニングの原理・原則	講義ノートの確認
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を2題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認

関連科目	発育発達論 ヘルスエクササイズ理論と実践
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	受講態度及び意欲(常識・節度ある姿勢)(20%) 講義内提出課題(必要に応じて実施する)(20%) レポート課題(2度実施する)(60%)
学生へのメッセージ	出席状況(毎回出席)を確認し原則として出席は2/3以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全15回で15時間を目安としている。

科目名	スポーツ文化論	科目名(英文)	Cultural Aspects of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2090a0		

授業概要・目的	スポーツを文化の領域と捉え歴史的、経済的とあらゆる側面から講義を進めてゆく。特権階級の人々に親しまれたスポーツをもっと身近に感じられるよう、スポーツの取り巻く問題と新たなスポーツ文化を発掘していこうとすることがスポーツ文化論である。担当者は、日本代表のラグビー選手として世界の国々で国際試合や地域の人々と交流、さらにラグビーW杯に選手・コーチとして参加。その国々で肌で感じた様々なスポーツの考え方・見方の違いを講義に取り入れる。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを身体運動だけにとらわれずに、知的学問としてとらえ文化的行動の基礎を築くことができ、さらに、2019年ラグビーW杯カップ、2020年にはオリンピック・パラリンピックが開催され世界中の人々が試合を観戦に日本を訪れる。来訪者と交流を進める第一歩としてスポーツを文化ととらえコミュニケーションを進めることのできる知識を身に付けられることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やVTRなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果(資格)	スポーツを楽しむためによりスポーツを理解することが出来る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス	—————
	2	スポーツ文化を学ぶ(1)	スポーツ文化を学ぶとは	課題資料配布
	3	(スポーツ文化を学ぶ2)	スポーツ文化とは	課題資料配布
	4	スポーツ文化を学ぶ(3)	スポーツ文化の必要性	レポート提出
	5	スポーツとマスコミ(1)	スポーツマンシップの理解	課題資料配布
	6	スポーツとマスコミ(2)	新聞の読み方	レポート提出
	7	国民性とスポーツ(1)	民族によるスポーツの考え方(欧米)	課題資料配布
	8	国民性とスポーツ(2)	民族によるスポーツの考え方(アジア) 日本人の大型化	課題資料配布
	9	生きがいとスポーツ	生きがいの役割	課題資料配布
	10	企業とスポーツマーケティング(1)	子供とスポーツ商業主義	課題資料配布
	11	企業とスポーツとマーケティング(2)	学校体育と企業スポーツ	レポート提出
	12	スポーツ少年団(1)	スポーツ参加の意義	課題資料配布
	13	スポーツ少年団(2)	子供達のスポーツ参加	課題資料配布
	14	スポーツ文化論総括	文化論 まとめ	課題資料配布
	15	スポーツ文化論総括	再学習	課題再学習

関連科目	スポーツ指導者入門
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スポーツ国家アメリカ	鈴木 透	中公新書
	2	よくわかるスポーツ人類学	寒川 恒夫	アカデミズム
	3	人種とスポーツ	川島 浩平	中公新書

評価方法(基準)	最終筆記試験(50%)課題レポート(20%)小テスト(15%)・グループ発表(15%)などを総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	講義は聞くだけでなく、自分の問題として捉え、自分に置き換えて考えることが重要である。教科書は特に使用しないが、新聞など関連記事には目を通したほうが良い。また、インターネットによる情報収集も新鮮な情報が得られる。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館1階 河瀬研究室
----------	---------------

備考	課題レポート、小テスト、は、次回授業で評価・解説し理解度の悪い項目については再度説明及び再提出を行う 課題発表については発表時に評価・解説する。 スポーツ文化論を受講に対し事前・事後学習に1時間程度必要。
----	--

科目名	スポーツマネジメント	科目名(英文)	Sports Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2092a0		

授業概要・目的	スポーツを効率よくマネジメントする上で、検討すべき課題について理解を深めるとともに、スポーツマネジメントを実践するための基本的な知識を学習する。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを効率よくマネジメントする上での基本的な知識を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等を行うこともあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントという言葉の整理。
	2	マネジメントの本質(1)	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定	関連資料に目を通す。
	3	マネジメントの本質(2)	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。
	4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前2回の講義と今回とを関連づけてまとめる。
	5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。
	6	全体戦略の設定	ミッション・ビジョン・ドメイン	関連資料に目を通す。
	7	スポーツとマネジメント(1)	人事マネジメント、GMの役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
	8	スポーツとマネジメント(2)	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。
	9	スポーツとマネジメント(3)、これまでの講義のまとめ	顧客管理および習熟度確認のための試験	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
	10	スポーツ事業の展開(1)	スポーツ事業の計画・運営・評価(総論、スポーツ教室の実施・運営)	関連資料に目を通す。
	11	スポーツ事業の展開(2)	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。
	12	スポーツ事業の展開(3)	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前2回の講義を関連づけてまとめる。
	13	スポーツ組織の機能・役割とその運営(1)	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。
	14	スポーツ組織の機能・役割とその運営(2)	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。
	15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認のための臨時試験の実施	講義全体の体系化とその理解。

関連科目	スポーツと法律等
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ		日本スポーツ協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	意欲を持って参加してください。
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度試験についての解説は、次の回の授業で行う。

科目名	政治学概論	科目名(英文)	Introduction to Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1062a0		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組を関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	この講義を通じて学生には、週1～2回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につけることが期待される。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義2回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果(資格)	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勤めるニュース番組を通して見てみる(約1時間)。
2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった?(1)	近年、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く(約1時間)。
3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった?(2)	近年、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く(約1時間)。
4	安保法制、どう考える?(1)	2015年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く(約1時間)。
5	安保法制、どう考える?(2)	2015年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く(約1時間)。
6	消費税を上げるのに賛成?(1)	2014年4月に8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く(約1時間)。
7	消費税を上げるのに賛成?(2)	2014年4月に8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く(約1時間)。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる?(1)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く(約1時間)。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる?(2)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く(約1時間)。
10	日本はTPPのなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う?(1)	原則、関税を撤廃するTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPPと生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本がTPPに参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く(約1時間)。
11	日本はTPPのなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う?(1)	原則、関税を撤廃するTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPPと生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本がTPPに参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く(約1時間)。
12	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる?(1)	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く(約1時間)。
13	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる?(2)	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭で	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書

			どのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考慮してもらおう。	く（約1時間）。																
	14	大阪都構想をどう見る？ (1)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。																
	15	大阪都構想をどう見る？ (2)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。																
関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。中学・高校の社会（公民分野）が苦手だったという人は、前期の「政治と政策」を受講しておくことを勧める。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐる中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、教育は、家庭を持ち子どもを育てることになるすべての大人に共通の問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心を持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。																			

科目名	政治過程論	科目名(英文)	Political Process
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2072a0		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることではできません。それらを決定するのが政治であり、18歳になって選挙権を与えられた学生の皆さんはそうした政策決定過程のなかに組み込まれ、またその影響を受けながら日々の生活を送っています。この授業では、有権者である学生の皆さんに、権力行使・選挙・政党・マスメディア・議会などさまざまな政策決定過程についての基本的な知識を与えることを大きな目的にしています。それによって皆さんは、政治参加するさいに必要な不可欠な論理的思考力・判断力・表現力を身につけることができます。また皆さんが最近のニュースをよりよく理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、現代国家の政策決定過程についての基本的な知識を獲得して思考力を身につけるとともに、自分でいかなる政策・政党・候補者が望ましいのかを論理的・理性的に考えることができる判断力と、政策決定過程に積極的に参加して自分の政治的意見を表明しようという意欲・表現力を育成することができます。また政治過程論の分野に関わる地方上級・市役所・警察官・消防官などの公務員試験の問題も解説しますので、試験に対応できるだけの知識を獲得することもできます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が問われる場合があります。そうした試験に対応し、基本的な政治的知識を獲得することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治過程とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と政治過程の現代的意義について授業します。	事前学習：政治・政治参加について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	権力の行使①～権力とは何か?	政策が決定されるプロセスで行使される権力について、身近な例を挙げて考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	権力の行使②～正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を中心に、現代の国家で行使される権力の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	世論と政治文化	リップマンやガセットらの大衆社会論を参照しつつ、世論やポピュリズム、政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第四章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	投票行動	世論を形成する有権者の投票行動がどのように研究されてきたのかについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第五章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	現代のマスメディア	マスメディアの役割とさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第五章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	政党と政党制	政党の機能と政党制の分類について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	選挙	衆議院と参議院の選挙制度、一票の格差、中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への移行などについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第六章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	国会	国会の機能と役割について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第九章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	議院内閣制と大統領制	日本とアメリカの政治システムの違いについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第十二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	内閣①～内閣のしくみ	日本の内閣制度について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第十二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	内閣②～今世紀の行政改革	今世紀の内閣の権限強化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所(第十二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。

				事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
	13	リーダーシップ	リーダーシップの特徴とその機能、効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
	14	官僚制	日本の官僚制の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済など。大学の政治学概論、日本政治論など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治過程論	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験（80%）とリアクションペーパー（20%）で評価します。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては時間の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	政治史	科目名(英文)	Political History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治の歴史についての基本的な知識を獲得できるとともに、それに基づいて、自分自身でいかなる政策・政党・候補者が望ましいのか考え、論理的に意思決定できるようになります。また日本政治史の分野に関わる地方上級や市役所・警察官・消防官などの公務員試験の問題も解説し、試験に対応できるだけの知識を獲得することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や歴史の内容が一般常識として問われる場合があります。そうした試験に対応するために、また身の回りで行っている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、日本の基本的な歴史的・政治的知識を知ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
2	戦前日本の政治史①～明治・大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所(第三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所(第四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第五回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第六回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第七回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第八回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第九回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禪譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった80年代の自民党政治について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十一回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	戦後日本の政治史⑧～政治改革と55年体制の崩壊	55年体制が崩壊し、細川連立内閣が成立した90年代の政治史を授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。

				得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30 分)。
	13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十三回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30 分)。
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所 (第十四回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30 分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。
関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の歴史学、政治学概論など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店
	2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (80%) とリアクションペーパー (20%) で評価します。			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	政治と政策	科目名(英文)	Politics and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、政治学系科目の導入として、政治と政策についての基礎知識を学ぶ。毎回、政治と政策に関わる身近な話題を取り上げ、関連する概念や理論を紹介し、主要な論点について説明をする。単に知識としてだけでなく、主権者としてどのように政治と政策に向き合えば良いのかを考えるきっかけになることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、政治と政策に関する基礎的な概念や理論について説明することができ、政治と政策に関するニュースを読み解くことができ、政治と政策に関心を持ち、自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。 授業冒頭に、時事問題と前回の授業内容についての小テストを行う。 授業の最後に、ふりかえりシートに記入する。
科目学習の効果(資格)	政治と政策についての報道を理解し、自分の意見を形成するための土台となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	権力とは何か?	権力・支配の概念と政治的リーダーシップについて学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
2	社会はどうあるべきか?	主権理論と自由主義、社会主義等の政治思想について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
3	首相と大統領は何が違うのか?	権力分立と、議院内閣制・大統領制の相違について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
4	誰もが納得する決定は可能か?	古代ギリシャのデモクラシーと近代のリベラル・デモクラシーの誕生、現代の民主主義に関する考え方を学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
5	国家とは何か?	近代国家とは何か、また行政国家化現象について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
6	国会議員の仕事は何か?	議会の起源と発展、日本の議会政治について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
7	なぜたくさんの政党があるのか?	政党の機能と類型、日本の政党制について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
8	誰が政治を動かすのか?	圧力団体が果たす機能と、圧力政治の問題点について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
9	どのような選挙制度が望ましいのか?	選挙制度の類型と、各国の選挙制度について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
10	投票率はなぜ下がるのか?	投票行動に関する理論と、無党派層の増大について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
11	なぜ政治に興味がないのか?	政治的意見・政治的態度・政治的価値観の違いを整理し、政治的無関心の問題について考察する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
12	政治と政策は何が違うのか?	政治過程と政策過程の違いと、コーポラティズム、政策サイクルについて学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
13	マスコミは真実を伝えているか?	世論とマスコミが政治において果たす役割について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
14	政治的リーダーに必要な資質は何か?	政治的リーダーシップの理論について学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)
15	集団的自衛権は必要か?	近代国際社会の誕生と、安全保障の枠組みについて学ぶ。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間) 事後：レジュメの内容を復習する(1時間)

関連科目 「政治学概論」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学・行政学の基礎知識	堀江湛	一藝社
2				
3				

評価方法 定期試験 50%、小テスト 30%、ふりかえりシート 20%

(基準)	
学生へのメッセージ	政治ニュースの読み解き方が分かるように、政治と政策に関わる基礎の部分を解説します。授業と並行して、新聞・ニュースなどに触れてみてください。
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室
備考	小テストとふりかえりシートについては次の回の授業で解説とフィードバックを行う。

科目名	政治と政策	科目名(英文)	Politics and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1075a0		

授業概要・目的	この授業では、政治学系科目の導入として、政治と政策についての基礎知識を学ぶ。毎回、政治と政策に関わる身近な話題を取り上げ、関連する概念や理論を紹介し、主要な論点について説明をする。単に知識としてだけでなく、主権者としてどのように政治と政策に向き合えば良いのかを考えるきっかけになることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、政治と政策に関する基礎的な概念や理論について説明することができ、政治と政策に関するニュースを読み解くことができ、政治と政策に関心を持ち、自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。 授業冒頭に、時事問題と前回の授業内容についての小テストを行う。 授業の最後に、ふりかえりシートに記入する。
科目学習の効果(資格)	政治と政策についての報道を理解し、自分の意見を形成するための土台となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	権力とは何か?	権力・支配の概念と政治的リーダーシップについて学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
2	社会はどうあるべきか?	主権理論と自由主義、社会主義等の政治思想について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
3	首相と大統領は何が違うのか?	権力分立と、議院内閣制・大統領制の相違について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
4	誰もが納得する決定は可能か?	古代ギリシャのデモクラシーと近代のリベラル・デモクラシーの誕生、現代の民主主義に関する考え方を学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
5	国家とは何か?	近代国家とは何か、また行政国家化現象について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
6	国会議員の仕事は何か?	議会の起源と発展、日本の議会政治について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
7	なぜたくさんの政党があるのか?	政党の機能と類型、日本の政党制について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
8	誰が政治を動かすのか?	圧力団体が果たす機能と、圧力政治の問題点について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
9	どのような選挙制度が望ましいのか?	選挙制度の類型と、各国の選挙制度について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
10	投票率はなぜ下がるのか?	投票行動に関する理論と、無党派層の増大について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
11	なぜ政治に興味がないのか?	政治的意見・政治的態度・政治的価値観の違いを整理し、政治的無関心の問題について考察する。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
12	政治と政策は何が違うのか?	政治過程と政策過程の違いと、コーポラティズム、政策サイクルについて学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
13	マスコミは真実を伝えているか?	世論とマスコミが政治において果たす役割について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
14	政治的リーダーに必要な資質は何か?	政治的リーダーシップの理論について学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)
15	集団的自衛権は必要か?	近代国際社会の誕生と、安全保障の枠組みについて学ぶ。	事前:新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る(1時間)	事後:レジュメの内容を復習する(1時間)

関連科目 「政治学概論」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学・行政学の基礎知識	堀江湛	一藝社
2				
3				

評価方法 定期試験 50%、小テスト 30%、ふりかえりシート 20%

(基準)	
学生へのメッセージ	政治ニュースの読み解き方が分かるように、政治と政策に関わる基礎の部分を解説します。授業と並行して、新聞・ニュースなどに触れてみてください。
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室
備考	小テストとふりかえりシートについては次の回の授業で解説とフィードバックを行う。

科目名	西洋女性史	科目名(英文)	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	西洋社会における女性の地位の歴史について概説します。西洋史のなかの注目すべき女性たちの生涯や権力との関連、及び女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントなどを利用して講義します。
到達目標	この授業を通して学生には、西洋の古代から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回1-2枚程度のプリントを配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニレポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業全体の目的 西洋社会における女性像の原点	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
2	古代ローマ社会の女性	古代ローマ社会における女性、古代ローマ皇帝の妻たち。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
3	中世～近世の女性(1) 中世・封建社会における女性	12世紀、フランス王妃その後イングランド王妃となったアリエノール・ダキテーヌを通して、中世封建制度を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
4	中世～近世の女性(2) 百年戦争とジャンヌ・ダルク(フランス)	百年戦争の末期に登場・活躍したジャンヌ・ダルク。その処刑裁判を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
5	中世～近世の女性(3) 宗教改革と女性	ヘンリー8世とアン・ブーリン：国王の離婚問題を契機とするローマ教会との決別、国王至上法などを考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
6	中世～近世の女性(4) 女性の身体と法	女性の身体に関わる問題を通して、近世フランスにおける法の一側面を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
7	啓蒙主義の時代と女性	サロン文化とボンパドゥール夫人。近代市民社会の萌芽。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
8	フランス革命と女性(1)	フランス革命における女性たち。王妃マリー・アントワネット、他	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
9	フランス革命と女性(2)	グーージュと女性の権利宣言、スタール夫人	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
10	フランス民法典—近代市民法と家父長制	民法起草の意図。 フランス民法典のなかの女性・近代的家父長制の特徴を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
11	19世紀フランス社会と女性(1)	19世紀のブルジョア女性の活動・主婦の誕生について、フランスを中心に考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
12	19世紀フランス社会と女性(2)	19世紀の労働者(女性を中心に)・衛生問題について、フランスを中心に考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
13	20世紀における女性(1) 19世紀末～20世紀初頭、第一次フェミニズム運動の展開	女性参政権獲得をめぐる運動、女性の社会進出とモード	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
14	20世紀における女性(2) 第2次フェミニズム運動	女性解放の進展、シモーヌ・ヴェイユ(国家と女性の身体の問題)	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
15	全体のまとめ	21世紀グローバル社会での女性問題	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋の裁判の歴史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	定期試験80%と、平常点(授業内の提出物、学習態度など)20%によって総合的に評価します(詳細は初回の授業で説明します)。			
学生へのメッセージ	楽しく教養を深めるのに役立つ授業です。			
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)			
備考	各授業の最後に実施する課題の解答例などは、次の授業で解説します。			

科目名	西洋女性史	科目名(英文)	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2013a0		

授業概要・目的	西洋社会における女性の地位の歴史について概説します。西洋史のなかの注目すべき女性たちの生涯や権力との関連、及び女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントなどを利用して講義します。
到達目標	この授業を通して学生には、西洋の古代から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回1-2枚程度のプリントを配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニレポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業全体の目的 西洋社会における女性像の原点	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
2	古代ローマ社会の女性	古代ローマ社会における女性、古代ローマ皇帝の妻たち。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
3	中世～近世の女性(1) 中世・封建社会における女性	12世紀、フランス王妃その後イングランド王妃となったアリエノール・ダキテーヌを通して、中世封建制度を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
4	中世～近世の女性(2) 百年戦争とジャンヌ・ダルク(フランス)	百年戦争の末期に登場・活躍したジャンヌ・ダルク。その処刑裁判を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
5	中世～近世の女性(3) 宗教改革と女性	ヘンリー8世とアン・ブーリン：国王の離婚問題を契機とするローマ教会との決別、国王至上法などを考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
6	中世～近世の女性(4) 女性の身体と法	女性の身体に関わる問題を通して、近世フランスにおける法の一側面を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
7	啓蒙主義の時代と女性	サロン文化とボンパドゥール夫人。近代市民社会の萌芽。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
8	フランス革命と女性(1)	フランス革命における女性たち。王妃マリー・アントワネット、他	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
9	フランス革命と女性(2)	グーージュと女性の権利宣言、スタール夫人	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
10	フランス民法典—近代市民法と家父長制	民法起草の意図。 フランス民法典のなかの女性・近代的家父長制の特徴を考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
11	19世紀フランス社会と女性(1)	19世紀のブルジョア女性の活動・主婦の誕生について、フランスを中心に考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
12	19世紀フランス社会と女性(2)	19世紀の労働者(女性を中心に)・衛生問題について、フランスを中心に考察する。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
13	20世紀における女性(1) 19世紀末～20世紀初頭、第一次フェミニズム運動の展開	女性参政権獲得をめぐる運動、女性の社会進出とモード	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
14	20世紀における女性(2) 第2次フェミニズム運動	女性解放の進展、シモーヌ・ヴェイユ(国家と女性の身体の問題)	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
15	全体のまとめ	21世紀グローバル社会での女性問題	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋の裁判の歴史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	定期試験80%と、平常点(授業内の提出物、学習態度など)20%によって総合的に評価します(詳細は初回の授業で説明します)。			
学生へのメッセージ	楽しく教養を深めるのに役立つ授業です。			
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)			
備考	各授業の最後に実施する課題の解答例などは、次の授業で解説します。			

科目名	西洋政治思想史	科目名(英文)	History of Western Political Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2066a0		

授業概要・目的	皆さんが憲法や法律、政治家の演説を見聞きするとき、自由・平等・正義といったさまざまな政治的概念が現れると思います。それらは空虚で意味のない言葉ではなく、古代ギリシアにおいてプラトン・アリストテレスといった政治思想家たちが発明し、それが意味する内容がさまざまに変化しつつ、ようやく現在のかたちにまで固まった言葉です。 この授業は、政治思想家たちの著作や思想を紹介しつつ、「普段なにげなく使われている基本的な政治的概念にこんな意味があったのか」と知ってもらうべく解説するのが大きな目的です。政治的概念の深い意味に気づいてもらうことによって、皆さんが政治参加するさいに必要な不可欠な論理的思考力・判断力・表現力が育成されることとなります。
到達目標	この授業を通じて学生は、著名な政治思想家や政治的概念についての基本的な知識・技能を獲得できるとともに、そうした知識・技能に基づいて法律の条文や政治家の演説をより深く思考できるようになります。それによって現在の政治においていかなる政策が望ましいかを論理的に判断し、それを選挙など政治参加において表明するという判断力・表現力も育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治思想の内容が一般常識として問われる場合があります。そうした試験に対応するために、また政治的概念や論理的思考を熟知した理性的な市民になるべく、基本的な政治思想の知識を獲得することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～古代から近代の政治思想家たち	イントロダクションとして、講義の内容と古代と近代の政治思想家たちの概略について授業します。	事前学習：政治思想について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
2	プラトン	『国家』の内容を中心に、正義の概念について考えます。	事前学習：プラトンについて文献を収集し、調べておく(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
3	アリストテレス	『ニコマコス倫理学』『政治学』を中心に、幸福や正義の概念について、またポリスの階層秩序について考えます。	事前学習：アリストテレスについて文献を収集し、調べておく(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
4	キケロー	『義務について』を中心に、古代ローマの共和主義について考えます。	事前学習：キケローと古代ローマの歴史について文献を収集し、調べておく(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
5	マキャベリ	『君主論』を中心に、古代政治学との対立や国家理性について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第一章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
6	ホッブズ	『リヴァイアサン』を中心に、社会契約や主権者について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第二章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
7	ロック	『統治論』を中心に、社会契約や所有権、立法権について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第三章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
8	ルソー	『社会契約論』を中心に、社会契約や自由、平等について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第四章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
9	カント	『啓蒙とは何か』『永遠平和のために』『実践理性批判』を中心に、啓蒙や意志について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第六章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
10	J・S・ミル	『自由論』を中心に、個性や自由について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第八章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
11	パーリン	『二つの自由概念』を中心に、積極的自由や消極的自由について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第十章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
12	ロールズ	『正義論』を中心に、自由や正義について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第十一章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
13	アーレント	『人間の条件』を中心に、全体主義や公的領域、活動について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所(第九章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
14	バトラー	『ジェンダー・トラブル』を中心に、フェミニズムの歴史や性差について考えます。	事前学習：バトラーについて文献を収集し、調べておく(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する(30分)。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があ

		業します。	れば最後の授業に質問できるようにまとめておく。
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、倫理など。大学の倫理学、哲学など。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	現代政治理論	飯島昇藏・佐藤正志・太田義器編
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、リアクションペーパー (20%) で評価します。		
学生への メッセージ	授業中に紹介した著作を読むようにして、政治思想についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。		
担当者の 研究室等	11号館 10階 和田講師室		
備考	提出してもらったリアクションペーパーについてはいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。		

科目名	西洋の裁判の歴史	科目名(英文)	History of Trial in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1012a0		

授業概要・目的	西洋社会における法と裁判の歴史について、主に刑事裁判の歴史を概説します。古代から現代までの裁判制度と著名な裁判をとりあげていきます。裁判に関する図像資料を授業に取り入れるなど、できるだけ具体的なイメージをもてるよう工夫します。裁判に関する基礎知識の修得の機会として、また市民が裁判に参加する意義を考える場として役立ててもらいたいと思います。
到達目標	授業を通じて学生には、西洋社会における裁判制度の歴史と著名な裁判に関わる基礎知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	毎回1-2枚程度のプリントを配布し、パワーポイントも活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニレポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果(資格)	教職科目(中学社会科・高校公民・高校地歴)に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養(SPI対策)としても有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	序論ー日本と西洋の裁判の比較	授業内容の概説、裁判や権利に関する制度の相違、歴史的な変化についての概要	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
2	古代ゲルマンの裁判ー裁判集會型法発見モデル	自由人成人男性による裁判集會。水審・火審・決闘などの神判の利用。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
3	中・近世の裁判(1)	教会裁判所、職業裁判官による裁判。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
4	中・近世の裁判(2)	刑事裁判の変化、糾問主義の成立、拷問・自白の強要。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
5	中・近世の裁判(3)	フランス・ドイツの魔女裁判の考察。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
6	中・近世の裁判(4)	国王裁判所、18世紀の冤罪事件・カラス事件。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
7	イングランドにおける裁判(1)	ノルマン征服後、国土支配の道具として導入された陪審制。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
8	イングランドにおける裁判(2)	起訴陪審・判決陪審。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
9	フランス革命と裁判(1)	フランス革命期における裁判制度改革。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
10	フランス革命と裁判(2)	フランス革命期に導入された陪審制の特徴とその後の変化。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
11	19世紀の裁判(1)フランス	多様な法律職 / 小説の中で描かれる裁判や法律家たち	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
12	19世紀の裁判(2)フランス	ドレフェス事件ー19世紀末のフランスで起こった軍部による組織的な冤罪事件。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
13	19世紀の裁判(3)ドイツ	陪審制から参審制の移行について(19世紀のドイツを中心)。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
14	20世紀の裁判ー白バラ事件	ナチスへの抵抗として大学内でピラを配布した学生たちを裁いた民族裁判所。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
15	21世紀への展望ー復習とまとめ	授業内容のまとめと復習をする。市民が裁判に参加する制度の国際比較	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋女性史
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験80%と、授業内の提出物(授業内容に関するミニレポートなど)に20%によって総合的に評価します(詳細は初回の講義で説明します)。授業中の私語については、厳しく対処します。
学生へのメッセージ	歴史科目が苦手だったという人もふるって履修してください。わからない点は、気軽に質問してください。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	各授業の最後に実施する課題の解答は、次の授業で解説します。

科目名	西洋の人権の歴史	科目名(英文)	History of Human Rights in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1011a0		

授業概要・目的	日本は、明治維新のち近代化をなしとげるために西洋社会から多くの文化を取り入れました。この授業では、西洋社会がはぐくんだ法文化の歴史の基礎について、法と社会との関係に重点をおいて説明します。焦点をあてるのは、西洋における人権保障のありかたとその歴史的变化です。とくにフランス、ドイツを中心に考察します。
到達目標	この授業を通じて学生には、西洋社会が現代のわたしたちに伝える重要な文化である、西洋の法の歴史・そして人権の歴史についての基本知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	毎回1-2枚程度のプリントを配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果(資格)	教職科目(中学社会・高校公民・高校地歴)に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養(SPI対策)としても有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに一近代日本における西洋文化の受容	明治政府・近代化・お雇い外国人	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
2	西洋法史の全体像① 前近代—ユスティニアヌス法典が生まれて復活するまで(6世紀～12世紀)、その後の法・法学の発展	ユスティニアヌス法典(ローマ法大全)の成立。ローマ法学の復活・ポロニア大学法学部の成立・ローマ法の継受	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
3	西洋法史の全体像② 近代以降—フランス革命、そして近代市民社会の到来と法	18世紀末以降の社会の変化と法の姿についての概観	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
4	中世ヨーロッパ社会の市民と農民(12～15世紀)	身分制社会の基本原則としての「不平等」・特権としての「自由」。	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
5	自然法思想の成立(17世紀)	近世自然法、グロティウス、社会契約論	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
6	啓蒙の時代(18世紀)	啓蒙期の法典編纂事業など	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
7	フランス革命と人権宣言(1789年)	フランス革命の概要・フランス人権宣言の特徴	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
8	ナポレオンと近代市民法—フランス民法典(1804年)	フランス民法典の成立過程とその特徴・近代市民社会	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
9	19世紀フランスの社会と法(1)	19世紀前半のフランスの社会、都市の貧困・衛生問題の発見	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
10	19世紀フランスの社会と法(2)	19世紀後半のフランス社会、選挙権をめぐる動きについて	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
11	法典論争(1814年)と歴史法学派	1814年にサヴィニーとティボーの法典論争/歴史法学派	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
12	ドイツ民法典(1896年)の成立	ドイツ民法典の成立過程、その特徴	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
13	20世紀前半—フランス・ドイツを中心に	現代型憲法としてのワイマール憲法の特徴/人権の抑圧—ホロコースト、占領下のフランス	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
14	20世紀後半—1960年代以降	女性解放運動の波。第1の波(19世紀末～20世紀初頭)、第2の波(1960年代以降)/家族法の改革	今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。
15	授業のまとめと復習—21世紀における人権保障	21世紀における人権保障の課題	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。

関連科目	西洋の裁判の歴史、西洋女性史
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験90%と、授業内の提出物(授業内容に関するミニレポートなど)10%によって総合的に評価します(詳細は初回の講義で説明します)。授業中の私語については、厳しく対処します。
----------	--

学生へのメッセージ	できれば、高校の世界史教科書の「ヨーロッパ史」の部分を復習しておきましょう。わからない点は気軽に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	各授業の最後に実施するミニレポートの課題については、次の授業で解説します。
----	---------------------------------------

科目名	世界の政治	科目名(英文)	World Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく(約2時間)
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説(2009)」について調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐり国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをし、試験の準備をする

関連科目 日本政治論、日本外交史、国際関係論、国際関係史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)	有斐閣	

評価方法(基準)	原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。平常点20%(小テスト(第5回・第10回の授業の前半で実施予定))、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようしてください。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	小テストの解答はポータルサイトに掲載します。

科目名	世界の政治と社会	科目名(英文)	Politics and Society of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1063a0		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく(約2時間)
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説(2009)」について調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐり国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをし、試験の準備をする

関連科目 日本政治論、日本外交史、国際関係論、国際関係史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)	有斐閣	

評価方法(基準) 原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。平常点20%(小テスト(第5回・第10回の授業の前半で実施予定)、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。

学生へのメッセージ 日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようしてください。

担当者の研究室等 11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)

備考 小テストの解答はポータルサイトに掲載します。

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習 I は、3年次の「専門演習 II (通年)」及び4年次の「卒業研究 (通年)」においてその理解に必要な基礎知識の再確認を主眼とします。「国際私法」の講義は3年次開講ですので、この演習では、2年次までに履修する授業科目を中心に、関連知識を整理することが目的となります。		
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法の理解に必要な知識として、特に、民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法の基本的な知識を理解していることを説明できるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	国際私法に関連する基礎的知識を体系的に整理し、「それらの問題点は何か」「何が重要な事項なのか」といったことを資料として配付し、ディスカッション形式で行います。なお、理解度の確認のための課題レポートの提出を最後に求めます。参照に必要なため、「ポケット六法」などを持参すること！		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「専門演習 I」の進め方、3年次「専門演習 II」、「卒業研究」との関係などの説明</li> <li>2. 財産法・家族法(戸籍法を含む)の順序で、国際私法に関連する重要事項を検討</li> <li>3. 国際私法の概略の説明と総括 <ol style="list-style-type: none"> <li>1については、1回程度</li> <li>2については、13回程度</li> <li>3については、1回程度を使って行う。</li> </ol> </li> </ol> <p>具体的な事前・事後学習については、その都度指示しますが、予習と復習のいずれも各授業時間ごとに2時間程度の見直しが必要となります。</p>		
関連科目	民法総則、物権法、担保物権法、債権法、親族法、相続法など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	必要な資料を配付する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜、紹介します。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	「課題レポートの理解度」(60%)を中心として、「授業での発言状況、質問に対する返答状況」(40%)を合計して評価します。		
学生へのメッセージ	民法の体系を考えながら、民法全般の基礎知識を再確認しましょう。		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室		
備考	課題レポートについては、次年度の専門演習 II 及びS Hの時間を使ってコメントを添えてフィードバックします。?		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	<p>学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、4年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。</p>																		
到達目標	<p>この授業を通じて、学生は、商法全般の知識を習得できるようになることが期待される。</p>																		
授業方法と留意点	<p>まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。積極的に議論に参加して欲しい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。                  方法は、判例・学説の研究である。                  事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>原則として定期試験は行いません。出席と受講態度、レポートを総合して、判定する。平常点 70% レポート 30%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>11号館9階 牛丸教授室</p>																		
備考	<p>目的意識を見失わず、頑張ってください。事前・事後の学習には合計 20 時間とって下さい。提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。</p>																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	日本法史に関心をもち、またその基礎的な知識を身につけることを目標とする。日本の伝統的な法文化を知り、またそれが西欧法継受によって捨て去られることの意味を考えさせる。		
到達目標	このゼミを通じて学生は、日本の法史に関心をもち、それにかかわる基本的知識を身につけるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	日本法史に関わるテーマについて、各自調べ発表してもらいます。最初はこちらの用意した教材を使いますが、途中から学生諸君に自分で調べてもらうことになります。自らの力で知の楽しさを味わってください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生諸君と相談の上、裁判史なり刑事法史なりといったテーマを設定して、そのテーマにそって、その時代の法文化を考え、討論することにした。分担を決めるので、担当者は十分な事前の調べが必要である。		
関連科目	近世日本の法文化・日本人権の歴史・家族と地域の歴史・日本女性史・祭りと地域の法社会史		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	原則として定期試験は行わない。プレゼンテーションの回数・内容 (80%)、レポート (20%) で評価する。		
学生へのメッセージ	楽しく学び、ほどほどに息を抜きましょう。		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室		
備考	歴史が好きで、意欲的に取り組むことのできる学生に選択してもらいたい。レポートは、ゼミの中で返却し、論評を付す。ゼミの事前準備には十分な時間(2時間～3時間) 取り組むこと。発表時には最低でも3時間(実際には上限無し) はかけて調べ、レジュメを作成すること。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	このゼミでは、租税法の基礎的な知識を習得するとともに、税の世界の考え方に触れることができます。また、租税法は経済活動と密接に関係しており、租税について学ぶことは社会経済の動きを考えることにもつながります。社会人となれば何らかの形で経済活動に参画するため、租税と関連しないわけにはいきません。租税法は、皆さんが社会人となった場合にも有益な学問であり、いわゆる実学の代表格といえます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法の原則、基本的考え方が概略分かるようになること。 ②判例等の読み方に慣れること。 ③個人の確定申告書の作成ができるようになること。																		
授業方法と留意点	課題発表（プレゼンテーション）、裁判劇、確定申告書の作成、ディスカッション、ゲーム形式での学習など種々の方法により演習を行います。また、配付資料に基づいて議論していきますので、自分の考えを積極的に発言してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	租税法を学びながら、現在の社会経済との関わりについて考えていきます。 この演習は、専門演習Ⅱへの導入という位置づけですので、判例研究を行えるように租税法の基礎を学びます。また、社会人体験ゲームの結果を基に、所得税の仕組みや税額の計算方法を学び、最後には個人の確定申告書を作成します。																		
関連科目	国税通則法及び所得税法等の各税法、財政学、憲法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>租税法</td> <td>金子宏</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>図解所得税法</td> <td>松崎啓介 編</td> <td>大蔵財務協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税法	金子宏	弘文堂	2	図解所得税法	松崎啓介 編	大蔵財務協会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税法	金子宏	弘文堂																
2	図解所得税法	松崎啓介 編	大蔵財務協会																
3																			
評価方法 (基準)	ゼミでの積極的発言や貢献度 (30%)、課題発表の内容 (30%)、及びレポート (20%) の合計で評価します。																		
学生へのメッセージ	専門演習Ⅰは、将来かかわることになる租税の世界に慣れて頂くことを主眼としています。皆さんは、消費税以外に馴染みがないかもしれませんが、所得税などについても比較的理解しやすい内容としていますので心配はいりません。一足先に社会人になったとお考えください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	課題の担当者が司会者となってゼミ生全員に考えさせながら、ゼミの時に課題の正解が分かるようにします。 ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気のあるゼミにしましょう。 授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各30分程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	私たちは日頃、さまざまなメディアを通じて氾濫する情報の中で生活しており、必要な情報を取捨選択し、かつそれを正しく読み取っていくことが求められています。そういう『みる眼』を養っていくことを目的とした演習です。特に、新聞あるいはテレビから発信される情報との“大人のつきあい方”を模索していきます。		
到達目標	この演習を通じて学生には、国内外の情報に積極的に接していくとともに、マスメディアなどによって氾濫するさまざまな情報を的確に読み取り、自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	ゼミ形式。学生によるプレゼンテーションおよびそれに対するディスカッションを行います。毎回欠かさず出席すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	政治や社会の動きをみる眼を養うことがテーマです。マスメディアのもつ特性やその発信するさまざまな情報についての基本的な視点を、実際の素材を用いながら学び考えていきます。3年生の専門演習Ⅱでの学習を進めていくための必須となる社会情報の基礎分析力を養います。なお、演習の中で適宜、予習あるいは復習の課題を提示します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習での勉学姿勢、特にディスカッションへの参加など (50%)、およびプレゼンテーションによる発表の内容 (50%) により評価します。		
学生へのメッセージ	演習では、積極的な参加が必要です。演習は、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見いだせるか、その成果は、みなさんの演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。		
担当者の研究室等	11号館 10階 河原教授室		
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の最初の段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この4つの力をバランスよく養っていききたい。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(40%)、企画・振り返りへの貢献度(20%)、読書ノート(40%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回1~2時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。		
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	個々の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション (60%)、ふり返りのペーパー (40%) で評価します		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備(4時間程度)、それ以外は報告者から提示される文献を読む(30分)、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「専門演習 I」は、3年次の「専門演習 II」と、4年次の「卒業研究」につながる演習であり、専門分野を2年半かけて深く学ぶための準備を行うためである。したがって、この準備を完了することが専門演習 I の目的である。			
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動を多面的（主に法学・政治学・法政策学）に学び関連する知見を身につけることが期待される。			
授業方法と留意点	講義は演習形式である。具体的には、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション等を設定し、毎回の授業を展開するので、能動的に学習することが望まれる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」</li> <li>・方法と内容：スポーツに関する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。</li> <li>・授業の都度指示する課題に対する予習と復習</li> </ul>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加を前提とし、各回の取り組み (与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言 30%) で評価する。			
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室			
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	刑事手続をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事手続に関する十分な知識を修得することが期待される。																		
授業方法と留意点	プレゼンテーションやディベートといったような受講生が能動的に学習できる方法を用いながら授業を行っていく予定である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、受講生が各自関心のあるテーマについて報告を行う。 事前学習については、プレゼンテーションやディベートの準備（資料収集、内容の検討、資料作成など）（1～2時間/日）。 事後学習については、プレゼンテーションやディベートで扱ったテーマについて自分なりに分析・検討してみる（1～2時間/日）。																		
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義 I・II、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ディベートやプレゼンテーションなどの内容 (50%)、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度 (50%)。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	<p>日頃、意識して「議論する」ということはあまりないかもしれませんが、日常生活において他の人と意見が異なることは多々あると思います。そのようなときに、話し合いによって自分の意見を相手方に理解してもらい、また相手方の意見を理解すること、つまり相手方と「議論する」ことによって、お互いにとって納得できる合意を得ることが可能になります。そうして何らかの合意を得ることが必要な場面には、友人や家族などとの生活においてだけでなく、将来的には仕事をするうえでも遭遇することになります。そこでこのゼミでは、「議論する」ことに焦点を当てて、どうやって議論をしていくのか、相手に自分の意見を理解してもらうためにはどう話すべきなのか、また相手の意見を理解することがどれだけ重要なのか、といったことを少しずつ学んでいきたいと思ひます。</p> <p>3年次におこなう模擬裁判においても議論することがメインとなりますので、専門演習 I はその準備期間という位置付けでもあります。</p>																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	<p>毎回、2-3人1グループを報告者として、一定のテーマについて基礎となる報告をおこなっていただきます。そのうえで、全員で、このテーマについて議論をしていただきます。したがって、報告者は、議論をおこなうことができるようなテーマを選択し、それについて基礎的な情報を提供することを目的としてレジュメを準備していただくとともに、報告当日の議論において司会を務めていただきます。</p> <p>報告を聞く側の皆さんには、他人事のように報告を聞くのではなく、積極的に議論に参加するという姿勢をもって臨んでいただきたいと思います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初回から数回は、報告にあたって必要な準備の方法などについて学びます。その後、各々の報告に移っていききたいと思います。皆さんが気楽に話せる内容を報告のテーマとしていただいて、とにかく自分の意見を口に出す、また自分の意見を他の人に理解してもらえるように話す、という練習をしていただきたいと思います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢 (80%)、課題・提出物 (20%) を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	議論をすることによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思ひますので、こうした活動を通じて、学生間での交流を深めてもらいたいと考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20時間																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「民法判例を読む ― 基本判例を素材として ―」																		
到達目標	<p>本演習では、判例の読み方を学びます。この授業を通じて学生には、最終的には、自力で判例を読み解き、関連判例・文献を整理して、自力で判例研究ができるまでの実力をつけることを期待します。</p> <p>なお、本ゼミでは、3年次に、他大学（近畿大学・立命館大学・神戸学院大学）との合同ゼミ（法律討論会）を行います。この討論会を勝ち抜き実力の養成も副次的な目標となります。</p>																		
授業方法と留意点	報告は、2～3人のチームで行います。受講者には、チームの中での協調性、および、議論に参加する積極性が求められます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>民法判例を読む ― 基本判例を素材として ―</p> <p>授業で扱う判例については、自分が担当するもの以外についても、最低限目を通すようにして下さい。</p> <p>自分の担当判例については、何を聞かれても答えられるよう、十分な準備をして報告に臨んで下さい。グループワークになりますので、グループの皆に迷惑をかけないよう、そして、不適切な報告でゼミの皆に迷惑を掛けたくないよう、最低限、自分の報告は責任をもってやり遂げて下さい。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習に臨む姿勢 (70%)、報告内容 (30%)を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	ゼミの仲間、一生の仲間です。「自分さえ良ければ」ではなく、皆で高めあい「学問」しましょう。																		
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室																		
備考	<p>ゼミは毎回の出席が前提であり、無断欠席は許されません。やむをえず欠席する場合は、メール等で必ず連絡するように。</p> <p>なお、グループの課題については、全員が自分のこととして責任をもって完遂して下さい。報告準備は、基本的に授業時間外で行うこととなりますが、グループで時間調整をし、どうしても調整がつかない場合は、LINEやメールを活用して、全員で課題に取り組んで下さい。</p> <p>自分以外のグループの発表時の事前・事後学習は、目安として毎回1時間を想定していますが、自分のグループの報告前は、それ以上になります。事前に予定を調整しておいて下さい。</p>																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	<p>・指導方針</p> <p>1 この専門演習 I は、3 年次の「専門演習 II」、そして 4 年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。</p> <p>2 そこで、本演習では 1 年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例 (判例) や学説を調べて報告してもらいます。</p> <p>3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。</p> <p>4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。</p>																		
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、</p> <p>「 刑法の論点を抽出できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論点に対する判例や裁判例を調査できる</li> <li>・ 論点に対する学説を調査できる</li> <li>・ 論点に対して私見を展開できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・ 刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・ゼミ内容 この演習では、刑法 (罪刑法定主義、刑法総論 (全犯罪共通の成立要件の検討)、刑法各論 (各種個別犯罪 [殺人・強盗・放火等] の成立要件論))、および、刑事学・犯罪学 (犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策) を主な検討対象とします。</p> <p>・授業内容 刑事法に関する事例問題 (論述式) の答案作成方法 刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法 (リーガル・リサーチ) 個別テーマの報告</p> <p>・授業時間以外での活動 学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。</p>																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義 I・II、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点 (第 3 版)</td> <td>西田=山口=佐伯</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例ブラクティス刑法 I</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例ブラクティス刑法 II</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点 (第 3 版)	西田=山口=佐伯	有斐閣	2	判例ブラクティス刑法 I	成瀬=安田	信山社	3	判例ブラクティス刑法 II	成瀬=安田	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点 (第 3 版)	西田=山口=佐伯	有斐閣																
2	判例ブラクティス刑法 I	成瀬=安田	信山社																
3	判例ブラクティス刑法 II	成瀬=安田	信山社																
評価方法 (基準)	<p>評価方法 プレゼンテーション (50%) とディベートへの参加度 (50%) によって評価する。</p> <p>以下の点をとくに重視します。</p> <p>①発表時に問題提起を適切にしているか (発表姿勢)。</p> <p>②提起した問題に関連する判例や先行研究 (学説) を十分に、かつ、主体的に調査しているか (主体的学習)。</p> <p>③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか (論理性)。</p>																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野准教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	<p>当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。</p>																
到達目標	<p>専門演習 I では、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、これから2年半続くゼミの出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待される。また、これから2年半をともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気でのゼミ作りをまずは目指したいと考えています。</p> <p>後半は、2・3名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発表するプレゼンテーションスキルや、研究内容に関して討論するディスカッション・コミュニケーションスキルを磨くことが期待される。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2, 3人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1学期内に、各グループとも、3回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い化学反応が生じることを期待している。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合っ発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。</p> <p>発表形式は、次の2つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う：</p> <p>1. 資料作成技能重視型：</p> <p>発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したものの、2点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。</p> <p>2. コミュニケーション技能重視型：</p> <p>3人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体験する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法学的見解を述べる。1審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。</p> <p>予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。</p> <p>また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。</p> <p>事前・事後学習の時間は、それぞれ30分を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点 (60%)、プレゼンテーションやレポート (40%) で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。</p>																
学生へのメッセージ	<p>最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。このメンバーで卒業までの2年半を過ごすことになるので、皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。</p>																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	<p>判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。</p> <p>また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。</p>																

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。																		
到達目標	本演習を通じて、学生にはディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込む事を考えている。ただし、学生の目標等に合わせて、柔軟に対応する予定である。																		
授業方法と留意点	2年前期の予定としては、①学生によるテーマ設定に基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、3年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。評価項目は、ゼミへの取り組み (20%)、得られた知識 (20%)、得られた経験 (20%)、今後の課題 (20%)、個人的PR (20%) をもとに判断を行う。																		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指しています。																		
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことを期待しています。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習 I では特定の法分野に限定せず、欲張っているいろいろな法分野を学習していきましょう。具体的には憲法・民法・行政法を中心にテキストと判例を読み進め、資格試験などの過去問を解いてみたいと思います。また、ゼミで習得した実定法の基礎知識を用いて、現代社会の諸問題を考えてみるつもりです。		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、憲法・民法・行政法など、実定法の基礎知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。		
授業方法と留意点	問題演習とディベートを基調にしつつ、時おり担当者（グループワーク）を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなでディスカッションも行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習（教科書の読解など）を前提として、ゼミでは問題演習とディベートを行うつもりです。もちろん事後の復習は必須です。また、重要判例をいくつか取り上げ、グループごとにその概要を報告してもらいます（現時点では憲法・民法・行政法などの基本的な実定法科目を念頭に置いていますが、その他の法分野でも構いません）。とにかくしっかり暗記に努めるようなゼミにしたいと思っています。		
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景の知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストや発表（プレゼン）などへの取り組み70%と、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）30%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。		
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。		
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室		
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。教科書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「地域における問題発見」をテーマとする。5人程度のグループを作り、特定の地域における問題を自分たちで発見することを目指す。調査方法としては、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査を組み合わせる。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題を発見し、調査によってその原因を明確にし、調査結果を分かりやすく人に伝えることができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。</li> <li>2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。</li> <li>3. 事例研究 リサーチ・クエスチョンを立て、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査によって結論を導く。</li> <li>4. プレゼンテーション 研究成果を発表し、意見交換をすることで理解を深める。</li> </ol>																		
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」「地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%																		
学生へのメッセージ	春休みに開催される、「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」での入賞を目標にします。																		
担当者の研究室等	11号館 10階 増田講師室																		
備考	事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集 (2時間)																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱに備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕方を修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業テーマ・内容</li> </ul> <p>政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域・テーマを定めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法</li> </ul> <p>学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前、事後学習課題</li> </ul> <p>事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>																		
関連科目	ブレ専門演習、専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業でのグループディスカッション (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文の領域・テーマを定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																		
担当者の研究室等	11号館 10階 和田講師室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	法体系の中で労働法がどのような地位を占めているのか、それは民法に代表される一般市民法と比べてどのような性格を持っているのかについて、基礎的な理解を得るようにします。また、実際に言い渡された判決例、報道された事件を検討することにより法が社会においてどのような機能を担っているのかについても検討します。		
到達目標	この授業を通じて学生には、労働者、使用者、労働契約といった基本的概念と労働法の概要を理解するとともに、法学研究の方法を身につけ、今後の専門演習に向けての自らテーマを選定する契機とすることが期待されます。		
授業方法と留意点	基礎的な事項については講義をしますが、具体的な事例によりながら学生からする報告及び議論を期待しています。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的な事項は講義形式で行うとともに、具体的な事例を時事問題や裁判例から選定し、報告者の報告を基礎としてこれについてゼミ生相互の議論を重ねる中で、法的な解決といわれるものの仕組みを理解できるようにします。また、一定のテーマについてレポートの作成を求めるところもあります。教科書は特に指定しませんが、関連科目の教科書ないし解説書と六法は手元に置くようにしてください。テーマは一応労働法関連のものを予定していますが、皆さんから希望があれば考慮します。		
関連科目	憲法、民法、労働保護法、労働組合法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	労働判例百選 (第9版)	村中孝史ほか
	2		
	3		
評価方法 (基準)	原則として定期試験は行いません。報告・レポートの内容 (50%) と受講態度 (50%) を総合して判定します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室		
備考	授業のテーマは事前に与えるので、事前の準備と事後の確認に1時間程度は必要になります。レポートは、採点の上、次回の講義で留意点等の解説をします。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この演習では、国際法をめぐる諸問題について、受講生が各自関心のある事例を下記教科書に掲げられた「事例演習」の中から選択し、解説をもとに、自ら調査を行ったうえで、各事例に付された設問に回答する形で報告を行ってもらう。そして、その報告をもとに全体で討論する。それにより、国際法の基礎的知識を習得するとともに、国際法の思考方法を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な勉強姿勢を身につけること、②国際法の主要な論点について、筋道の立った説明をすることができるようになること、③3年次からの専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。
授業方法と留意点	本演習では、『演習プラクティス国際法』（下記教科書を参照）をテキストとして使用する。受講者には、本テキストの中から興味・関心をもつ「事例演習」問題を選択してもらい、各事例に付された設問について毎回誰かに報告してもらう形で進める。本演習を受講するにあたっては、「国際法の基礎理論」および「国際社会と法」の各科目を事前に受講していることが望ましい。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際法への理解を深める</td> <td>本テキストで創作されている事例は、実際の判例や実行を題材としている。したがって、事例への理解を深めるためには、実際の判例や実行を詳しく調べることが重要となる。</td> <td>自分が選択した事例について、十分に調査・検討すること。また、自分が担当する事例以外についても最低限「解説」に目を通しておくこと。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	国際法への理解を深める	本テキストで創作されている事例は、実際の判例や実行を題材としている。したがって、事例への理解を深めるためには、実際の判例や実行を詳しく調べることが重要となる。	自分が選択した事例について、十分に調査・検討すること。また、自分が担当する事例以外についても最低限「解説」に目を通しておくこと。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	国際法への理解を深める	本テキストで創作されている事例は、実際の判例や実行を題材としている。したがって、事例への理解を深めるためには、実際の判例や実行を詳しく調べることが重要となる。	自分が選択した事例について、十分に調査・検討すること。また、自分が担当する事例以外についても最低限「解説」に目を通しておくこと。																																																														
2																																																																	
3																																																																	
4																																																																	
5																																																																	
6																																																																	
7																																																																	
8																																																																	
9																																																																	
10																																																																	
11																																																																	
12																																																																	
13																																																																	
14																																																																	
15																																																																	

関連科目 国際法の基礎理論、国際社会と法、国際組織法、国際人権法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	演習プラクティス国際法	柳原正治・森川幸一・兼原敦子編	信山社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト学習条約集【第2版】	芹田健太郎編	信山社
	2			
	3			

評価方法 (基準) 発表内容 (50%) と、議論への参加態度 (20%)、レポートの内容 (30%) によって評価します。

学生へのメッセージ 演習には毎回必ず出席して、積極的に議論に参加してください。他の受講者の報告を聞いたり、議論したりすることによって、自分の知識や視野を広げることができるでしょう。

担当者の研究室等 11号館10階 鳥谷部特任講師室

備考 ©レポートのフィードバックについて：本演習ではレポートの最終提出日までに、仮提出の機会を設けます。教員は、仮提出されたレポート・に、改善のためのアドバイスを付けて受講者に返却します。そのアドバイスをもとに受講者は自身のレポートの完成度を高め、最終レポートとして提出します。  
 ©事前・事後の学習課題：本演習では、受講者全員に1回、報告してもらうことになります。したがって、受講者は発表のために資料の収集や研究調査を進める必要があります（準備時間は人によって異なるが10時間以上）。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究論文の作成に向けて、3年次の「専門演習Ⅱ」は、国際私法の「構造」を理解するために、判例を使った検討を中心に個人あるいはグループで判例を調べて報告することを求めます。なお、理解を確かなものとするために、前期は、「国際私法の構造」についての設題を検討します。3年次終了時には卒業研究論文のテーマの提出も求めます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法総論の理論構造と、各論の主な準拠法及びその連結政策についての理解を説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	「国際私法の構造」についての設題に答える、というディスカッションの形から始めて、その後、「国際私法の諸問題」についての判例研究をします。双方向性を重視して、ディベートを主体として行い、判例報告では、レジュメの作成を求め、それを使ったプレゼンテーションを求めます。なお、最後には、国際私法の理解度を評価するための課題レポートと卒業研究論文テーマの提出を義務づけます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「国際私法の構造」について、重要であると考えられる事柄を設題にして検討</li> <li>2. 重要であると考えられる国際私法事件の判例の解説</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「構造」の理解を前提として、国際私法の諸問題について判例を使った具体的な研究提示する判例の中から選択したものについて、実際の判決文を検討し、レジュメを作成して報告することを求め、その後、その報告を材料として全員で討議・検討 なお、関連する各国実質法については、必要な範囲で適宜講義します。</li> <li>2. 年度の終わりには、国際私法の理解度を評価するための課題レポート及び卒業研究論文テーマの提出を義務づけます。</li> </ol> <p>具体的な事前・事後学習については、適宜指示しますが、全般的には事前学習が重要になります。時間数の目安は、各授業時間ごとに2時間程度です。</p>																		
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法、民法、商法、民事訴訟法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際私法判例百選(第2版)</td> <td>櫻田嘉章・道垣内正人編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際私法判例百選(第2版)	櫻田嘉章・道垣内正人編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	国際私法判例百選(第2版)	櫻田嘉章・道垣内正人編	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で紹介します																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	「報告レジュメ、報告内容、その実施方法」(60%)及び「課題レポート」(40%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	判決文の読解、レジュメの作成などに日本語の正確な知識が必要になります。日本語を意識し、文章力を磨いて下さい。																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	判例報告のレジュメについては、報告の時に、改善点・修正点などを指摘します。また、課題レポートについては、次年度の卒業研究及びS/Hの時間を使ってコメントを添えてフィードバックします。?																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、4年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、公務員採用試験や各種の資格試験対策についても指導する。			
到達目標	この授業を通じて学生には、商法について、一般的な知識を習得できるようになることが期待される。			
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法学の習得をめざす。積極的に議論に参加して欲しい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業のテーマ：商法に関する重要な法律問題の研究 方法：判例・学説の研究 事前、事後学習課題：割り当てられたテーマにつき十分に研究すること			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	出席率、演習への参加態度・レポートを総合的に判断して行う。平常点70%レポート30%			
学生へのメッセージ	授業には出席し、積極的に議論に加わってください。			
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室			
備考	自主学習には、合計20時間とって下さい。 レポートに対する指導は、レポート提出後のゼミの授業中に、行ないます。			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	日本の法文化や法の変動について関心を持ち、主体的に調べ、議論を通じてその理解を深めることを目標とする。過去の法だけでなく、現在の法をも視野に入れて取り組むことにしたい。また、法や紛争の背後にある経済的・社会的・思想的対立関係についても眼を向けたい。その意味では、このゼミは法社会学、法社会史の性格をもっており、法や社会に対して問題意識にあふれた諸君の選択を期待している。																		
到達目標	このゼミを通じて学生は、将来卒論をまとめるのに必要な問題意識、基礎的知識や情報を得られるようになることを期待する。																		
授業方法と留意点	【授業内容】各自が関心をもったテーマについてプレゼンテーションしてもらう。将来の卒業研究につながる基礎作業ともいえるゼミであり、文献調べ、資料収集、テーマに関わる研究上の論点整理などが必要となる。報告者の問題意識を高めるためにも、他の参加者が質問したり、批判することが重要であり、積極的な参加を期待する。学生諸君にとって文章を書く機会が多いとはいえないので、本ゼミではとくに作文指導に力を入れることとする。主語一述語の一致などというような、基本的なところから指導する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期・後期とも、翌年度の卒業研究論文執筆を視野に入れて、各自が興味をもつテーマについて調べ、プレゼンテーションし、討論を行うことにしたい。																		
関連科目	卒論作成に関わる全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日常の報告内容やレジュメの完成度(80%)、レポート(20%)で評価する。																		
学生へのメッセージ	少年老い易く学成り難し 一寸の光陰軽んずべからず。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、みなさんの大切な友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活を過ごしてください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																		
備考	プレゼンテーションの内容は、ゼミ室だけでなく、私の研究室でもアドヴァイスしますので、気軽に訪れてください。レポートはゼミの中で返却し、論評を加えます。ゼミの事前準備には十分な時間(2時間～3時間)取り組むこと。発表時には最低でも3時間(実際には上限無し)はかけて調べ、レジュメを作成すること。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	租税法の学習を通じて、現実の社会経済と租税法との関連について理解を深めていきます。社会人になった場合、どの職場でも要求されることは、何事にも自主的、積極的に取り組み、自分で考え工夫していくことです。ゼミの題材は租税法の分野ですが、それを一つの教材として、各人が問題意識を持って考えてもらいたいと思います。また、ゼミは知識の習得だけでなくプレゼンテーション能力をつける場でもあります。自分の考えを整理して相手に正確に伝える能力も社会に出ると大事です。いろいろな意味で有意義なゼミにしましょう。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法における種々の重要問題について、自分の見解を持ち表現できるようになること ②租税法の基本的な考え方を理解すること ③判例の読み方に習熟し、卒業研究において活用できるようになること																		
授業方法と留意点	配付資料等をもとに租税法の基礎的な理論や個別税法の仕組み、問題点等について研究していきます。基本的に、報告者が担当テーマの発表(プレゼンテーション)を行い、それに基づいて討論(ディスカッション)していきます。卒業研究のための準備にもつながりますので、必ず出席してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	判例や裁判事例を素材にして、問題の本質を探り、検討します。方法としては、毎回担当者を決めて発表してもらい、各事例ごとの法解釈や事実認定上のポイントにつき解説します。重要な税法である所得税法、相続税法、法人税法、消費税法等について議論しながら考えていきます。																		
関連科目	所得税法、相続税法、法人税法及び消費税法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>租税法</td> <td>金子宏</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>図解所得税法</td> <td>松崎啓介 編</td> <td>大蔵財務協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図解相続税・贈与税</td> <td>高藤一夫 編</td> <td>大蔵財務協会</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税法	金子宏	弘文堂	2	図解所得税法	松崎啓介 編	大蔵財務協会	3	図解相続税・贈与税	高藤一夫 編	大蔵財務協会
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税法	金子宏	弘文堂																
2	図解所得税法	松崎啓介 編	大蔵財務協会																
3	図解相続税・贈与税	高藤一夫 編	大蔵財務協会																
評価方法(基準)	ゼミでの積極的発言や貢献度(30%)、課題発表の内容(30%)、及びレポート(20%)の合計で評価します。																		
学生へのメッセージ	ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させるのに絶好の機会を提供すると思いますので、ゼミを重要視してください。自由に発言できる雰囲気でのゼミにしましょう。出席することが重要です。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	課題の担当者が司会者となってゼミ生全員に考えさせながら、ゼミの時に課題の正解が分かるようにします。ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気でのゼミにしましょう。専門演習Ⅱでは判例研究を中心に行いますので、深度のある学習が求められます。このため、事前・事後の学習が欠かせません。各回の課題について、事前30分・事後1時間程度の学習を心掛けて下さい。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会において現実が生じている動きをきちんと把握し分析し、それをより深く理解できるようにトレーニングを進めていきます。特に、本演習では、社会における「紛争」や「論争」などを題材としていきたいと思ひます。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思ひます。																
到達目標	この演習を通じて学生には、個人あるいはグループで、特に関心のある問題について、資料を収集し分析するなどの検討を行い、それを他人の前で口頭で発表できるようになることと、その検討内容を決められた形式・分量に則してレポート化して、期限までにまとめあげることができるようになることが期待される。																
授業方法と留意点	ゼミ形式。学生によるプレゼンテーションとそれに関するディスカッションを行っていく。毎回欠かさず出席すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会におけるさまざまな政治的社会的諸現象が実際にどのように発生し、どのような状態にあるのか、きちんと把握するとともに、より深く理解していく上での分析能力の養成を目指していきます。特に、前期は国際社会や国内社会のさまざまな局面やレベルにおける「紛争」や「対立」あるいは「論争」を題材としていきたいと思ひます。前期の前半は主に、世界各地の「紛争」についての理解を深めることに重点をおきます。前期の後半は、日々動きの激しい国内外の諸問題を題材とし、それを把握するトレーニングに重点をおきたいと思ひます。後期は、夏季休暇中に各自で作成した課題レポートを個別発表して、それに関するディスカッションを行っていく、各問題に対する理解と考察を深めていきます。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	演習での勉強姿勢、特にディスカッションへの参加など(20%)、プレゼンテーションの内容(30%)および夏季レポートの提出(40%)およびそのプレゼンテーション(10%)により評価します。																
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、2年後期の専門演習Ⅰで培った情報の基礎分析力がベースとなる演習活動です。そしてそれは、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』です。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見い出せるか、それは、演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。																
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乘せする必要があります。																

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	不動産登記、担保物権、民事執行等について復習及び研究をすることにより不動産取引、金融についての知識を確実なものとする。実社会においても必要な知識を深めるだけでなく、宅建、司法書士等の資格取得に対応する法的基礎を得るようにする。			
到達目標	この授業を通じて学生には、民法の分野では宅建試験に合格できる程度の水準に達するようになることが期待される。			
授業方法と留意点	【授業内容】 この授業を通じて学生には、裁判例、文献を検討して、その中で、各自が関心を引く題材、課題を探し出し、レポートの作成等を通じて、卒業研究に繋がる準備を進めるようになることが期待される。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的文献、判例ブラクティス、判例百選から選んだ題材について、検討、討論を重ねる。それによって、法学思考に磨きをかける。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加の態度(50%)、報告内容(50%)によって、評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室			
備考	この演習では各授業につき2時間の事後学習をして下さい。			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第二段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この4つの力をバランスよく養っていきたい。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査(ともにフィールドワーク)、学外の方への活動報告(プレゼンテーション)、仲間との活動の企画と振り返り(ディスカッション)が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(30%)、企画・振り返りへの貢献度(40%)、読書ノート(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回1~2時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。		
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	個々の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション(60%)、ふり返りのペーパー(40%)で評価します		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備(4時間程度)、それ以外は報告者から提示される文献を読む(30分)、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	スポーツ活動を多面的な学問領域(主に、法学・政治学・法政策学)から検討し、知見の獲得を図る。卒業研究題目の決定と、必要な資料・文献の収集および予備調査への導入を図る。		
到達目標	この授業を通じて学生には、次年に作成する卒業研究の題目決定と、作成を遂行するための基本的な能力を養うことが期待される。		
授業方法と留意点	授業の方法は演習形式。 専門演習Ⅰの授業において行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 各自が能動的に取り組むことが必要となります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：スポーツ活動を多面的な学問領域(主に、法学・政治学・法政策学)から検討し、知見の獲得を図る。 授業内容：専門演習Ⅰの授業で行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 事前事後学習課題：授業中に指示した課題の実行		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加を前提とし、各回の取り組み(与えられた課題の完成度50%、プレゼンテーションの内容20%、ディスカッションでの発言等30%)をもとに評価する。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室		
備考	各回に1時間程度、すなわち通年で30時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	刑事手続をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。			
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事手続に関する十分な知識を修得することが期待される。			
授業方法と留意点	プレゼンテーションやディベートといったような受講生が能動的に学習できる方法を用いながら授業を行っていく予定である。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、受講生が各自関心のあるテーマについて報告を行う。</p> <p>事前の学習課題としては、報告の準備など(資料の読み込み、レジュメの作成など)。</p> <p>事後の学習課題としては、報告において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。</p> <p>事前、事後学習ともに1～2時間/日を要する。</p>			
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	個別報告の内容(50%)、全体討議における発言・態度等(50%)			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	11号館9階 島田准教授室			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JJDJ3136a0		

授業概要・目的	<p>法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題や議論されている事柄を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にさせていただきたいと思います。</p> <p>前期は、報告者グループがおこなう何らかの法的・政治的問題や課題についての報告を基に、皆で議論していただきます。単に個人的な考え方や意見を述べるだけでなく、根拠を示しながら、どのように問題を捉えるべきなのかを議論する力をつけていただきたいと思います。後期においては、前期で培った議論・説得する力を存分に発揮しつつ、法を実践的に学ぶために、模擬裁判をおこなっていただく予定です。</p>																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	<p>前期はおもに、2-3人を1グループとする報告者に議論の基礎となる報告をしていただいたうえで、皆さんで議論していただくというかたちをとります。報告者は、報告前に集まって、共同でレジュメを作成し、報告や議論の進行について考えてください。そのうえで、報告の数日前までにその概要を担当教員に知らせてください。報告者以外の方々には、積極的に議論に参加されることを望みます。こうして議論をおこなうことによって、違う意見を持つ人々をどう説得するか、またどう折り合いをつけるのかを学ぶことにもなるでしょう。</p> <p>後期は、模擬裁判をおこなうことを考えていますので、その準備と実施がおもな活動となります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は、グループでの報告と、それを基にした議論をおこなっていただきたいと思います。1人につき、2-3回、報告をする機会があると思いますが、そのうち少なくとも1度は、民事事件の判例を報告のテーマとしていただき、当事者双方の主張、そしてそれらに対する裁判所の判断について検討・議論していただきたいと思います。2度目以降の報告については、民事事件に限らず、法律や政治に関連のある事柄について報告していただくというふうにしていきたいと考えています。</p> <p>後期は4年生とともに、模擬裁判をおこなっていただきます。刑事裁判手続きや裁判員制度に関して学んだうえで、模擬裁判で題材とする事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成するという作業と模擬裁判の実施が、後期のゼミの大半を占めることになります。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢(80%)、課題・提出物(20%)を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：65時間																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	<p><b>【民法総合演習】</b></p> <p>本演習では、受講生の法的問題解決能力の向上を目的として、現実に、今、社会で問題となっている、民法(債権法)・消費者法にかかわる最新の事例・判例の検討を行います。</p> <p>夏期休暇中に、他大学(近畿大学・立命館大学・神戸学院大学)との合同ゼミ(法律討論会)も予定しています(全員参加)。11月終わりから12月には、神戸学院大学で開催される法律討論会にも参加予定です。</p>																
到達目標	この授業を通じて学生には、民法、特に財産法分野の基本的知識の理解を確実にすることを期待します。																
授業方法と留意点	<p>報告は2～3名のチームで行います。報告者チームには、互いに協力し、関連文献・判例をふまえた報告を行うことが求められます。本演習は、民法の基礎知識を前提とします。特に、民法総則、債権法、不法行為法、契約法、消費者と法の授業内容は、直接関連するため、履修が必要です。</p> <p>なお、ゼミは毎回の出席が前提であり、無断欠席は許されません。やむを得ず欠席する場合は、メール等で必ず連絡してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>民法総合演習</p> <p>授業で扱う判例については、自分が報告しないものについても、最低限、目を通してきて下さい。この作業にかかる時間としては、目安として60分程度を考えています。</p> <p>もともと、自分が担当する判例については、何を聞かれても答えられるよう、十分な準備をする必要があります。当然、60分では間に合わないとお考え下さい。</p> <p>グループワークになりますので、一人がサボるとグループの皆に迷惑がかかります。最低限、自分の報告だけは、責任をもってやり遂げて下さい。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	報告内容(50%)、および授業や討論会に臨む姿勢(50%)を総合評価します。																
学生へのメッセージ	ゼミは皆で作るものです。徹底的に学び、議論し、思いっきり遊んで、良いゼミをつくっていきましょう。																
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室																
備考																	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方針</li> <li>1 この専門演習Ⅱは、2年次後期の「専門演習Ⅰ」にひきつづき、4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。</li> <li>2 そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例(判例)や学説を調べて報告してもらいます。</li> <li>3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。</li> <li>4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。</li> </ul>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ内容 この演習では、刑法(罪刑法定主義、刑法総論(全犯罪共通の成立要件の検討)、刑法各論(各種個別犯罪[殺人・強盗・放火等]の成立要件論))、および、刑事学・犯罪学(犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策)を主な検討対象とします。</li> <li>・授業内容 刑事法に関する事例問題(論述式)の答案作成方法 刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法(リーガル・リサーチ) 個別テーマの報告</li> <li>・授業時間以外での活動 学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。</li> </ul>																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点(第3版)</td> <td>西田=山口=佐伯</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例ブラクティス刑法Ⅰ</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例ブラクティス刑法Ⅱ</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点(第3版)	西田=山口=佐伯	有斐閣	2	判例ブラクティス刑法Ⅰ	成瀬=安田	信山社	3	判例ブラクティス刑法Ⅱ	成瀬=安田	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点(第3版)	西田=山口=佐伯	有斐閣																
2	判例ブラクティス刑法Ⅰ	成瀬=安田	信山社																
3	判例ブラクティス刑法Ⅱ	成瀬=安田	信山社																
評価方法(基準)	評価方法 プレゼンテーション(50%)とディベートへの参加度(50%)によって評価する。  以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか(発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究(学説)を十分に、かつ、主体的に調査しているか(主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか(論理性)。																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小野准教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	<p>当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆様のご希望があれば民法・民事訴訟法以外に、民事執行・保全法や倒産法を研究対象とすることも可能です。</p>																
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、前期は、2年次より更に内容的に専門的かつ興味深い研究テーマを探求するための手法や思考方法を身に付けるため、2年次とは異なり個人発表を中心とする。また、研究テーマに関するディスカッションをより活発化させ、他人と議論することで自分の研究テーマをより掘り下げて考えることができるようし、かつ、自分の意見を、自分とは意見の異なる相手にも論理的に説明するスキルを磨くようになることが期待される。</p> <p>この授業を通じて学生には、後期は、個人の判例研究発表の傍ら、卒業研究で取り組みたいと思うテーマを見つけられるよう、それぞれ興味がある部分について最近の判例・学説の動向を整理し、研究の方向性を探っていくようになることが期待される。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b> 3年次は、2年次とは異なり、基本的には個人発表と質疑応答が中心となり、内容もより深いものとなります。発表では、自分が特に興味を有するテーマを取り上げることから、回を重ねるごとにその分野における知識が集積され、卒業研究で取り扱いたいと思う課題・問題意識に繋がることと思います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合ってから発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を読み込むこと(インプット)はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法(アウトプット)についても熟慮すること。</p> <p>発表形式は、次の2つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う：</p> <p>1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決(判旨・判決理由)を記載したものの、2点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。</p> <p>2. コミュニケーション技能重視型： 3人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。</p> <p>予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。</p> <p>また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。</p> <p>事前・事後学習の時間は、それぞれ30分を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点(60%)、プレゼンテーションやレポート(40%)で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取り組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。</p>																
学生へのメッセージ	<p>3年次の専門演習は、2年半に及ぶゼミの中でも一番充実して学べる時期ですので、将来のために、この時間を有意義に活かしてください。また、普段の友達との輪とはまた少し違うゼミ仲間から得られるものも多いと思いますので、全員が声をかけ合えられるような和気あいあいとしたゼミになってくれればと思います。</p>																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	<p>判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。</p> <p>また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。</p>																

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。			
到達目標	この授業を通じて学生には、3年次には、2年次に引き続き、判例を各班で分担して全員の前で報告することを予定している。そのためには、班での役割分担、各自に割り当てられた課題への対応が必要となる。それらの課題の割り振り方、課題への対応の方法を身にくようになることが期待される。 具体的には、判例から問題点(論点)を班で確認および抽出できること、それを報告するために必要となる知識をいかに得るかということ、個人での資料収集等の仕方、ならびにそれを文章化してレジュメ等にまとめるための技術を得るようになることが期待される。			
授業方法と留意点	3年次では、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後	テーマは、教員の方で最新の判例等をいくつか提示し、学生により取捨選択をしてもらう予定である。グループ活動では、各班で意見をまとめ、それを全員の前で報告する必要がある。その為に、ゼミにおいても準備期間を設けるほか、ゼミ外の時間においても、各自で自ら準備期間等を設ける必要がある。			
学習課題	なお、判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み(20%)、得られた知識(20%)、得られた経験(20%)、今後の課題(20%)、個人的PR(20%)をもとに判断を行う。			
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指している。 そのため、新ゼミ生自体(次の年度のゼミ生)の獲得もゼミ生自身で行い、そのためのガイダンス等において自ら本ゼミの説明をおこなう必要がある。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えている			
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことを期待しています。			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰに引き続き、この専門演習Ⅱでもいろいろな法分野を学習していきます。具体的には憲法・民法・行政法を中心にテキストと判例を読み進め、資格試験などの過去問を解いてみたいと思います。また、ゼミで習得した実定法の専門知識を用いて、現代社会の諸問題を考えるつもりです。			
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、憲法・民法・行政法など、実定法にかんするやや高度な専門知識(行政書士試験合格レベル)を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。			
授業方法と留意点	問題演習とディベートを基調にしつつ、時おり担当者(グループワーク)を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなでディスカッションも行います。必要に応じて教員(松島)がゼミの内容を補足するために講義を行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習(教科書の読解など)を前提にして、ゼミでは問題演習とディベートを行うつもりです。もちろん事後の復習は必須です。また、重要判例をいくつか取り上げ、グループごとにその概要を報告してもらいます(現時点では憲法・民法・行政法などの基本的な実定法科目を念頭に置いていますが、その他の法分野でも構いません)。とにかくしっかり暗記に努めるようなゼミにしたいと思っています。 さらに後期のゼミでは次年度の卒業研究を見据え、自分の興味をもった法分野(判例)にかんして文献調査を行ってもらいます。			
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストや発表(プレゼン)などへの取り組み70%と、ゼミ中での発言(ディスカッション・ディベートなど)30%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。			
学生へのメッセージ	さまざまな機会を利用して、レポートを課す予定です。自分の言葉で文章をつづることはなかなか骨の折れる作業ですが、必ず次年度の卒業研究に役に立ちますので、頑張ってください。			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります(これらの事前学習に60分以上)。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください(事後学習に60分以上)。 なお、小テストについてはその回のゼミのなかで全員で答え合わせをし、提出してもらったレポートについてはゼミの最終回に返却します。			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	「問題提起型広報の実践」をテーマとする。地域課題を発見し、「問題提起型広報」として情報発信するという活動を通じて、地方自治について実践的に学ぶ。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題の本質をつかみ、不特定多数の読み手に興味を持ってもらえるような形で表現することができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。</li> <li>2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。</li> <li>3. 事例研究 地域における問題を見出し、原因やメカニズムを解明する。</li> <li>4. 問題提起型広報の作成・公表 研究成果を住民に向けて発信し、フィードバックを得る。</li> </ol>																		
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」「地域政策応用講義Ⅱ(地方政策論)」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	グループワークへの貢献60%、プレゼンテーション40%																		
学生へのメッセージ	まずは、コラボレーション相手を見つけるところからの活動になります。実践を通じて楽しく学びましょう。																		
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																		
備考	事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集(2時間)																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究に備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の書き方や資料収集の仕方についても授業します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕方を修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・ディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。 ・授業テーマ・内容																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域を定めることができます。  ・授業方法  ①前半 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。  ②後半 自分の卒業論文のテーマを定め、その目次・内容・結論について全員が発表し、それを吟味・討議する時間を取ることにします。自主的な参考文献の読解や資料・データの収集が求められます。  ・事前・事後学習課題  事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60 分～90 分程度)。																		
関連科目	専門演習 I、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業でのグループディスカッション (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文のテーマを明確に定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 和田講師室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	労働法に関する判例を検討することを通じて論点について多様な見解があることを知り、多様な見解の中から一つの結論を導くためにどのような思考過程を経ているのかを確認することによって法的思考といわれるものの実体を知るとともに、労働法の具体的内容を理解する。		
到達目標	この授業を通じて学生には、労働法判例を研究することにより、労働法の基本的な解釈を身につけた上で、法的思考のプロセスを理解するとともに、最終年度における修士論文作成のためのテーマの選定、研究の手法を習得することが期待される。		
授業方法と留意点	受講者のうちから担当を決め、担当者には選定した判例を素材にした報告をして貰い、その後、参加者全員で議論をする予定です。報告に当たっては、単に判決の結論を要約して述べるのではなく、その事案では何が問題になっているのか、その問題点について対立する当事者はそれぞれどのような主張をしていたのか、裁判所が一定の判断をした根拠はどこにあるのか、裁判所が採用しなかった見解にはどのような問題点があったのか等に注意を払いながら、論点についての自分自身の考えをまとめるように心掛けてください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマとする判決は事前に受講者の希望を考慮して上で決定します。判決については公式判例集あるいは法律雑誌、データベースを検索するなどして可能な限り全文を読み込んでください。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	別冊 Jurist 「労働判例百選[第9版]」	村中孝史 ほか
	2	Jurist 増刊 「労働法の争点」	土田道夫 ほか
	3		
評価方法(基準)	原則として定期試験は行いません。報告・議論の内容(50%)と受講態度(50%)を総合して判定します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 川谷教授室		
備考	テーマは事前に決定します。事前の準備と事後の確認に少なくとも1時間程度は必要です。		

科目名	相続法	科目名(英文)	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 民法第5編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提としての財産上の権利義務を承継するという相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。改正法の内容についても知る必要がある。  
 授業担当者は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。

**到達目標**  
 この授業を通じて学生には、日常生活で良く起こる相続に関し民法ではどのような条文になっているのか、遺言はどのように作らなければ有効とは言えないのかといった点につき正確な知識の習得と、具体的な遺産分割の計算方法を練習し、これらについて説明出来るようになることが期待される。

**授業方法と留意点**  
 教科書に沿って講義形式で行うが、具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。また、親族法の理解が前提となるので、その知識の確認をしておくこと。

**科目学習の効果(資格)**  
 日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	相続法の概略	相続法とは	教科書第7章を読む 重要事項を確認し見直すこと
2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	教科書第8章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
3	相続人と相続分②	代襲相続、相続分	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
4	相続人と相続分③	相続欠格、相続廃除、相続回復請求権	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
5	相続の効力①	相続の一般的効果	教科書第9章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
6	相続の効力②	相続と登記、祭祀承継	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
7	相続の効力③	遺産共有、遺産管理、遺産分割	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
8	相続の承認・放棄①	単純承認、限定承認	教科書第10章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
9	相続の承認・放棄②	相続放棄	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)と
10	財産分離と相続人の不存在	財産分離の意義、相続人不存在、特別縁故者	教科書第11章・第12章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
11	遺言①	遺言とは、遺言の方式	教科書第13章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
12	遺言②	遺言の効力	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
13	遺言③	遺言による財産処分、遺言の執行	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
14	遺留分	遺留分とは、遺留分の確定、遺留分減殺請求権	教科書第14章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
15	全体の復習	相続全般を振り返る	すべての重要事項の再確認(約1時間)

**関連科目** 親族法、民事法概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法7 親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法(基準)** 定期試験(70%)と小テスト(30%)の結果で評価する

**学生へのメッセージ** 相続法の理解を通して、「相続」がもつ意義を再確認する。

**担当者の研究室等** 11号館10階 古川教授室

**備考** 授業の進行に応じて順序や内容を変更することがある。小テストの解答はその回の授業で行う。

科目名	相続法	科目名(英文)	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3039a0		

授業概要・目的	民法第5編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提としての財産上の権利義務を承継するという相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。改正法の内容についても知る必要がある。 授業担当者は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日常生活で良く起こる相続に関し民法ではどのような条文になっているのか、遺言はどのように作らなければ有効とは言えないのかといった点につき正確な知識の習得と、具体的な遺産分割の計算方法を練習し、これらについて説明出来るようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行うが、具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。また、親族法の理解が前提となるので、その知識の確認をしておくこと。
科目学習の効果(資格)	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	教科書第8章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
3	相続人と相続分②	代襲相続、相続分	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
4	相続人と相続分③	相続欠格、相続廃除、相続回復請求権	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
5	相続の効力①	相続の一般的効果	教科書第9章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
6	相続の効力②	相続と登記、祭祀承継	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
7	相続の効力③	遺産共有、遺産管理、遺産分割	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
8	相続の承認・放棄①	単純承認、限定承認	教科書第10章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
9	相続の承認・放棄②	相続放棄	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)と
10	財産分離と相続人の不存在	財産分離の意義、相続人不存在、特別縁故者	教科書第11章・第12章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
11	遺言①	遺言とは、遺言の方式	教科書第13章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
12	遺言②	遺言の効力	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
13	遺言③	遺言による財産処分、遺言の執行	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
14	遺留分	遺留分とは、遺留分の確定、遺留分減殺請求権	教科書第14章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
15	全体の復習	相続全般を振り返る	すべての重要事項の再確認(約1時間)

関連科目	親族法、民事法概論
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法7 親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(70%)と小テスト(30%)の結果で評価する
学生へのメッセージ	相続法の理解を通して、「相続」がもつ意義を再確認する。
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室
備考	授業の進行に応じて順序や内容を変更することがある。小テストの解答はその回の授業で行う。

科目名	租税法 I	科目名 (英文)	Tax Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>現代社会では、国民は法律（租税法）に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法 I では、税法の総論に関する事項と個人に関係する所得税法の仕組み、考え方について理解してもらいたいと思います。</p> <p>租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。</p> <p>①租税法に共通する原則や基本事項が理解できるようになること。</p> <p>②租税法の中でも最も基本的で身近な所得税法の概要が理解できるようになること。</p>
授業方法と留意点	講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくると思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	税理士試験や国税専門官をを目指す人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	私達の生活と税	税との関わり、財政の状況、税の種類、税が持っている機能	教科書の第 1 章を読んでおくこと。レジュメ第 1 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	2	租税法序論	税法の法源、租税実体法と租税手続法	教科書の第 1 章を読んでおくこと。レジュメ第 2 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
	3	租税法の原則	租税法主義と租税公平主義	教科書の第 2 章を読んでおくこと。レジュメ第 3 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
	4	租税法の解釈と適用	租税法の解釈と適用の仕方	教科書の第 2 章を読んでおくこと。レジュメ第 4 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	5	納税義務の確定等	納税義務の成立・確定、更正の期間制限、附帯税	教科書の第 7 章を読んでおくこと。レジュメ第 5 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
	6	所得税法 (1)	所得税の特色、納税義務者	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 6 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
	7	所得税法 (2)	包括所得概念、担税力に応じた負担	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 7 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	8	所得税法 (3)	所得計算の概要	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 8 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	9	所得税法 (4)	所得の帰属、権利確定主義	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 9 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	10	所得税法 (5)	所得の区分 (利子、配当、退職、給与) と計算	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 10 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	11	所得税法 (6)	所得の区分 (事業、不動産、山林、雑) と計算	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 11 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	12	所得税法 (7)	所得の区分 (譲渡、一時) と計算	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 12 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	13	所得税法 (8)	所得控除と税額控除	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 13 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	14	源泉徴収制度	制度の概要と源泉徴収の法律関係	教科書の第 7 章を読んでおくこと。レジュメ第 14 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
	15	まとめ	講義全体のまとめ	ノートと配付資料等を復習しておくこと。(約 5 時間)

関連科目	憲法、民法、商法など
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解所得税	松崎啓介	大蔵財務協会
	2	図解国税通則法	黒坂昭一・佐藤 謙一 編著	大蔵財務協会
	3	租税法	金子宏	弘文堂

評価方法 (基準)	期末試験の点数 (80%) と理解度テスト (20%) の合計で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 10 階 小島教授室
----------	------------------

備考	レジュメの穴埋めは講義において解説の上明示する。また、理解度テストは解答の回収後に正解を説明する。
----	---

科目名	租税法 I	科目名 (英文)	Tax Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3021a0		

授業概要・目的	<p>現代社会では、国民は法律（租税法）に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法 I では、税法の総論に関する事項と個人に係る所得税法の仕組み、考え方について理解してもらいたいと思います。</p> <p>租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。</p> <p>①租税法に共通する原則や基本事項が理解できるようになること。</p> <p>②租税法の中でも最も基本的で身近な所得税法の概要が理解できるようになること。</p>
授業方法と留意点	講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくると思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	税理士試験や国税専門官をを目指す人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	私達の生活と税	税との関わり、財政の状況、税の種類、税が持っている機能	教科書の第 1 章を読んでおくこと。レジュメ第 1 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
2	租税法序論	税法の法源、租税実体法と租税手続法	教科書の第 1 章を読んでおくこと。レジュメ第 2 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
3	租税法の原則	租税法主義と租税公平主義	教科書の第 2 章を読んでおくこと。レジュメ第 3 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
4	租税法の解釈と適用	租税法の解釈と適用の仕方	教科書の第 2 章を読んでおくこと。レジュメ第 4 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
5	納税義務の確定等	納税義務の成立・確定、更正の期間制限、附帯税	教科書の第 7 章を読んでおくこと。レジュメ第 5 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
6	所得税法 (1)	所得税の特色、納税義務者	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 6 回講義を見直すこと。(約 1.5 時間)
7	所得税法 (2)	包括所得概念、担税力に応じた負担	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 7 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
8	所得税法 (3)	所得計算の概要	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 8 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
9	所得税法 (4)	所得の帰属、権利確定主義	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 9 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
10	所得税法 (5)	所得の区分 (利子、配当、退職、給与) と計算	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 10 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
11	所得税法 (6)	所得の区分 (事業、不動産、山林、雑) と計算	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 11 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
12	所得税法 (7)	所得の区分 (譲渡、一時) と計算	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 12 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
13	所得税法 (8)	所得控除と税額控除	教科書の第 5 章を読んでおくこと。レジュメ第 13 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
14	源泉徴収制度	制度の概要と源泉徴収の法律関係	教科書の第 7 章を読んでおくこと。レジュメ第 14 回講義を見直すこと。(約 1 時間)
15	まとめ	講義全体のまとめ	ノートと配付資料等を復習しておくこと。(約 5 時間)

関連科目	憲法、民法、商法など
------	------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図解所得税	松崎啓介	大蔵財務協会
2	図解国税通則法	黒坂昭一・佐藤 謙一 編著	大蔵財務協会
3	租税法	金子宏	弘文堂

評価方法 (基準)	期末試験の点数 (80%) と理解度テスト (20%) の合計で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 10 階 小島教授室
----------	------------------

備考	レジュメの穴埋めは講義において解説の上明示する。また、理解度テストは解答の回収後に正解を説明する。
----	---

科目名	租税法Ⅱ	科目名(英文)	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>現代社会では、国民は法律（租税法）に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。</p> <p>租税法Ⅱでは、所得税法と同様に個人に対して課税される相続税及び我が国経済の原動力である法人の利益に対して課税される法人税について学習します。いずれも所得税法と並ぶ重要な税目で、皆さんの将来に直接又は間接に影響を与えるものです。</p> <p>租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。</p> <p>①租税法に共通する原則並びに相続税法及び法人税法の固有の考え方が理解できるようになること。</p> <p>②相続税法及び法人税法の概要・仕組みが理解できるようになること。</p>
授業方法と留意点	講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくると思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	税理士試験や国税専門官をを目指す人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	相続税法と民法(相続編)との関係	計数で見る相続税、民法の基礎事項	民法第5編(相続)に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	2	相続税法(1)	相続税の意義・課税方式、相続税の納税義務者	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	3	相続税法(2)	相続財産の範囲	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	4	相続税法(3)	債務控除	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	5	相続税法(4)	相続税の課税標準と税額の計算、各相続人の納付税額	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	6	相続税法(5)	贈与税の意義	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	7	相続税法(6)	贈与税の課税標準と税額の計算、相続時精算課税制度	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	8	相続税法(7)	相続税、贈与税の申告・納付	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	9	相続税法(8)	財産の評価	教科書の第5章Ⅱの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	10	法人の経済活動と法人税	法人税の意義、納税義務者、法人税の計算(企業会計と課税所得)	教科書の第5章Ⅲの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	11	法人税法(1)	法人税法22条と別段の定め	教科書の第5章Ⅲの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	12	法人税法(2)	法人税法22条と別段の定め(続き)	教科書の第5章Ⅲの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	13	法人税法(3)	同族会社	教科書の第5章Ⅲの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	14	法人税法(4)	国際課税	教科書の第5章Ⅲの該当箇所を目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	15	まとめ	講義全体のまとめ	ノートと配布資料等を復習しておくこと。(約6時間)

関連科目 民法、会社法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	租税法	金子宏	弘文堂
	2	図解相続税・贈与税	高藤一夫 編	大蔵財務協会

	3	図解法人税	白井純夫 編	大蔵財務協会
評価方法 (基準)	期末試験の点数(80%)と理解度テスト(20%)の合計で評価します。			
学生への メッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。なお、租税法Ⅰを取らなかった場合でも理解できる内容です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小島教授室			
備考	レジュメの穴埋めは講義において解説の上明示する。また、理解度テストは解答の回収後に正解を説明する。			

科目名	租税法Ⅱ	科目名(英文)	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3022a0		

授業概要・目的	<p>現代社会では、国民は法律（租税法）に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。</p> <p>租税法Ⅱでは、所得税法と同様に個人に対して課税される相続税及び我が国経済の原動力である法人の利益に対して課税される法人税について学習します。いずれも所得税法と並ぶ重要な税目で、皆さんの将来に直接又は間接に影響を与えるものです。</p> <p>租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。</p> <p>①租税法に共通する原則並びに相続税法及び法人税法の固有の考え方が理解できるようになること。</p> <p>②相続税法及び法人税法の概要・仕組みが理解できるようになること。</p>
授業方法と留意点	講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくると思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	税理士試験や国税専門官をを目指す人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	相続税法と民法(相続編)との関係	計数で見る相続税、民法の基礎事項	民法第5編(相続)に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	2	相続税法(1)	相続税の意義・課税方式、相続税の納税義務者	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	3	相続税法(2)	相続財産の範囲	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	4	相続税法(3)	債務控除	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	5	相続税法(4)	相続税の課税標準と税額の計算、各相続人の納付税額	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	6	相続税法(5)	贈与税の意義	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	7	相続税法(6)	贈与税の課税標準と税額の計算、相続時精算課税制度	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	8	相続税法(7)	相続税、贈与税の申告・納付	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	9	相続税法(8)	財産の評価	教科書の第5章Ⅱの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約1時間)
	10	法人の経済活動と法人税	法人税の意義、納税義務者、法人税の計算(企業会計と課税所得)	教科書の第5章Ⅲの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	11	法人税法(1)	法人税法22条と別段の定め	教科書の第5章Ⅲの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	12	法人税法(2)	法人税法22条と別段の定め(続き)	教科書の第5章Ⅲの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	13	法人税法(3)	同族会社	教科書の第5章Ⅲの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	14	法人税法(4)	国際課税	教科書の第5章Ⅲの該当箇所目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約2時間)
	15	まとめ	講義全体のまとめ	ノートと配布資料等を復習しておくこと。(約6時間)

関連科目 民法、会社法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	租税法	金子宏	弘文堂
	2	図解相続税・贈与税	高藤一夫 編	大蔵財務協会

	3	図解法人税	白井純夫 編	大蔵財務協会
評価方法 (基準)	期末試験の点数(80%)と理解度テスト(20%)の合計で評価します。			
学生への メッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。なお、租税法Ⅰを取らなかった場合でも理解できる内容です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小島教授室			
備考	レジュメの穴埋めは講義において解説の上明示する。また、理解度テストは解答の回収後に正解を説明する。			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	国際私法を中心として国際取引法、国籍法も含めて、その諸問題を具体化して論文を完成させることが目的となります。卒業研究は、3年次終了時に提出したテーマを卒業研究論文として完成させることを目指しますが、具体的に検討した結果、さらに興味を持って探求したいと考える別のテーマを見いだすことは妨げません。就職後に必要な知識に関するテーマに変更することも可能です。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法、国籍法、国際取引法から各自が選んだテーマを論文として完成させたとき、その論文がその分野において「基本的な水準」に達していることを説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	文献資料の蒐集や論文作成についての注意点を当初に行い、その後はテーマごとの指導として時間を指定した個別指導になりますので、そのために各自の年間計画の作成を求めます。なお、論文構成については、適宜、プレゼンテーションによる報告も求めます。また、学年末に、学部の「卒業研究発表会」がありますので、それを考えた研究をして下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>3年次最後のレポートで提出したテーマについて、卒業研究論文としてどのように具体化すべきかを検討することから始めます。検討結果によってはテーマの変更も可能ですが、明確な理由を示す必要があります。</li> <li>決定したテーマについて、まず、必要な文献や判例を調査し、その蒐集と読解を通して論文の構成や目次をレポートとして提出することを求めます。論文の目次、その他具体的な論文構成は、遅くとも10月下旬までに提出すること。</li> <li>検討・修正を加えた後に下書きを作成し、その報告を適宜受けながら訂正を加えて論文の完成を目指します。下書きの完成時期は、12月中旬とします。</li> <li>論文提出期間に入った1月の段階で最終稿を提出し、最後の推敲を経て、その確認後に教務課への提出を許可します。事前事後の学習は、卒業研究の進捗に合わせてその都度具体的に指示しますが、少なくとも2時間以上のテーマについての熟考と見直しが必要です。</li> </ol>																		
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に、指定しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に、指定しない。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に、指定しない。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究論文について、そのテーマと論述方法の関係及びその理解度を中心に、作成過程と下書きなどの原稿(60%)及び完成した論文(40%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	就活と卒業研究を両立するために、必ず年間計画を立ててください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	<p>学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、卒業論文の作成を目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマを推薦し、また必要な文献を紹介する。</p> <p>卒業論文の作成は、テーマにそって学説・判例を収集し、自説をまとめていくということになる。卒業論文の完成のための研究により、法学の応用力を身につけることを目的としている。</p> <p>卒業論文発表会で発表してもらうことを予定している。</p>																		
到達目標	この授業を通じて、学生は、卒論を完成することができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	【授業内容】 卒業論文の指導を行う。卒業論文のテーマは、学生ごとに異なっているので、個別的な指導を行っていく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	資料の収集、資料の読み込み、研究成果のまとめ、卒業論文の下書きおよび卒業論文の完成という順番で、指導していく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習への参加態度、研究発表の内容等を総合的に判断して行う。平常点30%レポート70%																		
学生へのメッセージ	卒論の作成は、計画を立てて、地道に行ってください。 演習では、学生が能動的に研究し、積極的に議論に加わることを望む。																		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室																		
備考	事前および事後学習課題は、授業中に指示する。 事前および事後学習課題には、20時間を費やしてください。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究論文作成のためのアドバイスをを行う。問題意識の醸成、研究テーマの絞り込み、資料や文献の検索の仕方、論文の構成や文章の表現技法などを指導する。よい論文を完成すべく、着実な努力を求める。		
到達目標	この論文指導により、学生は緻密で論理的な卒業論文を完成させることが期待される。		
授業方法と留意点	各自研究テーマが異なるので、それぞれのテーマに沿った資料や文献を見つけ出し、その概要をプレゼンテーションし、出席者で討論してもらう。夏休み明けに論文の表題や、章構成、論旨、結論など、「論文の計画書」を提出させ、それをチェックする。合格した者はそれに沿って執筆をはじめ、中途もしくは完成後に何度かチェック、添削して最終提出論文を完成させる。なお、その成果を卒論発表会でプレゼンテーションすることもある。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の研究テーマに沿って、基本文献を捜し、読み、報告する。多くの文献を読み込むことが必要であり、その基礎があつてはじめて論文作成が可能となる。他者の質問や意見に謙虚に耳を傾け、再検討したり、時に反論することも大事である。		
関連科目	論文にかかわるすべての科目。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	論文の出来具合で判断する。プレゼンテーションの結果も若干(5%ほど)考慮する。		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期ではあるが、卒論に手を抜くと卒業できなくなってしまう。一層の奮励努力が必要。		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室		
備考	資料を丹念に読み、手を抜くことなくまじめに取り組むことが望まれる。研究室にアドバイスを求めにきてくれるならば、喜んで協力する。毎週最低でも2時間くらいは、卒論作成の準備に地道に取り組むことが望まれる。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	租税法に関する問題をテーマとした論文を完成させます。税が絡んだテーマならなんでも結構ですので幅広く考えてください。																		
到達目標	この研究を通じて学生には、論理的思考力と比較衡量する力が備わることが期待されます。「はじめに」のところでは問題意識を明らかにし、本文では論理的な展開を行い、結論を導き出します。最後に、自分の見解や提言を簡潔に書いて「おわりに」で結びます。税に関するものである限りテーマは自由ですが、感想文ではないので、法的な論理展開が行われていなければなりません。そして、自分なりの結論を導いてください。																		
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選んだテーマについて個別指導を行います。就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。また、卒業論文発表会のためのプレゼンテーションやパワーポイント資料の作成についても指導します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。また、どのような問題意識を持ち、どのような観点から論じるのか、考えをまとめる機会として、中間発表会を適宜の時期に開催します。 12月初旬に開催される卒業論文発表会を念頭において、各人の進行状況に応じた個別面談を行い、論文らしい内容となるように指導します。																		
関連科目	租税法全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>租税法</td> <td>金子宏</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>DHC コメントール</td> <td>武田昌輔 編</td> <td>第一法規出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税法	金子宏	弘文堂	2	DHC コメントール	武田昌輔 編	第一法規出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税法	金子宏	弘文堂																
2	DHC コメントール	武田昌輔 編	第一法規出版																
3																			
評価方法 (基準)	卒業論文の内容を審査して評価します。具体的には、発想力 (20%)、論理性 (50%)、結論の妥当性 (30%) の合計により評価します。ネット情報を安易に使うことのないようにしてください。努力の形跡がないものはそれ相応の評価となります。																		
学生へのメッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。 文章力に問題のある学生が少なくありません。提出する前によく見直してください。また、いわゆるコピペした文章が少なくありません。出典を明らかにしないで引用することは不正行為ですので厳禁です。																		
担当者の研究室等	11号館 10階 小島教授室																		
備考	フィードバックの必要があれば、個別指導に際して適宜コメントしていきます。 選んだテーマにつき、進捗度に応じた学習が必要です。研究課題であるので、ゼミによる指導の日には事前・事後の準備・学習を少なくとも毎回各1時間程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP6◎、DP7◎、DP8◎、DP9◎、DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究においては、大学生活の、さらには小学校以来現在に至るまでの、いわば学生生活の最後の総まとめとしての卒業研究を、一定水準以上の内容を伴って完成できるよう指導していきたいと思ひます。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合ひていければと思ひます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、各自関心のあるテーマについて、資料を収集し分析を行うなど研究を進めて、定められた期限までに決められた形式・分量に則してまとめ上げ提出できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	前期は個人指導を主体として、論文の枠組み検討と資料収集の作業状況を並行して行ひ、夏期休暇前には、草稿の作成に入れるように指導して行きます。そして、後期には各自の草稿を基に、演習参加者全体でディスカッションを行う集団指導を中心に進めていきたいと思います。また、12月頃に開催される、法学部の「卒業研究発表会」で報告ができるようにプレゼンテーションの指導を行って行きます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習の目的は、定められた期限までに、一定の水準以上の卒業研究を確実に完成させることです。長い論文を作成する作業は、喩えて言うならば、一步一步頂を目指して歩みを進めていく『登山』の如きものでしょう。したがって、実質的には約10ヶ月間の指導によって、上記の目的を達成するために、幾つかの研究の進展段階（提出課題）を設定し、それを一つ一つ達成することによって順々に論文を完成させていくという指導方法をとります。各自、卒業研究のテーマを絞り、考究していくためには、常に積極的に関心のある問題に関する情報および資料・文献を収集しその読解に努めることが要求されます。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業研究演習での論文作成指導状況 (20%) および提出された論文 (卒業研究) の内容 (80%) に基づいて評価します。また、法学部主催の「卒業研究発表会」にて報告した場合には、その分を加味して評価します。																		
学生へのメッセージ	4年生は、就職活動などの進路決定にともなう作業もあります。研究論文は、就活後に始めるのではなく、早めに着手する (書き始める) ことが肝要です。両者を並行して進めていきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	この演習では卒業研究を進めるための事前・事後学習が必要です。目安は総時間数で60時間です。もちろん選んだテーマ次第でそれ以上の場合もあります。卒業研究の作成は、これまでの勉学の集大成というだけでなく、みなさんがこれからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかその可能性を示唆してくれるものです。納得のいく内容のものを仕上げるよう頑張りましょう。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	各自が選択決定した研究テーマについての参考文献並びに資料の収集方法を指導する。		
到達目標	質の高い卒業研究論文の作成が目標である。この演習を通じて学生には、一つのテーマを深く研究し、長論文を書き上げることで達成感や自信にもつながることが期待される。		
授業方法と留意点	卒業研究論文の作成過程において、ゼミ形式で中間発表、討論を行うことにより、論文作成の進行を図る。なお、卒業研究のテーマの決定には、社会的、法律な関心をもっていなければならないことに留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	選択決定した研究テーマについて、ゼミ形式で中間発表、討論を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	論文の内容 (85%) と討論への参加 (15%) を審査して評価する。		
学生へのメッセージ	実社会においても、テーマの設定、資料の収集・分析・報告は必須のことである。卒業研究論文の提出はそのための準備でもある。		
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室		
備考	事前・事後学習の総時間数の目安は2時間です。		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究の題目を決定し、関連する資料・文献を収集し、必要に応じて調査を実施することによって、卒業研究を完成させる。修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するための一助とする。		
到達目標	この授業を通じて学生には、自ら決定した卒業研究のテーマについて、これまでに修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するとともに、将来社会人として自ら考え行動することができる能力を養うことが期待される。		
授業方法と留意点	各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。能動的に活動するよう、留意してください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：卒業研究の完成。</p> <p>内容・方法：各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。卒業研究の完成に必要な資料を収集し、整理する。</p> <p>学習課題：卒業研究の完成に向けての資料収集、論文の推敲、およびその完成等についてその都度指示する。公開での卒業研究発表会を行う予定である。</p>		
関連科目	専門演習		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究の内容(70%)と取り組む姿勢(30%)をもとに評価する。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室		
備考	各回に1時間程度、自身の設定したテーマに沿って、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	金谷 重樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	専門演習で修得した知識を基礎にして、自らが選んだ行政法上の論点についての判例を集め、それらを分析して、卒業論文を完成してもらいます。		
到達目標	この演習を通じて学生には、特定の行政法分野に関する知識を深め、具体的紛争への応用能力が培われることが期待される。		
授業方法と留意点	【授業内容】 行政法の講義で学んだことと演習を通じて得た知識の集大成として、自ら選んだ行政法上の論点に関する論文を作成してもらいます。 【授業方法と留意点】 個別指導を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 6月末までに論文作成に必要な資料の収集を終えます。</li> <li>2. 8月末までに資料の読み込みと分析を終えます。</li> <li>3. 10月末までに原稿の素案を作成します。</li> <li>4. 12月末までに論文を完成させます。</li> </ol>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究に取り組んだ姿勢と卒業研究論文の内容によって評価します。 各評価の割合は、卒業研究に取り組んだ姿勢が30%、卒業研究論文の内容が70%です。		
学生へのメッセージ	とにかく、学業の集大成として頑張ってください。 積極的に取り組んで下さい。ゼミの討論では積極的に発言して下さい。 また、コンバもやります。		
担当者の研究室等	11号館9階 金谷教授室		
備考	各自のテーマにつき、各回の指導を受ける前に最低6時間の事前学習を行うとともに、各指導後は指導内容に応じた学習を毎回最低10時間行って下さい。 卒業論文の発表会を行います。		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	1年半の演習の蓄積に基礎を置く研究である。分野を絞って読書や記事を読みながら課題を明確にし、地域活動を通じての参与観察、聞き取り調査で得られた知見に基づいて結論を出せるように研究を進める。		
到達目標	この研究を通じて学生には、①ぼんやりとした自分の問題意識を他人と議論できる課題にする、②地域活動に参加して、その課題の視点で現場を見て、話を聴く、③現場での知見を蓄積する、④他人と議論をして、知見から自分が言いたいことを文章にすることが期待される。		
授業方法と留意点	書籍・記事からの情報収集、参与観察と聞き取り調査(ともにフィールドワーク)、研究室での定期報告(プレゼンテーション)、仲間との活動の企画と振り返り(ディスカッション)を、他人に見える形で記録に残し蓄積する。継続的でこまめな作業が必要になる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	研究時限の全出席を前提とする。定期報告(30%)と、卒業論文(50%)、卒業研究発表(20%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	情報収集、観察・聞き取り調査記録、定期報告の準備で各回1~3時間ほどが必要になる。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。 卒業研究発表に対しては、担当教員のみならず、地域活動の世話役や行政実務家からも意見をいただく。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部憲法ゼミ修了者として備えておくべき素養を培います。法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させるとともに、他のゼミ生との共同作業が中心となりますので、コミュニケーション能力も求められます。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、問題発見・分析・文献検索についての能力、論文作成についても法学部修了者として不足のない力を身につけられるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	個別もしくはグループ単位で卒業研究を進めます。基本はグループワークを通じ、ディスカッションを重ねることでテーマを深化させていくため、積極的な参加が必須です。卒業研究報告会に限らず定期的な報告会も行うため、プレゼンテーション能力を磨くことも必要となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	憲法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめる。 テーマ自体は該当年度のはじめに決定します。  設定されたテーマにつき、グループでより詳細なテーマを決定して進めていきます。 論文を完成後、公開の発表会を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	完成した卒業論文の内容 (50%) と取り組み (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室																		
備考	卒業研究は講義以外の時間に作成する割合が多くなります。最低限事前 (2時間)、事後 (2時間) 程度は必要になります。卒業論文は公開の発表会を行います。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	刑事法をめぐる諸問題について研究・考察を行い、その内容に関する卒業論文を作成する。																		
到達目標	この卒業研究を通じて学生には、とりわけ刑事法に関して、法学部で学んだ者としてふさわしいレベルの知識・思考力・表現力を修得することが期待される。 (12～1月頃に法学部全体での卒業研究報告会が予定されているので、そこでの報告に堪えうるような論文の作成を目指す)。																		
授業方法と留意点	3年次までの専門演習において設定した各自の卒論テーマについて、ディスカッションやプレゼンテーションなども行いながら、さらに掘り下げて研究・考察を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文作成指導を行う。 事前学習としては、文献・資料等の読み込み・要約(1時間/日) 事後学習としては、卒業論文提出後にゼミで卒業論文の検討会を行う予定(2～3時間程度)																		
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業論文の出来によって評価する(内容・構成力50%、文章力30%、資料収集の程度20%)。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	<p>法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしたいと思います。</p> <p>卒業研究においては、とくに裁判員制度に焦点をあてて、裁判員制度がいったいどういう制度なのか、市民が司法に参加する意義などを調査したうえで、後期中に模擬裁判をおこない、模擬裁判での経験から、一般の市民が司法に参加するにあたってどのような課題が問題点があるのかを探るといふかたちでより深く法の世界を探究していただきたいと思ひます。</p>																		
到達目標	この卒業研究を通じて、学生の皆さんには、履修している学生同士の議論や模擬裁判の実施を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	卒業論文作成の指導をおこないます。資料の収集、論文の書き方などを学んだうえで、グループで議論しながら各自の分担を考えていただき、各自の担当部分について個別指導をおこないます。また、模擬裁判の実施にあたって、チームで議論しながら主張を練り上げ、書面を作成していただきます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期中はおもに、卒業論文作成のベースとなる知識を得るために、裁判員制度や市民の司法参加に関して調査をおこなっていただきます。2-3人で1つのテーマを担当し、毎回事前に担当するテーマについて調査をおこない、報告のうえ、各回終了後に適宜再調査をおこない、卒業論文の基盤をつくりあげていただきます (事前・事後学習として毎週3~4時間程度)。</p> <p>後期は3年生とともに模擬裁判をおこなっていただくとともに、卒業論文を仕上げたうえで、その成果を発表していただきます。模擬裁判に関しては、事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成し、添削を受けて訂正するという作業をおこなっていただきます (事前・事後学習として毎週3時間程度)。また、同時に、卒業論文を執筆し、添削を受けて訂正する作業を継続しておこなっていただきます (事前・事後学習として毎週3時間程度)。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	おもに、模擬裁判に対する取り組み (50%) と、卒業研究に対して取り組む姿勢や卒業論文の審査結果 (50%) により評価します。																		
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判において様々な役割を担うことによって、他人の考え方を知り、理解しあうことにつながると思ひます。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めていただきたいと考えています。また皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	模擬裁判や卒業論文完成に向けて提出される書面については、随時添削、講評をおこないます。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とする。研究内容は、学部主催の卒研報告会、ないし翌週に開催される3年城内ゼミ学生を対象としたゼミ内報告会のいずれかで報告する。			
到達目標	この演習を通じて学生には、法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究を完成することが期待される。			
授業方法と留意点	研究テーマは、3年時の演習で担当した判例等を参考に、自由に選択。テーマに基づき、個別に課題を与え、完成まで指導する。受講生は、就職活動に忙しい時期であっても、メール・LINE等で、最低週1回の連絡を欠かさないように。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成指導。 論文指導は、指導前の十分な準備、指導に従って行う適切な作業があって、はじめて有効なものとなります。十分な事前学習・事後学習を心がけて下さい。所要時間として、週に90分、年間で60時間程度が目安となります。ただし、論文は、自分が納得いくまで考え抜くことに意義があります。特に、最終段階では、論文に集中する時間が必要となりますので、予定の調整をお願いします。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	論文の内容(50%)、論文に臨む態度(50%)により評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	指導は予約制で行う。メール等で早め早めに予約をとるように。			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	<p>法学部ディプロマポリシーに基づき、刑事法学（主として、刑法総論、刑法各論、および、刑事政策）に関する争点を履修者各自の興味に応じて取り上げ、これに関する判例および学説を主体的に研究・調査したうえで、自らの考察を展開する一方で、多様な見解に配慮しつつ、説得力ある論文（卒業論文）の作成することを目的とする。</p> <p>*なお、12月から2月の間に開催される予定である法学部主催の卒業研究発表会で卒業研究の成果を口頭で質疑を交えつつ報告してもらうことも目的としている。</p>																
到達目標	この演習を通じて学生には、法学士を得るのにふさわしい研究水準の公開報告を遂行したうえで、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待される。																
授業方法と留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成に必要な判例検索や文献リサーチの方法および社会科学系論文の作成方法に関する指導を行う。																
関連科目	法学概論、刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点</td> <td>西田典之＝山口厚＝佐伯仁志</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例ブラクティス刑法Ⅰ</td> <td>成瀬幸典＝安田拓人ほか</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例ブラクティス刑法Ⅱ</td> <td>成瀬幸典＝安田拓人ほか</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣	2	判例ブラクティス刑法Ⅰ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社	3	判例ブラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣														
2	判例ブラクティス刑法Ⅰ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社														
3	判例ブラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社														
評価方法 (基準)	<p>①問題提起を適切にしているか (20%)</p> <p>②提起した問題に関連する判例や先行研究 (学説) を十分に、かつ、主体的に調査しているか (20%)</p> <p>③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか (20%)</p> <p>④自説の見解がどこまで妥当性をもつかについて、射程を考えて規範や結論を導いているか (20%)</p> <p>⑤文献の引用方法が適切であるか (20%)</p> <p>によって評価する。</p>																
学生へのメッセージ	法学系の論文は、指導教員とのコミュニケーションを取りつつ作成するのが一般です。いつでも遠慮無く作成についてご相談ください。学生の手が届きにくい代表的な和書文献およびドイツ語文献を研究室に備えていますので、必要な方は声を掛けてください。																
担当者の研究室等	11号館10階 小野准教授室																
備考	事前学習として、判例や学説調査など、毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文の修正に毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき争いが生じ、裁判所で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求します。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆様のご希望があれば民法や民事訴訟法以外に、民事保全執行法や倒産法をテーマにすることも可能です。																
到達目標	初めての論文執筆となるため、この演習を通じて学生には、論文構成、章立て、脚注の付け方、文献目録の作成方法等、社会科学系の論文の書き方につき学び、また、それに対応する Word の各機能の使い方を習得することが期待される。 後半は、この演習を通じて学生には、実際に各研究テーマに従った卒業研究論文を執筆していくうえで、深い思考力・探求力・問題解決能力を養うことが期待される。																
授業方法と留意点	【授業内容】 前期は、卒業論文の書き方 (論文構成、判例・参考文献等の探し方、Word の機能の使い方、目次・脚注・参考文献目録の作成方法等) につき指導を行った後、それぞれの内容に従い、個別に指導する。後期は、個別指導の傍ら、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を行う予定。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、下記2つを支柱とする；1つ目は、①卒業研究論文の書き方や、②Word 機能の使い方等、卒業研究執筆にあたり、基本的な事項の指導。2つ目は、研究テーマの確定、ならびに論文の大まかな構成の作成、につき指導すること。但し、これまでのゼミにおいて、既に研究テーマが確定していたり、十分な判例や参考文献等を収集済みの学生に対しては、個別に、具体的な論文執筆指導を行う。 後期は、各自の執筆の進捗状況に差があるため、個別具体的な論文執筆指導を中心とする。また、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を行う予定である。また、今後は、3年生に対し卒業論文とはどのようなものか、また卒業研究は何をどのように行うべきなのかを、同じ学生目線で教示する場として、3年生の専門演習ⅠⅠ内での報告会なども考えている。4年生にとっても、自分の研究を客観的に見ることのできる貴重な体験となることと信じる。進捗状況としては、おおよそ12月末までに、一通り執筆を終えた段階で、提出してもらい、1月は校正を中心とする。 予習事項としては、設定テーマに関連する文献を調べ、それらの文献を入手し、読み込んでおくこと。後期は、その上で、得られた情報や知識をもとに、卒業研究の執筆や発表準備を進めること。 復習事項としては、ゼミ内で指摘された事由につき、更なる文献の検索・入手や、内容の修正等を行うこと。 事前・事後学習に要する時間は、卒業研究の進捗状況に基づき、演習時において、個別に指導する。 テーマ選択、文献収集、執筆等に関し、事前・事後学習は、各30分を予定する。																
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全執行法、倒産法等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み方 (30%)、提出された論文 (40%)、並びに研究発表会等における発表態度 (30%) を総合的に審査し評価します。																
学生へのメッセージ	初めて書く論文ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、例年、ゼミ生同士が相談または助け合い、その過程において、友情を深めているような気がします。また、それぞれ提出し終えたときの達成感で輝く顔が印象的です。学生最後の年ですので、有意義な実り多き1年にしてください。																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	卒業研究の成果を公表する場として、12月における法学部の卒業研究発表会で、ゼミ代表者が発表する他、1月における3年生の専門演習Ⅱの最終演習時において、代表者を除く他の全てのゼミ生が各自卒業研究の発表を行う。発表形式は、原則として、Power Point にて行うこととする。その際、Power Point のパネル12枚を、A4両面に各6枚ずつプリントとした発表資料を配布して行う。 なお、卒業研究執筆時においては、演習時に、原則として毎回、個別的に各卒業研究及びその進捗状況をチェックし、すぐにその場でフィードバックを行うものとする。そのチェックの際、各ゼミ生と個別的に各テーマにつき、ディスカッションを行う予定である。また、同様又は類似のテーマを選択した学生が複数いる場合は、グループディスカッション、ディベートやグループワークを行う。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。		
到達目標	この演習を通じて学生には、2年次・3年次演習で得られた知識・経験を駆使し、個人で問題を設定し、卒業論文を作成する。そのためには、これまで全員で行ってきた作業を個人で担当することとなる。中間報告として、各自の問題に対する視点の報告（レジュメや発表方法など）を行い、最終的に論文に仕上げ、文章表現の難しさを知ること、そして、法的問題を個人で分析し自己の考えを述べることを通じて、社会問題全体に対しても、感想ではなく、知識や情報を獲得しそれを駆使して自己の意見を述べられるようにすることが期待される。		
授業方法と留意点	卒業論文を作成するために、各自でテーマを決定する必要がある。そのテーマについて、適宜演習で報告を行い、他のゼミ生との議論を行う予定である。その為の報告準備等を行う必要がある。各自のテーマについて、他のゼミ生の意見を反映させることも求められる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業論文のテーマをいかに設定するか、その内容を定期的にいかに報告するか（中間報告）、それを文章化するに当たり、いかに読み手（この場合は教員）を説得させるか、および、それを論文にいかにまとめるか、それらについて各自で試行錯誤することが必要となる。 卒業研究ゼミでは、その論文の作成に関するルールから始まり、その内容や問題提起の方法を全員で確認し、そして、文章化することを予定している。 その際に、全学への公開講座として、研究内容を3年生と4年生との合同講座で発表を行い、ゼミ以外の先生や学生からの意見を聞きつつ、客観的に研究の意義を確認する。これは、全ゼミについて共通の事である。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	成績は、演習で出される課題に対して、個人で指定された資料等を使用して正確に準備できているかどうか（10%）、並びに、その課題である卒論の内容で判断を行う（90%）。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことを期待しています。		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	前年度後期に決定した個別テーマに基づいて、実際に卒業論文を執筆してもらいます。前年度の専門演習 II で真面目に課題に取り組んでいればそれほど困難はないと思いますが、いざ卒論を書き始めてみると苦勞の連続かもしれません。自分なりに四苦八苦しながら卒業論文を書き上げることがこの卒業研究の目的です。																		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、自分の興味関心に基づいたオリジナルの論文を執筆できるようになること。第二に、卒業論文の執筆作業を通じて、図書館やネットを利用した資料収集の方法、参考文献の参照指示方法などを身につけること。																		
授業方法と留意点	個別に課題を課しますので、その課題に真摯に取り組み、卒業論文を書き上げてください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	各人が決定したテーマにしたがって資料収集を行い、実際に卒業論文執筆の作業を進めてもらいます。各人の進捗状況に応じて個別に指示を出します。  具体的な予定としては10月下旬頃までに全員が卒論をひと通り書き終え、11月中旬に卒業論文発表会の準備に取り組みます(各人の卒論の要点をパワポにまとめる)。そして12月(予定)の卒業論文発表会本番に臨みます。																		
関連科目	特にありません。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業論文によって評価します。具体的には卒業論文完成に至るまでの取り組み(教員の指示に従い資料や判例などが調査できているか、途中経過をしっかりと説明できるか等)30%と、卒業論文の出来70%(脚注や形式は指示に従っているか、論文に独自性があるか等)。																		
学生へのメッセージ	みんなで笑って卒業できるように頑張りましょう! 教員(松島)も精いっぱい努力しますので、学生の皆さんも頑張ってください。																		
担当者の研究室等	11号9階 松島講師室																		
備考	教員の指示に従い、各回、決められた分量の文章を事前に執筆してもらいます(この事前学習に60分以上)。また、事後に文章の訂正や追加の資料収集を行なってもらいます(この事後学習に60分以上)。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部での学び、そしてゼミでの学びの集大成として、卒業研究を行い、論文にまとめます。 研究とは、未知の事柄について問い (リサーチ・クエスチョン) を立て、データを集め、分析し、結果を解釈し、出た答えを報告するという一連の過程です。どうしても「論文を書く」ということだけに注目してしまいがちですが、研究成果が出なくては論文は書けない、ということは重要です。計画的に研究を進めていきましょう。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、関連する分野の基礎知識を身につけた上で、狭く深く、設定したテーマについて誰よりも詳しくなり、研究を遂行し論文を完成させるための研究方法、論文執筆法を身につけ、結論ありきではなく、現時点で得られた情報から何が言えるのか、という科学的な態度を身につけることが期待される。																		
授業方法と留意点	各自で研究を進めつつ、定期的に報告し、意見交換をする																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究テーマ】 地方自治や地域政策に関連するテーマを各自で設定する</p> <p>【スケジュール】 4月 研究計画書を元に面談し、研究テーマを確定する 5月 文献調査を行う 6月 文献調査の結果を元に「先行研究のレビュー」を執筆 7月 データ収集と分析の方法を検討する 夏期休暇：フィールドワークなどにより、データ収集を行う 9月 集めたデータを分析し、「結果」を執筆 10月 結果を出すに至った「対象と方法」を執筆 11月 結果を解釈し、「結論」を執筆 12月 「背景と問い」「課題と展望」を執筆し、論文を完成させる</p> <p>【論文の構成】 背景と問い なぜ問う必要があるのか？ 何を問うのか？ 先行研究のレビュー 現時点でどこまで答えが出ているのか？ (理論や仮説) 対象と方法 何を研究対象としたのか？ (データや事例の詳細) どのような方法で研究したのか？ (データ収集・分析の方法) 結果 データ分析によって得られたものは何か？ (客観的) 結論 結果を元に問いに対してどのような答えを導くことができるか？ (主観的) 課題と展望 明らかにできなかったこと、更に研究すべきことは何か？</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	論文としての基本的ルールを守ること 40% 問いと方法と答えの妥当性 20% オリジナリティ 20% 学術的意義 10% 社会的意義 10%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	事前・事後学習課題 各自調査・執筆を進めた上で、週ごとに研究ノートを作成する (4時間程度)																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業論文を完成すべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分の卒業論文のテーマについて主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の内容や書き方については個別に指導していきます。																
到達目標	この授業を通じて学生は、自分の卒業論文のテーマに関する書物・新聞記事・評論などを読んで知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕方を修得することが期待されます。 最終的には、自分が選択した卒業論文のテーマについて、大学四年間の主体的・対話的で深い学びの成果をプレゼンテーションにおいて他者に論理的に発表し、かつ卒業論文として整然と論じることが期待されます。																
授業方法と留意点	各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献の読解を行い、適宜卒業論文の執筆・ディスカッション・プレゼンテーションを行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業テーマ・内容</li> </ul> <p>自分の卒業論文のテーマに関する文献の読解や議論、発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。</p> <p>卒業論文が作成できるように実際に資料収集・読解・執筆・グループディスカッション・プレゼンテーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法</li> </ul> <p>各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献を読解・要約し、卒業論文の一部を執筆する時間をとります。教員は、学生の皆さん一人一人のテーマに沿いつつ、個別指導の形式で助言・評価をしていきます。</p> <p>また卒業論文の進捗状況・内容について全員が適宜プレゼンテーションを行い、ディスカッションを通じてより整合性・妥当性のある卒業論文を完成させていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前、事後学習課題</li> </ul> <p>事前学習…授業で自分が行う資料収集・読解・執筆について各自が主体的にその計画を立てておくこと (週7時間程度)。</p> <p>事後学習…卒業論文の執筆を自宅でも計画的に進めておくこと (週14時間程度)。</p>																
関連科目	専門演習Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業での卒業論文制作態度 (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価します。																
学生へのメッセージ	就職活動で忙しいでしょうが、卒業論文の制作も継続的に行ってください。自分の卒業論文のテーマに関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																
備考	卒業論文の制作では教員も積極的に参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。																

科目名	体力測定とスポーツ相談	科目名(英文)	Physical Fitness Test and Sports Counseling
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3118a0		

授業概要・目的	社会的な健康志向の高まりにより日常的に運動を行う人が増えているなか、個人の身体能力向上やスポーツに対する疑問や悩みに対して適切に対応できるようにするための知識を身につける。 運動愛好者からアスリートまで多岐にわたり対応できる知識を身につけていく。
到達目標	この授業を通じて学生には、体力測定の方法と評価の原理を知り実習を行うことにより、個人の身体のサイズや行動体力を把握する能力を身につけられるようになること、また、スポーツにかかわる相談事に対応し得る知識と技術を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義と実習を行う。 実習時には授業内容に適した服装とすることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	日本体育協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	体力測定(1)	体組成について	形態計測方法の確認 次の回の授業で、実践を行う
3	体力測定(2)	体組成の測定と評価	課題 測定結果の集計と評価 次の回の授業内で、確認を行う
4	体力測定(3)	体力測定の意義と方法	新体カテスト実施方法の確認 実践指導の準備 次の回の授業で、実践を行う
5	体力測定(4)	体力測定の実践	課題 測定結果の評価 次の回の授業内で、確認を行う
6	体力測定(5)	測定結果の処理	課題 測定結果のデータ処理 次の回の授業内で、確認を行う
7	体力測定(6)	測定結果を基にした体力評価	課題 体力評価表の作成 次の回の授業内で、確認を行う
8	スポーツ相談(1)	スポーツ相談の概念、領域・範囲	スポーツ相談の基礎用語の確認 次の回の授業内で、解説を行う
9	スポーツ相談(2)	スポーツ相談に必要な資料収集と記録方法、企画と運営 スポーツカルテの作成	スポーツカルテの作成方法の確認 次の回の授業内で、実践を行う
10	スポーツ相談(3)	スポーツ相談の技術 基本的考え方と進め方	スポーツ相談の技術の理解と実践の確認 次の回の授業内で、解説を行う
11	スポーツ相談(4)	スポーツ相談で利用される技術や技法 メンタルトレーニングの具体的技法	スポーツ相談に必要な技法、メンタルトレーニングの基礎用語の確認 次の回の授業内で、解説を行う
12	スポーツ相談(5)	来談者理解のための技法の実践 東大式エゴグラム	課題 エゴグラムの評価 次の回の授業内で、確認を行う
13	スポーツ相談(6)	メンタルトレーニング実習(1)	実習内容をレポートにまとめる 次の回の授業内で、確認を行う
14	スポーツ相談(7)	メンタルトレーニング実習(2)	実習内容をレポートにまとめる 次の回の授業内で、確認を行う
15	まとめ	講義の総括を行う	

関連科目	スポーツ科学概論、スポーツプログラミング、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	単位取得は実習技能、課題提出、小テストおよび平常態度、知的理解度などを総合して判断する。 実技 50%、提出物 30%、小テスト 20%
学生へのメッセージ	個人でもグループでも指導できるよう実習を交えながら行います。 いろいろな場面で応用できるよう学んでいきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。

科目名	担保物権法	科目名(英文)	Real Security
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>不動産取引全般についての知識の習得と担保物権の果たしている役割についての理解を深めることを目的とする。登記簿の見方、対抗要件とは何か、通行権などにつき通りの理解をし、実生活で役に立つ事柄につき学習する。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことである。債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあっては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、その資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須で、この点からも担保に関する法制度は極めて重要である。当該講義は抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の新たな担保方法や担保の対象についても知識が得られるようにする。なお、担保法は物権と債権が交錯する領域で、担保物権の学習は財産法の全体像を把握することにもなる。</p> <p>授業担当者の古川は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。</p>
到達目標	この授業を通じて学生には、不動産取引につき通りの知識を習得し、担保とはなにか、どのような場面でのどのような役割を果たしているのか、注意すべき事柄はなにかについて説明出来るようになることが期待される。
授業方法と留意点	不動産取引についての理解は仕事をする上で、また自宅を購入する際などにも必要な事柄である。担保物権は物権法と債権法が交錯し、学ぶべき裁判例も多い法領域である。しかし、制度に関することが大半で、民事法の基本的知識を踏まえて着実に学習すれば、民法法全体が把握でき、金融に関する新たな知識が獲得でき、興味が広がる分野である。講義は、登記・民事執行についての基本を確認した上、教科書に即し、該当条文を確認・検討する方法で行う。
科目学習の効果(資格)	理解が進めば財産法全体に興味を持って、民法に関する応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては必須の領域である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	登記簿の見方	・登記簿の記載内容 ・スマホなどで登記簿の見本を見ながら学ぶ	登記簿を見ると何がわかるのについて確認し見直すこと(約1時間)
3	対抗要件	・対抗要件とは何か、なぜ必要なのか	対抗要件制度を把握、確認し見直すこと(約1時間)
4	通行権	・通行権とは何か	圍繞地通行権を理解し見直すこと(約1時間)
5	農地の売買、山林の売買	・一般宅地の売買と異なる点はあるのか 明認方法とはどのようなものか	農地法、明認方法を理解し見直すこと(約1時間)
6	金銭債権の権利実現(金銭執行の概略)、担保の意義・必要性	担保の果たしている役割・担保の必要性	担保について理解し見直すこと(約1時間)(約1時間)
7	担保法概論	・担保法の全体像	担保物権の全体像(典型担保、非典型担保)を把握、理解し見直すこと 小六法・教科書を持参すること(約1時間)
8	抵当権の設定	・抵当権に関する概念の把握	用語を理解し見直すこと(約1時間)
9	抵当権の実行と物上代位	・実行手続きの概要 ・物上代位とはなにか	実行手続きを理解し見直すこと(約1時間)
10	抵当目的物の利用・譲渡	・設定者の使用収益権 ・抵当目的物の第三取得者	担保権者の持つ価値権と設定者の使用収益権の関係につき理解し見直すこと(約1時間)
11	法定地上権 特殊な抵当権(共同抵当、根抵当)	・法定地上権とは何か ・共同抵当、根抵当とは何か	法定地上権、共同抵当、根抵当を理解し見直すこと(約1時間)
12	質権	・質権の意義、効力など	質権について理解し見直すこと(約1時間)
13	先取特権・留置権	・先取特権の種類 ・留置権とはどのようなものか	先取特権と留置権について理解し見直すこと(約1時間)
14	非典型担保概説・譲渡担保等	・非典型担保の意義・必要性 ・譲渡担保について	民法の条文にない担保権の種類を学習し、譲渡担保の果たしている役割を学習、理解して見直すこと(約1時間)
15	おわりに	講義内容を復習をすることにより、不動産取引、担保物権の全体像を整理・概説する。	全講義を振り返り、理解していない部分や質問等がないか検討する。 質問があれば応じる。(約1時間)

関連科目	民法総則、物権法、債権総論、民事執行法、破産法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法3 担保物権	平野裕之ほか	有斐閣アルマ
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	定期試験(70%)と平常点(小テスト、30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	不動産取引の全体像を把握すること、取引社会において重要な意義を有している金融の概略を学ぶことは社会生活を営む上で必須である。他方、不動産取引、担保物権は身近な法的領域でもある。法律の学習は講義内容を理解することが第一で、本講義も同様である。授業は工夫をするが、理解を深めるための質問を期待している。			
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室			
備考	物権法を学習しておくことが望ましい。学生の理解度、授業の進行によっては順序、内容を変更することもある。小テストの解答はその回の授業で行う。			

科目名	地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture II (Local Policy Theory)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3111a0		

授業概要・目的	この授業は、地方公務員を目指す学生が、「住民自治」をキーワードに、地域政策を実践的に学ぶための科目です。地方自治の現場における様々な事例を取り上げ、関連する知識と共に、常に住民を主体に考えるという視点を身につけてもらいたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域政策における重要用語の意味を説明することができ、住民自治の視点から地域政策を分析することができ、地域政策についての自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	各回の授業は次のような手順で行う 1. 予習として、あらかじめ課題文献を読んでおく（Moodle 配布） 2. 授業冒頭 5 分間に、予習した内容についての確認テストを行う 3. 課題文献の内容を共有する（Active Book Dialogue） 4. グループに分かれ、内容について議論をする 5. ふりかえりシートに記入する
科目学習の効果（資格）	地方公務員として直面する様々な課題を知り、住民目線に立って業務に当たることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地方自治に未来はあるか	内容：民主主義国家における地方自治の役割を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 1 章を読む（1 時間）
2	日本国憲法と地方自治	内容：日本国憲法における地方自治の位置づけを学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 2 章を読む（1 時間）
3	望まれる地方公務員像	内容：地方公務員制度の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 23 章を読む（1 時間）
4	地方自治に未来をあらしめるために	内容：地方自治の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第 24 章を読む（1 時間）
5	私たちと地方自治	内容：地方自治の分析視点を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の序章を読む（1 時間）
6	地方自治とコミュニティ・ソリューション	内容：コミュニティによる問題解決の手法を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 1 章を読む（1 時間）
7	迷惑施設問題と手続きの公正	内容：迷惑施設問題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 2 章を読む（1 時間）
8	グローバル化社会における地方自治	内容：グローバル化の地方自治への影響について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 3 章を読む（1 時間）
9	行政現場における政策形成過程と施策形成過程	内容：政策形成過程について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 4 章を読む（1 時間）
10	自治体行政と協働	内容：自治体組織における協働の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 5 章を読む（1 時間）
11	地域住民協議会の運営と展望	内容：地域自治組織の運営上の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 6 章を読む（1 時間）
12	住民自治と地域活動	内容：地域活動の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 7 章を読む（1 時間）
13	住民自治を支える公民館運営	内容：地方自治における公民館の役割について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 8 章を読む（1 時間）
14	住民自治と行政相談委員	内容：行政相談委員が地方自治に与える影響について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の第 9 章を読む（1 時間）
15	地方自治を問いなおす	内容：これからの地方自治を展望する 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治を問いなおす』の終章を読む（1 時間）

関連科目	「地方自治論」では関連する知識を講義形式で学ぶことができます 「住民協働論」では地域づくりの担い手である地域公共人材についてアクティブ・ラーニング形式で学ぶことができます 「福祉政策論」では福祉政策についての知識を講義形式で学ぶことができます
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治を問いなおす：住民自治の実践がひらく新地平	今川晃	法律文化社
2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局	
3				

評価方法	定期試験 50%、小テスト 30%、ふりかえりシート 20%
------	--------------------------------

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館10階 増田講師室
備考	小テストの解答については、当日の授業の最後に解説する。 ふりかえりシートについては、次の回の授業でフィードバックを行う。

科目名	地域とスポーツ	科目名(英文)	Community and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2091a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツ活動が担う地域振興という役割を踏まえ、地域社会とスポーツとの関係の理解を深める。また、法・政策について体系的に理解することへの一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域社会の発展や連帯を促進という視点から、スポーツの果たす役割に関する知見を修得することが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等を行うこともあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。
2	地域におけるスポーツの振興(1)	地域におけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり	関連資料に目を通す。
3	地域におけるスポーツの振興(2)	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。
4	地域におけるスポーツの振興(3)	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割	前2回と今回の講義を関連づけて整理する。
5	地域スポーツの振興拠点(1)	わが国の特徴である学校スポーツおよび企業スポーツ	関連資料に目を通す。
6	地域スポーツの振興拠点(2)	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。
7	地域スポーツの振興拠点(3)	地域スポーツクラブの役割(総合型地域スポーツクラブの機能と役割)	わが国と諸外国との相違点・類似点を見出す。
8	地域スポーツの振興拠点(4)、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前3回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。
10	地域社会の活性化とスポーツ(1)	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。
11	地域社会の活性化とスポーツ(2)	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	配布資料の理解。
12	地域社会の連帯促進とスポーツ(1)	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。
13	地域社会の連帯促進とスポーツ(2)	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。
14	地域社会の連帯促進とスポーツ(3)	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前2回と今回の講義とを関連づけて整理する。
15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。

関連科目	スポーツ政策論等
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 I	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
-----------	----------------

担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
----------	---------------

備考	各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度試験の解説は次の回の授業で行う。
----	--

科目名	地域防犯政策	科目名(英文)	Regional Security Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3077a0		

授業概要・目的	長い間、「犯罪を減らすのは警察の仕事」、「犯人を捕まえれば犯罪は減る」というのが当然と思われてきた。しかし、1990年代後半から犯罪の認知件数が急増すると、「市民を守るのは警察」、「検挙が最大の防犯」という考え方に対する疑問が出てきた。かわりに、「行政・警察・住民一体でまちを守る」、「犯罪が起きにくいまちづくりを」と言われるようになる。このように犯罪発生の問題をまちづくりの課題としてとらえ、犯罪抑止を目的として打ち出されてきた施策・事業の集まりを「地域防犯政策」と呼びたい。本講義では、地域防犯政策の展開を具体的な事例に照らして説明する。
到達目標	この講義を通じて、学生には次のことが期待される。①犯罪が増える背景には、ふつうはよいものと考えられる規制緩和、国際化、情報化という社会の動向があることを理解する。②犯罪に対する政策が、捜査・検挙と更生という事後の視点から、抑止と教育という事前の視点に重点を移している理由を考える。③自治体(特に市町村)が防犯に予算と人を投入する意義と、地域住民がボランティアで防犯に取り組む意味を知る。
授業方法と留意点	個別の政策に関する勉強なので教えるレベルは高くなる。加えて、「なぜ犯罪が増えたのか」、「どうすれば犯罪が減るのか」という問いには、明確なひとつの答えがあるわけではないので、自分の頭で、あるいは受講生同士で話し合って考えることが大事になる。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の課題式論文の対策に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	犯罪対策の2つの考え方	「犯人を捕まえる」という考え方と「犯罪を起させない」という考え方を比較する。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
2	犯罪統計の読み方	認知件数、検挙件数、検挙人員からはじまる基礎用語を理解し、犯罪統計をいかに読むか考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
3	犯罪認知件数の推移	戦後からの認知件数の推移を社会の変化に照らしてみる。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
4	1990年代後半の犯罪急増の背景	規制緩和、高速移動、国際化、情報化といった「改革」と犯罪急増との関係を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
5	検挙から抑止へ	警察が検挙に加えて抑止にも力を入れ始めた経緯を整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
6	警察と自治体との関係	警察が自治体に協力を求めた理由と、自治体側の反応について知る。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
7	防犯ボランティアの登場	新しく登場した防犯ボランティアと従来の防犯委員などとの違いを見出す。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
8	防犯カメラへの注目	防犯を超えて捜査・検挙に大きな変化をもたらした防犯カメラの普及過程を追う。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
9	広報・情報発信の充実	警察が犯罪発生情報をメールやSNSで積極的に市民に発信するようになった理由を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
10	街頭犯罪対策の進展	ひったくりなどの街頭犯罪を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
11	侵入盗対策の進展	空き巣などの侵入盗を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
12	子どもの安全確保の拡充	「地域防犯=子どもの安全確保」というイメージがあるほどに、子どもの安全が強調されるようになった経緯をたどる。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
13	性犯罪対策の要請	性犯罪に対する警察の対応が大きく変わった背景と、現在の対応と課題を知る。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
14	特殊詐欺という新たな問題	電話で持ちかけ、ATMでお金を奪うという特殊詐欺に地域でどう対抗するか議論する。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)
15	まちづくりの基礎としての防犯	防犯活動の浸透が、犯罪の抑止を超えてまちづくりの基礎となっている意味を考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと(約1時間)

関連科目	本講義の入門編として、教養特別講義「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」がある。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	講義時に課すペーパーの累積点(30%)と、定期試験の点数(70%)の合計で評価を行う。			
学生へのメッセージ	「学」(がく)というより、近年と現在の動向を考える講義なので、問題意識を持って講義に臨んでほしいです。自治体職員(公務員)や警察官志望の学生にとっては、将来の仕事を考える機会にもなると思います。			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室			
備考	講義毎回の確認ペーパーは原則、次週に採点して返却する。			

科目名	知的財産法	科目名(英文)	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関堂 幸輔
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3052a0		

授業概要・目的	知的財産は、2002年の小泉首相(当時)による「知財立国宣言」以来、わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており、ますますその重要性が増しつつあります。本講義では、知的財産法(知的所有権法)の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し、その一方で、最新の事例等の問題を紹介しつつ、高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と、いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から、将来の知的財産法制度の在り方についても検討していくことを目標とします。
到達目標	この授業は、受講する学生において、「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し、それらが将来どのように運用されるべきであるか、自ら考察できるようにすることを到達目標とします。受講生に最低限求められるのは、単に法律や制度を「覚える」ことではなく、法律の「解釈・運用」を「考察・検討」し、時に「疑う」ものだと気づくことです。
授業方法と留意点	板書中心の講義形式とし、適宜配付資料や視覚的資料を用います。なお、本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが、本学部のカリキュラムはそれを強いていますので、やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。
科目学習の効果(資格)	最先端かつ重要な特別法の分野に接することで、より応用的な法学の力や考え方が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	詳細なガイダンス	授業の内容、方法その他について詳細に説明します。	—
	2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：情報の性質と知的財産法制度について考察する
	3	知的財産のいろいろ	特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。	事後：身の回りの具体的な知的財産を意識する
	4	技術的アイデアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：発明の法令上の要件と実際の運用について考察する
	5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：出願の手続と特許要件等について考察する
	6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：授業で取り上げた法理について理解を深める
	7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：商標権および不正競争防止法の保護対象としての表示について考察する
	8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：著作物とそれに似て非なるものについて理解する
	9	著作権の内容(1)	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：広義の著作権に含まれる諸々の権利を具体的に整理しておく
	10	著作権の内容(2)	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：広義の著作権に含まれる諸々の権利を具体的に整理しておく
	11	著作権の制限(1)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：著作権の権利制限規定の具体的内容について理解する
	12	著作権の制限(2)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：著作権の権利制限規定の具体的内容について理解する
	13	最新の事例・問題(1)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：授業で取り上げた事例の意義を確認しておく
	14	最新の事例・問題(2)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：授業で取り上げた事例の意義を確認しておく
	15	まとめと試験	全体のまとめをし、試験をします。	—

関連科目 民法(特に財産法)、経済法、行政法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 授業内で行う試験で評価します。試験によるだけでは評価できない者については平常点(授業内で配布する特別の書式のコメントカード)を加味

(基準)	して評価します。(試験：80～90%，平常点：10～20%)
学生へのメッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には、いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が5年後、10年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて、積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	担当者は各回ごとに特定の課題を与えることに特段の意義を見出していません。なぜなら、社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社会科学においては、周囲のあらゆることが学びのきっかけであり、またそれが絶ゆることはなく、すなわちいつでもどこでも予習・復習が必要なのです。受講生においてもそのつもりで臨んで下さい（最低限毎回の講義と同じ時間を事後の復習に費やすべきです）。

科目名	地方財政論	科目名(英文)	Local Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3083a0		

授業概要・目的	「地方でできることは地方へ」という分権化時代において、権限を委ねられる地方自治体には、法務能力と政策立案能力の双方の強化が必要になってきている。この講義では、地方自治体の財政状況から地域政策の問題点を探り、問題を生み出した構造とその改革策を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①地方自治体の決算カードを見て、財務指標を計算する。②その指標から、どれくらいの政策の自由度が地方自治体に現実にあるのか判断する。③自由度の小ささは、どのような経緯によるものか理解する。④今後、自由度を広げていくには、地方と国にどのような努力が必要か考える。
授業方法と留意点	公共政策に関する基礎知識を前提に、地方財政の知識を身につけながら地域政策の現状を明らかにする。大学らしい発展科目にする考えなので、受講者には高い意識が求められる。
科目学習の効果(資格)	公務員試験で出題される行政学の一部をカバーする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ドラマ『再生の町』に見る地方行政の危機	大阪の市役所をモデルにして作られたドラマを見て、自治体の財政危機の様子をイメージする。	ドラマ『再生の町』の視聴(約1時間)
2	自治体の財政危機と地域政策(1)	自治体財政の基本的な仕組みを理解し、財政状況から地域政策の現状を知る意義を確認する。	レジュメ p.1-2 を見直す(約1時間)
3	自治体の財政危機と地域政策(2)	大阪府の市町村の実データを使って、財政状況をはかる指標の数値を算出できるようにする。	レジュメ p.3 を見直す 決算カードの確認 (約1.5時間)
4	自治体の財政危機と地域政策(3)	大阪府の市町村の実データを使って、借金の累積と財政への影響を把握できるようにする。	レジュメ p.4 を見直す 決算カードの確認 (約1.5時間)
5	地方債の増加と建設政策(1)	地方債制度の基本を理解し、自治体が借金をして建設政策を展開する意味を知る。	レジュメ p.5-6 を見直す(約1時間)
6	地方債の増加と建設政策(2)	昭和40年代後半から昭和50年代前半まで公共事業を拡大させた補助金交付の実態を確認する。	レジュメ p.6-7 を見直す 行政投資関連資料の確認 (約1.5時間)
7	地方債の増加と建設政策(3)	地方交付税について、自治体間で一般財源の均衡を図る機能と、国が自治体の政策を誘導する機能を確認する。	レジュメ p.7-8 を見直す(約1時間)
8	地方債の増加と建設政策(4)	昭和61年頃から平成7年頃にかけて公共事業を拡大させた地方交付税措置という仕組みを理解する。	レジュメ p.8 を見直す 地方交付税・公債関連資料の確認 (約1.5時間)
9	地方財政健全化比率(1)	地方財政健全化法によって導入された、自治体の「本体」以外の会計の現状を明らかにする指標を知る。	レジュメ p.9 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
10	地方財政健全化比率(2)	近畿の市町村の実データを使って、健全化比率で自治体の財政状況を把握できるようにする。	レジュメ p.10 を見直す 健全化比率関連資料の確認 (約1.5時間)
11	土地開発公社	公共事業拡大の前提にあった公有地の取得について、土地開発公社が果たした役割と抱えた負債の問題の重さを考える。	レジュメ p.11-12 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
12	第三セクター	ビルやリゾートの開発のために自治体が第三セクターを設立した背景と、多くの第三セクターが破綻に至った経緯を知る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
13	公営企業	下水道・交通・病院事業などを行う自治体の公営企業について、赤字につながる問題と改革の限界を理解する。	レジュメ p.15-16 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
14	「事業仕分け」の改革	事業の必要性を問い直す「事業仕分け」の改革について、その方法と結果を確認する。	レジュメ p.17-18 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
15	「協働」の改革	市民の行政依存、行政の自己完結を問い直す「協働」の改革について、その背景と動向を知る。	レジュメ p.19-20 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)

関連科目 「公共政策の基礎」「行政学」「地方自治論」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点(毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%)と期末試験の点数(70%)の合計によって評価する。
学生への メッセージ	政策系の最後の科目として高いレベルで講義を展開します。特に地方公務員として地域政策をリードすることになる人が真剣に勉強する場にした いと思います。
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーは、原則次週に採点して返却します。

科目名	地方自治と政策	科目名(英文)	Local Government and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	授業の前半では、市町村合併を題材に地方自治の理念と制度の変遷を学ぶ。授業の後半では、自治体広報を題材に住民自治の実現に必要な要素を探る。「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治や行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、地方自治についての重要概念や理論について説明することができ、地方自治の主要な課題について住民自治の視点から分析することができ、地方自治の主要な課題について自分の意見を述べるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。 授業冒頭に、教科書の該当部分について的小テストを行う。 授業の最後に、ふりかえりシートに記入する。
科目学習の効果(資格)	地方公務員を目指す受講生にとって、身につけておくべき知識を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	事前：教科書第1章第1節を読む(1時間)
2	日本の自治の歴史	古代から現代に至るまでの、自治の歴史を概観し、自治の意味を考える。	事前：教科書第1章第2節を読む(1時間)
3	顧客主義か住民自治か	住民について「人口」、「行政サービスの受け手」、「自治を担う地域の主体」の3つの捉え方を比較する。	事前：教科書第1章第3節を読む(1時間)
4	適正規模の理論	適正規模の捉え方や決定要因について検討する。	事前：教科書第2章を読む(1時間)
5	スケールメリット論の検証	財政効率を主眼においた適正規模論の概要と問題点を考える。	事前：教科書第3章を読む(1時間)
6	適正規模論への新視点	人口と歳出額の関係から、市町村合併による財政面での効果について検討する。	事前：教科書第4～6章を予習(1時間)
7	迷惑施設問題と自治	迷惑施設問題を分析するための概念について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
8	住民運動と公共性	住民運動の意義と、対立が生じる原因について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
9	お知らせ広報と政策広報	お知らせ広報としての自治体広報の問題点と、改革の方向性について考える。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
10	住民自治の広報理論	住民自治の視点からの広報理論について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
11	広報・広聴と政治性	パブリック・リレーションズ概念を手がかりに、広報の類型化を行う。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
12	問題提起型広報の意義	問題提起型広報の事例を取り上げ、その特徴と実現への課題について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
13	問題提起型広報の効果	問題提起型広報が住民自治を促す効果について検討する。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	事前：これまでのレジュメと小テストを復習する(2時間)

関連科目 「住民協働論」では第14回の協働についてより詳しい内容をアクティブ・ラーニング形式で学ぶことができる。「地方財政論」では地方財政についてより詳しく学ぶことができる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成の大合併と財政効率	増田知也	金壽堂出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、ふりかえりシート20%
学生へのメッセージ	地方政治・行政に関するニュースや、地元自治体の広報などに注目しながら学んでください。
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室
備考	小テストとふりかえりシートについては、次の回の授業で解説とフィードバックを行う。

科目名	地方自治と法	科目名(英文)	Local Government Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 剛
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	地方自治法を中心に、地方自治がどのような法に基づき、どのように運営されているのかについて、具体的事例を挙げながら、平易に解説します。また、自治体の実務において必須の法令作成や自治体の財務に関する知識等についても適宜取り上げます。 授業担当者は、寝屋川市職員として12年間勤務し、これまで法制執務、訟務、情報公開、財政、まちづくり等の行政実務に携わってきました。また、在職中に司法試験にも合格しています。この授業では、教科書レベルの知識の修得にとどまらず、自治体の現場における地方自治法の適用事例や行政実例を数多く検討することを通じて、自治体の現場で実際にどのような問題が起き、地方自治法がどのように適用されているのかについて理解を深めるなど、実務経験と法的専門知識を踏まえた講義を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、①地方自治の仕組みを理解し、正しく運用、解釈できるようになること、②地方公共団体が抱える課題等を知り、今後地方公共団体がどうあるべきか自分なりに考えることができるようになること、③公務員試験、行政書士試験に合格する力を培うようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で進めるが、理解の確認、深化を図るために、随時質疑応答も交えた双方向型の授業を取り入れたり、小テスト(確認テスト)の実施を行う。六法(平成29年度の地方自治法改正に対応したもの)は必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	地方自治法は、行政書士試験、公務員試験、地方公務員任用後の昇進試験にも出題されます。地方公務員志望の学生にとっては、地方自治法は、地方公務員任用後、実務では必須の知識です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション、地方自治とは何か	「地方自治の本旨」、地方自治の歴史	事前 教科書第1章、第2章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
2	地方公共団体の種類	普通地方公共団体、特別地方公共団体	事前 教科書第3章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
3	住民	住民の権利・義務、住民参加、住民投票	事前 教科書第4章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
4	地方公共団体の事務	自治事務、法定受託事務	事前 教科書第5章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
5	関与	関与の基本類型、関与の仕組み	事前 教科書第6章を読む。(30分)	事後 今回の講義や教科書該当部分をノートにまとめる。(1時間)
6	自主行政権	地方公営企業、要綱行政、地方公共団体の行政手続	事前 教科書第7章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
7	情報公開・個人情報保護	地方公共団体における情報公開制度、個人情報保護制度	事前 教科書第8章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
8	自主財政権	地方財政、地方交付税、地方債	事前 教科書第9章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
9	自主立法権	条例、条例制定権の限界、規則、規程	事前 教科書第10章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
10	自治体の組織(議会と長)	議会、長の役割、権限	事前 教科書第11章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
11	自治体の組織(議会と長の関係)	委員会と委員、附属機関、監査	事前 教科書第12章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
12	住民監査請求、住民訴訟その1	住民監査請求の手続き、要件、住民訴訟の要件、種類	事前 教科書第13章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
13	住民監査請求、住民訴訟その2	住民訴訟の諸問題	事前 教科書第13章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
14	公の施設の管理	公の施設、指定管理者	事前 教科書第14章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
15	地方公務員法	勤務関係、地方公務員の権利、義務	事前 教科書第15章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)

関連科目	憲法、行政法
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自治体職員のためのようこそ地方自治法(改訂版)	板垣勝彦	第一法規
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜参考資料を配布します。		
2				

	3			
評価方法 (基準)	平常点(小テスト等 30%)と学期末の定期試験(70%)によって評価する。試験内容は、○×方式、記号選択式、穴埋め方式です。			
学生への メッセージ	地方自治法は、地方公務員が実務に就いた後、頻繁に接する法律です。地方公務員を希望する学生は、必ず受講してください。2019年度の行政書士試験を受験する学生も試験対策として受講してください。また、地方公務員を受験しない学生も地方行政と関わりのない生活は存在しないことから、法学部の学生であれば、原則として、受講してください。			
担当者の 研究室等				
備考	小テストの解説、講評は、次回の講義で行う。			

科目名	地方自治法	科目名(英文)	Local Autonomy Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 剛
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3020a0		

授業概要・目的	地方自治法を中心に、地方自治がどのような法に基づき、どのように運営されているのかについて、具体的事例を挙げながら、平易に解説します。また、自治体の実務において必須の法合作成や自治体の財務に関する知識等についても適宜取り上げます。 授業担当者は、寝屋川市職員として12年間勤務し、これまで法制執務、訟務、情報公開、財政、まちづくり等の行政実務に携わってきました。また、在職中に司法試験にも合格しています。この授業では、教科書レベルの知識の修得にとどまらず、自治体の現場における地方自治法の適用事例や行政実例を数多く検討することを通じて、自治体の現場で実際にどのような問題が起き、地方自治法がどのように適用されているのかについて理解を深めるなど、実務経験と法的専門知識を踏まえた講義を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、①地方自治の仕組みを理解し、正しく運用、解釈できるようになること、②地方公共団体が抱える課題等を知り、今後地方公共団体がどうあるべきか自分なりに考えることができるようになること、③公務員試験、行政書士試験に合格する力を培うようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で進めるが、理解の確認、深化を図るために、随時質疑応答も交えた双方向型の授業を取り入れたり、小テスト(確認テスト)の実施を行う。六法(平成29年度の地方自治法改正に対応したもの)は必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	地方自治法は、行政書士試験、公務員試験、地方公務員任用後の昇進試験にも出題されます。地方公務員志望の学生にとっては、地方自治法は、地方公務員任用後、実務では必須の知識です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション、地方自治とは何か	「地方自治の本旨」、地方自治の歴史	事前 教科書第1章、第2章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
2	地方公共団体の種類	普通地方公共団体、特別地方公共団体	事前 教科書第3章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
3	住民	住民の権利・義務、住民参加、住民投票	事前 教科書第4章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
4	地方公共団体の事務	自治事務、法定受託事務	事前 教科書第5章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
5	関与	関与の基本類型、関与の仕組み	事前 教科書第6章を読む。(30分)	事後 今回の講義や教科書該当部分をノートにまとめる。(1時間)
6	自主行政権	地方公営企業、要綱行政、地方公共団体の行政手続	事前 教科書第7章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
7	情報公開・個人情報保護	地方公共団体における情報公開制度、個人情報保護制度	事前 教科書第8章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
8	自主財政権	地方財政、地方交付税、地方債	事前 教科書第9章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
9	自主立法権	条例、条例制定権の限界、規則、規程	事前 教科書第10章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
10	自治体の組織(議会と長)	議会、長の役割、権限	事前 教科書第11章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
11	自治体の組織(議会と長の関係)	委員会と委員、附属機関、監査	事前 教科書第12章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
12	住民監査請求、住民訴訟その1	住民監査請求の手続き、要件、住民訴訟の要件、種類	事前 教科書第13章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
13	住民監査請求、住民訴訟その2	住民訴訟の諸問題	事前 教科書第13章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
14	公の施設の管理	公の施設、指定管理者	事前 教科書第14章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
15	地方公務員法	勤務関係、地方公務員の権利、義務	事前 教科書第15章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)

関連科目 憲法、行政法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自治体職員のためのようこそ地方自治法(改訂版)	板垣勝彦	第一法規
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜参考資料を配布します。		
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点(小テスト等30%)と学期末の定期試験(70%)によって評価する。試験内容は、○×方式、記号選択式、穴埋め方式です。
学生への メッセージ	地方自治法は、地方公務員が実務に就いた後、頻繁に接する法律です。地方公務員を希望する学生は、必ず受講してください。2019年度の行政書士試験を受験する学生も試験対策として受講してください。また、地方公務員を受験しない学生も地方行政と関わりのない生活は存在しないことから、法学部の学生であれば、原則として、受講してください。
担当者の 研究室等	
備考	小テストの解説、講評は、次回の講義で行う。

科目名	地方自治論	科目名(英文)	Local Self-Government
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3076a0		

授業概要・目的	授業の前半では、市町村合併を題材に地方自治の理念と制度の変遷を学ぶ。授業の後半では、自治体広報を題材に住民自治の実現に必要な要素を探る。「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治や行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、地方自治についての重要概念や理論について説明することができ、地方自治の主要な課題について住民自治の視点から分析することができ、地方自治の主要な課題について自分の意見を述べるようになることが期待される。
授業方法及び留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。 授業冒頭に、教科書の該当部分について的小テストを行う。 授業の最後に、ふりかえりシートに記入する。
科目学習の効果(資格)	地方公務員を目指す受講生にとって、身につけておくべき知識を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	事前：教科書第1章第1節を読む(1時間)
2	日本の自治の歴史	古代から現代に至るまでの、自治の歴史を概観し、自治の意味を考える。	事前：教科書第1章第2節を読む(1時間)
3	顧客主義か住民自治か	住民について「人口」、「行政サービスの受け手」、「自治を担う地域の主体」の3つの捉え方を比較する。	事前：教科書第1章第3節を読む(1時間)
4	適正規模の理論	適正規模の捉え方や決定要因について検討する。	事前：教科書第2章を読む(1時間)
5	スケールメリット論の検証	財政効率を主眼においた適正規模論の概要と問題点を考える。	事前：教科書第3章を読む(1時間)
6	適正規模論への新視点	人口と歳出額の関係から、市町村合併による財政面での効果について検討する。	事前：教科書第4～6章を予習(1時間)
7	迷惑施設問題と自治	迷惑施設問題を分析するための概念について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
8	住民運動と公共性	住民運動の意義と、対立が生じる原因について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
9	お知らせ広報と政策広報	お知らせ広報としての自治体広報の問題点と、改革の方向性について考える。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
10	住民自治の広報理論	住民自治の視点からの広報理論について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
11	広報・広聴と政治性	パブリック・リレーションズ概念を手がかりに、広報の類型化を行う。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
12	問題提起型広報の意義	問題提起型広報の事例を取り上げ、その特徴と実現への課題について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
13	問題提起型広報の効果	問題提起型広報が住民自治を促す効果について検討する。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	事前：Moodleで配布した文献を読む(1時間)
15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	事前：これまでのレジュメと小テストを復習する(2時間)

関連科目 「住民協働論」では第14回の協働についてより詳しい内容をアクティブ・ラーニング形式で学ぶことができる。「地方財政論」では地方財政についてより詳しく学ぶことができる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成の大合併と財政効率	増田知也	金壽堂出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、ふりかえりシート20%
学生へのメッセージ	地方政治・行政に関するニュースや、地元自治体の広報などに注目しながら学んでください。
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室
備考	小テストとふりかえりシートについては、次の回の授業で解説とフィードバックを行う。

科目名	倒産法	科目名(英文)	Insolvency Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3044a0		

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切な対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する実質的で、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法の中心である破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民事法全体についての理解にも資する。
到達目標	倒産法という自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思いますが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることであり、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。このため、この授業を通じて学生には、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解し、経済的に自立した大人となるための基礎知識を得られることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧弧けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、ファイナンシャルプランナー(FP)の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指さない者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイドダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律(民法、民事訴訟法、民事保全・執行法)との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類(再建型と清算型)	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行(民事保全執行法)と包括執行(倒産法)との違い  ・再建型(民事再生・会社更生)と清算型(破産・特別清算)	事前学習：教科書 P. 1～11 (判例)最高裁平成3年2月21日第小法廷決定 倒産手続と憲法的保障 事後学習：講義における配布資料の復習 (事前学習の目安は約1時間とする、以下同様)
2	・倒産手続 ・破産手続	・倒産手続の種類 ・破産手続の流れ	事前学習：教科書 P. 13～23 (判例)東京高裁昭和57年11月30日決定 破産手続開始申立に対する事前協議・合意条項の効力 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
3	・再生手続	・再生手続の種類 ・再生手続の流れ	事前学習：教科書 P. 24～39 (判例)福岡高裁平成15年6月12日決定 給与取得者等再生における可処分所得要件 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
4	・破産手続開始決定	・破産手続開始要件 ・破産手続開始の申立て ・保全処分 ・破産手続開始に対する不服申立て ・手続開始決定の効果	事前学習：教科書 P. 42～57 (判例)東京高裁昭和56年9月7日決定 債務超過の判断要素 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
5	・財産の管理/換価と管財人等	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	事前学習：教科書 P. 58～73 (判例)最高裁昭和58年3月22日第三小法廷判決 破産管財人の第三者性 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
6	・契約関係の処理(売買・取戻権)	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権	事前学習：教科書 P. 74～89 (判例)最高裁昭和45年1月29日第一小法廷判決 第三者意義の訴えと債務者の破産 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
7	・契約関係の処理(賃貸借・請負・リース契約)	・賃貸借契約 ・請負契約 ・ファイナンスリース契約	事前学習：教科書 P. 90～106 (判例)最高裁昭和53年6月23日第二小法廷 請負契約における注文者の破産 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
8	・否認権	・否認権の種類 ・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	事前学習：教科書 P. 107～120 (判例)東京高裁平成5年5月27日判決 不動産の適価売却と否認 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義(民法における相殺との比較) ・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	事前学習：教科書 P. 134～148 (判例)最高裁平成17年1月17日第二小法廷判決 相殺の可否 手続開始後の停止条件成就 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)
10	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か	事前学習：教科書 P. 149～168 民法上等における担保制度の復習

		・別除権の行使 ・別除権となる担保権(典型担保の場合)	事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)																
11	・債権の優先順位	・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権(破産手続)	事前学習：教科書 P. 186～203 (判例)最高裁平成18年1月23日第二小法廷判決 破産債権に対する自由財産からの弁済と不当利得の成否 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)																
12	・配当と破産手続の終了	・配当 ・破産手続の終了とその効果	事前学習：教科書 P. 204～216 (判例)最高裁平成5年6月25日第二小法廷判決 破産手続終了後の訴訟 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)																
13	・再生計画、履行	・再生計画とは？ ・再生計画の提出と可決、認可手続	事前学習：教科書 P. 217～234 (判例)東京高裁平成13年9月3日決定 権利変更の平等 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)																
14	・個人債務者の倒産手続 ・免責	・個人倒産制度の全体像 ・自由財産 ・免責 ・小規模個人再生/給与所得者等再生	事前学習：教科書 P. 235～251 (判例)東京高裁平成7年2月3日決定 破産法上の義務違反と免責 事後学習：講義における配布資料の復習 (1時間)																
15	・倒産法における諸問題 ・まとめ&復習	・倒産におけるライセンス契約等の取扱い等 ・講義全体のまとめと復習	事前学習：該当範囲の復習 事後学習：当該講義において配布した全資料の復習 (3時間)																
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、民事訴訟応用講義、知的財産法、商法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎トレーニング倒産法</td> <td>藤本利一・野村剛司</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎トレーニング倒産法	藤本利一・野村剛司	日本評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎トレーニング倒産法	藤本利一・野村剛司	日本評論社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>倒産法 判例百選〔第5版〕</td> <td>伊藤眞・松下淳一編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	倒産法 判例百選〔第5版〕	伊藤眞・松下淳一編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	倒産法 判例百選〔第5版〕	伊藤眞・松下淳一編	有斐閣																
2																			
3																			
評価方法(基準)	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。																		
学生へのメッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するもので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																		
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。																		

科目名	独占禁止法	科目名(英文)	Anti-Trust Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3049a0		

授業概要・目的	独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、独占禁止法の基本的知識と応用力を取得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、独占禁止法の運用の実態を理解するために公正取引委員会の審決を読み、また、練習問題を解いていく。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、毎回、復習テストを行う。
科目学習の効果(資格)	企業に就職する者にとっては、独占禁止法の知識は不可欠の知識となっており、また、公務員にとっても談合という不当な取引制限に対する知識の修得が、職務上、重要である。独占禁止法の知識と応用力の修得により、会社や社会に対して大きく貢献できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	独占禁止法の目的・構成と手続	自由競争の促進と独禁法について学ぶ。	事前に教科書 p. 1～9 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 1～9 を読むこと (1時間)。
2	独占禁止法の基礎概念	事業者、一定の取引分野、競争の実質的制限、公共の利益等について学ぶ。	事前に教科書 p. 15～22 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 15～22 を読むこと (1時間)。
3	公正取引委員会の組織と構成	公正取引委員会の組織、公正取引委員会の構成等について学ぶ。	事前に教科書 p. 35～61 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 35～61 を読むこと (1時間)。
4	独占禁止法違反事件の処理手続	行政的救済、刑事制裁、民事上の救済手段等について学ぶ。	事前に教科書 p. 62～74 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 62～74 を読むこと (1時間)。
5	私的独占の禁止	私的独占の禁止の形態、支配と排除要件、等について学ぶ。	事前に教科書 p. 75～93 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 75～93 を読むこと (1時間)。
6	不当な取引制限 (1)	カルテルとは何かについて学ぶ。	事前に教科書 p. 97～119 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 97～119 を読むこと (1時間)。
7	不当な取引制限 (2)	カルテルの形態 国際カルテルの規制について学ぶ。	事前に教科書 p. 435～441 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 435～441 を読むこと (1時間)。
8	不当な取引制限 (3)	行政指導とカルテル、カルテルの適用除外等について学ぶ。	事前に教科書 p. 135～139 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 135～139 を読むこと (1時間)。
9	不当な取引制限 (4)	事業者団体の活動規制、事業者団体とは、違法な活動類型等について学ぶ。	事前に教科書 p. 120～134 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 120～134 を読むこと (1時間)。
10	不当な取引制限 (5)	政指導とカルテル カルテルの適用除外 価格の同調的引上げの理由報告制度	事前に教科書 p. 135～139 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 135～139 を読むこと (1時間)。
11	結合・集中規制 (1)	合併 分割・役員兼任等 独占的地位に対する措置について学ぶ。	事前に教科書 p. 163～180 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 163～180 を読むこと (1時間)。
12	結合・集中規制 (2)	持株会社の規制・金融会社の株式保有制限・一般会社の株式保有規制等について学ぶ。	事前に教科書 p. 163～180 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 163～180 を読むこと (1時間)。
13	不公正な取引方法 (1)	概説、排他条件付取引、再販売価格の拘束、拘束条件付取引、不当な差別的取扱い等について学ぶ。	事前に教科書 p. 223～277 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 223～277 を読むこと (1時間)。
14	不公正な取引方法 (2)	不当対価、不当な顧客誘引・強制、欺まんの顧客誘引、抱き合わせ販売、取引上の地位の不当利用等について学ぶ。	事前に教科書 p. 278～318 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 278～318 を読むこと (1時間)。
15	知的財産権と独占禁止法その他	知的財産権と独占禁止法、政府規制と独占禁止法、国際取引と独占禁止法等について学ぶ。	事前に教科書 p. 319～368 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 319～368 を読むこと (1時間)。

関連科目	会社法、行政法
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	独占禁止法と競争政策 (最新版)	岸井大太郎その他4名	有斐閣
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済法判例・審決百選 (最新版)	厚谷襄児・稗貫俊文編	有斐閣

評価方法(基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%
----------	--------------------

学生へのメッセージ	辛抱強く勉強してください。
-----------	---------------

担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室
----------	--------------

備考	予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。
----	---

科目名	独占禁止法 I	科目名 (英文)	Anti-trust Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、独占禁止法の基本的知識と応用力を取得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、独占禁止法の運用の実態を理解するために公正取引委員会の審決を読み、また、練習問題を解いていく。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、毎回、復習テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	企業に就職する者にとっては、独占禁止法の知識は不可欠の知識となっており、また、公務員にとっても談合という不当な取引制限に対する知識の修得が、職務上、重要である。独占禁止法の知識と応用力の修得により、会社や社会に対して大きく貢献できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	独占禁止法の目的・構成と手続	自由競争の促進と独禁法について学ぶ。	事前に教科書 p. 1～9 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 1～9 を読むこと (1 時間)。
2	独占禁止法の基礎概念	事業者、一定の取引分野、競争の実質的制限、公共の利益等について学ぶ。	事前に教科書 p. 15～22 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 15～22 を読むこと (1 時間)。
3	公正取引委員会の組織と構成	公正取引委員会の組織、公正取引委員会の構成等について学ぶ。	事前に教科書 p. 35～61 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 35～61 を読むこと (1 時間)。
4	独占禁止法違反事件の処理手続	行政的救済、刑事制裁、民事上の救済手段等について学ぶ。	事前に教科書 p. 62～74 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 62～74 を読むこと (1 時間)。
5	私的独占の禁止	私的独占の禁止の形態、支配と排除要件、等について学ぶ。	事前に教科書 p. 75～93 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 75～93 を読むこと (1 時間)。
6	不当な取引制限 (1)	カルテルとは何かについて学ぶ。	事前に教科書 p. 97～119 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 97～119 を読むこと (1 時間)。
7	不当な取引制限 (2)	カルテルの形態 国際カルテルの規制について学ぶ。	事前に教科書 p. 435～441 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 435～441 を読むこと (1 時間)。
8	不当な取引制限 (3)	行政指導とカルテル、カルテルの適用除外等について学ぶ。	事前に教科書 p. 135～139 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 135～139 を読むこと (1 時間)。
9	不当な取引制限 (4)	事業者団体の活動規制、事業者団体とは、違法な活動類型等について学ぶ。	事前に教科書 p. 120～134 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 120～134 を読むこと (1 時間)。
10	不当な取引制限 (5)	行政指導とカルテル カルテルの適用除外 価格の同調的引上げの理由報告制度	事前に教科書 p. 135～139 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 135～139 を読むこと (1 時間)。
11	結合・集中規制 (1)	合併 分割・役員兼任等 独占的地位に対する措置について学ぶ。	事前に教科書 p. 163～180 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 163～180 を読むこと (1 時間)。
12	結合・集中規制 (2)	持株会社の規制・金融会社の株式保有制限・一般会社の株式保有規制等について学ぶ。	事前に教科書 p. 163～180 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 163～180 を読むこと (1 時間)。
13	不公正な取引方法 (1)	概説、排他条件付取引、再販売価格の拘束、拘束条件付取引、不当な差別的取扱い等について学ぶ。	事前に教科書 p. 223～277 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 223～277 を読むこと (1 時間)。
14	不公正な取引方法 (2)	不当対価、不当な顧客誘引・強制、欺まんの顧客誘引、抱き合わせ販売、取引上の地位の不当利用等について学ぶ。	事前に教科書 p. 278～318 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 278～318 を読むこと (1 時間)。
15	知的財産権と独占禁止法その他	知的財産権と独占禁止法、政府規制と独占禁止法、国際取引と独占禁止法等について学ぶ。	事前に教科書 p. 319～368 を読むこと (1 時間)。	事後に教科書 p. 319～368 を読むこと (1 時間)。

関連科目	会社法、行政法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	独占禁止法と競争政策 (最新版)	岸井大太郎その他 4名	有斐閣
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済法判例・審決百選 (最新版)	厚谷襄児・穂貫俊文編	有斐閣
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%			
学生へのメッセージ	辛抱強く勉強してください。			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 牛丸教授室			
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。			

科目名	日本外交史	科目名(英文)	Japan Diplomatic History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2065a0		

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治・外交史を理解することにより、社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることでできる能力を持つことが期待される。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職において、日本の政治・外交史が一般教養として問われる。 この授業によって、上記に際して必要な、また現代や将来の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	幕末の条約について調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	明治維新	明治維新期の対外関係について	明治初期の諸条約について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	条約改正の過程について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	明治六年の政変について調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日清・日露戦争の講和条約について調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	第一次世界大戦前の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	満州事変のきっかけについて調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	第一次近衛内閣について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	ハル・ノートについて調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	連合国首脳国際会議について調べておく(約30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	冷戦初期の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	ソ連や韓国との国交回復・樹立について調べておく(約30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	中華人民共和国との国交樹立について調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする(約4時間)

関連科目	世界の政治と社会、日本政治論、国際関係史、国際関係論
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本外交史講義	井上寿一	岩波書店
2	日本外交史概説	池井優	慶應義塾大学出版会	
3				

評価方法(基準)	原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。 平常点20%(小テスト(第5回・第10回の授業の前半で実施予定))、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
----------	---

学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	小テストの解答はポータルサイトに掲載します。
----	------------------------

科目名	日本女性史	科目名(英文)	History of Women in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校の日本史教科書に登場する女性は、ごくわずかである。江戸時代では、出雲の阿国、皇女和宮、東福門院和子、明正天皇、後桜町天皇くらいである。これまでの日本史教育では、女性が何を考えてどう生きたか、ということはほとんど捨象されてきたといえる。この講義では、戦国期から近世のさまざまな女性像に焦点をあて、時代の中で奮闘し、悩み、楽しんだ女性の姿を紹介してみたい。
到達目標	男女共同参画基本法や雇用機会均等法などによって、女性の差別的扱いを克服するのは、現代社会の喫緊の課題である。社会のあらゆる場面の男女の平等が求められているのである。この授業を通じて学生は、日本における女性差別の根源がどこにあるか、それが現代にも大きな影を落としている様子を理解すること、そして現代の法の目標とするところをよりよく理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や絵画資料、関連文献を配付したり、紹介する。
科目学習の効果(資格)	「男女共同参画社会」に生きる男女すべてにとって必要な教養といえる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	女性史とは	国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し
	2	中世の女性	中世社会と女性の地位	講義ノート・レジュメの見直し
	3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	講義ノート・レジュメの見直し
	4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノート・レジュメの見直し
	5	近世の女性①	儒教と女性	講義ノート・レジュメの見直し
	6	近世の女性②	武家の女性	講義ノート・レジュメの見直し
	7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノート・レジュメの見直し
	8	近世の女性④	町人社会の女性	講義ノート・レジュメの見直し
	9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノート・レジュメの見直し
	10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノート・レジュメの見直し
	11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノート・レジュメの見直し
	12	近世の女性⑧	天保改革と女性	講義ノート・レジュメの見直し
	13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノート・レジュメの見直し
	14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノート・レジュメの見直し
	15	近代の女性	明治・大正期の女性	講義ノート・レジュメの見直し

関連科目	「近世日本の法文化」「家族と地域の法社会史」
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)とレポートの評価(20%)の総合点で判定する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	日本史、女性史、現代の女性問題などに興味をもっている諸君が選択することを期待する。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室
----------	---------------

備考	レポートは評価した上で、キャリアルームで返却する。講義後の見直しは、少なくとも1時間程度のノート、配布プリントを熟読すること。全体として15～20時間の自宅学習が望ましい。
----	--

科目名	日本女性史	科目名(英文)	History of Women in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2009a0		

授業概要・目的	高校の日本史教科書に登場する女性は、ごくわずかである。江戸時代では、出雲の阿国、皇女和宮、東福門院和子、明正天皇、後桜町天皇くらいである。これまでの日本史教育では、女性が何を考えてどう生きたか、ということはほとんど捨象されてきたといえる。この講義では、戦国期から近世のさまざまな女性像に焦点をあて、時代の中で奮闘し、悩み、楽しんだ女性の姿を紹介してみたい。																																																																
到達目標	男女共同参画基本法や雇用機会均等法などによって、女性の差別的扱いを克服するのは、現代社会の喫緊の課題である。社会のあらゆる場面で男女の平等が求められているのである。この授業を通じて学生は、日本における女性差別の根源がどこにあるか、それが現代にも大きな影を落としている様子を理解すること、そして現代の法の目標とするところをよりよく理解できるようになることが期待される。																																																																
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や絵画資料、関連文献を配付したり、紹介する。																																																																
科目学習の効果(資格)	「男女共同参画社会」に生きる男女すべてにとって必要な教養といえる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>女性史とは</td> <td>国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法</td> <td>男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中世の女性</td> <td>中世社会と女性の地位</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>戦国時代の女性①</td> <td>政略結婚の時代</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>戦国時代の女性②</td> <td>領国を支える女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>近世の女性①</td> <td>儒教と女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>近世の女性②</td> <td>武家の女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近世の女性③</td> <td>大奥の女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近世の女性④</td> <td>町人社会の女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近世の女性⑤</td> <td>長屋の中の女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近世の女性⑥</td> <td>幕末の「お稽古事」事情</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近世の女性⑦</td> <td>江戸の娘たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近世の女性⑧</td> <td>天保改革と女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>近世の女性⑨</td> <td>遊郭の女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>近世の女性⑩</td> <td>幕末の動乱と女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>近代の女性</td> <td>明治・大正期の女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	女性史とは	国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し	2	中世の女性	中世社会と女性の地位	講義ノート・レジュメの見直し	3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	講義ノート・レジュメの見直し	4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノート・レジュメの見直し	5	近世の女性①	儒教と女性	講義ノート・レジュメの見直し	6	近世の女性②	武家の女性	講義ノート・レジュメの見直し	7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノート・レジュメの見直し	8	近世の女性④	町人社会の女性	講義ノート・レジュメの見直し	9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノート・レジュメの見直し	10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノート・レジュメの見直し	11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノート・レジュメの見直し	12	近世の女性⑧	天保改革と女性	講義ノート・レジュメの見直し	13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノート・レジュメの見直し	14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノート・レジュメの見直し	15	近代の女性	明治・大正期の女性	講義ノート・レジュメの見直し
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	女性史とは	国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し																																																														
2	中世の女性	中世社会と女性の地位	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
5	近世の女性①	儒教と女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
6	近世の女性②	武家の女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
8	近世の女性④	町人社会の女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
12	近世の女性⑧	天保改革と女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
15	近代の女性	明治・大正期の女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																														
関連科目	「近世日本の法文化」「家族と地域の法社会史」																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)とレポートの評価(20%)の総合点で判定する。																																																																
学生へのメッセージ	日本史、女性史、現代の女性問題などに興味をもっている諸君が選択することを期待する。																																																																
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																																																																
備考	レポートは評価した上で、キャリアルームで返却する。講義後の見直しは、少なくとも1時間程度のノート、配布プリントを熟読すること。全体として15～20時間の自宅学習が望ましい。																																																																

科目名	日本政治論	科目名(英文)	The Lectures on Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1070a0		

授業概要・目的	幕末から戦後までの日本の政治を、国内政治を中心に概説する。特に、各内閣がどのような政策をとったかについて目を向けていく。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義方式で授業を進める。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職において、日本の政治史が一般教養として問われる。この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	『日本政治論』講義について	講義の内容全体について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
2	西欧の衝撃への対応	開国と幕末の動乱について	開国後の主な藩の動きについて調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	政府批判の噴出	士族の反乱と自由民権運動について	西南戦争について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	不平等条約の内容について調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	議会政治の定着	初期議会・日清戦争後の藩閥一政党関係について	自由党・立憲改進黨について調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	日清戦争と日露戦争	2つの戦争をめぐる国内政治・国際関係について	日清・日露戦争の講義と条約について調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	帝国の膨張	韓国併合、満州政策、第一次世界大戦について	韓国併合に至る過程について調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	政党政治の発展	日露戦争後・大正期の藩閥一政党関係について	大正時代の政党について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	国際協調と政党内閣	原敬内閣および政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	軍部の台頭	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく(約30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	帝国の崩壊	日中戦争、日米戦争について	日中戦争勃発以降の内閣の変遷について調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	敗戦・占領・講和	初期占領改革、冷戦構造と講和について	戦後初期の政党について調べておく(約30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	自民党政治	55年体制成立以降の国内政治・国際関係について	自民党の派閥の成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする(約4時間)

関連科目	日本外交史、世界の政治と社会、国際関係論、国際関係史
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本政治史	北岡伸一	有斐閣
2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店	
3	近代日本政治史	坂野 潤治	岩波書店	

評価方法(基準)	原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。平常点20%(小テスト(第5回・第10回の授業の前半で実施予定))、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。日々起こる政治的な出来事を、日本の政治史をベースにとらえていくようにしましょう。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	小テストの解答はポータルサイトに掲載します。

科目名	日本の外交の歴史	科目名(英文)	Diplomatic History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治・外交史を理解することにより、社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることでできる能力を持つことが期待される。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職において、日本の政治・外交史が一般教養として問われる。 この授業によって、上記に際して必要な、また現代や将来の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義について	講義の内容全体について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	幕末の条約について調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	明治維新	明治維新期の対外関係について	明治初期の諸条約について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	条約改正の過程について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	明治六年の政変について調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日清・日露戦争の講和条約について調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	第一次世界大戦前の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	満州事変のきっかけについて調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	第一次近衛内閣について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	ハル・ノートについて調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	連合国首脳国際会議について調べておく(約30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	冷戦初期の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	ソ連や韓国との国交回復・樹立について調べておく(約30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	中華人民共和国との国交樹立について調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする(約4時間)

関連科目	世界の政治と社会、日本政治論、国際関係史、国際関係論
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本外交史講義	井上寿一	岩波書店
2	日本外交史概説	池井優	慶應義塾大学出版会	
3				

評価方法(基準)	原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。 平常点20%(小テスト(第5回・第10回の授業の前半で実施予定))、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
----------	---

学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	小テストの解答はポータルサイトに掲載します。
----	------------------------

科目名	日本の人権の歴史	科目名(英文)	History of Human Rights in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1007a0		

授業概要・目的	前近代社会は身分制社会であり、近代法は封建的身分や差別からの解放を重要な目標として誕生した。この授業を通じて学生には、近代に先立つ身分制社会とはどういうものなのか、逆に近代という時代はどのようなものなのか、その意味を理解できるようになることが期待される。近世社会に生きた様々な人々の抑圧や差別、差別を克服する戦い、そういうものを学び取ってほしい。
到達目標	日本における差別の起源や歴史、差別の実態を知り、その非人間性を十分理解してもらい、基本的人権の重要性を認識してもらうことが目標である。
授業方法と留意点	講義および板書による説明が中心である。適宜関連史料を配付し、参考文献を指示するので、毎回出席して講義を聞くことが望まれる。いうまでもなく、ふだんよりの自主的な勉強が大切である。
科目学習の効果(資格)	本講義は、教職課程履修者にとっては重要科目。また、公務員試験や各種試験にも繋がっている。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	封建法と市民法	自由・平等・人権の思想 「身分から契約へ」	西欧近代市民社会の成立について、高校教科書をあらかじめ読んでおくこと
	2	中世における差別	河原者と非人	日本の中世史について高校教科書を読んでおくこと、講義ノート・配布資料の見直し
	3	近世身分制の成立	太閤検地と身分制	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	4	近世被差別部落の成立	近世のえた身分と非人身分	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	5	近世の被差別民①	えたと呼ばれた人々の生活	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	6	近世の被差別民②	近世非人の実態	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	7	近世の被差別民③	都市の下層社会	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	8	身分解放の思想	近世の解放思想と抵抗運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	9	近世の人身売買	廓の中の女たち	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	10	解放令の成立	近代社会と被差別	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	11	娼妓の解放	近代と人身売買	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	12	近代の「身分」	華族の成立	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	13	大正デモクラシーと被差別民	水平社運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	14	その後の解放運動	解放運動や戦後の諸立法	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
	15	日本の人権の歴史	講義のまとめ	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと

関連科目 憲法・刑法など公法系の法学科目と歴史系諸科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験の成績(80%)とレポート(20%)の合計で評価する。

学生へのメッセージ 高校時代に日本史を選択していることが必要。本講義は、社会科学入門の意味を持つ。歴史学だけでなく政治学・社会学・経済学などを同時に勉強することが望まれる。

担当者の研究室等 11号館10階 牧田教授室

備考 レポートは評価した上で、キャリアルームで返却する。講義後ノート、配布したプリント類を1時間程度をかけて見直し、熟読すること。全体として少なくとも講義の後に1.5時間ほどの自宅学習が望まれる。

科目名	日本の政治	科目名(英文)	Government and History in Postwar Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	幕末から戦後までの日本の政治を、国内政治を中心に概説する。特に、各内閣がどのような政策をとったかについて目を向けていく。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義方式で授業を進める。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職において、日本の政治史が一般教養として問われる。この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
1	『日本政治論』講義について	講義の内容全体について	開国後の主な藩の動きについて調べておく(約30分)
2	西欧の衝撃への対応	開国と幕末の動乱について	レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく(約30分)
4	政府批判の噴出	士族の反乱と自由民権運動について	レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
5	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	西南戦争について調べておく(約30分)
6	議会政治の定着	初期議会・日清戦争後の藩閥一政党関係について	レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
7	日清戦争と日露戦争	2つの戦争をめぐる国内政治・国際関係について	自由党・立憲改進黨について調べておく(約30分)
8	帝国の膨張	韓国併合、満州政策、第一次世界大戦について	レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
9	政党政治の発展	日露戦争後・大正期の藩閥一政党関係について	レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
10	国際協調と政党内閣	原敬内閣および政党内閣の時代について	日清・日露戦争の講和条約について調べておく(約30分)
11	軍部の台頭	満州事変以降の国内政治・国際関係について	レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
12	帝国の崩壊	日中戦争、日米戦争について	韓国併合に至る過程について調べておく(約30分)
13	敗戦・占領・講和	初期占領改革、冷戦構造と講和について	レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
14	自民党政治	55年体制成立以降の国内政治・国際関係について	大正時代の政党について調べておく(約30分)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
			「憲政の常道」について調べておく(約30分)
			レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
			満州事変以降の内閣の変遷について調べておく(約30分)
			レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
			日中戦争勃発以降の内閣の変遷について調べておく(約30分)
			レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
			戦後初期の政党について調べておく(約30分)
			レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
			自民党の派閥の成り立ちについて調べておく(約30分)
			レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
			レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする(約4時間)

関連科目	日本外交史、世界の政治と社会、国際関係論、国際関係史
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本政治史	北岡伸一	有斐閣
2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店	
3	近代日本政治史	坂野 潤治	岩波書店	

評価方法(基準)	原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。平常点20%(小テスト(第5回・第10回の授業の前半で実施予定))、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。日々起こる政治的な出来事を、日本の政治史をベースにとらえていくようにしましょう。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	小テストの解答はポータルサイトに掲載します。

科目名	フィットネストレーニングの理論と実際	科目名(英文)	Theory and Practice of Fitness Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2115a0		

授業概要・目的	現代社会において運動は生活の一部であり、より良い運動習慣を身につけることは健康で質の高い生活を送るために欠かせないことである。正しいトレーニング方法を知り、実践することでより健康な生活ができるよう学んでいく。
到達目標	この授業を通じて学生には、フィットネストレーニングの基礎的な知識を学び、それらを正しく実践出来る身体能力を獲得できるようになることが期待される。 また身につけた技術を指導するための能力を身につけることも目標とする。
授業方法と留意点	講義形式のトレーニング理論の習得と屋内・外でのフィットネストレーニングの実習を主な授業内容とする。 実技に際しては運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果(資格)	日本体育協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業主旨説明 運動と健康	運動と健康についての基礎用語の確認 次の回の授業で、解説を行う
2	身体組成	機能解剖学的身体組成の基礎知識	身体組成についての基礎知識の習得 次の回の授業で、解説を行う
3	全身持久力(1)	フィットネストレーニングとは 全身持久力とは	フィットネストレーニング、全身持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
4	全身持久力(2)	全身持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
5	筋力と筋持久力(1)	筋力・筋持久力とは	筋力・筋持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
6	筋力と筋持久力(2)	筋力トレーニングと筋持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
7	柔軟性(1)	柔軟運動とは	柔軟運動の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
8	柔軟性(2)	柔軟運動の実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
9	調整力(1)	調整力とは	調整力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
10	調整力(2)	調整力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
11	マシントレーニング(1)	マシンの特性(1)	マシントレーニングの基礎用語、器具の確認、実践の準備 13、14回目の授業で、実践指導を行う
12	マシントレーニング(2)	マシンの特性(2)	マシントレーニング実施、メニュー作成方法の確認、実践の準備 13、14回目の授業で、実践指導を行う
13	マシントレーニング(3)	マシントレーニング実習(1)	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
14	マシントレーニング(4)	マシントレーニング実習(2)	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
15	まとめ	講義内容の総括を行う	課題提出

関連科目	スポーツ科学概論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツプログラミング、発育発達論、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		公認スポーツプログラム専門科目テキスト	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	単位取得条件は、技能および平常態度、知的理解度などを総合して判断する。 実技 50%、提出物 30%、小テスト 20%
学生へのメッセージ	正しい理論と方法を身に着けることで、トレーニング効果はよりよいものとなります。 基本理論を身につけ、それらを正しく指導できるよう実践していきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。

科目名	福祉政策論	科目名(英文)	Social Protection Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3079a0		

授業概要・目的	少子高齢化や格差社会が大きな問題となる中、福祉政策はますます重要性を増している。この授業では、福祉に関わる基礎知識と課題について学ぶ。教科書の内容を前提として、グループ・ディスカッションを交えながら授業を展開する。福祉政策の意義と、福祉の視点から見た政治・行政について理解を深めてほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、福祉政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、福祉政策に関する文献から要点を抽出し、自分の言葉でまとめることができ、福祉政策の主要な論点について自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。 毎回冒頭に、前回の内容についての小テストを実施する。 授業の最後に、ふりかえりシートに記入し提出する。
科目学習の効果(資格)	福祉関係の職業を目指す受講生にとって、最低限身につけておくべき知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現代社会と福祉	日本社会が抱える問題と、社会福祉政策の概要について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
2	福祉への社会的対応	福祉の定義を確認しつつ、福祉のための制度と思想について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
3	福祉ニーズと供給システム	福祉におけるニーズ概念と、資源を割り当てるための供給システムについて学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
4	福祉の計画と評価	福祉分野における計画行政の歴史と、計画の立案・評価の方法について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
5	福祉政策と市場経済	経済理論からみた福祉政策について検討する。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
6	福祉政策の歴史	国家が関与する福祉政策について、その興りと発展について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
7	日本の福祉制度	日本における福祉制度の体系と、その特質について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
8	労働・住宅・教育政策	労働・住宅・教育分野における福祉政策について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
9	所得の保障	社会保険・社会手当・公的扶助からなる所得保障制度について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
10	健康・医療・介護の保障	健康づくりの取り組みと、医療保障、介護保険などの仕組みと意義を学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
11	福祉サービスの保障	専門職による個別的な福祉サービスの必要性と、制度改革について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える(1時間)
12	福祉制度の費用と財政	日本における社会福祉費用の特徴と課題について学ぶ。	事後：レジュメの内容をふりかえる(1時間)
13	薬学部・経済学部学生との合同グループワーク1	ABD(アクティブブックダイアログ)の手法を用いて学習し、内容についてグループディスカッションを行う。	事前：ABDマニュアルを読んでおく(1時間)
14	薬学部・経済学部学生との合同グループワーク2	グループディスカッションを行った結果をポスターにまとめる。	第13回と同じ
15	薬学部・経済学部学生との合同グループワーク3	ポスターにまとめた内容をグループで発表する。	第13回と同じ

関連科目	「社会保障法」では関連する内容を法律の面から学ぶことができます。 「地方自治論」では地方自治についての知識を学ぶことができます。 「地方財政論」では第12回の関連分野をより詳しく学ぶことができます。
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	反貧困：「すべり台社会」からの脱出	湯浅誠	岩波書店
2	社会福祉政策：現代社会と福祉	坂田周一	有斐閣
3			

評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、ふりかえりシート20%
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	第13回から第15回は、「医療経済学」(薬学部)、「地域保健医療」(経済学部)の受講生と合同でグループワークを実施する予定です。第12回までの授業では、参考書『社会福祉政策：現代社会と福祉』の流れに沿って授業を行うので、適宜予習・復習してください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室
----------	---------------

備考	小テストの解答については、当日の授業の最後に解説する。 ふりかえりシートについては、次の回の授業でフィードバックを行う。
----	---

科目名	物権法	科目名(英文)	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかりと理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式でおこないます。レジュメを配布し、それに沿って六法や教科書を参照します。六法は必ず持参してください。講義にやってくるだけで着席しているだけでは、本講義の単位を取得することはできませんので、ご自分でしっかりとノートをとることを強くお勧めします。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となる場合があります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像(物権とは何か、民法における物権法の位置づけ)	今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	物権変動(1)	物権変動の基本的理論	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	物権変動(2)	不動産の物権変動における公示と登記制度	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	物権変動(3)	不動産の物権変動における「第三者」の範囲	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	物権変動(4)	不動産の物権変動における「取消しと登記」	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	物権変動(5)	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	物権変動(6)	登記の効力	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	物権変動(7)	動産の物権変動における公示と即時取得	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	占有権	占有の取得、移転、消滅、効力	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	所有権(1)	所有権の基本的理論、所有権の取得	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	所有権(2)	所有権に基づく物権的請求権	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	所有権(3)	共同所有	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	所有権(4)	建物の区分所有	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	用益物権(1)	地上権、永小作権	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	用益物権(2) おわりに	地役権、入会権 講義のまとめと補足	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。

関連科目	債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法の基礎 2-物権	佐久間毅	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果と、講義中に課す課題を評価の対象とします(学期末試験90%、講義中の課題10%)。講義中の不要な私語など、講義の妨害にあたる行為については減点の対象とします。私語を含む受講態度があまりにひどい場合には、単位の取得を認めないことを講義中に申し渡すことがあります。			
学生への メッセージ	授業中は不要な私語などの迷惑行為は慎んで、真剣に講義を受けようとしている学生を妨害しないでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11号館9階 家本准教授室			
備考	授業中に課題を課した場合は、次の回の授業で講評・解説をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：22時間			

科目名	物権法	科目名(英文)	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2033a0		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかりと理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式でおこないます。レジュメを配布し、それに沿って六法や教科書を参照します。六法は必ず持参してください。講義にやってくるだけで着席しているだけでは、本講義の単位を取得することはできませんので、ご自分でしっかりとノートをとることを強くお勧めします。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となる場合があります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像(物権とは何か、民法における物権法の位置づけ)	今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	物権変動(1)	物権変動の基本的理論	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	物権変動(2)	不動産の物権変動における公示と登記制度	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	物権変動(3)	不動産の物権変動における「第三者」の範囲	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	物権変動(4)	不動産の物権変動における「取消しと登記」	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	物権変動(5)	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	物権変動(6)	登記の効力	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	物権変動(7)	動産の物権変動における公示と即時取得	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	占有権	占有の取得、移転、消滅、効力	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	所有権(1)	所有権の基本的理論、所有権の取得	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	所有権(2)	所有権に基づく物権的請求権	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	所有権(3)	共同所有	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	所有権(4)	建物の区分所有	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	用益物権(1)	地上権、永小作権	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 今回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	用益物権(2) おわりに	地役権、入会権 講義のまとめと補足	今回の講義内容に関するレジュメ(前回講義終了時に配布)を読んでおくこと。 全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。

関連科目	債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法の基礎 2-物権	佐久間毅	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験の結果と、講義中に課す課題を評価の対象とします(学期末試験90%、講義中の課題10%)。講義中の不要な私語など、講義の妨害にあたる行為については減点の対象とします。私語を含む受講態度があまりにひどい場合には、単位の取得を認めないことを講義中に申し渡すことがあります。			
学生への メッセージ	授業中は不要な私語などの迷惑行為は慎んで、真剣に講義を受けようとしている学生を妨害しないでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11号館9階 家本准教授室			
備考	授業中に課題を課した場合は、次の回の授業で講評・解説をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：22時間			

科目名	不動産取引法	科目名(英文)	Real Estate Exchange Act
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2034a0		

授業概要・目的	<p>不動産取引全般についての知識の習得と担保物権の果たしている役割についての理解を深めることを目的とする。登記簿の見方、対抗要件とは何か、通行権などにつき一通りの理解をし、実生活で役に立つ事柄につき学習する。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことである。債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあっては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、その資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須で、この点からも担保に関する法制度は極めて重要である。当該講義は抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の新たな担保方法や担保の対象についても知識が得られるようにする。なお、担保法は物権と債権が交錯する領域で、担保物権の学習は財産法の全体像を把握することにもなる。</p> <p>授業担当者の古川は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。</p>
到達目標	この授業を通じて学生には、不動産取引につき一通りの知識を習得し、担保とはなにか、どのような場面でのどのような役割を果たしているのか、注意すべき事柄はなにかについて説明出来るようになることが期待される。
授業方法と留意点	不動産取引についての理解は仕事をする上で、また自宅を購入する際などにも必要な事柄である。担保物権は物権法と債権法が交錯し、学ぶべき裁判例も多い法領域である。しかし、制度に関することが大半で、民事法の基本的知識を踏まえて着実に学習すれば、民法法全体が把握でき、金融に関する新たな知識が獲得でき、興味が広がる分野である。講義は、登記・民事執行についての基本を確認した上、教科書に即し、該当条文を確認・検討する方法で行う。
科目学習の効果(資格)	理解が進めば財産法全体に興味を持って、民法に関する応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては必須の領域である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	登記簿の見方	・登記簿の記載内容 ・スマホなどで登記簿の見本を見ながら学ぶ	登記簿を見ると何がわかるのについて確認し見直すこと(約1時間)
3	対抗要件	・対抗要件とは何か、なぜ必要なのか	対抗要件制度を把握、確認し見直すこと(約1時間)
4	通行権	・通行権とは何か	圍繞地通行権を理解し見直すこと(約1時間)
5	農地の売買、山林の売買	・一般宅地の売買と異なる点はあるのか 明認方法とはどのようなものか	農地法、明認方法を理解し見直すこと(約1時間)
6	金銭債権の権利実現(金銭執行の概略)、担保の意義・必要性	担保の果たしている役割・担保の必要性	担保について理解し見直すこと(約1時間)(約1時間)
7	担保法概論	・担保法の全体像	担保物権の全体像(典型担保、非典型担保)を把握、理解し見直すこと 小六法・教科書を持参すること(約1時間)
8	抵当権の設定	・抵当権に関する概念の把握	用語を理解し見直すこと(約1時間)
9	抵当権の実行と物上代位	・実行手続きの概要 ・物上代位とはなにか	実行手続きを理解し見直すこと(約1時間)
10	抵当目的物の利用・譲渡	・設定者の使用収益権 ・抵当目的物の第三取得者	担保権者の持つ価値権と設定者の使用収益権の関係につき理解し見直すこと(約1時間)
11	法定地上権 特殊な抵当権(共同抵当、根抵当)	・法定地上権とは何か ・共同抵当、根抵当とは何か	法定地上権、共同抵当、根抵当を理解し見直すこと(約1時間)
12	質権	・質権の意義、効力など	質権について理解し見直すこと(約1時間)
13	先取特権・留置権	・先取特権の種類 ・留置権とはどのようなものか	先取特権と留置権について理解し見直すこと(約1時間)
14	非典型担保概説・譲渡担保等	・非典型担保の意義・必要性 ・譲渡担保について	民法の条文にない担保権の種類を学習し、譲渡担保の果たしている役割を学習、理解して見直すこと(約1時間)
15	おわりに	講義内容を復習をすることにより、不動産取引、担保物権の全体像を整理・概説する。	全講義を振り返り、理解していない部分や質問等がないか検討する。 質問があれば応じる。(約1時間)

関連科目	民法総則、物権法、債権総論、民事執行法、破産法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法3 担保物権	平野裕之ほか	有斐閣アルマ
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	定期試験(70%)と平常点(小テスト、30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	不動産取引の全体像を把握すること、取引社会において重要な意義を有している金融の概略を学ぶことは社会生活を営む上で必須である。他方、不動産取引、担保物権は身近な法的領域でもある。法律の学習は講義内容を理解することが第一で、本講義も同様である。授業は工夫をするが、理解を深めるための質問を期待している。			
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室			
備考	物権法を学習しておくことが望ましい。学生の理解度、授業の進行によっては順序、内容を変更することもある。小テストの解答はその回の授業で行う。			

科目名	不法行為法	科目名(英文)	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	不法行為法は、709条というたった1条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、薬害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会における不法行為法の意義について理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業時に配布するレジュメにより講義します。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・不法行為法総説(1)	ガイダンス・債権発生原因としての不法行為・条文から見る不法行為法・不法行為の判断場面・不法行為法の難しさと面白さ	事前にテキスト14章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
2	不法行為法総説(2)	不法行為法の基本原則・不法行為法の目的と機能	事前にテキスト14章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
3	故意・過失(1)	故意/過失要件の意義・過失(1)	事前にテキスト15章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
4	故意・過失(2)	過失(2)・責任能力・故意	事前にテキスト15章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
5	権利侵害・違法性(1)	起草者の考えた権利侵害要件・権利侵害から違法性へ・権利一元論からの批判・権利侵害要件の再生	事前にテキスト16章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
6	権利侵害・違法性(2)	権利と法律上保護される利益・権利の目録(人格権と財産権)	事前にテキスト16章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
7	権利侵害・違法性(3)	生成途上の権利と権利の生成プロセス・不法行為成立要件としての違法性(違法性阻却事由)	事前にテキスト16章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
8	因果関係(1)	相当因果関係説批判・成立上の因果関係/賠償範囲の因果関係/金銭評価の区別・成立上の因果関係(事実因果関係)	事前にテキスト17章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
9	因果関係(2)	事実因果関係の立証(高度の蓋然性/疫学的因果関係論の位置付け)・賠償範囲の因果関係(大隅裁判官の反対意見・義務射程説・危険性関連説)	事前にテキスト17章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
10	共同不法行為	719条1項前段の共同不法行為の成立要件・大気汚染訴訟と共同不法行為・1項後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	事前にテキスト19章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
11	損害論	損害の種類・損害とは何か・救済の方法・損害額の算定方法(総論)	事前にテキスト18・20章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
12	損害額の算定方法	逸失利益の算定に係る問題・一時金賠償と定期金賠償・慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題	事前にテキスト18章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
13	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	事前にテキスト18章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
14	賠償額の調整(2)	過失相殺規定の類推適用(素因減額)・消滅時効と除斥期間	事前にテキスト18章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
15	特殊の不法行為	監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・動物占有者責任・製造物責任・運行供用者責任	事前にテキスト19・20章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。

関連科目	民法総則、債権法など民法科目全般。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	ロードマップ民法4	小川富之、城内明編著	一学舎
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>学期末試験(90%)、および授業内で行う中間テスト(10%)の成績により評価します。          中間テストは、論述試験対策も兼ねています。学期末試験のつもりで、きちんと勉強をして臨んで下さい。テストの解説は、次回授業時に行います。          なお、私語等の授業妨害行為があった場合には、相応の減点をし、場合によっては単位不授与としますので注意してください。</p>			
学生への メッセージ	<p>不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。</p>			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	<p>設例に対する答えは、授業内で解説します。          分からない点がありましたら、授業後等に解説しますので、どうぞ質問に来て下さい。</p>			

科目名	不法行為法	科目名(英文)	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3037a0		

授業概要・目的	不法行為法は、709条というたった1条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、薬害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会における不法行為法の意義について理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業時に配布するレジュメにより講義します。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・不法行為法総説(1)	ガイダンス・債権発生原因としての不法行為・条文から見る不法行為法・不法行為の判断場面・不法行為法の難しさと面白さ	事前にテキスト14章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
2	不法行為法総説(2)	不法行為法の基本原理・不法行為法の目的と機能	事前にテキスト14章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
3	故意・過失(1)	故意/過失要件の意義・過失(1)	事前にテキスト15章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
4	故意・過失(2)	過失(2)・責任能力・故意	事前にテキスト15章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
5	権利侵害・違法性(1)	起草者の考えた権利侵害要件・権利侵害から違法性へ・権利一元論からの批判・権利侵害要件の再生	事前にテキスト16章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
6	権利侵害・違法性(2)	権利と法律上保護される利益・権利の目録(人格権と財産権)	事前にテキスト16章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
7	権利侵害・違法性(3)	生成途上の権利と権利の生成プロセス・不法行為成立要件としての違法性(違法性阻却事由)	事前にテキスト16章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
8	因果関係(1)	相当因果関係説批判・成立上の因果関係/賠償範囲の因果関係/金銭評価の区別・成立上の因果関係(事実因果関係)	事前にテキスト17章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
9	因果関係(2)	事実因果関係の立証(高度の蓋然性/疫学的因果関係論の位置付け)・賠償範囲の因果関係(大隅裁判官の反対意見・義務射程説・危険性関連説)	事前にテキスト17章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
10	共同不法行為	719条1項前段の共同不法行為の成立要件・大気汚染訴訟と共同不法行為・1項後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	事前にテキスト19章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
11	損害論	損害の種類・損害とは何か・救済の方法・損害額の算定方法(総論)	事前にテキスト18・20章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
12	損害額の算定方法	逸失利益の算定に係る問題・一時金賠償と定期金賠償・慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題	事前にテキスト18章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
13	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	事前にテキスト18章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
14	賠償額の調整(2)	過失相殺規定の類推適用(素因減額)・消滅時効と除斥期間	事前にテキスト18章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
15	特殊の不法行為	監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・動物占有者責任・製造物責任・運行供用者責任	事前にテキスト19・20章に目を通しておくこと(最低10分)。 事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。

関連科目	民法総則、債権法など民法科目全般。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	ロードマップ民法4	小川富之、城内明編著	一学舎
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>学期末試験(90%)、および授業内で行う中間テスト(10%)の成績により評価します。          中間テストは、論述試験対策も兼ねています。学期末試験のつもりで、きちんと勉強をして臨んで下さい。テストの解説は、次回授業時に行います。          なお、私語等の授業妨害行為があった場合には、相応の減点をし、場合によっては単位不授与としますので注意してください。</p>			
学生への メッセージ	<p>不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。</p>			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	<p>設例に対する答えは、授業内で解説します。          分からない点がありましたら、授業後等に解説しますので、どうぞ質問に来て下さい。</p>			

科目名	プレ専門演習	科目名(英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	プレ専門演習は、後期の「専門演習Ⅰ」、次年度の「専門演習Ⅱ」に直接繋がるものではありませんが、それらに関連する知識の理解及び確認が主眼となります。3年次の専門演習Ⅱでは、「国際私法」を研究のテーマとしますが、2年次では、それに関連する法律知識、特に、民法の基礎知識を対象とし、前期の「プレ専門演習」では、身近な「親族法」について「戸籍法の視点」から概観します。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、「親族法」と「戸籍法」についての基本的な知識を理解していることを説明できることが期待されます。																		
授業方法と留意点	「戸籍法」から「親族法」についての基本的な知識を理解するために、配付資料を使ってディスカッション形式で進めます。条文の意味をどのように捉えるのか、積極的な発言を求めます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレ専門演習の進め方</li> <li>2. 「家族法」、「親族法」、「旧親族法」とは何か</li> <li>3. 「親族関係及び氏」と「戸籍」について <ol style="list-style-type: none"> <li>1、2については、それぞれ1回程度</li> <li>3については、13回程度を使って行う。</li> </ol> </li> </ol> <p>事前・事後学習については個々に指示しますが、復習に力点を置いて、各授業時間ごとに2時間程度の見直しが必要です。</p>																		
関連科目	民法総則、親族法、相続法																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要な資料を配付します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要な資料を配付します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要な資料を配付します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	「課題レポートの理解度」(60%)及び「授業での発言状況」(40%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	親族法における「戸籍」が持つ意義を考えて下さい。																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	課題レポートについては、SHの時間を使ってコメントを添えてフィードバックします。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、4年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。会社法の中から、適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。			
到達目標	この演習を通じて、学生は、会社法を中心に、商法全般の知識を習得できるようになることが期待される。			
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。積極的に議論に参加して欲しい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。 方法は、判例・学説の研究である。 事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として定期試験は行いません。平常点 70% レポート 30%			
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。			
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室			
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。事前・事後の学習には、合計 20 時間とって下さい。提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。			

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習への導入として、日本法史に関する基礎知識を身につけるとともに、さまざまな問題について調べるためのノウハウを提供します。		
到達目標	この授業を通じて学生は、日本法史に関する基礎知識をもつとともに、広く社会問題についてその歴史的淵源を探り、問題解決の糸口を見つけられるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	ゼミの主役は学生諸君です。学生諸君が自ら調べ、まとめ、プレゼンテーションできるようにアドバイスをしたり、足りないところを補足したり、誤りを修正したりします。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	このゼミでは、日本法史に関する様々なテーマを一通り説明したのち、学生諸君により深く自ら調べ、プレゼンテーションしてもらおうと思っています。報告者は、文献、インターネット、新聞記事、雑誌論文など、関係資料にあたり、それについて噛み砕いて説明してください。それを材料に討論ができればと思います。報告者は、何よりも予習が大切です。		
関連科目	近世日本の法文化、日本の人権の歴史、日本女性史、祭りと地域の法社会史、その他あらゆる科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	日常の授業参加の真摯さ (発言や討論への参加) (90%) と、レポートの内容で (10%) で評価します。		
学生へのメッセージ	知的好奇心をもってほしい。		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室		
備考	レポートは評価した上で、ゼミで返却します。最低でもゼミでの発表の際には事前に3～5時間の準備 (調べたり、レジュメの作成) をしてください。ただし、勉強に上限はありません。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習の導入教育ですので、税の世界に馴染んで頂く内容としています。私たちの社会生活や経済活動が税とどのように関係しているのかを学習します。税は税法という観点からだけではなく、国家財政のようなマクロの世界から企業の経営や投資の判断などのミクロの世界まで、多種多様な世界に関係しています。税を通して社会を見てみましょう。		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①日常生活と税とのつながりを理解できるようになること ②租税法の基本的考え方に慣れること		
授業方法と留意点	様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。課題発表 (プレゼンテーション) の後に、内在する税法上の基本問題を取り上げ、ディスカッションを行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	講義、課題発表、ビデオ鑑賞、判例解説、社会人体験ゲーム等により、様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。毎回のテーマについて事前学習し、積極的に発言出来るよう心掛けてください。		
関連科目	所得税法、消費税法などの租税法、財政学、憲法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	税法入門	金子宏ほか
	2	民事法入門	野村豊弘
	3		
評価方法 (基準)	ゼミでの積極的発言や貢献度 (30%)、課題発表の内容 (30%)、及びレポート (20%) の合計で評価します。		
学生へのメッセージ	租税法は社会人となってからも役に立つ実学の代表格です。税の世界に興味を持って頂きたいと思います。		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室		
備考	課題の担当者が司会者となってゼミ生全員に考えさせながら、ゼミの時に課題の正解が分かるようにします。授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各30分程度行うように心掛けて下さい。専門演習ⅠⅡとは異なり、税と社会とのかかわりに関心を持って頂くことが目的ですので、ゼミで取り上げた内容以外も幅広く学習して下さい。		

科目名	プレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	2年後期から始まる専門演習での学習にスムーズに入っていけるように指導します。すなわち、法学基礎演習Ⅰが大学生としての勉学のために、そして法学基礎演習Ⅱが法学部教育のために、それぞれにスムーズに入っていけるよう設置された科目であるのに対して、プレ専門演習は、専門演習での学習に向けてのいわば助走的な内容のゼミとなります。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、専門演習での学習に向けて、社会科学の演習で必要となる社会情報の取得や演習スタイルの学習のための準備の仕方として15名以下程度の少人数の中での報告形式に慣れることが期待されます。																		
授業方法と留意点	学生による報告が主体の演習形式で行います。主にグループごとに特定のテーマについて、学習・調査し、それを授業の中で報告してもらいます。報告された内容については、聞く側の学生も交えて全員で討論していきます。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告のための準備時間は各自必要となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この演習では、社会科学分野の専門学習を念頭に置いたテーマを設定します。特に、国内外の政治・社会問題の動きをみる眼を養うための、すなわち国の内外でいかなる問題が起き、いかなる課題に直面しているか、そしてそれにどう向き合っていくかを考察していきます。演習での報告テーマについては、主に教員からジャンルやイシューについて提示していきますが、演習参加者の希望なども取り入れたいと思います。報告に際しては、事前の学習が必要なのは言うまでもありませんが、事後についても演習で得られたコメントや質問を参考に、さらに報告内容をブラッシュアップしてもらいたいと思っています。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (ディスカッションへの参加などの学習姿勢60%およびプレゼンテーションの内容40%) により評価します。																		
学生へのメッセージ	国内外の政治や社会の動き (時事問題) に関心がある人に向いているゼミです。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間でさらに上乗せが必要です。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名(英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	家庭・学校・地域に関わる身近な社会問題について、「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という視点を大事にして、演習生全員で真剣に議論をする。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という感情移入の姿勢を身につけ、②「人それぞれ」では済ませず、価値観が異なる人と「どう折り合いをつけるのか」考えて議論できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	まちづくりや企業研修などで使われる「ワークショップ」の手法を体験してもらるように進める。演習生みんなで意見を出し、作業をし、議論をするので、能動的な参加が求められる。		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	多くの人が関わる、少なくとも身近で見聞きする社会問題を取り上げて議論をする。ひとつのテーマを4回ほどで検討し、議論し、演習としての結論を出すのに、みんなで努力する。テーマは演習生と相談して決めるが、家庭では「家事・育児・介護の男女間負担差」「夫婦別姓」「不妊治療」、学校では「学級崩壊」「いじめ」「部活動」、地域では「子どもの深夜徘徊」「性犯罪の防止」「ゴミ屋敷や空き家の問題」などを考えている。議論のための下調べなどの準備が必須になる。		
関連科目	専門演習、卒業研究。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	演習時限の全出席を前提とする。ワークショップへの貢献度(50%)、ワークショップの成果物(50%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼准教授室		
備考	ワークショップの下調べに各回1時間ほどが必要になる。 議論の推移と結果を整理して全員で共有する。		

科目名	ブレ専門演習	科目名(英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JJJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習に入る前の導入となります。しかし専門演習に継続するわけではないので15回で一つの区切りとなるような内容となります。			
到達目標	この講義を通じて学生には、とにかく、議論における発言するという力を身につけられるようになることが期待される。			
授業方法と留意点	出席は前提です。ディベートの中での発言が必須です。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ビデオ、文献などをきっかけとして議論してもらいます。文献は事前に渡すこととなりますので読んできてもらいます。発言の振り返りもしてもらいます。			
関連科目	法学部開講科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	出席を前提として、発言回数・内容(60%)、振り返りペーパー(40%)で評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室			
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むこととなります(30分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。			

科目名	プレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「プレ専門演習」は、2年次後期からはじまる「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、および4年次の「卒業研究」につながる演習である。したがって、この分野についての興味を高め、2年半かけて深く学ぶための準備を行うことが本演習の目的である。			
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動に関する諸問題を検討し関連する知見を身につけることが期待される。			
授業方法と留意点	スポーツの諸問題について資料や判例をもとに検討を加え、レポートを作成し、そのプレゼンテーションを行うとともに、取り上げられたテーマについてディスカッションすることが授業の中心である。したがって、事前準備を十分に行ったうえで参加することが留意点となる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業テーマ：「スポーツ活動にかかわる諸問題を資料や判例から検討する」</li> <li>・方法と内容：演習形式。スポーツに関する判例の検討、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。</li> <li>・授業の都度指示する課題に対する予習と復習</li> </ul>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加を前提とし、各回の取り組み (与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言等 30%) で評価する。			
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室			
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。			

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	新聞やインターネットなどから得られる刑事事件に関する記事や専門文献、判例などを使いながら、刑事法についての理解を深めていく。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する基礎的な知識を修得するとともに、議論やプレゼンテーションをする力を身につけることが期待される。																		
授業方法と留意点	プレゼンテーションやディベートといったような受講生が能動的に学習できる方法を用いながら授業を行っていく予定である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	オーソドックスなところでいえば、毎回担当を決め、レジュメやPowerPointを使って各々興味のあるテーマについてプレゼンテーションをしてもらい、その後、全体で討議をするといったかたちになるが、なにしろ半期15コマしかないことから、なにをどのようにやっていくかは受講生と相談して決めていく予定。 したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになるが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ30分程度は要することになるかと思われる。																		
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ディベートやプレゼンテーションなどの内容 (50%)、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度 (50%)。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	<p>私たちは普段、様々な事柄に対して自分なりの意見をもっています。こうした意見は、他の人と類似のものとなることもあれば、正反対と言ってもいいものになることもあります。そもそも1つのことに対して多種多様な意見が存在することや、自分のものを含みそれらの意見がどのような過程を経て形成されるのかを、特別に意識することはあまりないと思います。しかし、ちょっとした意見の食い違いが大きな問題に発展するということが往々にして起こります。したがって、自分の意見がいったいどんなふうにも他の人に受け取られるのか、また他の人の意見の趣旨がどのようなものなのかを理解する、または理解するよう努めることは重要です。</p> <p>そこで、このゼミでは、特定のトピックについて調べるなどして自分の意見がある程度固めたうえで、ゼミ生の皆さんで話し合うことを通じて、ご自分の意見をもつための材料を収集する術を学んだり、ご自分の意見を見つめ直したりすることの重要性に気付いていただきたく思っています。</p>																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、ご自分の意見を形成してそれをよりの確に表現し、他の人の意見を理解するための基礎体力を得ることが期待されます。																		
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分が混在することになります。ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>あることについて自分の意見を形づくるためには、そもそもその対象となる事柄についてある程度の知識を得る必要が出てきます。したがって、学生の皆さんには、一定のテーマについて調べていただいたり、それについて発表していただいたりして、ご自分の意見をもつ過程をしっかりと感じていただくことにしたいと考えています。</p> <p>ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでおくべき資料をお渡ししたり、課題を課すことがありますので、各自、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ中の受講姿勢や議論の内容 (70%)、課題・提出物 (30%) を評価の対象としますので、出席は必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。																		
学生へのメッセージ	このゼミで、向上心をもって、自ら行動する力をつけていただくきっかけにいただければと思います。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20時間																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	民法・消費者法に関わる身近な事例について議論します。 ゼミでは、民法の基本を学ぶと同時に、法を学ぶ上で重要となる、説得力のある議論の立て方についても、実践的に指導します。		
到達目標	この授業を通じて学生には、民法の基本を理解すること、議論の基礎を習得することを期待します。		
授業方法と留意点	法律討論会形式で行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	2回開催される法律討論会に向け、必要な準備を行います。 目安として、毎回の授業につき、事前・事後の学習時間として、最低 60 分程度を考えていますが、準備作業の進行状況に応じ、必要時間が異なるのは当然です。グループ毎の作業になりますので、グループの皆に迷惑をかけないよう、最低限、自分の役割はきちんと果たすようにしましょう。		
関連科目	民法・消費者法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業に望む姿勢 (70%)、及び討論会当日の完成度 (30%) を総合評価します。 なお、無断欠席・遅刻には厳しく対応します。注意して下さい。		
学生へのメッセージ	民法の基礎を、実践の場で確かなものにするチャンスです。 人前で話すのが苦手、という人も大丈夫。現在の学力も問いません。 積極的な参加を期待します。		
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室		
備考	討論会に向け、授業内で準備が終わらない場合には、授業時間外にも時間を作り、グループで集まる等して、準備を進めることになります。 時間が合わない場合も、LINEやメールを活用する等して、参加して下さい。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	<p>・指導方針</p> <p>1 このブレ専門演習は、2年次後期の「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。</p> <p>2 そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。</p> <p>3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。</p> <p>4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。</p>																
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 刑法の論点を抽出できる</li> <li>・ 論点に対する判例や裁判例を調査できる</li> <li>・ 論点に対する学説を調査できる</li> <li>・ 論点に対して私見を展開できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ内容 この演習では、刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討〉、刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論〉）、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。</li> <li>・授業内容 刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 個別テーマの報告</li> <li>・授業時間以外での活動 学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。</li> </ul>																
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	※開講時に指示する																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点（第3版）</td> <td>西田＝山口＝佐伯ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例ブラクティス刑法Ⅰ</td> <td>成瀬＝安田ほか</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例ブラクティス刑法Ⅱ</td> <td>成瀬＝安田ほか</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯ほか	有斐閣	2	判例ブラクティス刑法Ⅰ	成瀬＝安田ほか	信山社	3	判例ブラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田ほか	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯ほか	有斐閣														
2	判例ブラクティス刑法Ⅰ	成瀬＝安田ほか	信山社														
3	判例ブラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田ほか	信山社														
評価方法（基準）	<p>評価方法 プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。</p> <p>以下の点をとくに重視します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①発表時に問題提起を適切に行っているか（発表姿勢）。</li> <li>②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習）。</li> <li>③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性）。</li> </ol>																
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																
担当者の研究室等	11号館10階 小野准教授室																
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	<p>当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。</p>																
到達目標	<p>ブレ専門演習では、法律全般について広く学んだ基礎演習とは異なり、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待されます。また、これからともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。</p> <p>後半は、2・3名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発表するプレゼンテーションスキルや、研究内容に関して討論するディスカッション・コミュニケーションスキルを磨くことが期待されます。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2, 3人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1学期内に、各グループとも、2, 3回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い化学反応が生じることを期待している。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合っ発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。</p> <p>発表形式は、次の2つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う：</p> <p>1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したものの、2点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。</p> <p>2. コミュニケーション技能重視型： 3人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法の見解を述べる。1審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、本人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。</p> <p>予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料や配布レジメを作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。</p> <p>また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。</p> <p>事前・事後学習の時間は、それぞれ30分を想定しています。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取り組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。</p>																
学生へのメッセージ	<p>最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。</p>																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	<p>判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。</p> <p>また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。</p>																

科目名	プレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、ディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込み、その内容を理解できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	2年前期の予定としては、①学生によるテーマセッティングに基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、3年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。判例の入手方法、レジユメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	成績は、演習で出される課題に対して、情報等を準備しているかどうか及びそのためのグループ活動に積極的に参加しているかどうか (30%)、並びに、その課題の報告等に対して、どのような役割を演じているのか及び質疑応答等において積極的に対応しているかどうか (70%)、で判断を行う。																		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指しています。																		
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。予習内容としては、演習で与えられる課題をグループとして演習外でも準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。復習として、課題に対する報告内容に対して、教員より応用的課題を与えるので、それに対して90分を基準として行う必要があります。																		

科目名	プレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	このプレゼミの目標は、宅建の試験対策を通じて「勉強する習慣」を身につけることです。しっかり教科書を読んで基本事項の暗記に努め、次に過去問を解いて自分の苦手箇所を把握し、最後に再び教科書に戻って復習する。その繰り返しの中で少しずつ知識が定着していきます。このプレゼミではそういう勉強法が身につくような指導をしたいと思います。		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、宅建合格に必要な実践的な法的知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。		
授業方法と留意点	まずは宅建のテキストを全員で講読し、過去問を解きます。事前の予習がゼミ参加の前提となります。もちろん事後の復習は必須です。過去問演習のなかで興味をもった法制度や判例などについて、グループで報告してもらいます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎時間、範囲を決めて全員で宅建のテキストを講読し、該当箇所の過去問を解いていきます。毎回それなりの予習と復習を求めるので、このゼミを希望する学生はそのつもりでいてください(プレゼミ終了後になってしまいますが、ぜひ10月中旬の宅建士の試験も受けてください)。また、宅建対策で得た知識を使ってディベートやディスカッションも行う予定です。加えて、グループワークを通じて、関連する判例を調査・報告してもらうことになります。		
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	スッキリわかる宅建士 テキスト+過去問スーパーベスト 2019年度	中村喜久夫 TAC 出版
	2	スッキリとける宅建士 過去問コンプリート 12 2019年度	中村喜久夫 TAC 出版
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	民法入門 第7版	川井健 有斐閣
	2	都市法概説 第3版	安本典夫 法律文化社
	3		
評価方法(基準)	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストや発表(プレゼン)などへの取り組み70%と、ゼミ中での発言(ディスカッション・ディベートなど)30%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。		
学生へのメッセージ	ゼミは学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事(コンパや合宿など)も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。		
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室		
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります(これらの事前学習に60分以上)。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください(事後学習60分以上)。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「自治体政策への提言」をテーマとする。特定の社会問題に対する政策立案という体験を通して、地方自治についての理解を深め、調査・研究方法の基礎を身につけてもらう。4~5人程度のグループを作り、政策提言をしてもらう。取り上げるテーマはグループごとに決定する。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、社会問題を認識し、原因を分析した上で、適切な政策を立案し、それを分かりやすく人に伝えることができることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 問題発見 取り上げるテーマを見つけるため、報道や雑誌・書籍などを頼りに、社会問題を見つける。社会問題について、その背景と現状を明らかにする。</p> <p>2. 問題分析 取り上げたテーマについて、問題発生の原因を明らかにする。その際、文献調査を行った上で、現地調査やインタビュー調査を実施する。</p> <p>3. 政策立案 原因を踏まえた上で、その解決のための政策を立案する。複数の案を立てた上で、メリット・デメリットを比較し、最適な政策パッケージを提案する。</p> <p>4. 政策提言 立案した政策をプレゼンテーションする。</p>																		
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自治体政策への提言：学生参加の意義と現実</td> <td>今川晃</td> <td>北樹出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%																		
学生へのメッセージ	夏休みに開催される、「全国大学政策フォーラム in 登別」での入賞を目標にします。まずは、政策立案の楽しさを体験してみてください。																		
担当者の研究室等	11号館 10階 増田講師室																		
備考	事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う (2時間)																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習 I でどの領域に進んでもいいように、政治問題・社会問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題・社会問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題・社会問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕方を修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題・社会問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業テーマ・内容</li> </ul> <p>政治問題・社会問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。</p> <p>どの学問領域に進んでもいいように学問的基礎を固め、自分が関心のある問題の領域を定めることができるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法</li> </ul> <p>学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題・社会問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前、事後学習課題</li> </ul> <p>事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>																		
関連科目	専門演習 I																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業でのグループディスカッション (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ	この時期に自分が関心のある学問領域を定めてどの専門演習に進みたいかを決定し、その領域に関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																		
担当者の研究室等	11号館 10階 和田講師室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法体系の中で労働法がどのような地位を占めているのか、それは民法に代表される一般市民法と比べてどのような性格を持っているのかについて、基礎的な理解を得るようにします。また、実際に言い渡された判決例、報道された事件を検討することにより法が社会においてどのような機能を担っているのかについても検討します。		
到達目標	この授業を通じて学生には、労働者、使用者、労働契約といった基本的概念と労働法の概要を理解するとともに、法学研究の方法を身につけ、今後の専門演習に向けての自らテーマを選定する契機とすることが期待されます。		
授業方法と留意点	基礎的な事項については講義をしますが、具体的な事例によりながら学生からする報告及び議論を期待しています。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的な事項は講義形式で行うとともに、具体的な事例を時事問題や裁判例から選定し、これについてゼミ生相互の議論を重ねる中で、法的な解決といわれるものの仕組みを理解できるようにします。講義に関しては予めテーマを定めるので、事前に1時間程度関連科目の教科書等の該当箇所を確認するとともに、事後にも配布資料等の確認をしてください (同時程度)。報告については受講者の希望を考慮して事例を選定しますが、特に報告者は十分な準備が必要です。 題材は一応労働法関連のものを予定していますが、皆さんから希望があれば考慮します。		
関連科目	労働保護法、労働団合法、民法		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	原則として定期試験は行いません。課題発表の内容 (60%) と受講態度 (40%) により判定します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室		
備考			

科目名	ブレ専門演習	科目名(英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	21世紀は「環境の世紀」といわれています。今日、テレビや新聞、インターネットなどで「環境」という言葉を見聞きしない日はありません。ではどうして、現代社会において「環境」というワードがそこまで重要視されるのでしょうか。それは、環境が悪化すれば究極的には「文明社会の滅亡」という結果が待ち受けているからにほかなりません。「環境法・国際環境法」は、文明社会の滅亡を遅らせるための法律といわれることがあります。このゼミでは、環境破壊による文明社会の滅亡を遅らせるための方法論を共有します。																																																																		
到達目標	この演習を通じて学生には、2年次後期から開始される少人数形式の学生主体の専門演習(ゼミ)にスムーズに馴染めるよう、その基礎能力を培うことが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	ゼミとは学生による報告が主体の演習形式の授業のことです。この授業では、環境問題・国際環境問題について各自が興味・関心をもつテーマを見つけ、そのテーマについて法の視点から掘り下げて調べ、発表してもらいます。発表された内容については、聞く側の学生も交えて全員で討論していきます。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告のための準備時間は各自必要となります。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>環境問題を「環境法・国際環境法」のレンズを通して見つめる</td> <td>ゼミとは学生による報告が主体の演習形式の授業のことです。この授業では、環境問題・国際環境問題について各自が興味・関心をもつテーマを見つけ、そのテーマについて法の視点から掘り下げて調べ、発表してもらいます。発表された内容については、聞く側の学生も交えて全員で討論していきます。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告のための準備時間は各自必要となります。</td> <td>初回の授業で指示します。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	環境問題を「環境法・国際環境法」のレンズを通して見つめる	ゼミとは学生による報告が主体の演習形式の授業のことです。この授業では、環境問題・国際環境問題について各自が興味・関心をもつテーマを見つけ、そのテーマについて法の視点から掘り下げて調べ、発表してもらいます。発表された内容については、聞く側の学生も交えて全員で討論していきます。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告のための準備時間は各自必要となります。	初回の授業で指示します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	環境問題を「環境法・国際環境法」のレンズを通して見つめる	ゼミとは学生による報告が主体の演習形式の授業のことです。この授業では、環境問題・国際環境問題について各自が興味・関心をもつテーマを見つけ、そのテーマについて法の視点から掘り下げて調べ、発表してもらいます。発表された内容については、聞く側の学生も交えて全員で討論していきます。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告のための準備時間は各自必要となります。	初回の授業で指示します。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	国際法の基礎理論、国際社会と法、国際組織法、行政法、民法、憲法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	発表内容(50%)と、議論への参加態度(20%)、レポートの内容(30%)によって評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	学問はもともと自らの興味・関心に沿って行われるものです。学問の醍醐味は、自らが興味・関心をもつ問題を疑問を解消できたときに味わえる「何ものにも代えがたい喜び」にあります。このゼミで「何ものにも代えがたい喜び」を少しでも体感して欲しいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室																																																																		
備考	<p>◎レポートのフィードバックについて：本演習ではレポートの最終提出日までに、仮提出の機会を設けます。教員は、仮提出されたレポート・に、改善のためのアドバイスを付けて受講者に返却します。そのアドバイスをもとに受講者は自身のレポートの完成度を高め、最終レポートとして提出します。</p> <p>◎事前・事後の学習課題：本演習では、受講者全員に1回、報告してもらうことになります。したがって、受講者は発表のために資料の収集や研究調査を進める必要があります(準備時間は人によって異なるが10時間以上)。</p>																																																																		

科目名	ヘルスエクササイズの実論と実際	科目名(英文)	Theory and Practice of Health Exercise
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2116a0		

授業概要・目的	健康と運動との関わりについて、運動対象者に合わせたエクササイズの実論を理解し、実践を通して学んでいく。ウォーミングアップの意義や効果を含め、有酸素運動を中心に行い、スポーツ指導の実践に活かす。また、レクリエーション・スポーツを実践しながらルールを知り、楽しさを実感する。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヘルスエクササイズの実論と実技を身につけ、プログラム作成と実践指導ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技を中心に行うが、実践を通して理論について学ぶ。 参考資料は適宜配布する。 実技に際しては、運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	体操・ストレッチング①	動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
2	体操・ストレッチング②	筋コンディショニング、バランストレーニング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
3	ウォーキング・ジョギング①	効率の良い歩き方・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
4	ウォーキング・ジョギング②	歩行・走行測定	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
5	水泳・水中運動①	ウォーキングエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
6	水泳・水中運動②	ウォーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
7	エアロビックダンス①	基本姿勢・ステップ動作	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
8	エアロビックダンス②	プログラム構成・実践指導	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
9	軽スポーツ①	ドッチビー	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
10	軽スポーツ②	フライングディスク	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
11	軽スポーツ③	なわとび・レクリエーションゲーム	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
12	運動ゲーム①	ボール遊び	実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
13	運動ゲーム②	ドッチボール	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
14	運動ゲーム③	キックベースボール	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
15	運動ゲーム④	サッカーなど	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。

関連科目 スポーツプログラミング、スポーツトレーニングの基礎、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、フィットネストレーニングの実論と実際、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の実論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 単位取得条件は、技能及び平常態度、知的理解度などを総合して判断する。  
実技 30%、技能 30%、提出物 40%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 総合体育館1階 非常勤講師室

備考 レポートは評価をしたうえで返却します。  
事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。

科目名	法学概論	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	これから、4年間、法について学ぶに当たって必要と思われる基本的な知識について解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、法を学ぶうえで必要と思われる基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業方法：教科書は特に指定せず、担当者が作成したレジュメを使って授業を行う。なお、参考書については、下記に記載したもののほか、授業中に適宜紹介する。 留意点：場合によっては、各回の授業テーマの順番を入れ替えることがあるかもしれないので留意されたい。
科目学習の効果(資格)	今後、法学部の様々な専門科目を学ぶ上で必要となってくる基本的知識を修得することができる。また、法学検定や公務員試験などで必要な法に関する基礎知識を修得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、「法を学ぶ」ということについて、文献・参考書の紹介など	「法を学ぶ」ということについて、配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などを読んで自分なりに考えてみる(約1時間)
2	法を使う仕事について	法曹三者や公務員、警察官など、法を使う仕事について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
3	法とはなにか	法と他の社会規範との類似点、相違点などについて	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
4	法律の制定過程について	国会で法律が制定される過程について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
5	法の分類について①	憲法をはじめとする「基本六法」について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
6	法の分類について②	法源や成文法・不文法、公法・私法などといった法の分類方法について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
7	法の解釈について	文理解釈、反対解釈、類推解釈といったような法の解釈の仕方について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
8	法令の読み方①	条・項・号の意味や、本則や附則について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
9	法令の読み方②	及び、並びに、又は、若しくはといった用語の使用法について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
10	わが国の法制度について	わが国の法制度や裁判制度について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
11	司法への市民参加について	裁判員裁判や検察審査会などについて	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
12	リーガルリサーチについて	法に関する情報の収集方法について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
13	刑事判例の読み方	刑事事件の判例の読み方について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
14	民事判例の読み方	民事事件の判例の読み方について	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)
15	まとめ	これまで授業内容のまとめ、重要事項の確認	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと(約1時間)

関連科目	法に関するすべての科目。
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	条文の読み方	法制執務用語研究会	有斐閣
	2	判例の読み方	青木人志	有斐閣
	3	法律学小辞典(第5版)	高橋和之ほか編	有斐閣

評価方法(基準)	定期試験の成績で評価する(法学に関する基礎知識を修得しているかどうか:90%、法学学習に取り組む姿勢・意識:10%)。
----------	---

学生へのメッセージ	授業へは必ず出席し、遅刻しないこと。また、私語は厳禁とする。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
----------	---------------

備考	【重要】入学年度によっては、2年次までに本授業科目の単位を修得しない限り、3年次への進級ができなくなるので、学生においては十分注意されたい。 なお、授業中の疑問点については、授業の最後に質問を受け付ける時間を設けることで対応する。
----	--

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I は、主として、法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、そして、有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。</p> <p>法学基礎演習 I では、学部全体で実施している図書館の利用方法、文献の利用の仕方、研究倫理教育、環境教育、常翔歴史館の見学（後期実施の場合もある）などの他、法律を勉強していくうえで必要な基礎的知識として、「法律と言葉」を主なテーマとして検討します。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、法律の理解に最低限必要な知識としての「言葉」及び「法律用語」を理解していることを説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	学部共通行事以外では、「法律と言葉」の理解については問題を設定し、それを問答形式でディスカッションすることで進めます。双方向性を重視しますから、積極的な発言を求めます。この演習の成績評価とする課題レポートを最後に課します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部共通の図書館利用指導など</li> <li>2. フレッシュマンズ・スタディガイドを使った指導</li> <li>3. 研究倫理及び環境についての教育</li> <li>4. ITを使った法令・判例の入手方法の指導</li> <li>5. 六法の使い方、読み方の指導</li> <li>6. 法律を学ぶ基礎として必要な「法律と言葉」について問題とその検討             <ul style="list-style-type: none"> <li>2・3・4については、各1回程度</li> <li>5・6については、9回程度を使って行う。</li> </ul> </li> </ol> <p>共通行事以外については、特に、事後学習を重視して、各授業時間ごとに2時間程度の見直しをして下さい。</p>																		
関連科目	法学部で開講されている授業科目																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要な資料を配付します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要な資料を配付します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要な資料を配付します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	出席を重視するとともに、「討論参加」と「発言状況」(60%)及び「課題レポート」(40%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	ゼミで出会う人は、皆さんにとって大切な友人となるかもしれません。まずは、挨拶など声をかけることから始めて下さい。																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	課題レポートについては、後期の法学基礎演習 II 及び S H の時間を使ってコメントを添えてフィードバックします。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>新聞で報道されている法律の問題を題材にして、法律学の紹介を行います。</p>		
到達目標	この授業を通じて、学生は、大学で法学教育を学ぶために必要な基礎的な知識を習得できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>法学の基礎を習得できます。</p> <p>First Year Study Guide を用いて、大学で学ぶための最小限の知識を習得できます。</p> <p>新聞の記事などを読んで、様々な法律学の入門的な知識を習得できます。</p> <p>演習中に勉強したことを復習して、さらに、興味があることについては、図書館等を利用して、自主的に勉強してください。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習 I・II ともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。平常点 70% レポート 30%		
学生へのメッセージ	<p>演習には必ず、出席してください。</p> <p>演習中は、ポケット六法を携帯してください。</p> <p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 牛丸教授室		
備考	<p>「事前・事後学習は、合計 20 時間とって下さい。</p> <p>提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。</p>		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として 3 つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p>																		
到達目標	<p>まず、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるようにすることが第一です。法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。資料を読むことが多いと思いますが、見学、講演の聴講などもあります。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>大学の授業や学生生活について必要な知識やノウハウを身につける。講義ノートのとり方、レポートの書き方、図書館利用指導、パソコン指導など。</p>																		
関連科目	<p>特定の科目というより、社会への関心が大事。新聞を読み、ニュースに接すること。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>質疑応答・討論への参加など授業への真摯な態度、レポートの出来などにより評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習 I・II ともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。平常の授業態度 80%、レポート 20 パーセントの配分とします。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>知らないことは若さの特権です。いずれそれが恥となり、自らにとって不利な事態を招く可能性もあります。食欲に学び、経験し、そして息抜きをしましょう。</p> <p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>11 号館 10 階 牧田教授室</p>																		
備考	<p>レポートは評価した上で、キャリアルームで返却します。ゼミの課題については、テーマによっても異なりますが、最低でも週 3 時間以上 (実際には自分がわかるまで上限無制限になると思います) をかけて取り組むべきものです。日ごろから関心を持って、関連文献に目を通す地道な取り組みが必要です。</p>																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるように様々な支援をすることです。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること ②大学生活になじむこと ③大学4年間を計画的に過ごすための基礎を固めること																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回必ず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答やディスカッションの時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	本学共通教材の「first year study guide」を使用して大学生活を送るうえで知っておくべきことを学ぶほか、図書館利用指導などの共通プログラムがあります。また、当ゼミ独自では、「社会でおきていることに関心を持つ」というテーマで世論を二分しているような種々の社会問題について考えます。 授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。																		
関連科目	憲法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (50%)、レポート (20 点)、及び課題発表 (30%) によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と出席状況を重視します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小島教授室																		
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。重要なことは自ら学習する姿勢を身につけることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・I I の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談のり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、今後4年間にわたって爽りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、2年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席してディスカッションに参加することが重要です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときは、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	詳細は、第1回目の演習で説明しますが、概ね I では、大学での学業生活に慣れることを主眼に据えています。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(ディスカッションへの参加などの学習姿勢80%および課題提出20%)により評価します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	課題レポートは、その課題内容により、提出したその回あるいはその次の回に講評します。共通行事以外については、特に事後学習を重視して、各授業時間ごとに2時間程度の見直しをしてください。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	演習（ゼミ）は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論（ディスカッション）をしたり、発表（プレゼンテーション）をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで4年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。		
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う（ディスカッション）。同様に、発表を行う（プレゼンテーション）。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の地元の特色といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	課題の下調べに各回1時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。			
到達目標	この演習を通じて学生は、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。また、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作って行けるようになることが期待されます。			
授業方法と留意点	演習形式で行います。個人での作業だけでなくグループワークも行いますのでコミュニケーション能力を高める必要があります。プレゼンテーションも行ってもらいます。 基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中で決めていく部分も多くなります。			
関連科目	法学部開講科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席を前提として、当日演習中に作成する課題 (60%)、事後の課題 (40%) で評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室			
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むこととなります (30 分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います (60 分)。			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するというものです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を今後学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。</p> <p>内容・方法：演習 (決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う)</p> <p>事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (授業への取り組み 30%、課題 50%、プレゼンテーション 20%) により評価します。授業への出席を重視し、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																		
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。課題の解説については、次の回の授業で行う。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として 3 つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の 4 年間で意欲的にすごせば、みなさんもちろんそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後 4 年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。																
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	例年、Power point を用いたプレゼンテーションやディベートなどを行っていますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思いません。したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることとなりますが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになるかと思われます。なお、プレゼンテーションやディベートの後には講評をするかたちでフィードバックを行います。																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ディベートやプレゼンテーションなどへの取り組み (80%)、ディベートやプレゼンテーションなどの内容・出来 (20%)。ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室																
備考																	

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>これから法学部で4年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたって必須であり、役立つことです。</p> <p>したがってこのゼミでは、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学んでいただきたいと思います。</p>			
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。			
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分が混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>時事問題や最近話題になった法的問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定です。</p> <p>ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自（またはグループで）、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。</p>			
関連科目	法学基礎演習 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容 (75%)、提出された課題 (25%) を評価の対象としますので、出席はすべての回について必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。			
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。			
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室			
備考	<p>課題については、次の回で講評をおこないます。</p> <p>事前・事後学習に要する総時間数の目安：20時間</p>			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	原発問題を素材として、グループ単位で調査・研究を行います。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的知識を理解すること、論理的思考の基礎を身に付けること、議論の仕方の基礎を身に付けることを期待します。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本授業では、原発問題について検討します。事前事後の学習課題については、適宜指示します。グループワークが主となりますので、グループの皆に迷惑をかけないように、最低限、自分の役割だけはきちんと果たすようにしましょう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	基本的には、授業時の課題への取り組み方の評価 (70%)、およびグループで作成する最終レポートの評価 (30%) の合計点により判断します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、最終レポートとは別に、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館 10階 城内准教授室																		
備考	最終レポートの内容は、授業時の報告がベースとなります。授業時の教員コメント等を踏まえ、作成するようにして下さい。(なお、既に報告時にコメントしていますので、レポートに対し、改めてコメントはいたしません。個別評価を聞きたい人は、研究室に来て下さい。) 自分の担当するテーマについては、十分な報告ができるよう、必要な準備を行うのは当然です。事前・事後の学習は、目安として毎回1時間程度を想定していますが、完成しない場合は、完成するまでがんばってください。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として3つあります。</p> <p>(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと  (2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること  (3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、  ①図書館の利用方法  ②六法や法学参考文献の利用のしかた  ③法学専門講義の履修についての心構え  ④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)  ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。</p> <p>たとえば、  ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める  ②みなさんが関心をもっていることについて議論する  ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する  ④ディベートをおこなう  ⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。</p> <p>みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。</p> <p>たとえば、  ①公務員試験対策  ②税理士や裁判所職員などの法律専門職  ③就職への心構え  ④大学院進学  ⑤海外留学  など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>												
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。												
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は、プレゼンテーションやディスカッションを通じて積極的な発言を重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。</li> <li>・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。</li> <li>・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</li> </ul>												
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。												
関連科目	専門科目全般												
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2			
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1	※開講時に指示する。												
2													
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2			
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1	※開講時に指示する。												
2													
評価方法 (基準)	・ディスカッションへの参加度 (90%) と簡単なレポート (10%) によって評価する。												
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。</li> <li>・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。</li> <li>・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</li> </ul>												
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野准教授室												
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。</li> <li>・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。</li> </ul>												

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I のおもな授業内容として、(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの 3 点を上げることができます。</p> <p>個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。</p>																
到達目標	<p>大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思いますが、この演習を通じて学生には、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることが期待される。</p>																
授業方法と留意点	<p>演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、図書館利用案内等、法学部共通のプログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション並びにその準備としてのグループワーク、その題材に基づくディベートやディスカッションを中心に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。大学生活が始まったばかりで、色々分からないことや不安なことがあるかと思いますが、それらの不安を払拭してサポートすることを念頭に置いています。また、大学内に友人や知人が未だ少ない時期だと思います。そのため、ゼミ生同士がお互いを知り、今後 4 年間学生生活をともにする仲間を見つけられるように、自己紹介や、互いにコミュニケーションが図れるような機会を多く設ける予定です。</p> <p>演習の具体的な内容としては、パワーポイントを用いた自己紹介、パワーポイント・ワードの使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドバイス、簡単な法律に関する課題・レポートや発表を予定しています。</p> <p>予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。</p> <p>また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。</p> <p>事前・事後学習の時間は、それぞれ 30 分、プレゼンテーション前は 1 時間を想定しています。</p>																
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点 (60%)、プレゼンテーションやレポート (40%) で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。</p>																
学生へのメッセージ	<p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>																
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																
備考	<p>判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。</p> <p>また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。</p> <p>なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。</p>																

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。			
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。			
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。			
関連科目	法学部開講科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	成績は、ゼミにおける各学生の、ゼミへの取り組み (30%)、得られた知識に基づく報告 (30%)、得られた知見に基づく対応・行動 (30%)、個人的 PR (10%) の視点から、判断を行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことを期待しています。			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II のおもな授業内容として、(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの 3 点を上げることができます。</p> <p>個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、法律学の勉強に専念できる体制を整え、一刻も早く大学生活に慣れることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。時おり簡単な課題を出しますので、それを提出してください。具体的には毎年パワーポイントを用いた報告会を行っていますので、今年も皆さんにもそれに取り組んでもらうことになると思います。																		
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言 (ディスカッション・ディベート) 30%、レポートなどの提出物 30%、レジュメ・報告の出来 40% で成績評価を行います。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島講師室																		
備考	<p>パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。</p> <p>グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。</p>																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学・政治学に関わるテーマを設定し、グループごとに情報収集、発表、議論を行う。適切な情報の入手方法、分かりやすい発表資料の作り方、建設的な議論の仕方について学ぶ。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、多様な情報を基に自分の意見を形成し、他者との議論を通じて一段階上の結論を導くことができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 大学生活について、授業の進め方、情報機器の使い方、情報の入手方法などについてガイダンスを行う。</li> <li>2. テーマの設定 法学・政治学に関わるテーマをいくつか提示し、グループごとに取り組むテーマを選択する。</li> <li>3. 情報収集 図書館、インターネットなどを駆使して、テーマについての情報を集め、グループとしての結論を出す。</li> <li>4. プレゼンテーション グループごとに成果を発表し、質問や意見を出し合い、更に理解を深める。</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	到達目標の達成度 60%、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%																		
学生へのメッセージ	大学では、高校までとは勉強の仕方が 180 度変わります。正解のない問題に取り組む難しさと楽しさを感じてもらえればと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 増田講師室																		
備考	事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う (2 時間)																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。</p> <p>また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。</p>																		
到達目標	<p>この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。</p> <p>またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕方を修得することが期待されます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・授業テーマ・内容</p> <p>教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。</p> <p>・授業方法</p> <p>学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <p>・事前、事後学習課題</p> <p>事前学習…その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。          事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>																		
関連科目	法学基礎演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業でのグループディスカッション (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ	大学生生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。																		
担当者の研究室等	11号館 10階 和田講師室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として 3 つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の学習の基本的な方法と、法の理解に必要な知識としての法律用語を理解し、ものごとについての法的な見方の枠組みを身につけることが期待されます。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題を法的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに実践検討します。 なお、First Year Study Guide は基本的な資料となります。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	出席状況を含めた受講態度 (50%) 並びに随時課する報告、レポートの内容 (50%) により評価します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 川谷教授室																		
備考	授業においては受講生が興味を持ったニュースや社会事象について、その内容とそれについての自分の考えを報告してもらうことを考えています。テーマについて、事前の準備と事後の確認のため各 1 時間程度が必要です。報告についてはその場で受講者全員によるディスカッションを行い、レポートは評価を記入して次回講義で返却します。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として 3 つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項について学びます。</p>
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題についてそれを法的に議論理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をやるかについては、初回の授業で皆さんと話し合っ決めてみたいと思います。	初回の授業で指示します。
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目 法学部の専門科目のすべてにかかわります。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 発表内容 (50%) と、議論への参加態度 (20%)、レポートの内容 (30%) によって評価します。

学生へのメッセージ 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときは相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

担当者の研究室等 11 号館 10 階 鳥谷部特任講師室

備考 ◎レポートのフィードバックについて：本演習ではレポートの最終提出日までに、仮提出の機会を設けます。教員は、仮提出されたレポート・に、改善のためのアドバイスを付けて受講者に返却します。そのアドバイスをもとに受講者は自身のレポートの完成度を高め、最終レポートとして提出します。  
◎事前・事後の学習課題：本演習では、受講者全員に 1 回、報告してもらうことになります。したがって、受講者は発表のために資料の収集や研究調査を進める必要があります (準備時間は人によって異なるが 10 時間以上)。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅱは、前期の法学基礎演習Ⅰで学んだことを基礎として、さらに2年次以降の法学部での勉学のためのガイダンスを行うこと、法学部生として身につけるべき基本的能力を確認し、さらに学習意欲を高めること、その他、有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。</p> <p>法学基礎演習Ⅱでは、学部全体で実施している学習支援センター・裁判所などの見学の他、社会で議論される問題を題材として、賛成反対に分かれて討論することが中心となります。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、「最近起こった社会問題」をテーマとする討論を通して、培うべき「法的なものの考え方」を理解し説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	学部共通行事以外については、問題を提示して賛成・反対(自分の意見とは関係なく)に分かれてディベートをします。それぞれの立場をとる理由を事前に考えてディスカッションに臨んで下さい。最後に、課題レポートの提出を求めます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 学部共通の裁判所見学(刑事裁判の傍聴)、学習支援センターの体験学習、常陸歴史館の見学(前期実施の場合もある)</p> <p>2. 討論する問題の提示と提示された問題についての討論</p> <p>1については、3回程度</p> <p>2については、提示とやり方の説明を加えて1-2回程度</p> <p>提示した問題について、各授業時間ごとに2時間程度の事前の検討と見直しをして下さい。</p>																		
関連科目	法学部で開講されている授業科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要な資料を配付します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要な資料を配付します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要な資料を配付します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席を重視し、討論での「参加状況」と「発言の明確性」(60%)及び最後に提示する「課題レポート」(40%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	設定する問題に対して賛成・反対のどちらの立場でも発言ができるように、社会問題に関心を持ってください。新聞やテレビなどもチェックを忘れないで下さい!																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	課題レポートについては、SHの時間を使ってコメントを添えてフィードバックします。?																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。																		
到達目標	この演習を通じて学生は、大学で法学教育を受けるために必要な基礎的な知識を習得できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法学の基礎を習得します。 特に、2年以降に学ぶ法律学の基礎になる民法を中心に、判例の読み方とか、試験の答案の書き方などを勉強します。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席を重視し、平常点・レポートにより評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。平常点 70% レポート 30%																		
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席し、議論に加わるようにしてください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室																		
備考	「事前・事後学習の課題には合計20時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p>																		
到達目標	本格的な法学部の学びの導入として、易しい法学入門の文章に親しみ、法学に関心を持つようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。評価は日常の授業への取り組みの真摯さ(発言や討論への参加)、レポートの出来などで行います。前者が80%、後者が20%です。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	主として新聞記事を使い、現在の社会問題について考える。記事を読んで、その問題性について議論し、またレポートなどにまとめる。大阪地方裁判所で刑事裁判の傍聴もおこなう。																		
関連科目	法学関連科目、社会科学全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席を重視し、平常点により評価します(80~90%)。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します(10~20%)。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	大学生活にも慣れてきた頃です。誘惑にまげず、夢に向かって努力しましょう。法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																		
備考	レポートは評価した上で、キャリアルームで返却します。ゼミの課題については、テーマによっても異なりますが、事前に最低でも週3時間以上(実際には自分がわかるまで上限無制限になると思います)をかけて取り組むべきものです。日ごろから関心を持って、関連文献に目を通す地道な取り組みが必要です。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすることです。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学4年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回必ず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答やディスカッションの時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	裁判所見学などの法学部共通プログラムのほか、憲法制定の沿革や法令解釈の仕方などを学びます。また、当ゼミは「自分の言葉で説明してみよう」を中心テーマとして掲げ、皆さんに効果的なプレゼンテーションをするにはどうしたらよいかを考えてもらいます。資料は提供しますが、一方的なお話ではなく、他のゼミ生を参加させるように工夫してください。授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。																		
関連科目	憲法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(50%)、レポート(20点)、及び課題発表(30%)によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と出席状況を重視します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、皆さんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な友人となります。良好な関係を築いてください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各30分程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2)法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんな希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3)学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かく対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談のり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、2年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席してディスカッションに参加することが重要です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	詳細は、第1回目の演習で説明しますが、概ねⅡでは、法学部の演習形式による学習に慣れることを主眼に据えていきます。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(ディスカッションへの参加などの学習姿勢70%および課題提出30%)により評価します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	課題レポートは、報告してもらった後で講評します。 特に事後学習を重視して、各授業時間ごとに2時間程度の見直しをしてください。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	演習(ゼミ)は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論(ディスカッション)をしたり、発表(プレゼンテーション)をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで4年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。			
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。			
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う(ディスカッション)。同様に、発表を行う(プレゼンテーション)。			
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の小中高校生時代の経験といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室			
備考	課題の下調べに各回1時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。		
到達目標	この講義を通じて学生には、前期に引き続き大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培い、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作れるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。個別の学習だけでなくグループワークを用いて行いますのでコミュニケーション能力が必要となります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>まず</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が何を考えているのか</li> <li>・自分は何を話しているのか</li> <li>・他人が何を意図しているのか</li> <li>・他人が何を伝えようとしているのか</li> </ul> <p>を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。</p>		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むこととなります(30分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2)法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3)学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。																
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。</p> <p>内容・方法：演習(決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う)</p> <p>事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	平常点(授業に参加する態度30%・課題50%・プレゼンテーション20%)により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。																
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室																
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。課題の解説は次の回の授業で行う。																

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2)法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3)学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するというものです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	例年、Power point を用いたプレゼンテーションやディベートなどを行っています。詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思いません。したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることとなりますが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ30分程度は要することになるかと思われます。なお、プレゼンテーションやディベートの後には講評をするかたちでフィードバックを行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ディベートやプレゼンテーションなどへの取り組み(80%)、ディベートやプレゼンテーションなどの内容・出来(20%)。ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>これから法学部で4年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたって必須であり、役立つことです。</p> <p>したがってこのゼミでは、法学基礎演習Ⅰに引き続き、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学ぶとともに、それらを他の人に伝えることを学んでいただきたいと思います。</p>		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分が混在することになります。ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、時事問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定ですが、前期に比べて、1つのことをより掘り下げて理解する能力を身につけていただくことに重きを置くことを考えています。</p> <p>ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自またはグループで、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。</p>		
関連科目	法学基礎演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容(75%)、提出された課題(25%)を評価の対象としますので、出席はすべての回について必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。		
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室		
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習に要する総時間数の目安：20時間		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	原発問題を素材として、グループ単位で調査・研究を行います。		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的知識を理解すること、論理的思考の基礎を身に付けること、議論の仕方の基礎を身に付けることを期待します。		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本授業では、原発問題について検討します。事前事後の学習課題については、適宜指示します。グループワークが主となりますので、グループの皆に迷惑をかけないように、最低限、自分の役割だけはきちんと果たすようにしましょう。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	基本的には、授業時の課題への取り組み方の評価(70%)、およびグループで作成する最終レポートの評価(30%)の合計点により判断します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、最終レポートとは別に、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。		
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室		
備考	最終レポートの内容は、授業時の報告がベースとなります。授業時の教員コメント等を踏まえ、作成するようにして下さい。(なお、既に報告時にコメントしていますので、レポートに対し、改めてコメントはいたしません。個別評価を聞きたい人は、研究室に来て下さい。)自分の担当するテーマについては、十分な報告ができるよう、必要な準備を行うのは当然です。事前・事後の学習は、目安として毎回1時間程度を想定していますが、完成しない場合は、完成するまでがんばってください。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。</p> <p>(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと  (2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること  (3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、  ①図書館の利用方法  ②六法や法学参考文献の利用のしかた  ③法学専門講義の履修についての心構え  ④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)  ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。</p> <p>たとえば、  ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める  ②みなさんが関心をもっていることについて議論する  ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する  ④ディベートをおこなう  ⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。</p> <p>みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かく対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。</p> <p>たとえば、  ①公務員試験対策  ②税理士や裁判所職員などの法律専門職  ③就職への心構え  ④大学院進学  ⑤海外留学  など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は、プレゼンテーションやディスカッションを通じて積極的な発言を重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。</li> <li>・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。</li> <li>・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。																
関連科目	専門科目全般																
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	※開講時に指示する。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	※開講時に指示する。																
2																	
評価方法(基準)	・ディスカッションへの参加度(90%)と簡単なレポート(10%)によって評価する。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。</li> <li>・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。</li> <li>・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</li> </ul>																
担当者の研究室等	11号館10階 小野准教授室																
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。</li> <li>・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。</li> </ul>																

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅱのおもな授業内容として、(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。</p> <p>個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。</p>		
到達目標	<p>法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身に着けることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱを通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待されます。具体的に、学生には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することが期待されます。</p>		
授業方法と留意点	<p>演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、大阪地方裁判所における裁判所見学、学習支援センター見学、SMART-SPI説明会等の法学部共通プログラムのほか、教名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション及びその準備であるグループワーク、その題材に基づくディベートやディスカッションを中心に行います。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>後期は、より詳細なレポートの書き方やプレゼンの仕方(レジュメやパワーポイントの作り方など)を、みんなで身につけていきます。裁判所見学やスマートSPIの講習会等も予定されています。裁判所見学で得た知識・感想のレポートやプレゼンテーション、そしてグループでの発表など課題をいくつか出しますので、みんなで協力しながら頑張りましょう。</p> <p>予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。</p> <p>また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。</p> <p>事前・事後学習の時間は、それぞれ30分、プレゼンテーション前に1時間を想定しています。</p>		
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	<p>演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点(60%)、プレゼンテーションやレポート(40%)で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。</p>		
学生へのメッセージ	<p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>		
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室		
備考	<p>判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。</p> <p>また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。</p>		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します		
到達目標	前期に引き続き、この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	成績は、ゼミにおける各学生の、ゼミへの取り組み(30%)、得られた知識に基づく報告(30%)、得られた知見に基づく対応・行動(30%)、個人的PR(10%)の視点から、判断を行う。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことを期待しています。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。</p> <p>個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。</p>			
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待される。具体的には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。</p>			
授業方法と留意点	<p>演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</p>			
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>後期はおもに次の二つの活動を行う予定です。いずれも事前・事後の学習が必要となります。</p> <p>①裁判所見学に向けて、裁判所の仕組みや判例の読み方などをみんなで学習します。また、裁判所見学終了後にレポート課題を出しますので、そのための基本的な知識(基本的なレポートの書き方や参考文献の探し方など)を習得します。</p> <p>②憲法あるいは民法の教科書や判例集を全員で購読します。具体的には該当箇所をグループで報告してもらい、それに基づいてディスカッションを行います。課題図書は全員で話し合っ決めての予定ですが、必ず1冊読み終えることを目標とします。</p>			
関連科目	法学部のすべての科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言(ディスカッション・ディベート)30%、レポートなどの提出物30%、レジュメ・報告の出来40%で成績評価を行います。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。</p>			
学生へのメッセージ	<p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	<p>パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに60分程度、またゼミで学習したことの振り返りに60分程度が必要となります。</p> <p>グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。</p>			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学基礎演習Ⅰで学んだことを基盤に、批判的読書の方法と、優れたレポートの作成法を学ぶ。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、文献を活用しながら、自分の考えを自分の言葉で、論理的な文章にまとめることができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせる授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. レポート作成法概論 優れたレポートを作成するための文献調査の方法と、論理的な文章の書き方について学ぶ。</p> <p>2. 文献調査 個別に設定したテーマに関連する文献を読み、文献調査メモを作成する。</p> <p>3. プレゼンテーション 文献の要約と疑問点を発表し、議論を行う。</p> <p>4. レポート作成 これまで学んだことを生かして、実際にレポートを作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	レポート60%、実習課題20%、積極的発言10%、プレゼンテーション10%																		
学生へのメッセージ	参考文献を引き写すだけでは良いレポートになりません。情報を上手く消化して、自分の言葉で表現する力を身につけてほしいと思います。																		
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																		
備考	事前・事後学習課題 選んだテーマについての情報収集を行う(2時間)																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。</p> <p>また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。</p>		
到達目標	<p>この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。</p> <p>またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕方を修得することが期待されます。</p>		
授業方法と留意点	<p>ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。</p> <p>・授業テーマ・内容</p> <p>教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。</p> <p>・授業方法</p> <p>学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、望ましい解決策について他者と討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <p>・事前、事後学習課題</p> <p>事前学習…その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>		
関連科目	法学基礎演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業でのグループディスカッション (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価します。		
学生へのメッセージ	大学生生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。		
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の学習の基本的な方法と、法の理解に必要な知識としての法律用語を理解し、ものごとについての法的な見方の枠組みを身につけることが期待されます。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題を法的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに実践検討します。 なお、First Year Study Guide は基本的な資料となります。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席状況を含めた受講態度(50%)並びに随時課する報告、レポートの内容(50%)により評価します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 川谷教授室																		
備考	授業においては受講生が興味を持ったニュースや社会事象について、その内容とそれについての自分の考えを報告してもらうことを考えています。テーマについて、事前の準備と事後の確認のため各1時間程度が必要です。報告についてはその場で受講者全員によるディスカッションを行い、レポートは評価を記入して次回講義で返却します。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。																																																																		
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。</td> <td>図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題についてそれを法律的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をやるかについては、初回の授業で皆さんと話し合っ決めてたいと思います。</td> <td>初回の授業で指示します。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題についてそれを法律的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をやるかについては、初回の授業で皆さんと話し合っ決めてたいと思います。	初回の授業で指示します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題についてそれを法律的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をやるかについては、初回の授業で皆さんと話し合っ決めてたいと思います。	初回の授業で指示します。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	発表内容(50%)と、議論への参加態度(20%)、レポートの内容(30%)によって評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、みなさんの学生生活にとって大切な友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、学生生活が実り多きものとなることを願っています。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室																																																																		
備考	<p>◎レポートのフィードバックについて：本演習ではレポートの最終提出日までに、仮提出の機会を設けます。教員は、仮提出されたレポート・に、改善のためのアドバイスを付けて受講者に返却します。そのアドバイスをもちに受講者は自身のレポートの完成度を高め、最終レポートとして提出します。</p> <p>◎事前・事後の学習課題：本演習では、受講者全員に1回、報告してもらうことになります。したがって、受講者は発表のために資料の収集や研究調査を進める必要があります(準備時間は人によって異なるが10時間以上)。</p>																																																																		

科目名	法思想史	科目名(英文)	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から19世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見えていきます(20世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います)。個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性——いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア——を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメ(パワポ)にしたがって行います。
科目学習の効果(資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文(未修者コース)のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは?	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、事前に配布したプリントの該当箇所を読んでください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも所要時間120分)。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ダイケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要を学習します。	【キーワード】ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のアイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】12表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる12世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アキナスの法思想を解説します。	【キーワード】12世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】ルネサンス(再生)、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派(ビトリアとスアレス)
9	近代イギリスの法思想①	第9回から第11回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホブズの自然法(特に第1~第3の自然法の内容)
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムも簡単に紹介します。	【キーワード】ロックの自然法、固有権(プロパティ)、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説し	【キーワード】『不平等起源論』、一般意志(特にその問題点)、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響、モンテスキューの権力分立論

			ます。																	
	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判																
	13	近代ドイツの法思想②	19世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道りを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学																
	14	近代ドイツの法思想③	20世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には法哲学総論、同各論、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法思想史（有斐閣Sシリーズ）</td> <td>田中成明ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法思想の水脈</td> <td>森村進編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>増補新版 法とは何か 法思想史入門</td> <td>長谷部恭男</td> <td>河出書房新社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣Sシリーズ）	田中成明ほか	有斐閣	2	法思想の水脈	森村進編	法律文化社	3	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣Sシリーズ）	田中成明ほか	有斐閣																	
2	法思想の水脈	森村進編	法律文化社																	
3	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社																	
評価方法（基準）	定期試験の成績55%と毎回の提出物45%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。																			
学生へのメッセージ	この法思想史の講義では、法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。																			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室																			
備考	毎回の提出物（課題）については、次の回の授業の最初に解説します。  受講者が極端に少ない場合（目安としては20名以下の場合）、ゼミ形式の講義とする可能性があります。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。																			

科目名	法思想史	科目名(英文)	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2004a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から19世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見えていきます(20世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います)。個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性——いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア——を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメ(パワポ)にしたがって行います。
科目学習の効果(資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文(未修者コース)のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは?	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、事前に配布したプリントの該当箇所を読んでください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも所要時間120分)。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要を学習します。	【キーワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のアイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】 12表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる12世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アキナスの法思想を解説します。	【キーワード】 12世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】 ルネサンス(再生)、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派(ビトリアとスアレス)
9	近代イギリスの法思想①	第9回から第11回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】 ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホブズの自然法(特に第1~第3の自然法の内容)
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムも簡単に紹介します。	【キーワード】 ロックの自然法、固有権(プロパティ)、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説し	【キーワード】 『不平等起源論』、一般意志(特にその問題点)、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響、モンテスキューの権力分立論

			ます。																	
	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判																
	13	近代ドイツの法思想②	19世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道りを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学																
	14	近代ドイツの法思想③	20世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には法哲学総論、同各論、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法思想史（有斐閣Sシリーズ）</td> <td>田中成明ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法思想の水脈</td> <td>森村進編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>増補新版 法とは何か 法思想史入門</td> <td>長谷部恭男</td> <td>河出書房新社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣Sシリーズ）	田中成明ほか	有斐閣	2	法思想の水脈	森村進編	法律文化社	3	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣Sシリーズ）	田中成明ほか	有斐閣																	
2	法思想の水脈	森村進編	法律文化社																	
3	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社																	
評価方法（基準）	定期試験の成績55%と毎回の提出物45%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。																			
学生へのメッセージ	この法思想史の講義では、法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。																			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室																			
備考	毎回の提出物（課題）については、次の回の授業の最初に解説します。  受講者が極端に少ない場合（目安としては20名以下の場合）、ゼミ形式の講義とする可能性があります。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。																			

科目名	法社会学	科目名(英文)	Sociology of Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3005a0		

授業概要・目的	実定法の学習が進み、条文の細かな知識が増えるにつれ、法学や現実の社会に対するさまざまな疑問が出てくるのではないのでしょうか？ 例えば、実社会は法律の条文どおりに動いているのだろうかとか、世の中のどれくらいの紛争が裁判所に持ち込まれているのだろうか等々。この授業では、実定法の学習だけでは見えてこないような社会と法のかかわりについて、さまざまな統計データや理論を用いて検討を加えていくことで、法社会学の基本的事項を学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、経験的社会科学の方法を用いて明らかにされる、現実社会で法が実際にどのように作動しているかを認識すること、その上で、法とその他の社会現象との関係、現実にある法とあるべき法との間をどのように埋めていくかといった問題を自分自身で考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、適宜配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果(資格)	可能なかぎり、実定法科目の理解を促進するような授業を行う予定です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法社会学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法社会学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法社会学の基本的な参考文献を紹介します。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。
2	法専門職① 裁判官	各国の法曹制度を比較しながら、日本の法曹の特色を説明していきます。まず最初に裁判官を取り上げ、彼らのおかれている状況を検討します。また、司法行政の実態については詳しく考察する予定です。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。授業を聞いて、裁判官に対する印象は変わりましたか？感想をまとめておいてください。
3	法専門職② 弁護士	前回の続き。日本の弁護士について考察します。はたして弁護士は市民にとって身近な存在なのでしょうか？さらに司法書士、弁理士、行政書士などの職業を取り上げ、その職務内容をあわせて説明します。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。授業を聞いて、弁護士に対する印象は変わりましたか？感想をまとめておいてください。
4	刑事事件と法① 日本の犯罪の現状	連日のように凶悪犯罪が報道され、日本の安全神話が崩壊しつつあります。しかし、本当に日本は犯罪の多い危険な社会なのでしょうか？また昔に比べ、本当に犯罪は凶悪化しているのでしょうか？	配布したレジュメを見直すこと(30分)。授業内容に関心を持った学生は、授業中に紹介した本を読み、その感想を書いてください。
5	刑事事件と法② 日本の刑事司法の現状	警察による捜査活動、検察官による起訴判断、裁判における量刑などを手がかりに、日本の刑事司法の現状とその問題点を学習します(法専門職としての検察官についてはこの回に解説します)。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。刑事訴訟法で学習したことと比較しながら、刑事司法の問題点を考えてみてください。
6	刑事事件と法③ 刑事弁護活動	刑事司法過程において、被疑者・被告人のために活動する弁護士が実際にどのようなことを行っているかを学習します。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。テレビでも映画でも書籍でも良いので、自分なりの弁護士像をイメージしておいてください。
7	民事紛争と法① 訴訟の要因	世の中のすべての紛争が裁判所に持ち込まれるわけではありません。いったい、人々はどのような場合に訴訟を検討し始め、逆にどのような場合に訴訟を回避しようとするのでしょうか？	配布したレジュメを見直すこと(30分)。友達や恋人とけんかしたとき、皆さんはどのように解決していますか？考えてみてください。
8	民事紛争と法② 紛争処理	交通事故などのトラブルを素材にして、紛争発生から紛争解決までのプロセスを学習します。またこの回の授業の中で、ADR(代替的紛争処理)についても解説します。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。皆さんが交通事故の被害者や加害者になった場合、どのように振舞いますか？考えてみてください。
9	民事紛争と法③ 現代型訴訟	公害訴訟や空港騒音訴訟に代表される「現代型訴訟」と呼ばれる訴訟の特徴について学習し、それらの訴訟が社会に与えたインパクトについて検討します。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。通常の民事訴訟と現代型訴訟が何が異なるのか、説明できるようになること。
10	前半の授業のまとめ	前半の授業のまとめとして、法律家や裁判の社会的機能やその限界について考察してみます(もし皆さんの方で詳しく知りたいトピックがあれば、そのテーマに基づいて講義を行う予定です)。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。第2回から第9回までの授業で、分りにくかったところをピックアップしておいてください。
11	法社会学の理論家たち	この回の授業では少し目先を変えて、法社会学の開拓者たちを紹介します。ウェーバー、エーデルリッヒ、パウンドらの問題意識を理解することで、法社会学という学問分野の成り立ちを学習します。また、最も重要な社会学者の一人であるニクラス・ルーマンを取り上げ、彼が構築したシステム理論の概要を解説し、彼の目から見た近代法システムの特色を学習します。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。図書館でウェーバーやエーデルリッヒ、ルーマンの入門書や著作を手にとってみてください。
12	日本社会と法	日本人は権利や義務の意識が希薄なの	配布したレジュメを見直すこと(30分)。比較的

			だるうか。あるいは、日本人は和を尊ぶ国民なので訴訟が嫌いなのだろうか。こうした日本の法文化に関する諸問題を、川島武宜の著作を手がかりに学習します。	安価なので、ぜひ一度、川島武宜「日本人の法意識」を読んでみてください。																
	13	男女雇用機会均等法	日本社会における法を個別法を通じて検討します。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。六法などで男女雇用機会均等法を軽く眺めておいてください。																
	14	離婚と法	離婚は、法律が規律する中でも最も感情が表れる分野の1つといえます。そこには、社会の変化や人々の意識の変化が現れているといえます。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。関連する家族法の分野を眺めておいてください。																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、社会において法が果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。これまでの授業で理解できなかったところを、ピックアップしておいてください。																
関連科目	憲法・民法・刑法の基本的知識があることが望ましいです。また隣接科目として、法哲学や法思想史など受講していただくとより理解が深まると思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	定期試験の成績70%と毎回の提出物30%によって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります（その場合はレポート70%、毎回の提出物30%で総合的に評価します）。																			
学生へのメッセージ	授業では具体的な事例を用いてできる限り分かりやすく説明するつもりですが、他方で、やや抽象的な理論も取り上げる予定です。授業で理解できないところが出てきたら、遠慮なく質問に来ていただければと思います。																			
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）																			
備考	学生の皆さんが興味を持ったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。毎回の提出物については、次回の授業で解説する。																			

科目名	法情報学	科目名(英文)	Law and Computer
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 次郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2084a0		

授業概要・目的	<p>授業概要：「法情報学」について、リテラシー的なアプローチから学ぶ。具体的には、法律にかかわる情報（法情報）の検索、収集、活用等（リーガル・リサーチ）の方法である。</p> <p>授業目的：民主主義の下では、法情報に自由にアクセスでき、これを活用できることが重要である。講義と演習を通じて、これらを体験する。</p>
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んだ社会人、市民として今日の高度情報化社会を支える知識の習得および判断力を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	演習形式（コンピューター使用）を主とし、適宜講義も行う。情報処理室を使用する予定であり、教室の収容人数との関係で受講制限をすることがあり得る。
科目学習の効果（資格）	とりわけ、法律を取り扱う職業（専門職はもちろんのこと、民間企業の法務担当や公務員等も含む）に就職する際には役立つであろう。また、高度情報化社会に生きる市民として、インターネットを使用した法情報の収集に関する基礎的知識が習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法情報学の概要と本講義の内容について。	特になし。
2	リーガル・リサーチの方法(1)	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶ。	教科書第1部(2～47ページ)に簡単に目を通しておく(30分～1時間)。
3	リーガル・リサーチの方法(2)	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第1部に簡単に目を通すとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる(1時間程度)。
4	法令を調べる(1)	法令の種類や資料の調査方法について学ぶ。	教科書第2部1～2(50～99ページ)に簡単に目を通しておく(30分～1時間)。
5	法令を調べる(2)	法令の種類や資料の調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第2部3～7(100～144ページ)に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる(1時間程度)。
6	判例を調べる(1)	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶ。	教科書第3部1～2(146～207ページ)に簡単に目を通しておく(1時間程度)。
7	判例を調べる(2)	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第3部3～4(208～239ページ)に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる(1時間程度)。
8	文献を調べる(1)	文献調査の基礎知識を学ぶ	教科書第4部1(242～290ページ)に簡単に目を通してくる(30分～1時間程度)。
9	文献を調べる(2)	文献調査の具体的な内容を学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第4部2～5(291～377ページ)に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる(1時間程度)。
10	中間テスト(レポート作成)	これまでの授業で扱った内容に基づく簡単な調査を行い、授業時間中にレポートを作成する。	これまでの授業内容をおさらいしておく(2時間程度)。
11	図書館におけるリーガル・リサーチ(図書館ツアー)	大学図書館において法令、判例、文献調査を行う方法について、実際に図書館に赴いて体験する。	特になし。
12	リーガルリサーチの実際(1)	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる(1時間程度)。
13	リーガルリサーチの実際(2)	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる(1時間程度)。
14	リーガルリサーチの実際(3)	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる(1時間程度)。
15	まとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直すとともに、期末レポートの説明を行う。	これまでの授業内容をおさらいしておく(1時間程度)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リーガル・リサーチ 第5版	いしかわまりこ他	日本評論社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法情報の調べ方入門 法の森のみちしるべ	ロー・ライブラリアン研究会編	日本図書館協会

評価方法(基準)	期末レポート80%、中間レポート(1回)20%の割合で評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	今日の情報化社会において、法学部でも、法情報(法に関する情報)の知識は不可欠となっています。また、法情報についての知識は、他の学問を学ぶ際にも非常に有益な情報を含んでいます。関心をもって積極的に受講して頂きたいと思っております。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師室
----------	-------------------

備考	<p>中間テストについては、事後の授業で解答例を示す。</p> <p>期末レポートについては講評を事後に示すとともに、評価の上返却する。</p> <p>授業時間外での質問は下記メールを使用すること tani-jiro アットマーク (アットマークには@を入れる) jLawyers.jp</p>
----	---

科目名	法人法概説	科目名(英文)	Corporation Law Outlined
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2032a0		

授業概要・目的	平成18年法律改正後の法人に関する事項一般及び会社法の基礎につき学習する。授業担当者は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、実生活や仕事で実際に役立つ知識や考え方を習得できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	講義をするが、十分な理解のためには予習と復習が不可欠である。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>法人とは何か・法人制度</td> <td>基礎概念を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旧社団法人と旧財団法人</td> <td>平成18年の制度改正前の民法上の法人</td> <td>法改正前の法人制度を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>一般社団法人と一般財団法人</td> <td>新制度における社団法人と財団法人</td> <td>社団とはなにか、財団とはなにかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>旧公益法人、法改正後の公益社団法人、公益財団法人</td> <td>旧制度と新制度の違い</td> <td>どのように法改正の前とアトでどのように変わったのかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>権利能力のない社団、財団</td> <td>権利能力のない社団とはどのようなものか</td> <td>権利能力が無いとはどのようなことかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>会社</td> <td>旧制度の会社の種類など</td> <td>法改正前の会社について知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>新会社法</td> <td>会社法の基本的なしくみⅠ</td> <td>新法の基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>会社法の基本的なしくみ</td> <td>会社法の基本的なしくみⅡ</td> <td>基本的な知識を学び見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>会社の機関</td> <td>期間について学習する</td> <td>基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>株主総会と株主の権利</td> <td>株主とはどのようなものか</td> <td>基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>取締役の地位と責任</td> <td>会社における取締役の地位、責任</td> <td>取締役とはどのようなものかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>株式と社債</td> <td>会社の株式とは、社債とは</td> <td>二つの特色、違いを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>会社の資本</td> <td>資本金とはどのようなものか。金額によってどのような違いが出てくるのか</td> <td>資本について知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>持分会社</td> <td>持分会社とはどのようなものか</td> <td>持分会社について知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>学生諸君からの質問を期待している。</td> <td>法人一般、会社について質問したいことを準備しておく(約1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	法人とは何か・法人制度	基礎概念を知り見直すこと(約1時間)	2	旧社団法人と旧財団法人	平成18年の制度改正前の民法上の法人	法改正前の法人制度を知り見直すこと(約1時間)	3	一般社団法人と一般財団法人	新制度における社団法人と財団法人	社団とはなにか、財団とはなにかを知り見直すこと(約1時間)	4	旧公益法人、法改正後の公益社団法人、公益財団法人	旧制度と新制度の違い	どのように法改正の前とアトでどのように変わったのかを知り見直すこと(約1時間)	5	権利能力のない社団、財団	権利能力のない社団とはどのようなものか	権利能力が無いとはどのようなことかを知り見直すこと(約1時間)	6	会社	旧制度の会社の種類など	法改正前の会社について知り見直すこと(約1時間)	7	新会社法	会社法の基本的なしくみⅠ	新法の基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)	8	会社法の基本的なしくみ	会社法の基本的なしくみⅡ	基本的な知識を学び見直すこと(約1時間)	9	会社の機関	期間について学習する	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)	10	株主総会と株主の権利	株主とはどのようなものか	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)	11	取締役の地位と責任	会社における取締役の地位、責任	取締役とはどのようなものかを知り見直すこと(約1時間)	12	株式と社債	会社の株式とは、社債とは	二つの特色、違いを知り見直すこと(約1時間)	13	会社の資本	資本金とはどのようなものか。金額によってどのような違いが出てくるのか	資本について知り見直すこと(約1時間)	14	持分会社	持分会社とはどのようなものか	持分会社について知り見直すこと(約1時間)	15	まとめ	学生諸君からの質問を期待している。	法人一般、会社について質問したいことを準備しておく(約1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	法人とは何か・法人制度	基礎概念を知り見直すこと(約1時間)																																																																
2	旧社団法人と旧財団法人	平成18年の制度改正前の民法上の法人	法改正前の法人制度を知り見直すこと(約1時間)																																																																
3	一般社団法人と一般財団法人	新制度における社団法人と財団法人	社団とはなにか、財団とはなにかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
4	旧公益法人、法改正後の公益社団法人、公益財団法人	旧制度と新制度の違い	どのように法改正の前とアトでどのように変わったのかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
5	権利能力のない社団、財団	権利能力のない社団とはどのようなものか	権利能力が無いとはどのようなことかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
6	会社	旧制度の会社の種類など	法改正前の会社について知り見直すこと(約1時間)																																																																
7	新会社法	会社法の基本的なしくみⅠ	新法の基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)																																																																
8	会社法の基本的なしくみ	会社法の基本的なしくみⅡ	基本的な知識を学び見直すこと(約1時間)																																																																
9	会社の機関	期間について学習する	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)																																																																
10	株主総会と株主の権利	株主とはどのようなものか	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)																																																																
11	取締役の地位と責任	会社における取締役の地位、責任	取締役とはどのようなものかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
12	株式と社債	会社の株式とは、社債とは	二つの特色、違いを知り見直すこと(約1時間)																																																																
13	会社の資本	資本金とはどのようなものか。金額によってどのような違いが出てくるのか	資本について知り見直すこと(約1時間)																																																																
14	持分会社	持分会社とはどのようなものか	持分会社について知り見直すこと(約1時間)																																																																
15	まとめ	学生諸君からの質問を期待している。	法人一般、会社について質問したいことを準備しておく(約1時間)																																																																
関連科目	民法、会社法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プライマリー会社法</td> <td>藤田勝利, 北村雅史</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プライマリー会社法	藤田勝利, 北村雅史	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プライマリー会社法	藤田勝利, 北村雅史	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(70%)と授業中に行う小テスト(30%)の結果による。																																																																		
学生へのメッセージ	自分から問題意識を持って参加することが大切である。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室																																																																		
備考	学生の理解度、授業の進行速度により、授業の順序や内容を変更することもある。教材フォルダにレジメを入れるが、社団法人、財団法人については教科書は特に指定しない。図書館などで何冊か読み比べ、自分が気に入ったものを選ぶことを勧める。小テストの解答はその回の授業で行う。																																																																		

科目名	法政キャリア特別講義 I	科目名 (英文)	Special Classes for Law and Politics I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見, 石井 信輝, 牛丸 與志夫, 高橋 剛, 松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ1125a0		

授業概要・目的	本講義は、将来のキャリア形成を視野に入れ、法学部生のキャリアとして身につけておかなければならないことを習得するために開設されている専門科目である「法政キャリア特別講義」の全体像と、2年生以降に各自が選択することになる4つのコースについて、総合的に案内することを目的とします。自分のキャリア形成にあった勉強をするにはどのようなことを意識して実践しなくてはならないのかを熟考する授業となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部で開講している専門科目、教養科目を中心として、どのような計画でどのような知識を習得していくべきなのか、自分自身で考えられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	複数の担当者が講義形式で行うのを原則とし、公務員試験や一般企業の就職試験問題を体験することも併せて行います。自らのキャリアデザインを確実にするために、すべての授業に出ること、15回の授業すべてが重要な評価対象です。なお、課題レポートは、第15回の「授業時間」に提示するので注意して下さい。
科目学習の効果 (資格)	法学部生が目指す法科大学院試験、国家・地方公務員試験、就職試験 (SPI試験)、そして法律関係の資格試験などの基礎的知識を知ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	総合ガイダンス	法政キャリア特別講義 (1年次から3年次) の全体と4コース制の概要	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
2	地域政策コースの紹介と特別講義①	地域政策コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
3	地域政策コースの紹介と特別講義②	地域政策コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
4	地域政策コースの紹介と特別講義③	地域政策コースとは③	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
5	地方公務員試験対策の実践	公務員試験の体験	授業での実践練習の復習 (約3時間)
6	スポーツ法政策コースの紹介と特別講義①	スポーツ法政策コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
7	スポーツ法政策コースの紹介と特別講義②	スポーツ法政策コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
8	企業法務コースの紹介と特別講義①	企業法務コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
9	企業法務コースの紹介と特別講義②	企業法務コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
10	企業法務コースの紹介と特別講義③	企業法務コースとは③宅建対策	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
11	企業法務コースの紹介と特別講義④	企業法務コースとは④宅建対策	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
12	一般企業就職対策の実践	就職試験の体験	授業での実践練習の復習 (約3時間)
13	法律学特修コースの紹介と特別講義①	法律学特修コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
14	法律学特修コースの紹介と特別講義②	法律学特修コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約1時間)
15	総括と課題レポート	まとめ 法学の基礎知識に関する小テスト 課題レポートの提示	全15回の授業で学んだことの整理と資料の見直し (約5時間)

関連科目 法政キャリア特別講義 II ~ VII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) ワークアカデミーの2回的小テスト (各10%)、第15回の授業で実施する小テスト (30%)、第15回に提出指示を出す「課題レポート」(50%) の成績結果を合計して評価します。

学生へのメッセージ 自分の希望する将来が、確実に実現できるようになるためにはどうすればいいのか、考えましょう。

担当者の研究室等 11号館10階 河原教授室

備考 事前・事後学習には、合計20時間はかけて下さい。  
課題レポートに関する質問については、成績表公布後に第15回講義を担当した教員 (牛丸) のチュードントアワーにて対応します。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2126a0		

授業概要・目的	本講義は、企業等に就職した後に求められる基本的な法律知識を修得することを目的とする。近年、企業における不祥事が多発し、従業員はもとより取引先や株主に対して大きな影響を及ぼしており、これまで以上にコンプライアンス(法令等遵守)が強く求められている。このような状況において、法務部門に関わる者だけでなく、企業に関わる者すべてが基本的な法律知識を修得していることが重要となっている。そこで、ビジネス実務法務検定3級の範囲を順次学習することにより、ビジネスパーソンに必要な基礎的な法律知識の修得を目的に講義を進める。
到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネス実務法務についての基本的な法律知識を理解し、ビジネス実務法務検定3級の合格レベルに到達できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、ビジネス実務法務検定試験3級程度の内容を理解することができるように講義を行う。したがって、ビジネス実務法務検定試験3級の公式テキストに従い講義を進める。ただし、ビジネス実務法務検定試験3級に合格するためには、各自の予習・復習が必要である。また、関連する民法・商法・会社法・労働法・独占禁止法・知的財産法なども積極的に履修することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務法務検定試験3級の問題に対処する基礎的な法律知識を養うことができる。また、同試験に合格すれば「ビジネス法務リーダー」の称号があたえられる。また、この検定を推奨したり、採用や社内評価の参考にする企業が増えているといわれる(東京商工会議所試験情報HP参照)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進行方法・評価方法の説明。ビジネスと法律の関わり、コンプライアンス。	レジュメを見返しておくこと。(約30分)
2	企業活動に関わる法律の基礎知識	近代私法の基本原則、財産権	教科書p.1~37を読んでおくこと。(約90分)
3	企業取引の法務(1)一契約一	契約の成立	教科書p.40~77を読んでおくこと。(約90分)
4	企業取引の法務(2)一契約成立後の法律関係一	債務不履行責任・担保責任・危険負担	教科書p.78~98を読んでおくこと。(約90分)
5	企業取引の法務(3)一売買以外の契約一	賃貸借契約・消費貸借契約・請負契約・委任契約・寄託契約	教科書p.99~126を読んでおくこと。(約90分)
6	ビジネス文章の保存・管理、契約によらない債権・債務の発生	ビジネス文書・契約書、不法行為・不当利得・事務管理	教科書p.127~167を読んでおくこと。(約90分)
7	債権の管理と回収	債権の管理と取引の決済一手形・小切手等一	教科書p.170~214を読んでおくこと。(約90分)
8	債権の担保	法定担保物権・約定担保物権・人的担保	教科書p.215~242を読んでおくこと。(約90分)
9	企業財産の管理	固定資産・流動資産の管理と法律、知的財産権	教科書p.244.~281を読んでおくこと。(約60分)(約90分)
10	企業活動に関する法規制	独占禁止法・消費者保護法・特定商取引法・製造物責任法	教科書p.284~319を読んでおくこと。(約90分)
11	企業と会社のしくみ(1)	法人と企業、会社の種類	教科書p.322~347を読んでおくこと。(約90分)
12	企業と会社のしくみ(2)	株式会社	教科書p.347~364を読んでおくこと。(約90分)
13	企業と従業員の関係	従業員と労働関係、男女雇用機会均等法、労働者派遣事業	教科書p.366~396を読んでおくこと。(約90分)
14	ビジネスに関連する家族法	夫婦間の法律関係、相続	教科書p.398~428を読んでおくこと。(約90分)
15	講義のまとめ	全範囲の復習	これまでの講義内容に関する教科書・レジュメを見直しておくこと。(約5時間)

関連科目 民法・商法・会社法・労働法・独占禁止法・知的財産法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務法務検定試験3級公式テキスト(2019年度版)	東京商工会議所編	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への出席状況・授業中の発言(30%および)授業内小テスト(70%)などを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定3級合格を目指し、意欲的に基礎的な法律知識を修得してほしい。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	確認テストについては、当該授業または次の授業で解説をする。授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲 秀樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2127a0		

授業概要・目的	この授業では将来、営業職や企画職、または総合職や事務職として、企業や公共団体などで活躍することを目指す学生に、ビジネスの基本要素であるヒト・モノ・カネの動きを簿記でどのように記録するのか、そして会社の成績表ともいえる決算書からどのような情報が得られるのか、を教授する。
到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネスの世界において、企業が事業活動を通じて利益を出すことがいかに重要であるのか、また利益追求を目的としない公共団体の財政の健全化とは何か、その事業活動がどのように決算書に数字として反映されるのかという点について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で、実際のビジネスの流れがわかるような説明を加えながら、実務上の出来事を、簿記ではどのように捉えるのかをわかりやすく説明する。演習的に簿記問題を解いて、理解度を確かめながら着実に知識が身につく講義を心掛けたい。
科目学習の効果(資格)	日商簿記3級合格程度の知識を獲得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	会社の成績表とは?	講義内容の復習(テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
	2	簿記とは何か?	簿記の目的と手続き	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
	3	仕訳と転記	簿記の基本的な記帳の仕方について	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
	4	期中のしとと決算しと	会計期間中の処理と、会計期間の締めとなる決算について	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
	5	現金・預金の取引	現金や預金の記帳について	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
	6	商品売とと掛取引	売上や仕入、売掛金や買掛金について	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
	7	手形の取引	手形の種類や手形の処理について	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
	8	有価証券の取引	有価証券の種類や売の処理について	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
	9	債権・債務の取引	債権・債務や経過勘定などの処理について	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
	10	固定資産の取引	固定資産の取得・売却と減価償却	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
	11	資本金と税金の処理	資本取引と法人税・消費税など	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
	12	収益と費用、伝票の処理	収益や費用の科目、伝票会計のしときなど	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
	13	決算のしとき1	決算整理の意味・しときについて	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
	14	決算のしとき2	費用・収益の繰延など	復習課題の実施(テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
	15	まとめと復習	まとめと練習問題	練習問題の復習(テキストの指示された問題を解くこと、約3時間)

関連科目	会社法を履修していることが望ましい。
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式日商簿記検定問題集3級三訂版	渡辺 正直他	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(毎回の確認テストの点数の累積、30%)と期末試験の点数(70%)の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	簿記のまったくの初心者や、数字が苦手な学生でも、ビジネスや実務に興味があれば歓迎する。学生の理解度によって講義内容を調整することもある。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
----------	-----------------

備考	講義毎回の確認テストの正解およびポイントは、その授業の中で解説し、学生の理解の定着に努める。
----	--

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3128a0		

授業概要・目的	この講義の目的は宅建(宅地建物取引士)資格に合格できる知識を習得することです。具体的には、過去問の問題演習を通じて、宅建試験対策を行います。 試験の内容は大きく分けて、①権利関係に関する分野、②宅建業法に関する分野、③法令上の制限に関する分野、④鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。皆さんの予習と復習を前提として、15回の講義ですべての分野をひと通り学習します。
到達目標	この講義を通じて学生には、宅地建物取引士試験に必要な法的知識を身につけ、過去問をひと通り解けるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義では指定したテキストと過去問集を使用するので、各自購入のうえ必ず持参してください。補足のプリントなどは別途授業中に配布します。
科目学習の効果(資格)	宅地建物取引士資格試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	宅建試験の概要と勉強の仕方	教科書はじめに(試験の概要などを説明します)	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
2	権利関係(1)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第1章～第2章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
3	権利関係(2)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第3章～第4章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
4	権利関係(3)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第5章～第6章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
5	権利関係(4)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第7章～第8章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
6	権利関係(5)	教科書 Part III-2 権利関係 (第4分冊) 第9章～第11章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
7	権利関係(6)	教科書 Part III-2 権利関係 (第4分冊) 第12章～第14章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
8	中間のまとめ(予備日)	宅建業法および法令上の制限の総まとめ	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
9	宅建業法(1)	教科書 Part I 宅建業法 (第1分冊) 第1章～第3章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
10	宅建業法(2)	教科書 Part I 宅建業法 (第1分冊) 第4章～第5章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
11	宅建業法(3)	教科書 Part I 宅建業法 (第1分冊) 第6章～第7章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
12	法令上の制限(1)	教科書 Part II 法令上の制限 (第2分冊) 第1章～第2章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
13	法令上の制限(2)	教科書 Part II 法令上の制限 (第2分冊) 第3章～第4章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
14	法令上の制限(3)	教科書 Part II 法令上の制限 (第2分冊) 第5章～第7章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
15	その他の分野	教科書 Part IV その他の分野 (第4分冊) 第1章～第4章	これまでの学習内容を総復習する(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。

関連科目	民法全般、行政法、税法など
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スッキリわかる宅建士 テキスト+過去問スーパーベスト 2019 年度	中村喜久夫	TAC 出版
	2	スッキリとける宅建士 過去問コンプリート 12 2019 年度	中村喜久夫	TAC 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法入門 第7版	川井健	有斐閣
	2	都市法概説 第3版	安本典夫	法律文化社
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回の小テストの累積点数で成績評価を行います（ですので、毎回の出席が前提となります）。</p> <p>詳しくは初回の講義の際に説明するので、受講を考えている学生は必ず初回の講義に出席してください。無断欠席・遅刻、授業中の私語等は単位不認定として厳しく対処します。</p>			
学生への メッセージ	<p>たんに単位取得のみを目的とする学生には受講をお勧めしません。真剣に宅建試験の合格を目指しますので、受講生にはかなりの量の予習と復習を求めます。この点も初回の講義の際に説明いたします。</p> <p>宅建は人気のある法律系の国家資格です。在学中に合格しておくことを強くお勧めします。合格すれば、就活の際に選択の幅が(少しかもしれませんが)確実に広がります。</p>			
担当者の 研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	<p>毎回授業の始めに小テストを実施し、授業時間内にその解説を行います。教員のほうから積極的に指名するので、双方向の講義になります。</p> <p>授業の進行具合によっては多少シラバスに変更があるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。</p>			

科目名	法政キャリア特別講義V	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics V
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3129a0		

授業概要・目的	企業が違法な行為を行うと、損害賠償請求を受けたり、行政処分を課せられたり、刑事罰が課されるばかりでなく、社会から大きな非難を受け、企業の存立の危機にさらされるおそれもある。そこで、ビジネスパーソンとして、十分な法的素養を得ることが求められる。本講義は、中堅ビジネスパーソンが習得することが求められる法的知識を得ることを目的としている。
到達目標	この授業を通じて、学生は、ビジネス実務法務検定試験の2級に合格する実力をつけることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、受講者がビジネス実務法務検定試験の2級の合格を目指しているもので、教科書に従って行う授業と毎回の復習の確認テストによって行う。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務法務検定試験の2級の合格により、就職活動が有利になる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業取引の法務(1)	ビジネスに関する法律関係について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.7~34 を読むこと(各1時間)。
3	企業取引の法務(2)	損害賠償に関する法律関係について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.38~47 を読むこと(各1時間)。
4	債権の管理と回収(1)	債権の担保について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.48~71 を読むこと(各1時間)。
5	債権の管理と回収(2)	緊急時の債権回収 債務者の倒産に対応するための処理手続について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.72~119 を読むこと(各1時間)。
6	会社財産の管理・活用と法律(1)	流動資産の運用・管理の法的側面 固定資産の管理と法律について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.120.~131 を読むこと(各1時間)。
7	会社財産の管理・活用と法律(2)	知的財産権の管理と活用、賃借物件の管理について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.132~163 を読むこと(各1時間)。
8	企業活動に関する法規制(1)	経済関連法規 消費者保護関連の規制について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.164~224 を読むこと(各1時間)。
9	企業活動に関する法規制(2)	情報化社会にかかわる法律 事業関連規制について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.227.~286 を読むこと(各1時間)。
10	株式会社の組織と運営(1)	株式会社のしくみについて学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.290~334 を読むこと(各1時間)。
11	株式会社の組織と運営(2)	株式会社の運営について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.336.~365 を読むこと(各1時間)。
12	企業と従業員の関係	労働組合と使用者との関係、社会保険等について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.366.~373 を読むこと(各1時間)。
13	紛争の解決方法	紛争の予防方法、民事訴訟法について学ぶ。手続、その他の紛争の解決方法	事前にかつ事後に教科書 p.374~409 を読むこと(各1時間)。
14	国際法務(渉外法務)	国際取引に関する法的諸問題と対応のポイント、国際取引における契約作成上の諸問題、国際取引に関する個別の法的諸問題、WTOと国際通商問題について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.410~466 を読むこと(各1時間)。
15	模擬テスト	これまでの授業を総括する j 授業を行う。次に、総まとめのテストを実施する。	事前にかつ事後に教科書 p.1~466 を読むこと(各1時間)。

関連科目	法政キャリア特別講義II
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2019年度版ビジネス実務法務検定試験公式テキスト	東京商工会議所編	東京商工会議所検定センター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	第2回目から第14回目のテストの結果を各7%とし(13×7%)、15回目を9パーセントとし、合計100パーセントで評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定試験の2級の合格という明確な学習目標ができ、勉強の励みになる。学習によって、中堅ビジネスパーソンが修得することが求められる法的知識を得ることができ、しかも、それを商工会議所が証明してくれたことになり、自信を持って企業人として社会で活動できる。学習範囲が広いので、焦らず、辛抱強く、取り組んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室
----------	--------------

備考	予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解はテスト終了後、授業で解説する。
----	--

科目名	法政キャリア特別講義VI	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics VI
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3130a0		

授業概要・目的	法学を学ぶ者は、自分の意見や考えを読み手に納得してもらい、自分と同じ意見をもつよう説得できる文章を書くことができなければなりません。そこでこの授業では、このような文章を書くために必要な能力とそのような文章の書き方を説明し、いくつかの課題文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、読み手を納得させる文章の書き方についての基礎的な知識を習得し、法的知識に基づいた自分の意見、根拠、理由の示された文章を書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は講義方式と演習方式を併用します。プリントを配付しますので、配付したプリントは必ず持参してください。
科目学習の効果(資格)	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法律学と説得力のある文章 小論文と作文など	第1回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
2	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力1	論理的にものごとを考え判断する能力とは	第2回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
3	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力2	ものごとの相互の対応関係を探る能力とは	第3回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
4	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力3	他人が述べたことの本意を判断する能力とは	第4回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
5	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力4	考え方や発想を柔軟に変更して妥当な解決策を探る能力とは	第5回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
6	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力5	他人の文章が何を伝えるために書かれているかを理解する能力とは	第6回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
7	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力6	複数の資料の相互の関係を理解する能力とは	第7回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
8	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力7	統計学の基礎知識とは	第8回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
9	法的知識に基づいた文章と日本語1	日本語の特徴、文の単位、日本語の語順など	第9回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
10	法的知識に基づいた文章と日本語2	文の役割と文の接続、日本語と主観的表現、語調の統一など	第10回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
11	法的知識に基づいた文章の書き方1	課題の求めているものは何かなど	第11回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
12	法的知識に基づいた文章の書き方2	主題の決め方、主題を文章化するための材料の集め方など	第12回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
13	法的知識に基づいた文章の書き方3	意見や考えの理由と根拠、構想の立て方、構成の仕方など	第13回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
14	法的知識に基づいた文章の書き方4	説得力のある文章と説得力のない文章、比較的数字の少ない文章の作成など	第14回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
15	まとめ	法的基礎に基づいた文章のまとめ	第15回配布プリントを見直しして下さい。(1時間程度)

関連科目	法政キャリア特別講義VII
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	提出小論文(80%)と授業態度(20%)の合計によって評価します。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。また授業中に生じた疑問は必ず質問してください。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	①課題小論文の返却は次回の授業で行い、返却の際に作成上の注意点を個別に説明します。 ②授業時間外の質問等に対しては、月曜日12時30分から13時20分に11号館5階法学部資料室において応対できます。
----	--

科目名	法政キャリア特別講義Ⅶ	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics VII
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3131a0		

授業概要・目的	ある問題に対する自分の意見を読み手に納得させる文章を書くためには文章の形式だけでなく内容も問題になります。なぜならば仮にいくら納得させる書き方をしても書かれている内容が薄いものであれば、誰も自分に同調してくれるはずがないからです。そこでこの講義では、納得させる文章とは何かを理解してもらうために、内容に重点を置き、重要と思われる課題を取り上げてそれを説明し、小論文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、文章に関する知識を一層深め、読み手を納得させるのにふさわしい形式と内容の濃い文章が書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は講義方式と演習方式を併用します。プリントを配付します。配付したプリントは必ず持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法的思考が読み取れる文章とは？(その1)	課題の解釈と出題の意図など	第1回配布プリントを見直して下さい。(1時間程度)
2	法的思考が読み取れる文章とは？(その2)	三段落構成の各段落の役割と書き方など	第2回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
3	法的思考が読み取れる文章とは？(その3)	四段落構成の各段落の役割と書き方など	第3回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
4	法的思考が読み取れる文章とは？(その4)	よりわかり易い構成、論理の飛躍など	第4回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
5	法的思考が読み取れる文章の内容1	「情報化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第5回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
6	法的思考が読み取れる文章の内容2	「情報化」を課題とする小論文の作成	第6回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
7	法的思考が読み取れる文章の内容3	「国際化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第7回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
8	法的思考が読み取れる文章の内容4	「国際化」を課題とする小論文の作成	第8回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
9	法的思考が読み取れる文章の内容5	「高齢化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第9回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
10	法的思考が読み取れる文章の内容6	「高齢化」を課題とする小論文の作成	第10回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
11	法的思考が読み取れる文章の内容7	「地方分権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第11回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
12	法的思考が読み取れる文章の内容8	「地方分権」を課題とする小論文の作成	第12回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
13	法的思考が読み取れる文章の内容9	「少年犯罪」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第13回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
14	法的思考が読み取れる文章の内容10	「少年犯罪」を課題とする小論文の作成	第14回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
15	まとめ	法的思考が読み取れる文章のまとめ	第1回～14回までの配布プリントをもう一度見直して下さい。(1.5時間程度)

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅵ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	提出小論文(80%)と授業態度(20%)の合計で評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。また授業中に生じた疑問は必ず質問してください。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	①小論文の返却は授業中に行い、返却の際に個別に作成上の注意点を説明します。 ②授業時間外の質問等に対しては、月曜日の12時30分から13時20分に11号館5階法学部資料室において対応できます。
----	---

科目名	法哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy of Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに——そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに——批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジメ (パワポ資料) にしたがって行います。
科目学習の効果 (資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文 (未修者コース) の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは?	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	授業終了後に、レジメを見直してください。また、憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること (所要時間 120 分)。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
3	死をめぐり自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるのでしょうか? 例えば、人間には自殺する自由があるのでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいのでしょうか? 例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、パターナリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐって賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか? またそれは本当に有効なのでしょう	授業終了後に、レジメを見直してください。また、「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること (所要時間 120 分)。
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか? 必要だとすればそれはなぜでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、死刑に対するベッカリアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょう	授業終了後に、レジメを見直してください。また、苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、積極的差別は正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること。
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるのでしょうか? 義務があるとすれば、それはなぜでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、国際援助に対するロールズやポグゲラの考え方を理解したうえで、日本の ODA の在り方について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるのでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、人権の基礎づけをめぐりさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたるところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか? 許されるとすれば、それはなぜでしょうか?	授業終了後に、レジメを見直してください。また、「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること (所要時間 120 分)。
12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦	授業終了後に、レジメを見直してください。また、

			し、周辺国に多くの被害をもたらしました。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。																
	13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、フリーコウの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。																
	14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます(可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です)。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと。講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください(所要時間 120分)。																
関連科目	直接的には法哲学各論、法思想史と関連しますが、それ以外にも広く実定法学(憲法・民法・刑法など)の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>問いかける法哲学</td> <td>瀧川裕英編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる法哲学・法思想(第2版)</td> <td>深田三徳・濱真一郎編</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ブリッジブック法哲学(第2版)</td> <td>長谷川晃・角田猛之編</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2	よくわかる法哲学・法思想(第2版)	深田三徳・濱真一郎編	ミネルヴァ書房	3	ブリッジブック法哲学(第2版)	長谷川晃・角田猛之編	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社																	
2	よくわかる法哲学・法思想(第2版)	深田三徳・濱真一郎編	ミネルヴァ書房																	
3	ブリッジブック法哲学(第2版)	長谷川晃・角田猛之編	信山社																	
評価方法(基準)	定期試験の成績 55%と提出物 45%によって総合的に評価します(定期試験は必ず受験してください)。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。																			
学生へのメッセージ	この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。																			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室																			
備考	毎回の提出物(課題)については、次の回の授業の最初に解説します。 受講者が極端に少ない場合(目安としては20名以下の場合)、ゼミ形式の講義となる可能性があります。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。																			

科目名	法哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy of Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。  この講義では、法哲学の主要部門と見なされている伝統的なテーマ——「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論（法価値論）」——にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法（法律学）のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	この講義を通じて学生には、法哲学の基本事項を理解するとともに、そうした法哲学上の知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメ（パワポ）にしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介しします。	毎回、事前に教科書の該当箇所を読んでください。また、講義終了後に参考文献およびレジュメを見直してください。各回のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも所要時間 120 分)。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸(ドイツ)における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【キーワード】 基礎法学、レヒト(Recht)、正義論(法価値論)、法学方法論、法の一般理論(法概念論)、法哲学(Rechtsphilosophie)、法理学(Jurisprudence)、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論① 西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」(dikaiosyne, iustitia, justice)がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認します。	【キーワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正の正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論② ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア(原初状態・正と善の区別など)を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【キーワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミナルルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③ リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム(自由至上主義)を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【キーワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
6	正義論④ 共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【キーワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美德なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤ 現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、パトラーらのフェミニズムを紹介しします。これらの議論を知ることによって、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【キーワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム(の諸派)、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論① ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19世紀までの法学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【キーワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論② ドウウォーキンの法理論	この回ではドウウォーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件(hard case)においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか？考えてみましょう。	【キーワード】 権利論(Taking Rights Seriously)、ルールと原理、法の帝国(Law's Empire)、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③ ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法学的ヘルメノイティク、フィーヴェックのトピック論、アレクシーの法的議論の理論を学習します。	【キーワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ
11	法学方法論④ 日本の法解	これまで学習した英米とドイツの解釈	【キーワード】

	釈論争	理論と照らし合わせながら、戦後日本の法解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」																
12	法の一般理論① 自然法論	20世紀にいたるまでの自然法論の思想的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【キーワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス																
13	法の一般理論② 法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【キーワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容																
14	法の一般理論③ 法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【キーワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革																
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には「法哲学総論」、「法思想史」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法哲学</td> <td>瀧川裕英ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アルマ法哲学</td> <td>平野仁彦ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アルマ法思想史</td> <td>中山竜一ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣	2	アルマ法哲学	平野仁彦ほか	有斐閣	3	アルマ法思想史	中山竜一ほか	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣																
2	アルマ法哲学	平野仁彦ほか	有斐閣																
3	アルマ法思想史	中山竜一ほか	有斐閣																
評価方法（基準）	定期試験の成績 55%と毎回の提出物 45%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。																		
学生へのメッセージ	この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室																		
備考	毎回の提出物（課題）については、次の回の授業の最初に解説します。  受講者が極端に少ない場合（目安としては20名以下の場合）、ゼミ形式の講義とします。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。																		

科目名	法哲学各論	科目名(英文)	Philosophy of Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3003a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。  この講義では、法哲学の主要三部門と見なされている伝統的なテーマ——「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論(法価値論)」——にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法(法律学)のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	この講義を通じて学生には、法哲学の基本事項を理解するとともに、そうした法哲学上の知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメ(パワポ)にしたがって行います。
科目学習の効果(資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文(未修者コース)の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは?	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介しします。	毎回、事前に教科書の該当箇所を読んでください。また、講義終了後に参考文献およびレジュメを見直してください。各回のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも所要時間120分)。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸(ドイツ)における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明しします。	【キーワード】 基礎法学、レヒト(Recht)、正義論(法価値論)、法学方法論、法の一般理論(法概念論)、法哲学(Rechtsphilosophie)、法理学(Jurisprudence)、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論① 西洋における正義観念	西洋法思想において「正義(dikaioosyne, iustitia, justice)」がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認しします。	【キーワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正の正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論② ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア(原初状態・正と善の区別など)を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【キーワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミナルルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③ リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム(自由至上主義)を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【キーワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
6	正義論④ 共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【キーワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美德なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤ 現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、パトラーらのフェミニズムを紹介しします。これらの議論を知ることによって、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【キーワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム(の諸派)、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論① ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19世紀までの法学の状況を簡単に説明しします。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討しします。	【キーワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論② ドウウォーキンの法理論	この回ではドウウォーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習しします。はたして難事件(hard case)においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか? 考えてみましょう。	【キーワード】 権利論(Taking Rights Seriously)、ルールと原理、法の帝国(Law's Empire)、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③ ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法学的ヘルメノイティク、フィーヴェックのトピック論、アレクシーの法的議論の理論を学習しします。	【キーワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ
11	法学方法論④ 日本の法解	これまで学習した英米とドイツの解釈	【キーワード】

	釈論争	理論と照らし合わせながら、戦後日本の法理解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」																
12	法の一般理論① 自然法論	20世紀にいたるまでの自然法論の思想的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【キーワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス																
13	法の一般理論② 法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【キーワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容																
14	法の一般理論③ 法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【キーワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革																
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には「法哲学総論」、「法思想史」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法哲学</td> <td>瀧川裕英ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アルマ法哲学</td> <td>平野仁彦ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アルマ法思想史</td> <td>中山竜一ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣	2	アルマ法哲学	平野仁彦ほか	有斐閣	3	アルマ法思想史	中山竜一ほか	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣																
2	アルマ法哲学	平野仁彦ほか	有斐閣																
3	アルマ法思想史	中山竜一ほか	有斐閣																
評価方法（基準）	定期試験の成績 55%と毎回の提出物 45%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。																		
学生へのメッセージ	この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室																		
備考	毎回の提出物（課題）については、次の回の授業の最初に解説します。  受講者が極端に少ない場合（目安としては20名以下の場合）、ゼミ形式の講義とします。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。																		

科目名	法哲学総論	科目名(英文)	Philosophy of Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3002a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに——そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに——批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメ(パワポ資料)にしたがって行います。
科目学習の効果(資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文(未修者コース)の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは?	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること(所要時間120分)。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるのでしょうか? 例えば、人間には自殺する自由があるのでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいのでしょうか? 例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、パターナリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐる賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか? またそれは本当に有効なのでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること(所要時間120分)。
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか? 必要だとすればそれはなぜでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、死刑に対するベッカリアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、積極的差別は正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること。
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるのでしょうか? 義務があるとすれば、それはなぜでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、国際援助に対するロールズやポグラの考え方を理解したうえで、日本のODAの在り方について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるのでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたるところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか? 許されるとすれば、それはなぜでしょうか?	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間120分)。
12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、

			し、周辺国に多くの被害をもたらしました。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。
	13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、フリーコウの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。
	14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます(可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です)。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと。講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください(所要時間 120分)。
関連科目	直接的には法哲学各論、法思想史と関連しますが、それ以外にも広く実定法学(憲法・民法・刑法など)の学習の一助になると思います。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社
	2	よくわかる法哲学・法思想(第2版)	深田三徳・濱真一郎編	ミネルヴァ書房
	3	ブリッジブック法哲学(第2版)	長谷川晃・角田猛之編	信山社
評価方法(基準)	定期試験の成績 55%と提出物 45%によって総合的に評価します(定期試験は必ず受験してください)。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。			
学生へのメッセージ	この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	毎回の提出物(課題)については、次の回の授業の最初に解説します。 受講者が極端に少ない場合(目安としては20名以下の場合)、ゼミ形式の講義となる可能性があります。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。			

科目名	法律英語	科目名(英文)	Legal English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP8○		
科目ナンバリング	JDJ2088a0		

授業概要・目的	英語文献の輪読を通じて、法律英語の読解力を向上させること。アメリカの法制度に関心を持ち、基本的な知識を身につけることを目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的な英文の法律文献を読解する能力を身につけること、およびアメリカの法制度に関する基礎知識を習得することが期待される。
授業方法と留意点	この授業では、アメリカ法の代表的な入門書をテキストとして使用する(下記教科書を参照)。本テキストは、これまで半世紀近くにおたり、アメリカ法の代表的な入門書として、世界中の学生や法律家に親しまれてきたものである。本書は20カ国の言語に翻訳され、世界の何百もの大学や学校で教材とされている。
科目学習の効果(資格)	TOEICなどの英語検定試験の準備、海外留学や海外研修の事前学習となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	歴史的背景(Historical Background)	アメリカ法に通底する2つの要素、連邦主義とコモンローについて、その形成の歴史的背景を読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
3	法学教育(Legal Education)	アメリカのロースクールで実践されているケースメソッドの特徴を読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
4	法律家(Legal Profession)	アメリカの法律家とはどのような組織に属する人たちなのかを読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
5	司法制度(The Judicial System)	州裁判所と連邦裁判所の2つのシステムの組織・裁判権の特徴を読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
6	判例法(Case Law)	判例法とは何か、判例法にはどのような権威があるのかを読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
7	立法制度(The Legislative System) 確認テストの実施	立法の序列、合衆国議会と50州の立法府の役割について読み解く。 第6回目までの内容の確認テストを行う。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
8	制定法(Statutes)	制定法の形式、制定法の解釈技術について読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
9	二次的典拠(Secondary Authority)	学術書、定期刊行物、百科事典などの二次的典拠の位置づけ・重要性を読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
10	法の分類(Classification)	コモンローとエクイティ、実体法と手続法、公法と私法のような分類が可能であることを読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
11	手続法(Procedure)	民事手続法、刑事手続法、証拠法、抵触法の概要を読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
12	私法(Private Law)	契約法、不法行為法、財産法、家族法、商法、会社法の概要を読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
13	公法(Public Law)	憲法、行政法、取引規制、労働法、刑法、環境法の概要を読み解く。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
14	公法(Public Law)	アメリカ法における国際法の地位について学ぶ。	該当箇所を事前に読んでおくこと。2時間
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括を行う。	これまでの復習とテストの準備しておくこと。2時間

関連科目	英米法を中心とした全ての法律専門科目
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An Introduction to the Legal System of the United States, Fourth Edition	E. Allan Farnsworth	Oxford University Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アメリカ法への招待	笠井修・高山佳奈子(訳)	勁草書房
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加態度(40点)及び学期末テスト(60点)をもとに総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	本講義ではアメリカの法制度の全体像を把握することを目的としています。日本の法律を理解するために、アメリカの法制度を知っておくことは、決して無意味ではありません。本講義で取り上げる上記テキストは、アメリカの法及び法制度を平易に叙述してあるので、英文読解の練習には最適な書だと思います。もしわからない単語や文法構造があったとしても、邦訳版(上記参考書)を参照することで、疑問点が解消されるでしょう。分かりにくい用語や文は、授業で適宜、補足説明することとします。
-----------	--

担当者の研究室等備考	11号館10階 鳥谷部特任講師室 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。
------------	---

科目名	保険法	科目名(英文)	Insurance Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3051a0		

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を1つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同的備蓄を形成し、現実が必要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	この授業を通じて、学生は、保険法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	保険契約の契約書、約款、最近の判例、および新聞で報道されている事件を紹介しながら、生きた保険法の講義を行いたい。
科目学習の効果(資格)	保険会社に就職する者にとり、必須の講義である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	保険システム	保険システムの目的と機能、保険法について学ぶ。	事前に教科書2ページ～28ページを読むこと。	事後に教科書2ページ～28ページを読むこと。
2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制について学ぶ。	事前に教科書29ページ～48ページを読むこと。	事後に教科書29ページ～48ページを読むこと。
3	損害保険契約総論(1)	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴について学ぶ。	事前に教科書50ページ～58ページを読むこと。	事後に教科書50ページ～58ページを読むこと。
4	損害保険契約総論(2)	保険契約の成立、告知義務について学ぶ。	事前に教科書59ページ～69ページを読むこと。	事後に教科書59ページ～69ページを読むこと。
5	損害保険契約総論(3)	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料について学ぶ。	事前に教科書70ページ～75ページを読むこと。	事後に教科書70ページ～75ページを読むこと。
6	損害保険契約総論(4)	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険について学ぶ。	事前に教科書76ページ～100ページを読むこと。	事後に教科書76ページ～100ページを読むこと。
7	損害保険契約総論(5)	損害保険契約の成立の効果について学ぶ。	事前に教科書101ページ～119ページを読むこと。	事後に教科書101ページ～119ページを読むこと。
8	損害保険契約総論(6)	損害保険の給付について学ぶ。	事前に教科書120ページ～145ページを読むこと。	事後に教科書120ページ～145ページを読むこと。
9	損害保険契約総論(7)	損害保険契約の終了について学ぶ。	事前に教科書146ページ～156ページを読むこと。	事後に教科書146ページ～156ページを読むこと。
10	損害保険契約総論(8)	損害保険契約の処分について学ぶ。	事前に教科書157ページ～161ページを読むこと。	事後に教科書157ページ～161ページを読むこと。
11	損害保険契約総論(9)	保険担保について学ぶ。	事前に教科書162ページ～171ページを読むこと。	事後に教科書162ページ～171ページを読むこと。
12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険について学ぶ。	事前に教科書174ページ～221ページを読むこと。	事後に教科書174ページ～221ページを読むこと。
13	生命保険契約(1)	総説、生命保険契約の成立について学ぶ。	事前に教科書224ページ～242ページを読むこと。	事後に教科書224ページ～242ページを読むこと。
14	生命保険契約(2)	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押えについて学ぶ。	事前に教科書243ページ～266ページを読むこと。	事後に教科書224ページ～242ページを読むこと。
15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、傷害疾病定額保険をめぐる問題について学ぶ。	事前に教科書268ページ～283ページを読むこと。	事後に教科書268ページ～283ページを読むこと。

関連科目	民法、商法総論
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レクチャー新保険法(最新版)	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%			
学生への メッセージ	授業に出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。保険法の専門用語が多くありますので、用語の定義を重視してください。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、毎回、復習の確認テストを行う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室			
備考	予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。			

科目名	ボランティアと法律	科目名(英文)	Volunteers and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3109a0		

授業概要・目的	本講義では、法律と密接に関わるボランティア活動、ボランティアが関わる現場の法律問題、ボランティア活動の盛り上がり背景にある立法、ボランティア活動に期待する立法について、実務家と担当者が対談する。その後、履修学生と意見交換を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①ボランティア活動が「お手伝い」とは限らず、公共の目的を実現するうえで不可欠な固有の役割があることを理解する。②その役割を担ううえで、法律を正しく理解する、法律問題に備える、立法を促す、という自立的な行動が必要になる点を考える。③行政がボランティア活動を促すためにどのような施策・事業を行っているか知る。④対談を聴いて、意見や疑問を言葉にし、意見交換を行う能力を養う。
授業方法と留意点	本講義は、1回連続2コマで行うので、そのことを理解したうえで履修すること。1コマ目は実務家と担当者との対談を聴き、2コマ目は学生との意見交換を行う。両方に出席することが求められる。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の課題式論文や面接、集団討論に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ボランティアと法律との関わり(1)	民生委員、保護司、人権擁護委員、行政相談委員など、行政委嘱の無報酬の各種委員の役割を知る。	配布資料を見直す。(約1時間)
2	ボランティアと法律との関わり(2)	教育や福祉、防犯や防災など、ボランティアによって支えられている現場の広がりを知る。	配布資料を見直す。(約1時間)
3	学校教育の現場の法律問題(1)	学校での事故や体罰、いじめなどの法律問題について、弁護士と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
4	学校教育の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、弁護士と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
5	自然学校の安全管理(1)	子どもに自然体験の機会を提供する自然学校での安全管理について、自然学校経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
6	自然学校の安全管理(2)	上記の対談を聴いたうえで、自然学校経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
7	高齢者福祉の現場の法律問題(1)	老人ホームや老人保健施設などでの法律問題について、社会福祉法人経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
8	高齢者福祉の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、社会福祉法人経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
9	民生委員の役割(1)	地域で高齢者や障害者、ひとり親家庭の状況を把握し、支援を行う民生員と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
10	民生委員の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、民生委員と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
11	保護司の役割(1)	犯罪を犯した者や非行のある少年の改善更生を助ける保護司と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
12	保護司の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、保護司と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
13	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(1)	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援している実務家と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
14	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(2)	上記の対談を聴いたうえで、実務家と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
15	ボランティア固有の役割とは何か?	これまでの対談・意見交換を振り返って、ボランティアの固有の役割を考える。	これまでの振り返りシートの見直し。(約1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	実務家との意見交換での発言内容(20%)、振り返りシートの出来(40%)、期末レポート(40%)を総合して評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	現場で活躍する実務家の話をじっくり聴き、意見交換ができる機会を多く提供します。意欲的にボランティア活動をしている学生に履修してほしいと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館9階 中沼教室
----------	-------------

備考	振り返りシートの感想部分を実務家に伝え、それを読んでいただいた感想を、後日、受講生に伝える。
----	--

科目名	祭りと地域の法社会史	科目名(英文)	History of Feast and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在、多くの自治体では「地域おこし」の手段として、伝統的にその地域に伝わる祭礼(岸和田だんじり祭・博多祇園山笠など)や、近年になって新規に始められたイベント(各地のよさこいソーラン祭など)が利用されています。しかし、そこには「政教分離」をどうするか、そこに自治体としてどう関わるか、町の空洞化による後継者不足、資金難、文化財的価値と観光化との矛盾など、多くの問題点を抱えています。この講義では、祭りの歴史・存在構造・現在の問題点などを紹介し、考察する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生は、祭りやイベントをめぐって、過去にどのような問題があり、現代どのような問題が生じているかを理解し、その上で、今後何らかの形でそのような問題に直面する立場に置かれた時適切な対処ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式であるが、随時資料を提供して、理解の一助としたい。自ら各地の祭りに出かけ、その問題性を発見することも望まれる。
科目学習の効果(資格)	旅行業務取扱主任など関連する資格がないわけではないが、それよりも自治体職員・警察官・議員・教員には実践的に必要な教養。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	祭りとは	祭り・祭礼・イベントの違い	日本の伝統文化に対する幅広い興味を持つこと。講義ノートやレジュメの整理、見直し
	2	祭礼の出現と都市文化	京都祇園祭の意義	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	3	近世社会と祭礼(1)	城下町祭礼の出現	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	4	近世社会と祭礼(2)	東照宮祭礼にみる権力と民衆	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	5	近世社会と祭礼(3)	祭りと騒乱	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	6	近代社会と祭り(1)	伝統と変革の相克	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	7	近代社会と祭り(2)	祭りと天皇制	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	8	伝統の祭りと現代(1)	祇園祭がかかえる問題性	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	9	伝統の祭りと現代(2)	祭りとジェンダー	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	10	伝統の祭りと現代(3)	暴走族と祭り	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	11	伝統の祭りと現代(4)	文化財の保存と観光化	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	12	地域おこしとイベント(1)	地方自治体と地域おこし	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	13	地域おこしとイベント(2)	神戸祭とよさこいソーラン祭	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	14	祭りと憲法	祭りをめぐる政教分離原則と自治体	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートやレジュメの整理、見直し

関連科目	日本史・社会学・美術史・地理学・近世日本の法文化・憲法
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)とレポート(20%)の総合による。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	京都の祇園祭、大阪天神祭、岸和田だんじり祭など、関西には有名な祭りが目白押しである。こうした祭り、あるいは自分の郷里の祭りなどをとおして、今現在地域が抱えている問題を考えてみてほしい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室
----------	---------------

備考	レポートは評価して、キャリアルームで返却する。講義後の見直しは、少なくとも1時間程度はノート、配布プリントを熟読すること。全体として15~20時間の自宅学習が望ましい。
----	--

科目名	祭りと地域の法社会史	科目名(英文)	History of Feast and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3010a0		

授業概要・目的	現在、多くの自治体では「地域おこし」の手段として、伝統的にその地域に伝わる祭礼(岸和田だんじり祭・博多祇園山笠など)や、近年になって新規に始められたイベント(各地のよさこいソーラン祭など)が利用されています。しかし、そこには「政教分離」をどうするか、そこに自治体としてどう関わるか、町の空洞化による後継者不足、資金難、文化財的価値と観光化との矛盾など、多くの問題点を抱えています。この講義では、祭りの歴史・存在構造・現在の問題点などを紹介し、考察する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生は、祭りやイベントをめぐって、過去にどのような問題があり、現代どのような問題が生じているかを理解し、その上で、今後何らかの形でそのような問題に直面する立場に置かれた時適切な対処ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式であるが、随時資料を提供して、理解の一助としたい。自ら各地の祭りに出かけ、その問題性を発見することも望まれる。
科目学習の効果(資格)	旅行業務取扱主任など関連する資格がないわけではないが、それよりも自治体職員・警察官・議員・教員には実践的に必要な教養。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	祭りとは	祭り・祭礼・イベントの違い	日本の伝統文化に対する幅広い興味を持つこと。講義ノートやレジュメの整理、見直し
	2	祭礼の出現と都市文化	京都祇園祭の意義	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	3	近世社会と祭礼(1)	城下町祭礼の出現	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	4	近世社会と祭礼(2)	東照宮祭礼にみる権力と民衆	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	5	近世社会と祭礼(3)	祭りと騒乱	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	6	近代社会と祭り(1)	伝統と変革の相克	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	7	近代社会と祭り(2)	祭りと天皇制	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	8	伝統の祭りと現代(1)	祇園祭がかかえる問題性	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	9	伝統の祭りと現代(2)	祭りとジェンダー	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	10	伝統の祭りと現代(3)	暴走族と祭り	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	11	伝統の祭りと現代(4)	文化財の保存と観光化	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	12	地域おこしとイベント(1)	地方自治体と地域おこし	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	13	地域おこしとイベント(2)	神戸祭とよさこいソーラン祭	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	14	祭りと憲法	祭りをめぐる政教分離原則と自治体	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートやレジュメの整理、見直し

関連科目	日本史・社会学・美術史・地理学・近世日本の法文化・憲法
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の成績(80%)とレポート(20%)の総合による。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	京都の祇園祭、大阪天神祭、岸和田だんじり祭など、関西には有名な祭りが目白押しである。こうした祭り、あるいは自分の郷土の祭りなどをとおして、今現在地域が抱えている問題を考えてみてほしい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室
----------	---------------

備考	レポートは評価して、キャリアルームで返却する。講義後の見直しは、少なくとも1時間程度はノート、配布プリントを熟読すること。全体として15~20時間の自宅学習が望ましい。
----	--

科目名	民事訴訟法	科目名(英文)	Civil Procedure Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3043a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	この講義を通じ学生が、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどうい役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を理解することが期待される。 そのうえで、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することも期待される。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員(事務官・書記官)、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律(憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法)との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	事前学習：教科書 P. 55～76 事後学習：講義における配布資料の復習(事前学習に要する時間 約1時間、以下同様)
	2	・裁判	・訴訟に勝つばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち(裁判官、弁護士) ・紛争処理の方策(ADR、調停、仲裁)	事前学習：教科書 P. 5～54 最高裁判所のHPにて、訴訟費用額の一覧表を参照しておくこと 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
	3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	事前学習：裁判所の種類・構造・所在地、各裁判所の役割について調べる 事後学習：講義における配布資料の復習 講義における配布資料の復習(約1時間)
	4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	事前学習：自分の住所地の各管轄裁判所を調べる 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
	5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	事前学習：教科書 P. 311～332 (判例) 上訴の利益 理由中の判断に対する不服最高裁昭和31年4月3日第三小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
	6	・管轄(審理・判決はどの裁判所ですか?)	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	事前学習：教科書 P. 109～126 (判決) 最高裁平成20年7月18日第二小法廷決定 移送の可否 裁量移送の要件 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
	7	・訴えの種類	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	事前学習：教科書 P. 77～108 (判決) 最高裁昭和56年12月16日大法廷判決 将来給付の訴え 大阪国際空港事件 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
	8	・当事者(訴える人、訴えられる人とは?)	・誰が当事者になれるか?(権利能力、当事者能力) ・誰が当事者になるのが正しいか?(当事者適格、選定当事者)	事前学習：教科書 P. 127～140 (判例) 法人でない社団の当事者能力 最高裁昭和42年10月19日第一法廷判決 事後学習：講義までに配布した全資料の復習(約1時間)
	9	・訴訟代理	・訴訟代理とは? ・代理権の範囲	事前学習：教科書 P. 38～40 (判例) 最高裁昭和38年2月21日第一小法廷判決 訴訟代理人の代理権の範囲 事後学習：講義までに配布した全資料の復習(約1時間)
	10	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	事前学習：教科書 P. 217～240 (222～228(訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、は除く) (判例) 時期に遅れた攻撃防御方法の提出 最高裁昭和46年4月23日第二小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
11	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか? ・争点および証拠の整理	事前学習：教科書 P. 179～214 (204～209(相殺の抗弁)は除く) (判例) 相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述 最高裁平成9年7月17日第一法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	

	12	・事実認定と証拠	・証拠はなぜ必要なのか？ ・自由心証主義 ・証拠の種類	事前学習：教科書 P. 241～257 (257～文書提出命令、証明責任等は除く) (判例) 東京高裁平成 21 年 5 月 28 日 損害賠償額の算定 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)																
	13	・判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	事前学習：教科書 P. 283～310 (判決) 最高裁昭和 42 年 7 月 18 日 第三小法廷判決 標準時後の事情変更 後遺症 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)																
	14	・再審	・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続	事前学習：教科書 P. 330～332 (判決) 最高裁平成 25 年 11 月 21 日 第一小法廷決定 第三者による再審 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)																
	15	・まとめ&復習	・講義全体のまとめと復習	事前学習：教科書 P. 335～368 事後学習：当該講義において配布した全資料の復習 (約 3 時間)																
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、倒産法																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民事訴訟法入門〔第3版補訂版〕</td> <td>中野貞一郎</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民事訴訟法入門〔第3版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民事訴訟法入門〔第3版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民事訴訟法 判例百選〔第5版〕</td> <td>高橋・高田・畑編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。																			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するもので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室																			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、演習内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。																			

科目名	民事訴訟法 I	科目名 (英文)	Civil Procedure I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	この講義を通じ学生が、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどうい役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を理解することが期待される。そのうえで、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することも期待される。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果 (資格)	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員 (事務官・書記官)、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律 (憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法) との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	事前学習：教科書 P. 55～76 事後学習：講義における配布資料の復習 (事前学習に要する時間 約1時間、以下同様)
2	・裁判	・訴訟に勝つばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち (裁判官、弁護士) ・紛争処理の方策 (ADR、調停、仲裁)	事前学習：教科書 P. 5～54 最高裁判所の HP にて、訴訟費用額の一覧表を参照しておくこと 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
3	・裁判所 I	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	事前学習：裁判所の種類・構造・所在地、各裁判所の役割について調べる 事後学習：講義における配布資料の復習 講義における配布資料の復習 (約1時間)
4	・裁判所 II	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	事前学習：自分の住所地の各管轄裁判所を調べる 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	事前学習：教科書 P. 311～332 (判例) 上訴の利益 理由中の判断に対する不服最高裁昭和31年4月3日第三小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
6	・管轄 (審理・判決はどの裁判所ですか?)	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	事前学習：教科書 P. 109～126 (判決) 最高裁平成20年7月18日第二小法廷決定 移送の可否 裁量移送の要件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
7	・訴えの種類	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	事前学習：教科書 P. 77～108 (判決) 最高裁昭和56年12月16日大法廷判決 将来給付の訴え 大阪国際空港事件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
8	・当事者 (訴える人、訴えられる人とは?)	・誰が当事者になれるか? (権利能力、当事者能力) ・誰が当事者になるのが正しいか? (当事者適格、選定当事者)	事前学習：教科書 P. 127～140 (判例) 法人でない社団の当事者能力 最高裁昭和42年10月19日第一法廷判決 事後学習：講義までに配布した全資料の復習 (約1時間)
9	・訴訟代理	・訴訟代理とは? ・代理権の範囲	事前学習：教科書 P. 38～40 (判例) 最高裁昭和38年2月21日第一小法廷判決 訴訟代理人の代理権の範囲 事後学習：講義までに配布した全資料の復習 (約1時間)
10	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	事前学習：教科書 P. 217～240 (222～228 (訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、は除く) (判例) 時期に遅れた攻撃防御方法の提出 最高裁昭和46年4月23日第二小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
11	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか? ・争点および証拠の整理	事前学習：教科書 P. 179～214 (204～209 (相殺の抗弁) は除く) (判例) 相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述 最高裁平成9年7月17日第一法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)

	12	・事実認定と証拠	・証拠はなぜ必要なのか？ ・自由心証主義 ・証拠の種類	事前学習：教科書 P. 241～257 (257～文書提出命令、証明責任等は除く) (判例) 東京高裁平成 21 年 5 月 28 日 損害賠償額の算定 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)																
	13	・判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	事前学習：教科書 P. 283～310 (判決) 最高裁昭和 42 年 7 月 18 日 第三小法廷判決 標準時後の事情変更 後遺症 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)																
	14	・再審	・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続	事前学習：教科書 P. 330～332 (判決) 最高裁平成 25 年 11 月 21 日 第一小法廷決定 第三者による再審 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)																
	15	・まとめ&復習	・講義全体のまとめと復習	事前学習：教科書 P. 335～368 事後学習：当該講義において配布した全資料の復習 (約 3 時間)																
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、倒産法																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民事訴訟法入門〔第3版補訂版〕</td> <td>中野貞一郎</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民事訴訟法入門〔第3版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民事訴訟法入門〔第3版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民事訴訟法 判例百選〔第5版〕</td> <td>高橋・高田・畑編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。																			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するもので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室																			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、演習内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。																			

科目名	民事訴訟法応用講義	科目名(英文)	Advanced Civil Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3102a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、前期の民事訴訟法で学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。
到達目標	前期の民事訴訟法では、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者(原告・被告)がともに単数(1人)であることを前提としていたが、本講義を通じて学生には、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めることが期待される。 また、判決の効力、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争(家事審判・調停・人事訴訟)など、前期の民事訴訟法では触れられなかったテーマについても掘り下げ、それぞれの手続が、どのような機能と役割を担っているのか、実際の事案に即して考察し、民事訴訟手続に関する理解を深めることが記載される。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員(事務官・書記官)、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・現在の裁判	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・現在の裁判における状況 ・時事問題	事後学習：講義における配布資料の復習(事後学習に要する時間 約30分)
2	・民事裁判権の限界	・裁判権免除 ・国際裁判管轄 ・訴訟と非訟	事前学習：教科書 P. 119～126 (判例)最高裁昭和40年6月30日大法廷決定 訴訟と非訟 夫婦同居の審判 事後学習：講義における配布資料の復習 (事前事後学習に要する時間 約1時間、以下同様)
3	・複数当事者 ～共同訴訟が認められる場合とは?～	・共同訴訟は、どういう場合に認められるのか? ・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・同時審判申出訴訟	事前学習：教科書 P. 140～154 (判例)最高裁平成20年7月17日第一小法廷判決 固有の共同訴訟の成否 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
4	・複数当事者 ～第三者の訴訟参加～	・他人の訴訟に割り込む方法 ・補助参加 ・独立当事者参加	事前学習：教科書 P. 154～168 (判例)補助参加の利益東京高裁平成20年4月30日決定 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
5	・複数当事者 ～訴訟承継～	・訴訟が承継されるときとは? ・当事者が亡くなったら訴訟はどうなるのか? ・係争物の譲渡 ～参加承継・引受承継～ ・第三者の訴訟引込み ・任意的当事者変更	事前学習：教科書 P. 168～178 (判例)最高裁昭和41年3月22日第三小法廷判決 引受承継人の範囲 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
6	・訴訟審理の進め方	・攻撃防御方法の提出 ・相殺 ・口頭弁論における当事者の欠席	事前学習：教科書 P. 204～209, 214～216 (判例)最高裁昭和46年4月23日第二小法廷判決 相殺に対する反対相殺 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
7	・訴訟の終了	・訴えの取下げ ・請求の放棄/認諾 ・訴訟上の和解	事前学習：教科書 P. 222～227 (判例)最高裁昭和46年6月25日第二小法廷判決 刑事上罰すべき他人の行為による訴えの取下げ 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
8	・前回までの講義内容のまとめ&復習	・前回までの講義内容についてのまとめと復習、ならびに質疑応答	事前学習：前回講義までの内容についての復習、ならびに疑問点の抽出 事後学習：前回講義までに配布した全資料の復習(約2時間)
9	・証拠 ～文書提出命令～	・文書提出命令	事前学習：教科書 P. 257～264 (判例)最高裁平成20年11月25日 文書提出命令 職業の秘密 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
10	・証拠 ～立証の困難を克服するために～ ・証拠 ～証明がつかないときはどうなるのか?～	・相当な損害額の認定 ・証明責任とは何か? ・証明責任の分配 ・証明責任の転換	事前学習：教科書 P. 264～282 (判例)最高裁昭和35年2月2日第三小法廷判決 証明責任の分配 虚偽表示における第三者の善意 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)
11	・判決 ～既判力～	・訴訟物による限界(既判力の客観的範囲) ・基準時による厳戒(既判力の時的限界) ・既判力の及ぶ人の範囲(既判力の主観)	事前学習：教科書 P. 293～305 (判例)最高裁平成10年6月12日第二小法廷判決 一部請求後の残部請求 明治紗入れた場合 事後学習：講義における配布資料の復習

			的範囲)	(約1時間)
	12	・上訴と再審	・特別の不服申立て ・控訴/上告/抗告 ・再審	事前学習：教科書 P. 311～332 (判例)最高裁平成6年11月22日第三小法廷判決 不利益変更の禁止 一部請求と相殺の抗弁 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
	13	・督促手続	・督促手続のメリット ・督促手続の経過 ・オンライン督促手続	事前学習：教科書 P. 338～342 裁判所が配布しているリーフレット等で督促手続 の流れについて理解する 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
	14	・家庭紛争と裁判	・家庭紛争の解決方法 ・家事審判と家事調停 ・人事訴訟	事前学習：教科書 P. 343～377 (判例)最高裁昭和33年7月25日第二小法廷判決) 離婚訴訟と特別代理人(訴訟能力) 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
	15	・当該講義における全内容について のまとめと復習	当該講義における全内容についての、ま とめ、復習、そして質疑応答	事前事後学習：当該講義における全内容について の復習、ならびに疑問点の抽出 (約3時間)
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事裁判入門〔第3版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。			

科目名	民法概論	科目名(英文)	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵・萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題等を規律するものの総称が民事法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を、民法を中心に確認し、さらにそこで規律されている権利義務の内容がどのようなものであるのか、また、それらがどのように実現されるのかという、手続法と呼ばれる部分も講義の後半部分で扱っていく予定である。
到達目標	この講義を通じて、学生には民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する事も予定。 法律科目であるため、六法が必修です。 なお、民事手続の部分は、担当者と調整のうえ、日程を変更する可能性があります。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法学部がどのようなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持つ部分を見つけてください。
2	民法とは	民事法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを検討してみてください。
3	法律内容と民法	民事法と民法との関係、民法の構造の把握。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに検討して下さい。
4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを確認して下さい。
5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、親の同意が必要となった契約を確認して下さい。
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか?この法的意味を確認して下さい。
7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを検討すること。
8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を法的に分析すること。
9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのかについて、検討すること。
10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を、法的視点で整理すること。
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定。	人の死後に起こりうる問題等を確認すること。
15	全体の復習	民事法の構造の再確認	全体の内容を確認すること。

関連科目 憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法入門	野村豊弘	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 講義での確認テスト(20%)、学年末試験(80%)で評価を行います。  
講義中の不要な私語については減点の対象とします。詳細は、講義等で指摘します。

学生へのメッセージ 民法は日常生活に関する規範である。したがって、民法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。

担当者の研究室等 11号館9階 大川准教授室

備考 大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題、指摘部分及び確認テスト内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。  
近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民法概論	科目名(英文)	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵・萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1030a0		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題等を規律するものの総称が民法法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を、民法を中心に確認し、さらにそこで規律されている権利義務の内容がどのようなものであるのか、また、それらがどのように実現されるのかという、手続法と呼ばれる部分も講義の後半部分で扱っていく予定である。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する事も予定。 法律科目であるため、六法が必修です。 なお、民事手続の部分は、担当者と調整のうえ、日程を変更する可能性があります。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民法法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法学部がどのようなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持つ部分を見つけてください。
2	民法とは	民法法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを検討してみてください。
3	法律内容と民法	民法法と民法との関係、民法の構造の把握。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに検討して下さい。
4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを確認して下さい。
5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、親の同意が必要となった契約を確認して下さい。
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか?この法的意味を確認して下さい。
7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを検討すること。
8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を法的に分析すること。
9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのかについて、検討すること。
10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を、法的視点で整理すること。
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定。	人の死後に起こりうる問題等を確認すること。
15	全体の復習	民法法の構造の再確認	全体の内容を確認すること。

関連科目 憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法法入門	野村豊弘	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 講義での確認テスト(20%)、学年末試験(80%)で評価を行います。  
講義中の不要な私語については減点の対象とします。詳細は、講義等で指摘します。

学生へのメッセージ 民法法は日常生活に関する規範である。したがって、民法法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。

担当者の研究室等 11号館9階 大川准教授室

備考 大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題、指摘部分及び確認テスト内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。  
近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民事保全・執行法	科目名(英文)	Enforcement of Judgments; Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3045a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。 この授業を通じて学生には、将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的になされるのかを理解できるようになることが期待される。それらの知識は、転ばぬ先の杖として、経済的に自立した大人になるために必要な知識であると考えている。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員(事務官・書記官)、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	① ガイダンス ② 民事執行法の概観	① 授業方法・評価方法等の説明 ② 他の法分野との関係 ③ 判決手続と執行手続 ④ 民事執行の沿革等	事前学習：教科書 第1章1,2 (事前事後学習に要する時間 約1時間、以下同様)
2	① 執行手続の種類・態様 ② 執行手続の主体	① 強制執行の意義と種類 ② 執行当事者 ③ 執行機関	事前学習：教科書 第1章3、第2章1節、 (判例)最高裁平成9年7月15日第三小法廷判決 現況調査にあたっての執行官の注意義務 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
3	民事保全法Ⅰ	① 民事保全法の概説 ② 民事保全命令手続	事前学習：教科書 第6章1,2節 (判例)最高裁平成15年1月31日第二小法廷決定 保全の必要性 仮差押え 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
4	民事保全法Ⅱ	① 不服申立手続 ② 保全執行	事前学習：教科書 第6章3、 (判例)最高裁昭和61年6月11日大法廷判決 仮 の地位を定める仮処分 審尋の要否 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
5	強制執行手続の開始	① 強制執行手続の要件 ② 債務名義とその種類	事前学習：教科書 第2章2節 (判例)最高裁平成10年4月28日第三小法廷判決 外国判決の承認執行 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
6	強制執行手続の進行	① 執行の対象 ② 財産開示手続 ③ 執行手続の終了	事前学習：教科書 第2章2節2、第5章 (判例)大阪高裁平成22年1月19日決定 財産開 示の要件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
7	執行関係訴訟	① 請求異議の訴え ② 執行文付与に関する訴訟 ③ 第三者異議の訴え	事前学習：教科書 第2章3節 (判例)最高裁昭和57年2月23日第三小法廷判決 執行法上の救済手段をとることの懈怠と国家賠償 の成否 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
8	非金銭執行の実現	① 物の引渡し・明渡しの強制執行 ② 作為・不作為の強制執行 ③ 意思表示の強制執行	事前学習：教科書 第3章2節 (判例)札幌地裁平成6年7月8日決定、東京地裁 立川支部平成21年4月28日決定 子の引渡請求の 執行方法 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
9	非金銭執行の実例	① 子の引渡しと執行 ② 面会交流権と執行	事前学習：民法上の面会交流権の復習、指定した判 例を読み込むこと 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
10	動産執行	① 動産執行の意義 ② 差押え・換価・満足	事前学習：教科書 第3章1節4項 (判例)東京地裁八王子支部昭和55年12月5日決 定、東京地裁平成10年4月13日決定 差押禁止動 産 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
11	不動産執行Ⅰ	① 強制競売の開始 ② 売却の準備・条件・効果	事前学習：教科書 第3章1節2項 (判例)東京高裁平成20年4月25日決定 引渡命 令

				事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)																
12	不動産執行Ⅱ	① 債権者の満足 ② 強制管理		事前学習：教科書 第3章1節2項 (判例)最高裁平成14年1月25日第三小法廷決定 売却条件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)																
13	債権およびその他の財産権 に対する強制執行	① 金銭債権に対する強制執行 ② 少額訴訟債権執行 ③ 船舶・動産等の引渡請求権に対する 強制執行		事前学習：教科書 第3章1節5項 (判例)東京高裁平成22年6月29日決定、東京高 裁平成22年6月22日決定 差押禁止債権 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)																
14	担保権の実行としての競売 等	① 担保権実行制度の意義 ② 担保不動産競売 ③ 担保不動産収益執行 ④ 動産競売		事前学習：教科書 第4章 民法上等の担保権制度の復習 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)																
15	まとめ&復習	① 全てのまとめ&復習		事前学習：該当範囲の復習 事後学習：当該講義において配布した全ての配布資 料の復習 (約3時間)																
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事訴訟法応用講義、倒産法																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から分かる民事執行法・民事保全法【第3版】</td> <td>和田吉弘</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から分かる民事執行法・民事保全法【第3版】	和田吉弘	弘文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	基礎から分かる民事執行法・民事保全法【第3版】	和田吉弘	弘文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民事執行・保全 判例百選〔第2版〕</td> <td>上原・長谷部・山本編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民事執行・保全 判例百選〔第2版〕	上原・長谷部・山本編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民事執行・保全 判例百選〔第2版〕	上原・長谷部・山本編	有斐閣																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。																			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するもので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュさせてください。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室																			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、演習内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。																			

科目名	民法総則	科目名(英文)	Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2031a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法(特に財産法)を学ぶ上での基本です。本講義は、この民法総則の基礎を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を身につけることを期待します。
授業方法と留意点	毎週配布のレジュメに沿って授業します。小型六法は、毎回、必ず持ってきて下さい。
科目学習の効果(資格)	公務員試験のほか、宅建・行政書士・司法書士等、各種資格試験に必須。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・契約	ガイダンス・民法の学習方法・契約の成立	事前学習課題：なし 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管すること(30分程度・最低10分以上)。
2	意思表示の瑕疵(1)	意思表示の構造・意思表示の瑕疵とは・意思の不存在と瑕疵ある意思表示・無効と取消し	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
3	意思表示の瑕疵(2)	意思の不存在(1) —心裡留保・虚偽表示—	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
4	意思表示の瑕疵(3)	意思の不存在(2)—古典的錯誤— / 瑕疵ある意思表示(1)—動機の錯誤—	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
5	意思表示の瑕疵(4)	瑕疵ある意思表示 —詐欺・強迫—	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
6	通則	基本原則・解釈の基準	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
7	人I	権利能力	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
8	人II	意思能力、制限行為能力者制度(1) 総説	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
9	人III	制限行為能力者制度(2) 未成年者、制限行為能力者の相手方の保護	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
10	人IV	制限行為能力者制度(3) 成年後見制度	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
11	代理I	総説、代理権	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
12	代理II	代理行為・無権代理(1)	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
13	代理III	無権代理(2)	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。

	14	代理IV	表見代理	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジюмеと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
	15	時効	消滅時効	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジюмеと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
関連科目	民法法概論・法学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法1 第2版	小川富之、中山布紗編著	一学舎
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(85%)、および「まとめペーパー」の内容(15%)により評価します。 ただし、私語等の授業妨害行為については、減点・単位不授与の措置を講じることがあります。ご注意ください。			
学生への メッセージ	民法総則は、民法(特に財産法)を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法(・および相続法)を学ぶ予定のある人は、必ず受講して下さい。 民法総則は、非常に難しい科目です。毎回の予習・復習を欠かさないことが、単位取得の最低条件と考えて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	本授業では、カリキュラムの節目毎に、「まとめペーパー」の作成時間を設けます。ペーパーは授業時に配布・回収し、試験時に返却します。試験では、このペーパーのみ参照可とします。 ペーパー作成にあたって参照物持込は一切不可です。試験に役立つペーパーを作成するためにも、毎回の予習・復習を欠かさないことを強くオススメします。 なお、毎回の授業冒頭に、前回授業のまとめを口頭で行います。 まとめペーパーの作り方、復習の方法がわからない人は、ぜひ参考にして下さい。			

科目名	有価証券法	科目名(英文)	Law of Negotiable Instruments
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2048a0		

授業概要・目的	本講義で取り扱う有価証券は、主として手形・小切手である。手形には約束手形と為替手形の2種類があり、約束手形は信用の手段として、為替手形は送金・取立の手段として利用される。また、小切手は支払の手段として利用される。近年、手形・小切手の利用が減少してきたとはいえ、現在でも約束手形は、わが国の活発な経済活動をささえる重要な役割を担っている。したがって、約束手形の法的仕組みを理解することはきわめて重要である。
到達目標	この授業を通じて学生には、有価証券(手形・小切手)の基本的な法的仕組みを理解し、判例などの検討を通して具体的な問題について法的解決を図ることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行する。必要に応じて補足資料を配布する。
科目学習の効果(資格)	実社会において重要な役割を担う有価証券の仕組みを理解することにより、就職後等に必要な知識を修得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 手形・小切手の意義・法的構造	約束手形・為替手形・小切手	教科書第1章(p.3~9)およびレジュメを読み返しておくこと。(約45分)
2	手形・小切手の経済的機能と銀行取引、有価証券	手形・小切手と銀行取引、有価証券の意義	教科書第2章および第3章(p.10~33)を読んでおくこと。(約60分)
3	手形行為の意義と特性・成立要件	手形行為の意義一書面性・文言性・要式性・無因性・独立性一、成立要件一署名・手形の交付一	教科書第4章および第5章(p.37~54)を読んでおくこと。(約60分)
4	手形行為の有効要件、他人による手形行為	手形権利能力・手形行為能力、他人による手形行為の方式一代理方式・機関方式一	教科書第6章および第7章(p.55~69)を読んでおくこと。(約60分)
5	無権代理と偽造	無権代理、偽造、表見代理	教科書第8章(p.70~82)を読んでおくこと。(約60分)
6	約束手形の振出	振出の意義、手形要件、有益の記載事項・無益の記載事項・有害の記載事項	教科書第9章(p.83~99)を読んでおくこと。(約60分)
7	白地手形・手形の変造	白地手形の意義、補充権、変造	教科書第10章(p.100~113)を読んでおくこと。(約60分)
8	裏書	約束手形の譲渡、譲渡裏書の効力、裏書の連続	教科書第11章(p.114~129)を読んでおくこと。(約60分)
9	善意の手形取得者の保護	抗弁の制限と手形抗弁、物的抗弁、人的抗弁、善意取得	教科書第12章(p.130~148)を読んでおくこと。(約60分)
10	特殊の裏書	特殊の譲渡裏書、特殊の裏書	教科書第13章(p.149~163)を読んでおくこと。(約60分)
11	手形の支払	支払のための呈示、支払の方法、振出人の免責、支払の猶予	教科書第14章(p.164~177)を読んでおくこと。(約60分)
12	遡求、手形保証	遡求の当事者・要件・通知・方法、手形保証の意義・付従性と独立性、隠れた保証のための裏書	教科書第15章および第16章(p.178~186)を読んでおくこと。(約60分)
13	時効・利得償還請求権・除権決定・手形訴訟	手形の時効、利得償還請求権、手形の喪失と除権決定、手形訴訟	教科書第17章(p.187~195)を読んでおくこと。(約45分)
14	為替手形、小切手	為替手形の振出・引受・支払・遡求、小切手の振出・流通・支払、線引小切手	教科書第18章および第19章(p.197~218)を読んでおくこと。(約60分)
15	まとめ	手形・小切手法の総復習	手形・小切手法の講義全体を振り返り、教科書・レジュメを見直すこと。(約5時間)

関連科目	民法総則・債権法
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 手形・小切手法 第2版	早川 徹	新世社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(70%)。その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する(30%)。
----------	---

学生へのメッセージ	理解が難しい箇所もあるが、教科書に従い基本的な知識の修得を目的として講義を行うので、意欲的に授業に取り組んでもらいたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	--------------------------

備考	小テストについては、当該授業または次の授業で解説する。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.ii4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。
----	---

科目名	有価証券法 I	科目名 (英文)	Law of Negotiable Instruments I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義で取り扱う有価証券は、主として手形・小切手である。手形には約束手形と為替手形の2種類があり、約束手形は信用の手段として、為替手形は送金・取立の手段として利用される。また、小切手は支払の手段として利用される。近年、手形・小切手の利用が減少してきたとはいえ、現在でも約束手形は、わが国の活発な経済活動をささえる重要な役割を担っている。したがって、約束手形の法的仕組みを理解することはきわめて重要である。
到達目標	この授業を通じて学生には、有価証券 (手形・小切手) の基本的な法的仕組みを理解し、判例などの検討を通して具体的な問題について法的解決を図ることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行する。必要に応じて補足資料を配布する。
科目学習の効果 (資格)	実社会において重要な役割を担う有価証券の仕組みを理解することにより、就職後等に必要な知識を修得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 手形・小切手の意義・法的構造	約束手形・為替手形・小切手	教科書第1章 (p. 3~9) およびレジュメを読み返しておくこと。(約45分)
2	手形・小切手の経済的機能と銀行取引、有価証券	手形・小切手と銀行取引、有価証券の意義	教科書第2章および第3章 (p. 10~33) を読んでおくこと。(約60分)
3	手形行為の意義と特性・成立要件	手形行為の意義一書面性・文言性・要式性・無因性・独立性一、成立要件一署名・手形の交付一	教科書第4章および第5章 (p. 37~54) を読んでおくこと。(約60分)
4	手形行為の有効要件、他人による手形行為	手形権能力・手形行為能力、他人による手形行為の方式一代理方式・機関方式一	教科書第6章および第7章 (p. 55~69) を読んでおくこと。(約60分)
5	無権代理と偽造	無権代理、偽造、表見代理	教科書第8章 (p. 70~82) を読んでおくこと。(約60分)
6	約束手形の振出	振出の意義、手形要件、有益の記載事項・無益の記載事項・有害の記載事項	教科書第9章 (p. 83~99) を読んでおくこと。(約60分)
7	白地手形・手形の変造	白地手形の意義、補充権、変造	教科書第10章 (p. 100~113) を読んでおくこと。(約60分)
8	裏書	約束手形の譲渡、譲渡裏書の効力、裏書の連続	教科書第11章 (p. 114~129) を読んでおくこと。(約60分)
9	善意の手形取得者の保護	抗弁の制限と手形抗弁、物的抗弁、人的抗弁、善意取得	教科書第12章 (p. 130~148) を読んでおくこと。(約60分)
10	特殊の裏書	特殊の譲渡裏書、特殊の裏書	教科書第13章 (p. 149~163) を読んでおくこと。(約60分)
11	手形の支払	支払のための呈示、支払の方法、振出人の免責、支払の猶予	教科書第14章 (p. 164~177) を読んでおくこと。(約60分)
12	遡求、手形保証	遡求の当事者・要件・通知・方法、手形保証の意義・付従性と独立性、隠れた保証のための裏書	教科書第15章および第16章 (p. 178~186) を読んでおくこと。(約60分)
13	時効・利得償還請求権・除権決定・手形訴訟	手形の時効、利得償還請求権、手形の喪失と除権決定、手形訴訟	教科書第17章 (p. 187~195) を読んでおくこと。(約45分)
14	為替手形、小切手	為替手形の振出・引受・支払・遡求、小切手の振出・流通・支払、線引小切手	教科書第18章および第19章 (p. 197~218) を読んでおくこと。(約60分)
15	まとめ	手形・小切手法の総復習	手形・小切手法の講義全体を振り返り、教科書・レジュメを見直すこと。(約5時間)

関連科目	民法総則・債権法
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 手形・小切手法 第2版	早川 徹	新世社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する (70%)。その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する (30%)。
-----------	---

学生へのメッセージ	理解が難しい箇所もあるが、教科書に従い基本的な知識の修得を目的として講義を行うので、意欲的に授業に取り組んでもらいたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
----------	---------------------------

備考	小テストについては、当該授業または次の授業で解説する。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.ii4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。
----	---

科目名	労働組合法	科目名(英文)	Labor Union Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3055a0		

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、労働団体に大きく分けることができますが、この授業では、労働団体の主要法である労働組合法についてその内容を概観します。 授業担当者は、弁護士として17年、裁判官として22年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法律が認めている労働者の権利を実現するために労働組合にどのような権利が与えられ、どのような役割が期待されているのか、また実際にどのような活動を行うのかを知り、さらには最近の就労形態の多様化の現象の下で、労働組合がどのような問題を抱えているのかを考えるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義では後記の教科書を使用するほか、論点を整理したレジュメを適宜配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。毎回の授業には教科書および六法を必ず携行してください。少なくとも一度は授業時間中に簡単な確認テストを行う予定です。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	教科書第1章、2章(2頁から44頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	教科書第17章(330頁から349頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	教科書第19章の1、2(369頁から380頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	教科書第19章の3(381頁から387頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	教科書第19章の3(381頁から387頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	教科書第20章の1、2(388頁から398頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	教科書第20章の3(398頁から401頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	教科書第20章の1から3(388頁から401頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	教科書第20章の4(402頁から404頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
10	組合活動	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動 ・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	教科書第17章(330頁から349頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
11	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	教科書第18章(350頁から368頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
12	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	教科書第18章(350頁から368頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
13	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	教科書第5章(82頁から92頁)、第18章(350頁から368頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
14	雇用保障	・雇用保障の意義と体系 ・職業紹介、募集 ・職業訓練 ・失業防止、雇用安定と失業者救済	教科書第21章(406頁から424頁)を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を捕捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと(1時間)

関連科目 日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働保護法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法(第5版)	(有斐閣アルマ)	浅倉むつ子 ほか
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選[第9版]		
2				
3				

評価方法 (基準)	学期末テストの成績の点数(70%)、授業中の確認テスト(20%)、受講態度(10%)により総合評価します。なお、受講者が極端に少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生への メッセージ	労働法が取り上げる問題は近い将来において皆さん方自身の問題となるものばかりです。法律が労働者にどのような態度で向き合っているのかを実感して下さい。
担当者の 研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	確認テストの解答は次回の授業で解説する。

科目名	労働保護法	科目名(英文)	Labor Standards Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2054a0		

授業概要・目的	契約関係の基本となるのは「民法」ですが、民法が個人の自由・独立、契約自由の原則といった市民法の原理に貫かれているのに対し、労働法は労働者の保護を基調とした社会法としての性格を持っています。そのような労働法の性格を実際の法規定に照らして実感してもらうことがこの講義の目的です。 授業担当者は、弁護士として17年、裁判官として22年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は後記教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布して行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。授業には教科書および六法を必ず携行してください。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、そのこと一つをとっても労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものとはならずです。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と体系	・労働法の全体像、規律構造 ・法の中で労働法がどのような位置を占めるのかについて述べる。	教科書第1編の第1、2章(2頁-14頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
2	労働法の基本構造	・労働者が持つ憲法上の権利	教科書第1編第3章(15頁-22頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
3	労働者保護の一般原則	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲	教科書第2編第1、2章(24頁-63頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
4	労働契約の成立	・労働契約の基本 ・採用の意味	教科書第2編第3章の1、2(64頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
5	労働契約の規制	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務	教科書第2編第3章の3、4(79頁-96頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
6	使用者の業務命令権と配転	・配転、出向、転籍 ・使用者の業務命令権 ・人事考課	教科書第2編第3章の5、6(96頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
7	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
8	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
9	休憩・休日 年次有給休暇	・休憩に関する規制 ・年休権の内容	教科書第2編第5章の7から第6章まで(154頁-174頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
10	年少者と女性労働者の保護	・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第7章(175頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
11	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
12	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
13	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
14	解雇・定年・退職	・解雇の法理	教科書第2編第11章(243頁-271頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておく(1時間)

関連科目 日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働団体系

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法 [第12版]	安枝英誦・西村健一郎	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選 [第9版]		有斐閣
2			
3			

評価方法(基準)	期末テスト(7割)、授業中の小テスト(2割)、受講態度(1割)を総合して評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	労働法は、近い将来、皆さんの生活に極めて身近なものとなる法律です。労働法を学ぶことは社会の実態を知ることにもつながるので意欲をもって学習してください。
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	小テストの正解は次の回の授業で解説する。



# 基礎科目



科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クリスティー ジョーンストン
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2307c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	(記入不要)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2307c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1. 2]、後期はCEFR-J [A1. 3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	(記入不要)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Funny Laws in the World (with CD)	Joe Ciunci	Nan' un-do
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	EGHI
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2307c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1. 2]、後期はCEFR-J [A1. 3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation
-----------	---

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英会話Ⅱ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスティー ジョーンストン
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2308c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目									
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話Ⅱ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2308c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目									
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	Funny Laws in the World (With CD)	Joe Ciunci	Nan' un-do
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話Ⅱ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	EGHI
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2308c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検討

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
		15	Evaluation and review	Evaluation and review

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8</td> <td>Richard Rowat</td> <td>Weissman Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1</td> <td>代名詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1</td> <td>代名詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2</td> <td>時制</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit2</td> <td>時制</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3</td> <td>時制</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3</td> <td>助動詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Test</td> <td>助動詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4</td> <td>態</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 4</td> <td>態</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5</td> <td>不定詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 5</td> <td>不定詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6</td> <td>Grammar Point のまとめ</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 6</td> <td>総合復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Test</td> <td>TOEIC 演習</td> <td>_____</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明	_____	_____	2	Unit 1	代名詞	演習	3	Unit 1	代名詞	演習	4	Unit 2	時制	演習	5	Unit2	時制	演習	6	Unit 3	時制	演習	7	Unit 3	助動詞	演習	8	Test	助動詞	演習	9	Unit 4	態	演習	10	Unit 4	態	演習	11	Unit 5	不定詞	演習	12	Unit 5	不定詞	演習	13	Unit 6	Grammar Point のまとめ	授業の復習	14	Unit 6	総合復習	授業の復習	15	Test	TOEIC 演習	_____
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	_____	_____																																																																
2	Unit 1	代名詞	演習																																																																
3	Unit 1	代名詞	演習																																																																
4	Unit 2	時制	演習																																																																
5	Unit2	時制	演習																																																																
6	Unit 3	時制	演習																																																																
7	Unit 3	助動詞	演習																																																																
8	Test	助動詞	演習																																																																
9	Unit 4	態	演習																																																																
10	Unit 4	態	演習																																																																
11	Unit 5	不定詞	演習																																																																
12	Unit 5	不定詞	演習																																																																
13	Unit 6	Grammar Point のまとめ	授業の復習																																																																
14	Unit 6	総合復習	授業の復習																																																																
15	Test	TOEIC 演習	_____																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 2</td> <td>Helgesen, Brown, and Wiltshier</td> <td>Pearson Longman</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 2	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 2	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%																																																																	
	全学共通英語課題 B	10%																																																																	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%																																																																	
学生へのメッセージ	Do your best and enjoy the class																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鯨井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概要説明		
	2	Lesson3	代名詞	演習 3
	3	Lesson4	代名詞	演習 4
	4	Lesson5	時制	演習 5
	5	Lesson6	時制	演習 6
	6	Lesson7	時制	演習 7
	7	Lesson8	助動詞	演習 8
	8	Lesson9	助動詞	演習 9
	9	Lesson10	態	演習 10
	10	Lesson11	態	演習 11
	11	Lesson12	不定詞	演習 12
	12	Lesson13	不定詞	演習 13
	13	Lesson3~13	Grammar Point のまとめ	授業の復習
	14	総合復習	総合復習	授業の復習
	15	プリント教材	TOEIC 演習	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習： 実力テストの復習
2	Unit 1: Communication	・単語テスト ・コミュニケーションをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
3	Unit 2: Friendship	・単語テスト ・友情をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
4	Unit 3: Health	・単語テスト ・健康をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
5	Unit 4: Environment	・単語テスト ・環境をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
6	Unit 5: Fashion	・単語テスト ・ファッションをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認、 中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだ内容より、中間テスト	事後学習： これまでの授業内容の復習
8	Unit 6: Food	・単語テスト ・食物をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
9	Unit 7: Science & Technology	・単語テスト ・科学技術をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
10	Unit 8: Study Abroad	・単語テスト ・留学をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認

			の力を向上を目指す																	
	11	Unit 9: College Life in the U.S.	・単語テスト ・アメリカでの大学生活をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認																
	12	Unit 10: Steve Jobs	・単語テスト ・スティーブ・ジョブズをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認																
	13	Unit 11: Volunteer Work	・単語テスト ・ボランティアをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認																
	14	Unit 12: Internship	・単語テスト ・インターンシップをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認 期末テストの準備																
	15	期末テスト	これまで学んだ内容より、期末テスト	事前・事後学習 これまでの授業内容の復習																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コミュニケーションのための総合英語</td> <td>阿野幸一 上田倫史 遠山道子 豊嶋正貴 Karen Haedrich</td> <td>朝日出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コミュニケーションのための総合英語	阿野幸一 上田倫史 遠山道子 豊嶋正貴 Karen Haedrich	朝日出版	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	コミュニケーションのための総合英語	阿野幸一 上田倫史 遠山道子 豊嶋正貴 Karen Haedrich	朝日出版																
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	<table> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>				全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%										
	全学共通英語課題 A	20%																		
全学共通英語課題 B	10%																			
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。</li> <li>・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。</li> <li>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。</li> <li>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。</li> <li>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</li> <li>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</li> <li>①から③が続く場合、単位を認めない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻は3回で1回の欠席とみなします。注意しましょう。</li> <li>・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを期待します。</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小倉 永慈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文 教科書:Unit 1
2	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 1-30 教科書:Unit 1
3	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 21-50 教科書:Unit 2
4	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 41-70 教科書:Unit 2
5	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 61-90 教科書:Unit 3
6	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 81-110 教科書:Unit 3
7	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 101-130 教科書:Unit 4
8	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 121-150 教科書:Unit 4
9	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 141-170 教科書:Unit 5
10	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 161-190 教科書:Unit 5
11	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 181-210 教科書:Unit 6
12	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 201-230 教科書:Unit 6
13	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 221-248 教科書:Unit 7
14	Unit 7: Take Me Home, Country Roads/John Denver	単語小テスト及び教科書復習	教科書:Unit 7
15	Unit 7: Take Me Home, Country Roads/John Denver	単語小テスト及び教科書復習	教科書総復習

関連科目	他の英語科目												
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ソングス&amp;カルチャー - ポップソングで学ぶ初級英語 - Enjoying English through Pop Songs</td> <td>関戸冬彦 / 小林愛明 / 山中章子 / 吉田要</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ソングス&カルチャー - ポップソングで学ぶ初級英語 - Enjoying English through Pop Songs	関戸冬彦 / 小林愛明 / 山中章子 / 吉田要	朝日出版社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1	ソングス&カルチャー - ポップソングで学ぶ初級英語 - Enjoying English through Pop Songs	関戸冬彦 / 小林愛明 / 山中章子 / 吉田要	朝日出版社										
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂										
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1							
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1													
評価方法 (基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%						
全学共通英語課題 A	20%												
全学共通英語課題 B	10%												
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%												
学生へのメッセージ	この授業ではポップソングを通して英語に触れます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。												
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室												
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。												

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			学生へのメッセージに記載のとおり
1	授業方針の説明と第 1 章前半 「ジョン・レノン、Imagine に込めたメッセージ」	Chapter 1 Message from John Lennon	学生へのメッセージに記載のとおり
2	第 1 章後半と小テスト	Chapter 1	学生へのメッセージに記載のとおり
3	第 2 章前半 「ソフィーの世界、14 歳の少女とたどる哲学ファンタジー」	Chapter 2 Sophie's World	学生へのメッセージに記載のとおり
4	第 2 章後半と小テスト	Chapter 2	学生へのメッセージに記載のとおり
5	第 3 章前半 「冥王星が惑星の地位を剥奪された理由」	Chapter 3 Pluto Demoted Under New Definition of Planet	学生へのメッセージに記載のとおり
6	第 3 章後半と小テスト	Chapter 3	学生へのメッセージに記載のとおり
7	第 4 章前半 「ダライ・ラマへのインタビュー」	Chapter 4 The Dalai Lama Interview	学生へのメッセージに記載のとおり
8	第 4 章後半と小テスト	Lesson 4	学生へのメッセージに記載のとおり
9	第 5 章前半 「古代エジプト、数の世界」	Chapter 5 Egyptian Math	学生へのメッセージに記載のとおり
10	第 5 章後半と小テスト	Lesson 5	学生へのメッセージに記載のとおり
11	第 6 章前半 「従順ならざる日本人、白洲次郎の手紙」	Chapter 6 The Jeep Way Letter from Shirasu to General Whitney	学生へのメッセージに記載のとおり
12	第 6 章後半と小テスト	Lesson 6	学生へのメッセージに記載のとおり
13	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
14	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
15	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
			朝日出版
1	Wisdom Explorer	岩永道子、上村淳子、吉田澄子、吉岡みのり	朝日出版
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14 回のまとめテスト、復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ  
英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。

担当者の研究室等  
7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業、提出物、評価方法の説明	—————
	2	Unit1	be 動詞	教科書 p14-16
	3	Unit2	一般動詞 (現在)	教科書 p. 17-19
	4	Unit3	一般動詞 (過去)	教科書 p. 20-22
	5	Unit4	進行形	教科書 p. 23-25
	6	Unit5	未来形	教科書 p. 26-28
	7	Unit6	助動詞	教科書 p. 29-31
	8	Unit7	名詞、冠詞	教科書 p. 32-34
	9	Unit8	代名詞	教科書 p. 35-37
	10	Unit9	前置詞	教科書 p. 38-40
	11	Unit10	形容詞、副詞	教科書 p. 41-43
	12	Unit11	比較	教科書 p. 44-46
	13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	—————
	14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	—————
	15	総合復習	定期試験対策	—————

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%	
	全学共通英語課題 B	10%	
	定期試験		45%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	25%	

学生へのメッセージ  
「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！

担当者の研究室等  
7 号館 2 階非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: 自己紹介	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 9-12 練習問題を行うこと。
	2	Unit 2: 家族・ペット	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 13-16 練習問題を行うこと。
	3	Unit 3: 趣味	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 17-20 練習問題を行うこと。
	4	Unit 4: 大学生活	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 21-24 練習問題を行うこと。
	5	Unit 5: 食べ物	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 25-28 練習問題を行うこと。
	6	Unit 6: コンサート	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 29-32 練習問題を行うこと。
	7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 9-32 復習。
	8	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
	9	Unit 7: 道案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 33-36 練習問題を行うこと。
	10	Unit 8: 日本文化紹介	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 37-40 練習問題を行うこと。
	11	Unit 9: ジェスチャー	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 41-44 練習問題を行うこと。
	12	Unit 10: 観光案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 45-48 練習問題を行うこと。
	13	Unit 11: 航空券を Net で Get	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 49-52 練習問題を行うこと。
	14	Unit 12: E-mail を送る	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 53-57 練習問題を行うこと。
	15	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Study: Microwave ovens are cooking the environment	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 1-6 単語: NO. 1-30 事後: 前回単語不合格者再提出
3	Unit 2: Truck damages Peru's ancient Nazca Lines	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 7-12 単語: NO. 21-50 事後: 前回単語不合格者再提出
4	Unit 3: Firms struggle to secure IT workers	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 13-19 単語: NO. 41-70 事後: 前回単語不合格者再提出
5	Unit 4: Oxfam: Global automakers to speed up electrified vehicle rollout	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 20-24 単語: NO. 61-90 事後: 前回単語不合格者再提出
6	Unit 5: Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa water	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 25-30 単語: NO. 81-110 事後: 前回単語不合格者再提出
7	教科書 Unit 1-5 テスト	Unit 1~5 までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
8	中間試験解説及び評	演習	事前: 単語: NO. 101-130 事後: 前回単語不合格者再提出
9	Unit 6: SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 31-36 単語: NO. 121-150 事後: 前回単語不合格者再提出
10	Unit 7: Single-person households expected to hit 40% in 2040	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 37-42 単語: NO. 141-170 事後: 前回単語不合格者再提出
11	Unit 8: Govt plans to implement 'EdTech' for schools	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 43-48 単語: NO. 161-190 事後: 前回単語不合格者再提出
12	Unit 9: Universities help run cafeterias for low-income kids	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 49-54 単語: NO. 181-210 事後: 前回単語不合格者再提出
13	Unit 10: Tunisian schoolgirls rebel against uniforms	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 55-60 単語: NO. 201-230 事後: 前回単語不合格者再提出
14	教科書 Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前: Unit 6-10 復習 単語: NO. 221-248 事後: 前回単語不合格者再提出
15	教科書 Unit 6-10 テスト	Unit 6~10 までの内容について小テストを行う。	事前: Unit 6-10 テスト勉強 事後: 前回単語不合格者再提出

関連科目	他の英語科目
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World : English through Newspaper 2019	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概要説明	_____	_____
	2	Unit 7	分詞	演習
	3	Unit 7	分詞	演習
	4	Unit 8	動名詞	演習
	5	Unit 8	動名詞	演習
	6	Unit 9	形容詞	演習
	7	Unit 9	比較	演習
	8	Test	比較	演習
	9	Unit 10	関係詞	演習
	10	Unit 10	関係詞	演習
	11	Unit 11	仮定法	演習
	12	Unit 11	仮定法	演習
	13	Unit 12	Grammar Point の復習	授業の復習
	14	Unit 12	総合復習	_____
	15	Test	TOEIC 演習	_____

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Firsthand English 2	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ Do your best and enjoy the class

担当者の研究室等 7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鯨井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td>—————</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson 1 4</td> <td>分詞</td> <td>演習 1 4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson 1 5</td> <td>分詞</td> <td>演習 1 5</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson 1 6</td> <td>動名詞</td> <td>演習 1 6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson 1 7</td> <td>動名詞</td> <td>演習 1 7</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson 1 8</td> <td>形容詞</td> <td>演習 1 8</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson 1 9</td> <td>比較</td> <td>演習 1 9</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Lesson 2 0</td> <td>比較</td> <td>演習 2 0</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson 2 1</td> <td>関係詞</td> <td>演習 2 1</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson 2 2</td> <td>関係詞</td> <td>演習 2 2</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson 2 3</td> <td>仮定法</td> <td>演習 2 3</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson 2 4</td> <td>仮定法</td> <td>演習 2 4</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson 1 4 - 2 4</td> <td>Grammar Point の復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習</td> <td>総合復習</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プリント教材</td> <td>TOEIC 演習</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明	—————	—————	2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4	3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5	4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6	5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7	6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8	7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9	8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0	9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1	10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2	11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3	12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4	13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習	14	総合復習	総合復習	—————	15	プリント教材	TOEIC 演習	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	—————	—————																																																																
2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4																																																																
3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5																																																																
4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6																																																																
5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7																																																																
6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8																																																																
7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9																																																																
8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0																																																																
9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1																																																																
10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2																																																																
11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3																																																																
12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4																																																																
13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	—————																																																																
15	プリント教材	TOEIC 演習	—————																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Mastering Basic English Grammar</td> <td>Nagaki Kitayama</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明、実力テスト	事後学習：実力テストの見直し
2	Unit 1: A Look at Gold	単語テスト 金の歴史について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認
3	Unit 2: Daylight Savings	単語テスト 標準時間と夏時間について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認
4	Unit 3: Making Libraries	単語テスト 図書館について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認
5	Unit 4: Pyramid Tech	単語テスト ピラミッドについて ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認
6	Unit 5: Pigments	単語テスト 顔料について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認 中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの unit の総復習	事後学習： これまでの学習内容の総復習
8	Unit 6: Shopping Tech	単語テスト 未来型のショッピングについて ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認
9	Unit 7: Origami	単語テスト 折り紙について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認
10	Unit 8: Ice Cream	単語テスト アイスクリームについて ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング	事前学習： Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習： DVD をみて発音の確認

	11	Unit 9: Nigerian Women's Bobsled Team	を通して学ぶ 単語テスト ボブスレーについて ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習: Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習: DVD をみて発音の確認																
	12	Unit 10: Zoo Dog	単語テスト 動物について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習: Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習: DVD をみて発音の確認																
	13	Unit 11: Google Before Google	単語テスト グーグルについて ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習: Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習: DVD をみて発音の確認																
	14	Unit 12: 3D Food Printing	単語テスト 3D プリントについて ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	事前学習: Vocabulary より単語学習 Warming Up を解く 事後学習: DVD をみて発音の確認 期末テストの準備																
	15	期末テスト	これまでの unit の総復習	事後学習: これまでの授業内容の総復習																
関連科目	他の英語科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>CNN 10 Vol. 2-Student News-</td> <td>関戸冬彦 小暮正人 Jake Arnold Christopher Mattson 長和重</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CNN 10 Vol. 2-Student News-	関戸冬彦 小暮正人 Jake Arnold Christopher Mattson 長和重	朝日出版社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	CNN 10 Vol. 2-Student News-	関戸冬彦 小暮正人 Jake Arnold Christopher Mattson 長和重	朝日出版社																
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%																			
	学生へのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。</li> <li>・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。</li> <li>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。</li> <li>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。</li> <li>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</li> <li>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。（原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。）</li> <li>①から③が続く場合、単位を認めない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻は3回で1回の欠席とみなします。注意しましょう。</li> <li>・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを期待します。</li> </ul>																			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小倉 永慈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: Imagine / John Lennon	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.387-416 教科書: Unit 8
	2	Unit 8: Imagine / John Lennon	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.397-426 教科書: Unit 9
	3	Unit 9: I Need to Be in Love / The Carpenters	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.407-436 教科書: Unit 9
	4	Unit 9: I Need to Be in Love / The Carpenters	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.417-446 教科書: Unit 10
	5	Unit 10: Honesty / Billy Joel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.427-456 教科書: Unit 10
	6	Unit 10: Honesty / Billy Joel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.437-466 教科書: Unit 11
	7	Unit 11: Hotel California / Eagles	Unit 11~15 までの内容についてテスト	単語: NO.447-476 教科書: Unit 11
	8	Unit 11: Hotel California / Eagles	中間試験の詳しい解説	単語: NO.457-486 教科書: Unit 12
	9	Unit 12: I Just Called to Say I Love You / Stevie Wonder	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.467-496 教科書: Unit 12
	10	Unit 12: I Just Called to Say I Love You / Stevie Wonder	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.477-506 教科書: Unit 13
	11	Unit 13: Pride (In the Name of Love) / U2	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.487-516 教科書: Unit 13
	12	Unit 13: Pride (In the Name of Love) / U2	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.497-526 教科書: Unit 14
	13	Unit 14: Like a Virgin / Madonna	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.507-523 教科書: Unit 14
	14	Unit 14: Like a Virgin / Madonna	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 15
	15	Unit 15: Worlds Apart / Bruce Springsteen	単語小テスト及び教科書演習	教科書総復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソングス&カルチャー - ポップソングで学ぶ初級英語 - Enjoying English through Pop Songs	関戸冬彦 / 小林愛明 / 山中章子 / 吉田要	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	この授業ではポップソングを通して英語に触れます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 7 章前半 「太古の大陸は 1 つだった、ウェゲナーの大陸移動説」	Chapter 7 Wegener's Continental Drift	学生へのメッセージに記載のとおり
2	第 7 章後半と小テスト	Chapter 7	学生へのメッセージに記載のとおり
3	第 8 章前半 「ムハマド・ユヌス博士のノーベル平和賞受賞演説」	Chapter 8 Nobel Lecture by Muhammad Yunus	学生へのメッセージに記載のとおり
4	第 8 章後半と小テスト	Chapter 8	学生へのメッセージに記載のとおり
5	第 9 章前半 「感情についての科学的分析」	Chapter 9 Emotion	学生へのメッセージに記載のとおり
6	第 9 章後半と小テスト	Chapter 9	学生へのメッセージに記載のとおり
7	第 10 章前半 「戦場のピアニスト、究極の調べ」	Chapter 10 The Pianist	学生へのメッセージに記載のとおり
8	第 10 章後半と小テスト	Lesson 10	学生へのメッセージに記載のとおり
9	第 11 章前半 「ミトコンドリア・イブ、人類はたった 1 人のアフリカ人女性にたどり着く」	Chapter 11 Mitochondrial Eve	学生へのメッセージに記載のとおり
10	第 11 章後半と小テスト	Lesson 11	学生へのメッセージに記載のとおり
11	第 12 章前半 「世界を『無』から救う、終りのない物語」	Chapter 12 The Neverending Story	学生へのメッセージに記載のとおり
12	第 12 章後半と小テスト	Lesson 12	学生へのメッセージに記載のとおり
13	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
14	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
15	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり

関連科目 他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Wisdom Explorer	岩永道子、上村淳子、吉田澄子、吉岡みのり	朝日出版
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14 回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	—————
	2	Unit13	接続詞 (1)	教科書 p. 50-52
	3	Unit14	不定詞 (1)、動名詞 (1)	教科書 p. 53-55
	4	Unit15	受動態	教科書 p. 56-58
	5	Unit16	現在完了形	教科書 p. 59-61
	6	Unit17	接続詞 (2) (時勢の一致を含む) 等	教科書 p. 62-64
	7	Unit18	5 つの基本文型	教科書 p. 65-67
	8	Unit19	各種疑問文	教科書 p. 68-70
	9	Unit20	不定詞 (2)	教科書 p. 71-73
	10	Unit21	It の特別用法	教科書 p. 74-76
	11	Unit22	分詞、動名詞 (2)	教科書 p. 77-79
	12	Unit23	関係代名詞	教科書 p. 80-82
	13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	—————
	14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	—————
15	総合復習	定期試験対策	—————	

関連科目 他英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer <Revised Edition> 基礎からの英語入門 <改訂新版>	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	45%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	25%

学生へのメッセージ 「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！

担当者の研究室等 7 号館 2 階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 13 : 機内で	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 57-60 練習問題を行うこと。
	2	Unit 14 : 空港で	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 61-64 練習問題を行うこと。
	3	Unit 15 : ホテル	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 65-68 練習問題を行うこと。
	4	Unit 16 : レストランで	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 69-72 練習問題を行うこと。
	5	Unit 17 : ショッピング	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 73-76 練習問題を行うこと。
	6	Unit 18 : ベースボール	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 77-80 練習問題を行うこと。
	7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 57-80 復習。
	8	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
	9	Unit 19 : ミュージカル鑑賞	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 81-84 練習問題を行うこと。
	10	Unit 20 : 旅行案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 85-88 練習問題を行うこと。
	11	Unit 21 : トラブル・シューティング	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 89-92 練習問題を行うこと。
	12	Unit 22 : 体調不良	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 93-96 練習問題を行うこと。
	13	Unit 23 : 電話での申し込み	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 97-100 練習問題を行うこと。
	14	Unit 24 : さよなら、アメリカ!	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 101-104 練習問題を行うこと。
	15	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	Unit 11: English added to more school entrance exams	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.61-66 単語: NO.387-416	
2	Unit 12: International body OK's Japanese names for undersea features	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.67-72 単語: NO.397-426	事後:前回単語不合格者 再提出
3	Unit 13: Language schools eyed to prep Asian workers for Japan	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.73-78 単語: NO.407-436	事後:前回単語不合格者 再提出
4	Unit 14: Shopping app tested to reduce food loss	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.79-84 単語: NO.417-446	事後:前回単語不合格者 再提出
5	Unit 15: Saudi women score right to watch soccer in stadium	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.85-90 単語: NO.427-456	事後:前回単語不合格者 再提出
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	事前:単語: NO.437-466	事後:前回単語不合格者 再提出
7	中間テスト	Unit 11~15 までの内容についてテスト	事前:単語: NO.447-476	事後:前回単語不合格者 再提出
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前:単語: NO.457-486	事後:前回単語不合格者 再提出
9	Unit 16: Oxfam to focus on wealth gap at upcoming economic	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.91-96 単語: NO.467-496	事後:前回単語不合格者 再提出
10	Unit 17: Lack of oxygen hurting corals in world's oceans	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.97-102 単語: NO.477-506	事後:前回単語不合格者 再提出
11	Unit 18: Translation system eyed for '20 reads facial expressions	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.103-108 単語: NO.487-516	事後:前回単語不合格者 再提出
12	Unit 19: NASA seeks skiers to measure snowpack	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.109-114 単語: NO.497-526	事後:前回単語不合格者 再提出
13	Unit 20 : U.S. states promoting civil rights tourism	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.115-120 単語: NO.507-523	事後:前回単語不合格者 再提出
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前:教科書 Unit 16~20 までの	復習 事後:前回単語不合格者 再提出
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16~20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Meet the World: English through Newspaper 2019</td> <td>Yasuhiko Wakaari</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for The TOEIC Test</td> <td>NISHIYA Koji</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World: English through Newspaper 2019	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for The TOEIC Test	NISHIYA Koji	SEIBIDO	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Meet the World: English through Newspaper 2019	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO													
	2	The 1500 Core Vocabulary for The TOEIC Test	NISHIYA Koji	SEIBIDO													
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明	特になし
2	Unit 1 "It's the Titanic"	Be 動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
3	Unit 2 "A Floating Palace"	疑問文を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
4	Unit 3 Departure	助動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
5	Unit 4 Iceberg (1)	第 1 文型と第 2 文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
6	Unit 5 Iceberg (2)	第 3 文型と第 4 文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
7	Unit 6 Iceberg (3)	進行形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
8	Unit 7 Lifeboat	受動態を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
9	Unit 8 The Miracle of Philip Aks (1)	第 5 文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
10	Unit 9 The Miracle of Philip Aks (2)	第 5 文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
11	Unit 10 The Miracle of Philip Aks (3)	完了形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
12	Unit 11 Mr. Smith's "White Lie"	動名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
13	Unit 12 Together until the End of Their Lives (1)	不定詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
14	復習、まとめテスト	Unit 1-12 の復習 まとめテスト	予習 : Unit 1-12
15	まとめ	まとめテスト返却 解説	復習 : 間違った箇所の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村 啓子他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%

	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梶山 寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Lesson 1 An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	授業の進め方や評価基準についての説明 本文の読解と exercises の解説など	Lesson1 の下読み
	2	Lesson 2 Preparations for the 2020 Olympic Games in Tokyo	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 2 の下読み 問題の予習、復習
	3	Lesson 3 Do You Like to Watch Kabuki?	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 3 の下読み 問題の予習、復習
	4	Lesson 4 The Sapporo Snow Festival	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 4 の下読み 問題の予習、復習
	5	Lesson 5 Hiraizumi as the Buddhist Pure Land	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 5 の下読み 問題の予習、復習
	6	Lesson 6 Yokohama Port	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 6 の下読み 問題の予習、復習
	7	Lesson 7 Mt. Fuji	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 7 の下読み 問題の予習、復習
	8	Lesson 8 Omi Province and Its Military History	本文の読解と exercises の解説など 課題の出題	Lesson 8 の下読み 問題の予習、復習
	9	Lesson 9 The Deer in Nara	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 9 の下読み 問題の予習、復習 課題提出の準備
	10	Lesson 10 Kyoto Station	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 10 の下読み 問題の予習、復習
	11	Lesson 11 Let's Explore Osaka	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 11 の下読み 問題の予習、復習
	12	Lesson 12 Port City Kobe: A Phoenix Rises	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 12 の下読み 問題の予習、復習
	13	Lesson 13 Sand Dunes in Tottori	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 13 の下読み 問題の予習、復習
	14	Lesson 14 The Atomic Bomb Dome	本文の読解と exercises の解説など	Lesson 14 の下読み 問題の予習、復習
	15	Lesson 15 Dazaifu まとめのテスト	本文の読解など 学習確認のためのテストを実施	Lesson 15 の下読み テストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hospitality English	木戸美幸, Carolyn Wright 他	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A : 20% 全学共通英語課題 B : 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) : 70%
学生への	生きた英語を学ぶ楽しさを知ることも目標のひとつです。

メッセージ	積極的な授業参加を期待しています。 辞書を持参し、予習・復習を欠かさないようにしましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14 回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 簡単な小テスト Unit 1	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 精読テキスト Unit 1 を始める	下読みと単語調べ、, exercise の予習
	2	1 An Accident	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	3	2 Did You See Anything?	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	4	3 The Bryson Engineering Company	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	5	4 An Interview	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	6	5 The Police Are puzzled.	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	7	6 Two Witnesses	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	8	中間テスト	前半の既習内容の確認テスト	テスト勉強
	9	7 The Car Driver	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	10	8 Office Security	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	11	9 Her Memory Is Coming Back!	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	12	10 Is Ted Bryson a Criminal?	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	13	11 Who Is She?	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	14	12 Do You Realize Who You Are?	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	15	期末テスト	後半の既習内容の確認テスト	テスト勉強

関連科目	英語 I d
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kickoff English Mystery	Terry O' brien / 三原京 他 2 名	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、小テスト、中間及び期末テスト等 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。予習をしっかりとしましょう。積極的な授業参加を期待します。 英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業運営、評価基準の説明	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
2	Topic 7 Global Warming	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
3	Topic 7 Global Warming	リーディング 2 の読解 ライティングとプレゼンテーション 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
4	Topic 8 Energy	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
5	Topic 8 Energy	リーディング 2 の読解 ライティングとプレゼンテーション 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
6	Topic 11 International Relationships	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
7	Topic 11 International Relationships	リーディング 2 の読解 ライティングとプレゼンテーション 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
8	中間の確認テスト	授業で扱った内容の確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
9	Topic 12 War and Peace	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
10	Topic 12 War and Peace	リーディング 2 の読解 ライティングとプレゼンテーション 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
11	Topic 13 Human Rights	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
12	Topic 13 Human Rights	リーディング 2 の読解 ライティングとプレゼンテーション 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
13	Topic 14 Global Citizenship	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
14	Topic 14 Global Citizenship	リーディング 2 の読解 ライティングとプレゼンテーション 確認テスト	まとめのテストの準備
15	まとめテスト	授業で扱った内容を確認するテスト	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で学ぶ国際問題	笹島茂 他	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指)	西谷 恒志	成美堂

	3	定の単語集)		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	世界を取り巻く文化や社会の問題を扱ったテキストを使用します。日本語でもアクセスできる情報を使いながら、より効果的に英語を学びます。英語で簡単な説明やプレゼンテーションができるようにすることも目的としています。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: 自己紹介	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 9-12 練習問題を行うこと。
	2	Unit 2: 家族・ペット	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 13-16 練習問題を行うこと。
	3	Unit 3: 趣味	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 17-20 練習問題を行うこと。
	4	Unit 4: 大学生活	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 21-24 練習問題を行うこと。
	5	Unit 5: 食べ物	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 25-28 練習問題を行うこと。
	6	Unit 6: コンサート	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 29-32 練習問題を行うこと。
	7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 9-32 復習。
	8	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
	9	Unit 7: 道案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 33-36 練習問題を行うこと。
	10	Unit 8: 日本文化紹介	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 37-40 練習問題を行うこと。
	11	Unit 9: ジェスチャー	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 41-44 練習問題を行うこと。
	12	Unit 10: 観光案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 45-48 練習問題を行うこと。
	13	Unit 11: 航空券を Net で Get	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 49-52 練習問題を行うこと。
	14	Unit 12: E-mail を送る	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 53-57 練習問題を行うこと。
	15	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1 This is Our Company	be 動詞の変化・役割 (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
3	Unit 1 This is Our Company	be 動詞の変化・役割 (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
4	Unit 2 A Taste of Italy!	be 動詞否定・疑問 (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
5	Unit 2 A Taste of Italy!	be 動詞否定・疑問 (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
6	Unit 3 Which Floor?	一般動詞現在形 (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
7	Unit 3 Which Floor?	一般動詞現在形 ((リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
8	Unit 4 Frequently Asked Questions	一般動詞否定・疑問文 (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
9	Unit 4 Frequently Asked Questions	一般動詞否定・疑問文 (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
10	Unit 5 His Sundays, Her Hobbies	3 人称単数現在 (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
11	Unit 5 His Sundays, Her Hobbies	3 人称単数現在 (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
12	Unit 6 A Happy President	3 人称単数現在否定・疑問 (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リンガポルタ課題 ATR-CALL 課題
13	Unit 7 Popular Products	代名詞 (語彙、文法、リーディング)	テキストの単語の確認と予習・復習 ATR-CALL 課題
14	Unit 1 から Unit 6 までの復習	前期まとめテストと解説	テストを中心とした復習 ATR-CALL 課題
15	前期の総括	基礎的な語彙と文法を中心とした前期の総復習	前期の総復習 ATR-CALL 課題

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Good Choice!	津村修志他 6 名	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、レポート、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	--

学生へのメッセージ テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習し、英和辞書は毎回携帯すること。

担当者の研究室等 7 号館 2 階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	—————
	2	Unit1	be 動詞、現在	教科書 p. 6-9
	3	Unit2	一般動詞、現在	教科書 p. 10 - 13
	4	Unit3	多様な疑問文	教科書 p. 14-17
	5	Unit4	be 動詞、過去	教科書 p. 18-21
	6	Unit5	一般動詞、過去	教科書 p. 22-25
	7	Unit6	特殊な文	教科書 p. 26-29
	8	Unit 7	未来形	教科書 p. 30-33
	9	Unit8	進行形	教科書 p. 34-37
	10	Unit9	助動詞	教科書 p. 38-41
	11	Unit10	英文の型	教科書 p. 42-45
	12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
	13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
	14	総合復習 1	定期試験対策	—————
15	総合復習 2	定期試験対策	—————	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 45% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 25%
-----------	---

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤岡 真樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」、「聴く」だけでなく、「書く」、「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業をおこないます。4 技能の基礎力を固め、長文読解に向けた基礎力を養成すること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことが、本授業の目的です。
到達目標	1. 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになること。 2. ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになること。 3. 同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになること。 4. 前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになること。 5. PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむこと。 6. 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむこと。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となります。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了するようにしてください。 また、3 回を超える欠席のあった学生には原則として単位を認めないので注意してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法についての説明 基礎的な文法事項の確認	なし
2	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 524-602 の暗記。
3	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 603-680 の暗記。
4	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 681-753 の暗記。
5	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History: の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 754-833 の暗記。
6	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 834-916 の暗記。
7	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読んでくる。 WORD BOOK, 524-641 の復習 (1)。
8	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 642-753 の復習 (1)。
9	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 754-916 の復習 (1)。
10	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 524-641 の復習 (2)。
11	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 642-753 の復習 (2)。
12	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 754-916 の復習 (2)。
13	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 524-916 の総復習 (1)。
14	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 これまでの復習を行う。	単語テスト Unit 1, 3, and 5 の復習	Unit 1, 3, and 5 の復習をしてくる。 WORD BOOK, 524-916 の総復習 (2)。

	15	長文読解に向けた基礎的能力を養う。	単語テスト Unit 1, 3, and 5 の復習	Unit 1, 3, and 5 の復習をしてくる。 WORD BOOK, 524-916 の総復習 (3)。
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What's Happening USA	Braven Smillie and 土屋武久編	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A : 20%、全学共通英語課題 B : 10%、定期試験 : 40% 授業への参加、貢献 (授業内単語テストを含む) : 30%			
学生への メッセージ	英語の習得において、多くの単語の暗記や文法の理解は不可欠です。そして、この授業の毎回の課題も決して「楽」ではないでしょう。しかし、それを乗り越えたところには、英語を読む「楽しさ」があります。その楽しさを感じることでできる力を身につけることができるよう、共に頑張りましょう。  (注意点) 授業を円滑に進めるためにも予習は必ずおこなってください。予習を怠った場合には「授業への参加、貢献」の点数を大幅に減点します。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とします。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でおこないます。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明	特になし
2	Unit 13 Together until the End of Their Lives (2)	不定詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
3	Unit 14 The Californian	分詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
4	Unit 15 The Carpathia	名詞節と副詞節を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
5	Unit 16 Radio Officers	分詞構文を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
6	Unit 17 Firemen	関係代名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
7	Unit 17-2 Firemen	関係代名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
8	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	関係副詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
9	Unit 18-2 Eight Courageous Musicians (1)	関係副詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
10	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	比較を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
11	Unit 20 Only 705 Survivors	比較を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
12	Unit 21 If Only...	仮定法を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
13	Unit 21-2 If Only...	仮定法を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
14	復習、まとめテスト	Unit 13-21 の復習 まとめテスト	予習: Unit 13-21
15	まとめ	まとめテスト返却 解説	復習: 間違った箇所の復習

関連科目													
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Voyage</td> <td>木村 啓子他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Voyage	木村 啓子他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	番号	書籍名	著者名	出版社名									
1	First Voyage	木村 啓子他	南雲堂										
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂										
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1							
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1													
評価方法 (基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%						
全学共通英語課題 A	20%												
全学共通英語課題 B	10%												
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%												
学生へのメッセージ													
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)												
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。												

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	梶山 寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 My heart will go on	授業の進め方や評価基準についての説明 「My heart will go on」 聞き取り	Unit 1 の下読み
	2	Unit 1 の続き My heart will go on	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 1 の下読み 読解問題の予習、復習
	3	Unit 2 Open arms	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 2 の下読み 読解問題の予習、復習
	4	Unit 3 Life	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 3 の下読み 読解問題の予習、復習
	5	Unit 4 Don't Look Back In Anger	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 4 の下読み 読解問題の予習、復習
	6	Unit 5 A Whole New World	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 5 の下読み 読解問題の予習、復習
	7	Unit 6 I Don't Want To Miss A Thing	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 6 の下読み 読解問題の予習、復習
	8	Unit 7 Review	前半のまとめと復習問題 課題の出題	Unit 7 の下読み 読解問題の予習、復習
	9	Unit 8 The stranger	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 8 の下読み 読解問題の予習、復習 課題提出の準備
	10	Unit 9 Hey now	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 9 の下読み 読解問題の予習、復習
	11	Unit 10 Every time I close my eyes	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 10 の下読み 読解問題の予習、復習
	12	Unit 11 Kiss of life	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 11 の下読み 読解問題の予習、復習
	13	Unit 12 All I want for Christmas is you	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 12 の下読み 読解問題の予習、復習
	14	Unit 13 Livin' la vida loca	歌の聞き取り 文法、異文化トピックスに関するテキストの読解と解説など	Unit 13 の下読み 読解問題の予習、復習
	15	Unit 14 Review 2	後半のまとめと復習問題	Unit 14 の下読み 読解問題の予習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English with Hit Songs -New Edition-	角山照彦、Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A : 20% 全学共通英語課題 B : 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) : 70%
学生への メッセージ	有名なポップスを題材に、生きた英語を楽しく学びましょう。 積極的な授業参加を期待しています。 辞書を持参し、予習・復習を欠かさないようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14 回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ  
英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。

担当者の研究室等  
7 号館 2 階非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 簡単な小テスト Chapter 1	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 精読テキスト Chapter 1 を始める	下読みと単語調べ、, exercise の予習
	2	1 What Non-Japanese People Expect from Japan	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	3	2 What Inbound Tourists Expect from Japanese People	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	4	3 Productive Intercultural Interactions	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	5	4 Utilizing Silence and Space in Japanese Culture	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	6	5 The Needs of Hotel Guests	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	7	6 Clear Messages in a Lawsuit Society	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	8	中間テスト	前半の既習内容の確認テスト	テスト勉強
	9	7 Information Wars	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	10	8 A Victor in Information Wars-1	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	11	9 A Victor in Information Wars-2	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	12	10 Falling Occupations and Rising Occupations	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	13	11 Fair Survey	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	14	12 Diversifying Risks	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習
	15	期末テスト	後半の既習内容の確認テスト	テスト勉強

関連科目	英語 I d
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Coping with Globalization 「総合英語ーグローバル化への対処」	小林純子 / Brian Bond	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、小テスト、中間及び期末テスト等 60%
-----------	---

学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。予習をしっかりとしましょう。積極的な授業参加を期待します。 英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の運営と評価基準の説明 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
2	Topic 1 Stereotypes and Racism	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
3	Topic 1 Stereotypes and Racism	リーディング 2 の読解 ライティング 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
4	Topic 2 Information and Communication	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
5	Topic 2 Information and Communication	リーディング 2 の読解 ライティング 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
6	Topic 3 Culture and Fashion	リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2	事後学習：確認テストの準備 事前学習：次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
7	Topic 3 Culture and Fashion	リーディング 2 の読解 ライティング 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
8	中間の確認テスト	授業で扱った内容のまとめ プレゼンテーション原稿の提出	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
9	Topic 4 Health	プレゼンテーション 1 リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
10	Topic 4 Health	リーディング 2 の読解 ライティング 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
11	Topic 5 Food	プレゼンテーション 1 リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 プレゼンテーション	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
12	Topic 5 Food	リーディング 2 の読解 ライティング プレゼンテーション 確認テスト	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
13	Topic 6 A Sound Material-Cycle Society	プレゼンテーション 1 リスニング ディスカッション リーディング 1 リーディング 2 プレゼンテーション	次回の授業で取り上げる教科書の範囲でわからない単語や語句を調べておく
14	Topic 6 A Sound Material-Cycle Society	リーディング 2 の読解 ライティング プレゼンテーション 確認テスト	テストの準備
15	まとめテスト	授業で扱った内容の総合的な確認テスト プレゼンテーション原稿の提出	

関連科目	
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>CLIL 英語で学ぶ国際問題</td> <td>笹島茂 他</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CLIL 英語で学ぶ国際問題	笹島茂 他	三修社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	CLIL 英語で学ぶ国際問題	笹島茂 他	三修社														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>全学共通英語課題 A 20%</p> <p>全学共通英語課題 B 10%</p> <p>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%</p>																
学生への メッセージ	<p>世界を取り巻く社会や文化的問題を扱ったテキストを使いながら、英語を学びます。英語で簡単な説明やプレゼンテーションができるようにすることも目的としています。</p> <p>授業の進度は、上記の表を目安としますが、開講後、クラスの様子を見て、必要があれば調整します。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>																

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 13 : 機内で	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 57-60 練習問題を行うこと。
	2	Unit 14 : 空港で	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 61-64 練習問題を行うこと。
	3	Unit 15 : ホテル	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 65-68 練習問題を行うこと。
	4	Unit 16 : レストランで	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 69-72 練習問題を行うこと。
	5	Unit 17 : ショッピング	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 73-76 練習問題を行うこと。
	6	Unit 18 : ベースボール	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 77-80 練習問題を行うこと。
	7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 57-80 復習。
	8	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
	9	Unit 19 : ミュージカル鑑賞	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 81-84 練習問題を行うこと。
	10	Unit 20 : 旅行案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 85-88 練習問題を行うこと。
	11	Unit 21 : トラブル・シューティング	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 89-92 練習問題を行うこと。
	12	Unit 22 : 体調不良	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 93-96 練習問題を行うこと。
	13	Unit 23 : 電話での申し込み	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 97-100 練習問題を行うこと。
	14	Unit 24 : さよなら、アメリカ!	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 101-104 練習問題を行うこと。
	15	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 8 Save Money!	助動詞 (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習
3	Unit 8 Save Money!	助動詞 (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
4	Unit 9 An Email from South Korea	WH 疑問文 [when, where, what] (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
5	Unit 9 An Email from South Korea	WH 疑問文 [when, where, what] (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
6	Unit 10 It' a Deal!	how many, how much [加算・不可算名詞] (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
7	Unit 10 It' a Deal!	how many, how much [加算・不可算名詞] (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
8	Unit 11 Please Use the Stairs	現在進行形、be going to (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
9	Unit 11 Please Use the Stairs	現在進行形、be going to (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
10	Unit 12 Changes!	there is, there are (語彙、文法)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
11	Unit 12 Changes!	there is, there are (リーディング、リスニング、スピーキング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
12	Unit 13 Christmas Sale!	動詞の過去形 [一般動詞の規則・不規則変化] (語彙、文法、リーディング)	テキストの単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
13	Unit 14 Customer Survey	動詞の過去形否定・疑問文 (文法、リーディング)	テキストの単語の確認と予習・復習 ATR-CALL 課題
14	Unit 8 から Unit 14 までの復習	後期まとめテストと解説	テストを中心とした復習 ATR-CALL 課題
15	後期の総括	基礎的な語彙と文法を中心とした後期の総復習	後期の総復習 ATR-CALL 課題

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Good Choice!	津村修志他 6 名	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、レポート、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	--

学生へのメッセージ テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習し、英和辞書は毎回携帯すること。

担当者の研究室等 7 号館 2 階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤岡 真樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」、「聴く」だけでなく、「書く」、「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業をおこないます。4 技能の基礎力を固め、長文読解に向けた基礎力を養成すること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことが、本授業の目的です。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになること。</li> <li>2. ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになること。</li> <li>3. 同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになること。</li> <li>4. 前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになること。</li> <li>5. PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむこと。</li> <li>6. 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむこと。</li> </ol>
授業方法と留意点	演習型の授業をおこなうので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となります。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了するようにしてください。また、3 回を超える欠席のあった学生には原則として単位を認めないので注意してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法についての説明 基礎的な文法事項の確認	なし
2	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-999 の暗記。
3	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1000-1079 の暗記。
4	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1080-1176 の暗記。
5	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1177-1257 の暗記。
6	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-1257 の復習 (1)。
7	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1258-1338 の暗記。
8	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1339-1419 の暗記。
9	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1420-1500 の暗記。
10	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1258-1500 の復習 (1)。
11	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-1257 の復習 (2)。
12	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1258-1500 の総復習 (2)。
13	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-1500 の総復習 (1)。
14	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 これまでの復習を行う。	単語テスト Unit 8, 11, and 12 の復習	Unit 8, 11, and 12 の復習をしておく。 WORD BOOK, 917-1500 の総復習 (2)。
15	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 これまでの復習を行う。	単語テスト Unit 8, 11, and 12 の復習	Unit 8, 11, and 12 の復習をしておく。 WORD BOOK, 917-1500 の総復習 (3)。

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What' Happening USA	Braven Smillie and 土屋武久編	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A : 20%、全学共通英語課題 B : 10%、定期試験 : 40% 授業への参加、貢献 (授業内単語テストも含む) : 30%			
学生への メッセージ	<p>英語の習得において、多くの単語の暗記や文法の理解は不可欠です。そして、この授業の毎回の課題も決して「楽」ではないでしょう。しかし、それを乗り越えたところには、英語を読む「楽しさ」があります。その楽しさを感じることでできる力を身につけることができるよう、共に頑張きましょう。</p> <p>(注意点) 授業を円滑に進めるためにも予習は必ずおこなってください。予習を怠った場合には「授業への参加、貢献」の点数を大幅に減点します。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とします。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でおこないます。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Smart Choice textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けれない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果(資格)	...

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	...

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1, Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press: ISBN 978-0-19-46024-8
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).
----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	DEGH I
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Passport textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けれない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果 (資格)	...

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習	Feedback session	...

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 (Second Edition)	Angela Buckingham/Lewis Lansford	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471822-6
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	BC
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディチコ ニック
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Smart Choice textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けれない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果(資格)	...																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction オリエンテーション テキスト</td> <td>Introduction exercises</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習セッション</td> <td>Feedback session</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	...
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	...																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 1, Third Edition</td> <td>Ken Wilson</td> <td>Oxford University Press: ISBN 978-0-19-46024-8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 1, Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press: ISBN 978-0-19-46024-8	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Smart Choice 1, Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press: ISBN 978-0-19-46024-8																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).																																																																		
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Smart Choice 1 textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First semester test review</td> <td>Review of first semester test</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習セッション</td> <td>Feedback session</td> <td>・・・</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 1</td> <td>Ken Wilson</td> <td>OXFORD University Press ISBN 978-0-19-46 0 2 4 - 8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 1	Ken Wilson	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-46 0 2 4 - 8	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Smart Choice 1	Ken Wilson	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-46 0 2 4 - 8																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).																																																																		
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	BC
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディチコ ニック
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Passport textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First semester test review</td> <td>Review of first semester test</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習セッション</td> <td>Feedback session</td> <td>・・・</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>PASSPORT 1 (Second Edition)</td> <td>Angela Buckingham/Lewis Lansford</td> <td>OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471816-5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	PASSPORT 1 (Second Edition)	Angela Buckingham/Lewis Lansford	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471816-5	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	PASSPORT 1 (Second Edition)	Angela Buckingham/Lewis Lansford	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471816-5																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).																																																																		
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	DEGH I
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Passport textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けれない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果 (資格)	...

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	まとめテストと復習	Feedback session	...

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 (Second Edition)	Angela Buckingham/Lewis Lansford	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471822-6
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	ABCD
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。コンピュータとインターネットについて理解し、情報モラルとマナーを認識する。実用的なアプリケーションソフトを利用して、情報収集、情報加工、集計、資料作成ができることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①インターネットを利用した情報収集ができること、②インターネット社会の危険性について説明できること、③Word、Excelを使って情報の加工、集計、資料の作成ができることが期待される。
授業方法と留意点	授業は教科書に沿って演習形式で行う。授業の出席と課題提出は必須である。 毎授業のはじめに5分程度タイピング練習を入れる。 第4回目はインターネット検索で得た情報について、ディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について、学内ネットワーク説明、タッチタイピングの紹介	事後：自宅から学校サーバーへのアクセスを試みる (20分)
2	パソコンの概要	パソコンの歴史と仕組み、日本語入力とファイル管理	事前：教科書第1章の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
3	インターネットの活用	インターネットによる情報検索	事前：教科書第2章1の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
4	情報モラルとセキュリティ	インターネット利用の注意事項、インターネット利用のマナー	事前：教科書第2章2の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
5	文書作成 (1)	Wordの基礎知識、文書の作成	事前：教科書第3章1,2の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
6	文書作成 (2)	画像の挿入、図の作成	事前：教科書第3章3の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
7	文書作成 (3)	表の作成	事前：教科書第3章3の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
8	前半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60分)
9	文書作成・応用	論文やレポート作成のためのWord技術	事前：教科書第3章4の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
10	表計算 (1)	Excelの基礎知識、基本操作、データの入力	事前：教科書第5章1,2の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
11	表計算 (2)	表の作成、セルの書式設定、計算・集計	事前：教科書第5章2,3の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
12	表計算 (3)	関数の利用	事前：教科書第5章4の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
13	表計算 (4)	グラフの作成	事前：教科書第5章5の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
14	表計算 (5)	データの並び替えと抽出、ピボットテーブル	事前：教科書第5章6の確認 (10分) 事後：演習課題 (30分)
15	後半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60分)

関連科目	情報処理 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows10・Office2016による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (30%)、確認テスト (60%)、タイピングの練習状況、授業への参加状況 (10%) の合計によって評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11号館8階 (橋本講師室)
備考	事後演習課題の解説は、次の授業時に解説を行う。(Moodleに掲載するなど別の方法をとることもある)

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	EGHI
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。コンピュータとインターネットについて理解し、情報モラルとマナーを認識する。実用的なアプリケーションソフトを利用して、情報収集、情報加工、集計、資料作成のスキル獲得を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①インターネットを利用した情報収集ができるようになること、②インターネット社会の危険性について説明できるようになること、③Word、Excel を使って情報の加工、集計、資料の作成ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は教科書に沿って演習形式で行う。授業の出席と課題提出は必須である。 毎授業のはじめに 5 分程度タイピング練習を入れる。 第 4 回目はインターネット検索で得た情報について、ディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について、学内ネットワーク説明、タッチタイピングの紹介	事後：自宅から学校サーバーへのアクセスを試みる (20 分)
2	パソコンの概要	パソコンの歴史と仕組み、日本語入力とファイル管理	事前：教科書第 1 章の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
3	インターネットの活用	インターネットによる情報検索	事前：教科書第 2 章 1 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
4	情報モラルとセキュリティ	インターネット利用の注意事項、インターネット利用のマナー	事前：教科書第 2 章 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
5	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書の作成	事前：教科書第 3 章 1, 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
6	文書作成 (2)	画像の挿入、図の作成	事前：教科書第 3 章 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
7	文書作成 (3)	表の作成	事前：教科書第 3 章 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
8	前半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60 分)
9	文書作成・応用	論文やレポート作成のための Word 技術	事前：教科書第 3 章 4 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
10	表計算 (1)	Excel の基礎知識、基本操作、データの入力	事前：教科書第 5 章 1, 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
11	表計算 (2)	表の作成、セルの書式設定、計算・集計	事前：教科書第 5 章 2, 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
12	表計算 (3)	関数の利用	事前：教科書第 5 章 4 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
13	表計算 (4)	グラフの作成	事前：教科書第 5 章 5 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
14	表計算 (5)	データの並び替えと抽出、ピボットテーブル	事前：教科書第 5 章 6 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
15	後半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60 分)

関連科目	情報処理 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (30%)、確認テスト (60%)、タイピングの練習状況、授業への参加状況 (10%) の合計によって評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階 (寺内研究室)
備考	事後演習課題のポイントを次の授業時に概説する。(Moodle に掲載するなど別の方法をとることもある)

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	ABCD
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	J1L1310a1		

授業概要・目的	この授業ではレポート作成やプレゼンテーションに必要な情報スキルを習得する。前半は Word によるレポート・論文ツールの技法と Web によるプレゼンテーションツールの活用法を学習する。後半は PowerPoint の基本操作を学習し、資料の作成方法を学習する。学習した情報スキルをレポート・論文作成、プレゼンテーションに活用できる力を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①Word、Excel の機能を活用してレポート・論文を作成できること、②PowerPoint を使って、自在に提示資料やプレゼンテーション資料の準備ができることが期待される。
授業方法と留意点	授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果(資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフトオフィスソフトスペシャリスト (MOS) などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション データ集計・グラフ作成	受講・評価について タイピングの練習 Excel の簡単な操作	事後：演習課題の復習 (30 分)
2	文書作成の応用技術	ソフトウェア間のデータ共有 (Excel データと Word 文書)	事前：教科書第 6 章確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
3	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用 (図表 番号の管理)	事前：教科書第 3 章 4 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
4	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用 (目次 作成)	事前：教科書第 3 章 4 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
5	Web プレゼンツールによる表現	Prezi の登録、使い方	事後：演習課題 (30 分)
6	Web プレゼンツールによる表現	Prezi を使ってみる	事後：演習課題 (30 分)
7	Web プレゼンツールによる表現	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：演習課題 (30 分)
8	確認テスト	小テストと解説	事前：7 回目までの演習課題の確認 (60 分)
9	PowerPoint による表現	スライド作成方法	事前：教科書第 4 章 1 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
10	PowerPoint による表現	グラフィックの利用	事前：教科書第 4 章 2 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
11	PowerPoint による表現	アウトラインの利用	事前：教科書第 4 章 3 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
12	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：課題検討、作成 (60 分)
13	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：課題検討、作成 (60 分)
14	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認 (60 分)
15	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認 (60 分)

関連科目	情報処理Ⅰ
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、 杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業中の提出課題 (30%)、小テスト+課題制作+発表 (60%)、タイピング練習状況+授業への参加状況 (10%) の合計によって評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階 (橋本講師室)
備考	事後演習課題の解説は、次の授業時に解説を行う。(Moodle に掲載するなど別の方法をとることもある)

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E G H I
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	J1L1310a1		

授業概要・目的	この授業ではレポート作成やプレゼンテーションに必要な情報スキルを習得する。前半は Word によるレポート・論文ツールの技法と Web によるプレゼンテーションツールの活用法を学習する。後半は PowerPoint の基本操作を学習し、資料の作成方法を学習する。学習した情報スキルをレポート・論文作成、プレゼンテーションに活用できる力の獲得を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①Word、Excel の機能を活用してレポート・論文を作成できるようになること、②PowerPoint を使って、自在に提示資料やプレゼンテーション資料の準備および発表ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果(資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフトオフィスソフトスペシャリスト (MOS) などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション データ集計・グラフ作成	受講・評価について タイピングの練習 Excel の簡単な操作	事後：演習課題の復習 (30分)
2	文書作成の応用技術	ソフトウェア間のデータ共有 (Excel データと Word 文書)	事前：教科書第 6 章確認 (20分) 事後：演習課題 (30分)
3	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用 (図表 番号の管理)	事前：教科書第 3 章 4 確認 (20分) 事後：演習課題 (30分)
4	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用 (目次 作成)	事前：教科書第 3 章 4 確認 (20分) 事後：演習課題 (30分)
5	Web プレゼンツールによる表現	Prezi の登録、使い方	事後：演習課題 (30分)
6	Web プレゼンツールによる表現	Prezi を使ってみる	事後：演習課題 (30分)
7	Web プレゼンツールによる表現	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の 作成	事後：演習課題 (30分)
8	確認テスト	小テストと解説	事前：7 回目までの演習課題の確認 (60分)
9	PowerPoint による表現	スライド作成方法	事前：教科書第 4 章 1 確認 (20分) 事後：演習課題 (30分)
10	PowerPoint による表現	グラフィックの利用	事前：教科書第 4 章 2 確認 (20分) 事後：演習課題 (30分)
11	PowerPoint による表現	アウトラインの利用	事前：教科書第 4 章 3 確認 (20分) 事後：演習課題 (30分)
12	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の 作成	事後：課題検討、作成 (60分)
13	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の 作成	事後：課題検討、作成 (60分)
14	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの 発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認 (60分)
15	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの 発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認 (60分)

関連科目	情報処理Ⅰ
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、 杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業中の提出課題 (30%)、小テスト+課題制作+発表 (60%)、タイピング練習状況+授業への参加状況 (10%) の合計によって評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階 (寺内研究室)
備考	前回のポイントを次回の演習の冒頭で概説する。

科目名	スポーツ科学概論	科目名(英文)	Introduction to Sports Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1311a1		

授業概要・目的	運動およびスポーツ活動は私たちの健康づくりにおいて欠かせない要素である。また運動やスポーツの効果を最大限に発揮するためには、運動時の身体の変化についての知識を身につける必要がある。本授業では、身体のしくみを理解し、運動(スポーツ)により私たちの心身がどのように変化するかについて科学的根拠に基づいた基礎知識を修得する。授業担当者は、医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有患者に対する運動と健康あるいは病気との関わりについて、対話を通して理解を深めてきた。これらのことを本授業に活用し、スポーツ科学の基礎についてわかりやすい授業を行う。
到達目標	身体の形態・機能およびスポーツによるそれらの変化について、正しく理解することができる。 スポーツパフォーマンス向上を目指すために必要な基礎知識を修得できる。 心身の健康の保持・増進に向けたスポーツの役割を理解することができる。
授業方法と留意点	レジュメを配布する。 次回のテーマに沿った課題を課す。 予習内容に沿ってグループワークを行う。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事後学習時間 30分)
2	身体づくり	中学・高校で既知の身体づくりについて復習する。身体づくりについて正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
3	身体を動かすしくみー筋・骨格系ー	身体が活動する際、骨や筋肉はどのように動くか、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
4	身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内の働きと、恒常性について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
7	体組成(筋肉・脂肪・骨)とエクササイズ	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
8	全身持久力とエクササイズ	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
9	発育・発達と運動	発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
10	老化と運動	老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
12	運動時の体温調節と水分補給	運動時における体温の変化について、メカニズムと調整方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
13	スポーツと貧血	スポーツ性貧血について、その原因と、予防・対応法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
14	運動障害と予防、応急処置	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法、応急処置について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
15	スポーツ時における体調管理	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 (事前・事後学習時間 60分)

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験(30%)、課題(30%)、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物(40%)により評価する。 100点中60点で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館1階 藤林研究室			
備考				

科目名	スポーツ科学実習 I a	科目名 (英文)	Practice of Sports Science Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美, 横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1312a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。安全配慮のため、A?F クラスのコースと GH クラスのコースに分ける。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事後：本実習の理解を深める（30分）
2	体力測定①	・屋外種目	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
3	体力測定②	・屋内種目	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
6	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
7	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
8	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
9	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）

関連科目 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習 I b	科目名 (英文)	Practice of Sports Science Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1313a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習 I で培った基礎的な技術に応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第 1 回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。安全配慮のため、A?F クラスのコースと GH クラスのコースに分ける。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事後：本実習の理解を深める（30分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	活動点 5 0%、態度点 2 5%、技能点 2 5%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1 F 体育館事務室へ来ること。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）
----	-------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱa	科目名(英文)	Practice of Sports Science IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2314a1		

**授業概要・目的**  
 スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。  
 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。

**到達目標**  
 この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

**授業方法と留意点**  
 実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。  
 開講種目は、以下のとおりである。  
 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）  
 ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど）  
 ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。安全配慮のため、A?FクラスのコースとGHクラスのコースに分ける。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。

**科目学習の効果(資格)**  
 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）

**関連科目**  
 スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

**評価方法(基準)**  
 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。  
 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

**学生へのメッセージ**  
 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。  
 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室に来ること。

**担当者の研究室等**  
 体育館1F 体育館事務室

**備考**  
 【準備物】  
 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱb	科目名(英文)	Practice of Sports Science IIB
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2315a1		

**授業概要・目的**  
 スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。  
 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。

**到達目標**  
 この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

**授業方法と留意点**  
 実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。  
 開講種目は、以下のとおりである。  
 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)  
 ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど)  
 ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。安全配慮のため、A?FクラスのコースとGHクラスのコースに分ける。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。

**科目学習の効果(資格)**  
 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する(30分)	事後: 本実習の理解を深める(30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく(30分)	事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分)
3	・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
4	・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
5	・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
6	・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
7	・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎知識を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 内容の振り返り(30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分)	事後: 全授業の総括(30分)

**関連科目**  
 スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

**評価方法(基準)**  
 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。  
 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

**学生へのメッセージ**  
 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。  
 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室に来ること。

**担当者の研究室等**  
 体育館1F 体育館事務室

**備考**  
 【準備物】  
 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との関係に応じて話せる／書ける。</li> <li>・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用</td> <td>様々なコミュニケーションの形式の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの書き方 1</td> <td>Eメールの基本</td> <td>Eメールで使われる形式、表現等の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの書き方 2</td> <td>レポート提出のメール</td> <td>レポート提出に必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメールの書き方 3</td> <td>依頼メール 1</td> <td>依頼メールに必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメールの書き方 4</td> <td>依頼メール 2</td> <td>依頼メールの書き方の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメールの書き方 5</td> <td>問い合わせ／質問メール</td> <td>問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>話し方 1</td> <td>話題の変え方</td> <td>話題を変える時に必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>話し方 2</td> <td>話の終わらせ方</td> <td>話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>話し方 3</td> <td>話の広げ方</td> <td>話の広げ方で必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自己PR 1</td> <td>自己PR とは何か</td> <td>自己PR で必要な項目を復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自己PR 2</td> <td>自己PR 例の検討、修正 1</td> <td>自己PR で必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>自己PR 3</td> <td>自己PR 例の検討、修正 2</td> <td>自己PR で必要な語彙、表現の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自己PR 4</td> <td>自分の自己PR を書く 1</td> <td>自己PR で必要な形式、書き方の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自己PR 5</td> <td>自分の自己PR を書く 2</td> <td>自己PR の書き方の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>今学期で学んだことを振り返る。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習	7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習	10	自己PR 1	自己PR とは何か	自己PR で必要な項目を復習	11	自己PR 2	自己PR 例の検討、修正 1	自己PR で必要な語彙、表現の復習	12	自己PR 3	自己PR 例の検討、修正 2	自己PR で必要な語彙、表現の復習	13	自己PR 4	自分の自己PR を書く 1	自己PR で必要な形式、書き方の復習	14	自己PR 5	自分の自己PR を書く 2	自己PR の書き方の復習	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習																																																																
2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習																																																																
3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習																																																																
4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習																																																																
6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習																																																																
8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
10	自己PR 1	自己PR とは何か	自己PR で必要な項目を復習																																																																
11	自己PR 2	自己PR 例の検討、修正 1	自己PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
12	自己PR 3	自己PR 例の検討、修正 2	自己PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
13	自己PR 4	自分の自己PR を書く 1	自己PR で必要な形式、書き方の復習																																																																
14	自己PR 5	自分の自己PR を書く 2	自己PR の書き方の復習																																																																
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。																																																																
関連科目	専門日本語 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習・確認テスト	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。
----	---

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習 (文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室(7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	<p>授業では特定のテーマに関する資料を用い、以下の4点を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料で使用されている語彙や表現を学ぶ</li> <li>2. 資料の内容を理解する</li> <li>3. 資料の内容について意見交換を行う</li> <li>4. 必要に応じて資料の要約や意見文を書く</li> </ol> <p>日本語の語彙力、読解力、口頭コミュニケーション能力、ライティング力を総合的に養うことを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論説文に特徴的な表現や語彙を理解することができる。</li> <li>2. 社会的・専門的テーマに関する資料を読んで理解することができる。</li> <li>3. 特定のテーマについて他者と議論・対話を行うことができる。</li> <li>4. 適切な文体・表現を用いて文章を書くことができる。</li> </ol>
------	--

授業方法と留意点	社会的・専門的テーマに関する資料を読んでいくが、内容理解にとどまらず、内容を踏まえた上で自身の考えを深めることが求められる。したがって、授業では語彙・表現等の説明も行うが、意見交換を重視する。また、自分の考えを一方向的に述べるだけでなく、異なる意見をもつ他者とのように話し合いを進めていくかということにも意識的に取り組んでいく。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明	自己紹介文を書く
	2	テーマ1	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	3	テーマ2	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	4	テーマ3	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	5	確認	テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く
	6	テーマ4	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	7	テーマ5	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	8	テーマ6	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	9	確認	テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く
	10	テーマ7	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	11	テーマ8	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	12	テーマ9	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	13	確認	テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く
	14	レポート作成準備	レポートの書き方	これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する
15	発表・フィードバック	レポート内容の発表および話し合い	返却されたレポートの訂正箇所について確認する	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み 30%、小テスト 30%、レポート 40%で判断する。
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	受講者の日本語レベルにより授業内容を調整・変更することがあります。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター講師控室 (3号館4階)
----------	----------------------

備考	<p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。          受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。          授業では学生同士の話し合いを観察し、教師が適宜フィードバックを行う。</p>
----	--

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞 (生教材) を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。

科目学習の効果 (資格)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。

学生へのメッセージ 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

担当者の研究室等 国際交流センター (3号館4階)

備考 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。  
受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。  
議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえてコメントシートを記入する
	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
----------	-----------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。
----	--

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>復習 資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習	8	序論②	序論を書く	復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習	11	本論③	本論を書く	復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習	13	結論②	結論を書く	復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習																																																																
8	序論②	序論を書く	復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習																																																																
11	本論③	本論を書く	復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習																																																																
13	結論②	結論を書く	復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	<p>(1)授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。</p> <p>(3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>																																																																		

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目 日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ, DP1 O, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情FⅡ	科目名(英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:B〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1△,DP2〇,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1)映画についての情報・その他背景知識について説明 (2)映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ
2		映画1:テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3		映画1:テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4		映画1:テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
5		映画2:テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
6		映画2:テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7		映画2:テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
8		テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
9		映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
10		映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11		映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
12		映画4:「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
13		映画4:「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習(10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
14		映画4:「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
15		テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5時間)
2	映画1: テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
3	映画1: テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
4	映画1: テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
5	映画2: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
6	映画2: テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
7	映画2: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
9	映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
10	映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
11	映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
12	映画4: 「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
13	映画4: 「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
14	映画4: 「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			



# 教 養 科 目



科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クリスティー ジョーンストン
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	(記入不要)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1. 2]、後期はCEFR-J [A1. 3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題
関連科目	(記入不要)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Funny Laws in the World (with CD)	Joe Ciunci	Nan' un-do
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	EGHIJ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation
-----------	---

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英会話Ⅱ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスティー ジョストン
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話Ⅱ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Funny Laws in the World (With CD)	Joe Ciunci	Nan' un-do
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英会話Ⅱ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	EGHIJ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検討

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Study: Microwave ovens are cooking the environment	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 1-6 単語: NO. 1-30 事後: 前回単語不合格者再提出
3	Unit 2: Truck damages Peru's ancient Nazca Lines	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 7-12 単語: NO. 21-50 事後: 前回単語不合格者再提出
4	Unit 3: Firms struggle to secure IT workers	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 13-19 単語: NO. 41-70 事後: 前回単語不合格者再提出
5	Unit 4: Oxfam: Global automakers to speed up electrified vehicle rollout	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 20-24 単語: NO. 61-90 事後: 前回単語不合格者再提出
6	Unit 5: Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa water	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 25-30 単語: NO. 81-110 事後: 前回単語不合格者再提出
7	教科書 Unit 1-5 テスト	Unit 1~5 までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
8	中間試験解説及び評	演習	事前: 単語: NO. 101-130 事後: 前回単語不合格者再提出
9	Unit 6: SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 31-36 単語: NO. 121-150 事後: 前回単語不合格者再提出
10	Unit 7: Single-person households expected to hit 40% in 2040	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 37-42 単語: NO. 141-170 事後: 前回単語不合格者再提出
11	Unit 8: Govt plans to implement 'EdTech' for schools	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 43-48 単語: NO. 161-190 事後: 前回単語不合格者再提出
12	Unit 9: Universities help run cafeterias for low-income kids	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 49-54 単語: NO. 181-210 事後: 前回単語不合格者再提出
13	Unit 10: Tunisian schoolgirls rebel against uniforms	単語小テスト及び教科書演習	事前: 教科書: P. 55-60 単語: NO. 201-230 事後: 前回単語不合格者再提出
14	教科書 Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前: Unit 6-10 復習 単語: NO. 221-248 事後: 前回単語不合格者再提出
15	教科書 Unit 6-10 テスト	Unit 6~10 までの内容について小テストを行う。	事前: Unit 6-10 テスト勉強 事後: 前回単語不合格者再提出

関連科目	他の英語科目
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Meet the World : English through Newspaper 2019</td> <td>Yasuhiko Wakaari</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>NISHIYA Koji</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World : English through Newspaper 2019	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Meet the World : English through Newspaper 2019	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO														
2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	Unit 11: English added to more school entrance exams	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.61-66 単語: NO.387-416	
2	Unit 12: International body OK's Japanese names for undersea features	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.67-72 単語: NO.397-426	事後:前回単語不合格者 再提出
3	Unit 13: Language schools eyed to prep Asian workers for Japan	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.73-78 単語: NO.407-436	事後:前回単語不合格者 再提出
4	Unit 14: Shopping app tested to reduce food loss	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.79-84 単語: NO.417-446	事後:前回単語不合格者 再提出
5	Unit 15: Saudi women score right to watch soccer in stadium	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.85-90 単語: NO.427-456	事後:前回単語不合格者 再提出
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	事前:単語: NO.437-466	事後:前回単語不合格者 再提出
7	中間テスト	Unit 11~15 までの内容についてテスト	事前:単語: NO.447-476	事後:前回単語不合格者 再提出
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前:単語: NO.457-486	事後:前回単語不合格者 再提出
9	Unit 16: Oxfam to focus on wealth gap at upcoming economic	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.91-96 単語: NO.467-496	事後:前回単語不合格者 再提出
10	Unit 17: Lack of oxygen hurting corals in world's oceans	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.97-102 単語: NO.477-506	事後:前回単語不合格者 再提出
11	Unit 18: Translation system eyed for '20 reads facial expressions	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.103-108 単語: NO.487-516	事後:前回単語不合格者 再提出
12	Unit 19: NASA seeks skiers to measure snowpack	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.109-114 単語: NO.497-526	事後:前回単語不合格者 再提出
13	Unit 20 : U.S. states promoting civil rights tourism	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.115-120 単語: NO.507-523	事後:前回単語不合格者 再提出
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前:教科書 Unit 16~20 までの	復習 事後:前回単語不合格者 再提出
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16~20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspaper 2019	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for The TOEIC Tesr	NISHIYA Koji	SEIBIDO
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤岡 真樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」、「聴く」だけでなく、「書く」、「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業をおこないます。4技能の基礎力を固め、長文読解に向けた基礎力を養成すること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことが、本授業の目的です。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになること。</li> <li>2. ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになること。</li> <li>3. 同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになること。</li> <li>4. 前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになること。</li> <li>5. PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむこと。</li> <li>6. 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむこと。</li> </ol>
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となります。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了するようにしてください。 また、3回を超える欠席のあった学生には原則として単位を認めないので注意してください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法についての説明 基礎的な文法事項の確認	なし
2	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 524-602 の暗記。
3	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 603-680 の暗記。
4	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 681-753 の暗記。
5	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける歴史と記憶についての理解を深める。	単語テスト Unit 1: Reliving History: の読解	Unit 1 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 754-833 の暗記。
6	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 834-916 の暗記。
7	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読んでくる。 WORD BOOK, 524-641 の復習(1)。
8	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 642-753 の復習(1)。
9	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける Local Currency についての理解を深める。	単語テスト Unit 3: Local Currency の読解	Unit 3 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 754-916 の復習(1)。
10	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 524-641 の復習(2)。
11	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 642-753 の復習(2)。
12	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 754-916 の復習(2)。
13	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける教会と宗教についての理解を深める。	単語テスト Unit 5: The Megachurch の読解	Unit 5 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 524-916 の総復習(1)。
14	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 これまでの復習を行う。	単語テスト Unit 1, 3, and 5 の復習	Unit 1, 3, and 5 の復習をしてくる。 WORD BOOK, 524-916 の総復習(2)。

	15	長文読解に向けた基礎的能力を養う。	単語テスト Unit 1, 3, and 5 の復習	Unit 1, 3, and 5 の復習をしてくる。 WORD BOOK, 524-916 の総復習(3)。
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What's Happening USA	Braven Smillie and 土屋武久編	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A : 20%、全学共通英語課題 B : 10%、定期試験 : 40% 授業への参加、貢献 (授業内単語テストを含む) : 30%			
学生への メッセージ	英語の習得において、多くの単語の暗記や文法の理解は不可欠です。そして、この授業の毎回の課題も決して「楽」ではないでしょう。しかし、それを乗り越えたところには、英語を読む「楽しさ」があります。その楽しさを感じることでできる力を身につけることができるよう、共に頑張りましょう。  (注意点) 授業を円滑に進めるためにも予習は必ずおこなってください。予習を怠った場合には「授業への参加、貢献」の点数を大幅に減点します。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とします。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でおこないます。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	英語IV	科目名(英文)	English IV
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤岡 真樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」、「聴く」だけでなく、「書く」、「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業をおこないます。4技能の基礎力を固め、長文読解に向けた基礎力を養成すること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことが、本授業の目的です。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになること。</li> <li>2. ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになること。</li> <li>3. 同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになること。</li> <li>4. 前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになること。</li> <li>5. PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむこと。</li> <li>6. 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむこと。</li> </ol>
授業方法と留意点	演習型の授業をおこなうので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となります。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了するようにしてください。 また、3回を超える欠席のあった学生には原則として単位を認めないので注意してください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法についての説明 基礎的な文法事項の確認	なし
2	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-999 の暗記。
3	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1000-1079 の暗記。
4	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1080-1176 の暗記。
5	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 スラングの誕生やその背景についての理解を深める。	単語テスト Unit 8: Slang の読解	Unit 8 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1177-1257 の暗記。
6	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-1257 の復習(1)。
7	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1258-1338 の暗記。
8	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1339-1419 の暗記。
9	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカにおける祝日の意味についての理解を深める。	単語テスト Unit 11: Holidays の読解	Unit 11 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1420-1500 の暗記。
10	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1258-1500 の復習(1)。
11	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-1257 の復習(2)。
12	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 1258-1500 の総復習(2)。
13	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 アメリカの Homeschooling についての理解を深める。	単語テスト Unit 12: School at Home の読解	Unit 12 を読み、問題を解いてくる。 WORD BOOK, 917-1500 の総復習(1)。
14	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 これまでの復習を行う。	単語テスト Unit 8, 11, and 12 の復習	Unit 8, 11, and 12 の復習をしておく。 WORD BOOK, 917-1500 の総復習(2)。
15	長文読解に向けた基礎的能力を養う。 これまでの復習を行う。	単語テスト Unit 8, 11, and 12 の復習	Unit 8, 11, and 12 の復習をしておく。 WORD BOOK, 917-1500 の総復習(3)。

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What' Happening USA	Braven Smillie and 土屋武久編	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A : 20%、全学共通英語課題 B : 10%、定期試験 : 40% 授業への参加、貢献 (授業内単語テストも含む) : 30%			
学生への メッセージ	<p>英語の習得において、多くの単語の暗記や文法の理解は不可欠です。そして、この授業の毎回の課題も決して「楽」ではないでしょう。しかし、それを乗り越えたところには、英語を読む「楽しさ」があります。その楽しさを感じることでできる力を身につけることができるよう、共に頑張しましょう。</p> <p>(注意点)          授業を円滑に進めるためにも予習は必ずおこなってください。予習を怠った場合には「授業への参加、貢献」の点数を大幅に減点します。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とします。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でおこないます。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	応用情報処理	科目名(英文)	Advanced Information Processing
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA2427a2		

授業概要・目的 1年次に習ったワープロ、スプレッドシート、プレゼンテーションツールの応用を目指し、データ分析、資料作成、プレゼンテーションのレベルアップを図る。

到達目標 この演習を通じて学生には、1年次の情報処理の演習で培った技能や意識に加えて、①Excelによるデータ分析、②Wordによる応用文書作成、③Powerpointの応用的活用手法を習得することが期待される。

授業方法と留意点 演習方式の講義で、毎回コンピュータによる実習を行います。なお進捗度合いに応じて、講義内容は適宜変更する場合があります。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション: Word 復習	授業の進め方、評価方法、復習課題	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
2	Excel 復習	データ集計処理の復習	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
3	Excel 関数(1)	Excel 関数による処理1	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
4	Excel 関数(2)	Excel 関数による処理2	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
5	Excel ピボットテーブル	Excel ピボットテーブルの利用	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
6	Excel 統計処理(1)	Excel 統計処理1	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
7	Excel 統計処理(2)	Excel 統計処理2	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
8	PowerPoint による情報処理1	PowerPoint を活用した処理を学ぶ	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
9	PowerPoint による情報処理2	PowerPoint を活用した処理を学ぶ	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
10	PowerPoint による情報処理3	PowerPoint を活用した処理を学ぶ	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
11	PowerPoint 練習課題の作成	課題制作	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。
12	PowerPoint 発表内容と発表資料の作成(1)	発表の構想、設計、デザイン	構想を練り上げる(復習、予習)
13	PowerPoint 発表内容と発表資料の作成(2)	発表の構想、設計、デザイン、制作	仕様書を仕上げておくこと(復習、予習)
14	PowerPoint 発表内容と発表資料の作成(3)	発表の構想、設計、デザイン、制作	発表資料を仕上げる(復習、予習)
15	発表とまとめ	各自作成した課題を紹介し、まとめとフォローアップを行う	発表練習をしておくこと

関連科目 情報処理 I, 情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 毎回授業時に出す課題(85%)および発表(15%)を合計して評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件である。

学生へのメッセージ 毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、欠席したときにはその時の授業内容を理解して、課題を完了・提出が必要となることに留意すること。

担当者の研究室等 11号館10階 寺内研究室

備考 前回の演習のポイントを次回の演習の冒頭に要約する。予習と復習を合わせて全期間で60時間の自習を必要とする。

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2446c2		

授業概要・目的	<p>外国語の運用能力（語学力）と、異文化環境で適切なコミュニケーションと行動をとる力（異文化間能力）の向上を目的とする。募集ガイダンスへの参加からはじまる事前学習、海外研修先での実地学習、帰国後の成果報告を含む事後学習で構成される。研修先での授業は月曜日から金曜日に開講され、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等の詳細は募集ガイダンスで周知する。</p>																		
到達目標	<p>・語学力については、基礎的な会話への不安を解消し、TOEIC スコア等の客観的指標の自己ベストを更新すること。また、事前学習と現地での実践、そして帰国後の反省を通じて、自らにとって最も効果的な自学自習の方法と教材を発見し、自律的な語学学習を継続できるようになることを目標とする。</p> <p>・異文化間能力については、渡航先の社会事情、歴史、文化についての基礎的な知識と理解を身につけ、現地では会う人々と積極的に交流し、交流の成果と反省点を客観的に整理して報告できるようになること。さらには帰国後も国際社会と異文化への好奇心を高め、広く多様な国・地域の人々と積極的に協力し合う姿勢と適応力を身につけることを目標とする。</p>																		
授業方法と留意点	<p>参加学生は教員およびスタッフの指導を受けながら事前学習、実地学習、事後学習を行う。講義を聞いてメモをとるだけで完結する授業はなく、常に自発的な語学学習と現地事情の情報収集に励む必要がある。また、現地において安全で効果的な実習を行うためには参加学生同士の協同が不可欠であるので、事前授業の段階からチームとして情報を共有し、学び合う姿勢が求められる。</p> <p>次のスケジュールと内容が予定されている。(8月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認のこと。)</p> <p>4月 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席、指示された学習課題が義務付けられている。また、事後には成果報告会における発表とレポート提出が求められる。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施（全3回）</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p>&lt;研修スケジュール&gt; [2週間コース] 8月中旬～8月下旬（予定）</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬（予定）</p> <p>9月下旬～10月上旬（予定） 成果報告会</p> <p>事前学習 ・海外研修の目的と安全管理に関するガイダンスの受講と内容理解の確認 ・多読、会話演習など、学内の教材や設備を使った語学演習、ICTを活用した自主練習（ガイダンス時に説明） ・渡航先の社会事情、歴史、文化に関する情報収集（ガイダンス時に説明） ・研修中の目標と行動計画の策定。漠然と「語学力を上げたい」「話せるようになりたい」ではなく、「滞在中に・・・をする」という具体的な行動目標を立てること。</p> <p>海外研修中 ・目標と行動計画に従い、授業に真摯に取り組むことはもちろん、授業外でも積極的に講師、スタッフ、ホストファミリーなど周囲の人々に話しかけ、コミュニケーションを進めること。 ・事前に情報収集して得た知識を活用して目標に向けて行動し、日々の成果と反省点について記録をつけながら過ごすこと。</p> <p>事後学習課題 ・同時期に開催される他の研修参加者と合同での成果報告会が開催されるので、そこで研修の成果と反省点についてのプレゼンテーションを行う。 ・成果と反省点をまとめたレポート（報告書）を作成して提出する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																			
関連科目	英語その他外国語科目、研修先の地域に関する科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前・事後学習と成果報告会のプレゼン・レポートの評価 (30%) 研修先での成績 (70%)			
学生への メッセージ	大学生になったら早い段階で一度は海外に出ましょう。少しでも興味があれば、まずは国際交流センターへ足を運んで下さい。			
担当者の 研究室等	国際交流センター			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない事情で出席できない場合は事前に国際交流センターへ連絡し相談すること。</li> <li>・事前に参加申込みを行い許可を得た者に限り履修できる科目であり、通常の履修申請とは手続きが異なるので注意。</li> <li>・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上で履修を検討すること。学部・学年によって、また個々の学生の事情によって当該年度は受講できない場合がある。</li> </ul>			

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのため、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p> <p>なお、授業担当者の一人は企業で人事経験を持ち、もう一人は旅行会社での実務経験を持ちます。パラダイス・バリ (旅行会社) の運営責任者は日本人であり、現地人をマネジメントしているため、授業担当者の実務視点から学生に教授する。また、旅行会社の実務視点からも学生に教授する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。</li> <li>・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。</li> <li>・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。</li> <li>・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>研修先としてサラスワティ大学、ウブド第一高校、パラダイス・バリ (旅行会社) 等を予定している。研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習は10日を予定している。具体的には、ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>本事前学習では、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返し行う。最終的には、現地での各自の研修内容の事前準備が完了するまで行う。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動</p> <p>2日目 環境学習 マングローブセンターにて</p> <p>3日目 サラスワティ大学で国際交流会</p> <p>4日目～6日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施</p> <p>7日目～8日目 ウブド第一高校にてインターンシップ研修実施</p> <p>9日目 現地視察</p> <p>10日目 移動</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、の取り組みなど異なります。なお、研修先のリクエストにより、環境問題、日本の歴史や文化紹介 (茶道、書道、空手等)、旅行会社のパッケージツアーの企画など、内容が異なります。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する)</p> <p>報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 10%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン (10%) で評価する。</p> <p>ただし、災害やテロ等により海外現地に行けなかった場合は単位を認定しない。</p>																
学生へのメッセージ	参加を迷っている方は、遠慮なく田中先生や私の研究室に訪問して質問をしてください。																
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室 11号館8階 田中研究室																
備考	事前学習は、全体で10時間程度行うこと。																

科目名	会計学	科目名(英文)	Accounting
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02413a2		

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表から企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計の目的、役割を理解する。</li> <li>・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。</li> <li>・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。</li> <li>・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料に基づいて解説し、その後、講義内容を確認するために、グループワーク、または個人で、課題を解き、自分たちの解をプレゼンテーションし、授業終了後に提出する。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。</li> <li>・組織(主として企業)に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。</li> <li>・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。</li> <li>・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理(1時間)
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
5	会計情報の内容(1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
6	会計情報の内容(2)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
7	会計情報の内容(3)	貸借対照表 資産について	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
8	会計情報の内容(4)	貸借対照表 負債について	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
9	会計情報の内容(5)	貸借対照表 純資産について	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習(90分) 今までの配布資料、練習問題の復習 事後学習(30分) まとめテストの見直し
11	会計情報の内容(6)	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習(30分) まとめテストで理解できないところを調べる 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し の見直し
12	会計情報の内容(7)	損益計算書 費用の認識と測定	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
13	会計情報の内容(8)	損益計算書	事前学習(30分)

			営業損益、経常損益、純損益	前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成	
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し	
	15	まとめ	講義の復習とまとめ 質問の受付	事前学習(1時間) 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書きにする。 事後学習(5時間) 試験に備え、今までの復習	
関連科目	経営学、企業簿記				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	アカウンティング		笹倉 淳史他	同分館出版
	2	1からの会計		桜井 久勝	中央経済社
	3				
評価方法 (基準)	授業への参加と課題の提出(30%)、確認テスト(20%)、定期テスト(50%)				
学生への メッセージ	毎回授業に出席して下さい。				
担当者の 研究室等	佐井研究室(11号館8階)				
備考					

科目名	株式投資と企業家育成	科目名(英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>『投資』とは何か、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【担当教員実務経歴】          ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当）          ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p>
到達目標	<p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション

			設問による授業内容の再確認	ヨソ開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と上場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	<事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知識度を判定するため、総合的評価としてのレポート課題とします。</p>			
学生への メッセージ	<p>■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。</p>			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩田 喜代一・尾山 廣・喜多 大三・久保 貞也・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DPS△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01436a2, L科: LL01417a2, D科・S科: IL01423a2, P科: YL01418a2, J科: JL01434a2, W科: WL01419a2, N科: NL01415a2		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。</p> <p>この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。授業担当者として、北河内7市および和歌山県すさみ町の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク 9月28日(土)2限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: グループワークの成果物をまとめる(30分)
2	北河内地域に関する講演 10月5日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
3	北河内地域に関する講演 10月5日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	グループワーク・プレゼンテーション 10月5日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
5	北河内地域に関する講演 10月19日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見する	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
6	北河内地域に関する講演 10月19日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月19日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
8	北河内地域に関する講演 11月2日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
9	北河内地域に関する講演 11月2日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月2日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	北河内地域に関する講演 11月16日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
12	北河内地域に関する講演 11月16日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 11月16日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月7日(土)1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月7日(土)2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	荻田喜代一(薬学部・副学長室)、鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科)、尾山廣(理工学部・生命科学科)、久保貞也(経営学部・経営情報学科)、喜多大三			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ようになることが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NP0 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
------	--

授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(3時間)</li> </ul>
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)</li> </ul>
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・先輩の話を聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間)</li> <li>・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること(2時間)</li> </ul>
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 大学生活の目標を再度考えること(2時間)</li> </ul>
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)</li> </ul>
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)</li> </ul>
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: GDPについて調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)</li> </ul>
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 税金について調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)</li> </ul>
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを100挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)</li> </ul>
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 大学へ入学した目的を再考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)</li> </ul>
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身に付ける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)</li> </ul>
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間)</li> <li>・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)</li> </ul>
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間)</li> <li>・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)</li> </ul>
14	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとのプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間)</li> <li>・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)</li> </ul>

	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間）</li> <li>・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）</li> </ul>																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。</li> <li>2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。</li> </ol>																			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成すること。が期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く	・事前学修: 摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的をを考えると(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えると(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考えると

				こと(3時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成すること。ことが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話をお聴く	・事前学修: 摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的を再確認すること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと(3時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名(英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか? ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間)
2	さあ始めよう!大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話をお聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(2時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(2時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間)

関連科目: キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと (3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること (3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること (5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと (5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること (4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること (3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと (3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間)
10	自分を高める①	・これまでの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること (3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること (7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配布資料を見直すこと ・自らの将来について考えること (3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること (4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (3時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。			
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的  
この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。

到達目標  
将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。

授業方法と留意点  
講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。

科目学習の効果 (資格)  
来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと (3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること (3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること (5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと (5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること (4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること (3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと (3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること (3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること (7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配布資料を見直すこと ・自らの将来について考えること (3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること (4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (3時間)

関連科目  
キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)  
グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の研究室等  
7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)

備考  
毎回のミニレポートが採点をした後最終講義で返却する。

科目名	教養化学	科目名(英文)	Chemistry
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1422a2		

**授業概要・目的** 化学はこの世界に存在するさまざまな物質を理解する科学です。はじめて化学を学ぶ人に対して、それぞれの物質がどのようにしてつくられ、どのような性質を示すのかなど、基本的な原理をできるだけ理論的にやさしく解説する。

**到達目標** この授業を通じて学生には、身の回りの物質を新しい視点でとらえ、化学の考え方の本質を知ることができるようになることが期待される。

**授業方法と留意点** 教科書やプロジェクター、配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認する。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	原子	この世界をかたちづけている材料は原子です。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
13	酸および塩基と pH①	酸と塩基を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
14	酸および塩基と pH②	中和、中和滴定、緩衝作用について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
15	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)** 小テスト(30%)、課題(10%)、定期試験(60%)により評価する。

**学生へのメッセージ** 質問は適宜受け付ける。

**担当者の研究室等** 枚方学舎1号館5階生物系薬学分野生化学

**備考** 小テストの正解は次の回の授業で配布する。

科目名	教養経済学	科目名(英文)	Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01411a2		

授業概要・目的	日本経済の身近な事例を題材として説明し、経済活動の仕組みの基礎や日本経済と世界とのつながりについて理解することを目的とします。
到達目標	経済活動の仕組みの基礎を理解することによって、今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ際の基礎的理解を養います。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。
科目学習の効果(資格)	今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ差異の基礎的理解を習得します。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			初回はイントロダクションなので、配布レジュメを用いて1時間程度の復習を行うこと
1	イントロダクション	授業概要の紹介	
2	国民経済の指標	国民経済の指標としての有効求人倍率と完全失業率の考え方	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
3	付加価値	国民経済の最も基礎的な概念である付加価値の考え方	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
4	国内総生産と付加価値	国内総生産と付加価値の関係について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
5	国内総生産の三面等価	国内総生産の生産面、支出面、所得面の見方とその関係	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
6	名目GDPと実質GDP	国内総生産と物価の関係について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
7	インフレの問題点	物価変動の仕組みとインフレによる問題点について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
8	デフレの問題点	持続的なデフレによる問題点について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
9	通貨の種類	さまざまな通貨の種類について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
10	通貨と信用創造	金融機関の役割と信用創造の仕組みについて	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
11	日本銀行と金融政策	日本銀行の役割と金融政策について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
12	財政政策	財政政策の仕組みについて	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
13	財政と社会保障	日本の財政と社会保障について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
14	財政赤字の問題	財政赤字の発生要因について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	最終回授業なので、配布レジュメを用いて1時間程度の復習を行うこと

関連科目	経済学 I
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	1回のレポート(40%)と期末試験(60%)による総合評価
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	教養数学	科目名(英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	AB
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1420a2		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。1つの目安として、公務員・警察官等の採用試験の数理分野の問題には十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	方程式(1)	・四則応用 ・1次方程式	課題レポート
	2	方程式(2)	・2次方程式	課題レポート
	3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
	4	割合(1)	・比 ・混合算	課題レポート
	5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
	6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
	7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
	8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
	9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	課題レポート
	10	確率	・確率の計算	課題レポート
	11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
	12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
	13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	課題レポート
	14	整数(2)	・記数法	課題レポート
	15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目	教養物理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習、小テスト30%期末テスト70%の合計によって判断する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習の総時間数の目安は15時間。 演習、小テストは採点したのち、返却する。
----	---

科目名	教養数学	科目名(英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	C/D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1420a2		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることが期待される。 (1つの目安として、総合適性検査SPI・公務員試験・教員採用試験等の各種採用試験の数理分野の問題に十分に対応できるようになること。)
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること。定式化できれば論理的に解けることを体得する。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	方程式(1)	・四則応用 ・1次方程式	例題プリントの見直し
2	方程式(2)	・2次方程式	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
4	割合(1)	・比 ・混合算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
8	速さ(3)	・時計算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
10	確率	・確率の計算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
11	図形の計量(1)	・多角形	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
14	整数(2)	・記数法	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し	

関連科目	教養物理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜プリントを配布する		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	平常点30% (課題レポートの正解数および取り組み状況に応じた点数の累積) と期末テスト70%の合計によって評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また学習支援センター(3号館2階)を積極的に利用してほしいと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説をする。
----	---

科目名	教養数学	科目名(英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E I
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 尚武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1420a2		

授業概要・目的	<p>近年、本学入学時点では数学的知識・論理能力の低下が認められます。一方、社会においては、(特に法律の解釈・訴訟事例では、)かなりの数学的知識・論理能力が必要とされます。</p> <p>そこで、初等的な数学の話題を通して、大学1年生レベルの論理能力を身につけてもらうことをこの授業の目的とします。</p> <p>尚、題材としては、初等整数論への入門をとりあげます。</p>																																																																
到達目標	義務教育レベルの初等数学を思い出し、指定教科書の内容を理解することを目標とします。																																																																
授業方法と留意点	<p>(1) 義務教育レベルの初等数学を復習する。</p> <p>(2) (1)を使って循環小数をめぐるいくつかの現象の解明をする。</p> <p>(3) 時間があれば、(2)の延長線上にある初等整数論の話題にふれる。</p>																																																																
科目学習の効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>連立1次方程式とその応用(1)</td> <td>掃き出し法</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連立1次方程式とその応用(2)</td> <td>文章題</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>場合の数と確率</td> <td>・順列 ・組み合わせ ・確率</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>数列と級数</td> <td>・等差数列 ・等比数列 ・等比級数</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>整数(1)</td> <td>・約数と倍数 ・Euclidの互除法 ・素因数分解の一意性</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>整数(2)</td> <td>合同式</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>整数(3)</td> <td>中国剰余定理</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ここまでの復習/補足 ・不思議な数</td> <td>ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う。</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>小数</td> <td>・実数の10進小数表示 ・有限小数の特徴づけ</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>循環小数</td> <td>・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>循環小数の循環節</td> <td>・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての2つの観察</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>循環小数と合同式(1)</td> <td>・Fermatの小定理</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>循環小数と合同式(2)</td> <td>純循環小数</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>原始根とArtin予想(1)</td> <td>原始根</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>原始根とArtin予想(2)</td> <td>Artin予想</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	連立1次方程式とその応用(1)	掃き出し法	学習内容の復習と応用	2	連立1次方程式とその応用(2)	文章題	学習内容の復習と応用	3	場合の数と確率	・順列 ・組み合わせ ・確率	学習内容の復習と応用	4	数列と級数	・等差数列 ・等比数列 ・等比級数	学習内容の復習と応用	5	整数(1)	・約数と倍数 ・Euclidの互除法 ・素因数分解の一意性	学習内容の復習と応用	6	整数(2)	合同式	学習内容の復習と応用	7	整数(3)	中国剰余定理	学習内容の復習と応用	8	・ここまでの復習/補足 ・不思議な数	ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う。	学習内容の復習と応用	9	小数	・実数の10進小数表示 ・有限小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用	10	循環小数	・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用	11	循環小数の循環節	・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての2つの観察	学習内容の復習と応用	12	循環小数と合同式(1)	・Fermatの小定理	学習内容の復習と応用	13	循環小数と合同式(2)	純循環小数	学習内容の復習と応用	14	原始根とArtin予想(1)	原始根	学習内容の復習と応用	15	原始根とArtin予想(2)	Artin予想	学習内容の復習と応用
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	連立1次方程式とその応用(1)	掃き出し法	学習内容の復習と応用																																																														
2	連立1次方程式とその応用(2)	文章題	学習内容の復習と応用																																																														
3	場合の数と確率	・順列 ・組み合わせ ・確率	学習内容の復習と応用																																																														
4	数列と級数	・等差数列 ・等比数列 ・等比級数	学習内容の復習と応用																																																														
5	整数(1)	・約数と倍数 ・Euclidの互除法 ・素因数分解の一意性	学習内容の復習と応用																																																														
6	整数(2)	合同式	学習内容の復習と応用																																																														
7	整数(3)	中国剰余定理	学習内容の復習と応用																																																														
8	・ここまでの復習/補足 ・不思議な数	ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う。	学習内容の復習と応用																																																														
9	小数	・実数の10進小数表示 ・有限小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用																																																														
10	循環小数	・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用																																																														
11	循環小数の循環節	・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての2つの観察	学習内容の復習と応用																																																														
12	循環小数と合同式(1)	・Fermatの小定理	学習内容の復習と応用																																																														
13	循環小数と合同式(2)	純循環小数	学習内容の復習と応用																																																														
14	原始根とArtin予想(1)	原始根	学習内容の復習と応用																																																														
15	原始根とArtin予想(2)	Artin予想	学習内容の復習と応用																																																														
関連科目																																																																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>分数と小数から広がる整数の世界</td> <td>中島匠一</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	分数と小数から広がる整数の世界	中島匠一	技術評論社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	分数と小数から広がる整数の世界	中島匠一	技術評論社																																																														
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	期末試験70%、平常点30%で評価します。																																																																
学生へのメッセージ	<p>数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また、学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。</p> <p>但し、数学に興味がないのに、単位をとるために受講することはお勧めしません。(つらいだけだと思います。)</p>																																																																
担当者の研究室等																																																																	
備考	<p>十分な学習効果を得るには、週1時間以上の予習と復習が必要です。</p> <p>初回の授業でより具体的な授業内容と授業の進め方について説明します。(ですので、初回の授業には)必ず出席してください。</p>																																																																

科目名	教養数学	科目名(英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	GH
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1420a2		

教養科目

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通して、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。一つの目安として、各種採用試験(SPI・公務員試験・教員採用試験等)の数理分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	方程式(1)	・四則応用 ・1次方程式	「演習プリント(第1回)」の問題を解き直す(1時間)
	2	方程式(2)	・2次方程式	「演習プリント(第2回)」の問題を解き直す(1時間)
	3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	「演習プリント(第3回)」の問題を解き直す(1時間)
	4	割合(1)	・比 ・混合算	「演習プリント(第4回)」の問題を解き直す(1時間)
	5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	「演習プリント(第5回)」の問題を解き直す(1時間)
	6	速さ(1)	・速さ ・流水算	「演習プリント(第6回)」の問題を解き直す(1時間)
	7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	「演習プリント(第7回)」の問題を解き直す(1時間)
	8	速さ(3)	・時計算	「演習プリント(第8回)」の問題を解き直す(1時間)
	9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	「演習プリント(第9回)」の問題を解き直す(1時間)
	10	確率	・確率の計算	「演習プリント(第10回)」の問題を解き直す(1時間)
	11	図形の計量(1)	・多角形	「演習プリント(第11回)」の問題を解き直す(1時間)
	12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	「演習プリント(第12回)」の問題を解き直す(1時間)
	13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	「演習プリント(第13回)」の問題を解き直す(1時間)
	14	整数(2)	・記数法	「演習プリント(第14回)」の問題を解き直す(1時間)
	15	規則性	・数列 ・規則性の発見	「演習プリント(第15回)」の問題を解き直す(1時間)

関連科目	教養物理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	「平常点(毎回の演習問題プリントの点数の累積)30%」と「期末試験70%」の合計によって評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です。授業に参加してください。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「学習支援センター」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	学習支援センター(3号館2階)、数学準備室(3号館3階)
----------	------------------------------

備考	講義内の演習問題プリントに関する補習(問題の解き直し)を「学習支援センター」で適宜実施する。
----	--

科目名	教養数学	科目名(英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐野 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1420a2		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には基礎的な数学的知識・論理能力を身につけていただく。1つの目安として、各種採用試験(公務員試験・教員採用試験等)の数理分野の問題には十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	方程式(1)	・四則応用 ・1次方程式	課題レポート
	2	方程式(2)	・2次方程式	課題レポート
	3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
	4	割合(1)	・比 ・混合算	課題レポート
	5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
	6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
	7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
	8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
	9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	課題レポート
	10	確率	・確率の計算	課題レポート
	11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
	12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
	13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	課題レポート
	14	整数(2)	・記数法	課題レポート
	15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目	教養物理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(演習、レポート、小テストの点数の累積、40%)と期末試験の点数(60%)の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらかじめ出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また、学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	数学準備室(3号館3階)
----------	--------------

備考	事前・事後学習の総時間数の目安は15時間。 演習、レポートの正解の提示、解説は次の回の授業で行う。
----	--

科目名	教養生物	科目名(英文)	Biology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA2423a2		

授業概要・目的	基礎となる生物そのものの理解を目指す。高校で生物を学んで来なかった学生も含めて、細胞、代謝、進化、系統、生態系等に関する基本的な知識を習得し、公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な生物学に関する基礎知識を得る。
到達目標	1. 現代生物学における各分野の対象と目的に至るアプローチの方法を理解する。 2. 生物とは何か、生きているということはどういうことなのかについて科学的に説明できる。
授業方法と留意点	講義の主役は受講者である。教員は、受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。具体的には、ABD 読書会方式の受講者の主体的な学び合い(4人グループによる)を行う。すなわち、各回のテーマに沿って系統的に生物学を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ(ここのまで35分)、リレープレゼンテーション(ひとり3分)にて共有する。ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。 <a href="http://www.abd-abd.com/">http://www.abd-abd.com/</a> リレープレゼンテーションのあとには、QFT(question formation technique)により、講義内容についての質問出しを行う。講義内容については、Moodle を用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。その他、必要に応じてレポート、小論文、演習問題などの課題を課す。毎回の授業の終りに Moodle を用いてミニッツペーパーを書く時間(5分間)を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受ける。Moodle でこれらのことを全て行う。また講義開始前の学生証による出席確認、講義開始直後の小テスト、及び、講義終了時のミニッツペーパー・講義アンケートの提出の全てがなされたことをもって、講義出席の証拠とする。講義後に配信されるビデオ教材(大塚が作成・YouTube を利用して配信する)を視聴することにより、さらに深い理解を得る事を求める。ビデオ教材の視聴がなされているかも個別に確認し、成績評価に加える。とにかく Moodle を多用する。スマホもしくはタブレットが必須の講義である。スマホを充電してから講義に臨むこと。スマホの通信制限や充電不足による講義への不参加は本人に原因があるものとして処理する。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な基礎知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに 他の科目にも使える!生物学の勉強の仕方 教科書を素早く読んでキチンと自分の知識にする方法 食べることで生きることとは?	授業ガイダンス・生物学の勉強の仕方、生物の階層性・食糧と生きること・必要な栄養素・食糧の運命とエネルギーの関係について、ABD読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書12ページからの「はじめに」の節を最期まで読んでおくこと。予習時間0.5時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパーを記入し、また予めMoodle上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTubeを利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間1時間。
2	ヒトのカラダとエネルギーの関係 ヒトはなぜ1日3度の食事をするのか?	3度の食事とエネルギーの関係や、エネルギー通貨であるATPについて、ABD読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書16ページからの第1章を最期まで読んでおくこと。予習時間0.5時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパーを記入し、また予めMoodle上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTubeを利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間1時間。
3	糖の種類と性質 甘いのに太らない?人工甘味料と砂糖の違い	身近な糖質・糖質・炭水化物、糖の種類、構造と性質、エネルギーになる単糖類などについて、ABD読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書28ページからの第2章を最期まで読んでおくこと。予習時間0.5時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパーを記入し、また予めMoodle上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTubeを利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間1時間。
4	糖からエネルギーを得るしくみ 持久系とパワー系はこれほど違う	運動の種類とエネルギーの消費、解糖系の概要、TCA回路、電子伝達系、ATPの生成などについて、ABD読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書40ページからの第3章を最期まで読んでおくこと。予習時間0.5時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパーを記入し、また予めMoodle上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTubeを利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間1時間。
5	脂質の構造と性質 身体に良い「あぶら」と悪い「あぶら」は何が違うの?	脂質とは、脂肪酸の種類と性質、からだの中での脂肪酸の働き、トリグリセリド以外の脂質、コレステロールの合成と体内での働きなどについて、ABD読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書56ページからの第4章を最期まで読んでおくこと。予習時間0.5時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパーを記入し、また予めMoodle上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTubeを利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間1時間。
6	脂質の輸送と代謝 甘いものを食べるとなぜ太る?	体内をめぐる脂質、脂質の輸送、脂肪酸からエネルギーを取り出す、脂肪酸の合成などについて、ABD読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書70ページからの第5章を最期まで読んでおくこと。予習時間0.5時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパーを記入し、また予めMoodle上に用意され

			た演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
7	ビタミンとミネラルの働き サプリメントは体にいいの？	ビタミン発見の歴史、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、体内でのビタミンの働き、ミネラルの働きなどについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 84 ページからの第 6 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
8	第Ⅱ部 生命体をつくる情報と構造 細胞の構造と機能 昆布のダシは海の中で出ないの？	細胞の発見、構造、細胞内小器官、原核細胞と真核細胞、細胞周期などについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 98 ページからはじめにと教科書 100 ページからの第 7 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
9	DNA の構造と働き DNA、遺伝子、染色体はどう違うの？	遺伝物質の正体、DNA の二重らせん構造、DNA の複製と維持、DNA の塩基配列からアミノ酸配列へなどについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 112 ページからの第 8 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
10	DNA からタンパク質へ DNA は細胞の設計図ってどういう意味？	遺伝子のスイッチを制御する仕組み、RNA ポリメラーゼ、RNA の修飾、リボソームによるタンパク質の合成などについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 125 ページからの第 9 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
11	タンパク質のはたらき プロテインを飲むと筋肉が増える？	タンパク質は生まれた後目的の場所まで運ばれる、タンパク質は化学反応を触媒する、細胞内外のシグナルや物質を輸送するタンパク質たちなどについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 138 ページからの第 10 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
12	細胞内外の情報伝達 細胞はどうやってコミュニケーションしている？	細胞同士のコミュニケーション、細胞外の情報を細胞内に伝える仕組み、タンパク質のリン酸化が伝える細胞内のシグナル、細胞膜の電位変化によるシグナル伝達などについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 150 ページからの第 11 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
13	細胞分裂の仕組みと制御 私たちの体の細胞は分裂し続けているの？	体細胞分裂と減数分裂、染色体の数と形、体細胞分裂における染色体の構造変化と分配機構、配偶子形成における減数分裂などについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 163 ページからの第 12 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
14	発生と分化 1つの細胞から体ができあがる仕組み	受精卵から体ができあがる過程、細胞の運命はいつ決まるのか、発生後期における分化と器官形成、遺伝子による細胞の運命決定などについて、ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に教科書 176 ページからはじめにと教科書 178 ページからの第 13 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
15	細胞のストレス応答機構 細胞もストレスを感じる？	細胞にとってストレスとは、DNA の損傷はがんを引き起こす、活性酸素による損傷、DNA のキズを修復する仕組みなどについて、ABD 読書会形式にて、受講者が	講義前に教科書 191 ページからの第 14 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツ

		自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	ペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ身近な生物学	吉村成弘	羊土社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学	南雲 保	羊土社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回の小テスト (30%) 定期試験の点数 (30%) および、授業態度、ミニッツペーパー (10%) およびレポート、小論文、演習問題などの課題 (30%) の総合点で評価する。 Moodle を多用します。スマホもしくはタブレット必須の講義です。スマホを充電してから講義に臨んで下さい。</p>			
学生への メッセージ	<p>遅刻は厳禁です。毎回 Moodle を使って、講義開始時に小テストを行います。 講義前の予習と講義後の復習は不可欠です。必ず教科書を読んでから、講義に参加してください。 本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで分かり易く説明します。 予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。</p>			
担当者の 研究室等	<p>枚方学舎・薬学部 1 号館 5 階生化学研究室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp</p>			
備考	<p>講義終了後もしばらく残りますので、不明な点は質問してください。 なお、質問等はメールでも受け付けます。 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp</p>			

科目名	教養中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JCH2447c2		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音篇	発音 1 中国語の音節, 声調 2 単母音	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	2	発音篇	発音 3 複母音 4 鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	3	発音篇	発音 5 子音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	5	第 1 課 お名前は何かですか	動詞「是」の使い方。 姓の言い方と尋ね方, フルネームの言い方と尋ね方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第 2 課 これは私のパソコンです	指示代名詞 疑問詞・副詞「也」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	第 3 課 こちらの冬は寒いです	場所代名詞 形容詞述語文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	8	第 4 課 私は毎日七時に起きます	☆単元テスト① 動詞述語文	事前に、テスト 1 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	9	第 5 課 私の家は学校から遠いです	動詞「在」・介詞「?」 反復疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第 6 課 あなたは週に何コマの授業がありますか	量詞・動詞「有」 疑問詞「几」「多少」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第 7 課 あなたは今年いくつですか	☆単元テスト② 年齢の聞き方・親族の名称	事前に、テスト 2 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第 8 課 私たちは図書館で勉強しています	連動文 1 疑問詞「怎?」 介詞「在」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	13	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか	完了の「了」・原因の「怎?」 「A 跟 B 一?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第 10 課 私はパンを食べたいです	☆単元テスト③ 助動詞「想」 選択疑問文	事前に、テスト 3 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	おさらい	第 1~10 課までの復習 ☆単元テスト④	授業後、いままで習った部分の総復習をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語 (基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 30% 単元テスト 70%			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。			

科目名	教養中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JCH2448c2		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第11課 母は私より背が高い	比較表現 「越A越B」	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第12課 彼女は中国に行ったことがある	「?」「打算」 変化の「了」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第13課 私は手紙を書いている	進行形「在」 連動文2	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	11～13課のまとめ	読む・書く復習 ☆単元テスト①	事前に、テスト1の準備をすること。
5	第14課 私は英語を話せます	助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね方	授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第15課 あなたはいつ来たのですか	「是……的」の構文 人民元の数え方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第16課 十五課を習い終わりました	兼語文・結果補語 介詞「用」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	14～16課のまとめ	読む・書く復習 ☆単元テスト②	事前に、テスト2の準備をすること。
9	第17課 母が私に生活用品を送ってくれました	方向補語・介詞「給」 「从A到B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第18課 私は中国語を聞いて分かります	可能補語 「先A, 然后B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第19課 兄が走るの早い	様態補語・時量の表現 数量表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	17～19課のまとめ	読む・書く復習 ☆単元テスト③	事前に、テスト3の準備をすること。
13	第20課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えてください	完了の「了」・原因の「怎?」 「A跟B一?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第21課 先生から本をたくさん読むようにと言われました	使役文 「挺……的」の構文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい	第11～21課までの復習 ☆単元テスト④	授業後、いまままで習った部分の総復習をすること。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしい中国語(基礎編)</td> <td>張慧娟 王武雲 朱藝</td> <td>郁文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい中国語(基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	やさしい中国語(基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	小テスト30% 単元テスト70%
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。

科目名	教養物理	科目名(英文)	Physics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島津 浩哲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1421a2		

授業概要・目的	自然は法則に従って動いている。物理学は自然の法則を理解する学問であり、人間社会の法学に対して、自然界の「法」学ともいえる。この授業では、物理学をこれまで学んでこなかった人向けに、物理学がこの世界(空間、時間、物質、エネルギー)をどのようにとらえているかということについて概観する。また、身近な現象を題材に、その現象を生じさせる原理や物理法則について述べる。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然現象やこれに基づく科学技術に関する基礎知識が身につく、さらに、新しい情報に対して自らが知的好奇心をもって対処できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回、特定のテーマを題材にして、その関連分野も含め広く解説をおこなう。毎回、課題シートの作成を指示する。
科目学習の効果(資格)	法曹界や法務の分野においても、特許、医療、環境分野をはじめ、自然現象やこれに基づく科学技術に関する知識が必要とされることがある。この授業で科学技術のうち物理分野の基礎知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	物理学における表現方法	時間、空間、速度、加速度、単位、次元	課題シートの作成(1時間)
2	私たちが見ているものは過去	相対速度、波の干渉、マイケルソン・モーリーの実験、光速一定の原理、特殊相対性理論、ローレンツ収縮、重力波	課題シートの作成(1時間)
3	私たちの生きるこの世界は いかに作られたか	光の色と振動数、ドブラー効果、銀河、ハッブルの法則、ビッグバン、宇宙背景放射、ダークマター	課題シートの作成(1時間)
4	私たちの体は星くずでできている	元素周期表、恒星、太陽、超新星爆発、ブラックホール、元素生成、核分裂、核融合、質量とエネルギーの等価性、放射線	課題シートの作成(1時間)
5	私たちだけが特別ではない	太陽系、準惑星、天動説と地動説、ケプラーの法則、系外惑星、ハビタブルゾーン	課題シートの作成(1時間)
6	月とりんごは同じ法則で運動する	ニュートンの運動の三法則、万有引力の法則、重力、キャベンディッシュの実験、等加速度運動	課題シートの作成(1時間)
7	変化しても変わらないもの	仕事、エネルギー、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則	課題シートの作成(1時間)
8	ぶらんこをこぐには	単振動、振り子の等時性、固有振動、共鳴・共振	課題シートの作成(1時間)
9	空も飛べるはず	圧力、浮力、アルキメデスの原理、パスカルの原理、ベルヌーイの定理、揚力、カルマン渦、ハニカム構造、炭素繊維	課題シートの作成(1時間)
10	電気を作るには	右ねじの法則、フレミングの法則、モーター、レンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、太陽電池、直流と交流	課題シートの作成(1時間)
11	光と色の世界	三原色、光の反射・屈折、スネルの法則、虹、偏光、液晶、電磁波、光の粒子性と波動性、光電効果、プランク定数	課題シートの作成(1時間)
12	電子の発見からエレクトロニクスへ	陰極線、電気素量、トムソンの実験、ミリカンの実験、ラザフォードの実験、原子模型、波の回折、二重スリット実験、不確定性原理、真空管、半導体、トランジスタ	課題シートの作成(1時間)
13	熱と時間の矢	ボイル・シャルルの法則、アボガドロ定数、絶対温度、ボルツマン定数、超伝導、熱力学第二法則、エントロピー	課題シートの作成(1時間)
14	未来は決まっているのか	気候変動予測、複雑系、カオス、バタフライ効果、ブラウン運動、経済物理、スーパーコンピュータ	課題シートの作成(1時間)
15	科学技術関連法と科学技術政策	科学技術基本法、科学技術政策、宇宙基本法、宇宙政策	課題シートの作成(1時間)

関連科目	教養数学
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数式なしでわかる物理学入門	桜井邦朋	祥伝社
2	人物で語る物理入門(上、下)	米沢富美子	岩波新書	
3				

評価方法(基準)	毎回の課題シート合計50%、中間レポート25%、期末レポート25%。
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	現代の科学技術文明は、身の回りの自然を理解することで生み出されてきました。一方、2011年の福島第一原子力発電所の事故の後、科学のことは専門家に任せておけば大丈夫という安心感は揺らいでいます。科学は信じるものではなく、理解するものとして取り組んでください。課題シ
-----------	---

	ートを仕上げる中で、理解できなかった点を洗い出し、次の授業にて遠慮なく質問をしたうえで、さらなる知識を積み上げてください。
担当者の 研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	課題シート、および、レポート課題を評価した上で教室で返却する。 質問・相談時間：金曜 14:50～16:20

科目名	経営学入門	科目名(英文)	Introduction to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畠山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01412a2		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学で学習する各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 授業担当者は、民間企業における経理事務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論の基礎的な内容を説明できる。 ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した経営学検定の過去問題の演習を行う。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと経営学の概要について学習する。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
2	企業と経営	企業と経営の概要について学習する。	事前：教科書の第1部第1章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
3	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について学習する。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
4	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
5	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
6	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
7	全社戦略(1)	全社戦略の概要やドメインについて学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
8	全社戦略(2)	成長のための戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
9	事業戦略	事業戦略や競争戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
10	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第4章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
11	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
12	企業組織の諸形態(1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
13	企業組織の諸形態(2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
14	経営のグローバル化	経営の国際化、グローバル化について学習する。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと(1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと(1時間)
15	企業経営と情報化	企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。	事前：教科書の第5部第3章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと(1.5時間) 事後：教科書と講義資料を読み返しておくこと(1時間)

関連科目	企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、グローバル経営論
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営学検定試験公式テキスト1	経営学の基本	経営能力開発センター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	第14回の講義後にMoodleで実施する小テスト20%、期末試験80%で評価する。
----------	---

学生への メッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11号館8階 島山研究室
備考	①小テストは、第14回の講義終了後から第15回の講義の前日23時までには回答しなければならない。得点は、回答終了後にMoodleで表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。

科目名	経済学 I	科目名 (英文)	Economics I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀 篤史
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて 経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果 (資格)	経済学検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	—————
	2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習すること。(1 時間)
	4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	5	企業分析入門②	第 4 回の続き	練習問題を解いておくこと。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	7	企業分析入門④	第 6 回の続き	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(2 時間)
	8	株式投資の基礎知識	株価はどのように決まるのか。株式投資の魅力とリスクについて学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1 時間)
	10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	12	日本の財政②	第 11 回の続き	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	13	国際金融①	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	14	国際金融②	最近の国際金融の動向について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1 時間)
	15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1 時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済学	伊藤元重	日本評論社
	2	初めて学ぶ人のための経済入門	松村敏・玉井義浩	培風館
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (85%)、受講態度 (15%)
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等備考	11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)

科目名	経済学Ⅱ	科目名(英文)	Economics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本経済の身近な事例を題材として説明し、経済活動の仕組みの基礎や日本経済と世界とのつながりについて理解することを目的とします。
到達目標	経済活動の仕組みの基礎を理解することによって、今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ際の基礎的理解を養います。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。
科目学習の効果(資格)	今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ差異の基礎的理解を習得します。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			初回はイントロダクションなので、配布レジュメを用いて1時間程度の復習を行うこと
1	イントロダクション	授業概要の紹介	
2	国民経済の指標	国民経済の指標としての有効求人倍率と完全失業率の考え方	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
3	付加価値	国民経済の最も基礎的な概念である付加価値の考え方	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
4	国内総生産と付加価値	国内総生産と付加価値の関係について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
5	国内総生産の三面等価	国内総生産の生産面、支出面、所得面の見方とその関係	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
6	名目GDPと実質GDP	国内総生産と物価の関係について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
7	インフレの問題点	物価変動の仕組みとインフレによる問題点について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
8	デフレの問題点	持続的なデフレによる問題点について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
9	通貨の種類	さまざまな通貨の種類について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
10	通貨と信用創造	金融機関の役割と信用創造の仕組みについて	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
11	日本銀行と金融政策	日本銀行の役割と金融政策について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
12	財政政策	財政政策の仕組みについて	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
13	財政と社会保障	日本の財政と社会保障について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
14	財政赤字の問題	財政赤字の発生要因について	配布レジュメを用いて前回の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	最終回授業なので、配布レジュメを用いて1時間程度の復習を行うこと

関連科目	経済学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	1回のレポート(40%)と期末試験(60%)による総合評価
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01410a2		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて 経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果(資格)	経済学検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	—————
	2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習すること。(1時間)
	4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	5	企業分析入門②	第4回の続き	練習問題を解いておくこと。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	7	企業分析入門④	第6回の続き	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(2時間)
	8	株式投資の基礎知識	株価はどのように決まるのか。株式投資の魅力とリスクについて学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1時間)
	10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	12	日本の財政②	第11回の続き	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	13	国際金融①	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	14	国際金融②	最近の国際金融の動向について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済学	伊藤元重	日本評論社
	2	初めて学ぶ人のための経済入門	松村敏・玉井義浩	培風館
	3			

評価方法(基準)	定期試験(85%)、受講態度(15%)
----------	---------------------

学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等備考	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
------------	--------------------------

科目名	健康論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

教養科目

授業概要・目的	運動およびスポーツ活動は私たちの健康づくりにおいて欠かせない要素である。また運動やスポーツの効果を最大限に発揮するためには、運動時の身体の変化についての知識を身につける必要がある。本授業では、身体の内側を理解し、運動(スポーツ)により私たちの心身がどのように変化するかについて科学的根拠に基づいた基礎知識を修得する。授業担当者は、医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者に対する運動と健康あるいは病気の関わりについて、対話を通して理解を深めてきた。これらのことを本授業に活用し、スポーツ科学の基礎についてわかりやすい授業を行う。
到達目標	身体の形態・機能およびスポーツによるそれらの変化について、正しく理解することができる。 スポーツパフォーマンス向上を目指すために必要な基礎知識を修得できる。 心身の健康の保持・増進に向けたスポーツの役割を理解することができる。
授業方法と留意点	レジュメを配布する。 次回のテーマに沿った課題を課す。 予習内容に沿ってグループワークを行う。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事後学習時間 30分)
2	身体づくり	中学・高校で既知の身体づくりについて復習する。身体づくりについて正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
3	身体を動かすしくみー筋・骨格系ー	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
4	身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
7	体組成(筋肉・脂肪・骨)とエクササイズ	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
8	全身持久力とエクササイズ	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
9	発育・発達と運動	発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
10	老化と運動	老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
12	運動時の体温調節と水分補給	運動時における体温の変化について、メカニズムと調整方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
13	スポーツと貧血	スポーツ性貧血について、その原因と、予防・対応法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
14	運動障害と予防、応急処置	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法、応急処置について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。(事前・事後学習時間 60分)
15	スポーツ時における体調管理	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 (事前・事後学習時間 60分)

関連科目: スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験(30%)、課題(30%)、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物(40%)により評価する。 100点中60点で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館1階 藤林研究室			
備考				

科目名	現代韓国事情	科目名(英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識(1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識(2)	韓国近現代史概説: 軍政時代の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解(1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解(2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解(3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解(4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う(1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う(2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。			

科目名	現代ビジネス論	科目名(英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本の経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果(資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか?
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓 4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案(6~10回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか? 自身の能力をどう評価していますか?
11	自分はどうなるか 事例1. 平生飢三郎	日本の経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。人生3分論(成長・働く・奉仕(奉公)を実践)	以下2回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。2人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第11回参照
13	地方創生	「やりたい仕事がない」[若者が地方に魅力を持たなくなっている]地方の現状を如何に解決するか	外部講師を呼ぶ予定です
14	国際企業を経営する	マネジメントの国際化時代です。国際企業の経営者が実情を語ります。	外部講師を呼ぶ予定です
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	公共政策の基礎	科目名(英文)	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2073a0		

授業概要・目的	政策とは、解決すべき問題のために考案され用いられる手段のセットといえる。なかでも公共政策は、政府の公権力をもって国民全体のために決定され実施される手段の体系である。この講義では、公共政策を担う政府の役割を市場との対照において把握することからはじめ、公共政策の合理的な形成を理解したうえで、現実には最良の政策案が採用されるケースが稀である理由を探る。
到達目標	この授業を通じて学生には、合理的な政策の立案過程を学んだうえで、現実の政策が合理的とは必ずしもいえないものになる理由を説明できるようになることが期待される。自分が政治家や官僚だったら、現実の制約のなかでどのように考え、行動するか考える。
授業方法と留意点	理論を学び、身近な例で確認し、いまの社会問題を使って説明を試みる。このステップを講義中に課題形式で進めていく。
科目学習の効果(資格)	授業は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「政策」という言葉	ドラマ「ザ・ホワイトハウス2」で「政策」という言葉が使われている文脈をつかむ。	「ザ・ホワイトハウス2」の視聴(約1時間)
	2	市場のメカニズム	等価交換に基づく市場の仕組みを知る。	レジュメ p.1 を見直す(約1時間)
	3	政府のメカニズム	市場と対照的な政府の仕組みを知る。	レジュメ p.2 を見直す(約1時間)
	4	政府による市場メカニズムの採用	最近の教育制度改革を例に使って、政府が競争原理を部分的に採用する意義と方法を理解する。	新聞記事資料の確認(約1時間)
	5	システムとしての政府の役割	政府をシステムとしてとらえて、公共政策を国民生活にアウトプットする意義を考える。	レジュメ p.3 を見直す(約1時間)
	6	公共政策としてのサービスと規制	公共政策の内容を大きく「サービス」と「規制」に分けて整理する。	レジュメ p.4 を見直す(約1時間)
	7	政策過程の考え方	政府が政策をつくり、実施する過程を段階間の移行として説明する議論を理解する。	レジュメ p.5-6 を見直す(約1時間)
	8	合理的意思決定と政策過程	政策過程の前提にある合理性について考える。	レジュメ p.7-8 を見直す(約1時間)
	9	課題設定とその回避	水俣病に対する政府の対応を見て、社会問題の解決が政府の課題とされる場合とされない場合がある理由を探る。	レジュメ p.9-10 を見直す 新聞記事資料の確認(約1.5時間)
	10	政策立案とその制約	防衛力整備の検討を例に挙げて、課題を達成する政策案を考案する過程と、最良と思われる政策案が消えていく現実を知る。	レジュメ p.11 を見直す 新聞記事資料の確認(約1.5時間)
	11	インクリメンタリズム	現実の政府は現在からの少しの変化だけを視野に入れて公共政策を決定するというモデルを学ぶ。	レジュメ p.12 を見直す(約1時間)
	12	政策決定の非合理性	高速道路建設の現実を例に使って、合理的とはいえない政策が決定されることになる現実を知る。	レジュメ p.13 を見直す(約1時間)
	13	組織過程モデル	現実の政府では各省庁に備わる所定の手続が非合理的な政策を生み出すというモデルを学ぶ。	レジュメ p.14 を見直す(約1時間)
	14	政策決定の消滅	郵政民営化やエコポイントを例に挙げて、政策案があっても政策決定が先送りになったり、行われないことがある現実を知る。	レジュメ p.15 を見直す 新聞記事資料の確認(約1.5時間)
	15	ゴミ箱モデル	政策決定を偶然ととらえ、政策が決定に至らない現実を説明するモデルを学ぶ。	レジュメ p.16-17 を見直す 期末試験の対策(約3時間)

関連科目 入門の「政治学概論」と発展の「行政学」の間に位置する基本科目である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準) 平常点(毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%)と期末試験の点数(70%)の合計によって評価する。

学生へのメッセージ 法学部の授業としては内容も方法も「かわった」ものにする挑戦的な授業にしたいと考えています。

担当者の研究室等 11号館9階 中沼教授室

備考 講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。

科目名	国語学	科目名(英文)	Japanese Language
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1404a2		

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。この授業では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	日本語の特色をいくつかあげ、具体的かつ正確に説明することができる。
授業方法と留意点	講義を中心にする。必要な資料をプリントで配布する。講義の最後に、コメントペーパーを配布し、まとめや質問に答える作業を行う。
科目学習の効果(資格)	日本語に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本語とは何か	授業の進め方、概説 日本語について考える	事後：提示した日本語に関する疑問について考える (1時間)
2	世界の中の日本語 1	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	事後：日本語の文字の特徴について調べる(2時間)
3	世界の中の日本語 2	日本語の文法的特徴について考える	事後：日本語の文法の捉え方について調べる(2時間)
4	世界の中の日本語 3	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	事後：2～4回の内容を復習してまとめる(2時間)
5	発音 1	日本語の調音について詳しく知る	事後：日本語の調音について調べる(2時間)
6	発音 2	日本語の子音について詳しく知る	事後：日本語の子音の調音について、自身で確認しまとめる(2時間)
7	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	事後：日本語の拍について調べ、授業内容を振り返る(2時間)
8	アクセント 1	東西におけるアクセントの違いを見る	事後：日本語のアクセントの特徴を調べてまとめる(2時間)
9	アクセント 2	アクセントの高低配分について考える	事後：日本語のアクセントの法則について調べ、授業内容をまとめる(2時間)
10	文法 1	自動詞と他動詞について考察する	事後：授業時の課題にとりくみ、自動詞と他動詞についてまとめる(2時間)
11	文法 2	受身文について考察する	事後：日本語の受け身文の特徴について、課題に取り組む(2時間)
12	文法 3	「～た」形、「～ている」形について考察する	事後：授業時に示した課題に取り組む(2時間)
13	標準語と方言	標準語と方言の関係について考える	事後：方言と標準語について調べ、授業内容を整理する(2時間)
14	方言の広がり	現代語における方言の位置づけを考える	事後：授業で示した例を参考に、方言の広がりについて調べる(2時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を整理する	事後：これまでの授業内容をまとめる(2時間)

関連科目	日本語能力開発 文学
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験を実施する。 定期試験の成績(75%)、授業時の課題(25%)により評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
----------	--------------

備考	コメントペーパーの回答、質問については、次回にフィードバックします。 事前事後学習時間の目安は、上記に試験勉強時間などを加え、約60時間です。
----	--

科目名	国語学 I	科目名 (英文)	Japanese Language I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的  
 国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。この授業では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。

到達目標  
 日本語の特色をいくつかあげ、具体的かつ正確に説明することができる。

授業方法と留意点  
 講義を中心にする。必要な資料をプリントで配布する。講義の最後に、コメントペーパーを配布し、まとめや質問に答える作業を行う。

科目学習の効果 (資格)  
 日本語に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	日本語とは何か	授業の進め方、概説 日本語について考える	事後：提示した日本語に関する疑問について考える (1 時間)
2	世界の中の日本語 1	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	事後：日本語の文字の特徴について調べる (2 時間)
3	世界の中の日本語 2	日本語の文法的特徴について考える	事後：日本語の文法の捉え方について調べる (2 時間)
4	世界の中の日本語 3	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	事後：2～4 回の内容を復習してまとめる (2 時間)
5	発音 1	日本語の調音について詳しく知る	事後：日本語の調音について調べる (2 時間)
6	発音 2	日本語の子音について詳しく知る	事後：日本語の子音の調音について、自身で確認しまとめる (2 時間)
7	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	事後：日本語の拍について調べ、授業内容を振り返る (2 時間)
8	アクセント 1	東西におけるアクセントの違いを見る	事後：日本語のアクセントの特徴を調べてまとめる (2 時間)
9	アクセント 2	アクセントの高低配分について考える	事後：日本語のアクセントの法則について調べ、授業内容をまとめる (2 時間)
10	文法 1	自動詞と他動詞について考察する	事後：授業時の課題にとりくみ、自動詞と他動詞についてまとめる (2 時間)
11	文法 2	受身文について考察する	事後：日本語の受け身文の特徴について、課題に取り組む (2 時間)
12	文法 3	「～た」形、「～ている」形について考察する	事後：授業時に示した課題に取り組む (2 時間)
13	標準語と方言	標準語と方言の関係について考える	事後：方言と標準語について調べ、授業内容を整理する (2 時間)
14	方言の広がり	現代語における方言の位置づけを考える	事後：授業で示した例を参考に、方言の広がりについて調べる (2 時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を整理する	事後：これまでの授業内容をまとめる (2 時間)

関連科目  
 日本語能力開発 文学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
 定期試験を実施する。  
 定期試験の成績 (75%)、授業時の課題 (25%) により評価する。

学生へのメッセージ  
 日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。

担当者の研究室等  
 7 号館 4 階 (橋本研究室)

備考  
 コメントペーパーの回答、質問については、次回にフィードバックします。  
 事前事後学習時間の目安は、上記に試験勉強時間などを加え、約 60 時間です。

教養科目

科目名	時事英語 I	科目名 (英文)	Journal English I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2444b2		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.3]、後期はCEFR-J [B1.1]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。また演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Case 1 Shouldn't be That Hot!	授業内容についての説明 読解・問題 (pp.9~11)	授業範囲の予習と復習
	2	Case 1 Shouldn't be That Hot! Case 2 Damages for a Five-Day Delay	Review 読解・問題 (pp.12~15) Quiz	授業範囲の予習と復習
	3	Case 2 Damages for a Five-Day Delay	Review 読解・問題 (pp.16~18) Quiz	授業範囲の予習と復習
	4	Case 2 Damages for a Five-Day Delay Case 3 A Brand New Car (Well, Almost)	Review 読解・問題 (pp.19~22) Quiz	授業範囲の予習と復習
	5	Case 3 A Brand New Car (Well, Almost)	Review 読解・問題 (pp.23~25) Quiz	授業範囲の予習と復習
	6	Case 3 A Brand New Car (Well, Almost) Case 4 Chasing a Celebrity Murder Suspect, Live on TV	Review 読解・問題 (pp.26~29) Quiz	授業範囲の予習と復習
	7	Case 4 Chasing a Celebrity Murder Suspect, Live on TV	Review 読解・問題 (pp.30~32) Quiz	授業範囲の予習と復習
	8	Case 5 Dangerous Driving	Review 読解・問題 (pp.33~36) Quiz	授業範囲の予習と復習
	9	Case 5 Dangerous Driving Case 6 I Won't Tell You My Source!	Review 読解・問題 (pp.37~41) Quiz	授業範囲の予習と復習
	10	Case 6 I Won't Tell You My Source!	Review 読解・問題 (pp.42~44) Quiz	授業範囲の予習と復習
	11	Case 6 I Won't Tell You My Source! Case 7 A Fair Trial? Choosing the Jury	Review 読解・問題 (pp.45~47) Quiz	授業範囲の予習と復習
	12	Case 7 A Fair Trial? Choosing the Jury	Review 読解・問題 (pp.48~50) Quiz	授業範囲の予習と復習
	13	Case 7 A Fair Trial? Choosing the Jury Case 8 Objection, Your Honor!	Review 読解・問題 (pp.51~54) Quiz	授業範囲の予習と復習
	14	Case 8 Objection, Your Honor!	Review 読解・問題 (pp.54~58) Quiz	授業範囲の予習と復習
	15	General Review	Case 1~ Case 8 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。

関連科目	他の全英語科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Legal Minds 15 Journeys in Law	Shinichiro Torikai 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

教養科目

	3			
評価方法 (基準)	授業態度 (30%) + 授業時の課題 (30%) + 小テスト (40%)			
学生への メッセージ	日頃から意識的にニュースや新聞などを読んだり視聴して、情報や知識を身につけましょう。 予習・復習をしっかりと行いましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	時事英語Ⅱ	科目名(英文)	Journal English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2445b2		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声(および映像)によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.3]、後期はCEFR-J [B1.1]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。また演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Case 9 Made the U.S. My Home	読解・問題 (pp.59~61)	授業範囲の予習と復習
2	Case 9 Made the U.S. My Home	Review 読解・問題 (pp.62~64) Quiz	授業範囲の予習と復習
3	Case 10 Separate and Not Equal	Review 読解・問題 (pp.65~67) Quiz	授業範囲の予習と復習
4	Case 10 Separate and Not Equal	Review 読解・問題 (pp.68~70) Quiz	授業範囲の予習と復習
5	Learn More 司法コラム② Case 11 Reverse Discrimination?	Review 読解・問題 (pp.71~75) Quiz	授業範囲の予習と復習
6	Case 11 Reverse Discrimination?	Review 読解・問題 (pp.76~78) Quiz	授業範囲の予習と復習
7	Case 12 Season's Greetings: Tradition or Violation?	Review 読解・問題 (pp.79~81) Quiz	授業範囲の予習と復習
8	Case 12 Season's Greetings: Tradition or Violation?	Review 読解・問題 (pp.82~84) Quiz	授業範囲の予習と復習
9	Case 13 Stop Copying Our Products!	Review 読解・問題 (pp.85~87) Quiz	授業範囲の予習と復習
10	Case 13 Stop Copying Our Products!	Review 読解・問題 (pp.88~90) Quiz	授業範囲の予習と復習
11	Case 14 Obama Care - Care for All Americans	Review 読解・問題 (pp.91~93) Quiz	授業範囲の予習と復習
12	Case 14 Obama Care - Care for All Americans	Review 読解・問題 (pp.94~96) Quiz	授業範囲の予習と復習
13	Case 15 A Gift on Foreign Soil	Review 読解・問題 (pp.97~99) Quiz	授業範囲の予習と復習
14	Case 15 A Gift on Foreign Soil	Review 読解・問題 (pp.100~104) Quiz	授業範囲の予習と復習
15	General Review	Case 9~ Case 15 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。

関連科目	他の全英語科目								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Legal Minds 15 Journeys in Law</td> <td>Shinichiro Torikai</td> <td>金星堂</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Legal Minds 15 Journeys in Law	Shinichiro Torikai	金星堂
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1	Legal Minds 15 Journeys in Law	Shinichiro Torikai	金星堂						
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1									
評価方法(基準)	授業態度(30%) + 授業時の課題(30%) + 小テスト(40%)								
学生へのメッセージ	日頃から意識的にニュースや新聞などを読んだり視聴して、情報や知識を身につけましょう。予習・復習をしっかりと行いましょう。								
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)								
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。								

科目名	自然地理学	科目名(英文)	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1424a2		

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形・気候・土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境変換者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理学と環境	・人類による環境への働きかけの歴史(過去から現在まで)	指定テキストに目を通して下さい。
	2	様々な地形と生活ーその1ー	・扇状地・氾濫原・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	3	様々な地形と生活ーその2ー	・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	4	世界の気候	・気候因子と気候要素 ・世界に見られる様々な気候	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	5	日本の気候	・日本の気候的特色	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	6	世界の植生と土壌	・世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	8	都市化の進展と水文環境の変化	・都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	9	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	10	防災について	・環境変化をもたらしたもの ・水害の軽減をめざして	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	11	水資源と農業	・稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	12	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
	15	離島における地下ダムの建設	・宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。

関連科目	人文地理学、環境関連科目
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 60%、授業参加点 20%、課題点 20%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点につけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。
----------	---

学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業前の用語の下調べが課された場合、1時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず辞典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	実定法上級講義	科目名(英文)	Comprehensive Lecture on Positive Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	前田 剛志, 松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ4096a0		

授業概要・目的	この実定法上級講義の講義では、法政キャリア特別講義と同様に公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試などに向けた実践的な知識の習得を目的としています。直前期にあたることとなりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要な高度に専門的な法的知識を習得することが期待される。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数に限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思えます。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることとなります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的な構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと(約30分)。
2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解(精神的自由との比較)	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、見直しておくこと(約1時間)。
4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法177条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、415条・416条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、見直しておくこと(約1時間)。
8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を見直しておくこと(約1時間)。
13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、見直しておくこと(約1時間)。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を見直しておくこと(約1時間)。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を見直しておくこと(約30分)。

関連科目 直接的には、各種実定法特別講義講義と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に実施する確認テストの点数(85%)及び日々の課題(15%)などによって、総合的に評価します(詳細は初回の講義で説明します)。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。			
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連続した形で、公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。			
担当者の 研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習・復習が必要となります。また、定員の上限を定める場合があります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。確認テストの解説については、授業内で行う。			

科目名	実定法特別講義 I	科目名 (英文)	Special Lecture on Positive Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 剛志, 松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2094a0		

授業概要・目的	この実定法特別講義 I の講義では、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的としています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学検定試験や行政書士試験、宅地建物取引士などの問題演習を通じて、憲法・民法の基礎知識を習得すること、具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目指すようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数に限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思えます。範囲としては、憲法全般、民法全般に及ぶので、まだ受講していない範囲にも学習が及ぶことになります。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	授業中に指示します。資格試験や公務員試験、司法試験など具体的な目標をあらかじめ考えておくこと（約30分）。
2	憲法①	憲法の人権の中でも重要な位置を占める精神的自由についての基本を学びます。	精神的自由、特に表現の自由について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
3	憲法②	憲法には、精神的自由以外にも様々な人権があります。それらの概要を学びます。	経済的自由、社会権、参政権などについて自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
4	憲法③	憲法には、大きく分けて人権分野と統治分野からなります。国会、内閣、裁判所などの統治機構についての基本を学習します。	統治機構の基本となる国会・内閣・裁判所の関係と権能について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
5	民法①	私人間の関係を規律する民法についての学習をはじめます。まずは、権利の主体や法律行為などを定めている民法総則から学習します。	民法総則の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
6	民法②	物を直接的・排他的に支配する権利であるといわれる物権について学習します。	物権、特に所有権、抵当権の内容について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
7	民法③	特定人から特定人に対して一定の財産上の行為を請求できるという債権について学びます。まずは、債権総論からはじめます。	債権総論、特に債権者代位権、詐害行為取消権について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
8	民法④	債権各論といわれる分野を学習します。契約がどのようにして成立するのか、契約の効力はどのようなものがあるかなどを学びます。	債権各論の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
9	民法⑤	ここでは、具体的な契約の種類や事務管理・不当利得・不法行為などを学習します。	引き続き債権各論の分野、特に売買、賃貸借、不法行為について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
10	民法⑥	民法は、経済的生活関係だけではなく、身分的生活関係も規律しています。婚姻、親子、相続などを学習します。	民法の親族・相続の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
11	民法⑦	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
12	民法⑧	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
13	民法⑨	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
14	民法⑩	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がよく理解できなかった部分などがどこを見直すこと（約30分）。

関連科目 直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2019年法学検定試験問題集ベーシック	法学検定試験委員会	商事法務
2				
3				

評価方法 (基準) 期末試験の点数（85%）及び日々の課題（15%）によって、評価します。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。

学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。 また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。
担当者の 研究室等	11号館9階 松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習・復習が必要となります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。 確認ペーパーなどの正解・解説は授業内で行う。

科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01416a2		

授業概要・目的	社会学という営みは、いかなる問題意識をもち、何をやっているのか。また、社会学を使うことによって、世界はどのように見えるのか。この授業では、こうした問いに迫るために、まず社会学の成立について、背景にある問題意識や時代精神を踏まえながら解説していく。次に、社会学的な視座から家族や教育、宗教などのテーマを扱い、その視座の独自性を示す。いずれもベースとなるのは社会学者デュルケムの立場である。
到達目標	受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一歩深い水準から考察することができるようになる。
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義形式の授業をおこなう。受講者の理解を深めるために、統計データや小説・映画など、テーマに関連するさまざまな資料を使用する。
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	講義へのオリエンテーション	授業の流れについて理解する。
	2	社会学とは (1)	社会学とは何か	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	3	社会学とは (2)	近代社会科学の登場と社会学の萌芽	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	4	社会学とは (3)	社会学の成立と背景にある時代精神	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	5	社会学とは (4)	デュルケム社会学の立場	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	6	個人と集団の社会学	個人の行為と意識、個人をとりまく集団	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	7	アノミーと逸脱行動の社会学 (1)	デュルケムのアノミー論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	8	アノミーと逸脱行動の社会学 (2)	マートンのアノミー論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	9	家族の社会学 (1)	現代家族の状況とその歴史的推移	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	10	家族の社会学 (2)	デュルケムの家族論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	11	教育の社会学 (1)	教育の現代的課題	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	12	教育の社会学 (2)	デュルケムの教育論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	13	文化と宗教の社会学 (1)	デュルケムの宗教論：シンボルイズム	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	14	文化と宗教の社会学 (2)	デュルケムの宗教論：「集合的沸騰」	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	15	おわりに	講義の総括	授業全体を振り返る。

関連科目	社会学 II
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的参加 20%、期末試験 80%
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	なかなか難しい授業ですが、関心のある人はのぞいてみてください。本を読むこと、考えることが好きな学生の受講を歓迎します。
-----------	---

担当者の研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
----------	----------------------

備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける。担当者のメールアドレスは以下の通りである。 esp3403@mail2.doshisha.ac.jp また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。
----	--

科目名	社会学Ⅱ	科目名(英文)	Sociology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01417a2		

授業概要・目的	社会学という営みは、いかなる問題意識をもち、何をやっているのか。また、社会学を使うことによって、世界はどのように見えるのか。この授業では、こうした問いに迫るために、まず社会学の成立について、背景にある問題意識や時代精神を踏まえながら解説していく。次に、社会的な視座から法や政治、経済などのテーマを扱い、その視座の独自性を示す。いずれもベースとなるのは社会学者デュルケムの立場である。
到達目標	受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一歩深い水準から考察することができるようになる。
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義形式の授業をおこなう。受講者の理解を深めるために、統計データや小説・映画など、テーマに関連するさまざまな資料を使用する。
科目学習の効果(資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	講義へのオリエンテーション	授業の流れについて理解する。
	2	社会学とは(1)	社会学とは何か	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	3	社会学とは(2)	近代社会科学の登場と社会学の萌芽	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	4	社会学とは(3)	社会学の成立と背景にある時代精神	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	5	社会学とは(4)	デュルケム社会学の立場	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	6	法の社会学(1)	法の社会的機能	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	7	法の社会学(2)	デュルケムの法律論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	8	経済と産業の社会学(1)	リベラリズムの成立と歴史的展開	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	9	経済と産業の社会学(2)	現代のネオリベラリズムと福祉国家	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	10	経済と産業の社会学(3)	デュルケムの経済論：社会主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	11	政治の社会学(1)	フランス第三共和政下の政治的対立とデュルケム	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	12	政治の社会学(2)	現代政治の諸情勢	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	13	政治の社会学(3)	デュルケムの政治論：民主主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	14	政治の社会学(4)	デュルケムの政治論：「人格崇拜」	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。
	15	おわりに	講義の総括	授業全体を振り返る。

関連科目	社会学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的参加(学習意欲や課題への取り組みなどを総合的に評価する)20%、期末試験80%
----------	--

学生へのメッセージ	なかなか難しい授業ですが、関心のある人はのぞいてみてください。本を読むこと、考えることが好きな学生の受講を歓迎します。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館6階、経営学部非常勤講師室
----------	-------------------

備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける。担当者のメールアドレスは以下の通りである。 esp3403@mail2.doshisha.ac.jp また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。
----	--

科目名	社会調査の方法	科目名(英文)	Social Research Method
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01419a2		

授業概要・目的	この授業では、社会調査の概要を述べた上で、特に量的調査に関して、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスについて解説する。すなわち、さまざまな社会現象に対して、問いを立て、データを集め、分析し、それによって得られた結果を解釈し、問いに対する答えを報告書にまとめるという、量的社会調査の一連のプロセスについて、守るべきルールや方法をおさえながら解説していく。
到達目標	受講生は、量的調査のデータベースを用いた情報検索の方法、ならびに量的調査を設計する方法を学ぶことを通して、データの収集、分析にかんする知識と実践力を習得することができる。
授業方法と留意点	授業は基本的に配布資料を用いながら講義形式で進める。ただし実践力を養うために、各回においてディスカッションの機会や課題を取り入れる。
科目学習の効果(資格)	社会調査はゼミ活動や卒業研究だけでなく、たとえば市場調査など、就職後にもさまざまな場面で実施することになりうるものである。受講生はそのための知識や技術を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義のねらいと概要	レジュメを読んで復習する(1時間)。配布した調査票を見てその構造をつかむ。
2	社会調査の概要	質的調査と量的調査、社会調査の現状	レジュメを読んで復習する(1時間)。
3	調査を企画する前に	問い(リサーチ・クエスチョン)の立て方と検証の仕方、変数と尺度水準	レジュメを読んで復習する(1時間)。
4	調査の企画	実査の方法、他記式調査と自記式調査	レジュメを読んで復習する(1時間)。
5	調査票の作成(1)	質問文の作成、ワーディング	レジュメを読んで復習する(1時間)。
6	調査票の作成(2)	質問文への回答形式の設定	レジュメを読んで復習する(1時間)。
7	サンプリング(1)	全数調査と標本調査、サンプリングの諸技法	レジュメを読んで復習する(1時間)。例題に取り組む。
8	サンプリング(2)	母集団と標本、ランダム・サンプリング	レジュメを読んで復習する(1時間)。例題に取り組む。
9	調査の実施	実査の手順、調査倫理	レジュメを読んで復習する(1時間)。
10	調査データの作成	エディティング、コーディング、データクリーニング	レジュメを読んで復習する(1時間)。
11	調査データの集計・分析(1)	質的変数と量的変数、その集計・分析の仕方	レジュメを読んで復習する(1時間)。例題に取り組む。
12	調査データの集計・分析(2)	1変数の分布と傾向：度数分布と記述統計	レジュメを読んで復習する(1時間)。例題に取り組む。
13	調査データの集計・分析(3)	2変数の関連：クロス表、平均値の差、相関係数	レジュメを読んで復習する(1時間)。例題に取り組む。
14	調査結果の提示	報告書の作成、論文・レポートの書き方	レジュメを読んで復習する(1時間)。
15	総括	講義の振り返りとまとめ	授業全体を復習する(1時間)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・社会調査法(第2版)	轟亮・杉野勇編	法律文化社
2	新・社会調査へのアプローチ——理論と方法	大谷信介ほか	ミネルヴァ書房	
3				

評価方法(基準)	授業への取り組み(課題を含む) 30%、期末試験 70%
学生へのメッセージ	技法の習得・理解はもちろんですが、何を明らかにしたいのか、何のために調査するのかといった「問いの内容」が重要です。日ごろから新聞や雑誌に目を通すなどして、社会に対する関心を持つようになしてください。
担当者の研究室等	11号館6階、経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける。担当者のメールアドレスは以下の通りである。 esp3403@mail2.doshisha.ac.jp また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果(資格)	社会で必要とされる数的能力を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
11	論理推論①	順序推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学が楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宜, 寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果(資格)	社会で必要とされる数的能力を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
11	論理推論①	順序推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	ABCD
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。コンピュータとインターネットについて理解し、情報モラルとマナーを認識する。実用的なアプリケーションソフトを利用して、情報収集、情報加工、集計、資料作成ができることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①インターネットを利用した情報収集ができること、②インターネット社会の危険性について説明できること、③Word、Excel を使って情報の加工、集計、資料の作成ができることが期待される。
授業方法と留意点	授業は教科書に沿って演習形式で行う。授業の出席と課題提出は必須である。 毎授業のはじめに 5 分程度タイピング練習を入れる。 第 4 回目はインターネット検索で得た情報について、ディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について、学内ネットワーク説明、タッチタイピングの紹介	事後：自宅から学校サーバーへのアクセスを試みる (20 分)
	2	パソコンの概要	パソコンの歴史と仕組み、日本語入力とファイル管理	事前：教科書第 1 章の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	3	インターネットの活用	インターネットによる情報検索	事前：教科書第 2 章 1 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	4	情報モラルとセキュリティ	インターネット利用の注意事項、インターネット利用のマナー	事前：教科書第 2 章 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	5	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書の作成	事前：教科書第 3 章 1, 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	6	文書作成 (2)	画像の挿入、図の作成	事前：教科書第 3 章 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	7	文書作成 (3)	表の作成	事前：教科書第 3 章 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	8	前半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60 分)
	9	文書作成・応用	論文やレポート作成のための Word 技術	事前：教科書第 3 章 4 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	10	表計算 (1)	Excel の基礎知識、基本操作、データの入力	事前：教科書第 5 章 1, 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	11	表計算 (2)	表の作成、セルの書式設定、計算・集計	事前：教科書第 5 章 2, 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	12	表計算 (3)	関数の利用	事前：教科書第 5 章 4 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	13	表計算 (4)	グラフの作成	事前：教科書第 5 章 5 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	14	表計算 (5)	データの並び替えと抽出、ピボットテーブル	事前：教科書第 5 章 6 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	15	後半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60 分)

関連科目	情報処理 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (30%)、確認テスト (60%)、タイピングの練習状況、授業への参加状況 (10%) の合計によって評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	11 号館 8 階 (橋本講師室)
----------	-------------------

備考	事後演習課題の解説は、次の授業時に解説を行う。(Moodle に掲載するなど別の方法をとることもある)
----	---

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	EGHIJ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。コンピュータとインターネットについて理解し、情報モラルとマナーを認識する。実用的なアプリケーションソフトを利用して、情報収集、情報加工、集計、資料作成のスキル獲得を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①インターネットを利用した情報収集ができるようになること、②インターネット社会の危険性について説明できるようになること、③Word、Excel を使って情報の加工、集計、資料の作成ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は教科書に沿って演習形式で行う。授業の出席と課題提出は必須である。 毎授業のはじめに 5 分程度タイピング練習を入れる。 第 4 回目はインターネット検索で得た情報について、ディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について、学内ネットワーク説明、タッチタイピングの紹介	事後：自宅から学校サーバーへのアクセスを試みる (20 分)
	2	パソコンの概要	パソコンの歴史と仕組み、日本語入力とファイル管理	事前：教科書第 1 章の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	3	インターネットの活用	インターネットによる情報検索	事前：教科書第 2 章 1 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	4	情報モラルとセキュリティ	インターネット利用の注意事項、インターネット利用のマナー	事前：教科書第 2 章 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	5	文書作成 (1)	Word の基礎知識、文書の作成	事前：教科書第 3 章 1, 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	6	文書作成 (2)	画像の挿入、図の作成	事前：教科書第 3 章 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	7	文書作成 (3)	表の作成	事前：教科書第 3 章 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	8	前半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60 分)
	9	文書作成・応用	論文やレポート作成のための Word 技術	事前：教科書第 3 章 4 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	10	表計算 (1)	Excel の基礎知識、基本操作、データの入力	事前：教科書第 5 章 1, 2 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	11	表計算 (2)	表の作成、セルの書式設定、計算・集計	事前：教科書第 5 章 2, 3 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	12	表計算 (3)	関数の利用	事前：教科書第 5 章 4 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	13	表計算 (4)	グラフの作成	事前：教科書第 5 章 5 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	14	表計算 (5)	データの並び替えと抽出、ピボットテーブル	事前：教科書第 5 章 6 の確認 (10 分) 事後：演習課題 (30 分)
	15	後半確認テスト	タイピング確認テスト 前半の確認テストと解説	事前：これまでの演習課題 (60 分)

関連科目	情報処理 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (30%)、確認テスト (60%)、タイピングの練習状況、授業への参加状況 (10%) の合計によって評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階 (寺内研究室)
備考	事後演習課題のポイントを次の授業時に概説する。(Moodle に掲載するなど別の方法をとることもある)

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	ABCD
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業ではレポート作成やプレゼンテーションに必要な情報スキルを習得する。前半はWordによるレポート・論文ツールの技法とWebによるプレゼンテーションツールの活用法を学習する。後半はPowerPointの基本操作を学習し、資料の作成方法を学習する。学習した情報スキルをレポート・論文作成、プレゼンテーションに活用できる力を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①Word、Excelの機能を活用してレポート・論文を作成できること、②PowerPointを使って、自在に提示資料やプレゼンテーション資料の準備ができることが期待される。
授業方法と留意点	授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果(資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフトオフィスソフトスペシャリスト(MOS)などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション データ集計・グラフ作成	受講・評価について タイピングの練習 Excelの簡単な操作	事後：演習課題の復習(30分)
	2	文書作成の応用技術	ソフトウェア間のデータ共有 (ExcelデータとWord文書)	事前：教科書第6章確認(20分) 事後：演習課題(30分)
	3	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用(図表 番号の管理)	事前：教科書第3章4確認(20分) 事後：演習課題(30分)
	4	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用(目次 作成)	事前：教科書第3章4確認(20分) 事後：演習課題(30分)
	5	Webプレゼンツールによる表現	Preziの登録、使い方	事後：演習課題(30分)
	6	Webプレゼンツールによる表現	Preziを使ってみる	事後：演習課題(30分)
	7	Webプレゼンツールによる表現	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：演習課題(30分)
	8	確認テスト	小テストと解説	事前：7回目までの演習課題の確認(60分)
	9	PowerPointによる表現	スライド作成方法	事前：教科書第4章1確認(20分) 事後：演習課題(30分)
	10	PowerPointによる表現	グラフィックの利用	事前：教科書第4章2確認(20分) 事後：演習課題(30分)
	11	PowerPointによる表現	アウトラインの利用	事前：教科書第4章3確認(20分) 事後：演習課題(30分)
	12	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：課題検討、作成(60分)
	13	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：課題検討、作成(60分)
	14	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認(60分)
	15	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認(60分)

関連科目	情報処理Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows10・Office2016による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、 杉山靖彦、八野真弓	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業中の提出課題(30%)、小テスト+課題制作+発表(60%)、タイピング練習状況+授業への参加状況(10%)の合計によって評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11号館8階(橋本講師室)
備考	事後演習課題の解説は、次の授業時に解説を行う。(Moodleに掲載するなど別の方法をとることもある)

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E G H I J
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業ではレポート作成やプレゼンテーションに必要な情報スキルを習得する。前半は Word によるレポート・論文ツールの技法と Web によるプレゼンテーションツールの活用法を学習する。後半は PowerPoint の基本操作を学習し、資料の作成方法を学習する。学習した情報スキルをレポート・論文作成、プレゼンテーションに活用できる力の獲得を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①Word、Excel の機能を活用してレポート・論文を作成できるようになること、②PowerPoint を使って、自在に提示資料やプレゼンテーション資料の準備および発表ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果(資格)	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフトオフィスソフトスペシャリスト (MOS) などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション データ集計・グラフ作成	受講・評価について タイピングの練習 Excel の簡単な操作	事後：演習課題の復習 (30 分)
2	文書作成の応用技術	ソフトウェア間のデータ共有 (Excel データと Word 文書)	事前：教科書第 6 章確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
3	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用 (図表 番号の管理)	事前：教科書第 3 章 4 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
4	文書作成の応用技術	レポート・論文作成ツールの利用 (目次 作成)	事前：教科書第 3 章 4 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
5	Web プレゼンツールによる表現	Prezi の登録、使い方	事後：演習課題 (30 分)
6	Web プレゼンツールによる表現	Prezi を使ってみる	事後：演習課題 (30 分)
7	Web プレゼンツールによる表現	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：演習課題 (30 分)
8	確認テスト	小テストと解説	事前：7 回目までの演習課題の確認 (60 分)
9	PowerPoint による表現	スライド作成方法	事前：教科書第 4 章 1 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
10	PowerPoint による表現	グラフィックの利用	事前：教科書第 4 章 2 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
11	PowerPoint による表現	アウトラインの利用	事前：教科書第 4 章 3 確認 (20 分) 事後：演習課題 (30 分)
12	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：課題検討、作成 (60 分)
13	課題制作	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	事後：課題検討、作成 (60 分)
14	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認 (60 分)
15	課題制作と発表	テーマに沿ったプレゼンテーションの発表、グループ・相互評価	事前：発表内容確認 (60 分)

関連科目	情報処理Ⅰ
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫 執筆：安積淳、 杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業中の提出課題 (30%)、小テスト+課題制作+発表 (60%)、タイピング練習状況+授業への参加状況 (10%) の合計によって評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階 (寺内研究室)
備考	前回のポイントを次回の演習の冒頭で概説する。

科目名	人文地理学	科目名(英文)	Human Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1409a2		

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを改変してきた。本講義では、人々の日々の営みが地理的環境といかなる関わりを持っているのかを概説していきたい。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講したことが諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているのかを身近に感じることができるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	地域のとらえ方	・一般地域と特殊地域 ・等質地域と結節地域	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
3	ダム建設にともなう社会環境の変化	・ダムの歴史 ・ダムサイトまでのアクセスルートの建設 ・水没保障	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない、農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか、あるいは崩壊していったか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃されていくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
8	日本における干拓の歴史	・干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
9	輪中地域における生活	・輪中とは? ・輪中地域における水災害に対する生活の知恵	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
10	すみわけられた都市社会空間	・インナーシティ問題 ・エスニックマイノリティ社会	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。全據の授業内容を確認してください。
14	伝統工業の現状と課題	京都を例として	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
15	・平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。

関連科目	自然地理学・地誌学・環境関連科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験60%、授業参加点20%、課題点20%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点はつけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。
----------	--

学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいられるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。口頭で説明した内容やスライドの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けていただきたい。なおテキストは後期開講の「自然地理学」でも使用する予定である。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業前の用語の下調べが課された場合、1時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01414a2		

授業概要・目的	本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。 これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上で心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントによる講義を主とするが、個人のワークやグループでのワークを行う時間も設定する予定である。</li> <li>・各講義でプリントを配布し、パワーポイントで表示する重要語句を記載してもらう。</li> <li>・毎回の講義終了前に小テストを行い、その日の講義の定着度を高める。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	教科書で、興味を持った分野を見つけて、一読しておくことが望ましい。
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書 (暮らし 08) を一読しておくことが望ましい。
4	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	教科書 (仕事 06, 09, 人間関係 03, 06) を一読しておくことが望ましい。
5	自尊心 (自信) について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心 (自信) について学ぶ。	教科書 (悩み 08, 暮らし 01, 友だち 01, 08, 09, 人間関係 05) を一読しておくことが望ましい。
6	性格やパーソナリティ障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書 (悩み 05, 友だち 05, 07, 人間関係 08) を一読しておくことが望ましい。
7	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書 (暮らし 02, 恋愛 06) を一読しておくことが望ましい。
8	成人、高齢者の発達と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	うつ病や認知症について、さらには、平均初婚年齢の変化など、成人の課題についても調べておくことが望ましい。
9	虐待について	本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましい。
10	DV (ドメスティックバイオレンス) について	本講義では、DV の背景や実情について学ぶ。	教科書 (恋愛 09, 12, 14) を一読しておくことが望ましい。
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	教科書 (仕事 05, 08) を一読しておくことが望ましい。
12	ストレスマネジメントについて	本講義では、ストレスの種類や性質、リラクゼーションやリフレーミングについて学ぶ。	教科書 (悩み 01, 02, 03) を一読しておくことが望ましい。
13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴 (話の聴き方) や共感について学ぶ。	教科書 (悩み 06, 07, 友だち 11, 仕事 11, 人間関係 02) を一読しておくことが望ましい。
14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	教科書 (暮らし 02, 仕事 03, 04) を一読しておくことが望ましい。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。

関連科目 臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト図解 わかる！使える！はじめての心理学	ゆうきゆう	学研プラス
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する 10のアプローチ	板口 典弘	講談社
2			
3			

評価方法 (基準)	①定期試験を行い、その成績を評価の一つに用いる (60%)。 ②毎回の講義終了前に、その日に講義内容の小テストを行い、その成績を評価の一つに用いる (30%)。 ③講義の受講態度 (講義への集中度、語句の記載具合等) (10%)。
-----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点満点中、60点以上で合格とする。</li> <li>・原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</li> </ul>
学生へのメッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の研究室等	11号館6階、経営学部非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします。</li> <li>・講義中の小テストの結果は、全体の概要を講義中に説明します。</li> <li>・事前事後学習に、毎回30分以上以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。</li> </ul>

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01415a2		

授業概要・目的	本講義では、最近の個人のあり方や生き方、家族構成や家族関係の複雑・多様化、AI（人工知能）やSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の発展などの社会的変化を心理学的な視点で把握した上で、それらが個人や集団にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。 さらに、そのような社会的変化に対して、私たちがどのように生きていけばいいのかといった視点から、自分で考えられる力、他人との関係の中でうまく生きていく力を高めることを目的とする。
到達目標	社会的変化を自分とは関係の無いことと思わずに、自分にも関係のあることとして捉えられるようになること。さらに、本講義で学ぶ内容を、ただ“知る”だけではなく、自分で“考える”ことで、複雑・多様化する社会の中で生きていく力を高めること。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各講義でプリントを配布する。</li> <li>各講義のテーマに対して、まずは個人やグループで考えて書く作業をしてもらい、それを提出してもらう。</li> <li>その後、パワーポイントによる講義を行い、パワーポイントで表示する重要語句を記載してもらう。</li> <li>毎回の講義終了前に小テストを行い、その日の講義の定着度を高める。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	自分自身で考える力を高め、複雑・多様化する社会の中で生きられる力を高めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に考えておくことが望ましい。
	2	不登校について	本講義では、近年増加傾向にある不登校について学ぶ。	不登校について事前に調べておくこと、自分ならどのような場合に不登校になりそうかを考えておくことが望ましい。
	3	ひきこもりについて	本講義では、近年増加傾向にあるひきこもりについて学ぶ。	ひきこもりについて事前に調べておくこと、自分ならどのような場合にひきこもりになりそうかを考えておくことが望ましい。
	4	SNS（ソーシャルネットワークサービス）について	本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。	SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい。
	5	モンスターペアレントやクレイマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレイマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレイマーの心理について事前に考えておくことが望ましい。
	6	介護について	本講義では、近年の介護における問題について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい。
	7	産業の変化について	本講義では、産業の変化（サービス業の増加）について学ぶ。	サービス業（コミュニケーションが求められる仕事）の増加による問題について、事前に考えておくことが望ましい。
	8	自傷行為、自死について	本講義では、自傷行為や自死の背景やその心理について学ぶ。	近年の自死の傾向や対策について調べておくことが望ましいが、気持ち的に辛い場合は事前学習をしなくてもよい。
	9	虐待について	本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましいが、気持ち的に辛い場合は事前学習をしなくてもよい。
	10	DV（ドメスティックバイオレンス）について	本講義では、（デート）DV の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、（デート）DV の実情や近況を見ておくことが望ましいが、気持ち的に辛い場合は事前学習をしなくてもよい。
	11	ハラスメントについて	本講義では、さまざまなハラスメントが発生する背景やその心理について学ぶ。	自分であれば、どのような場合ハラスメントを受けそうか、もしくははしてしまいそうかを事前に考えておくことが望ましい。
	12	墓参り、葬儀について	本講義では、墓参りや葬儀における人々の考え方の変化や今後について学ぶ。	これまでの墓参り、葬儀の実情を調べた上で、今後どのように変化していきそうかを事前に考えておくことが望ましい。
	13	ロボット（AI）の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット（AI）の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい。
	14	ペットに対する人の心理の変化について	本講義では、人とペットにおける関係性の変化、人の心理の変化について学ぶ。	人とペットの関係性の変化、ペットビジネスの今後について事前に考えておくことが望ましい。
	15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい。

関連科目 臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラスト図解 わかる！使える！はじめての心理学	ゆうきゆう	学研プラス
	2			
	3			

評価方法 ①定期試験を行い、その成績を評価の一つに用いる（60%）。

(基準)	<p>②毎回の講義の始めに、テーマに沿って考えて書いてもらい、その内容を評価の一つに用いる (20%)。</p> <p>③毎回の講義終了前に、その日に講義内容の小テストを行い、その成績を評価の一つに用いる (20%)。</p> <p>・100点満点中、60点以上で合格とする。</p> <p>・原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p>
学生へのメッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の研究室等	11号館6階、経営学部非常勤講師室
備考	<p>・講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします。</p> <p>・講義中の小テストの結果は、全体の概要を講義中に説明します。</p> <p>・事前事後学習に、毎回30分以上かけると、講義中のレポート、定期試験の点数も取りやすくなります。</p>

科目名	スポーツ医学の基礎	科目名(英文)	Fundamental Knowledge of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡崎 和伸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2431a2		

授業概要・目的	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について述べ、予防医学としてのスポーツ医学の意義についても言及する。
到達目標	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について説明できること、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について説明できることを目標とする。また、自身とその周りの人々について、運動を通じた健康づくりが実践できるようにする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やVTRなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果(資格)	スポーツ医学の基礎的知識とスポーツ傷害(内科的・外科的)についての理解と対処法について学ぶ。(公認スポーツ指導者資格取得対応科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スポーツと健康(1)	スポーツ活動と健康の関わり	テキストP.54-63 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
2	スポーツと健康(2)	身体活動(スポーツ活動や運動)の必要性	テキストP.64-75 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
3	スポーツ傷害(1)	スポーツ外傷・障害	テキストP.76-82 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
4	スポーツ傷害(2)	スポーツ外傷・障害の要因	テキストP.83-87 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
5	救急処置(1)	手当での基本(観察)	テキストP.88-88 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
6	救急処置(2)	救命手当(心肺蘇生法)	テキストP.89-95 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
7	救急処置(3)	AEDを用いた心肺蘇生法	テキストP.96-97 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
8	救急処置(4)	応急手当(きざと止血、包帯法、骨折固定)	テキストP.102 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
9	救急処置(5)	RICE処置	テキストP.98-101 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
10	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキストP.111-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
11	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキストP.112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
12	スポーツと栄養(1)	五大栄養素の役割	テキストP.104-108 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
13	スポーツと栄養(2)	栄養とトレーニング、コンディショニング	テキストP.109-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
14	ドーピング	ドーピングの定義、概要	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)
15	まとめ	授業の全体のまとめ	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約1.5時間)

関連科目	スポーツ医学の理論と実際			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目I		日本スポーツ協会
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	期末試験(70%)、授業中に実施する課題(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	運動・スポーツと健康に関する身近な話題から、競技力向上のための最新スポーツ科学に関する授業です。毎回、簡単な実習、測定、調査などを行いながら、主体的な学習を通して理解を深めていきます。			
担当者の研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室			
備考	授業時間外連絡先: okazaki@sports.osaka-cu.ac.jp			

科目名	スポーツ栄養学	科目名(英文)	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古野 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA2426a2		

授業概要・目的	健康の保持・増進の観点からスポーツにおけるコンディショニングの土台となる栄養の知識について学び、スポーツに関連した食についての理解を深めていく。
到達目標	栄養学の基礎を学びながら、運動実践者のための栄養知識を習得していく。 競技種目や競技レベルに関わらず、スポーツを行うすべての人に対して栄養指導を行えるよう基礎的理解の習得を目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行う。 適宜、課題や小テストを実施する。
科目学習の効果(資格)	日常生活で実践可能な基礎栄養学からスポーツ栄養学へと応用できる知識を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	スポーツ栄養学とは 食事バランスガイド	事前：栄養学の基礎について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
2	エネルギー代謝(1)	スポーツにおける栄養の役割 エネルギー供給機構	事前：エネルギー供給機構について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
3	エネルギー代謝(2)	エネルギー消費量と貯蔵エネルギー	事前：エネルギー消費量、貯蔵エネルギーについて予習(1時間)	事後：復習(1時間)
4	5大栄養素(1)：糖質	糖質の役割と摂取方法	事前：糖質の役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
5	5大栄養素(2)：脂質	脂質の役割と摂取方法	事前：脂質の役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
6	5大栄養素(3)：たんぱく質	たんぱく質の役割と摂取方法	事前：たんぱく質の役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
7	5大栄養素(4)：ミネラル	ミネラルの役割と摂取方法	事前：ミネラルの役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
8	5大栄養素(5)：ビタミン	ビタミンの役割と摂取方法	事前：ビタミンの役割について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
9	水分補給	スポーツ時における水分補給の重要性と補給方法 熱中症：症状と対応	事前：水分補給、熱中症について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
10	サプリメント	サプリメント(栄養補助食品)の利用方法 ドーピングの基礎知識	事前：サプリメントについて予習(1時間)	事後：復習(1時間)
11	スポーツ栄養の実際(1)	スポーツ栄養学に基づいた体重管理の方法	事前：減量、増量について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
12	スポーツ栄養の実際(2)	スポーツ栄養学に基づいた試合前後の食事	事前：試合前後の食事方法について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
13	スポーツ栄養の実際(3)	スポーツ栄養学に基づいたトレーニング期の食事	事前：トレーニング期分けに基づいた摂取方法について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
14	スポーツ栄養の実際(4)	スポーツ栄養学に基づいたケガ期の食事	事前：傷害別摂取方法について予習(1時間)	事後：復習(1時間)
15	まとめ	講義内容の総括を行う	事前：課題提出	

関連科目	スポーツ医学の理論と実際
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト、課題提出などで評価をするが平常態度なども総合して判断する。 小テスト 60%、提出物 30%、レポート 10%
学生へのメッセージ	知識を実践に生かしてこそ栄養学は生きてきます。 健康増進やパフォーマンスの向上に役立てられるよう学んで行きましょう。
担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	小テストの解答は授業時に行う。 提出物・レポートは、評価をしたうえで次の回の授業で返却する。

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美, 横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第 1 回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。安全配慮のため、A?F クラスのコースと GH クラスのコースに分ける。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事後：本実習の理解を深める（30分）
2	体力測定①	・屋外種目	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
3	体力測定②	・屋内種目	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	活動点 50%、態度点 25%、技能点 25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室へ来ること。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）
----	-------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

教養科目

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術に応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。安全配慮のため、A?FクラスのコースとGHクラスのコースに分ける。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事後：本実習の理解を深める（30分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室
----------	----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）
----	-------------------------------

科目名	スポーツ教育学	科目名(英文)	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3432a2		

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動や行動がインターネットやメディアに大きく取り上げられることも多い。本講義では、スポーツがもたらす様々な教育効果や情報が社会に与える功罪について考え、社会人として必要な基礎知識を学習することを目的とする。 担当者は大阪府立高等学校学校協議会の委員や交野市との地域連携講座の講師などを務め、教育にかかわる諸問題に取り組むことによってこの授業での内容をより深めることができる。
到達目標	この授業を通じて学生には、①スポーツに関わる道徳問題を理解し、②スポーツがもたらす教育効果を理解できるようになることを期待する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。またテーマに応じてグループ発表も行う。 教科書は使用しないが、適宜授業資料を配布する。
科目学習の効果(資格)	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	基礎教育(1)	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。(1時間)
	2	基礎教育(2)	自己アピール プロフィール	自己紹介文を作成する。(1時間)
	3	スポーツと人格(1)	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し(1時間)
	4	スポーツと人格(2)	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し(1時間)
	5	スポーツと教育(3)	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し(1時間)
	6	スポーツと教育(4)	プロスポーツとアマチュアリズム	配布プリントの読み返し(1時間)
	7	スポーツと教育(5)	薬物問題とドーピング	配布プリントの読み返し(1時間)
	8	スポーツと学校教育(1)	体罰問題①	配布プリントの読み返し(1時間)
	9	スポーツと学校教育(2)	体罰問題②	配布プリントの読み返し(1時間)
	10	スポーツと学校教育(3)	スポーツ特待生について	配布プリントの読み返し(1時間)
	11	スポーツの功罪(1)	ジュニア期のスポーツ	配布プリントの読み返し(1時間)
	12	スポーツの功罪(2)	燃え尽き症候群について考える。	配布プリントの読み返し(1時間)
	13	障がい者とスポーツ(1)	パラリンピック	配布プリントの読み返し(1時間)
	14	障がい者とスポーツ(2)	レクリエーションからチャンピオンスポーツへ	配布プリントの読み返し(1時間)
	15	障がい者とスポーツ(3)	障がい者スポーツの問題点	配布プリントの読み返し(1時間)

関連科目: スポーツ科学実習 I a、I b、II a、II b、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実践

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト50%、平常点(レポート、プレゼンテーションおよび授業態度など)50%を総合して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館 近藤研究室
備考	小テストの解答は授業時に行う。

科目名	スポーツ指導者入門	科目名(英文)	Sports Theory for Instructor
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1428a2		

授業概要・目的	スポーツ指導者としての基礎的指導法を学び、スポーツを一般的に広く定着させることのノウハウを身に付けることができる。本科目担当者は、保健体育(高校)、柔道実技(大学)、柔道指導(国内外)の実務経験を有する。高校における実技・保健授業や課外活動などのスポーツ現場での指導経験を生かし、スポーツ指導者として必要な知識や指導法を提供する。
到達目標	スポーツ指導者としての基礎を学び、指導者としての心得を理解できる。

授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布や映像資料などを用い、教育効果を上げる。
----------	---

科目学習の効果(資格)	スポーツ指導者の基礎的知識と指導法を学ぶ(公認スポーツ指導者資格取得対応科目)
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	ガイダンス	事前: 授業概要・目的を確認する(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
2	指導者の役割(1)	スポーツ指導者とは	事前: テキストP14を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
3	指導者の役割(2)	指導者の心構え・視点	事前: テキストP15~16を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
4	指導者の役割(3)	競技者育成プログラムの理念(一貫指導システム)	事前: テキストP17~25を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
5	指導者の役割(4)	競技者育成プログラムの理念(指導者の役割、ネットワーク)(小テスト・レポート提出)	事前: テキストP26~29を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
6	文化としてのスポーツ(1)	スポーツの概念と歴史(スポーツの歴史的発展と現代スポーツの考え方)	事前: テキストP32~33を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
7	文化としてのスポーツ(2)	スポーツの概念と歴史(スポーツを取り巻く環境)	事前: テキストP34~36を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
8	文化としてのスポーツ(3)	文化としてのスポーツ(小テスト・レポート提出)	事前: テキストP40~45を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
9	指導計画と安全管理(1)	指導計画の立て方(集団の指導計画、個人の指導計画)	事前: テキストP106~110を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
10	指導計画と安全管理(2)	指導計画の立て方(期別計画)	事前: テキストP111~112を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
11	指導計画と安全管理(3)	スポーツ活動と安全管理(スポーツにおける安全管理の知識)	事前: テキストP113~116を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
12	指導計画と安全管理(4)	スポーツ活動と安全管理(スポーツ活動における安全確保のための具体的行動)(小テスト・レポート提出)	事前: テキストP117~118を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
13	運動と健康(1)	運動と健康・スポーツプログラマーの役割	事前: テキストP68~69を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
14	運動と健康(2)	加齢臭現象と健康	事前: テキストP68~70を読む(30分)	事後: 授業の振り返り(30分)
15	運動と健康(3)	急性障害と慢性障害	事前: テキストP72~75を読む(30分)	事後: 総括を行う(30分)

関連科目	スポーツ文化論
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目I		日本スポーツ協会
2	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	出席率80%の者を成績評価対象者とし、その上で筆記試験60%、小テスト40%で評価する。小テストのフィードバックは次の授業内で行い、回答の解説を行う。
----------	---

学生へのメッセージ	スポーツ指導者ニーズは年々高くなっている。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	総合体育館1階 横山講師室
----------	---------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	スポーツ心理学	科目名(英文)	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02418a2		

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動の基礎となる運動や人について、心理学的な側面から理解を深めることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果(資格)	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。
2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。
3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。
4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。
5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ	スランプとプラトウの違いを整理する。
6	リーダーシップとスポーツ(1)	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。
7	リーダーシップとスポーツ(2)	リーダーシップの形式	配布資料の理解。
8	リーダーシップとスポーツ(3)、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割とPM理論、および到達度確認のための試験	これまでの講義の整理とその理解。
9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。
10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法	関連資料に目を通す。
11	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係	パーソナリティという言葉の検索。
12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。
13	心理的スキルとパフォーマンス(1)	心理的スキルがパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。
14	心理的スキルとパフォーマンス(2)	心理的スキルとパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系づけて整理する。

関連科目 スポーツに関係する科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 平常点(授業に参加する姿勢、課題への回答、30%)と試験(定期試験・習熟度試験、70%)の合計によって評価する。

学生へのメッセージ 意欲的に取り組んでください。

担当者の研究室等 11号館10階 石井教授室

備考 各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度確認試験の解説は、次の回の授業で行う。

科目名	スポーツトレーニングの基礎	科目名(英文)	Sports Training Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1429a2		

授業概要・目的 スポーツトレーニングの原理・原則に基づいた、スポーツ指導におけるトレーニングメニューの作成や指導法について学ぶ。またスポーツと心の関係を学びながら、コーチングにおける心理的作用を理解し、スポーツトレーニング指導を実践する上での基礎を習得する。

到達目標 スポーツ指導に役立つトレーニングの基礎的知識についての身体的、心理的理解を深める。

授業方法と留意点 レジュメを配布する。参考資料は適宜配布する。

科目学習の効果(資格) 公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	体力とは①	運動と健康、防衛体力と行動体力	授業ノートのまとめ・復習。
2	体力とは②	トレーナビリティ	授業ノートのまとめ・復習。
3	トレーニングの原理・原則①	スポーツトレーニングの3原理・5原則、特異性	授業ノートのまとめ・復習。
4	トレーニングの原理・原則②	筋機能と呼吸循環機能	授業ノートのまとめ・復習。
5	トレーニング処方	トレーニング計画 ウォーミングアップ、クーリングダウンの必要性	授業ノートのまとめ・復習。
6	トレーニングの種類①	スポーツトレーニングの5つの内容	授業ノートのまとめ・復習。
7	トレーニングの種類②	体力トレーニングと技術トレーニング	授業ノートのまとめ・復習。
8	スポーツと心①	メンタルヘルス	授業ノートのまとめ・復習。
9	スポーツと心②	スポーツとストレス	授業ノートのまとめ・復習。
10	スポーツにおける動機づけ①	スポーツにおける動機づけとは	授業ノートのまとめ・復習。
11	スポーツにおける動機づけ②	スポーツにおける目標設定	授業ノートのまとめ・復習。
12	コーチングの心理①	スポーツ技能の習得	授業ノートのまとめ・復習。
13	コーチングの心理②	メンタルトレーニング	授業ノートのまとめ・復習。
14	コーチングの心理③	グループダイナミクス、チームビルディング	授業ノートのまとめ・復習。
15	コーチングの心理④	コーチング評価	授業ノートのまとめ・復習。

関連科目 スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、フィットネストレーニング理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学理論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ		日本スポーツ協会
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 単位取得条件は、知的理解度、平常態度などを総合的に判断し、100点中60点で合格とする。課題・提出物 40%、小テスト 30%、グループワーク 30%により評価を行う。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 総合体育館1階 非常勤講師室

備考 事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。

科目名	スポーツの歴史	科目名(英文)	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU2407a2		

授業概要・目的	スポーツは実践することと観戦することの両方が楽しめる。スポーツの文化としての奥深さはその起源、ルールの変遷、そして名プレーヤーなどについて学ぶことでさらに深まる。特にオリンピックは2020年東京で開催されることが決まり、オリンピックの歴史を学ぶことがスポーツ文化を学ぶことになる。また、スポーツのルールの変遷は、テレビなどのマスコミに左右される時代である。ルールの変遷に伴い技術・戦術なども大きく変わってきた。本講義では、それらの歴史を学ぶことによって教養を高め、よりスポーツを楽しめるような基礎知識を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①オリンピックの歴史を飾ってきたメダリストや出来事について学習し、オリンピックの変遷を理解する。②各スポーツの歴史と発展に貢献した人物について学習する。③スポーツ用具やスポーツ技術の進化とルールの変遷とのかかわりを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。第1回目のガイダンスは、授業方針、目的、評価方法など詳細を説明するので欠席しないように。
科目学習の効果(資格)	スポーツの歴史を理解し、オリンピックを中心としたスポーツ文化を学ぶことによって、社会人として必要な幅広い教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス スポーツの歴史とは	授業の目的、方針、内容、評価方法などを詳しく説明する。 スポーツの歴史を学ぶことの意味、重要性を学習する。	あらかじめシラバスをよく読み、配布された資料を見直す。(1時間)
2	オリンピックの歴史(1)	古代オリンピック I	インターネットで古代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
3	オリンピックの歴史(2)	古代オリンピック II 近代オリンピックへの変遷	インターネットで古代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
4	オリンピックの歴史(3)	近代オリンピック I (創成期) 近代オリンピックの発案者 日本のオリンピックへの参加	インターネットで近代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
5	オリンピックの歴史(4)	オリンピックにおいて日本に貢献した人物①	インターネットで近代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
6	オリンピックの歴史(5)	近代オリンピック II (第2次世界大戦まで)	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
7	オリンピックの歴史(6)	オリンピックにおいて日本に貢献した人物②	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
8	オリンピックの歴史(7)	近代オリンピック III (第2次世界大戦から現代まで)	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
9	サッカーの歴史(1)	サッカーの起源からラグビーの分化まで	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
10	サッカーの歴史(2)	日本サッカーの歴史	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
11	テニスの歴史	テニスの起源と現代テニス	インターネットでテニスについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
12	その他のスポーツの歴史	柔道、バスケットボール、バレーボール、野球など	インターネットで各スポーツの歴史について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
13	スポーツ用具の変遷	スポーツ用具の材料や形状の変遷について	インターネットでスポーツ用具について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
14	スポーツルールの変遷	様々なスポーツでのルールの変遷について	インターネットでスポーツルールについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
15	スポーツ新技術	スポーツ新技術がもたらした革命	インターネットでスポーツ新技術について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)

関連科目	スポーツ科学実習 I a、I b、II a、II b、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	平常点(レポートや授業態度など)50%、小テスト50%を合計して評価する。			
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。			
担当者の研究室等	総合体育館 近藤研究室			
備考	小テストの解答は授業時に行う。			

科目名	スポーツプログラミング	科目名(英文)	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬 雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA3425a2		

授業概要・目的  
スポーツを実践するにあたり年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが必要とされる。本講義では、運動やスポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方理論と実際について学習する。

到達目標  
対象者に合わせたスポーツ実践のためのプログラムの作成及び実践指導を習得する。

授業方法と留意点  
PPTや作成プリントを用いた講義及び対象者に合わせたプログラムを作成する。

科目学習の効果(資格)  
公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図、目的、価値 自己認識	シラバスの参照
2	健康を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方(種類)	講義ノートの確認
3	健康を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方(強度)	講義ノートの確認
4	健康を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方(時間・頻度)	講義ノートの確認
5	運動を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方(種類)	講義ノートの確認
6	運動を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方(強度)	講義ノートの確認
7	運動を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方(時間・頻度)	講義ノートの確認
8	レポート課題1	講義内容からレポート課題を2題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
9	中高齢者のフィットネスプログラム①	レポートの返却及び解説 運動処方(種類)	講義ノートの確認
10	中高齢者のフィットネスプログラム②	運動処方(強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
11	障がい者のフィットネスプログラム	運動処方(種類・強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
12	競技者のフィットネスプログラム①	運動処方(種類強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
13	競技者のフィットネスプログラム②	トレーニングの原理・原則	講義ノートの確認
14	レポート課題2	講義内容からレポート課題を2題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認

関連科目  
発育発達論  
ヘルスエクササイズ理論と実践

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
受講態度及び意欲(常識・節度ある姿勢)(20%)  
講義内提出課題(必要に応じて実施する)(20%)  
レポート課題(2度実施する)(60%)

学生へのメッセージ  
出席状況(毎回出席)を確認し原則として出席は2/3以上必要とする。  
受講学生各位の積極的な学びを期待する。

担当者の研究室等  
総合体育館1階 非常勤講師室

備考  
講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。  
事前・事後の学習時間として、全15回で15時間を目安としている。

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分：          ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて          ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ          ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ          ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ          ⑤安全対策スキル：安全、衛生管理、危険予知、責任について学ぶ          ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とかかわり方を学ぶ          ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ          ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ          ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）：          受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）：          青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意：          学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題：          学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																		

科目名	世界遺産論	科目名(英文)	Rethinking World Heritage
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(1972年採択、1975年発効)に謳われる理念に基づき、世界には人類と地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境、伝統文化などを人類共通の財産として守るための「世界遺産」がある。その理念と具体的な世界遺産に関する学びを通じて、宗教・文化の多様性、地理、芸術・建築などを深く知る知識編(前半7回)と、それぞれ異なるアプローチと研究対象地域の観点から前半の学びをさらに掘り下げて考える考察編から構成する。後半では、地域に根付く人々の暮らしや信仰を遺産化する意義、自然保護と環境保全、人類の負の歴史、行き過ぎた観光地化がもたらす問題などについて考える。
到達目標	世界遺産を通し、グローバル社会において活躍するための知識や教養を身につけるとともに、世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。
授業方法と留意点	前半7回で世界各地の「世界遺産」について講師の体験に基づく解説を通じて知識を培い、後半は4名の教員が2回ずつ、具体的な世界遺産を窓口としてその歴史をわかりやすく説き起こし、現代世界に占める意味を問題提起する。
科目学習の効果(資格)	世界遺産検定3級 旅行・観光業、ホテル業等への就職に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	世界遺産を「学ぶ」意義はなにか。ユネスコの理念と世界遺産理念誕生の背景について関g委える。	「世界遺産」の種類(自然、文化、複合)について理解しておく。
2	世界遺産誕生までの流れ	世界遺産条約誕生の背景と登録後の流れを知る。	前回のユネスコの理念を復習し、世界遺産条約について調べておく。
3	登録基準	世界遺産がもつ「顕著な普遍的価値」と登録基準について学ぶ。	京都と奈良の世界遺産について調べ、違いについて考えておく。
4	日本の産業遺産	日本で登録されている石見、富岡、明治日本の産業革命遺産について学ぶ。	日本の近代化について調べておく。
5	世界で最初の世界遺産	1978年に登録された世界で最初の世界遺産12件について学ぶ。	世界で最初に登録された遺産の保有国について調べておく。
6	文化的景観	文化遺産と自然遺産の接点を登録する文化的景観について学ぶ。	日本で登録されている文化的景観の世界遺産について調べておく。
7	中間テスト シリアル・ノミネーションと トランスバウンダリー・サイト	第6回までの理解度確認を行った後、登録の多様性を目指すシリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイトについて学ぶ。	第2回目で扱ったグローバル・ストラテジーを含め、第6回までに学んだことを復習しておく。
8	日本の文化遺産1	平泉の遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などを事例に日本における信仰の多様性について考える。	日本におけるキリスト教伝来およびその展開について書籍やwebで調べておく。
9	日本の文化遺産2	白川郷・五箇山の合掌造り集落を事例に人びとの生業や暮らしが遺産化されることについて考える。	白川郷、五箇山について書籍やwebで調べておく。
10	自然遺産の重要性と課題1	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特に日本に存在する自然遺産や複合遺産を事例として考察する。	日本における自然遺産の分布や歴史的な背景について書籍やwebで調べておく。
11	自然遺産の重要性と課題2	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特にアフリカのケニア山やキリマンジャロ山、セレンゲティ・ンゴロンゴロなどの自然遺産を事例として考察する。	アフリカの自然遺産の実態や問題点について書籍やwebで調べておく。
12	負の世界遺産1	アウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所を例に、「負の世界遺産」の意義と問題点について考える。	ア第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所がどのように用いられたのか調べておく。
13	負の世界遺産2	海商都市リヴァプールを例に、奴隷貿易という負の歴史が世界遺産を通してどのように伝えられているか考える。	リヴァプールと奴隷貿易の関係について調べておく。
14	文明の衝突の記憶1	スペイン・コルドバのメスキータ大聖堂を例に、イスラム文明がカトリック圏のイベリア半島に与えた影響と異教徒間の共存について考える。	イベリア半島の歴史と世界遺産について調べておく。
15	文明の衝突の記憶2	ラテンアメリカの古代先住民文明の遺跡を例に、インディヘニスマ(先住民擁護)の歴史と先住民統合政策、観光開発とオーバー・ツーリズムがもたらす問題について考える。	中米のマヤ文明、アンデスのインカ文明について調べておく。

関連科目 エリアスタディーズ、多文化共生論、エコツーリズム論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	きほんを学ぶ世界遺産100<第2版>世界遺産検定3級公式テキスト	世界遺産検定事務局	マイナビ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	第7回目までの学習に関する中間テスト(40%)、後半8回で取り上げられた個別の世界遺産に基づくテーマのうち、最も関心を抱いたことに関するレポート(40%)、毎回の質問・コメント票(20%)によって総合的に評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	講師控室(7号館2階)、赤澤研究室(7号館4階)、手代木研究室(7号館5階)、林田研究室(7号館4階)、北條研究室(7号館5階)			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 第7回目を行う中間テストに関するフィードバックは第8回目を行う。			

科目名	世界史概論	科目名(英文)	World History Introduction
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1406a2		

授業概要・目的	21世紀を迎えた今、20世紀という時代はすでに歴史研究の対象として重要な意味をもち始めている。二度にわたる世界大戦とファシズム、大量虐殺や民族紛争など、いまだ過去のものとはなっていない多くの問題を、われわれはどのようにとらえたらよいのだろうか。本講義では、第一次世界大戦からソ連崩壊までを、豊富に残るドキュメンタリー映像の分析を通して考察する。
到達目標	世界恐慌・ファシズム・戦争という三重の脅威にさらされながら、世界情勢はいかに変化したのか、その概要を理解する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、板書と組み合わせて授業をすすめる。DVD映像をもちいる。
科目学習の効果(資格)	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第一次世界大戦	「新しい」戦争がもたらした負の遺産	20世紀におこった事件から興味のあるものを選び、その概要を調べてくる。
	2	世界恐慌	ウォール街の大暴落とドイツのインフレ	第一次世界大戦の特徴についてまとめてくる。
	3	ファシズムの台頭	ナチス一党独裁への道 ～ヒトラーによる大衆宣伝～	世界恐慌とファシズムの関係について調べてくる。
	4	ヒトラーの野望	ドイツの再軍備とユダヤ人迫害	授業中に紹介したホロコーストに関する文献を読んでくる。
	5	第二次世界大戦①	戦争捕虜問題	戦争捕虜に関する国際的取り決めについて調べてくる。
	6	第二次世界大戦②	「追放」から「殺戮」へ ～ユダヤ人問題～	第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点についてまとめてくる。
	7	帝国の終焉①	イギリスのインド統治とフランス領インドシナ	イギリス・フランスの植民地統治の歴史を年表化する。
	8	帝国の終焉②	・インドの独立とカシミール紛争の勃発 ・ドイツ分割と朝鮮戦争	前半の授業内容を復習する。
	9	冷戦時代の幕開け	キューバ危機が世界に与えたインパクト	印パ戦争の経緯についてまとめてくる。
	10	緊張の高まり ～キューバ危機～	ドイツの分断と統一の経緯についてまとめてくる。	
	11	ベトナム戦争	反戦思想のおこり	授業中に紹介したベトナム戦争に関する文献を読んでくる。
	12	パレスチナ問題	第一次世界大戦から中東戦争まで	パレスチナ紛争の歴史を通して、現代のテロリズムの問題について考えてくる。
	13	難民の世紀	紛争と難民問題	難民に関する国際的取り決めについて調べてくる。
	14	ソ連の崩壊	崩壊過程と東欧の再編制	ソ連崩壊の意味を、20世紀の歴史のなかに位置づける。
	15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習しておく。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	第15回目の授業中に実施する小テスト(80%)と提出物(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>〈開発プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>〈販売プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

教養科目

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域（和歌山県すさみ町）の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。																
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て  事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく																
関連科目	テクニカルデザイン演習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。																
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。																
担当者の研究室等	8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。																
備考	週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。  1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。  なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起っている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																		
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)          科学技術教養C1・C2</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)          水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館3階 石田准教授室</p>																		
備考	<p>自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。                  ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。                  ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。                  ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う                  ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成を自主学习として、調べておくこと。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近の IT 動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・開発合宿</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査 (4時間×2回)</li> <li>・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1時間×8回)</li> <li>・データベース設計の見直し (3時間)</li> <li>・作成したアプリの動作テスト (2時間)</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう!																		
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志、久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の研究室等	11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室																		
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

教養科目

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。																		
到達目標	<p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。</li> <li>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。</li> <li>関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。</li> <li>就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない（質問には答えます）。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。http://www.abd-abd.com/</p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 学内研修：まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修：就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修：理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修：中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修：企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修：ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修：最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修：ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修：成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p>																		
関連科目	教養系、キャリア系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力：内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人を伸ばす力：内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社	2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳	世界思想社	3	モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳	講談社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	人を伸ばす力：内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社																
2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳	世界思想社																
3	モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳	講談社																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる! : 教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社	2	教え上手になる! : 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング	3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社																
2	教え上手になる! : 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング																
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社																
評価方法 (基準)	PBL活動への参加意欲および貢献度 (70%)、学内・学外発表会等への貢献度 (30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。?																		
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。																		
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野 (1号館5階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p><b>I 授業概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。</li> <li>・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。</li> <li>・2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> </ul> <p><b>II 目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画（前述のとおり）することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> </ul>								
到達目標	<p><b>I 到達目標（共通）</b></p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>II 到達目標（本プロジェクト）</b>：Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。</li> <li>(4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。</li> <li>(5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。</li> <li>(6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。</li> <li>(7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。</li> <li>(8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。</li> <li>(9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。</li> <li>(10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。</li> </ol>								
授業方法と留意点	<p><b>I 授業方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ2階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。</li> <li>・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。</li> <li>・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。</li> </ul> <p><b>II 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。</li> </ul>								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>I 授業テーマ</b>：商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p><b>II 内容、方法、事前・事後学習課題</b></p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会）</li> </ul> <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月頃：WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。（JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。）</li> <li>・5月～6月：今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。） 今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ</li> <li>・7月頃：吹田祭推進、応援</li> <li>・8月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。） ・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。）</li> <li>・10月頃：高浜神社 戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加</li> <li>・12月～3月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。</li> </ul> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p>								
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社						

	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社
	3			
評価方法 (基準)	事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。</li> </ul>			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているの明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する</li> <li>・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる</li> <li>・連携先に企画提案ができる</li> <li>・広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する</li> <li>・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる</li> <li>・親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる</li> <li>・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる</li> <li>・プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</p> <p>【年間計画（予定）】 4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ 5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施 8月 ホームゲームでのイベントの実施 9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（ポスト調査）の実施 10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会 12月 最終報告会とその準備 2月 Sports Festival</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																		
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																		
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																		
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul>																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原 京佳, 梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。																		
授業方法と留意点	さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。</li> <li>・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。</li> <li>・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。</li> <li>・活動内容を報告会等で発表する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。</li> <li>・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらおう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%																		
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	自主学習時間の目安は毎週1時間。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>〈開発プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>〈販売プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2, L科:LL02420a2, D科・S科:IL02426a2, P科:YL02421a2, J科:JL02437a2, W科:WL02422a2, N科:NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域(和歌山県すさみ町)の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。																
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て  事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく																
関連科目	テクニカルデザイン演習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。																
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。																
担当者の研究室等	8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。																
備考	週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。  1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。  なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起っている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。                  ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。                  ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。                  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う                  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築(携帯アプリ)の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近のIT動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けのITについてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会(土曜日開催) ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 地域を便利にするアプリ開発</p> <p><b>【内容】</b> 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会(土曜日開催)</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・開発合宿</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査(4時間×2回)</li> <li>・IT関連の情報収集(サービス、セキュリティ、生産性向上など)(1時間×8回)</li> <li>・データベース設計の見直し(3時間)</li> <li>・作成したアプリの動作テスト(2時間)</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	技術習得の成長度(グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう!																		
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志, 久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の研究室等	11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室																		
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B◎,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2, L科:LL02420a2, D科・S科:IL02426a2, P科:YL02421a2, J科:JL02437a2, W科:WL02422a2, N科:NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。																		
到達目標	<p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。</li> <li>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。</li> <li>関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。</li> <li>就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。<a href="http://www.abd-abd.com/">http://www.abd-abd.com/</a></p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 学内研修:まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修:就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修:理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修:中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修:企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修:ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修:最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修:ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修:成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p>																		
関連科目	教養系、キャリア系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力:内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人を伸ばす力:内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社	2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳	世界思想社	3	モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著; 大前研一訳	講談社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	人を伸ばす力:内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社																
2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳	世界思想社																
3	モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著; 大前研一訳	講談社																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる!:教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつなぐ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社	2	教え上手になる!:教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング	3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつなぐ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社																
2	教え上手になる!:教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング																
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつなぐ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社																
評価方法(基準)	PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。?																		
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。																		
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	<p><b>I 授業概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。</li> <li>・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。</li> <li>・2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> </ul> <p><b>II 目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画(前述のとおり)することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> </ul>								
到達目標	<p><b>I 到達目標(共通)</b></p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>II 到達目標(本プロジェクト):</b> Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。</li> <li>(4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。</li> <li>(5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。</li> <li>(6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。</li> <li>(7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。</li> <li>(8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。</li> <li>(9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。</li> <li>(10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。</li> </ol>								
授業方法と留意点	<p><b>I 授業方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。</li> <li>・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。</li> <li>・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。</li> </ul> <p><b>II 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。</li> </ul>								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>I 授業テーマ:</b> 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p><b>II 内容、方法、事前・事後学習課題</b></p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会)</li> </ul> <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月頃: WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。(JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。)</li> <li>・5月～6月: 今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。)</li> <li>・今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ)</li> <li>・7月頃: 吹田祭推進、応援</li> <li>・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。)</li> <li>・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。)</li> <li>・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加</li> <li>・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。</li> </ul> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p>								
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社						

	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房																
	3	商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td> <td>足立基浩</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-</td> <td>森川すいめい</td> <td>青土社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房																
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社																
3																				
評価方法 (基準)	事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。</li> </ul>																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2,L科:LL02420a2,D科・S科:IL02426a2,P科:YL02421a2,J科:JL02437a2,W科:WL02422a2,N科:NL02418a2		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する</li> <li>・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる</li> <li>・連携先に企画提案ができる</li> <li>・広報活動(飛び込み営業)を通じ、基本的な営業スキルを感得する</li> <li>・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる</li> <li>・親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる</li> <li>・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる</li> <li>・プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証(連携先の許可により実施) ・近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ 5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(プレ調査)の実施 域内商店街での広報活動の実施 8月 ホームゲームでのイベントの実施 9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(ポスト調査)の実施 10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会 12月 最終報告会とその準備 2月 Sports Festival</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																		
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																		
担当者の研究室等	吉田佐治子(7号館3階) 水野武(7号館3階)																		
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らし人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul>																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原 京佳, 梅野 将之
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動(オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等)を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。																		
授業方法と留意点	さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。</li> <li>・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。</li> <li>・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。</li> <li>・活動内容を報告会等で発表する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。</li> <li>・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ミーティング、報告会、各活動への貢献度60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート40%																		
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	自主学習時間の目安は毎週1時間。																		

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01437a2, L科: LL01418a2, D科・S科: IL01424a2, P科: YL01419a2, J科: JL01435a2, W科: WL01420a2, N科: NL01416a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。</li> <li>2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。</li> <li>3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。</li> <li>4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。よくなるのが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。</li> <li>2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。</li> <li>・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。</li> <li>・自己紹介後、グループ形成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること(2時間)</li> </ul>
2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスとは何かを考察する。</li> <li>・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 企業の事例を調べること(2時間)</li> </ul>
3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。</li> <li>・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: NPOについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)</li> </ul>
4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の明暗について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間)</li> <li>・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)</li> </ul>
6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること(2時間)</li> </ul>
8	ビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 問題プリント①を解くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 問題プリント②を解くこと(2時間)</li> </ul>
9	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
10	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
11	ビジネス実務の基本④ - ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務) -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルを理解する。</li> <li>・マーケティングとコストの関係について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
12	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。</li> <li>・社会の中における自己を位置づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること(2時間)</li> <li>・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること(2時間)</li> </ul>
13	ビジネスプラン① - 起業への意識 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 各自がテーマを見つけること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと(2時間)</li> </ul>

			・CM 比較をイノベーションの観点から行う（とくに CSR に関するもの）。	間)																
	14	ビジネスプラン②	・CM 比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させること（2時間） ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2時間）																
	15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行うこと（2時間） ・事後学修：最終レポートを作成すること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P.F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。</li> <li>・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の上の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	大学教養応用	科目名(英文)	Applied Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人, 伊藤 謙, 越 希美江, 原 由紀子, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この科目は、プロジェクトベースラーニング形式で学ぶ、学部の枠を越えた教養応用科目です。初年次の大学教養入門と大学教養実践のステップアップの講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、自分の未来のためには「学び」を実践していくことが大切であることを知ることにあります。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を持ってもらうため、大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身に付けます。また、身につけた知識をもとに考え、未来に向けての実践行動に活かすため、シナリオプランニングを活用します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができる。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p>
到達目標	<p>(1)社会課題を考えるための教養として、SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。</p> <p>(2)読書により教養を身につけ、さらに自分が知りたいと思うことについて「テーマ設定」をすることができる。</p> <p>(3)シナリオプランニングを通して、情報収集の方法を知り、実践できる。論理的思考を知り、実践できる。</p> <p>(4)論理的でわかりやすく、効果的なプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(5)ファシリテーション力を身につけ、合意形成を促進するなどチームへの貢献ができる。</p> <p>(6)チームの中でリーダーシップを発揮し、成果が上がる協働作業に貢献ができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。学修法としてABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)、テーマ設定のためのQFT、未来を検討するためのシナリオプランニング等の協働学習による学びを体験します。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係のつくり方、チームワークの仕方、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な対応力を身につけます。諸君が積極的に参加することが大切となります。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る シナリオプランニング体験 振り返りシート	SDGsを調べる(3時間以上)
2	世界を知る教養: 2030SDGsを体感する	2030SDGsカードゲームを実施する。入門編でも行っているが、そのときとの違いを知る。 振り返り、振り返りシート	SDGs前文を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
3	世界を知る教養: SDGs前文	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
4	世界を知る教養: SDGs前文+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート	教科書のP32-97を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)
5	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
6	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート	教科書のp98-159を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)
7	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
8	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 シナリオプランニングとは講義	振り返りレポート 外部環境リサーチ(3時間以上)
9	未来を考える教養: ほぼ確実な未来を考える	解説、課題の共有、提出 協働学習 振り返り、振り返りシート	外部環境リサーチシート作成(3時間以上)
10	未来を考える教養: 不確実な未来を考える①	課題の共有、提出 協働学習 10年後の未来シナリオづくり	外部環境リサーチシート作成(3時間以上)

			振り返り、振り返りシート																	
	11	未来を考える教養： 不確実な未来を考える②	課題の共有、提出 協働学習 10年後の未来シナリオ完成 振り返り、振り返りシート	グループでシナリオ完成（3時間以上）																
	12	未来を考える教養： 不確実な未来を考える③	課題の共有、提出 協働学習、プレゼンテーション講義 10年後の機会、脅威、対応策検討 振り返り、振り返りシート	ポスター作成、プレゼンテーション準備（3時間以上）																
	13	未来を考える教養： プレゼンテーション	プレゼンテーション実施、質疑応答 プレゼンテーション相互評価 振り返り、振り返りシート	自己の行動計画案作成（3時間以上）																
	14	未来を考える教養： 未来に向けての行動計画作成	課題の共有、協働学習、対話 ワールドカフェ実施、行動計画完成 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート2回目（3時間以上）																
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	振り返りレポート2回目（3時間以上）																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて？																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs アジェンダ前文</td> <td></td> <td>国連</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来を変える目標 SDGs アイデアブック</td> <td>蟹江憲史</td> <td>紀伊國屋書店 1,800円(税別)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SDGs アジェンダ前文		国連	2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店 1,800円(税別)	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	SDGs アジェンダ前文		国連																	
2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店 1,800円(税別)																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢（チーム：20%）</li> <li>・新聞作り／発表（チーム：20%）</li> <li>・振り返りレポート 2回（個人：20%）</li> <li>・理解度確認クイズ（個人：10%）</li> <li>・外部環境リサーチ 3回（20%）</li> </ul> <p>・振り返りシート（個人：10%）</p> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部、学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として未来を創っていくための教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	大塚正人（薬学部1号館5F）、伊藤謙（1号館3F）、柳沢学（8号館3F）、喜多大三（7号館8F）、水野武（7号館3F）、原由紀子（非常勤講師室）、越希美江（非常勤講師室）																			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。																			

科目名	大学教養実践	科目名(英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 譲, 越 希美江, 原 由紀子, 藤林 真美, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この科目は、チームで協働し、対話を通し学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期の大学教養入門のステップアップ講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の基礎知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そうすることで、教養としての知識を実社会での実践にむすびつけることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p>
到達目標	<p>(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。</p> <p>(2)ABDによる読書法を身に付けている。</p> <p>(3)QFTにより、自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができるようになる。</p> <p>(4)人間関係のつくり方、チームワーク能力、リーダーシップを身に付けることができる。</p> <p>(5)論理的でわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(6)ファシリテーションの基礎能力を身に付け、協働学習を進めることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。?</p>
科目学習の効果(資格)	<p>大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD, QFT 法等の協働学習の方法が身につく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る チームづくり+振り返りの大切さ	「星の王子さま」1章?12章を読み、サマリーの下書き(3時間以上)
2	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	教科書の紹介、概要 ABDによる学習の進め方の説明 ABDにチャレンジ 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」13章?24章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
3	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	解説 協働学習、プレゼン、対話 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」25章?27章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
4	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	解説 協働学習、プレゼン、対話 QFTにより、探求テーマだし 振り返り、振り返りシート	探求テーマのリサーチ、検討(3時間以上)
5	教養としての文学に触れる:中間成果発表	解説 前回課題の共有、対話 ポスター作成 プレゼン、質疑応答 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート1回目 「未来の年表」P3-79を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
6	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	教科書の紹介 解説 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返りシート	「未来の年表」P3-79から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し調べてくる(3時間以上)
7	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
8	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 相互評価、振り返り、振り返りシート	「未来の年表」P80-146を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
9	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	解説、 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りシート	「未来の年表」p80-146から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し、調べてくる(3時間以上)
10	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
11	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 振り返り、振り返りレポート	「未来の年表」第2部を読む(3時間以上)
12	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	自分たちで解決策を考えたい社会課題 テーマを決める 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りレポート	解決策の検討(3時間以上)

	13	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	解決策を検討、ポスター作成 プレゼンテーション準備 振り返り、振り返りレポート	ポスター作成、プレゼンテーション準備(3時間以上)																
	14	教養として社会課題を知る：最終発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	振り返りレポート2回目(3時間以上)																
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	振り返りレポート2回目(3時間以上)																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて？																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サンテグジュペリ</td> <td>新潮文庫 476円</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書 760円</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サンテグジュペリ	新潮文庫 476円	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書 760円	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	星の王子さま	サンテグジュペリ	新潮文庫 476円																	
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書 760円																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢(チーム：30%)</li> <li>・ポスター／発表(チーム：20%)</li> <li>・振り返りレポート 2回(個人：20%)</li> <li>・振り返りシート(個人：10%)</li> <li>・理解度確認クイズ(個人：20%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤謙(1号館3F)、柳沢学(8号館3F)、大塚正人(薬学部1号館5F)、喜多大三(7号館8F)、藤林真美(総合体育館1F)、水野武(7号館3F)、原由紀子(非常勤講師室)、越希美江(非常勤講師室)																			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？																			

科目名	大学教養入門	科目名(英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。藤林真美は医療機関での運動指導の業務に従事した実務経験から、対話力を学生に伝えることができます。</p> <p>授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。石井は企業、自治体、NPOの運営等の実務経験から社会人基礎力全般の教育を専門としている。</p>
到達目標	<p>(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。</p> <p>(2)ABDによる読書法を身に付けている。</p> <p>(3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。</p> <p>(4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。</p> <p>(6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。 ABD 法等の協働学習の方法が身につく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	「おとなの教養」第二章を読むこと(1.5時間以上)
2	教養入門:「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	「おとなの教養」第六章を読むこと(1.5時間以上)
3	教養入門:第六章 歴史	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「おとなの教養」第四章を読むこと(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「おとなの教養」第一章を読むこと(1.5時間以上)
5	教養入門:第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	中間発表の下調べ、ポスターの案(3時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	ポスターの改善、プレゼンの改善 振り返りレポート1回目(3時間以上)
7	教養入門:中間成果発表	ポスター改善 発表・質疑応答 振り返り	SDG s とは何か調べる(3時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDG s の概要 SDG s ゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	チーム学習の振り返り(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDG s とは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	UNAI とは何かを調べる(3時間以上)
10	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト?	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習:割り当て個所全体の読み返し(2時間以上)
11	自分を知る教養:岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「アドラー心理学」第二章まで読むこと(2時間以上)
12	自分を知る教養:第四章 アドラー心理学の基礎理論?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「アドラー心理学」第四章を読むこと(1.5時間以上)
13	自分を知る教養:第五章 人生の意味を求めて?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	「アドラー心理学」第五章を読むこと(1.5時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成	振り返りレポート2回目

	表	発表・質疑応答 振り返り	(3時間以上)															
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	振り返りレポート3回目 (3時間以上)															
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KKベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KKベストセラーズ	3				
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版															
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KKベストセラーズ															
3																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3				
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1																		
2																		
3																		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム：30%)</li> <li>・ポスター／発表 (チーム：30%)</li> <li>・振り返りレポート 3回 (個人：30%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：10%)</li> </ul> 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。																	
学生への メッセージ	この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																	
担当者の 研究室等	荻田喜代一 (7号館 8F, 副学長室), 伊藤謙 (1号館 3F), 柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 藤林真美 (総合体育館 1F), 久保貞也 (11号館 7F), 寺内睦博 (11号館 10F), 石井三恵 (7号館 5F)																	
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。																	

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。</li> <li>2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。</li> <li>3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。</li> <li>4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。</li> </ol> <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学が姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。</li> <li>・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティの世界へようこそ</li> <li>・政策提言へ向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること(3時間)</li> </ul>
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウチとソトの感覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェミニズム×女性学+男性学=人間学</li> <li>・時代を生きた女性たち6名に関して調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること(2時間)</li> </ul>
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治の落とし物</li> <li>・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること(2時間)</li> <li>・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーギャップ</li> <li>・ジェンダーエンパワーメント指数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
6	性役割の形成①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階における「刷り込み」</li> <li>・DV/デートDV</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
7	性役割の形成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚と母性信仰</li> <li>・妊娠と出生前診断</li> <li>・優生保護法と母体保護法</li> <li>・「親になること」と「親であること」の相違</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成</li> <li>・格差と二極分化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーマネジメント</li> <li>・働き方改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
10	中間プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること(2時間)</li> <li>・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること(2時間)</li> </ul>
11	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中でアサーティブネスが用いられる理由</li> <li>・政策提言へ向けての中間レポート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネスについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブに話す練習をすること(2時間)</li> </ul>
12	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>

	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03440a2, L科: LL03421a2, D科・S科: IL03427a2, P科: YL03422a2, J科: JL03438a2, W科: WL03423a2, N科: NL03419a2		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内での役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	この授業はグループワークで行います。 ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきませんが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。  月に1度程度のミーティングの年間スケジュールは第1回目に提示します。  第1回 4月18日(木) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明を行います 履修者は必ず出席してください。																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																		
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																		
担当者の研究室等																			
備考	【事前学習】活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をしてください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。																		

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01435a2, L科: LL01416a2, D科・S科: IL01422a2, P科: YL01417a2, J科: JL01433a2, W科: WL01418a2, N科: NL01414a2		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。また由良町役場の行政担当者や地元事業者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域の課題を理解する。</li> <li>・地域の課題について解決策を提案できる。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月13日(土)2時間目	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える(1時間) 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える(1時間)
2	自己の探求 4月20日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる(1時間)
3	自己の探求 4月21日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考え、レポートをまとめる(2時間)
4	今、地域で何が起きているか 5月18日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅可能性都市」について調べる(1時間)。 【事後学習】由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)
5	由良町関係者の講演 5月18日(土)2限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光・環境・防災・スポーツ・文化、地域医療の各領域の現状や課題をお聞きします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる(1時間) 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートをまとめる(2時間)
6	地域経済・経営 —地域の観光・ブランディング— 5月18日(土)3限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる(1時間) 【事後学習】 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)
7	地域環境・防災 —空き家の現状と課題— 6月1日(土)1限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる(2時間)
8	地域政策・文化 —地域とスポーツ— 6月1日(土)2限	地域とスポーツとの関連;「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業ノート等で復習の上、由良町にける地域スポーツを振興するための方策を検討しグループでレポートをまとめる(2時間)
9	地域医療 —地域で健康な生活を送るには?— 6月15日(土)1限	民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと(1時間) 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、由良町の地

		(田中・上野山)	域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる(2時間)																
10	事前学習 グループワーク 6月15日(土)2、3限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく(1時間) 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)																
11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月29日(土)終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく(1時間) 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく(2時間)																
12	プレゼンテーション講座 7月6日(土)1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく(1時間) 【事後学習】 スライドをつくってみる(2時間)																
13	事後学習① グループワーク 7月6日(土)2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく(2時間) 【事後学習】 発表できるよう準備をする(4時間)																
14	事後学習② 成果発表会 7月20日(土)1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う(4時間) 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする(1時間) 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土)3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する(1時間) 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成(3時間)																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																		
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																		
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																		
備考																			

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名(英文)	Community-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2年生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何かを理解する	事前学習: 本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	事後学修: チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク(予定) ・チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する	事後学修: チームでの取り組みを振り返る。(1時間)
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	事前学修: 講義3で出る課題に取り組むこと(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1.5時間)
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	事後学修: 講義で配布された資料を見直すこと(1.5時間)
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	事後学修: 講義で身につけた読解技術を日常生活で試してみること(1.5時間)
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・チームでプロジェクトを企画する	事後学修: チームで課題に取り組むこと(4時間)
11	摂南大学PBLプロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学PBLプロジェクトの紹介	事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること(1.5時間)
12	摂南大学PBLプロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学PBLプロジェクトの紹介	事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること。(1.5時間)
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間)
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間)
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修: 提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修: 講義全体を振り返ること。(1時間)

関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインI・II、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 教育イノベーションセンター (水野研究室)			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1408a2		

授業概要・目的 地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学(人文地理学・自然地理学)とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。

到達目標 地誌学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。

授業方法と留意点 最新の教科書を用いて講義形式で進める。

科目学習の効果(資格) 中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	ガイダンス	講義の進め方	講義ノート	講義ノートを復習しておくこと(事後学習3時間)
2	熱帯気候と住民生活(1)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
3	熱帯気候と住民生活(2)	熱帯雨林の狩猟採集民(1)	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
4	熱帯気候と住民生活(3)	熱帯雨林の狩猟採集民(2)	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
5	熱帯気候と住民生活(4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活(1)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活(2)	乾燥地帯で生きる人々(1)	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活(3)	乾燥地帯で生きる人々(2)	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活(1)	氷河と人々の暮らし	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活(2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活(3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
12	温帯気候と住民生活(1)	先進国の都市問題	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
13	温帯気候と住民生活(2)	日本の自然と住民生活(1)	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
14	温帯気候と住民生活(3)	日本の自然と住民生活(2)	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページ	教科書の該当ページを読んでおくこと(事前学習1.5時間、事後学習1.5時間)

関連科目 人文地理学、自然地理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 期末試験75%、平常点25%  
簡単な理解度チェックを適宜行う。期末試験とは別に、授業内で小試験を実施する。

学生へのメッセージ 高校で地理(A・B)を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音篇	発音 1 中国語の音節, 声調 2 単母音	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	2	発音篇	発音 3 複母音 4 鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	3	発音篇	発音 5 子音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	5	第 1 課 お名前は何かですか	動詞「是」の使い方。 姓の言い方と尋ね方, フルネームの言い方と尋ね方。	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第 2 課 これは私のパソコンです	指示代名詞 疑問詞・副詞「也」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	第 3 課 こちらの冬は寒いです	場所代名詞 形容詞述語文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	8	第 4 課 私は毎日七時に起きます	☆単元テスト① 動詞述語文	事前に、テスト 1 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	9	第 5 課 私の家は学校から遠いです	動詞「在」・介詞「?」 反復疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第 6 課 あなたは週に何コマの授業がありますか	量詞・動詞「有」 疑問詞「几」「多少」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第 7 課 あなたは今年いくつですか	☆単元テスト② 年齢の聞き方・親族の名称	事前に、テスト 2 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第 8 課 私たちは図書館で勉強しています	連動文 1 疑問詞「怎?」 介詞「在」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	13	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか	完了の「了」・原因の「怎?」 「A 跟 B 一?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第 10 課 私はパンを食べたいです	☆単元テスト③ 助動詞「想」 選択疑問文	事前に、テスト 3 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	おさらい	第 1~10 課までの復習 ☆単元テスト④	授業後、いままで習った部分の総復習をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語 (基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 30% 単元テスト 70%			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。			

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第11課 母は私より背が高い	比較表現 「越A越B」	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第12課 彼女は中国に行ったことがある	「?」「打算」 変化の「了」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第13課 私は手紙を書いている	進行形「在」 連動文2	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	11～13課のまとめ	読む・書く復習 ☆単元テスト①	事前に、テスト1の準備をすること。
5	第14課 私は英語を話せます	助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね方	授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第15課 あなたはいつ来たのですか	「是……的」の構文 人民元の数え方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第16課 十五課を習い終わりました	兼語文・結果補語 介詞「用」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	14～16課のまとめ	読む・書く復習 ☆単元テスト②	事前に、テスト2の準備をすること。
9	第17課 母が私に生活用品を送ってくれました	方向補語・介詞「給」 「从A到B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第18課 私は中国語を聞いて分かります	可能補語 「先A, 然后B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第19課 兄が走るの早い	様態補語・時量の表現 数量表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	17～19課のまとめ	読む・書く復習 ☆単元テスト③	事前に、テスト3の準備をすること。
13	第20課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えてください	完了の「了」・原因の「怎?」 「A跟B一?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第21課 先生から本をたくさん読むようにと言われました	使役文 「挺……的」の構文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい	第11～21課までの復習 ☆単元テスト④	授業後、いまままで習った部分の総復習をすること。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語(基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教養科目

評価方法 (基準)	小テスト30% 単元テスト70%
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形・気候・土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学と環境	・人類による環境への働きかけの歴史 (過去から現在まで)	指定テキストに目を通して下さい。
2	様々な地形と生活ーその1ー	・扇状地・氾濫原・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
3	様々な地形と生活ーその2ー	・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
4	世界の気候	・気候因子と気候要素 ・世界に見られる様々な気候	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
5	日本の気候	・日本の気候的特色	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
6	世界の植生と土壌	・世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	・都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
9	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
10	防災について	・環境改変がもたらしたもの ・水害の軽減をめざして	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
11	水資源と農業	・稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認して下さい。
12	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。
15	離島における地下ダムの建設	・宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認して下さい。

関連科目 人文地理学、環境関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、授業参加点 20%、課題点 20%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点につけられないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。

学生へのメッセージ 地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師室)

備考 授業前の用語の下調べが課された場合、1時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず辞典も明記すること。  
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを改変してきた。本講義では、人々の日々の営みが地理的環境といかなる関わりを持っているのかを概説していきたい。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講したことが諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているのかを身近に感じることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	地域のとらえ方	・一般地域と特殊地域 ・等質地域と結節地域	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
3	ダム建設にともなう社会環境の変化	・ダムの歴史 ・ダムサイトまでのアクセスルートの建設 ・水没保障	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない、農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか、あるいは崩壊していったか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃されていくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
8	日本における干拓の歴史	・干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
9	輪中地域における生活	・輪中とは？ ・輪中地域における水災害に対する生活の知恵	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
10	すみわけられた都市社会空間	・インナーシティ問題 ・エスニックマイノリティ社会	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。全據の授業内容を確認してください。
14	伝統工業の現状と課題	京都を例として	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
15	・平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。

関連科目	自然地理学・地誌学・環境関連科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験60%、授業参加点20%、課題点20%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点につけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。
----------	--

学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。口頭で説明した内容やスライドの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けていただきたい。なおテキストは後期開講の「自然地理学」でも使用する予定である。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業前の用語の下調べが課された場合、1時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1401a2		

授業概要・目的	哲学とは、われわれが日常生活を送る中で暗黙のうちに前提としている考え方や振舞い方に関して、「何故、こんな風に考えるのか」、「何故、こんな風に振舞うのか」、こうした素朴な疑問から始まる。決して現実離れた学問ではない。授業では、映像 (映画、写真、夢) を見るという、ありふれた体験でありながらも、避けられない日常的経験の中で、何が起きているのか、これをテーマとしながら、従来の哲学史上の考え方・概念を紹介しつつ、日常的経験を可能にしている諸々の要因を洗い出していく。
到達目標	物を見る、写真を見る、夢を見る、映画を観る、こうした見る/観るという行為の複雑性に対する問題意識をもつこと。とりわけ映画やTVドラマを観るという体験の中で、「自分と他者との関係」を通して「自分」という存在について知ることができるようになること。
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板書は相当な量になるので、ノートは必ず準備すること。参考文献は、そのつど紹介します。試験問題は、書き残したノートから出題されます。また、見逃せない時事的な出来事が起これば、それについて考えます。
科目学習の効果 (資格)	これまで見過ごしてきた日常性の複雑さ、とりわけ人間関係の複雑さあるいは逆に単純さを知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	講義の概要	シラバスの熟読
	2	物を見ることの複雑性 (1)	ものの認識と行動への強迫	ノートの見直し
	3	物を見ることの複雑性 (2)	精神分析的見解	前回のノートの見直し
	4	物を見ることの複雑性 (3)	現象学的見解	前回のノートの見直し
	5	物を見ることの複雑性 (4)	自己認識とそのほつれ	前回のノートの見直し
	6	写真を見ることの複雑性 (1)	バルトの写真論その1	前回のノートの見直し
	7	写真を見ることの複雑性 (2)	バルトの写真論その2	前回のノートの見直し
	8	写真を見ることの複雑性 (3)	ソシュールの言語論	前回のノートの見直し
	9	写真を見ることの複雑性 (4)	ラカンの無意識論	前回のノートの見直し
	10	写真を見ることの複雑性 (5)	写真・言語・無意識の交錯	前回のノートの見直し
	11	映画を観ることの複雑性 (1)	映画の物語世界の構成	前回のノートの見直し
	12	映画を観ることの複雑性 (2)	メッツの映画論その1	前回のノートの見直し
	13	映画を観ることの複雑性 (3)	メッツの映画論その2	前回のノートの見直し
	14	映画を観ることの複雑性 (4)	ラカンの自我論	これまでのノートの見直し
	15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し

関連科目	思想系の科目。
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (20%)、筆記試験 (80%) をもとに総合的に評価します。
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。当たり前だと思っていることに、「何でやる？」と思ったときから、哲学が始まります。積極的に、しかも緊張感を持って授業に参加して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前事後の総学習時間の目安は、60時間です。質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。
----	---

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1402a2		

授業概要・目的	哲学とは、われわれが日常生活を送る中で暗黙のうちに前提としている考え方や振舞い方に関して、「何故、こんな風に考えるのか」、「何故、こんな風に振舞うのか」、こうした素朴な疑問から始まる。決して現実離れた学問ではない。授業では、映像(映画、写真、夢)を見るという、ありふれた体験でありながらも、避けられない日常的経験の中で、何が起きているのか、これをテーマとしながら、従来の哲学史上の考え方・概念を紹介しつつ、日常的経験を可能にしている諸々の要因を洗い出していく。																																																																
到達目標	物を見る、写真を見る、夢を見る、映画を観る、こうした見る/観るという行為の複雑性に対する問題意識をもつこと。とりわけ映画やTVドラマを観るという体験の中で、「自分と他者との関係」を通して「自分」という存在について知ることができるようになること。																																																																
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板書は相当な量になるので、ノートは必ず準備すること。参考文献は、そのつど紹介します。試験問題は、書き残したノートから出題されます。また、見逃せない時事的な出来事が起これば、それについて考えます。																																																																
科目学習の効果(資格)	これまで見過ごしてきた日常性の複雑さ、とりわけ人間関係の複雑さあるいは単純さを知ることができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>講義の概要</td> <td>シラバスの熟読</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エディプス論(1)</td> <td>フロイトのエディプス論</td> <td>ノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エディプス論(2)</td> <td>ラカンのエディプス論その1</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>エディプス論(3)</td> <td>ラカンのエディプス論その2</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>エディプス論(4)</td> <td>自我の分裂あるいは統一</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>映画論再考(1)</td> <td>映像単語説その1</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>映画論再考(2)</td> <td>映像単語説その2</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>映画論再考(3)</td> <td>映像単語説批判</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>映画論再考(4)</td> <td>映画論と言語論の交錯その1</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>夢を見ることの複雑性(1)</td> <td>フロイトの夢理論</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>夢を見ることの複雑性(2)</td> <td>フロイトの「イルマの注射の夢」解釈</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>夢を見ることの複雑性(3)</td> <td>ラカンの「イルマの注射の夢」解釈</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>映像技法の複雑性(1)</td> <td>映画論と言語論の交錯その2</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>映像技法の複雑性(2)</td> <td>映画論と言語論の交錯その3</td> <td>これまでのノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験対策</td> <td>試験問題答案の書き方</td> <td>これまでのノートの見直し</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	講義の概要	シラバスの熟読	2	エディプス論(1)	フロイトのエディプス論	ノートの見直し	3	エディプス論(2)	ラカンのエディプス論その1	前回のノートの見直し	4	エディプス論(3)	ラカンのエディプス論その2	前回のノートの見直し	5	エディプス論(4)	自我の分裂あるいは統一	前回のノートの見直し	6	映画論再考(1)	映像単語説その1	前回のノートの見直し	7	映画論再考(2)	映像単語説その2	前回のノートの見直し	8	映画論再考(3)	映像単語説批判	前回のノートの見直し	9	映画論再考(4)	映画論と言語論の交錯その1	前回のノートの見直し	10	夢を見ることの複雑性(1)	フロイトの夢理論	前回のノートの見直し	11	夢を見ることの複雑性(2)	フロイトの「イルマの注射の夢」解釈	前回のノートの見直し	12	夢を見ることの複雑性(3)	ラカンの「イルマの注射の夢」解釈	前回のノートの見直し	13	映像技法の複雑性(1)	映画論と言語論の交錯その2	前回のノートの見直し	14	映像技法の複雑性(2)	映画論と言語論の交錯その3	これまでのノートの見直し	15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	はじめに	講義の概要	シラバスの熟読																																																														
2	エディプス論(1)	フロイトのエディプス論	ノートの見直し																																																														
3	エディプス論(2)	ラカンのエディプス論その1	前回のノートの見直し																																																														
4	エディプス論(3)	ラカンのエディプス論その2	前回のノートの見直し																																																														
5	エディプス論(4)	自我の分裂あるいは統一	前回のノートの見直し																																																														
6	映画論再考(1)	映像単語説その1	前回のノートの見直し																																																														
7	映画論再考(2)	映像単語説その2	前回のノートの見直し																																																														
8	映画論再考(3)	映像単語説批判	前回のノートの見直し																																																														
9	映画論再考(4)	映画論と言語論の交錯その1	前回のノートの見直し																																																														
10	夢を見ることの複雑性(1)	フロイトの夢理論	前回のノートの見直し																																																														
11	夢を見ることの複雑性(2)	フロイトの「イルマの注射の夢」解釈	前回のノートの見直し																																																														
12	夢を見ることの複雑性(3)	ラカンの「イルマの注射の夢」解釈	前回のノートの見直し																																																														
13	映像技法の複雑性(1)	映画論と言語論の交錯その2	前回のノートの見直し																																																														
14	映像技法の複雑性(2)	映画論と言語論の交錯その3	これまでのノートの見直し																																																														
15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し																																																														
関連科目	思想系の科目。																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	小テスト(20%)、筆記試験(80%)をもとに総合的に評価します。																																																																
学生へのメッセージ	重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。当たり前だと思っていることに、「何でやる?」と思ったときから、哲学が始まります。積極的に、しかも緊張感を持って授業に参加して下さい。																																																																
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																
備考	事前事後の総学習時間の目安は、60時間です。質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。																																																																

科目名	日本史概論	科目名(英文)	Japanese History Introduction
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1405a2		

**授業概要・目的**  
 本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“伝統的”と観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史の実態を提示する。その際、私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、何となく“日本の伝統(的なもの)”だと思われている諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、とくに【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマを取り上げる。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。

**到達目標**  
 ・日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。  
 ・現代とは相当異なる社会がかつて存在したことを知ることで、現代社会を相対化する。  
 ・“日本の伝統(的なもの)”だと思われていた諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもたらすことを学ぶ。

**授業方法と留意点**  
 基本的に講義形式。レジュメとパワーポイントを主に使用する。  
 教科書はとくになし。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法などについて説明する。併せて、単なる基礎教養・知識にとどまらない歴史を学ぶことの意義や、「日本史学」という学問の特質を提示する。	シラバスを一読しておくこと。
2	天皇(1):天皇と「日本」の起源	日本における国家形成とその特質について、とくに大陸との関係性を意識しつつ、天皇制や「日本」という国号の成立を中心に概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の古代の「天皇」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
3	天皇(2):創られた近代天皇制	前回講義をふまえて、近代の天皇制について、前時代とは相当程度断絶した「創られた伝統」という性格に注目して考察する。	予習:高校・中学校日本史教科書の近代の「天皇」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
4	宗教(1):仏教伝来と神仏習合	日本における諸宗教の成立・伝来や相互の関係について、とくに「神仏習合」という観点からその特質を述べる。	予習:高校・中学校日本史教科書の古代中世の仏教及び「神仏習合」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
5	宗教(2):キリシタンと葬式仏教	現代に続いていくような日本的な宗教のあり方の起源や、「無宗教」と自認して顧みることのない現代の我々の心性の淵源について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書の「キリシタン」「寺檀制」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
6	宗教(3):国家神道とは何か	とくに国家神道を取り上げ、戦争への道を歩んでいく近代日本の宗教的・思想的状況を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の「国家神道」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
7	武士(1):「武士」の成立	武士と貴族の意外な親近性、「武士」の身分的性格などの指摘により、従来型の武士の成立論に再検討を加える。	予習:高校・中学校日本史教科書の「武士」に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
8	武士(2):戦国大名の実像	とくに織田信長・今川義元を取り上げ、今でも絶大な人気を誇る「戦国大名」なる存在の歴史の実像に迫る。	予習:高校・中学校日本史教科書の「戦国大名」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
9	武士(3):武士道という幻想	「武士道」と言われて現代の私たちが想起する思想の淵源、歴史の諸段階における「武士道」なる思想の内容を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の近世思想史に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
10	村社会(1):「村社会」日本の成立	現代に続くような村落(永続的な村、自律的・自立的な村)の成立について、中世の時代環境からのそれを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書の「惣村」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
11	村社会(2):日本の家と村	成立した村を構成する家や、日本人の名前について、氏・姓・苗字といったものの違いにも留意しつつ概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の姓氏制度に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
12	村社会(3):刀狩りと百姓一	「竹槍蒲旗」に代表される武器を剥奪さ	予習:高校・中学校日本史教科書の「刀狩り」に該

	揆	れた近世民衆イメージを問い直し、日本社会の非暴力化・平和化への歴史的道のりを示す。	当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
13	景観(1)：里山・棚田・松原	「日本の原風景」として語られる里山・棚田・松原（いわゆる「白砂青松」）の歴史的形成過程や実態や、前近代の植生景観について考察を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書の日本列島の景観に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
14	景観(2)：「鎮守の森」	同じく「日本の原風景」とされる「鎮守の森」について、とくに近代的改変を意識しつつその歴史的成立や実態を明らかにする。	予習：高校・中学校日本史教科書の森林及びその景観に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
15	本講義のまとめ	本講義で述べてきたことを時系列に即しつつ再構成しつつ、全体を総括する。	予習：これまでのレジュメ・ノートをもとに、講義をふり返っておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 30% 期末テスト 70%			
学生への メッセージ	主体的に学習する意志を持つ学生の受講を期待します。			
担当者の 研究室等	連絡先：jun01.tkg@gmail.com			
備考	授業内でとくに課題を課すことはしない。 レポートのフィードバックはポータルサイトにおいて行う。  私語・携帯電話の使用等は厳禁。これを守れない場合には受講を認めない場合がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	発育発達論	科目名(英文)	Growth and Development Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬 雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2430a2		

授業概要・目的	身体の発育と機能の発達を理解し年齢や性別など対象に合わせた指導を行うことは大切である。具体的には発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し、それぞれのライフステージに応じた発育発達に及ぼす運動の影響や心理的特性について学習する。
到達目標	発育発達期のスポーツ指導に役立つ基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義及び発育発達期に合わせた運動処方を理解する。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図、目的、価値 自己認識	講義ノートの確認
2	発育発達期における身体的特徴	筋力・持久力の発達 疾走能力・跳躍能力・投能力の発達	講義ノートの確認
3	発育発達期における心理的特徴	知的発達 認知発達	講義ノートの確認
4	発育発達期における怪我	スポーツ外傷 スポーツ障害	講義ノートの確認
5	発育発達期における病気	ストレス 気分転換 プレッシャー	講義ノートの確認
6	発育発達期のプログラム①	運動処方(種類) 有酸素運動・無酸素運動	講義ノートの確認
7	発育発達期のプログラム②	運動処方(強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
9	中高年とスポーツ	レポートの返却及び解説 中高年の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認
10	高齢者とスポーツ	高齢者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認
11	競技者とスポーツ	競技者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認
12	発育発達期のプログラム③	中高齢者の運動処方(種類・強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
13	発育発達期のプログラム④	競技者の運動処方(種類・強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ</td> <td></td> <td>日本スポーツ協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ		日本スポーツ協会	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ		日本スポーツ協会													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	受講態度及び意欲(常識・節度ある姿勢)(20%) 講義内提出課題(必要に応じて実施する)(20%) レポート課題(2度実施する)(60%)
学生へのメッセージ	出席状況(毎回出席を確認)し原則として出席は2/3以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全15回で15時間を目安としている。

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「被害者」概念について説明できる</li> <li>犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</li> <li>犯罪被害者の支援制度について理解できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と文献紹介</li> <li>「加害者」の法的責任</li> <li>「加害者」と「犯罪者」</li> <li>「被害者」の意義</li> <li>「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
2	少年犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年法と被害者救済</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
3	性犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>性犯罪被害特有の問題点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
4	ドメスティックバイオレンス(DV)の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>DV被害の特殊性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
5	ストーカー犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストーカーへの対抗手段</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット犯罪被害の特殊性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
7	児童虐待の被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童虐待の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
8	触法精神障害者からの被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者の加害行為と対処法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害届と告訴・告発の効果</li> <li>加害者との示談交渉</li> <li>マスコミ対策</li> <li>検察審査会</li> <li>検察審査員</li> <li>審査申立手続</li> <li>検察審査会と被害者</li> <li>起訴議決制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害者による裁判傍聴と参加</li> <li>被害者による記録の閲覧と謄写</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>被害者における心情陳述</li> <li>被害者等特定事項の非公開</li> <li>遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判</li> </ul>	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	11	犯罪被害救済総論③	<ul style="list-style-type: none"> <li>損害賠償命令制度</li> </ul>	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	12	犯罪被害救済総論④	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害回復給付金制度</li> </ul>	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	13	犯罪被害救済総論⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪被害者等給付金支給制度</li> </ul>	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>加害者情報へのアクセス</li> <li>法テラス</li> </ul>	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。																			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2~IT01432a2,L科:LT01422a2~LT01426a2,D科・S科:IT01428a2~IT01432a2,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2~WT01428a2,N科:NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名(英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>新しい商品・サービスを共創型でいかに創造するか、企画の提案&amp;設計（プロポーザル・デザイン）の方法論を学習する。特に、企業・消費者等のアイデア・感性を融合する『デザイン思考（Design Thinking）』の手法により、多様なメンバーから成るグループ型の提案をどのように進めるのかを実践する。</p> <p>デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービス有形成の手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。</p> <p>担当教員は、IT&amp;コンサルティング企業で手掛けてきた国内・海外での多数の顧客企業向けのプロポーザル（提案書）の企画・デザインの推進実績をもとに、課題解決を支援する視点・指針を示し、学生の主体的かつ自律的な学習活動を支援する。</p>
到達目標	<p>インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援するデザインに関するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。主な目標は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのか（試作化）を試みる。</li> <li>2. 共創（コラボレーション） 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを合わせ、新しい価値の創出を狙う。</li> <li>3. サービス提案 共創することで、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼンテーションで発信する。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>授業は、①講義（前半）、②グループワーク（後半）から成る。グループワークは、デザイン思考を適用したサービスデザインのケーススタディの演習に取り組み、ディスカッションやプレゼンテーション（グループまたは個人）を行う課題を指示する。ケーススタディは、現代社会の公私の活動で接することの多い IT サービスデザイン事例に、グループワークで取り組み、デザイン思考の方法論による課題解決のプロポーザル（提案）のリテラシーを高めることを学ぶ。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム（初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する）にて記名式のものを対象に適宜回答する。</p> <p>グループワークで行うケーススタディ以外に、a. 個人向け課題の提示、b. 質問のクラス共有のために、携帯端末（スマートフォン）を持参することを推奨する。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスデザインの方法論の手順、グループワークによる共創活動の概観を理解することができる。</li> <li>・モノのデザインとサービスデザインの違いを理解して、後者への基礎的な素養を身につけることができる。</li> <li>・他学部の異分野・専攻者とのグループワークによる意見交換と創造の機会に慣れ親しむことができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス</li> <li>・『デザイン思考（Design Thinking）』とは何か</li> <li>・デザインファームの役割</li> </ul>	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。（標準学習時間：0.5 時間）
2	サービスデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスデザイン</li> <li>・人間中心のデザイン</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：日常接する IT サービスを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。（標準学習時間：1 時間）
3	ヒトの視点の適用デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの人間の感性</li> <li>・IT サービスデザイン</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考』（前半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
4	市場とプロポーザルの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場におけるプロポーザルの意味</li> <li>・プロポーザルの視点</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する IT サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
5	デザイン思考の概観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考とシステム思考</li> <li>・デザイン思考の位置づけ</li> <li>・個人発表（プレゼンテーション）</li> </ul>	事前学習：指定する対面サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
6	顧客体験デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客体験デザイン（カスタマーエクスペリエンスデザイン：Customer Experience Design）</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考』（後半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
7	デザイン思考の手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考の手順</li> <li>・発見・定義・発想・実証</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
8	デザイン思考のプロトタイプング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスのプロトタイプング（試作）</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
9	プロポーザルのステークホルダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO（chief marketing officer）、利益団体（Interest Group）</li> <li>・個人発表（プレゼンテーション）</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザインの誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
10	プロポーザル（提案書）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザルの構成と目次</li> <li>・顧客の課題解決の提案</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考の誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
11	B2C/B2B とデザイン思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B2C とデザイン思考</li> <li>・B2B とデザイン思考</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
12	デザイン思考の個別手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考の発散と収束</li> <li>・演繹法と帰納法</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考の実践』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
13	オープンデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンデザイン</li> <li>・ビジネス実践事例</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考の社会実装』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
14	デザイン思考ビジネスの紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインファーム企業の講演</li> </ul>	事後学習：講演をとおして、何が理解でき、またど

	介	・トークセッション	んな疑問が生じたのかをWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)
15	まとめ	・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック	事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	デザイン思考の先を行くもの ファン・ブイエン、アネミック/ダールハウゼン、ヤープ/ザイルストラ、イエル/ファンデル・スコール、ロース	各務 太郎
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦
	3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル、バス/エバズ、ルーカス/クラークセン、ロエル/トクスター、ピーター
評価方法 (基準)	平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。		
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする方法論として、市場から注目を集めているデザイン思考を学習します。多様な視点で考察・提案を進め、異なる価値観を有する人達との情報交流をとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。グループワークで共創する機会を主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをとおして触発し合う重要性を認識すること。グループでの自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。		
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)		
備考	指定座席での着席をお願いします。課題等のフィードバックについては、グループワークのケーススタディ、個人課題、小テストが主対象で、提出後早期の授業の中で、書面 (MS Office 形式) や学習支援ツール (Web フォーム形式) の媒体を使って、詳細を説明する。  初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。		

科目名	文学	科目名(英文)	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1403a2		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなあ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？ 若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人で決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力の一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じる。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	テーマごとにプリント形式で授業を進めます。授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な授業参加をあなたに要求します。
科目学習の効果(資格)	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	2	短詩型文学(1)	散文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	3	短詩型文学(2)	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	4	現代詩(1)	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	5	現代詩(2)	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	6	童謡(1)	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	7	童謡(2)	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	8	短歌(1)	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	9	短歌(2)	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	10	短歌(3)	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	11	俳句(1)	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	12	俳句(2)	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	13	俳句(3)	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	14	韻文の翻訳(1)	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	15	韻文の翻訳(2)	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。

関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」「日本語表現」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。</p> <p>◇最終成績は、定期試験の結果7割と小レポートの回答状況3割とを合わせて判断します。</p> <p>◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。</p> <p>◇原則として出席が半分以下の場合は、成績評価を行いません。</p>
学生への メッセージ	<p>遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	水曜は3限からの出講なので、昼休みは非常勤講師室に在室です。

科目名	文学 I	科目名 (英文)	Literature I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなあ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？ 若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力の一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じる。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	テーマごとにプリント形式で授業を進めます。授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な授業参加をあなたに要求します。
科目学習の効果 (資格)	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	2	短詩型文学 (1)	散文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	3	短詩型文学 (2)	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	4	現代詩 (1)	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	5	現代詩 (2)	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	6	童謡 (1)	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	7	童謡 (2)	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	8	短歌 (1)	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	9	短歌 (2)	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	10	短歌 (3)	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	11	俳句 (1)	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	12	俳句 (2)	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	13	俳句 (3)	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	14	韻文の翻訳 (1)	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
	15	韻文の翻訳 (2)	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。

関連科目 こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」「日本語表現」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。</p> <p>◇最終成績は、定期試験の結果7割と小レポートの回答状況3割とを合わせて判断します。</p> <p>◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。</p> <p>◇原則として出席が半分以下の場合は、成績評価を行いません。</p>
学生への メッセージ	<p>遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	水曜は3限からの出講なので、昼休みは非常勤講師室に在室です。

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPAアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPAアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
	2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房

評価方法 (基準) 期末テストの成績 70%、授業内課題 30%

学生へのメッセージ 授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。

担当者の研究室等 11号館8階 武居教授室

備考

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト(青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー)で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視点、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間)

			パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	民法応用講義 I	科目名 (英文)	Advanced Civil Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3099a0		

授業概要・目的	公務員試験等を視野に、民法の基礎を再確認する。
到達目標	この授業を通じて、学生には民法（財産法）の基礎を確実に身に付けることが期待される。
授業方法と留意点	過去問等を素材に演習形式とする。 具体的な問題レベルは、受講生の希望・実力を確認の上、決する。初回授業には、必ず出席するように。
科目学習の効果（資格）	公務員試験、宅建、司法試験（ロースクール）、司法書士試験、行政書士試験等。民法が受験科目となる試験全般。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	方針決定	実力テスト・希望聴取	民法の既習内容について、復習しておくこと。
	2	民法総則①	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	3	民法総則②	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	4	民法総則③	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	5	民法総則④	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	6	民法総則⑤	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	7	債権法①	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	8	債権法②	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	9	債権法③	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	10	債権法④	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	11	債権法⑤	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	12	債権法⑥	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	13	債権法⑦	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。
	14	債権法⑧	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習しておくこと。授業内容について分からないことがあれば、授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来ること（質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ）。

教養科目

				ること(質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ こと)。
	15	債権法⑨	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる こと。授業内容について分からないことがあれば、 授業後に復習し、分からない内容は翌週、質問に来 ること(質問前に、最低 30 分は自分で考えてみるこ こと)。
関連科目	民法(財産法)の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、小テスト(30%)の合計点により評価します。			
学生への メッセージ	民法は、基本です。この基本を、問題演習を通じ、正確に、確実に身に付けることを目指します。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	初回授業時の協議により、上記内容は変更することがあります。 なお、債権法は、改正法により講義します。 小テストの解説は、次回授業時に行います。			

科目名	民法応用講義Ⅱ	科目名(英文)	Advanced Civil Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3100a0		

授業概要・目的	民法に関連する各講義で学んだ基礎的な知識をもととして、民法の判例および法理論を多角的に検討する予定である。本講義では、民法総則から民法全体に関する問題を確認する。ただし、これまでの公務員試験・司法試験棟の過去問を中心に取り上げ、法制度の基本的な理解から応用的・発展的な内容についても検討していくことを考えている。
到達目標	この講義を通じて学生には、民法を様々な角度から検討を行い、民法の基本的な制度・概念の理解を正確できるようになることが期待される。基本を押さえなければ、応用・発展的問題についての理解も進まないからである。
授業方法と留意点	細かな点は学生の目標や能力等に合わせて、調整する予定である。
科目学習の効果(資格)	民法の関連する試験全般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の内容、学生の目標等の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	2	意思表示①	心裡留保・虚偽表示制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	3	意思表示②	錯誤制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	4	意思表示③	詐欺・強迫制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	5	権利能力①	自然人の権利能力制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	6	権利能力②	法人制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	7	代理①	代理制度の全般を確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	8	代理②	無権代理の問題を確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	9	代理③	無権代理と相続問題の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	10	代理④	表見代理制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	11	条件・期限・期間	条件・期限・期間の内容の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	12	時効①	時効全般について確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	13	時効②	取得時効制度の確認	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	14	時効③	消滅時効制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
	15	確認テスト	全体の復習を兼ねてテストを行う予定。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。

関連科目	民法系科目全般
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での確認テスト(20%)、学年末試験(80%)で評価を行います。講義中の不要な私語については減点の対象とします。
----------	--

学生へのメッセージ	民法応用講義Ⅰ
-----------	---------

担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
----------	---------------

備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。
----	--

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。 なお、本授業では、パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	前半では、グループワーク、Think-Pair-Share などアクティブラーニングを主体に授業を進める。また授業テーマ毎に、授業内容についてのレポートを作成する。概大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁。なお、1~8回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月11日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月18日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月25日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月9日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月16日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月23日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月30日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
8	品質教育② 6月6日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月13日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
10	原価・コスト教育② 6月20日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育③ 6月27日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 7月4日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
13	課題解決教育② 7月11日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
14	プレゼンテーションの方法 7月18日(木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7月25日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	12号館6階 坂本教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/11(木), 7/18(木)6限目)。  パナソニック講師: 佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の子備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人々と交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。これらの各項目の要点について、企業での業務・海外渡航経験を有する授業担当者により講義する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において受講者を選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の成果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、海外渡航手続き概要、英語コミュニケーション1	パスポート、チケット予約(航空機、ホテル)、保険、海外渡航準備、英語による自己紹介	事前:海外渡航手続き調査(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
2	海外事情、日系企業のグローバル化、英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表、海外の文化、経済、グローバル化事情	事前:英語での自己紹介準備(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
3	研修先 事前調査、英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査、文化、歴史、経済事情、企業・大学	事前:研修先の英字新聞調査(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える、ビデオ鑑賞など	事前:格差社会の調査(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) 格差社会の問題について、レポート提出
5	社会人基礎力、英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力、英語による日本の紹介発表	事前:英語での日本紹介準備(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
6	英語コミュニケーション5	海外渡航、海外生活、大学紹介、専門科目の紹介	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
7	英語コミュニケーション6	研修先企業、大学の調査、英語による発表、英語によるワークショップなど	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1、テクノセンター見学、ヒヤリングなど	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2、テクニカルニュースのリスニングなど	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3、テクニカルニュースの発表など	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4、英語フレーズ集の作成など	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5、英語フレーズ集の作成など	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
13	マナー実習	挨拶、礼儀、服装、ミーティング、質疑、懇親会、感謝、気配り、機転	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
14	海外渡航、海外生活	渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理	事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)
15	英語による成果発表	まとめ	事前:成果発表の準備(1時間) 事後:成果発表の反省(1時間)

関連科目	ものづくり海外インターンシップ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題レポート60%、取組み姿勢20%、成果発表20%として評価を行う。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階 檜橋教授室
----------	-------------

備考	【共同担当者】 檜橋教授(E科)、原教授(M科)、木多教授(A科)、白鳥准教授(R科)、理工学部インターンシップ委員会委員
----	---

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。 なお、本授業は、パナソニック人材開発カンパニーの講師陣による生産、製造の実践を通して、企業における目標達成のプロセスを体得するものである。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験、理解することができる。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験、理解することができる。(3)チームワーク・QCD問題を体験、理解することができる。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック (株) 人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/18 (木) 6限目</li> <li>・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/25 (木) 6限目</li> </ul> <p>宿泊実習 (パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1~3日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>生産革新演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4~5日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>モノづくりシュミレーション演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得 (設計~生産) し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>工場見学</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>見学終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>研修成果報告会</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>研修成果報告会の実施。(グループ単位)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと</li> </ul> <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月31日 (土) 1~4限目 プレゼンテーション指導</li> </ul> <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 体験報告書の添削指導</li> <li>・2回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・3回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・4回目 研修成果報告会 (2回目)</li> <li>・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑</li> <li>・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</li> </ul>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法	実習成果 40%、研修成果報告会 (2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。																		

(基準)	
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の研究室等	坂本教授室 (12号館6階)
備考	<p>期間：2019年8月26日(月)～8月30日(金)、9月2日(月)～9月3日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月31日(土)には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック(株)社員の朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名(英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先は東南アジアおよび北米とする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。企業での業務経験を有する授業担当者により、ものづくりおよび英語によるコミュニケーションの要点を講義する。			
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。			
授業方法と留意点	東南アジアは、タイ、フィリピン、ベトナムを、北米は、アメリカを予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識を特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。			
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1~2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4~5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地協同プロジェクト、現地現地従業員・大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6~8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9~10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でパワーポイントによるプレゼンテーション、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンテーションしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出すること。</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>			
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	海外現地研修 60%(実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%)、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会(2回) 15%として評価を行う。			
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も文系・理系も問わない。また、男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は、理工学部インターンシップ委員会において参加者を選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。			
担当者の研究室等	1号館4階 檜橋教授室 1号館5階 原教授室 8号館3階 木多教授室 12号館7階 白鳥准教授室			
備考	【注意事項】研修予定期間: 2019年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】 檜橋教授、原教授、木多教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、自分の人生を切り拓いていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせません。これは諸君の専門科目が何であっても同じです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けること、これが諸君の到達目標です。</p> <p>具体的には、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。</li> <li>② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。</li> <li>③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</li> </ol> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>講義中や講義に関連した e-Learning として、スマホアプリの利用や検索等を適宜指示します。これらは諸君の成績評価に直結するので指示に従って必ず実施し、ビジネスに役立つ IT 活用を身に付けてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品

				・デリバティブ テキスト<P117~123> ・預貯金 ・信託 ・債券
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P105~117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P136~153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P58~67> ・ライフプランニング
	14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイアメント資金」	テキスト<P68~78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。)</li> <li>・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。)</li> <li>・平常点 : 30% (受講状況と態度、質疑応答、e-Learning) 実績等を評価します。出席は前提条件です。)</li> </ul> <p>必要な学習は、e-Learning システムで適宜指示します。これらにきちんと対応しなければ単位は取得できません。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が重要です。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限(定期試験当日を予定)までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておくください。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」という子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありません。毎回きちんと聴講しなければ成果は得られませんから単位も取得できません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p>			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)			
備考	<p>「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む): 30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する): 30分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。 興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学(大橋)	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学(宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	共生機能材料学(松尾)	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学(向井)	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員)
----------	-----------------------------

備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規定に従って処理する。 事後学習に要する総時間の目安は1.5時間
----	---

科目名	歴史学概論	科目名(英文)	A Survey of History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木 純一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“伝統的”と観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史の実態を提示する。その際、私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、何となく“日本の伝統(的なもの)”だと思われている諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、とくに【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマを取り上げる。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。

**到達目標**  
 ・日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。  
 ・現代とは相当異なる社会がかつて存在したことを知ることで、現代社会を相対化する。  
 ・“日本の伝統(的なもの)”だと思われていた諸要素が、その歴史の実態において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもたらすことを学ぶ。

**授業方法と留意点**  
 基本的に講義形式。レジュメとパワーポイントを主に使用する。  
 教科書はとくになし。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法などについて説明する。併せて、単なる基礎教養・知識にとどまらない歴史を学ぶことの意義や、「日本史学」という学問の特質を提示する。	シラバスを一読しておくこと。
2	天皇(1):天皇と「日本」の起源	日本における国家形成とその特質について、とくに大陸との関係性を意識しつつ、天皇制や「日本」という国号の成立を中心に概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の古代の「天皇」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
3	天皇(2):創られた近代天皇制	前回講義をふまえつつ、近代の天皇制について、前時代とは相当程度断絶した「創られた伝統」という性格に注目して考察する。	予習:高校・中学校日本史教科書の近代の「天皇」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
4	宗教(1):仏教伝来と神仏習合	日本における諸宗教の成立・伝来や相互の関係について、とくに「神仏習合」という観点からその特質を述べる。	予習:高校・中学校日本史教科書の古代中世の仏教及び「神仏習合」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
5	宗教(2):キリシタンと葬式仏教	現代に続いていくような日本的な宗教のあり方の起源や、「無宗教」と自認して顧みることのない現代の我々の心性の淵源について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書の「キリシタン」「寺檀制」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
6	宗教(3):国家神道とは何か	とくに国家神道を取り上げ、戦争への道を歩んでいく近代日本の宗教的・思想的状況を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の「国家神道」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
7	武士(1):「武士」の成立	武士と貴族の意外な親近性、「武士」の身分的性格などの指摘により、従来型の武士の成立論に再検討を加える。	予習:高校・中学校日本史教科書の「武士」に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
8	武士(2):戦国大名の実像	とくに織田信長・今川義元を取り上げ、今でも絶大な人気を誇る「戦国大名」なる存在の歴史の実像に迫る。	予習:高校・中学校日本史教科書の「戦国大名」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
9	武士(3):武士道という幻想	「武士道」と言われて現代の私たちが想起する思想の淵源、歴史の諸段階における「武士道」なる思想の内容を概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の近世思想史に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
10	村社会(1):「村社会」日本の成立	現代に続くような村落(永続的な村、自律的・自立的な村)の成立について、中世の時代環境からのそれを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書の「惣村」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
11	村社会(2):日本の家と村	成立した村を構成する家や、日本人の名前について、氏・姓・苗字といったものの違いにも留意しつつ概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書の姓氏制度に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。
12	村社会(3):刀狩りと百姓一	「竹槍蒲旗」に代表される武器を剥奪さ	予習:高校・中学校日本史教科書の「刀狩り」に該

	揆	れた近世民衆イメージを問い直し、日本社会の非暴力化・平和化への歴史的道のりを示す。	当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
13	景観(1)：里山・棚田・松原	「日本の原風景」として語られる里山・棚田・松原（いわゆる「白砂青松」）の歴史的形成過程や実態や、前近代の植生景観について考察を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書の日本列島の景観に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
14	景観(2)：「鎮守の森」	同じく「日本の原風景」とされる「鎮守の森」について、とくに近代的改変を意識しつつその歴史的成立や実態を明らかにする。	予習：高校・中学校日本史教科書の森林及びその景観に関する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
15	本講義のまとめ	本講義で述べてきたことを時系列に即しつつ再構成しつつ、全体を総括する。	予習：これまでのレジュメ・ノートをもとに、講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 30% 期末テスト 70%			
学生への メッセージ	主体的に学習する意志を持つ学生の受講を期待します。			
担当者の 研究室等	連絡先：jun01.tkg@gmail.com			
備考	授業内でとくに課題を課すことはしない。 レポートのフィードバックはポータルサイトにおいて行う。  私語・携帯電話の使用等は厳禁。これを守れない場合には受講を認めない場合がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

# キャリア形成科目



科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA2506a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じる事が期待される。 インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。  なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (1時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (2時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (1時間)
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・興味のある会社や自治体などの組織について調べること (1時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること (1時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (3時間)
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる (1時間)
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (2時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (2時間)
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (2時間)
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (2時間)
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (2時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること (2時間)
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (2時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2時間)
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2時間)
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること (2時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (2時間)
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間)
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間)
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること (2時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたい

				かをもう一度考えること(3時間)
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個別の発表(40%)、グループでの発表(20%)、授業でのレポート等の提出物(30%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークへの参加姿勢など)(10%)を総合的に評価する			
学生への メッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。</p> <p>※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p>			

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
8	事後学修① 9月21日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
9	事後学修② 9月21日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
10	事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
11	事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
12	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してこること(1時間)
13	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
14	事後学修⑦ 10月26日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
15	事後学修⑧ 10月26日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	

関連科目	インターンシップⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	1. 「インターンシップ I」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップ I」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。  なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。			

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1504a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、各回講師の大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。 この活動により、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解できるようになることが期待される。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることを、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2019年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかかわることについて考える契機となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な3つのこと～ (担当:看護学部事務室 課長 古屋豊吾)	・みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
3	学生生活② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- (担当:経営学部 准教授 久保 貞也)	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち(事例紹介) (2) チャンスを失う典型的な学生(注意喚起) (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた10のこと(担当:教務課 池田 有紀)	・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
5	学生生活④ 講義の中間まとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・グループ分けの実施 ・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方	・第1回「学生生活」に関するレポートを作成すること(2時間)
6	キャリアパス① 個別ワーク「私がNO.1プロジェクト」	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」為の計画を立て、実践する。	・設定した課題を実践すること(2時間)
7	キャリアパス② 「私のキャリア」 キャリアアップを考える(担当:経済学部 教授 持永 政人)	・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	キャリアパス③ 「NO.1プロジェクト」途中経過の共有(担当:教育イノベーションセンター)	・講義6で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5時間)
9	キャリアパス④ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？(担当:スポーツ振興センター 准教授 藤林 真美)	・自身の失敗(しかし、将来への原動力につながる)から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就けるor起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてください。	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
10	キャリアパス⑤ 講義の中間まとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク	・第2回課題「キャリアパス」に関する課題を作成すること(2時間)
11	学修① 学修の回のオリエンテーション(担当:教育イノベーションセンター)	・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」	・グループで課題に取り組むこと(2時間)
12	学修② 講師のキャリア事例から「キャリア」を考える(担当:経営学部 講師 西之坊 穂)	・これまで学んできた「キャリア」は何かなのか、キャリアについてあらためて考える	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	学修③ 法律とスポーツと将来の職(担当:法学部 教授 石井 信輝)	・法とスポーツとの関係性は見出しにくい、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)

キャリア形成科目

			て講義する。	
	14	学修④ 課題「グループで課題研究」 の発表(担当:教育イノベーションセンター)	・講義11で取り組んだ課題をグループごとに発表する。	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること(0.5時間)
	15	講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザインIの振り返り	・講義全体を振り返ること ・第3回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(15%)、レポート3回(70%)、を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	学生生活4年間をいかに有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	教科書:各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書:各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事前学修: シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	「先人(企業家)に学ぶ ～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員(所属: 大阪企業家ミュージアム)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVDの上映も行います(予定)。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	「社会起業家とは」(社会起業家)	今、進路に悩む方も多いかと思いますが、私たちは何のために働くのでしょうか。今、世界でも日本でも「働く上で、お金を動かすのも大事だが、むしろ自分は社会を動かしたい」と考える人々が増えていきます。市場メカニズムを用いて社会課題の解決を目指す社会起業家。社会起業家たちはなぜ出現し、どのような生き様をし、どのように社会を変えていくのか。国内外の最新動向もご紹介しつつ、一緒に新しい可能性を探ります。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	社会問題と対峙する仕事-ソーシャルワーカーについて-(摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)	・講義の中間まとめ ・グループワークの実施	・事後学修: グループワークを振り返ること(1時間) 中間課題を作成すること(2.5時間)
9	枚方市から J リーグへ! ?FC ティアモ枚方の挑戦?	社会人サッカークラブのマネジメントに携わるまでの経歴と今後についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	新卒での就職活動で全てが決まる! ?(摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験談を交えてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財(金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	今求められる公務員像(摂南大学 OB/市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ職業としての公務員-経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間)

キャリア形成科目

				・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想(30%)、レポート2回(60%)、グループ課題(10%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1505a3		

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事前学修: シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	「先人(企業家)に学ぶ ～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員(所属: 大阪企業家ミュージアム)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVDの上映も行います(予定)。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	「社会起業家とは」(社会起業家)	今、進路に悩む方も多いかと思いますが、私たちは何のために働くのでしょうか。今、世界でも日本でも「働く上で、お金を動かすのも大事だが、むしろ自分は社会を動かしたい」と考える人々が増えています。市場メカニズムを用いて社会課題の解決を目指す社会起業家。社会起業家たちはなぜ出現し、どのような生き様をし、どのように社会を変えていくのか。国内外の最新動向もご紹介しつつ、一緒に新しい可能性を探ります。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	社会問題と対峙する仕事-ソーシャルワーカーについて-(摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)	・講義の中間まとめ ・グループワークの実施	・事後学修: グループワークを振り返ること(1時間) 中間課題を作成すること(2.5時間)
9	枚方市から Jリーグへ! ?FC ティアモ枚方の挑戦?	社会人サッカークラブのマネジメントに携わるまでの経歴と今後についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	新卒での就職活動で全てが決まる! ?(摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験談を交えてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財(金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	今求められる公務員像(摂南大学 OB/市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ職業としての公務員-経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間)

キャリア形成科目

				・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想(30%)、レポート2回(60%)、グループ課題(10%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武、上野山 裕土、橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1501a3		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>よくなるのが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか?</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること (0.5 時間)</li> </ul>
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・先輩の話を聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (0.5 時間)</li> </ul>
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)</li> </ul>
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで課題に取り組むこと (3 時間)</li> </ul>
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDP から見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)</li> </ul>
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)</li> </ul>
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを 100 挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)</li> </ul>
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学 4 年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)</li> </ul>
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCA サイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)</li> </ul>
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)</li> </ul>
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (2 時間)</li> </ul>
14	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとのプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)</li> </ul>
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)</li> </ul>

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 2018年以前入学者で再履修の者は別教室で実施する。 3. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1501a3		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ようになることが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NP0 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
------	--

授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：各受講科目のノートを整理すること (0.5 時間)</li> </ul>
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・先輩の話を聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：摂南大として、HP の建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：学生生活の目標を再度考えること (0.5 時間)</li> </ul>
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループワークに必要なことを考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：グループで課題に取り組むこと (0.5 時間)</li> </ul>
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：社会で求められる能力について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDP から見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：GDP について調べること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)</li> </ul>
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：税金について調べること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)</li> </ul>
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを 100 挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学 4 年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：大学へ入学した目的を再考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)</li> </ul>
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCA サイクルを身に付ける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：社会人基礎力を調べること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)</li> </ul>
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと (0.5 時間)</li> </ul>
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること (0.5 時間)</li> </ul>
14	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとのプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること (0.5 時間)</li> </ul>

キャリア形成科目

	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: キャリアデザインを振り返ること (0.5時間)</li> <li>・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5時間)</li> </ul>																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)																			
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。</li> <li>2. 2018年以前入学者で再履修者は別教室で実施する。</li> <li>3. 上記2. のクラスでは、ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。</li> </ol>																			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名(英文)	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水野 武, 橋本 朗子, 上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(1時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(1時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(2.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方を事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・グループ課題に取り組むこと(2時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような業種・会社があるのか調べること(1.5時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(1.5時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布資料を見直し、学生生活の振り返りを行うこと(1時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1.5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1.5時間)
10	自分を高める①	・これまでの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(1.5時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(1.5時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(2時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について理解すること(1時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(1時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) 7号館3階 教育イノベーションセンター(橋本)
----------	--

備考	2017年度以前入学の再履修の者は別教室で実施する。 毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。
----	---

キャリア形成科目

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名(英文)	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体での業務及び、高等教育での教育ならびに経営を活かした内容も含まれる。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

キャリア形成科目 授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・事前学修：キャリアデザインⅡを履修する意味を考えること(0.5時間) ・事後学修：配布したレジュメを見直し、大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(0.5時間)
	2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・事前学修：配付したレジュメを見直すこと(0.5時間) ・事後学修：人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(0.5時間)
	3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・事前学修：働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(1時間) ・事後学修：他の学生が調べてきたことを参考に「働くひと」をまとめること(0.5時間)
	4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・事前学修：グループ課題に取り組むこと(1時間) ・事後学修：川会から川下の概念をまとめること(0.5時間)
	5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・事前学修：配布資料を見直し、どのような業種・会社があるのか調べること(0.5時間) ・事後学修：興味のある業種・会社を調べる(0.5時間)
	6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・事前学修：配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(0.5時間)
	7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・事前学修：配布資料を見直し、学生生活の振り返りを行うこと(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、学生生活の振り返りを行うこと(0.5時間)
	8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) ・事後学修：見つかった改善点に基づいて修正をかけること(0.5時間)
	9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) ・事後学修：見つかった改善点に基づいて修正をかけること(0.5時間)
	10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・事前学修：これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(0.5時間) ・事後学修：講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(0.5時間)
	11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・事前学修：リーダーシップについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を日常生活で実践すること(0.5時間)
	12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・事前学修：ライフイベントについて考えること(0.5時間) ・事後学修：配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
	13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) ・事後学修：見つかった改善点に基づいて修正をかけること(0.5時間)
	14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・事前学修：日本を取り巻く課題について考えること(0.5時間) ・事後学修：日本を取り巻く課題について理解すること(0.5時間)
	15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・事前学修：課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間) ・事後学修：プリント類の整理をすること(0.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	2017年度以前入学の再履修の者は別教室で実施する。 別教室では、ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名(英文)	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1503a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・配付資料を熟読すること ・どんな業界があるのかを調べること(1時間)
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・配付資料を熟読すること ・どんな会社があるのかを調べること(1時間)
4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・配付資料を熟読すること ・ビジネスモデルについて調べること(1時間)
5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・配付資料を熟読すること ・自分のワークスタイルを考えること(1時間)
6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
8	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
9	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・配付資料を熟読すること ・自分の未来について考えること(1時間)
10	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・配付資料を熟読すること ・自分について振り返ること(1時間)
11	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・配付資料を熟読すること ・自分の特性について考えること(1時間)
12	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・配付資料を熟読すること ・エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1.5時間)
13	グループでのコミュニケーション	・グループディスカッションを学ぶ	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・配付資料を熟読すること ・模擬面接の準備をしておくこと(1.5時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無い確認すること(1時間)

関連科目	・キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での提出物と授業態度(30%)、期末レポート(50%)、授業での課題(20%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山研究室) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野研究室)
----------	---

備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。
----	-----------------------

キャリア形成科目

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名(英文)	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣, 橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1512a3		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
授業方法と留意点	毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
	2	聴く力①?傾聴力を高める?	聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。?	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?
	3	聴く力②?質問力・コーチング力?	聴いた内容を深めるために、質問とコーチングの基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?
	4	話す力①?ロジカルコミュニケーション①?	論理的に会話するための基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?
	5	話す力②?ロジカルコミュニケーション②?	論理的に会話するためのフレームワークを学び、発表する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?
	6	話す力③?プレゼンテーションの技法①?	非言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?
	7	話す力④?プレゼンテーションの技法②?	言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?
	8	中間テスト	聴く力・話す力を問う。	今までの範囲を復習しておくこと(目安:2時間)
	9	議論する力①?対話と議論の進め方①?	対話・議論を進めるための方法を知る	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
	10	議論する力②?対話と議論の進め方②?	対話・議論の練習をして、対話・技法のスキルを習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
	11	議論する力③?ファシリテーションの技法?	話し合いを円滑にする技術を習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
	12	相手を尊重する①?自分の気持ちを伝える?	適切に主張する態度・手法を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
	13	相手を尊重する②?ダイバーシティを理解する?	コミュニケーションの基礎となる多様性の考え方を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
	14	総合演習①	課題について、発表と議論を行う	講義内容を復習し、実践すること(目安:2時間)
	15	総合演習②・最終テスト	課題について、発表と議論を行う	全ての範囲を確認しておくこと(目安:2時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ, 数的能力開発
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み 30%、課題・プレゼンテーション 30%、中間テスト・最終テスト 40%
----------	--

学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。あ、その能力を、今から一緒に磨いて行きましょう!
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ASHITANE 数的思考 アドバンス』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 算数や数学を楽しんで学習してください。  
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。  
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等備考**  
 7号館3階 キャリア教育推進室

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ASHITANE 数的思考 アドバンス』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。  
 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。  
 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	キャリアラボ	キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。  
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。  
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**  
 『ASHITANE 数的思考 アドバンス』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1510a3		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。
--------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ASHITANE 数的思考 スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 3階 教育イノベーションセンター
----------	----------------------

備考	
----	--

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1510a3		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発IIでは、実践的な内容を扱います。I・IIの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。
--------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習	

関連科目	数的能力開発II、キャリアデザインII
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1510a3		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。
--------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ASHITANE 数的思考 スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 3階 教育イノベーションセンター
----------	----------------------

備考	
----	--

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1510a3		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この講義を通じて学生には、授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くというワークの流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。
--------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 (約 60 分)
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習 (約 2 時間)
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 (約 2 時間)
	9	社会で使う算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 (約 60 分)
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習 (約 2 時間)
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習 (約 2 時間)

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ASHITANE 数的思考 スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	11 号館 10 階 寺内研究室
----------	------------------

備考	前回の解法のポイントを次回の講義の冒頭に概説する。
----	---------------------------

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1511a3		

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ASHITANE 数的思考 アドバンス』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA151a3		

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 算数や数学を楽しんで学習してください。  
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。  
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等備考**  
 7号館3階 キャリア教育推進室

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1511a3		

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ASHITANE 数的思考 アドバンス』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1511a3		

**授業概要・目的**  
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。  
 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。  
 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

**到達目標**  
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。

**授業方法と留意点**  
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。  
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。  
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

**科目学習の効果(資格)**  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

**関連科目**  
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	キャリアラボ	キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

**学生へのメッセージ**  
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。  
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。  
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**  
 『ASHITANE 数的思考 アドバンス』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する (30 分程度)
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する (30 分程度)
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する (30 分程度)
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践 (要約文の作成)	教科書を復習する 返却された課題を見直す (合計で 1 時間程度)
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書を復習する (30 分程度)
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む (1 時間程度)
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す (合計で 1 時間程度)
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでの内容を総括して復習する (1 時間程度)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成・要約	レポートなどの文章構成を学ぶ ・要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック (1)	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	7	フィードバック (2)	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2 フィードバック (1)	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 課題 2 のフィードバック	前回の復習
	13	フィードバック (2)	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークのなかから、ディベートする力を養う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
	7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習
	8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
	9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
	14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習	

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、話し合いや発表の方法を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
5	課題1フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	課題1を見直す
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙を書く
7	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	テーマの下調べ
8	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	ディスカッションの準備
9	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
10	課題2 ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く	ディスカッションの反省
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション3 課題2フィードバック	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 課題2のフィードバック	発表の準備 課題2を見直す
14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。  
課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。  
質問は出講時に講師室にて受け付ける。

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、話し合いや発表の方法を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 授業中に注意されても私語をやめない者は退室させる。 許可無く教室から出た学生の再入室は認めない。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方(1)	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	———
2	レポートの書き方(2)	資料引用の復習(文章の引用) 考察・意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	レポートの書き方(3) 敬語の基礎	資料引用の復習(図表の引用) 敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	課題1のフィードバック(1) ディスカッションの準備(1)	課題1のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備
6	課題1のフィードバック(2) ディスカッション(1)	課題1のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備
7	課題1のフィードバック(3) ディスカッション(2) プレゼンテーションの準備(1)	課題1のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備
8	ディスカッション(3) プレゼンテーションの準備(2)	次回のプレゼンテーションに備えて発表資料や原稿の仕上げ・リハーサルを行う	プレゼンテーションの準備
9	【プレゼンテーション(1)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく
10	【プレゼンテーション(2)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく
11	【課題2】経過のまとめ 課題2の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題2を添削して返却する	ディスカッションの復習
12	【課題3】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習
13	課題3のフィードバック(1) 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題3のフィードバック(2) 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題3のフィードバック(3) 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学 日本語文章表現の会</td> <td>和泉書院</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院						
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									
評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。								
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。								
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)								
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」								

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manner I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1513a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション -あいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とと PDCA を考え、まとめる (400 字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400 字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

キャリア形成科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名(英文)	Business Manner II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1514a3		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力(非言語ならびに言語能力)とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	適宜プリントを配布する。 第一に、社会人として理解し、行動に移さなければならない知識や技能としての実務領域を体得する。 第二に、ロールプレイやワークを取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務能力が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認 ・ビジネス用語の基本	・事前学修: ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。 受講していない学生は自身のマナーについて考える。 ・事後学修: オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修: 自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修: 第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修: 日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめる。 ・事後学修: その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修: 日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修: 相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修: テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修: 逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」ユニバーサルマナー	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 ・相手の立場を考えたユニバーサルマナーを考える	・事前学修: 「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修: 「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修: 日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修: ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用クレーム対応	・来客対応、業務処理、重複業務処理とTPOの関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修: TPO 意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修: 処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本 会議運営方法、プレゼンテーションの方法	・設営業務の基本 ・会議に参加する心構え	・事前学修: 会議に参加するための心構えを考える。 ・事後学修: YTT 方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修: 手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修: 企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修: 自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修: ケーススタディプリント①をする。
12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修: 実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修: 「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事前学修: ビジネスマナーの必要性を考える。 ・事後学修: ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修: キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修: キャリアに関するレポートを作成する。
15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事前学修: ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

キャリア形成科目

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ワークならびに小テスト (30%)、レポート (30%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っており、それを振り返ることから始まります。まずは、TPO を考え、自分の言動を意識してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館 5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。 レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

# 教 職 科 目





科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通していただくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを一冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題: シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷 I	戦前から戦後(経験主義～系統主義: 高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷 II	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題: シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括: 教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キ・コンピテンシー(OECD)について。	課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2				
3				

評価方法(基準) 出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習(特に復習)をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象外となりますので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ 以下の項目、必ず守ってください。  
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。  
2. 欠席・遅刻はしない。  
3. 授業中、むやみやたらに入ったり、私語、飲食はしない。

	<p>4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む（グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない）。</p> <p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に来てください。</p>
担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	<p>2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。</p> <p>教科書に代わる配布資料（『『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい』を使用予定）については事前に該当箇所を印刷し、配布します。高額ですので購入する必要はありません。また、その他のテキスト、資料等については適宜印刷し、配布します。</p> <p>事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。</p>

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第3部を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・サービス管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」 「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内 孜	学術図書出版社
2				
3				

参考書

教職科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
---------	---

到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることを目標とします。
------	---

授業方法と留意点	<p>授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。</p> <p>また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎理論に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	「教育とは一体何だろう」という問いについて自分なりの考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	教育の必要性について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	教育の目的について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	子ども観や子どもをめぐる問題について、自分なりの考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	教師の教育的役割について、自分なりの考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	近代の学校や学校教育の広がりについて、授業後にもう一度整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概観する。	家庭における教育について、授業後にもう一度整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	学力問題について、授業後にもう一度整理しておく。
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	生涯学習の思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	「自分はどのような教師になりたいのか」について、考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版

評価方法(基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、学期末試験の結果(70%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
----------	---

学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(谷口研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。
----	---------------------------

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習の意義等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について	授業時に指示する
	2	教育実習への準備と心がまえ等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
	3	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
	4	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
	5	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
	6	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
	7	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
	8	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
	9	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	10	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	11	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	12	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
	14	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
	15	まとめ		

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階) 谷口研究室(7号館4階)
----------	---

備考	教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。
----	--

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。			
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。			
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>			
関連科目	教職関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2	学習指導要領解説	文部科学省	
	3			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。			
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)			
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																		

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

**到達目標**  
本講義の到達目標は以下の通りです。  
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。  
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。  
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。  
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

**授業方法と留意点**  
講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ向かい、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももうけます(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。  
○準備学習の具体的な方法  
指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。

**科目学習の効果(資格)**  
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目: 教育の基礎理論に関する科目  
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。	事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。
3	マイノリティと教育 I	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題: 小テスト対策
4	マイノリティと教育 II	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について議論する。	事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。
5	マイノリティと教育 III	予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)を招聘し、学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりを実施する。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
6	教育格差・学力格差問題 I	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。
7	教育格差・学力格差問題 II	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞、及び子どもの貧困問題に取り組んでいる実践者の方を招聘し、現状についての理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。ゲスト講師からの課題があれば予習をしてくる。
8	教育格差・学力格差問題 III	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。なお、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
9	学校教育の現場を知る I	予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び講師、話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
10	学校教育の現場を知る II	予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
11	学校教育の現場を知る III	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、それぞれ関心のある問題を選択し、小グループに分かれ発表する。	事前課題: 小テスト対策、グループ発表資料の準備をしてくる。
12	ジェンダーと教育 I	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークを実施する。	事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
13	ジェンダーと教育 II	ジェンダー問題を扱った映画の鑑賞予定。	事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
14	ジェンダーと教育 III	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら	事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。

			考える。																	
	15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第10章の要約。																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎、近藤博之</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版『教育社会学を学ぶ人のために』</td> <td>石戸教嗣</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス																	
2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社																	
3																				
評価方法 (基準)	出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。																			
学生への メッセージ	<p>本講義を履修する者は、原則、前期履修期間中に学校現場でのボランティア活動経験が必須条件となります。すでに何らかの活動をしているものはその活動内容についてレポートをまとめ提出してもらいます（必須）。一度も活動したことがないものは、前期履修期間中にいくつかの活動を紹介するので、その活動に参加しレポートを作成し提出してもらいます（必須）。この必須レポート提出がない者は単位認定できませんので、履修前によく考えてから履修してください。なお、地域連携やその他の大学認定の活動（PBLなど）は、本レポートの対象とはなりません。</p> <p>学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。</p>																			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)																			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1、配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因、主な発達理論の概観	テキスト第8章1、配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章、配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考……人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語……言語の機能、言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①……学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②……観察学習、自己制御学習	テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む……こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……A T T I、学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30%、期末試験70%
----------	-----------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
----------	--------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で、moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。</li> <li>・期末試験は希望者に返却します。</li> <li>・事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。</li> </ul>
----	--

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)…… 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)…… 開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、 適応過程	テキスト第3章を読む グループ発表の準備
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の 発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応 (学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目	教職課程の科目全般
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	グループ発表 50%、期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。</p> <p>授業担当者は公立高校5校で34年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、授業の最後にコメントペーパーを配付する。「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。)</p> <p>(3) 授業終了時に復習用の講義資料を配布する。講義資料は各自ファイリングすること。</p> <p>(4) 第9～12回でチームでのマイクロ・ティーチングを実施する。また、チーム・マイクロ・ティーチングに関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(5) 定期試験を必ず受験すること。</p>
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
7	授業をどうデザインするか(計画論) ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
8	教育の道具・素材・環境(教材論) ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
9	何をどう評価するか(評価論) ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの私試、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる	各種メディアの授業への活用、学習用デ	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に

	① ワーク5 第5・6グループ のチームによるマイクロ・テ ィーチング実施	デジタル・コンテンツの利用	学習内容を整理する。																
12	ICTを活用した授業をつくる ② ワーク6 第7・8グループの チームによるマイクロ・テ ィーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラ ーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に 学習内容を整理する。																
13	インクルーシブな授業をつ くる ワーク7 チームによるマイ クロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指 導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応 じた指導とは、学級集団づくりと授業づ くり、授業の「わかりやすさ」と多様な 参加	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に 学習内容を整理する。																
14	ユニバーサルデザインの授 業をつくる ワーク8 チームによるマイ クロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ 方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、 学習環境のユニバーサルデザイン化、指 導方法のユニバーサルデザイン化、学習 のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に 学習内容を整理する。																
15	まとめ～学び続ける教員像 をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グル ープ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教 師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。講義資料を参考 に学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点 でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																		
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																		

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、中学校での実地学習では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目(教職実践演習を除く)の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義の目的、内容方法についての確認。</li> <li>受講者各自の教育実習後の課題についての確認。</li> <li>3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。</li> </ul>	教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたち	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。

			ちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。																	
	10	学校の危機管理①:学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	11	学校の危機管理②: 災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	12	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	13	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																			

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどういう教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性(1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性(2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性(3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性(4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究(2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究(3)	「人間教師」と「プロ教師」) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究(4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務(1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務(3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務(チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方や学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務(4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名(英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に、参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
---------	---

到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
------	--

授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらおうような「実践的・参加型の授業」を目指します。模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、模擬授業に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
----------	--

科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
	2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
	7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
	8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
	11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
	12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
	13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
	14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。	

関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。)、課題・レポート(提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、小テストや最終試験(予定)により総合的に評価する。遅刻も欠席扱いとするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さん自身が授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。また、毎時間、講義開始時に社会科の教員としての知識を問う小テストを行う予定です。詳細については第一回目の授業で説明し、資料等も配布します。第一回目の授業を休まれる方にはそれら一切お渡ししません。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので本講義に関しては、教科教育法という特殊性もあるため、履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。

**到達目標**  
 本講義の到達目標は以下の通りです。  
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。  
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。  
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。  
 (4) 政治教育、市民性教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

**授業方法と留意点**  
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらいような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は一切認めません。

**科目学習の効果(資格)**  
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。  
**【免許法施行規則に定める科目区分】**  
 科目：教育課程及び指導法に関する科目  
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

**関連科目**  
 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版	
3				

**参考書**

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席 (全 15 回出席すること。少なくとも 80%以上の出席が必須。)、課題・レポート (提出の締め切りは厳守すること)、平常点 (授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験 (予定) により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します (前期社会科公民科教育法 I で購入済みの者は購入の必要なし)。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。			

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	脇田 孝豪
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。 授業担当者は高校6校で28年間教諭や学校長の職を経験し、さらに教育委員会や教育センターで指導主事を5年間の経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中学・高校教員免許 (社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。	事後 授業終了時に指示する。
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。	事後 授業終了時に指示する。
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
4	学習指導案の作成について 1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
5	学習指導案の作成について 2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。	事後 授業終了時に指示する。
6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。	事後 授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。	事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目	社会科・地歴科教育法 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。			
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。			
担当者の研究室等備考	11号館 1階 教務課			

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	脇田 孝豪
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。 授業担当者は高校6校で28年間教諭や学校長の職を経験し、さらに教育委員会や教育センターで指導主事を5年間の経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出	

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ								
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1									
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
	番号	書籍名	著者名	出版社名					
1									
評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。								
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。								
担当者の研究室等	11号館 1階 教務課								
備考									

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また折時、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方(2)	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220, pp. 223-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	文部科学省		

評価方法(基準) 定期試験80%、レポート20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 Moodleを通して資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。メンバー登録については初回に説明します。また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。テキストは授業の各回に先立ち配布します。事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的  
この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。  
授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。

到達目標  
受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の「特別の教科 道徳」の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、「特別の教科 道徳」の学習指導案を作成できるようになることを目標とします。

授業方法と留意点  
授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業を適宜取り入れます。  
また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。

科目学習の効果(資格)  
中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	自身が学校教育において受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出ししておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	日本の道徳教育の歴史や信念対立について、授業後にもう一度整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について、授業後にもう一度整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	道徳の授業のねらいに基づく8類型について、授業後にもう一度整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	ねらいに基づく発問の構成法について、授業後にもう一度整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	道徳の授業の学習指導案の作成方法について、授業後にもう一度整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	道徳の授業の評価の内容や方法について、授業後にもう一度整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	教材分析の方法や授業構成について、授業後にもう一度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	教材分析の方法について授業後に整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	問題解決的な学習や、発問分析に基づく授業改善の方法について、授業後にもう一度整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。
13	学習指導案の作成①	これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	作成した学習指導案をグループ内で発表するための準備をしておく。
14	学習指導案の作成②	前回の授業で作成した学習指導案について各グループで発表し、模擬授業の準備を行う。	グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
15	まとめ： 模擬授業と事後の検討	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳の授業づくりについてまとめる。	「よい道徳の授業」について、考えをまとめる。

関連科目  
教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
2			
3			

参考書

教職科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―	文部科学省	東山書房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名(英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**

特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。

子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。

「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。

総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。

**到達目標**

教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。

主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

**授業方法と留意点**

講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならぬ教員の立場に立ち、集団をファシリテートできるように、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

**科目学習の効果(資格)**

教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって(ソロワークと意見交換)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って(ソロワークと意見交換)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもとの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出(ソロワークと意見交換)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
5	生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出(ソロワークと意見交換)	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
6	体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」(ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ(1)(グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校(グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力(即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども(グループ討議・発表)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育(即興劇・交流)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育(グループ討議・発表)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT(即興劇・発表)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。

	14	総合的な学習の時間の指導計画と評価ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
	15	補足とまとめ 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3F 林研究室																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**

学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。

子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。

「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。

また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。

公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。

**到達目標**

教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。

主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

**授業方法と留意点**

講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことよって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

**科目学習の効果 (資格)**

教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐる〈ソロワークと意見交換〉	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って〈ソロワークと意見交換〉	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出〈ソロワークと意見交換〉	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
5	生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出〈ソロワークと意見交換〉	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」〈ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ〉	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ(1)〈グループ討議・発表〉	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校〈グループ討議・発表〉	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力(即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校〈グループ討議・発表〉	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩いじめ(その2)〈即興劇・交流〉	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪進路指導〈グループ討議・発表〉	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブ教	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する

	育〈グループ討議・発表〉																		
	14	総合的な学習の時間の指導計画と評価 ワーク⑬ジェンダー・性的マイノリティ〈グループ討議・発表〉	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い総合的な学習の時間の体制づくり																
			総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
			特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																
2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。																		
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することによって成る。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																		
担当者の研究室等	7号館3階(林研究室)																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																		

科目名	特別支援教育論	科目名(英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史の変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。</p> <p>中・高（・小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育担当者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。</p>
到達目標	<p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p> <p>⑤個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。</p> <p>⑥特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。</p>
授業方法と留意点	講義演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題	教科書の序章を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
2	新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方	ICIDHからICFへ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
5	特別支援教育への転換	障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
8	通常学級での特別支援教育の実践(通級による指導を含む)	ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
10	肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題	つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
13	校内支援体制の構築とSC・SSW等との連携・協働	校内での連携、他職種との連携。福祉・医療との連携	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
14	社会的養護にある子供、LGBTなど性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBTなど性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特別支援教育資料(平成30年度版)	文部科学省	Web

	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階林研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

発行 2019年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】

電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

